

# 目 次

I	調査概要	1
1	調査の目的	3
2	調査の内容	3
II	回答者の特性	5
III	成果指標	9
	成果指標（健康くまもと21）	11
	成果指標（食の安全安心）	12
	成果指標（食育）	13
	成果指標（歯科保健）	15
IV	調査結果　－健康くまもと21－	17
1	がん検診の受診率の向上	19
2	CKD（慢性腎臓病）	26
3	ロコモティブシンドローム（運動器症候群）を認知している市民の割合の増加	28
4	共食の増加（食事を1人で食べる子どもの割合の減少）	30
5	20歳代男性、30歳代男性の1週間あたりの朝食の欠食率の減少	32
6	日常生活における歩数の増加	36
7	COPD（慢性閉塞性肺疾患）の認知度の向上	37
8	受動喫煙（家庭・職場・飲食店・行政機関・医療機関）の機会を有する者の割合の減少	44
9	60歳で24歯以上の自分の歯を有する者の増加	55
10	80歳で20歯以上の自分の歯を有する者（8020達成）の増加	55
11	健康まちづくり活動の認知	56
V	調査結果　－食の安全・安心－	65
1	生産・流通・消費の各段階における食品の安全性確保	67
1)	生産段階における食品の安全性の確保	67
2)	製造、加工、流通・販売の各段階における食品の安全性の確保	71
3)	食品などの検査	72
4)	消費段階における食品の安全性の確保	72
2	熊本市独自の食品衛生の確保	81

1)	熊本市版食品衛生管理の普及と実践	81
2)	食品の大量取扱業者との情報の共有	85
3)	熊本の食に関する文化や製品の振興に向けた安全性の確保	85
3	国・県・他市町村・庁内関係部署及び食品関係機関との連携	86
1)	健康危機管理体制の充実及び強化	86
2)	食品の安全確保のための連携	86
4	消費者・生産者・食品関連事業者及び行政の相互理解・信頼関係の確率と推進	87
1)	市民意見の施策への反映	87
2)	食や健康被害に関する情報提供の充実	87
3)	食に関する相談窓口の充実	97
5	食育を通じた食の安全・安心の確保	98
1)	食の安全性や栄養等に関する理解の促進	98
VI	調査結果 ー食育ー	101
1	「市民自らが育む食」への理解と健全な食生活の実践	103
1)	家庭における食育の推進	103
2)	学校・保育所・幼稚園等における食育の推進	139
3)	職場・大学等における食育の推進	142
2	健全な食生活を実践するための環境整備	143
1)	日本型食生活の実践へ向けた情報の発信	143
2)	食生活改善をサポートする人材育成	171
3)	食品関連事業者と連携した食育の推進	172
3	市民運動としての食育の推進	176
1)	市民協働による食育運動の展開	176
2)	食育支援団体のネットワークの整備	181
4	くまもとの自然環境と食文化に根差した食育の推進	182
1)	生産者と消費者の交流促進	182
2)	地産地消の促進	186
3)	くまもとの食文化の伝承	195
4)	食育を通じた環境保全	201
VII	調査結果 ー歯科保健ー	217
1	40歳代で喪失歯のない者の増加	219
2	60歳で24歯以上の自分の歯を有する者の増加	221
3	60歳代における咀嚼良好者の増加	222
4	定期健診を受ける者の増加	224
5	口の健康と喫煙の関係について知っている者の増加	229

6	80歳で20歯以上の自分の歯を有する者（8020達成）の増加	233
VIII	「健康づくり」に関するご意見など	235
IX	調査票	241



# I 調査概要



## 1 調査の目的

乳幼児期から高齢期まで、各ライフステージにおける市民の生活習慣や生活満足度、家族や近隣との交流、健康づくりについてニーズと課題・問題点を把握・分析するとともに、前回調査結果等との比較から、第2次健康くまもと21基本計画、第2次熊本市食の安全安心・食育推進計画、第3次熊本市歯科保健基本計画、熊本市健康まちづくり活動方針の評価・検証を行うことを目的とする。

## 2 調査の内容

### (1) 調査票

調査票は、14歳以下、15歳～64歳の方、65歳以上の3パターンとする。

### (2) 対象者

各年齢区分	対象者数
乳幼児期 0～5歳	600名
学童期 6～11歳	600名
中学生 12～14歳	300名
高校生 15～17歳	300名
青年期 18～24歳	600名
壮年期 25～44歳	600名
中年期 45～64歳	600名
高齢期（前期高齢者）65歳～74歳	300名
高齢期（後期高齢者）75歳以上	300名
計	4,200名

### (3) 実施期間

平成30年5月17日から平成30年6月4日までの19日間。

### (4) 実施方法

郵送で配布、返信用封筒にて回収。調査期間中に一度督促状を送付。

### (5) 回収率

○調査票別

	サンプル数	配布数	回収率
14歳以下	764	1,500	50.9%
15～64歳	718	2,100	34.2%
65歳以上	363	600	60.5%
合計	1,845	4,200	43.9%

○性別

性別	サンプル数
男性	826
女性	993
無回答	26
合計	1,845

## ■留意点

※集計表は小数点第 2 位を四捨五入しているため、回答割合の合計が 100%にならない場合もあります。

※複数回答の回答割合の総和は 100%を超えます。

※図表または文中に示す選択肢などの文章は適宜省略している場合があるため、調査票を参照してください。

※クロス集計表においては上段に「度数」、下段に「%」（行毎に標本数を 100 としたときの構成比）を表示しています。

※クロス集計の 

度数	0
(%)	0.0%

 は、全体（合計）の%に比べて+5 ポイント以上の差があることを示しています。

※本書における成果指標とは第 2 次健康くまもと 2 1 基本計画、第 2 次熊本市食の安全安心・食育推進計画、第 3 次熊本市歯科保健基本計画における成果指標のことです。

※取り組み項目及び成果指標は、アンケート結果に関わる項目を抜粋し記載しています。

## Ⅱ 回答者の特性



■性別

	度数	%
男性	826	44.8%
女性	993	53.8%
無回答	26	1.4%
合計	1,845	100.0%

■年齢層

	度数	%
14歳以下	764	41.4%
15～64歳	718	38.9%
65歳以上	363	19.7%
合計	1,845	100.0%

	度数	%
乳幼児期	302	16.4%
学童期	306	16.6%
中・高校生期	220	11.9%
青年期	120	6.5%
壮年期	208	11.3%
中年期	297	16.1%
高齢期	364	19.7%
無回答	28	1.5%
合計	1,845	100.0%

※65歳以上の調査票の年齢無回答は高齢期に含める。

	度数	%
～9歳	505	27.4%
10歳代	365	19.8%
20歳代	119	6.4%
30歳代	94	5.1%
40歳代	152	8.2%
50歳代	140	7.6%
60歳代	172	9.3%
70歳代	154	8.3%
80歳以上	104	5.6%
無回答	40	2.2%
合計	1,845	100.0%

■区役所別

	度数	%
中央区	386	20.9%
東区	457	24.8%
西区	205	11.1%
南区	286	15.5%
北区	307	16.6%
無回答	204	11.1%
全体	1,845	100.0%

■小学校区

区	校区	度数	%	区	校区	度数	%	
中央区	壺川	20	1.1%	西区	小島	6	0.3%	
	碩台	7	0.4%		中島	7	0.4%	
	白川	19	1.0%		芳野	2	0.1%	
	城東	9	0.5%		河内	8	0.4%	
	慶徳	7	0.4%	南区	日吉	21	1.1%	
	一新	27	1.5%		川尻	24	1.3%	
	五福	7	0.4%		力合	29	1.6%	
	向山	26	1.4%		御幸	23	1.2%	
	黒髪	21	1.1%		田迎	14	0.8%	
	大江	21	1.1%		城南	11	0.6%	
	本荘	2	0.1%		田迎南	29	1.6%	
	春竹	31	1.7%		飽田東	13	0.7%	
	出水	21	1.1%		飽田南	2	0.1%	
	砂取	24	1.3%		飽田西	6	0.3%	
	託麻原	27	1.5%		中緑	1	0.1%	
	帯山	38	2.1%		銭塘	2	0.1%	
	白山	29	1.6%		奥古閑	4	0.2%	
	帯山西	13	0.7%		川口	1	0.1%	
	出水南	37	2.0%		日吉東	11	0.6%	
	東区	画図	41		2.2%	富合	24	1.3%
健軍		24	1.3%		杉上	12	0.7%	
秋津		26	1.4%		隈庄	20	1.1%	
泉ヶ丘		12	0.7%		豊田	5	0.3%	
若葉		12	0.7%		田迎西	19	1.0%	
尾ノ上		22	1.2%	力合西	15	0.8%		
西原		38	2.1%	北区	清水	28	1.5%	
託麻東		25	1.4%		龍田	25	1.4%	
託麻西		40	2.2%		城北	23	1.2%	
託麻北		17	0.9%		高平台	21	1.1%	
桜木		15	0.8%		楠	15	0.8%	
東町		20	1.1%		麻生田	21	1.1%	
月出		28	1.5%		武蔵	22	1.2%	
健軍東		11	0.6%		弓削	13	0.7%	
託麻南		37	2.0%		楡木	18	1.0%	
山ノ内		32	1.7%		川上	27	1.5%	
長嶺		31	1.7%		西里	11	0.6%	
桜木東		26	1.4%		北部東	24	1.3%	
西区		古町	9		0.5%	植木	10	0.5%
		春日	16		0.9%	山本	3	0.2%
	城西	31	1.7%		田原	4	0.2%	
	花園	25	1.4%		菱形	14	0.8%	
	池田	28	1.5%		桜井	11	0.6%	
	白坪	26	1.4%		山東	8	0.4%	
	高橋	3	0.2%		吉松	6	0.3%	
	池上	9	0.5%		田底	3	0.2%	
	城山	35	1.9%	龍田西	8	0.4%		
					無回答	196	10.6%	
				全体	1,845	100.0%		

### Ⅲ 成果指標



## 成果指標（健康くまもと21）

※第2次健康くまもと21基本計画に掲げる成果指標のうち、今回アンケートにて徴収した成果指標のみ記載

■到達度凡例	
目標値超	↑
上昇	↗
維持	→
下降	↘

項目	対象	(H23年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(H30年・目標)	到達度 ※H27比	
○がん検診の受診率の向上	肺がん	19.9%	29.0%	31.0%	40%	↗	
	胃がん	28.7%	39.4%	38.9%	40%	↘	
	大腸がん	27.9%	35.1%	37.4%	40%	↗	
	乳がん(女性)	46.3%	48.6%	48.9%	50%	↗	
	子宮頸がん(女性)	37.3%	47.4%	42.6%	50%	↘	
項目		(H23年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(H34年・目標)	到達度 ※H27比	
○ロコモティブシンドローム(運動器症候群)を認知している市民の割合の増加		—	50.3%	52.2%	80%	↗	
項目		(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(H30年・目標)	到達度 ※H27比	
○共食の増加(食事を1人で食べる子どもの割合の減少)	朝食	小学生	16.7%	11.3%	14.4%	減少傾向へ	↘
		中学生	24.3%	27.0%	24.6%		↗
	夕食	小学生	5.2%	3.6%	4.2%	減少傾向へ	↘
		中学生	11.1%	9.2%	15.9%		↘
項目		(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(H30年・目標)	到達度 ※H27比	
○20歳代男性、30歳代男性の1週間あたりの朝食の欠食率の減少	20歳代男性	29.4%	22.6%	20.0%	15.0%	↗	
	30歳代男性	29.4%	16.2%	26.5%	15.0%	↘	
項目		(H23年・基準)	(H27年・参考値)	(H30年・実績)	(H34年・目標)	到達度 ※H27比	
○日常生活における歩数の増加	20歳～64歳	男性	—	8,262歩	8,397歩	9,000歩	↗
		女性	—	8,058歩	9,302歩	8,500歩	↑
	65歳以上	男性	—	6,589歩	5,761歩	7,000歩	↘
		女性	—	7,053歩	8,656歩	6,000歩	↑
項目		(H23年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(H34年・目標)	到達度 ※H27比	
○COPD(慢性閉塞性肺疾患)の認知度の向上		—	58.8%	55.6%	80%	↘	
項目		(H23年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(H34年・目標)	到達度 ※H27比	
○受動喫煙(家庭・職場・飲食店・行政機関・医療機関)の機会を有する者の割合の減少	行政機関	—	7.7%	7.5%	0%	↗	
	医療機関	—	6.3%	6.6%	0%	↘	
	職場	—	30.2%	30.1%	受動喫煙のない職場の実現(平成32年)	↗	
	家庭	—	23.6%	24.5%	3%	↘	
	飲食店	—	52.1%	47.2%	15%	↗	
項目		(H23年・基準)	(H27年・参考値)	(H30年・実績)	(H34年・目標)	到達度 ※H27比	
○60歳で24歯以上の自分の歯を有する者の増加		63.9%	68.2%	76.1%	70%	↑	
Q		(H23年・基準)	(H27年・参考値)	(H30年・参考値)	(H34年・目標)	到達度 ※H27比	
○80歳で20歯以上の自分の歯を有する者(8020達成)の増加		38.3%	54.5%	62.0%	60%	↑	

## 成果指標（食の安全安心）

■到達度凡例	
目標値超	
上昇	
維持	
下降	

H30年目標値の欄の※の値は、H27年度の中間評価の際に目標値を上方修正して再設定した値。（ ）内は元の目標値。

項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(H30年・目標)	到達度 ※H24比
○「残留農薬」について不安を感じる市民の割合	55.7%	44.4%	48.6%	※40% (50%)	
項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(H30年・目標)	到達度 ※H24比
○「食品添加物」について不安を感じる市民の割合	63.3%	54.1%	54.7%	※40% (50%)	
項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(H30年・目標)	到達度 ※H24比
○「食品の不正(偽装)表示」について不安を感じる市民の割合	51.6%	55.3%	44.0%	40%	
項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(H30年・目標)	到達度 ※H24比
○「輸入食品」について不安を感じる市民の割合	65.2%	56.6%	55.8%	※40% (50%)	
項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(H30年・目標)	到達度 ※H24比
○食品の安全性や食品衛生に関する活動に参加している市民の割合	8.9%	6.5%	7.5%	15%	
項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(H30年・目標)	到達度 ※H24比
○食品を購入するたびに表示を確認している市民の割合	40.2%	42.3%	34.6%	55%	
項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(H30年・目標)	到達度 ※H27比
○食品について安全性が高まっていると感じている市民の割合	—	59.1%	63.7%	※65% (50%)	
項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(H30年・目標)	到達度 ※H27比
○食事・食品等に関する正しい知識や情報を得ようと努めている市民の割合	—	61.3%	60.5%	75%	
項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(H30年・目標)	到達度 ※H24比
○食品の安全性に関する知識があると思う市民の割合	49.6%	62.6%	53.0%	60%	

## 成果指標（食育）

■到達度凡例	
目標値超	
上昇	
維持	
下降	

項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(H30年・目標)	到達度 ※H24比	
○食育に関心がある市民の割合	73.4%	69.1%	77.1%	90%		
項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(H30年・目標)	到達度 ※H24比	
○「朝食又は夕食を家族と一緒に食べる」共食の回数の増加 ※1週間のうち朝食又は夕食を家族と一緒に食べる回数	10回	10回	9回	さらに増加		
項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(H30年・目標)	到達度 ※H24比	
○1週間あたりの朝食の欠食率 ※幼児期は毎日食べている割合 ※他は「ほとんど食べない」と答えた割合	幼児期(1歳～5歳)	95.3%	96.2%	97.3%	100%	
	小学5年生	0.9%	0.9%	1.7%	0%	
	中学2年生	2.0%	2.6%	4.2%	0%	
	20歳代男性	29.4%	22.6%	20.0%	15.0%	
	30歳代男性	29.4%	16.2%	26.5%	15.0%	
65歳以上	3.7%	1.8%	3.4%	0%		
項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H29年・実績)	(H30年・目標)	到達度 ※H24比	
○体験型食育活動の取り組み (実施園数/全施設数)【保育園】	公立	100%	100%	100%	100%	
	私立	90.4%	94.8%	87.2%	100%	
○体験型食育活動の取り組み (実施園数/全施設数)【幼稚園】	公立	100%	100%	100%	100%	
	私立	100%	100%	100%	100%	
項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H29年・実績)	(H30年・目標)	到達度 ※H24比	
○授業参観・懇談会等で保護者へ食育の啓発を行った学校の割合	97.0%	98.5%	94.0%	100%		
項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H29年・実績)	(H30年・目標)	到達度 ※H24比	
○企業、大学等での食育に関する講座の開催(件数)	19件	40件	20件	30件		
項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(H30年・目標)	到達度 ※H24比	
○栄養に関する表示等を参考にしている市民の割合	69.0%	67.9%	63.4%	80%		
項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(H30年・目標)	到達度 ※H24比	
○内臓脂肪症候群の予防や改善のために適切な食事、定期的な運動、定期的な体重測定を継続的に実践している市民の割合	27.7%	32.1%	34.2%	50%		
項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H29年・実績)	(H30年・目標)	到達度 ※H24比	
○食育の推進に関するボランティア数	1,208人	1,410人	1,536人	1,600人		
項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(H30年・目標)	到達度 ※H24比	
○食生活面で「くまもとらしさ」を感じたことのある市民の割合	52.9%	57.1%	58.3%	65%		
項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H29年・実績)	(H30年・目標)	到達度 ※H24比	
○「熊本市子どもの食育推進ネットワーク」における連携活動した団体等の割合 ※保育園・幼稚園が他団体と連携して食育に取り組んだ割合	37.6%	62.7%	62.6%	60%		

■到達度凡例	
目標値超	↑
上昇	↗
維持	→
下降	↘

項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(H30年・目標)	到達度 ※H24比
○農林漁業体験を経験した市民の割合	37.7%	27.5%	32.5%	50%	↘
項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(H30年・目標)	到達度 ※H24比
○進んで地元農産物を購入する市民の割合	69.4%	68.3%	73.8%	80%	↗
項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H29年・実績)	(H30年・目標)	到達度 ※H24比
○学校給食における地元産物を使用する品目数	39品目	40品目	33品目	45品目	↘
項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(H30年・目標)	到達度 ※H24比
○家庭での食事に郷土料理等を取り入れている市民の割合	49.2%	45.5%	69.9%	70%	↗
項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(H30年・目標)	到達度 ※H24比
○ごみを少なくするため「買いすぎ」「作りすぎ」をしないよう心がけている市民の割合	69.9%	66.9%	74.6%	75%	↗
項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(H30年・目標)	到達度 ※H24比
○熊本市の良質な水がおいしさの基になっていると思う市民の割合	80.8%	81.8%	80.7%	85%	↘

参考：授業参観・懇親会で食育の啓発を行った学校の割合  
 (旧成果指標および目標) H24 (48.5%) H27 (46.7%) 目標値H30 (60%)

## 成果指標（歯科保健）

※第2次健康くまもと21基本計画に掲げる成果指標のうち、今回アンケートにて徴収した成果指標のみ記載

■到達度凡例	
目標値超	↑
上昇	↗
維持	→
下降	↘

項目	(H22年・基準)	(H27年・参考値)	(H30年・参考値)	(H34年・目標)	到達度 ※H27比
○40歳代で喪失歯のない者の増加	68.5%	69.2%	71.5%	75%	↗
項目	(H23年・基準)	(H27年・参考値)	(H30年・実績)	(H34年・目標)	到達度 ※H27比
○60歳で24歯以上の自分の歯を有する者の増加	63.9%	68.2%	76.1%	70%	↑
項目	(H22年・基準)	(H27年・参考値)	(H30年・参考値)	(H34年・目標)	到達度 ※H27比
○60歳代における咀嚼良好者の増加	51.6%	68.4%	79.0%	80%	↗
項目	(H23年・基準)	(H27年・参考値)	(H30年・参考値)	(H34年・目標)	到達度 ※H27比
○定期検診を受ける者の増加	25.4%	48.0%	55.6%	65%	↗
項目	(H23年・基準)	(H27年・参考値)	(H30年・参考値)	(H34年・目標)	到達度 ※H27比
○口の健康と喫煙の関係について知っている者の増加	29.5%	64.2%	68.2%	70%	↗
項目	(H23年・基準)	(H27年・参考値)	(H30年・参考値)	(H34年・目標)	到達度 ※H27比
○80歳で20歯以上の自分の歯を有する者（8020達成）の増加	38.3%	54.5%	62.0%	60%	↑



#### IV 調査結果 -健康くまもと21-



## 1 がん検診の受診率の向上

平成30年調査（以後「今回調査」）のがん検診の受診率は、「乳がん（女性）」が48.9%で最も高く、次いで「子宮頸がん（女性）」が42.6%、「胃がん」が38.9%、「大腸がん」が37.4%、「肺がん」が31.0%の順。前回調査（平成27年）と比較すると、「肺がん」「大腸がん」「乳がん（女性）」の受診率は上昇しているものの、「胃がん」「子宮頸がん（女性）」は低下している。

項目	対象	(H23年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(H30年・目標)
○がん検診の受診率の向上	肺がん	19.9%	29.0%	31.0%	40%
	胃がん	28.7%	39.4%	38.9%	40%
	大腸がん	27.9%	35.1%	37.4%	40%
	乳がん(女性)	46.3%	48.6%	48.9%	50%
	子宮頸がん(女性)	37.3%	47.4%	42.6%	50%

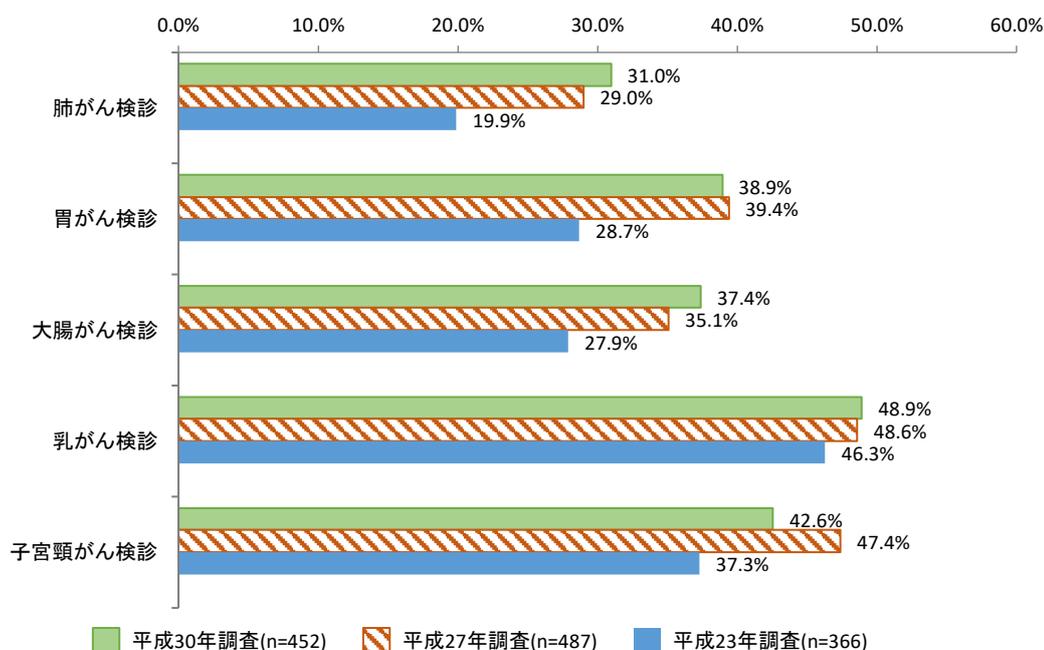
※それぞれ40歳～69歳（乳がんは女性、子宮頸がんは20歳～69歳女性）の回答者で、「肺がん検診」「胃がん検診」「大腸がん検診」「乳がん検診」「子宮頸がん検診」を選択した人の割合

### <調査結果>

#### ■過去1年間（乳がん・子宮頸がんは過去2年間）に受診したがん検診

##### <40歳～69歳（子宮頸がんは20歳～69歳）>

前回調査と比較すると、「肺がん検診」「大腸がん検診」が約2ポイントの上昇、「胃がん検診」、「乳がん検診」については、ほとんど変わらず、「子宮頸がん検診」については、4.8ポイントの減少。



※平成30年の乳がん検診はn=278、子宮頸がん検診はn=390  
 ※平成27年の乳がん検診はn=278、子宮頸がん検診はn=454  
 ※平成23年の乳がん検診はn=188、子宮頸がん検診はn=287

がん検診の受診率を年齢区分別でみると、18～34歳では「受診していない」の割合が8割を占める。35～49歳では「子宮頸がん検診」「乳がん検診」、50～64歳では「肺がん検診」「胃がん検診」「大腸がん検診」「乳がん検診」、65歳以上では「肺がん検診」「胃がん検診」「大腸がん検診」の割合がそれぞれ3割を超える。

		■過去1年間に受診したがん検診はどれですか						
		合計	肺がん検診	胃がん検診	大腸がん検診	乳がん検診	子宮頸がん検診	受診していない
全体		939 -	220 23.4%	283 30.1%	266 28.3%	181 19.3%	184 19.6%	456 48.6%
年齢区分別	18～34歳	191 -	4 2.1%	4 2.1%	3 1.6%	5 2.6%	26 13.6%	155 81.2%
	35～49歳	205 -	35 17.1%	57 27.8%	57 27.8%	66 32.2%	75 36.6%	82 40.0%
	50～64歳	213 -	73 34.3%	84 39.4%	84 39.4%	68 31.9%	54 25.4%	79 37.1%
	65歳以上	330 -	108 32.7%	138 41.8%	122 37.0%	42 12.7%	28 8.5%	140 42.4%

(上段:度数、下段:%)

#### ■受診した検診機関 〈18歳以上〉

##### 【肺がん検診】

「肺がん検診」については、65歳未満は「職場検診」、65歳以上は「市が行うがん検診」の割合が高く、それぞれ5割を超える。

		■受診した健診機関(肺がん検診)						
		合計	市が行うがん検診	職場検診	農協や商工会議所が実施する検診	人間ドック	医療機関	その他
全体		216 -	67 31.0%	82 38.0%	0 0.0%	30 13.9%	46 21.3%	4 0.0%
年齢区分別	18～34歳	4 -	0 0.0%	2 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 25.0%	1 25.0%
	35～49歳	35 -	3 8.6%	23 65.7%	0 0.0%	5 14.3%	4 11.4%	0 0.0%
	50～64歳	73 -	7 9.6%	44 60.3%	0 0.0%	19 26.0%	7 9.6%	2 2.7%
	65歳以上	104 -	57 54.8%	13 12.5%	0 0.0%	6 5.8%	34 32.7%	1 1.0%

(上段:度数、下段:%)

### 【胃がん検診】

「胃がん検診」については、65歳未満は「職場検診」の割合が高く、18～34歳では7割、35～49歳では4割、50～64歳では3割を超える。65歳以上は「医療機関」の割合が高く、6割を超える。

		■受診した健診機関(胃がん検診)						
		合計	市が行うがん検診	職場検診	農協や商工会議所が実施する検診	人間ドック	医療機関	その他
全体		274	39 14.2%	73 26.6%	1 0.4%	47 17.2%	120 43.8%	5 1.8%
年齢区別	18～34歳	4	0 0.0%	3 75.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 25.0%	0 0.0%
	35～49歳	56	5 8.9%	27 48.2%	1 1.8%	12 21.4%	13 23.2%	2 3.6%
	50～64歳	81	6 7.4%	30 37.0%	0 0.0%	24 29.6%	22 27.2%	1 1.2%
	65歳以上	133	28 21.1%	13 9.8%	0 0.0%	11 8.3%	84 63.2%	2 1.5%

(上段:度数、下段:%)

### 【大腸がん検診】

「大腸がん検診」については、18～34歳、65歳以上は「医療機関」の割合が高く、それぞれ6割を超える。35～49歳、50～64歳は「職場検診」の割合が高く、それぞれ5割、3割を超える。

		■受診した健診機関(大腸がん検診)						
		合計	市が行うがん検診	職場検診	農協や商工会議所が実施する検診	人間ドック	医療機関	その他
全体		260	47 18.1%	71 27.3%	0 0.0%	40 15.4%	109 41.9%	4 1.5%
年齢区別	18～34歳	3	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	2 66.7%	0 0.0%
	35～49歳	56	6 10.7%	30 53.6%	0 0.0%	9 16.1%	12 21.4%	2 3.6%
	50～64歳	82	12 14.6%	31 37.8%	0 0.0%	22 26.8%	21 25.6%	1 1.2%
	65歳以上	119	29 24.4%	9 7.6%	0 0.0%	9 7.6%	74 62.2%	1 0.8%

(上段:度数、下段:%)

【乳がん検診】

「乳がん検診」については、65歳以上は「医療機関」の割合が高く、5割を超える。35～49歳、50～64歳は「職場検診」の割合が高く、それぞれ4割、3割を超える。

		■受診した健診機関(乳がん検診)						
		合計	市が行うがん検診	職場検診	農協や商工会議所が実施する検診	人間ドック	医療機関	その他
全体		177	38 21.5%	51 28.8%	2 1.1%	26 14.7%	61 34.5%	1 0.6%
年齢区別	18～34歳	5	3 60.0%	0	0	0	2 40.0%	0
	35～49歳	66	15 22.7%	27 40.9%	0	7 10.6%	17 25.8%	0
	50～64歳	66	13 19.7%	21 31.8%	0	13 19.7%	19 28.8%	1
	65歳以上	40	7 17.5%	3 7.5%	2 5.0%	6 15.0%	23 57.5%	0

【子宮頸がん検診】

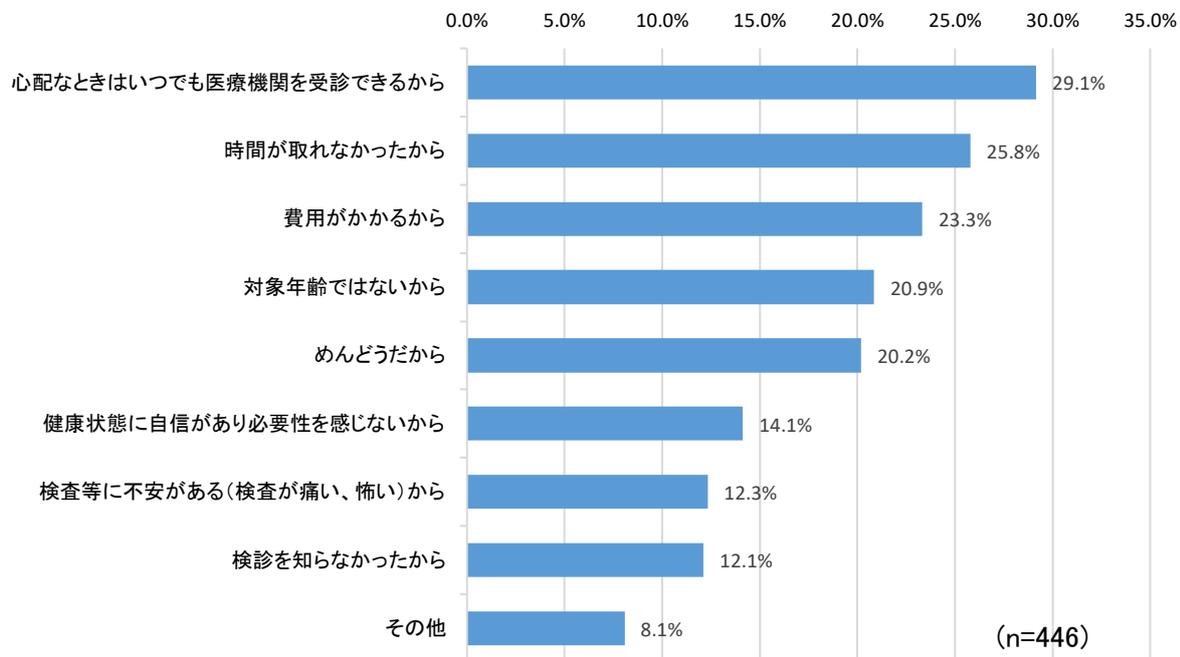
「子宮頸がん検診」については、すべての年齢で「医療機関」の割合が高く、18～34歳、65歳以上では、それぞれ5割、6割を超える。

		■受診した健診機関(子宮頸がん検診)						
		合計	市が行うがん検診	職場検診	農協や商工会議所が実施する検診	人間ドック	医療機関	その他
全体		181	37 20.5%	47 27.0%	0	19 9.7%	78 42.7%	4 2.2%
年齢区別	18～34歳	26	5 18.5%	6 22.2%	0	0	13 51.9%	4 14.8%
	35～49歳	74	17 22.7%	25 34.7%	0	6 8.0%	28 37.3%	0
	50～64歳	53	12 21.8%	13 27.3%	0	9 16.4%	19 34.5%	0
	65歳以上	27	3 14.3%	3 10.7%	0	3 10.7%	18 64.3%	0

(上段:度数、下段:%)

## ■受診しない理由 〈18歳以上〉

がん検診を受診しない理由は、「心配なときはいつでも医療機関を受診できるから」が29.1%で最も多く、次いで、「時間が取れなかったから」が25.8%、「費用がかかるから」が23.3%の順。



受診しなかった理由を年齢区分別でみると、18～34歳では「対象年齢ではないから」の割合が4割、35～49歳、50～64歳では「時間が取れなかったから」の割合がそれぞれ3割、4割を超える。65歳以上では「心配なときはいつでも医療機関を受診できるから」の割合が、5割を超える。

		■受診しなかった理由									
		合計	検診を知らなかったから	時間が取れなかったから	費用がかかるから	めんどうだから	検査等に不安がある(検査が痛い、怖い)から	健康状態に自信があり必要性を感じないから	心配なときはいつでも医療機関を受診できるから	対象年齢ではないから	その他
全体		456	54	115	104	90	55	63	130	93	36
		-	11.8%	25.2%	22.8%	19.7%	12.1%	13.8%	28.5%	20.4%	7.9%
年齢区分別	18～34歳	155	21	33	37	30	16	24	19	68	7
		-	13.5%	21.3%	23.9%	19.4%	10.3%	15.5%	12.3%	43.9%	4.5%
	35～49歳	82	7	31	29	23	11	11	11	10	8
		-	8.5%	37.8%	35.4%	28.0%	13.4%	13.4%	13.4%	12.2%	9.8%
50～64歳	79	8	38	15	13	14	5	25	0	5	
	-	10.1%	48.1%	19.0%	16.5%	17.7%	6.3%	31.6%	0.0%	6.3%	
65歳以上	140	18	13	23	24	14	23	75	15	16	
	-	12.9%	9.3%	16.4%	17.1%	10.0%	16.4%	53.6%	10.7%	11.4%	

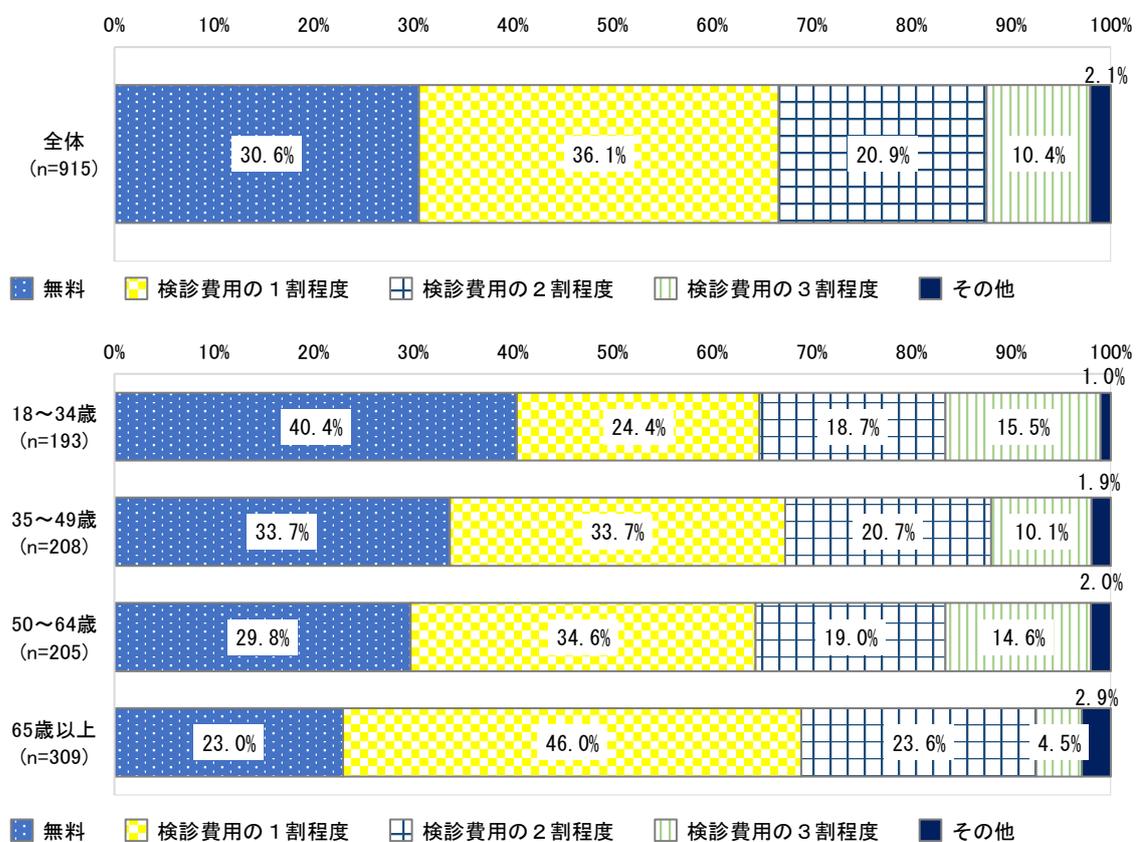
(上段:度数、下段:%)

## ■ 適当だと思うがん検診の自己負担割合 〈18歳以上〉

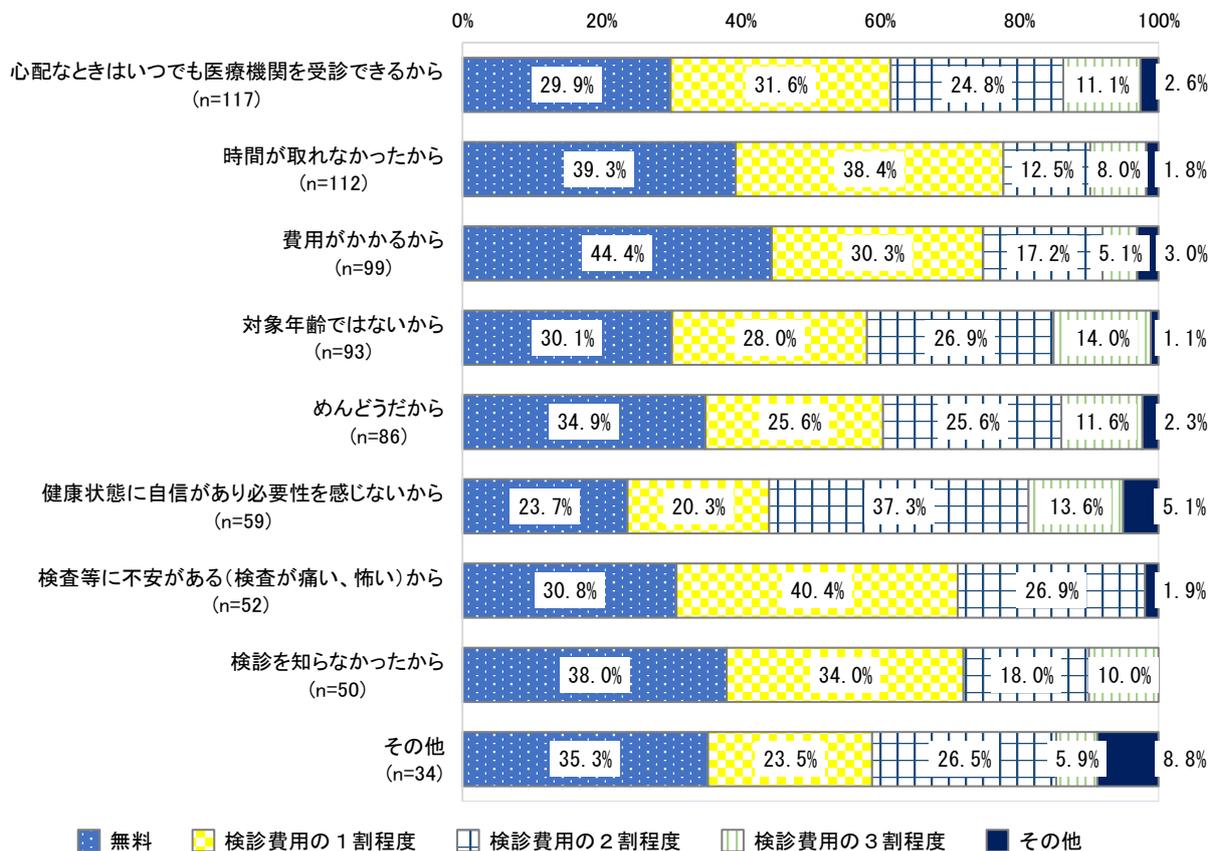
熊本市のがん検診は、一定の検診料を公費で負担し、安価で受診できる。

適当だと思うがん検診の自己負担割合については、「検診費用の1割程度」が36.1%、「検診費用の2割程度」が20.9%、「検診費用の3割程度」が10.4%となり、6割が一定の自己負担は適当であるとしている一方、3割は「無料」としている。

年齢区分別でみると、50歳未満では「無料」「検診費用の1割程度」「検診費用の2割程度」「検診費用の3割程度」の順であるが、50歳以上では「検診費用の1割程度」が最も多く、次いで、50～64歳では「無料」「検診費用の2割程度」「検診費用の3割程度」、65歳以上では「検診費用の2割程度」「無料」「検診費用の3割程度」の順。



がん検診を受診しない理由別でみると、回答が最も多かった「心配なときはいつでも医療機関を受診できるから」では「検診費用の1割程度」の割合が最も高い。「費用がかかるから」においては「無料」の割合が最も高く、4割を超える。一方、「健康状態に自信があり必要性を感じないから」においては「検診費用の2割程度」が3割を超え、他に比べ高い。



## 2 CKD（慢性腎臓病）

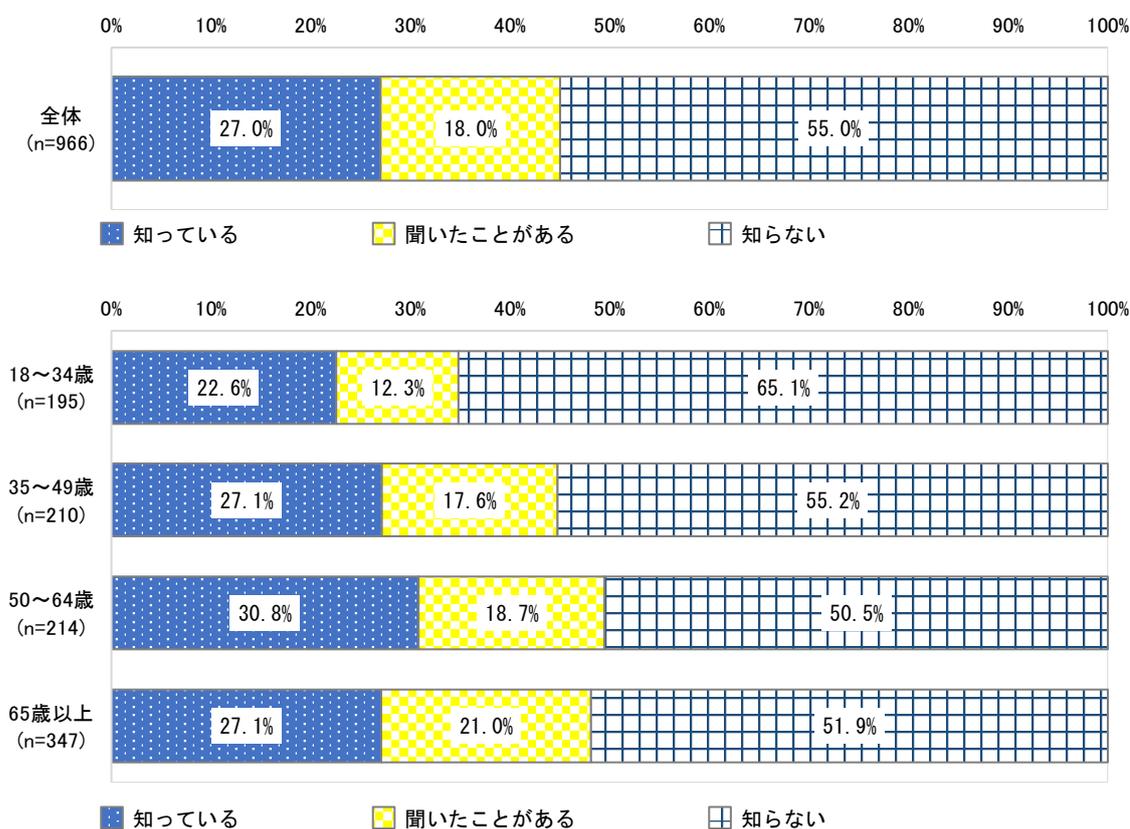
CKD（慢性腎臓病）の認知度は45.0%と半数に満たない。前回、前々回と比較して若年層の認知度は増加傾向にあるが、まだ低い状況。CKDの早期発見につながるよう、更なる啓発が必要である。

### <調査結果>

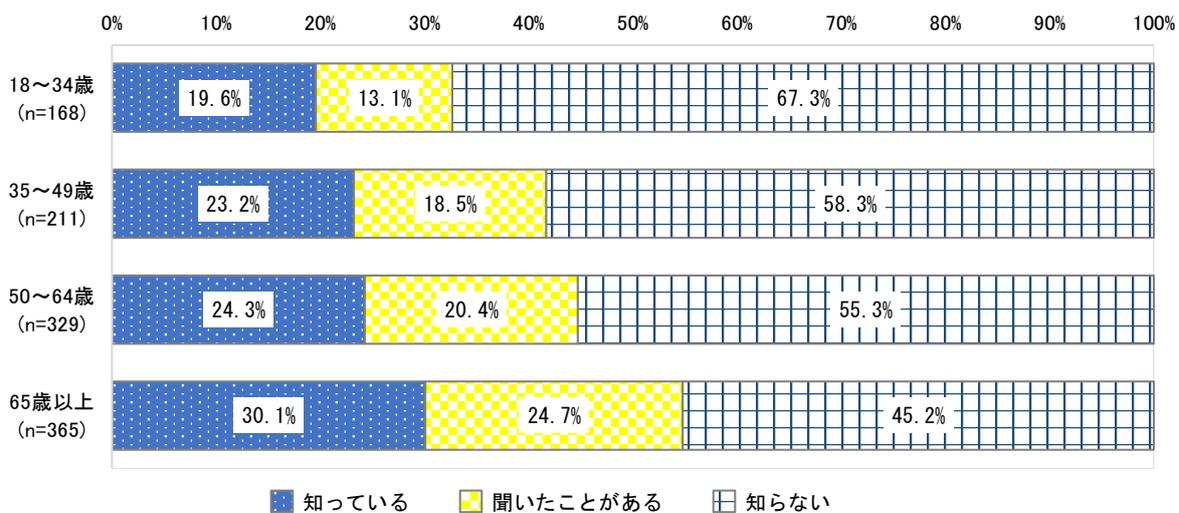
#### ■CKD（慢性腎臓病）の認知度（18歳以上）

CKD（慢性腎臓病）の認知度について、「知っている」は27.0%、「聞いたことがある」は18.0%と、合わせて45.0%であり、「知らない」は55.0%と過半数を占める。

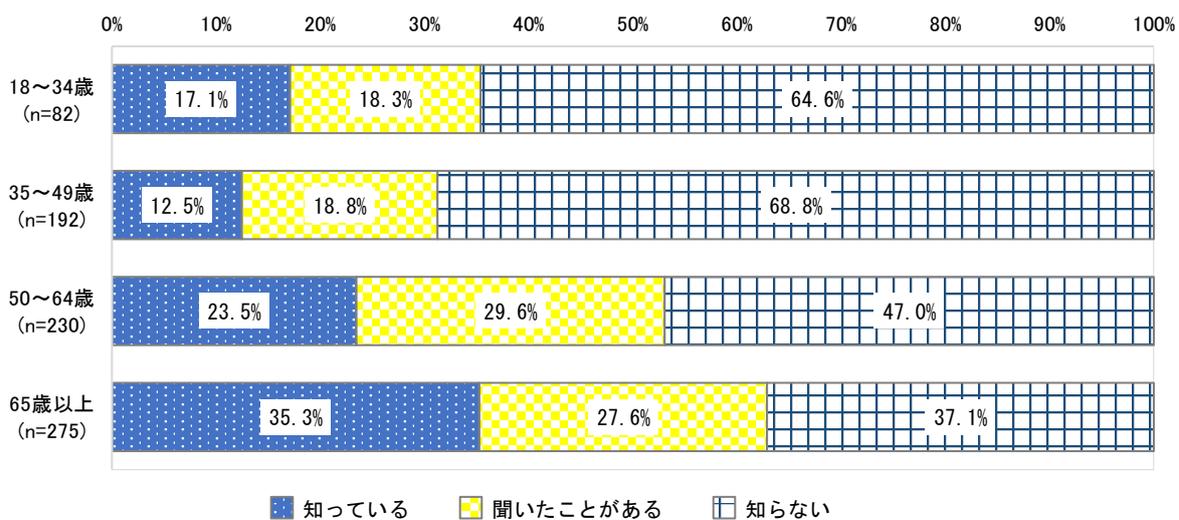
年齢区分別でみると、35歳未満では『知らない』の割合が6割を超え、他の年代と比較して高い。65歳以上認知度は、前々回調査と比較すると約15ポイント下回る。



■ H27 年調査



■ H23 年調査



### 3 ロコモティブシンドローム（運動器症候群）を認知している市民の割合の増加

ロコモティブシンドローム（運動器症候群）の認知度について『聞いたことがある』人は半数を超えるが、『言葉も意味も知っている』人は2割に留まる。引き続き、健康寿命を伸ばすためにも認知度を高め、予防の重要性を啓発する取組を進める必要がある。

項目	(H23年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(H34年・目標)
○ロコモティブシンドローム(運動器症候群)を認知している市民の割合の増加	—	50.3%	52.2%	80%

※20歳以上の回答者で、「言葉も意味もよく知っている」+「言葉も知っていたし、意味も大体知っている」+「言葉は知っていたが、意味はあまり知らない」+「言葉は聞いたことがあるが、意味は知らない」を選択した人の割合

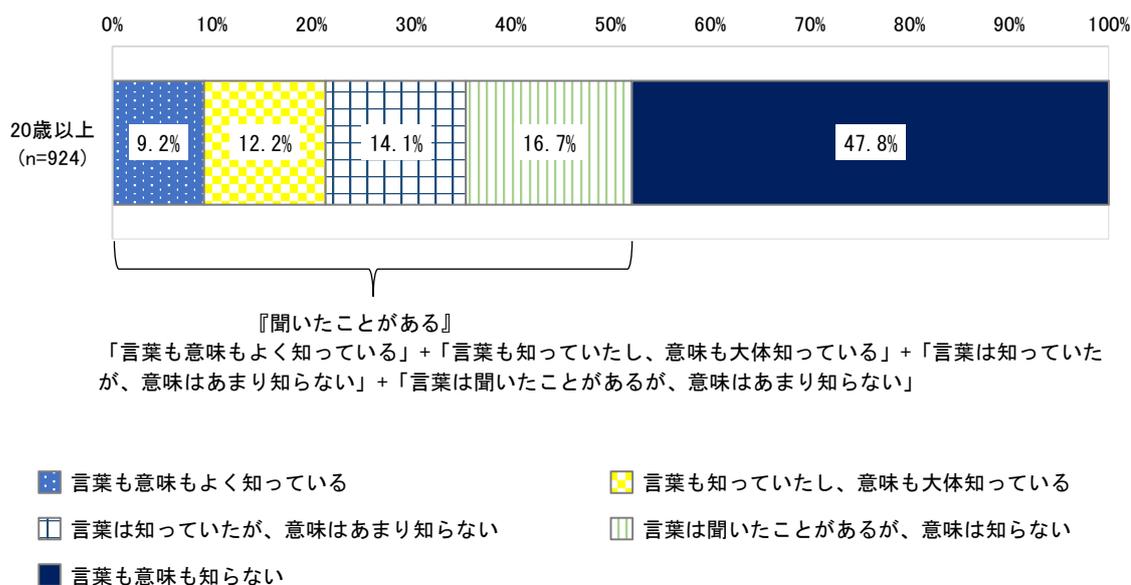
#### <調査結果>

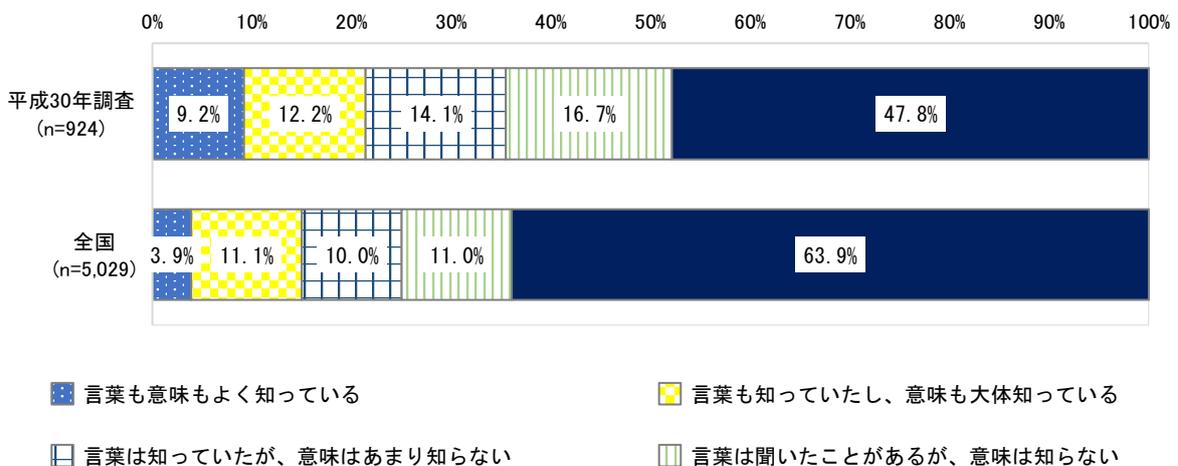
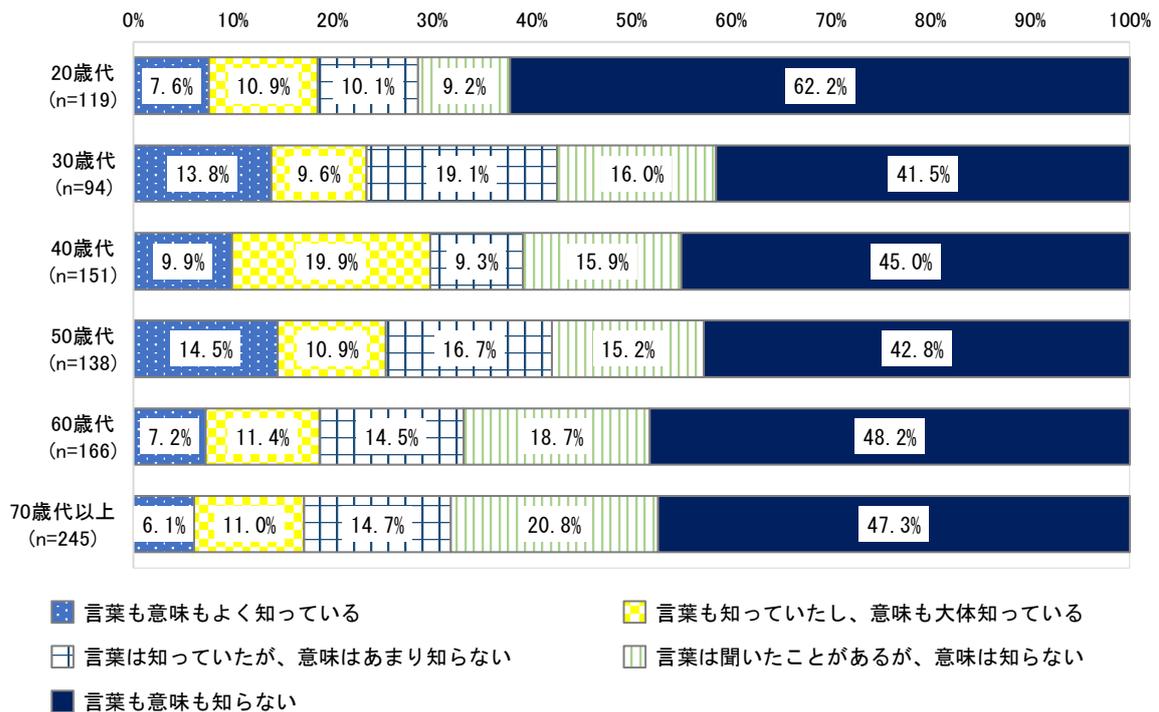
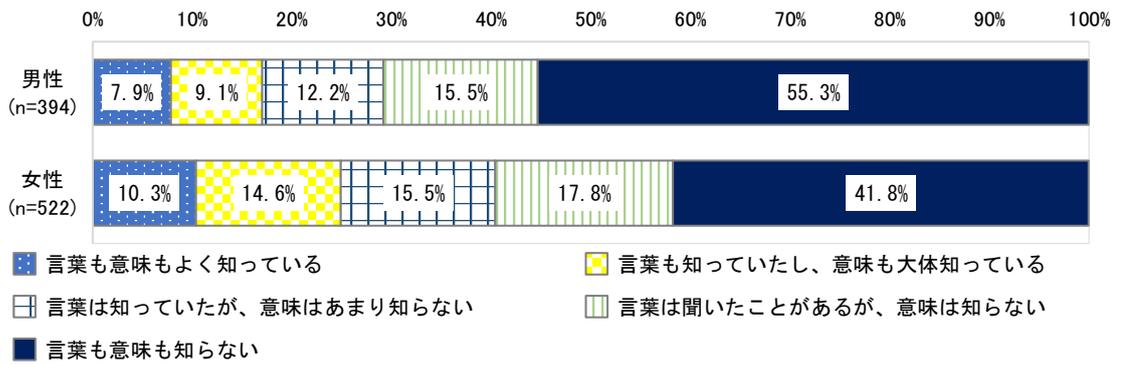
#### ■ロコモティブシンドローム（運動器症候群）の認知度 〈20歳以上〉

ロコモティブシンドローム（運動器症候群）の認知度について、「言葉も意味もよく知っている」と「言葉も知っていたし、言葉も大体知っている」を合わせた『意味も知っている』の割合は合わせて21.4%。『聞いたことがある（「言葉も意味もよく知っている」+「言葉も知っていたし、意味も大体知っている」+「言葉は知っていたが、意味はあまり知らない」+「言葉は聞いたことがあるが、意味は知らない」）』の割合は52.2%。「言葉も意味も知らない」は47.8%と約半数を占める。

性別でみると、『意味も知っている』の割合は男性が17.0%、女性が24.9%。『聞いたことがある』の割合は男性が44.7%、女性が58.2%といずれも女性が上回る。

年代区分別でみると、『意味も知っている』の割合は、40歳代が他の年代に比べて高く、3割となっている。一方、『聞いたことがある』の割合は、20歳代が4割に満たないが、他の年代は5割を超え、中でも30歳代が58.5%と最も高い。





※全国データは日本整形外科学会「2014年度ロコモティブシンドローム生活者意識全国調査」から

#### 4 共食の増加（食事を1人で食べる子どもの割合の減少）

食事を1人で食べる人が多い子どもの割合は、朝食では小学生が14.4%、中学生が24.6%、夕食では小学生が4.2%、中学生が15.9%となった。前回調査と比較して、中学生の朝食の孤食のみが減少している。今後も学童期、中学生期での共食の増加を図り、青年期における、朝食摂取習慣につなげる必要がある。

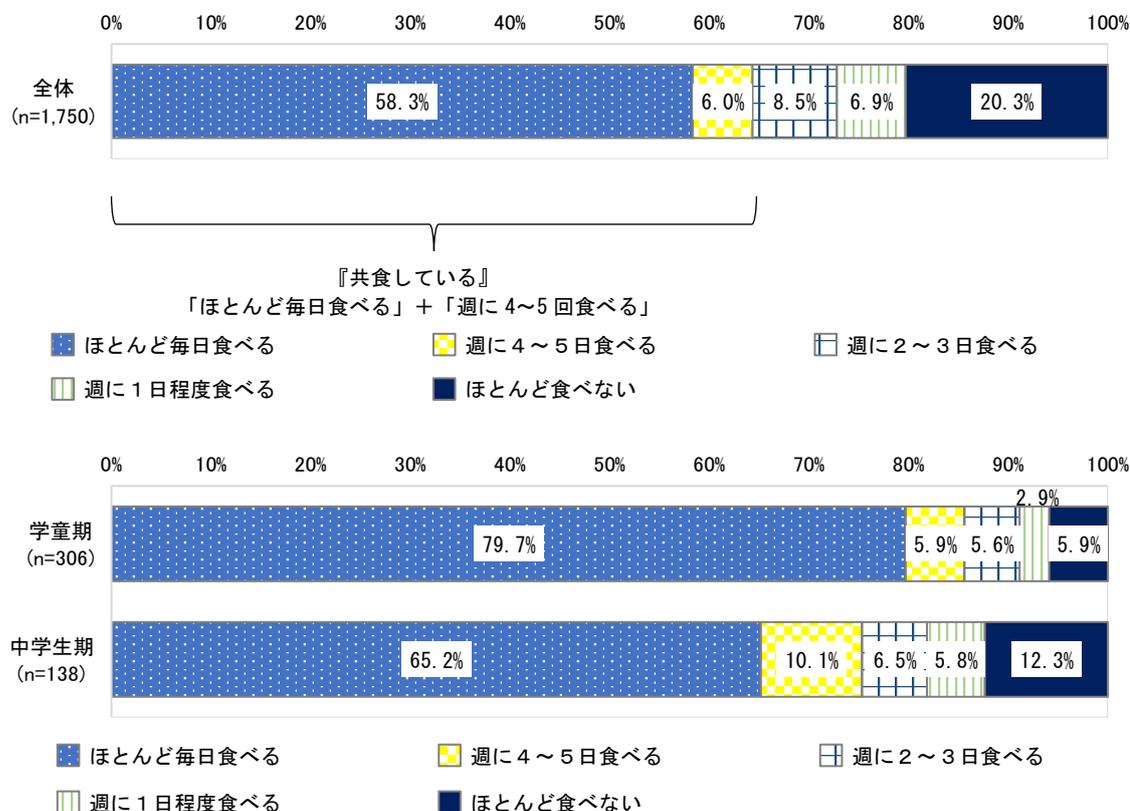
項目		(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(H30年・目標)	
○共食の増加(食事を1人で食べる子どもの割合の減少)	朝食	小学生	16.7%	11.3%	14.4%	減少傾向へ
		中学生	24.3%	27.0%	24.6%	
	夕食	小学生	5.2%	3.6%	4.2%	減少傾向へ
		中学生	11.1%	9.2%	15.9%	

※「週に2～3日食べる」+「週に1日程度食べる」+「ほとんど食べない」を選択した人の割合

#### <調査結果>

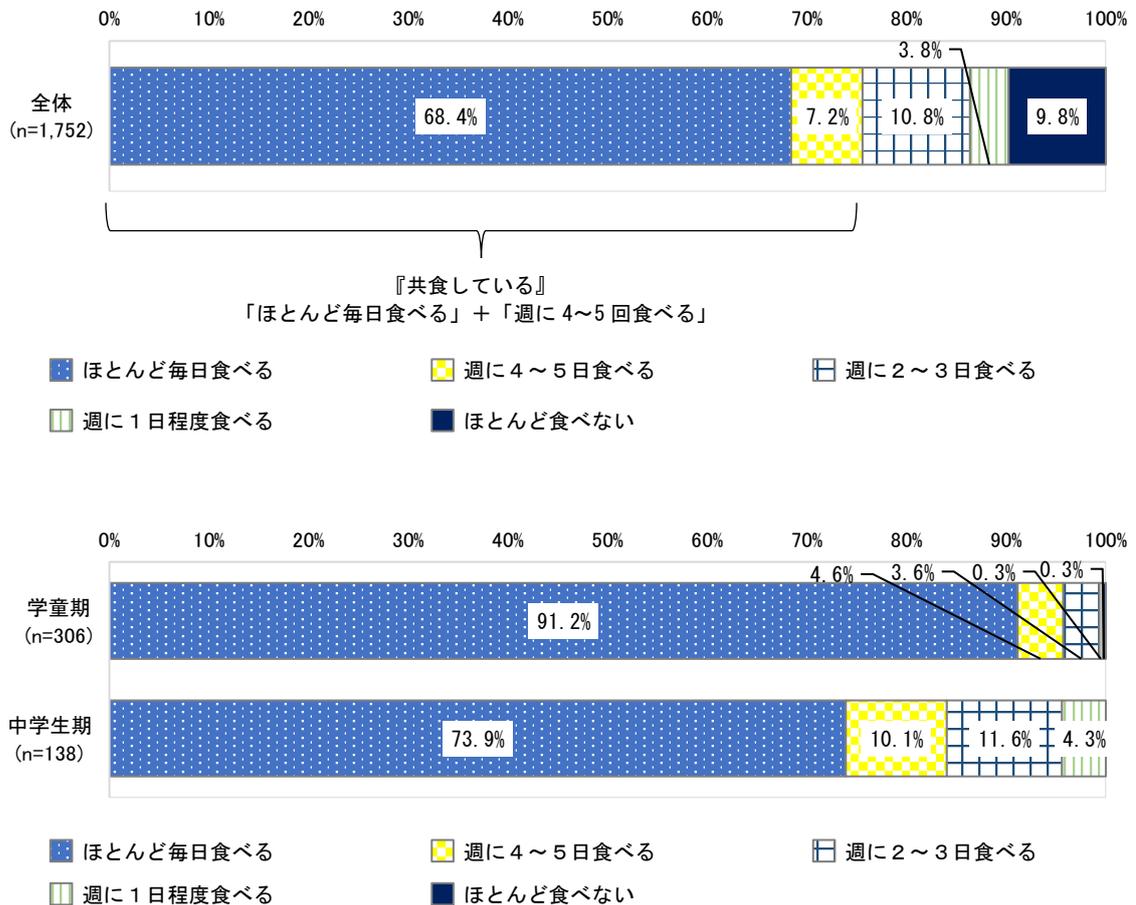
##### ■朝食を家族と一緒に食べる頻度（0歳を除く）（112～115ページを参照）

朝食を家族と一緒に食べる頻度について、『共食している（「ほとんど毎日食べる」+「週に4～5回食べる」）』人の割合は、学童期では85.6%、中学生期では75.3%となり、中学生期は学童期と比べ10.3ポイント下回る。



■夕食を家族と一緒に食べる頻度 〈0歳を除く〉(116~119ページを参照)

夕食を家族と一緒に食べる頻度について、『共食している(「ほとんど毎日食べる」+「週に4~5回食べる」)』人の割合は、学童期では95.8%、中学生期では84.0%となり、中学生期は学童期と比べ11.8ポイント下回る。



## 5 20歳代男性、30歳代男性の1週間あたりの朝食の欠食率の減少

男性の朝食の欠食率の割合は、20歳代では20.0%、30歳代では26.5%となり、前回調査と比較して、20歳代は下回り、30歳代は上回った。いずれも目標値までは届いてない。

項目		(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(H30年・目標)
○20歳代男性、30歳代男性の1週間あたりの朝食の欠食率の減少	20歳代男性	29.4%	22.6%	20.0%	15.0%
	30歳代男性	29.4%	16.2%	26.5%	15.0%

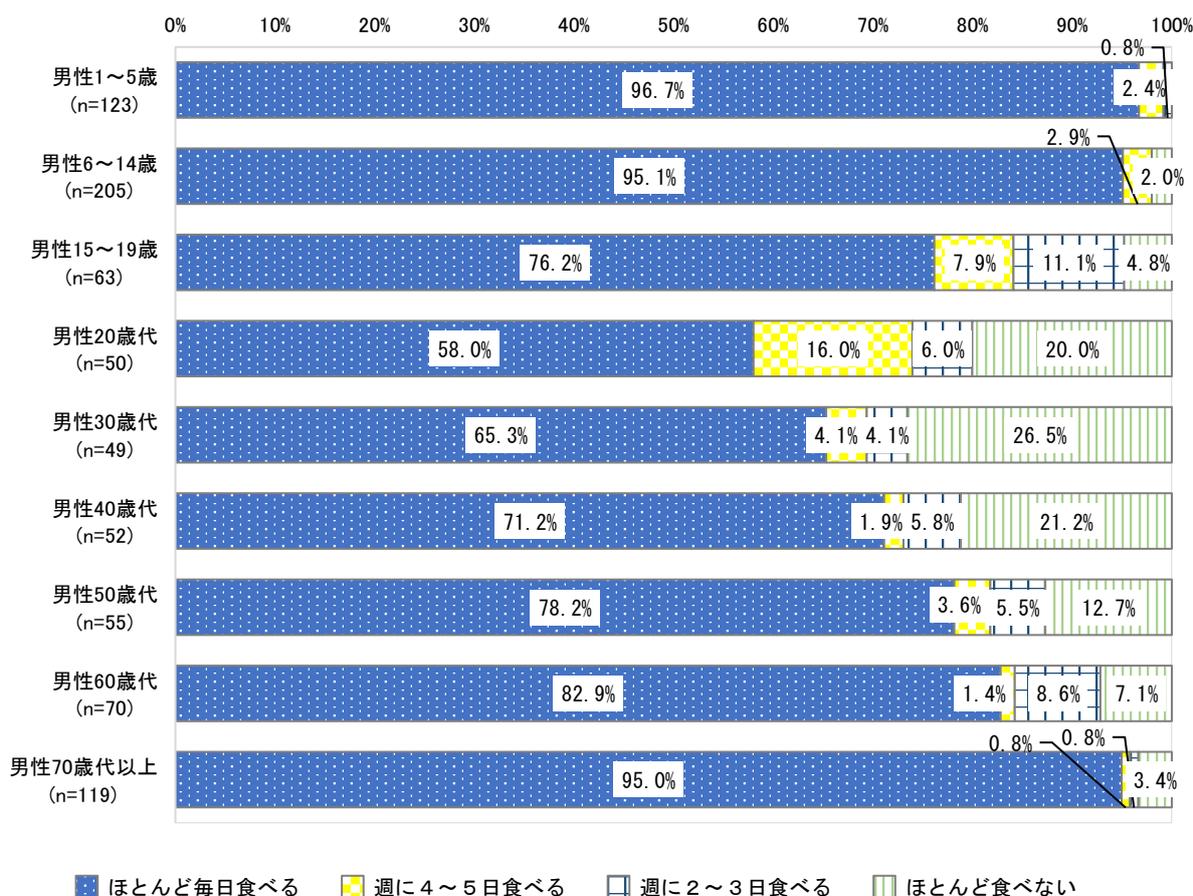
※「ほとんど食べない」を選択した人の割合

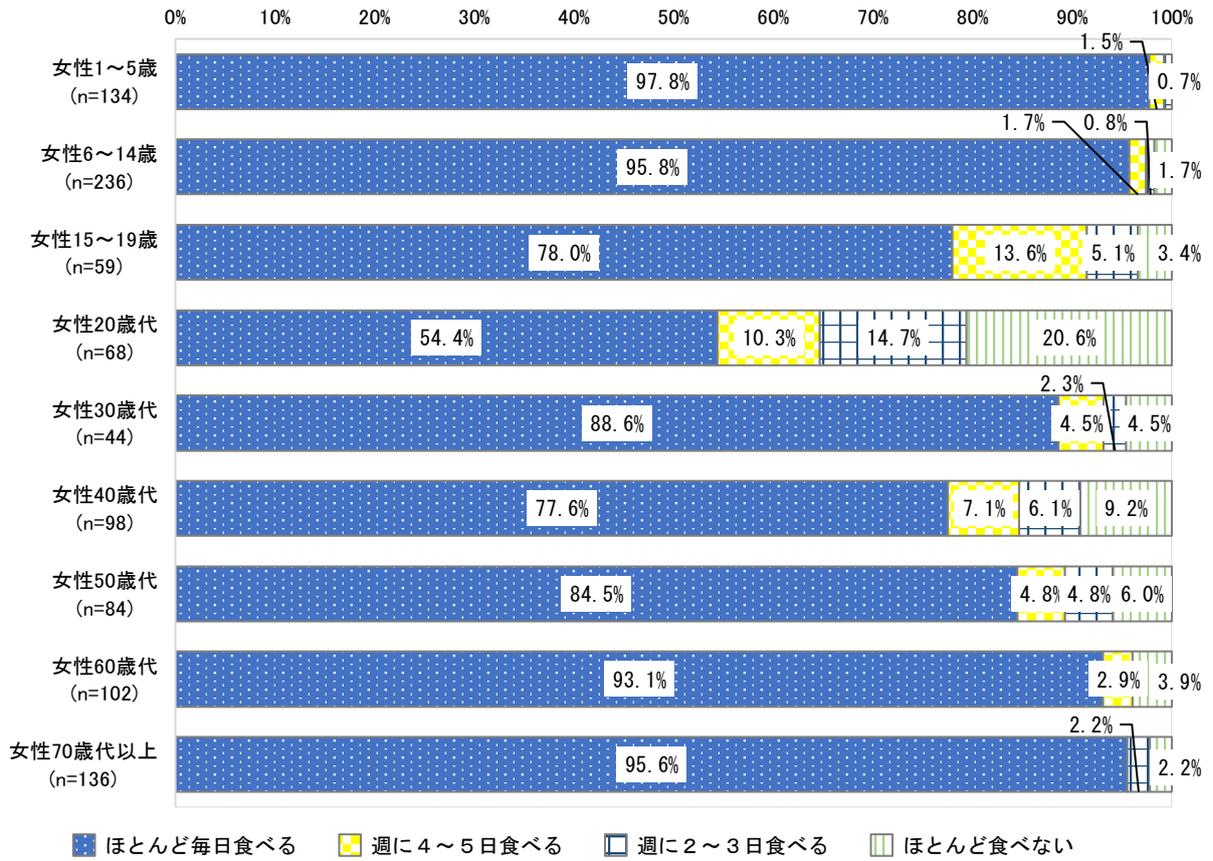
### <調査結果>

#### ■ 1週間あたりの朝食を食べる頻度 (0歳を除く) (119~129ページを参照)

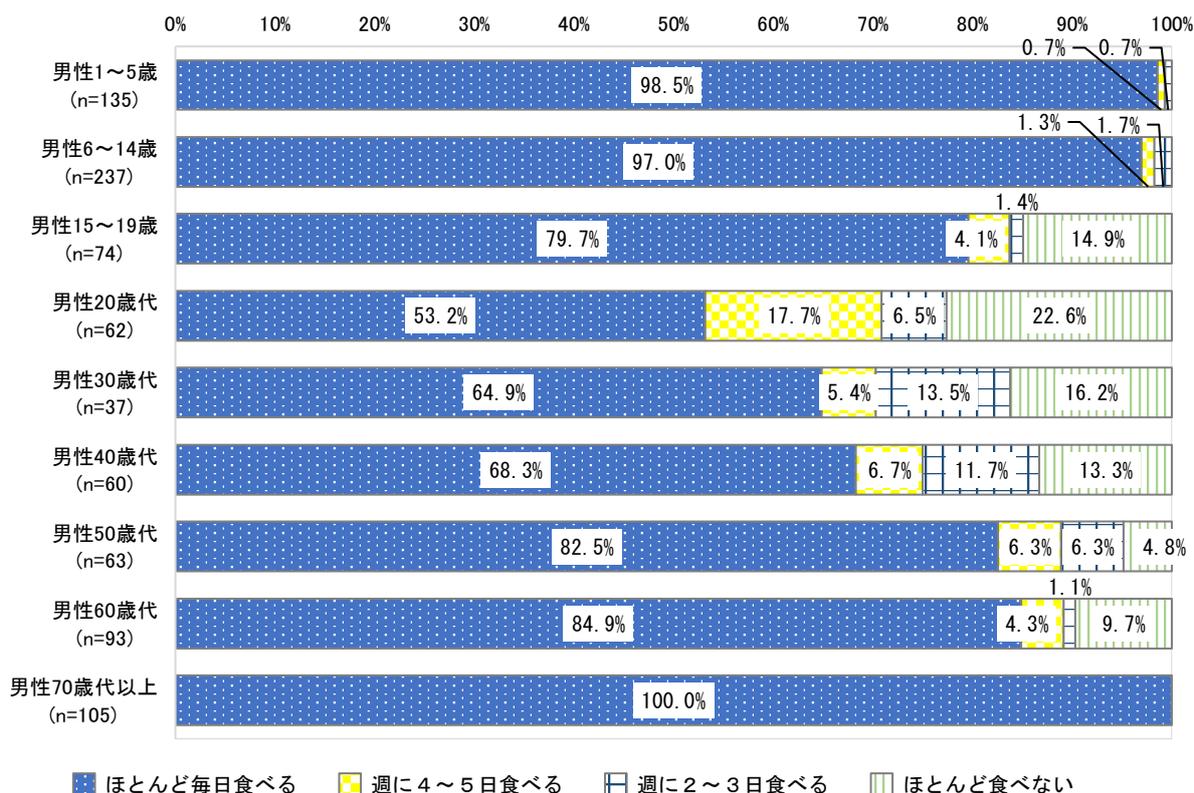
朝食の欠食率を年齢区分別で見ると、男性では20歳代20.0%、30歳代26.5%と最も高く、40歳代以降は、欠食率は徐々に低下している。女性の20歳代においては、他の年代の欠食率が1割に満たないのに対し、20.6%と大幅に高い。

前回調査と比較して、30歳代、40歳代男性の欠食率が高くなっている。

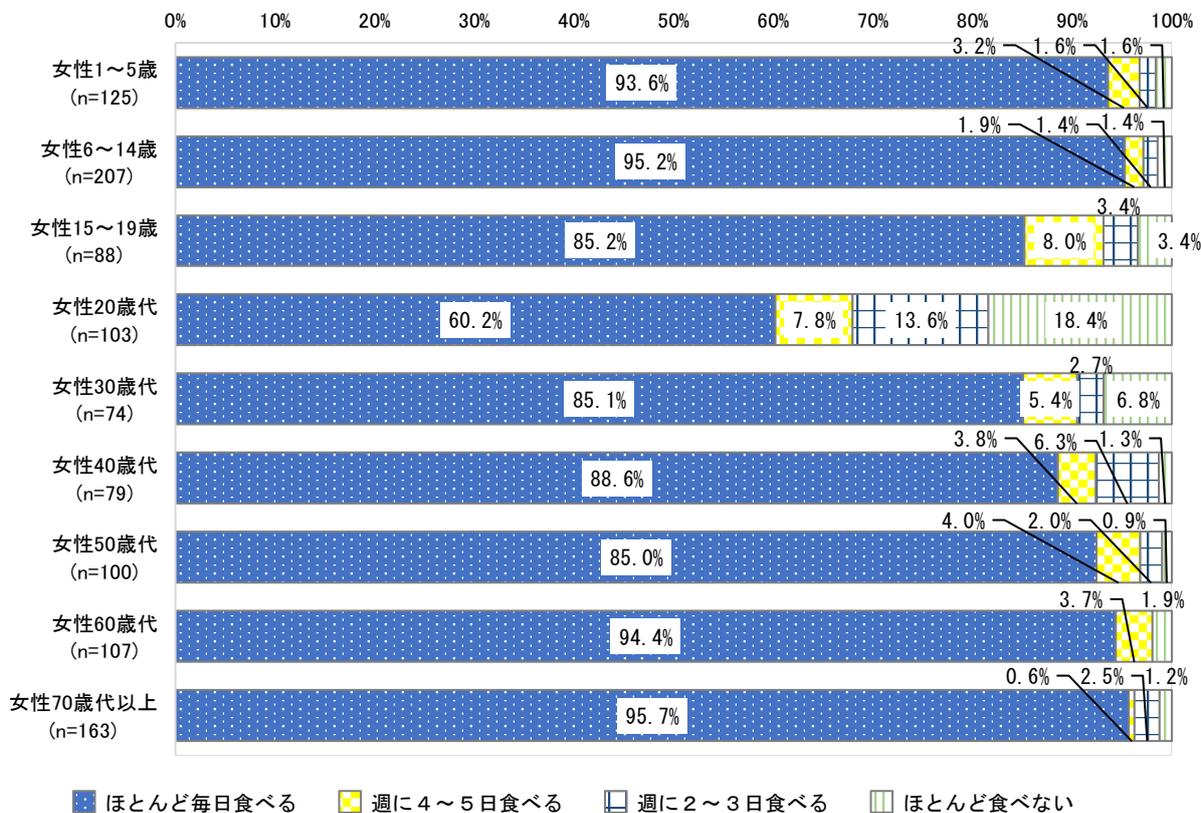




■ H27 年調査

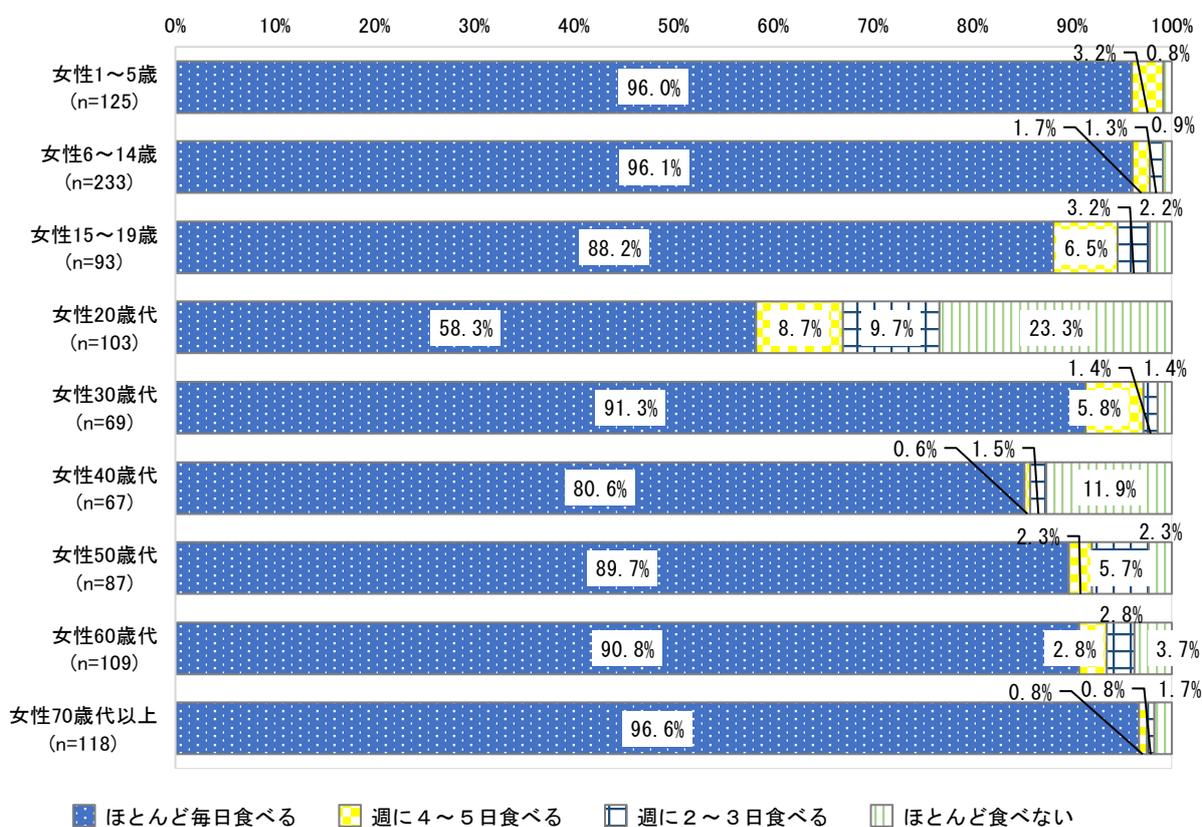
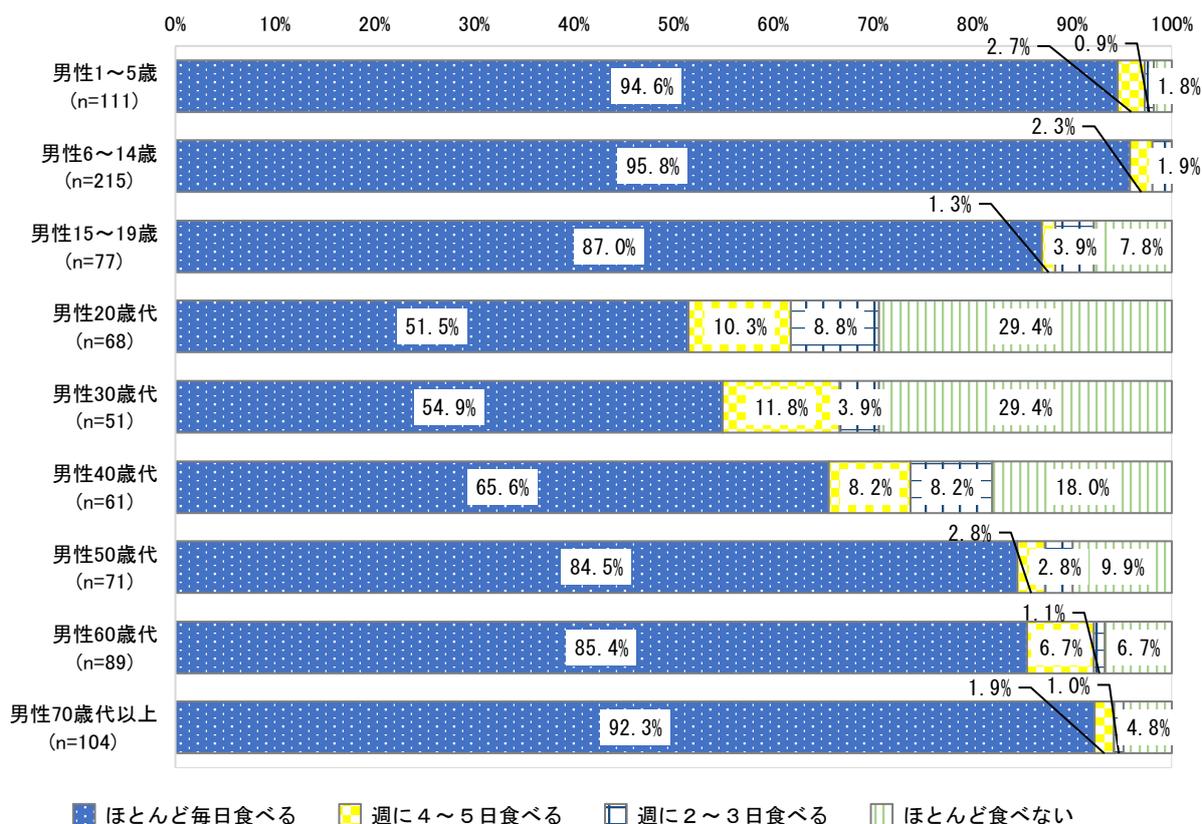


■ ほとんど毎日食べる ■ 週に4~5日食べる ■ 週に2~3日食べる ■ ほとんど食べない



■ ほとんど毎日食べる ■ 週に4~5日食べる ■ 週に2~3日食べる ■ ほとんど食べない

■ H24 年調査



## 6 日常生活における歩数の増加

日常生活における歩数は、男性では、20～64歳、65歳以上ともに目標を下回り女性では20～64歳、65歳以上ともに、目標を上回った。

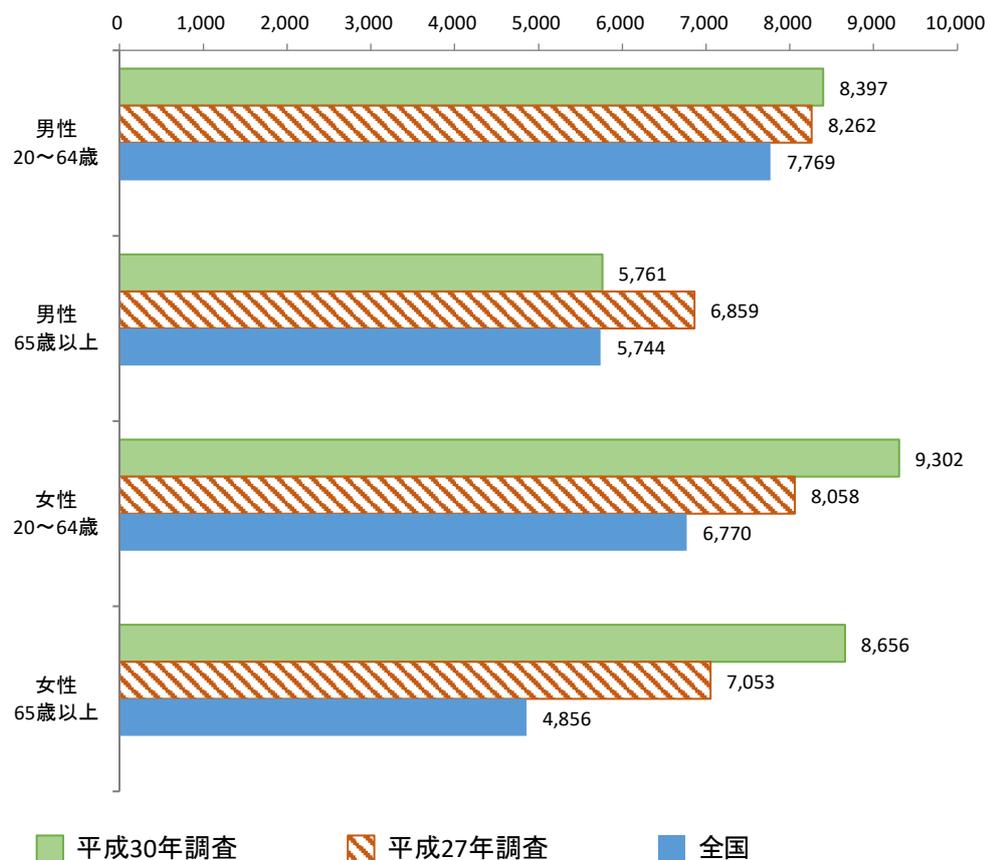
項目		(H23年・基準)	(H27年・参考値)	(H30年・実績)	(H34年・目標)
○日常生活における歩数の増加	20歳～64歳	男性	—	8,262歩	9,000歩
		女性	—	8,058歩	8,500歩
	65歳以上	男性	—	6,589歩	7,000歩
		女性	—	7,053歩	6,000歩

※一日の平均歩数

### <調査結果>

#### ■平日及び休日の歩数（1日の平均歩数） 〈20歳以上〉

本市の1日の平均歩数を全国平均と比較すると、女性の20～64歳は大きく下回るものの、その他の年代は、全国、前回調査と比較して上回る。



※全国データでは厚生労働省「国民健康・栄養調査」(H28) から  
 ※H27年調査はサンプル数が男性20～64歳 n=46、男性65歳以上 n=18、女性20～64歳 n=71、女性65歳以上 n=30  
 ※H30年調査はサンプル数が男性20～64歳 n=43、男性65歳以上 n=8、女性20～64歳 n=49、女性65歳以上 n=24

## 7 COPD（慢性閉塞性肺疾患）の認知度の向上

COPD（慢性閉塞性疾患）の認知度について、「どんな病気なのかよく知っている」「名前は聞いたことがある」と、回答した人の割合は55.6%で半数を超えるものの、目標を24.4ポイントと大きく下回る。今後、更なる周知を図り、予防と早期診断につなげる取組が必要である。

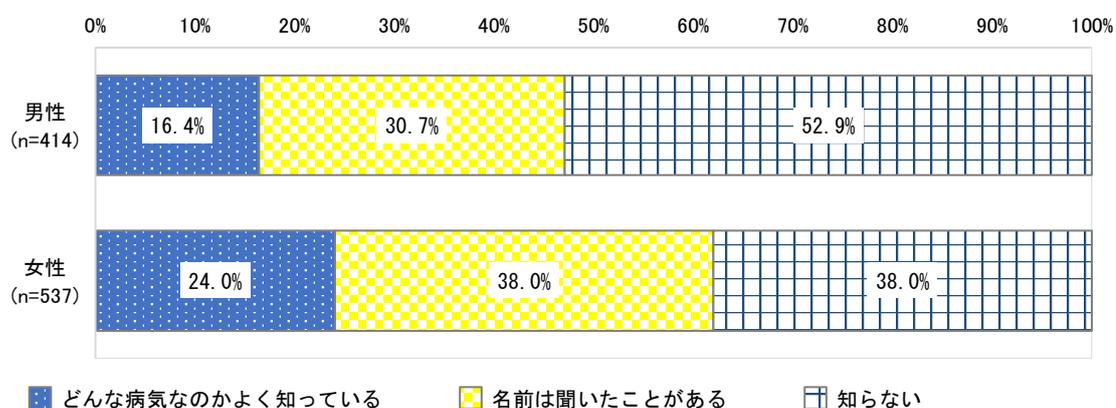
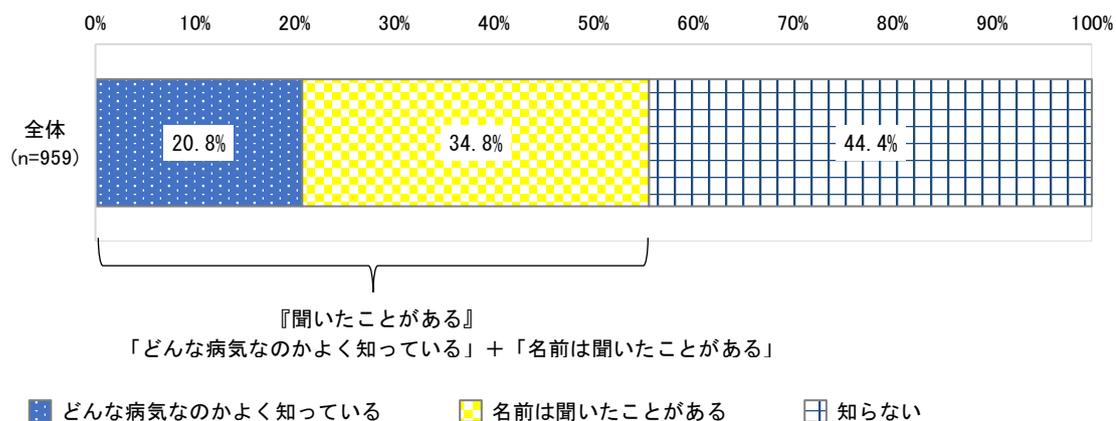
項目	(H23年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(H34年・目標)
○COPD(慢性閉塞性肺疾患)の認知度の向上	—	58.8%	55.6%	80%

※20歳以上の回答者で、「どんな病気なのかよく知っている」＋「名前は聞いたことがある」を選択した人の割合

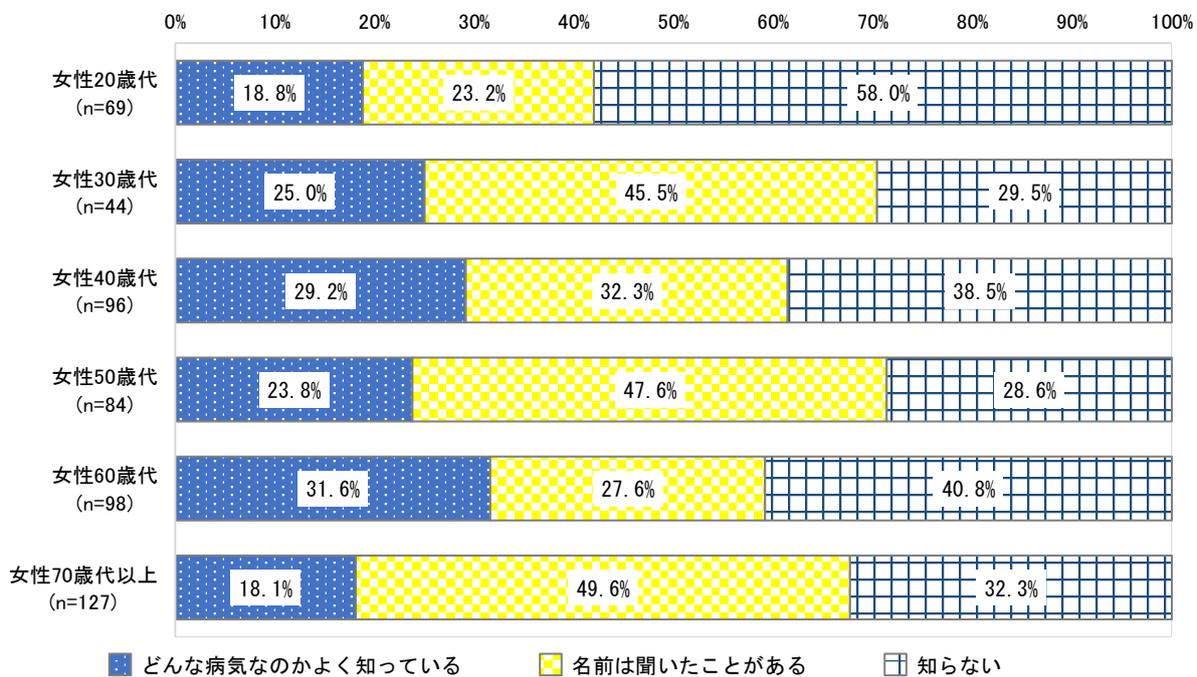
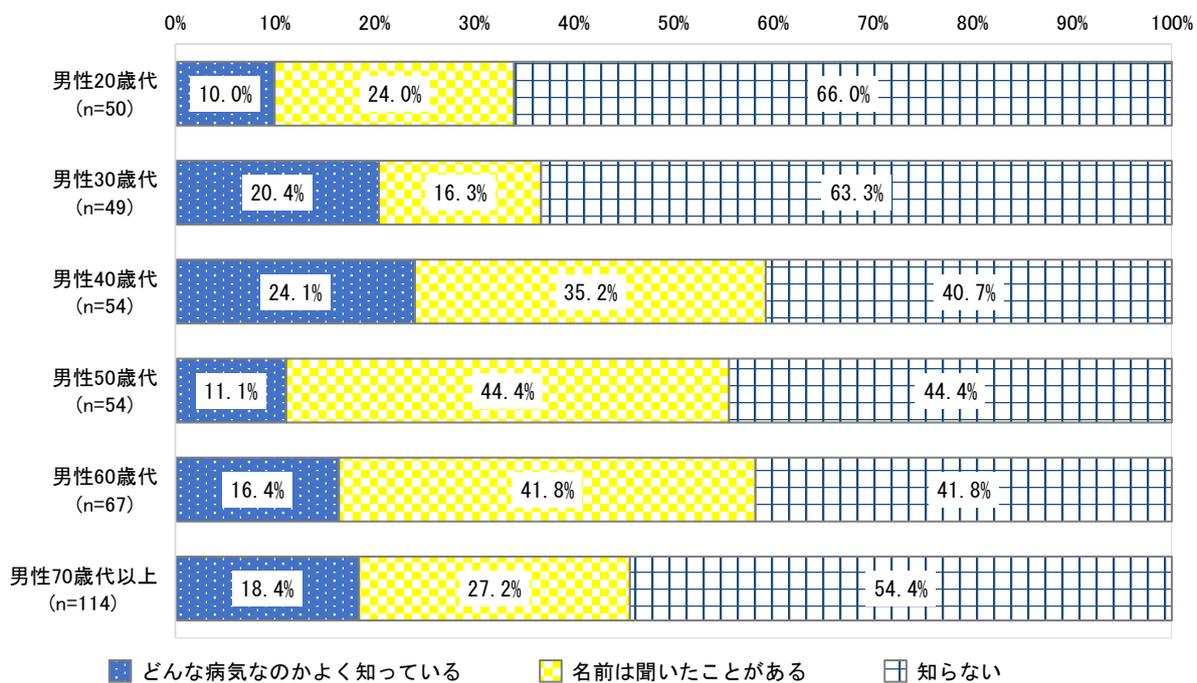
### <調査結果>

#### ■COPD（慢性閉塞性疾患）の認知度（20歳以上）

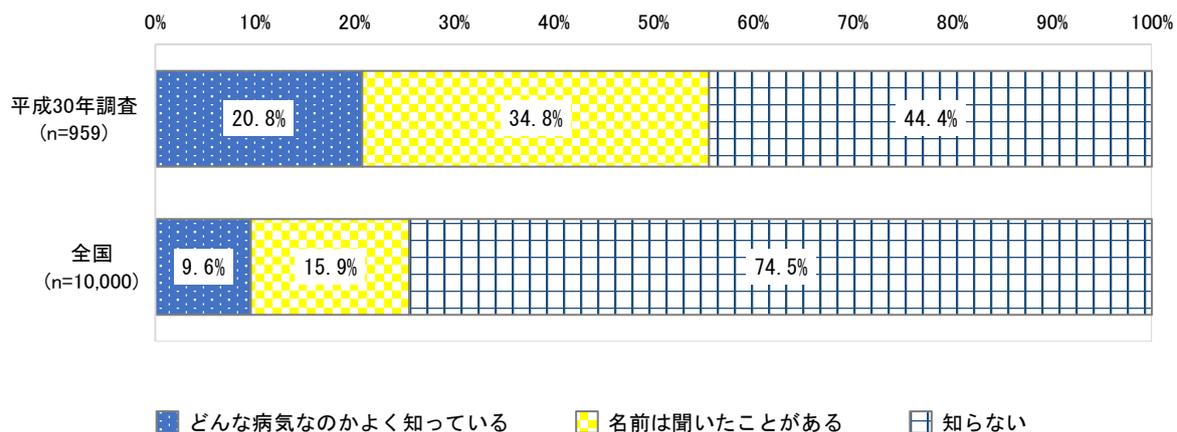
COPD（慢性閉塞性疾患）の認知度について、「どんな病気なのかよく知っている」は20.8%、「名前は聞いたことがある」は34.8%と、合わせて55.6%が『聞いたことがある』としている。性別で見ると、『聞いたことがある（「どんな病気なのかよく知っている」＋「名前は聞いたことがある」）』の割合は、男性が47.1%、女性が62.0%で女性が上回る。



年齢区分別でみると、『聞いたことがある（「どんな病気なのかよく知っている」＋「名前は聞いたことがある」）』の割合は、男性では40歳代～60歳代が5割を超え、女性では30歳代以上が5割を超える。男女ともに、20歳代の認知度が低い。



全国と比較して、『聞いたことがある（「どんな病気なのかよく知っている」＋「名前は聞いたことがある」）』の割合は、本市は55.6%、全国は25.5%となり、全国を大きく上回る。

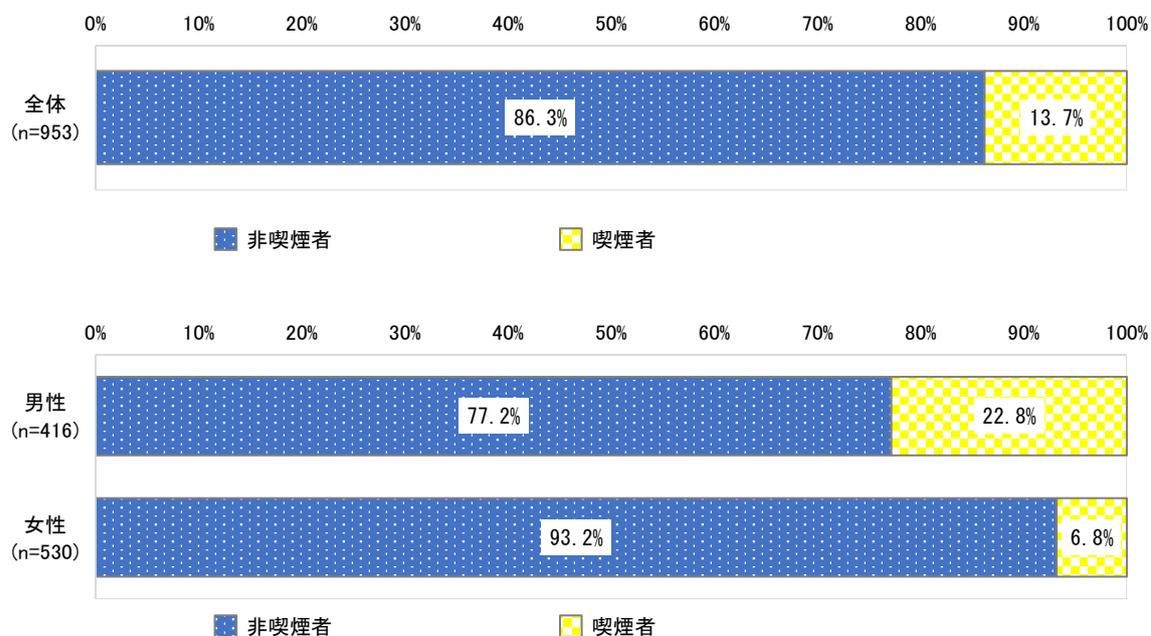


※全国データは一般社団法人 GOLD 日本委員会「COPD 認知度把握調査」(H29) より

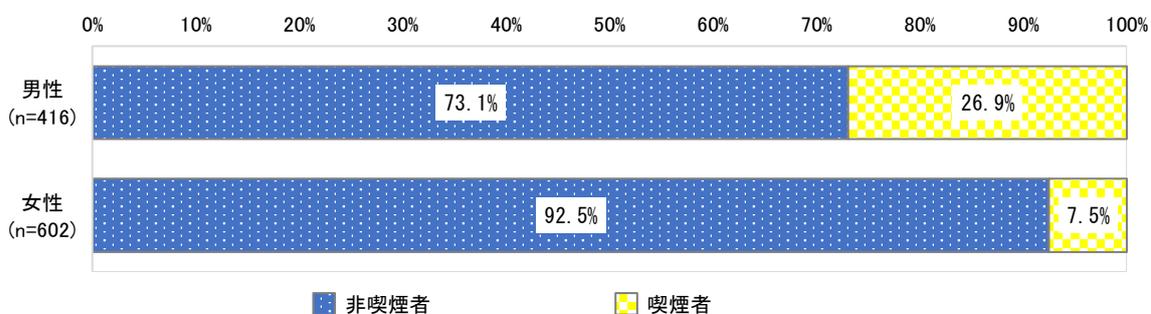
## ■喫煙の状況 〈20歳以上〉

喫煙の状況について、「喫煙者」は13.7%、「非喫煙者」は86.3%。

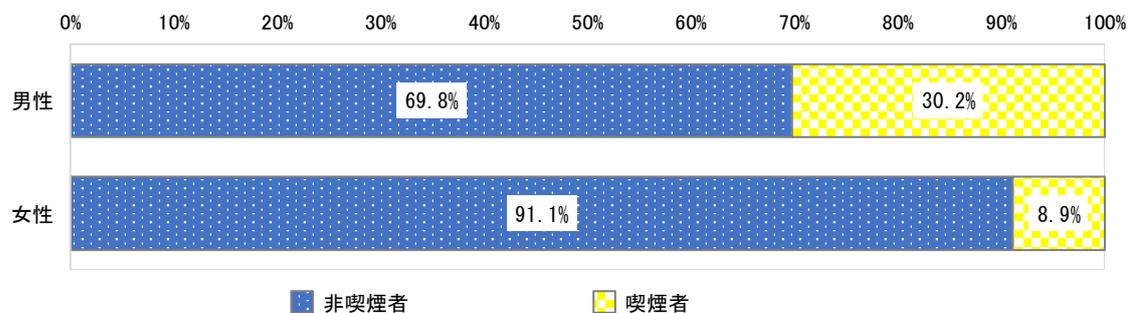
性別で見ると、「喫煙者」は、男性では22.8%、女性では6.8%と、前回調査と比較して、男性は4.1ポイント、女性は0.7ポイント下回る。



## ■H27年調査

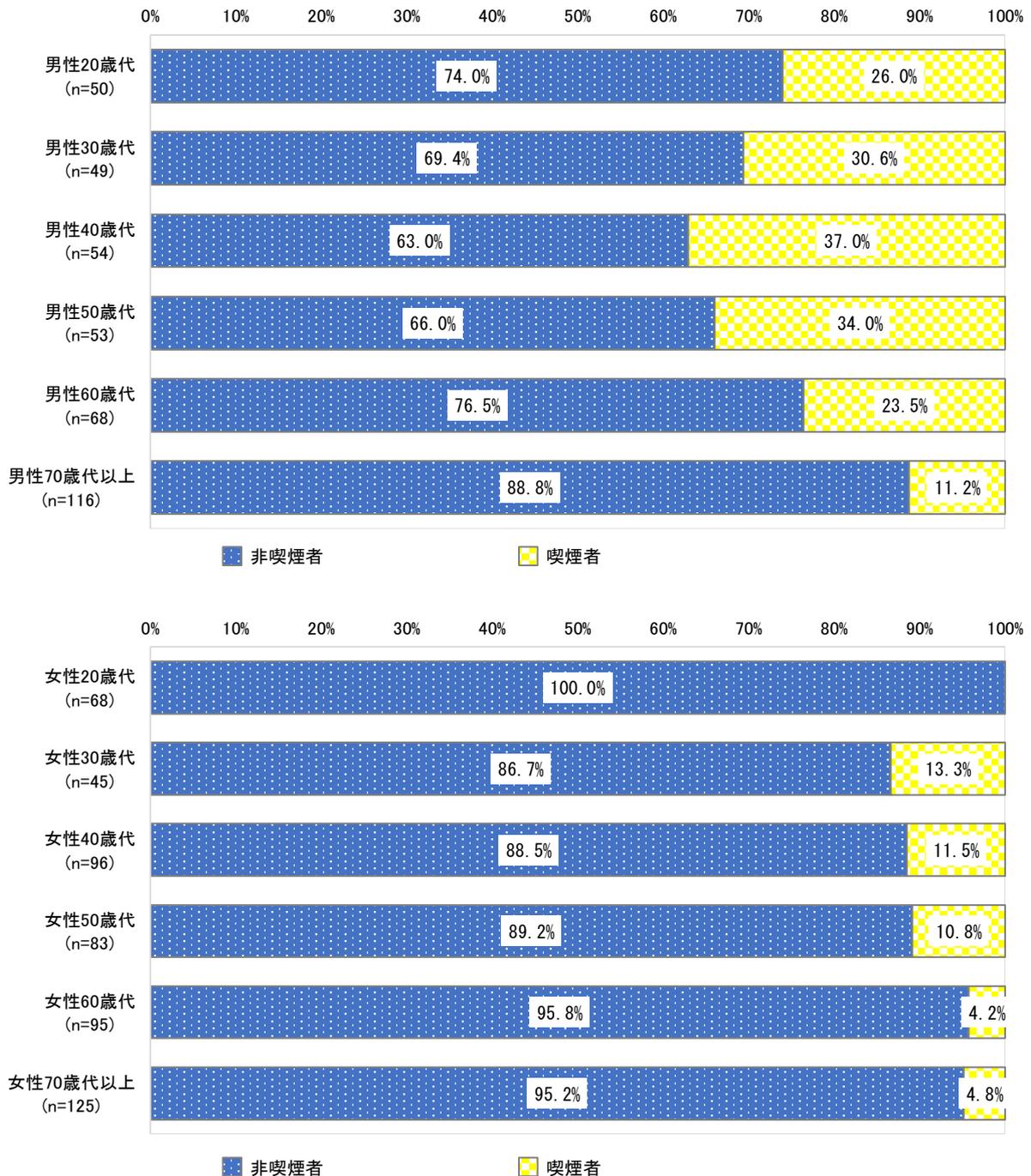


## ■H23年調査



※『非喫煙者』とは、「吸わない」＋「以前は吸っていたが、今はやめている」  
 ※『喫煙者』とは、「1日およそ10本以下吸っている」＋「1日およそ11本～20本程度吸っている」＋「1日およそ21本以上吸っている」

年齢区分別でみると、『喫煙者』の割合は、男性では40歳代が37.0%、50歳代が34.0%、30歳代が30.6%の順。女性では30歳代が13.3%、40歳代が11.5%、50歳代が10.8%、70歳代が4.8%の順。

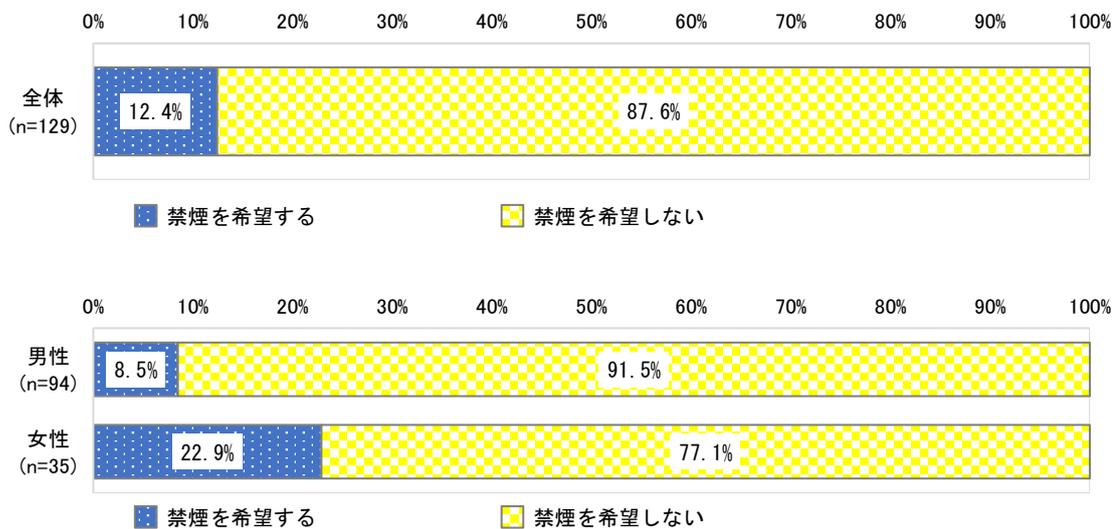


※『非喫煙者』とは、「吸わない」＋「以前は吸っていたが、今はやめている」  
 ※『喫煙者』とは、「1日およそ10本以下吸っている」＋「1日およそ11本～20本程度吸っている」＋「1日およそ21本以上吸っている」

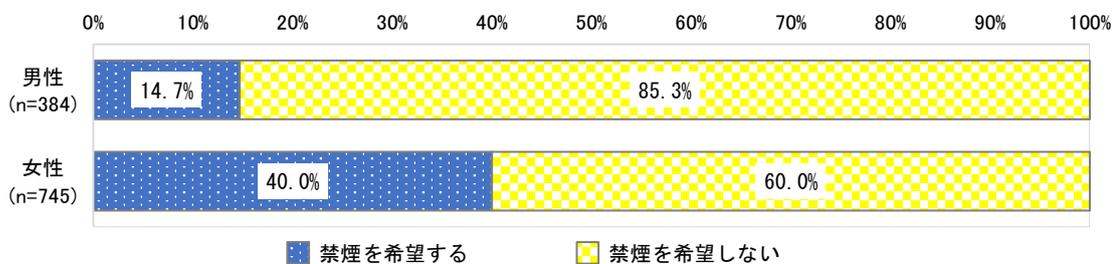
## ■禁煙の取り組み意向 〈20歳以上〉

喫煙者の禁煙の取組意向は、「禁煙を希望する」が12.4%、「禁煙を希望しない」が87.6%とし、大部分が「禁煙を希望しない」としている。

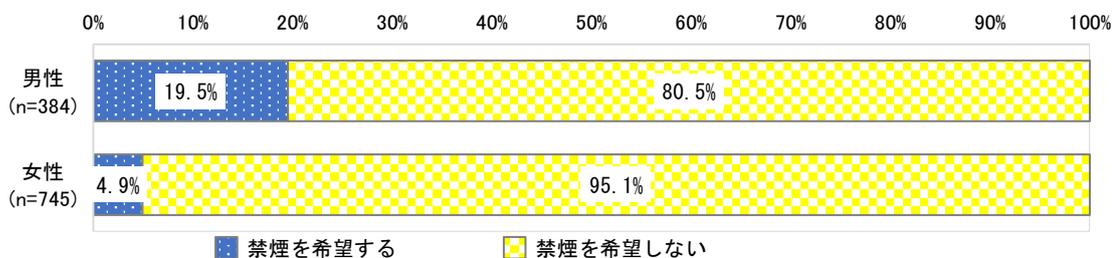
性別でみると、「禁煙を希望する」は、男性が8.5%、女性が22.9%となり、前回調査と比較して、男性は6.2ポイント下回り、女性は17.1ポイントと大きく下回る。



## ■H27年調査

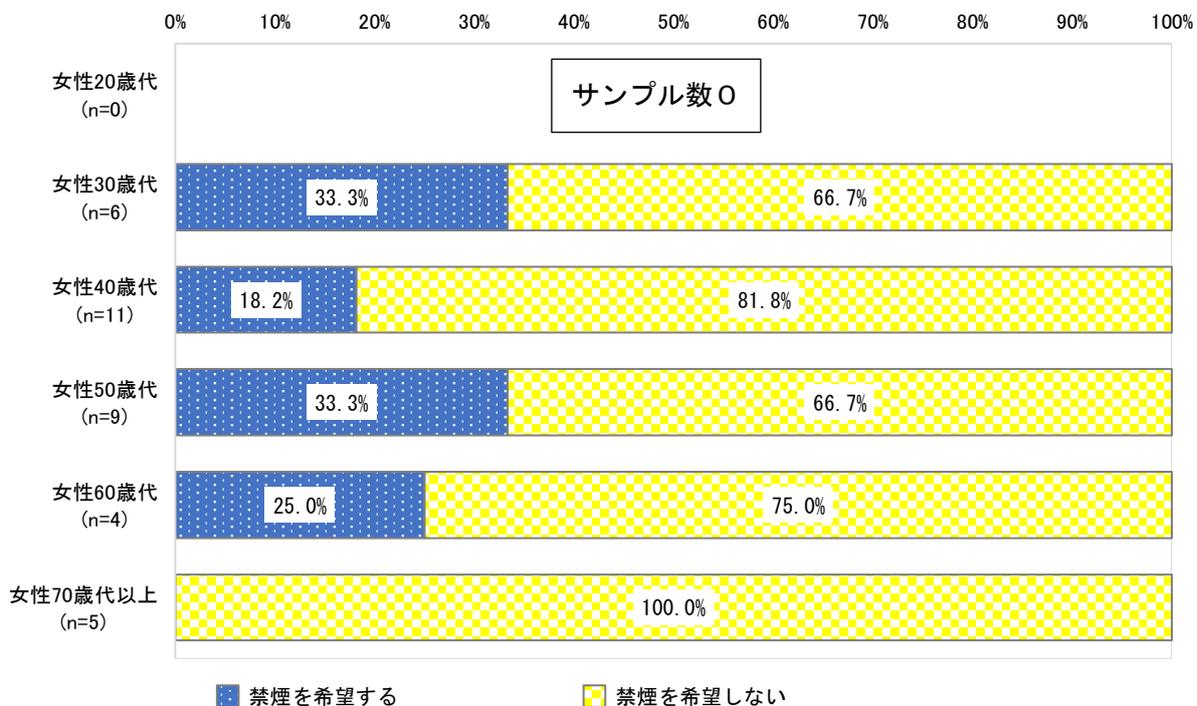
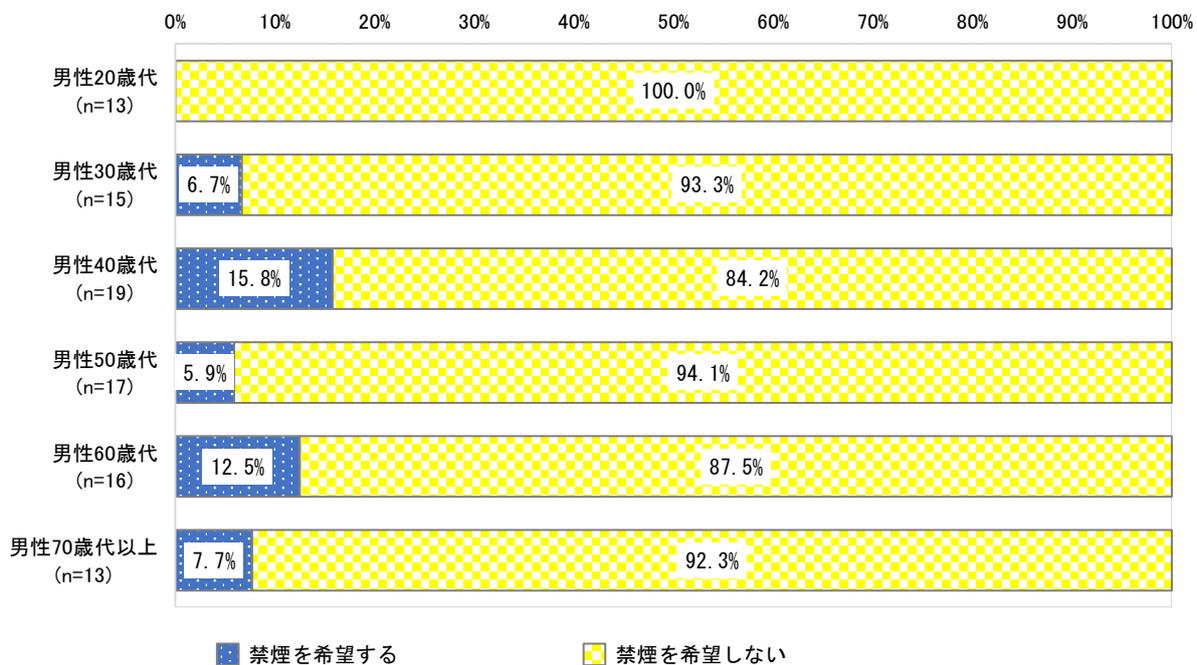


## ■H23年調査



※『喫煙を希望する』は、「喫煙に関心があり、今すぐに取り組みたいと思う」  
 ※『喫煙を希望しない』は、「取り組もうと思わない」 + 「禁煙に関心はあるが、今すぐ取り組もうとは思わない」

年齢区分別でみると、「禁煙を希望する」の割合は、男性では40歳代、60歳代でそれぞれ1割を超え、女性では、30歳代、50歳代でそれぞれ3割。男性の20歳代、女性の70歳代においては、「禁煙を希望する」人はいなかった。



※『喫煙を希望する』は、「喫煙に関心があり、今すぐに取り組みたいと思う」  
 ※『喫煙を希望しない』は、「取り組もうと思わない」 + 「禁煙に関心はあるが、今すぐ取り組もうとは思わない」

## 8 受動喫煙（家庭・職場・飲食店・行政機関・医療機関）の機会を有する者の割合の減少

受動喫煙の機会は、「飲食店」が47.2%と最も高いが、前回と比較して4.9ポイント低く、「職場」は前回とほぼ変わらず、「家庭」も2割を超えて、前回より高い。「飲食店」「家庭」では、目標との差が大きく、引き続き、市民や事業者等への啓発を図る必要がある。

項目		(H23年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(H34年・目標)
○受動喫煙(家庭・職場・飲食店・行政機関・医療機関)の機会を有する者の割合の減少	行政機関	—	7.7%	7.5%	0%
	医療機関	—	6.3%	6.6%	0%
	職場	—	30.2%	30.1%	受動喫煙のない職場の実現(平成32年)
	家庭	—	23.6%	24.5%	3%
	飲食店	—	52.1%	47.2%	15%

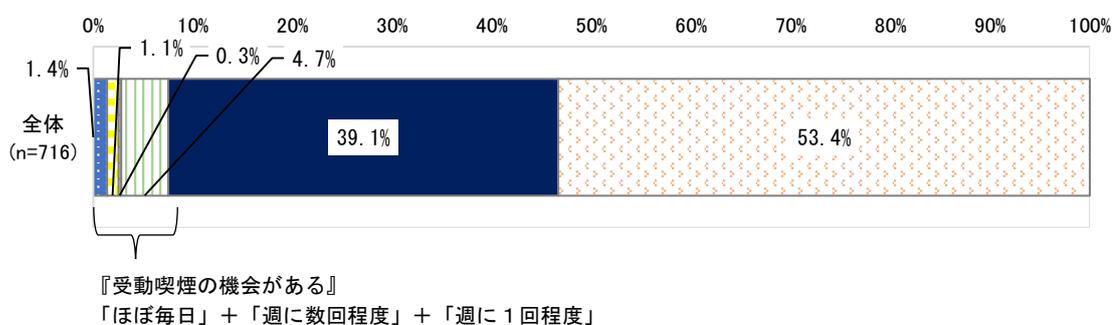
※それぞれ20歳以上の回答者で、「ほぼ毎日」+「週に数回程度」+「週に1回程度」+「月に1回程度」を選択した人の割合

### <調査結果>

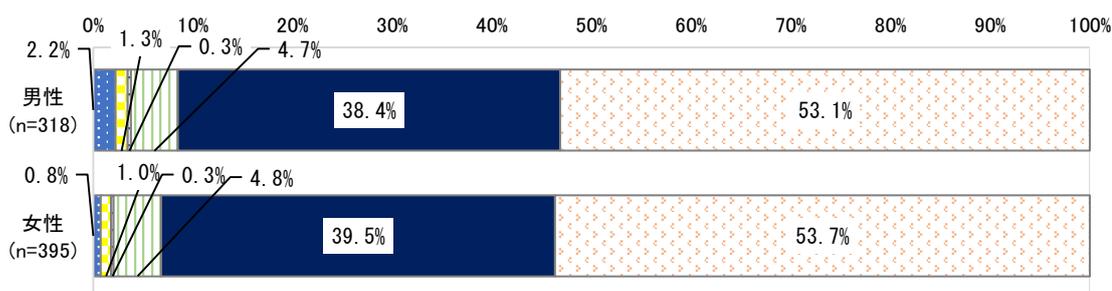
#### ■受動喫煙の状況 〈20歳以上〉

##### 【行政機関】

行政機関での受動喫煙の状況は、「ほぼ毎日」は1.4%「週に数回程度」は1.1%、「週に1回程度」は0.3%、「月に1回程度」は4.7%と、合わせて7.5%が『受動喫煙の機会がある』としている。「全くなかった」と「行かなかった」は、合わせて92.5%。

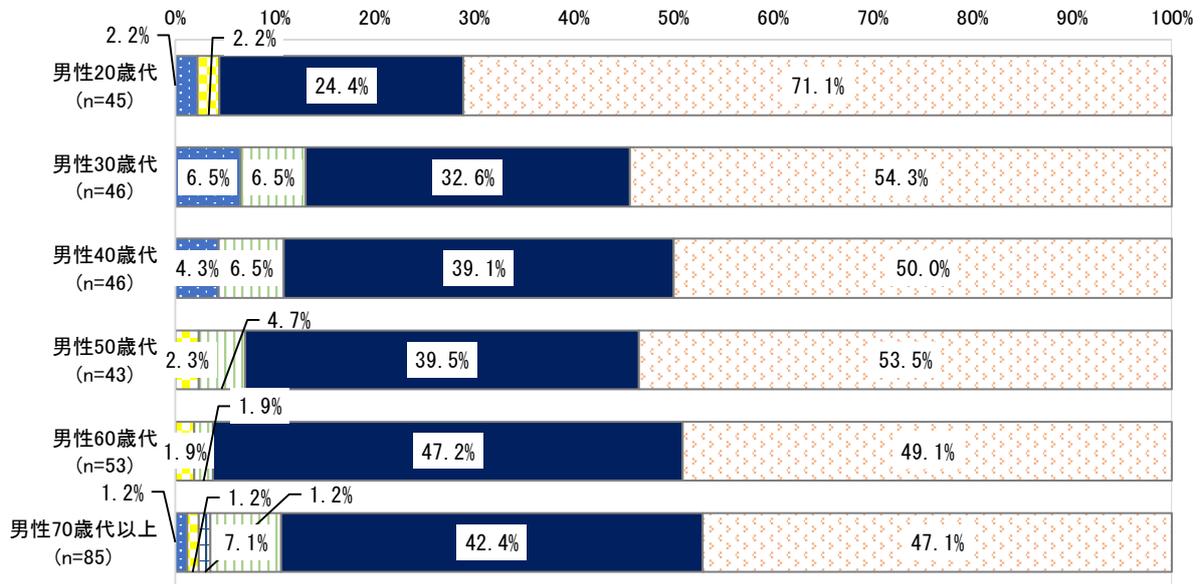


■ ほぼ毎日 ■ 週に数回程度 ■ 週に1回程度 ■ 月に1回程度 ■ 全くなかった ■ 行かなかった

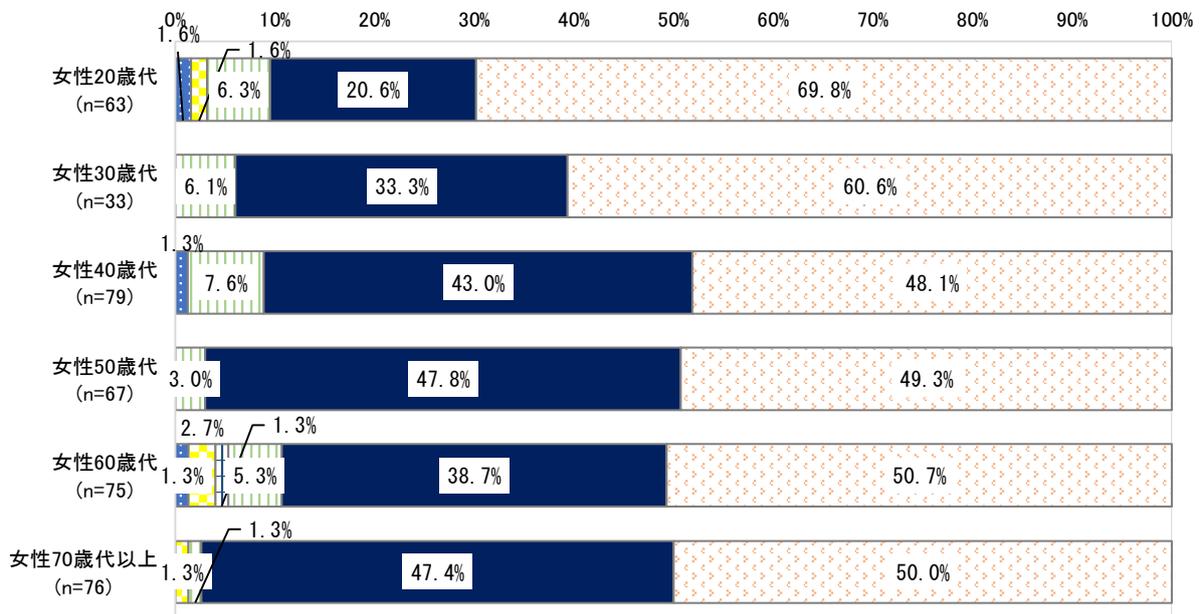


■ ほぼ毎日 ■ 週に数回程度 ■ 週に1回程度 ■ 月に1回程度 ■ 全くなかった ■ 行かなかった

年齢区分別でみると、『受動喫煙の機会がある（「ほぼ毎日」＋「週に数回程度」＋「週に1回程度」＋「月に1回程度」）』は、男性の30歳代・40歳代・70歳以上、女性の60歳代は1割を超え、他の年代と比べ高い。

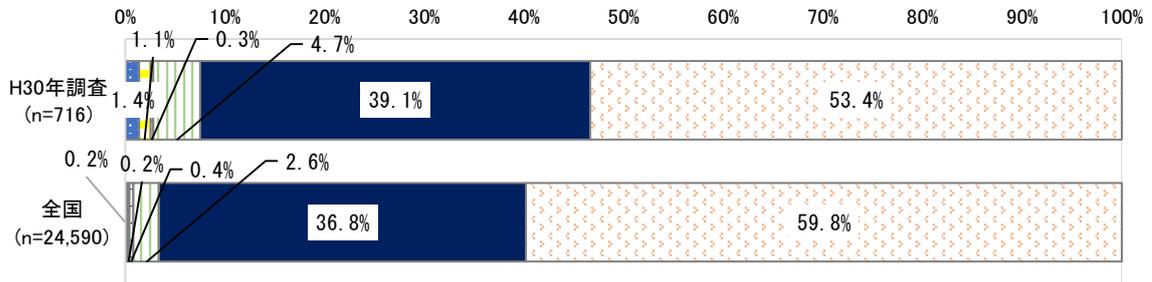


■ ほぼ毎日 ■ 週に数回程度 ■ 週に1回程度 ■ 月に1回程度 ■ 全くなかった ■ 行かなかった



■ ほぼ毎日 ■ 週に数回程度 ■ 週に1回程度 ■ 月に1回程度 ■ 全くなかった ■ 行かなかった

『受動喫煙の機会がある（「ほぼ毎日」＋「週に数回程度」＋「週に1回程度」＋「月に1回程度」）』は、全国と比較して、本市が4.1ポイント上回る。

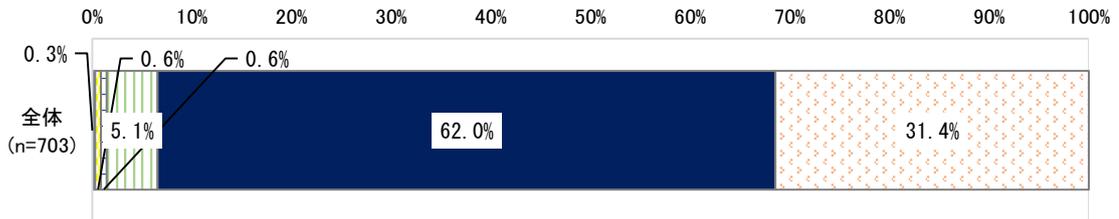


■ ほぼ毎日 ■ 週に数回程度 ■ 週に1回程度 ■ 月に1回程度 ■ 全くなかった ■ 行かなかった

※全国データは厚生労働省「国民健康・栄養調査」(H28)から

### 【医療機関】

医療機関での受動喫煙の状況は、「ほぼ毎日」は0.3%、「週に数回程度」は0.6%、「週に1回程度」は0.6%、「月に1回程度」は5.1%と、合わせて6.6%が『受動喫煙の機会がある』としている。「全くなかった」と「行かなかった」は、合わせて93.4%。

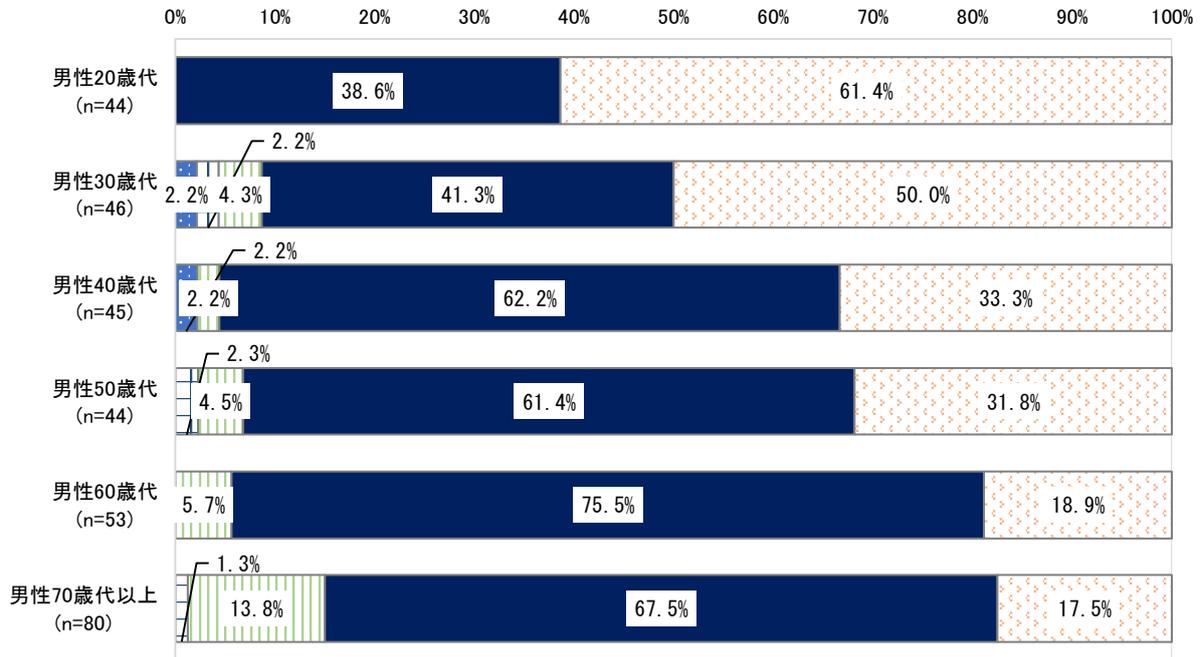


■ ほぼ毎日 ■ 週に数回程度 ■ 週に1回程度 ■ 月に1回程度 ■ 全くなかった ■ 行かなかった

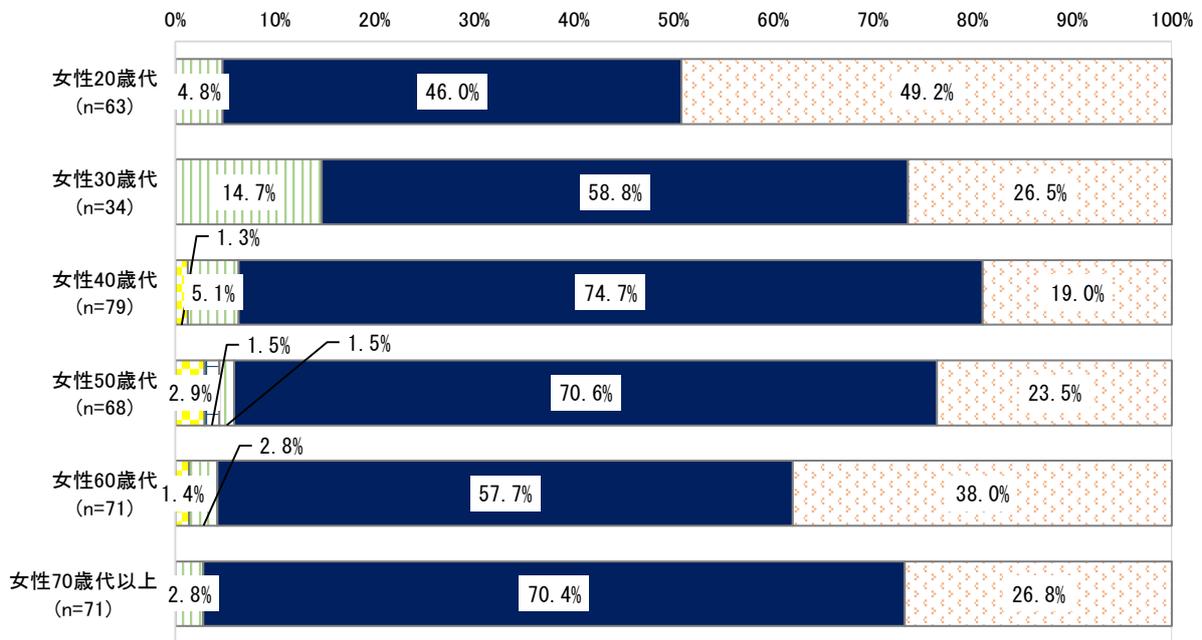


■ ほぼ毎日 ■ 週に数回程度 ■ 週に1回程度 ■ 月に1回程度 ■ 全くなかった ■ 行かなかった

年齢区分別でみると、『受動喫煙の機会がある（「ほぼ毎日」＋「週に数回程度」＋「週に1回程度」＋「月に1回程度」）』は、男性の70歳代以上が1割を超え、他の年代と比べ高い。

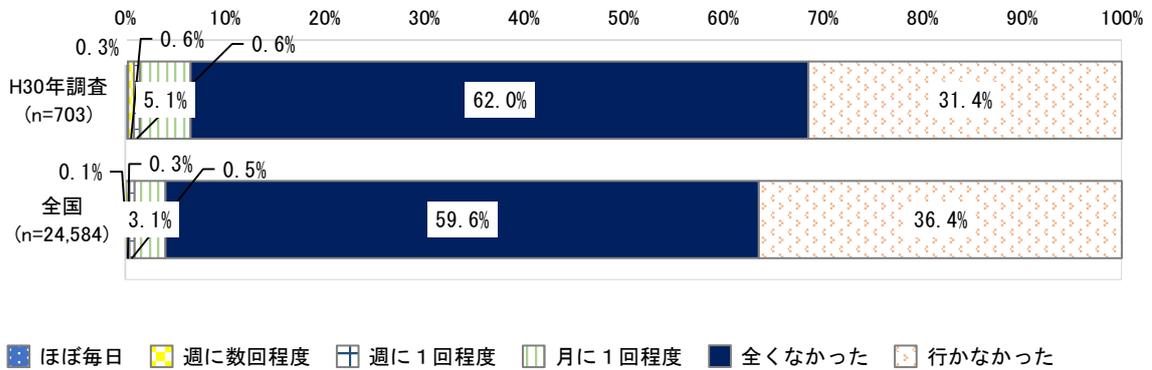


■ ほぼ毎日
 ■ 週に数回程度
   週に1回程度
   月に1回程度
 ■ 全くなかった
 ■ 行かなかった



■ ほぼ毎日
 ■ 週に数回程度
   週に1回程度
   月に1回程度
 ■ 全くなかった
 ■ 行かなかった

『受動喫煙の機会がある（「ほぼ毎日」＋「週に数回程度」＋「週に1回程度」＋「月に1回程度」）』は、全国と比較して、大きな差はない。

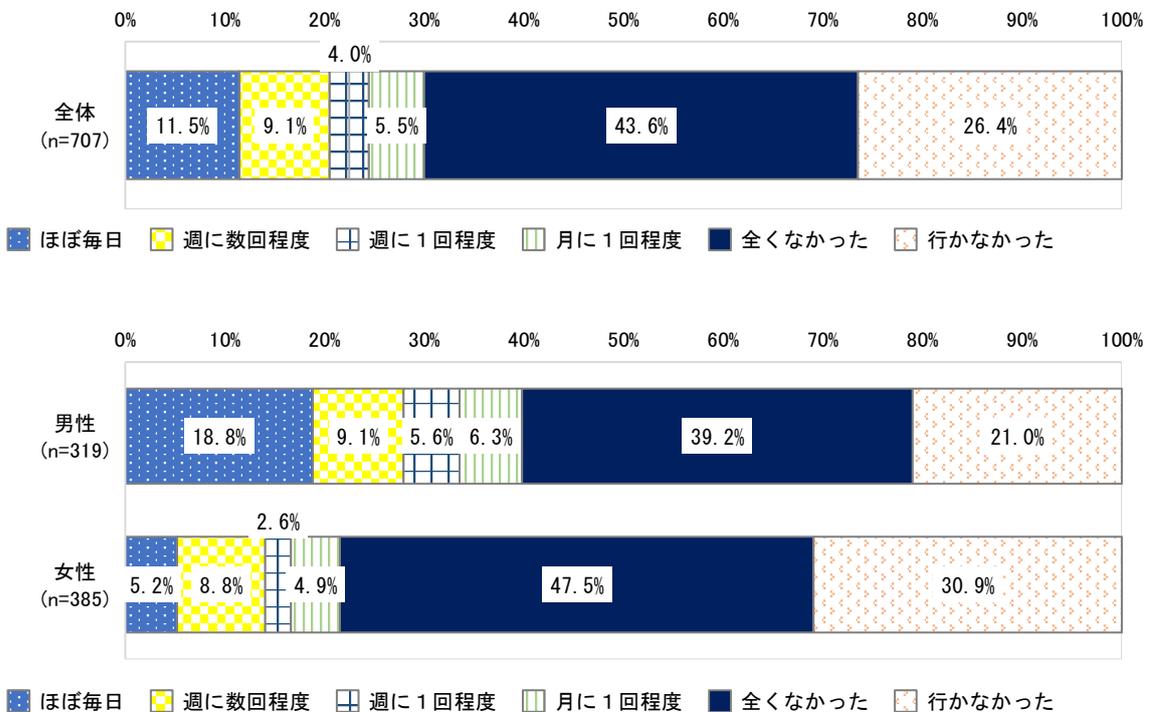


※全国データは厚生労働省「国民健康・栄養調査」(H28) から

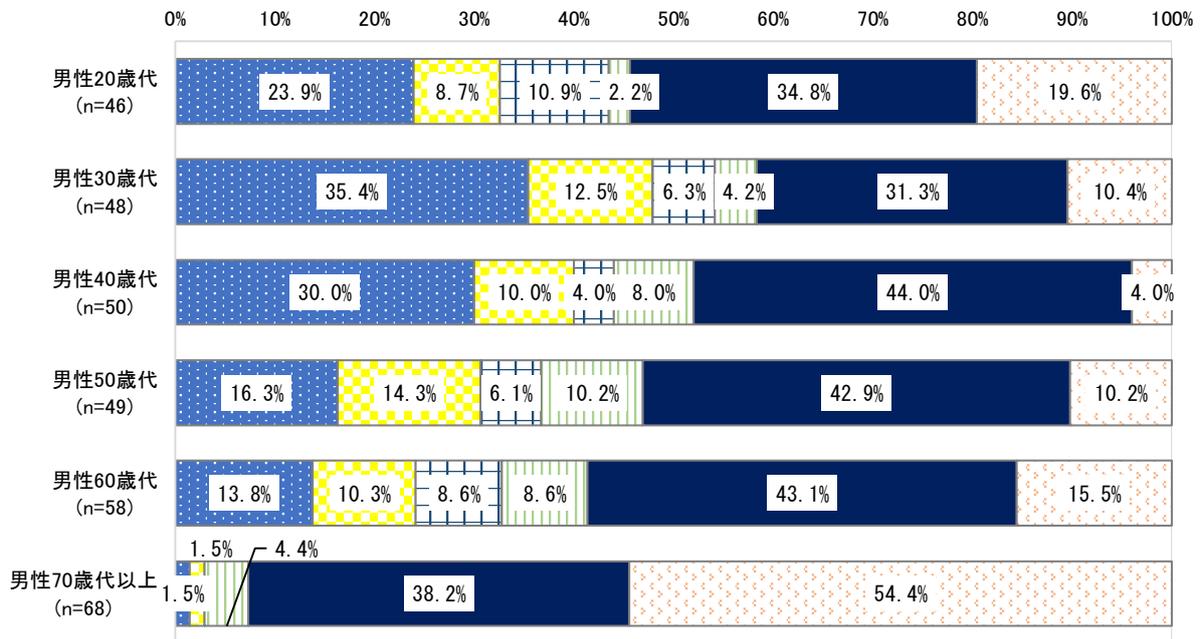
### 【職場】

職場での受動喫煙の状況は、「ほぼ毎日」は11.5%、「週に数回程度」は9.1%、「週に1回程度」は4.0%、「月に1回程度」は5.5%と、合わせて30.1%が『受動喫煙の機会がある』としている。「全くなかった」と「行かなかった」は、合わせて70.0%。

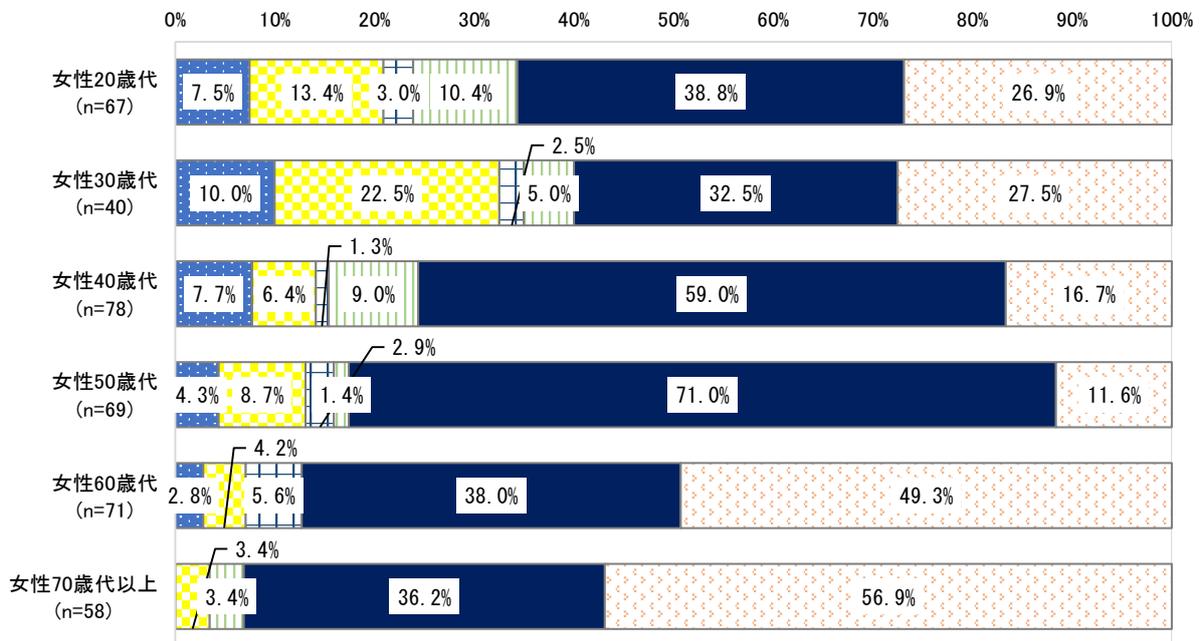
性別でみると、男性は「ほぼ毎日」が18.8%と女性を13.6ポイント上回る。



年齢区分別でみると、『受動喫煙の機会がある（「ほぼ毎日」＋「週に数回程度」＋「週に1回程度」＋「月に1回程度」）』は、男性の30歳代・40歳代は5割を超え、男性の20歳代・50歳代・60歳代は4割、女性の20歳代・30歳代は3割を超える。

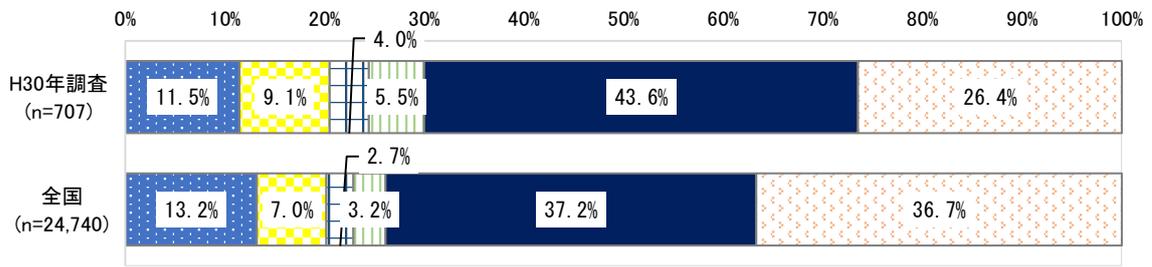


■ ほぼ毎日 ■ 週に数回程度 ■ 週に1回程度 ■ 月に1回程度 ■ 全くなかった ■ 行かなかった



■ ほぼ毎日 ■ 週に数回程度 ■ 週に1回程度 ■ 月に1回程度 ■ 全くなかった ■ 行かなかった

『受動喫煙の機会がある（「ほぼ毎日」＋「週に数回程度」＋「週に1回程度」＋「月に1回程度」）』は、全国と比較して、本市が4ポイント上回る。



■ ほぼ毎日 ■ 週に数回程度 ■ 週に1回程度 ■ 月に1回程度 ■ 全くなかった ■ 行かなかった

※全国データは厚生労働省「国民健康・栄養調査」(H28) から

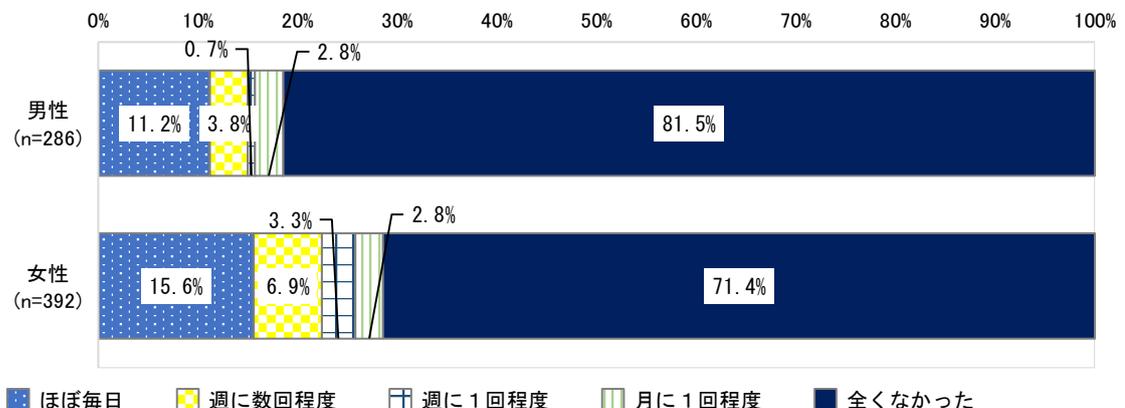
### 【家庭】

家庭での受動喫煙の状況は、「ほぼ毎日」は13.9%、「週に数回程度」は5.6%、「週に1回程度」は2.2%、「月に1回程度」は2.8%と、合わせて24.5%が『受動喫煙の機会がある』としている。「全くなかった」は75.5%。

性別でみると、女性の28.6%が『受動喫煙の機会がある（「ほぼ毎日」＋「週に数回程度」＋「週に1回程度」＋「月に1回程度」）』とし、男性を10.1ポイント上回る。

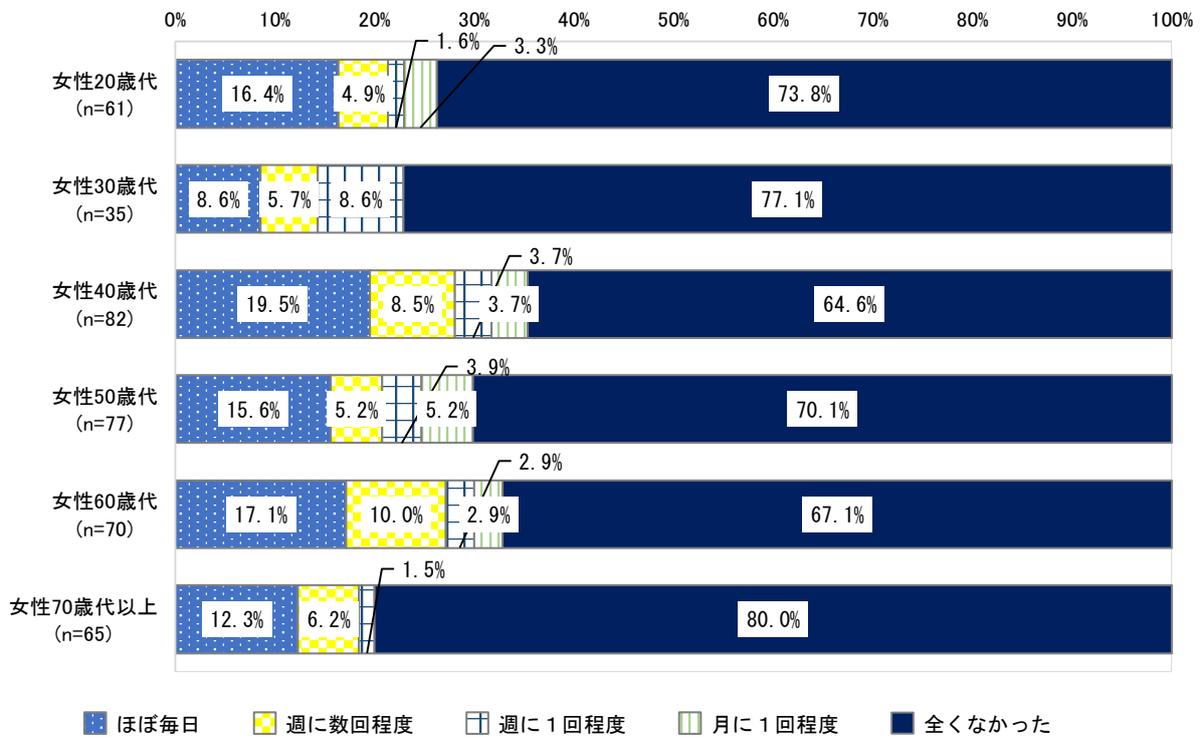
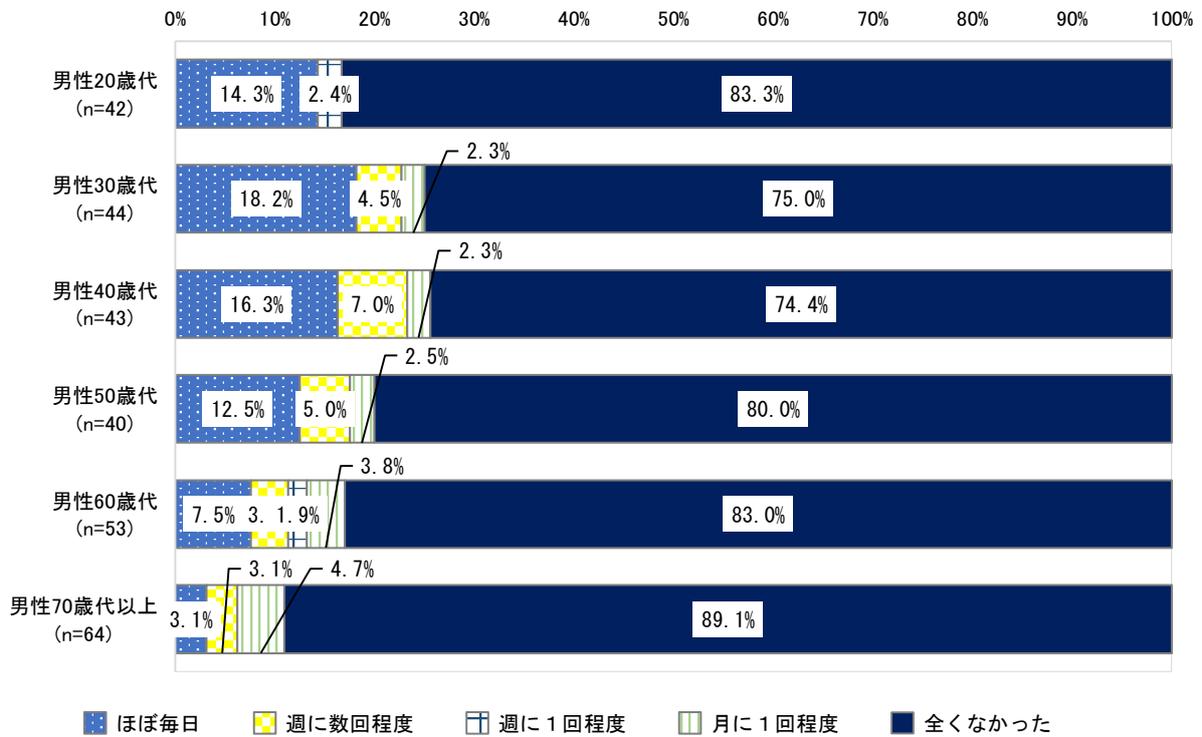


■ ほぼ毎日 ■ 週に数回程度 ■ 週に1回程度 ■ 月に1回程度 ■ 全くなかった

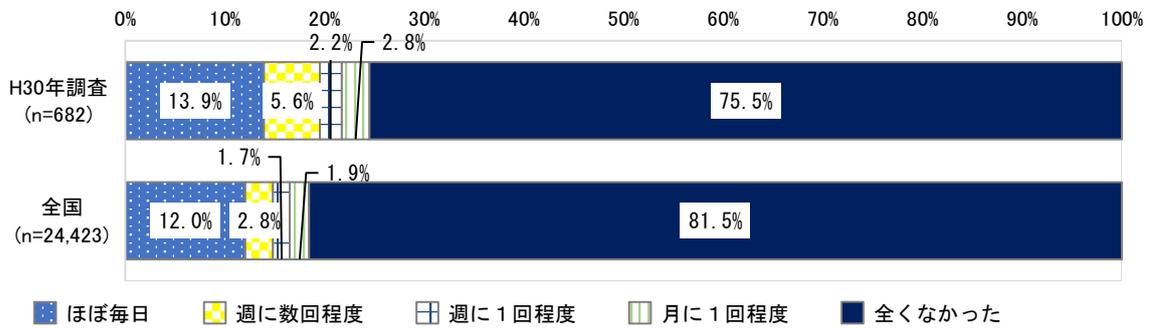


■ ほぼ毎日 ■ 週に数回程度 ■ 週に1回程度 ■ 月に1回程度 ■ 全くなかった

年齢区分別でみると、『受動喫煙の機会がある（「ほぼ毎日」＋「週に数回程度」＋「週に1回程度」＋「月に1回程度」）』は、男性の30～40歳代、女性の20～60歳代は2割を超える。



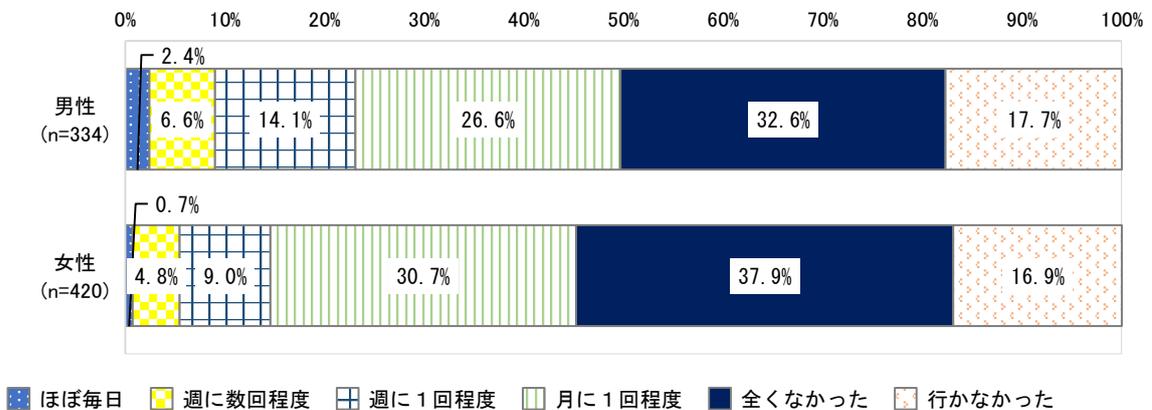
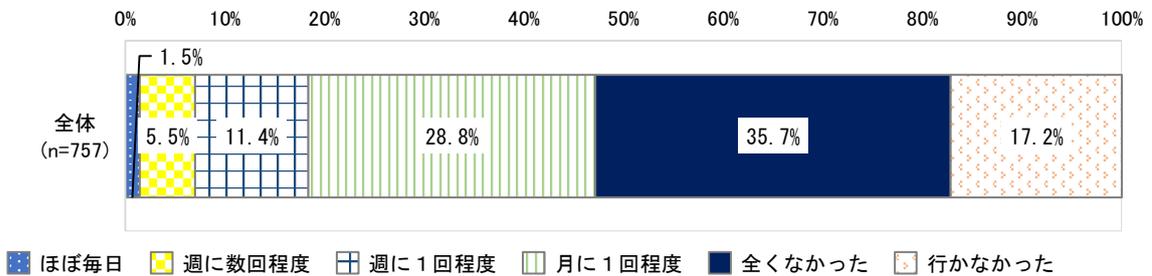
『受動喫煙の機会がある（「ほぼ毎日」＋「週に数回程度」＋「週に1回程度」＋「月に1回程度」）』は、全国と比較して、本市が6.1ポイント上回る。



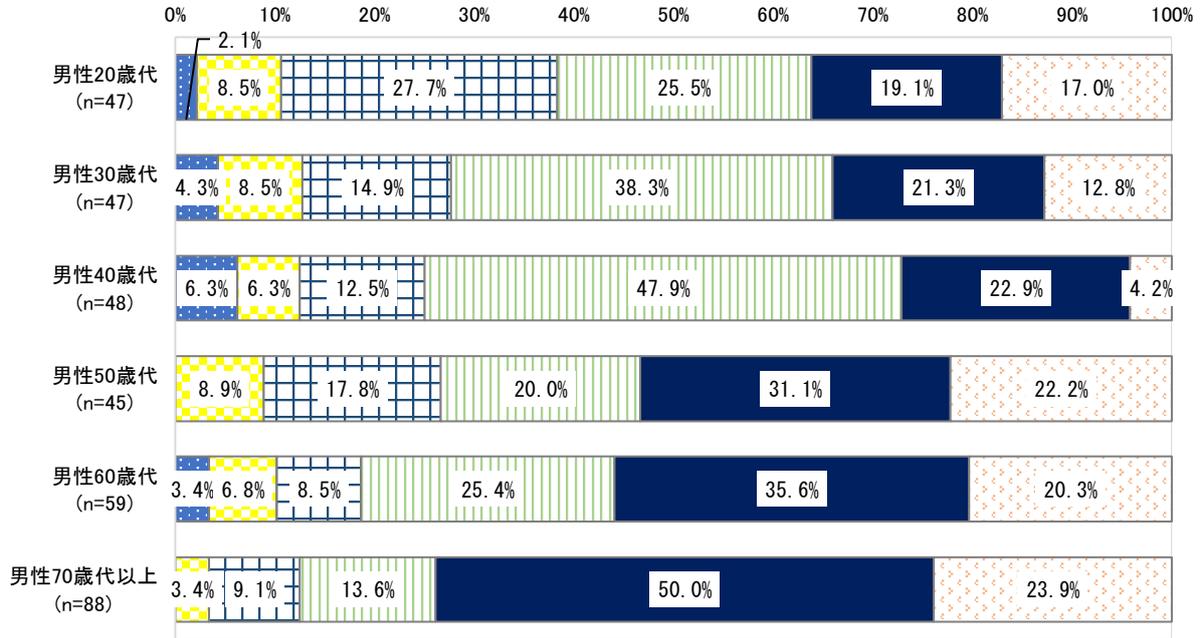
※全国データは厚生労働省「国民健康・栄養調査」(H28) から

### 【飲食店】

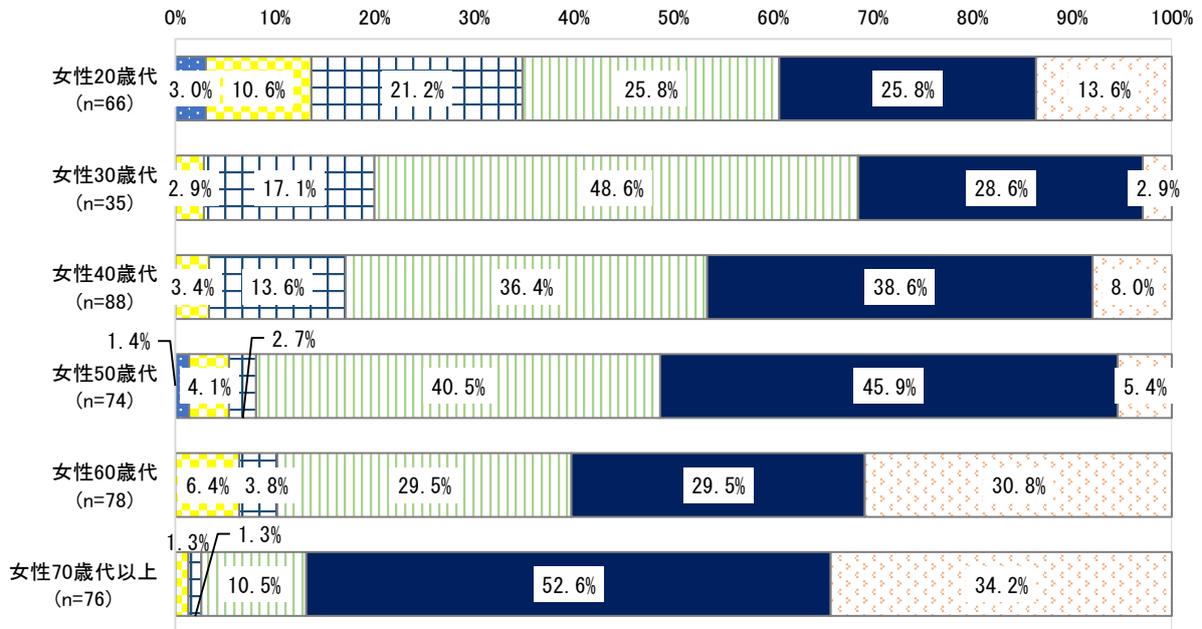
飲食店での受動喫煙の状況は、「ほぼ毎日」は1.5%、「週に数回程度」は5.5%、「週に1回程度」は11.4%、「月に1回程度」は28.8%と、合わせて47.2%が『受動喫煙の機会がある』としている。「全くなかった」と「行かなかった」は、合わせて52.9%。



年齢区分別でみると、『受動喫煙の機会がある（「ほぼ毎日」＋「週に数回程度」＋「週に1回程度」＋「月に1回程度」）』は、男性の40歳代以下では6割を超え、女性の40歳代以下では5割を超える。

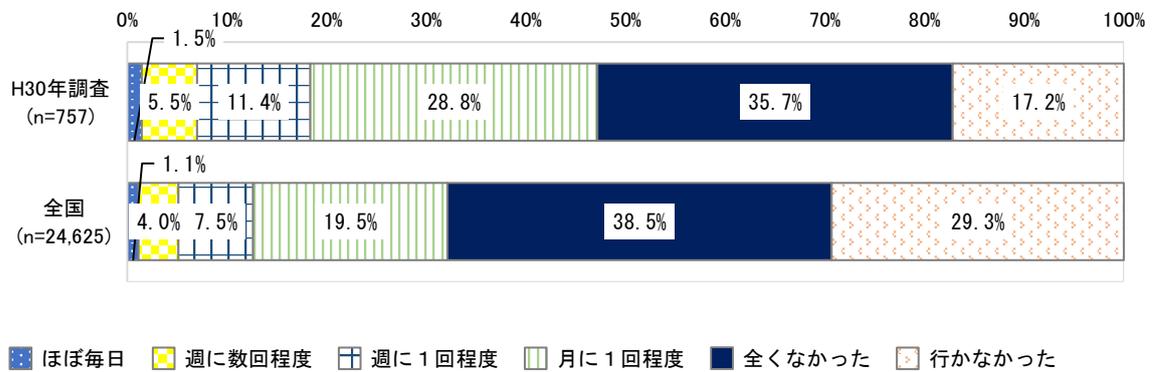


■ ほぼ毎日 ■ 週に数回程度 ■ 週に1回程度 ■ 月に1回程度 ■ 全くなかった ■ 行かなかった



■ ほぼ毎日 ■ 週に数回程度 ■ 週に1回程度 ■ 月に1回程度 ■ 全くなかった ■ 行かなかった

『受動喫煙の機会がある（「ほぼ毎日」＋「週に数回程度」＋「週に1回程度」＋「月に1回程度」）』は、全国と比較して、本市が15.1ポイント上回る。



※全国データは厚生労働省「国民健康・栄養調査」(H28)から

## 9 60歳で24歯以上の自分の歯を有する者の増加

60歳で24歯以上の歯を有する人の割合は76.1%となり、前回調査と比較して、7.9ポイント増加。目標も6.1ポイント上回る。

項目	(H23年・基準)	(H27年・参考値)	(H30年・実績)	(H34年・目標)
○60歳で24歯以上の自分の歯を有する者の増加	63.9%	68.2%	76.1%	70%

※60歳～64歳の回答者で、歯の本数を24本以上と回答した人の割合

### <調査結果>

#### ■現在の歯の本数 〈15歳以上 (221ページを参照)〉

## 10 80歳で20歯以上の自分の歯を有する者(8020達成)の増加

80歳で20歯以上の歯を有する人の割合は、62.0%となり、前回調査と比較して、7.5ポイント増加し、目標も2ポイント上回る。

項目	(H23年・基準)	(H27年・参考値)	(H30年・参考値)	(H34年・目標)
○80歳で20歯以上の自分の歯を有する者(8020達成)の増加	38.3%	54.5%	62.0%	60%

※75歳～84歳の回答者で、歯の本数を20本以上と回答した人の割合

(国の調査対象年齢75～84歳)

### <調査結果>

#### ■現在の歯の本数 〈15歳以上 (221ページを参照)〉

## 1.1 健康まちづくり活動の認知

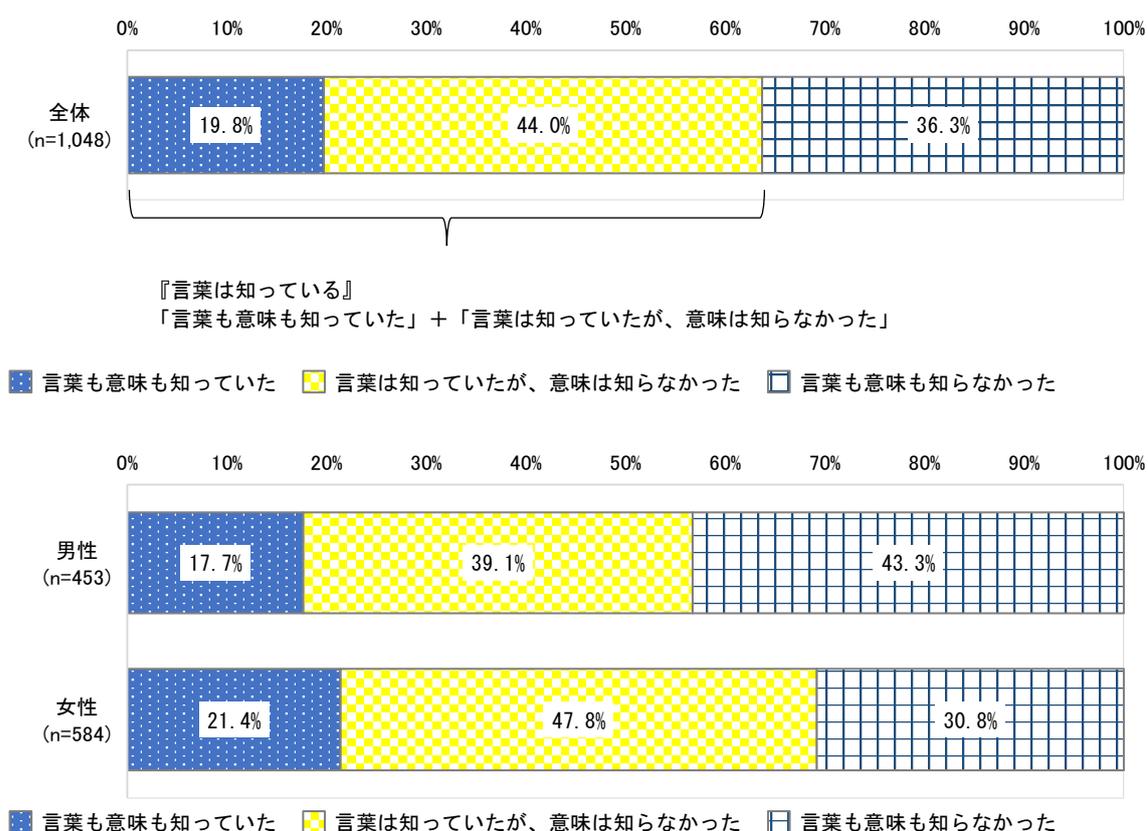
「健康まちづくり」の認知度について、「言葉も意味も知っていた」「言葉は知っていたが、意味は知らなかった」は6割に達したが、「言葉も意味も知っていた」は約2割に留まった。引き続き、「健康まちづくり」の更なる周知に努め、住民の誰もが楽しみながら積極的に健康づくりに参加できる活動の取組を推進する必要がある。

### <調査結果>

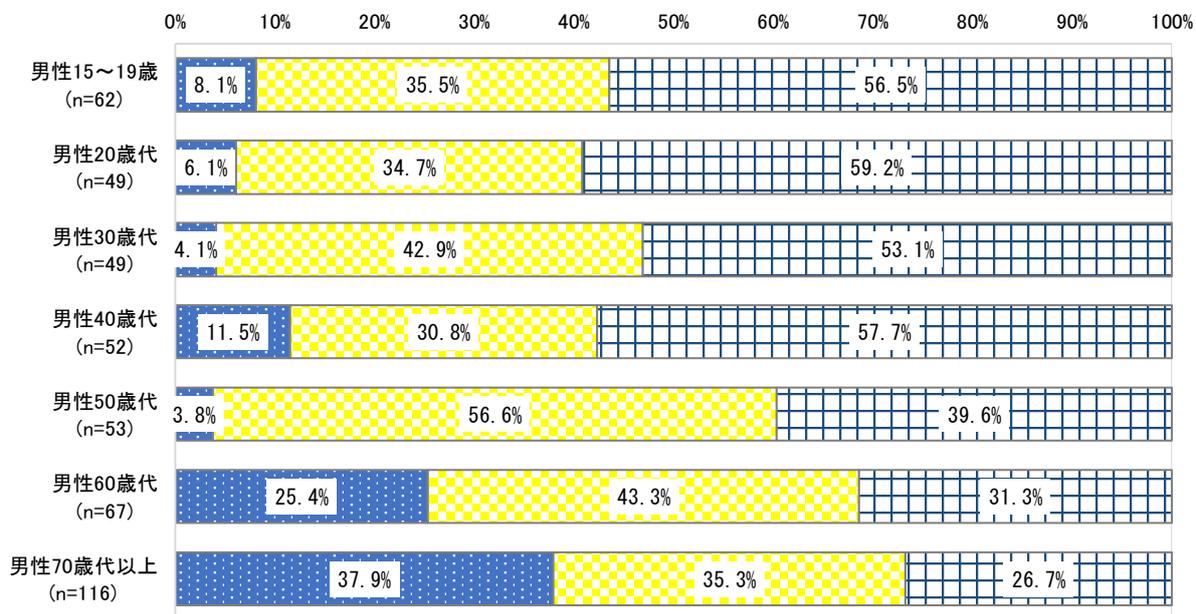
#### ■「健康まちづくり」の認知度 〈15歳以上〉

「健康まちづくり」の認知度について、「言葉も意味も知っていた」は19.8%、「言葉は知っていたが、意味は知らなかった」は44.0%と、合わせて63.8%が『言葉は知っている』としている。

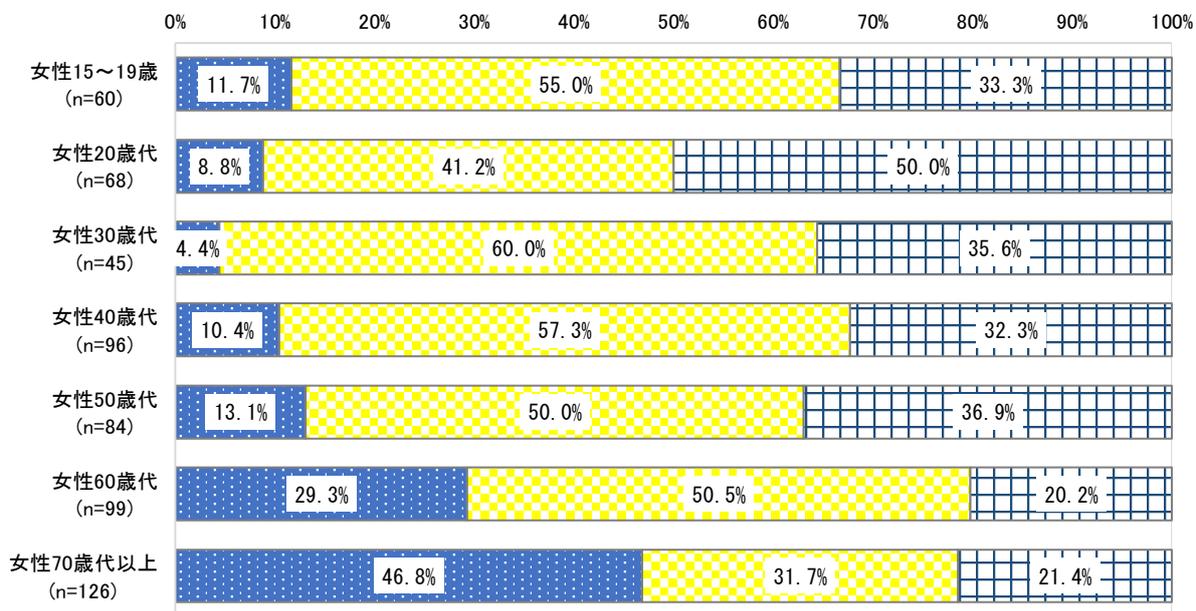
性別で見ると、『言葉は知っている（「言葉も意味も知っていた」＋「言葉は知っていたが、意味は知らなかった」）』の割合は、男性が56.8%、女性が69.2%で、女性が12.4ポイント上回る。



年齢区分別でみると、『言葉は知っている（「言葉も意味も知っていた」＋「言葉は知っていたが、意味は知らなかった」）の割合は、男女ともに20歳代が最も低い。男性の70歳代以上、女性の60歳代以上においては、7割を超える。



■ 言葉も意味も知っていた ■ 言葉は知っていたが、意味は知らなかった ■ 言葉も意味も知らなかった

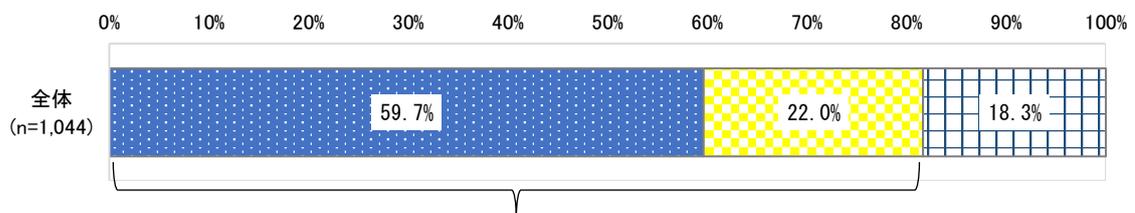


■ 言葉も意味も知っていた ■ 言葉は知っていたが、意味は知らなかった ■ 言葉も意味も知らなかった

## ■「健康寿命」の認知度 〈15歳以上〉

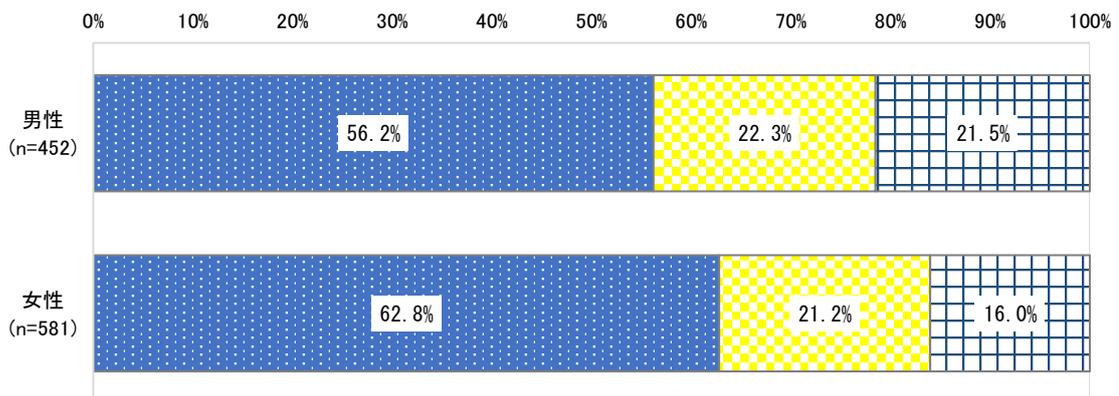
「健康寿命」の認知度について、「言葉も意味も知っていた」は59.7%、「言葉は知っていたが、意味は知らなかった」は22.0%と、合わせて81.7%が『言葉は知っている』としている。

性別で見ると、『言葉は知っている（「言葉も意味も知っていた」＋「言葉は知っていたが、意味は知らなかった」）』の割合は、男性が78.5%、女性が84.0%で、女性が5.5ポイント上回る。



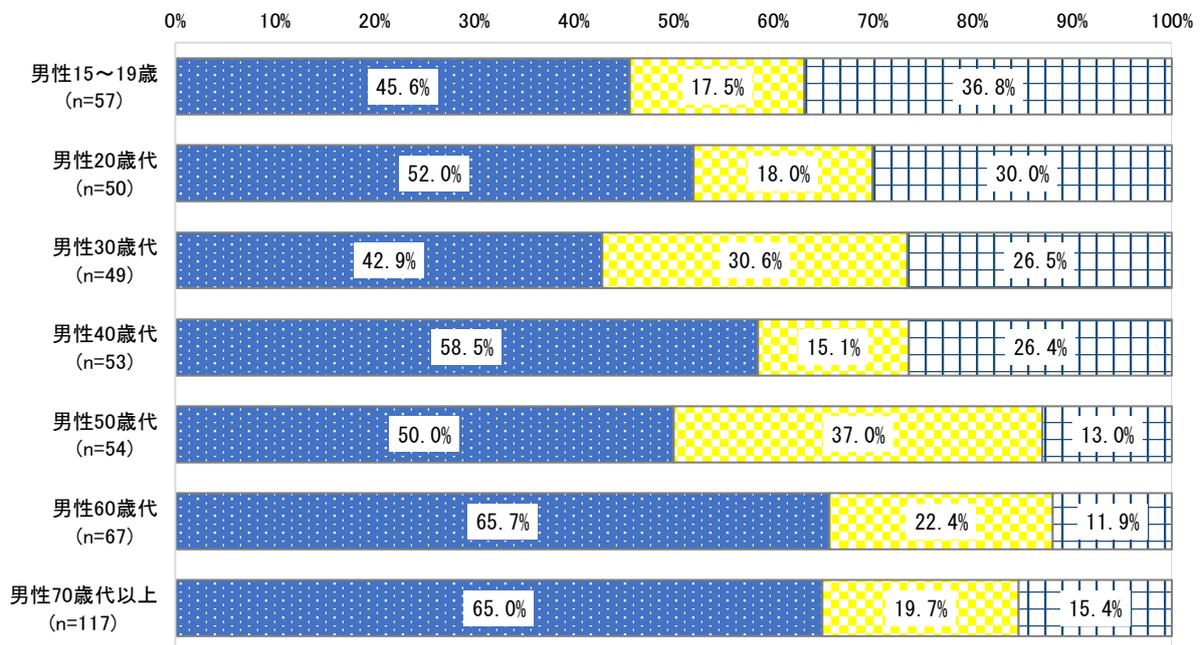
『言葉は知っている』  
「言葉も意味も知っていた」＋「言葉は知っていたが、意味は知らなかった」

■ 言葉も意味も知っていた ■ 言葉は知っていたが、意味は知らなかった ■ 言葉も意味も知らなかった

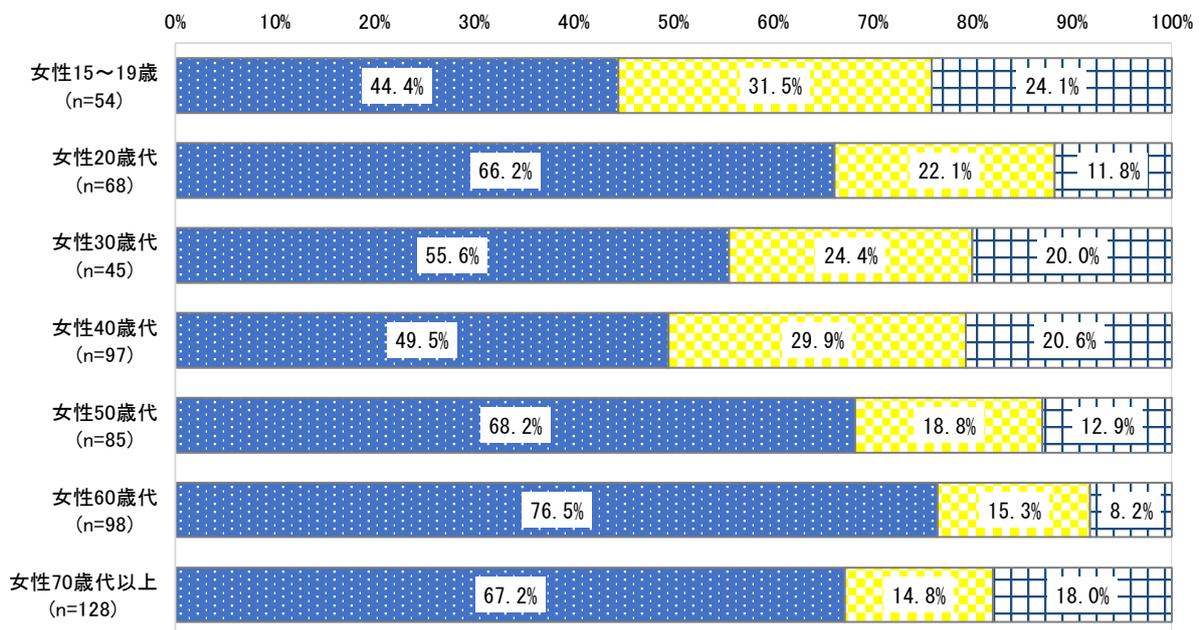


■ 言葉も意味も知っていた ■ 言葉は知っていたが、意味は知らなかった ■ 言葉も意味も知らなかった

年齢区分別でみると、『言葉は知っている（「言葉も意味も知っていた」＋「言葉は知っていたが、意味は知らなかった」）の割合は、男女ともに15～19歳代が最も低い。



■ 言葉も意味も知っていた ■ 言葉は知っていたが、意味は知らなかった □ 言葉も意味も知らなかった

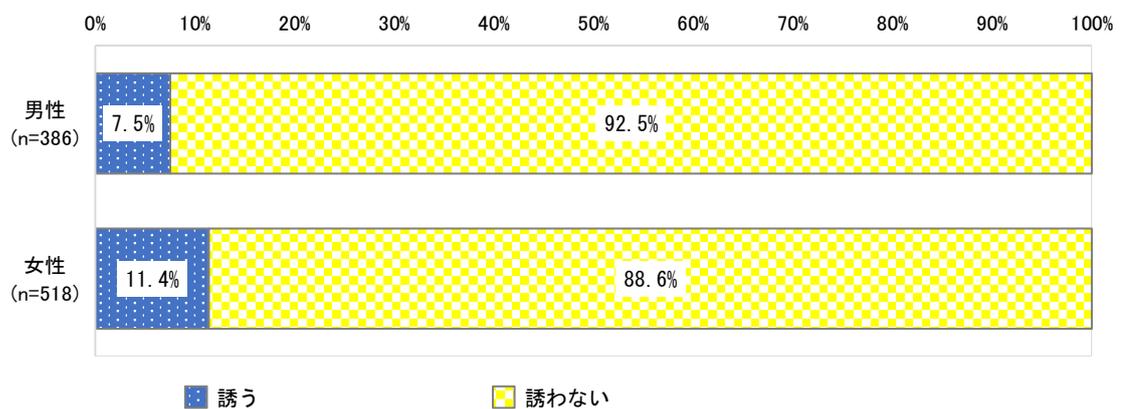
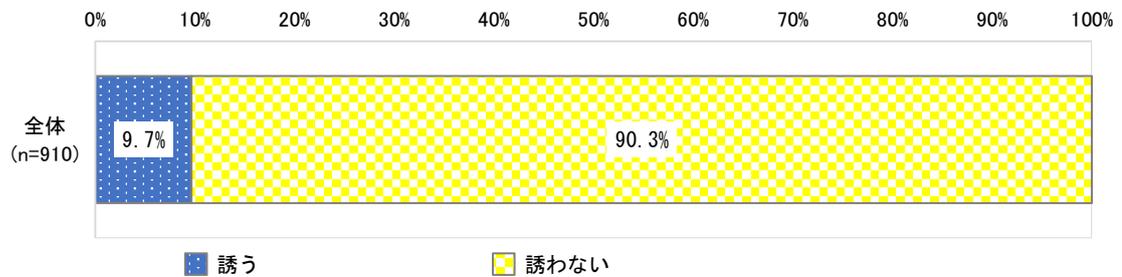


■ 言葉も意味も知っていた ■ 言葉は知っていたが、意味は知らなかった □ 言葉も意味も知らなかった

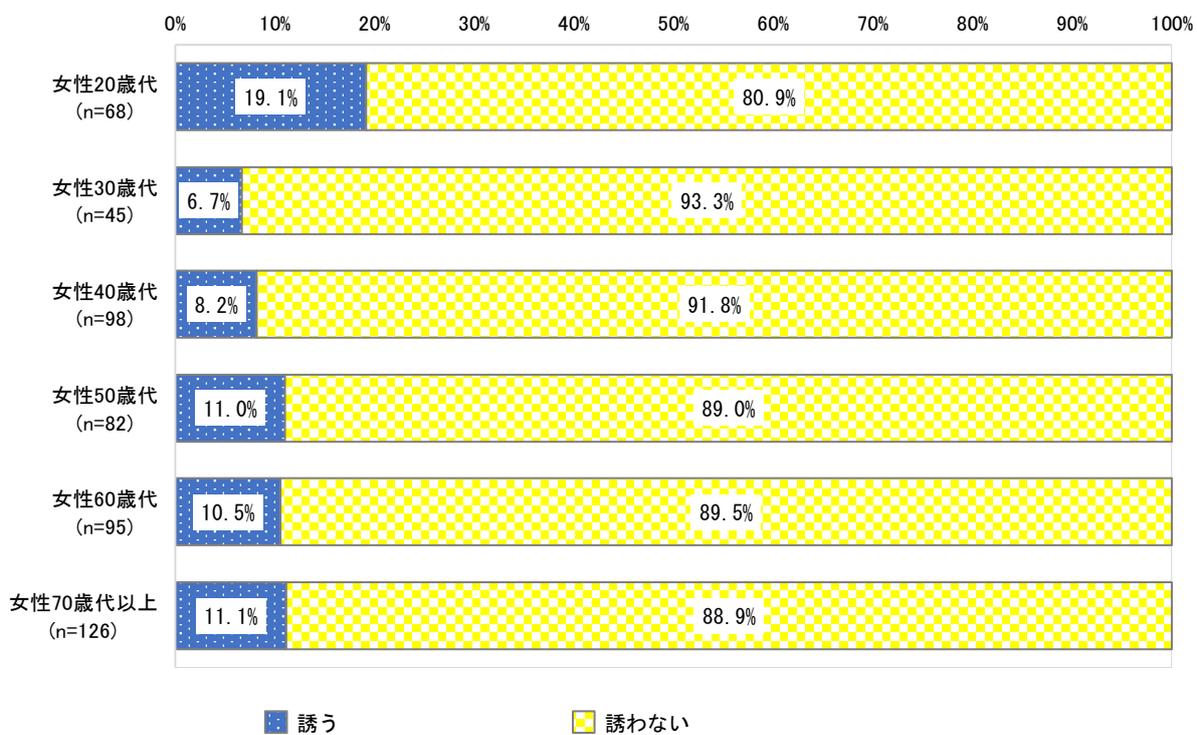
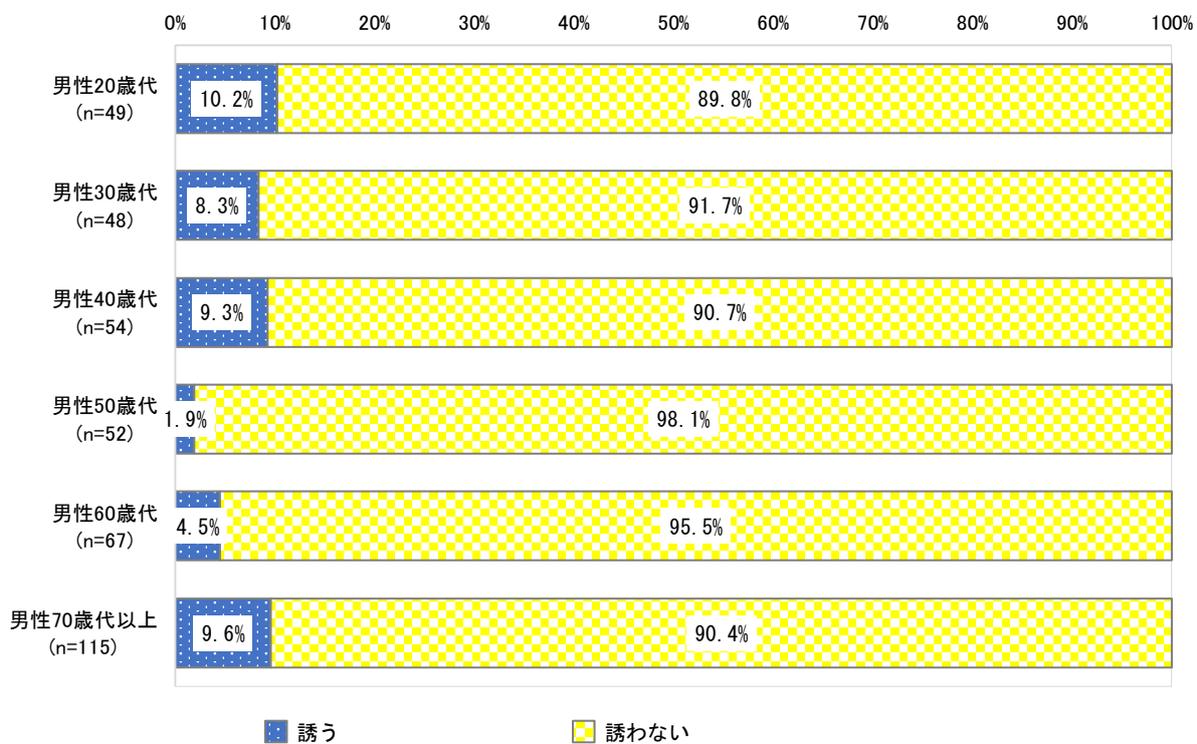
## ■「特定健診」や「がん検診」等受診の際の誘い合わせの有無

「特定健診」や「がん検診」等受診の際の誘い合わせの有無について、「誘う」が9.7%、「誘わない」が90.3%。

性別でみると、「誘う」では、男性が7.5%、女性が11.4%と女性が3.9ポイント上回る。



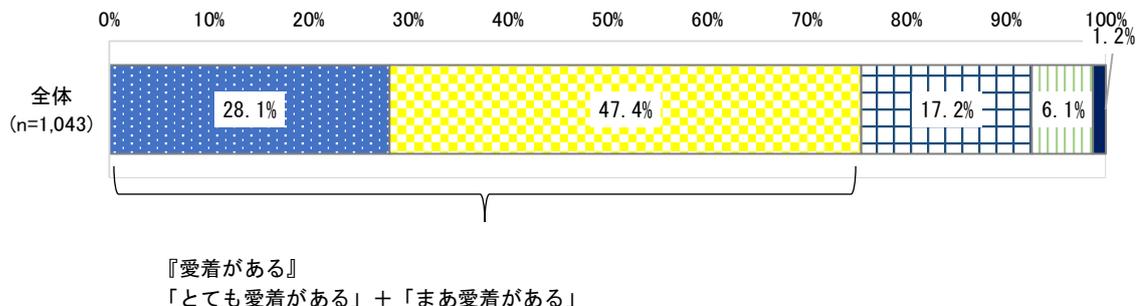
年齢区分別でみると、「誘う」は、男性では20歳代が10.2%で最も高く、次いで、70歳代以上が9.6%、40歳代が9.3%の順。女性では20歳代が19.1%で最も高く、次いで、70歳代以上が11.1%、50歳代が11.0%の順。



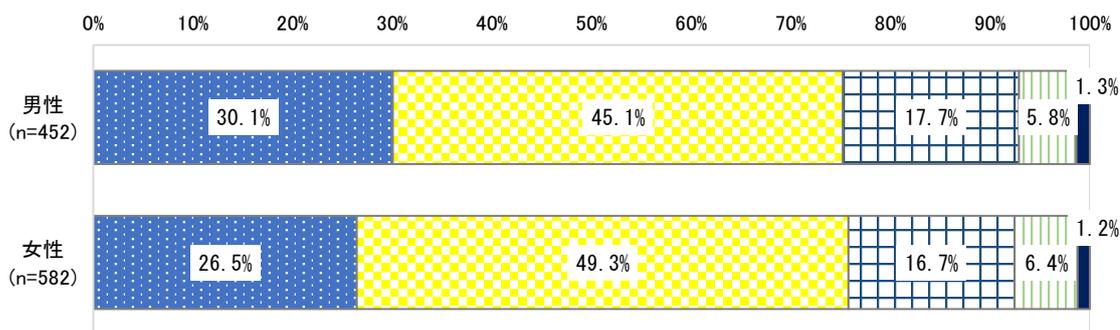
## ■住んでいる地域への愛着

住んでいる地域への愛着については、「とても愛着がある」が28.1%、「まあ愛着がある」が47.4%と、合わせて75.5%が『愛着がある』としている。

性別でみると、『愛着がある（「とても愛着がある」＋「まあ愛着がある」）』の割合は、男性が75.2%、女性が75.8%となっている。

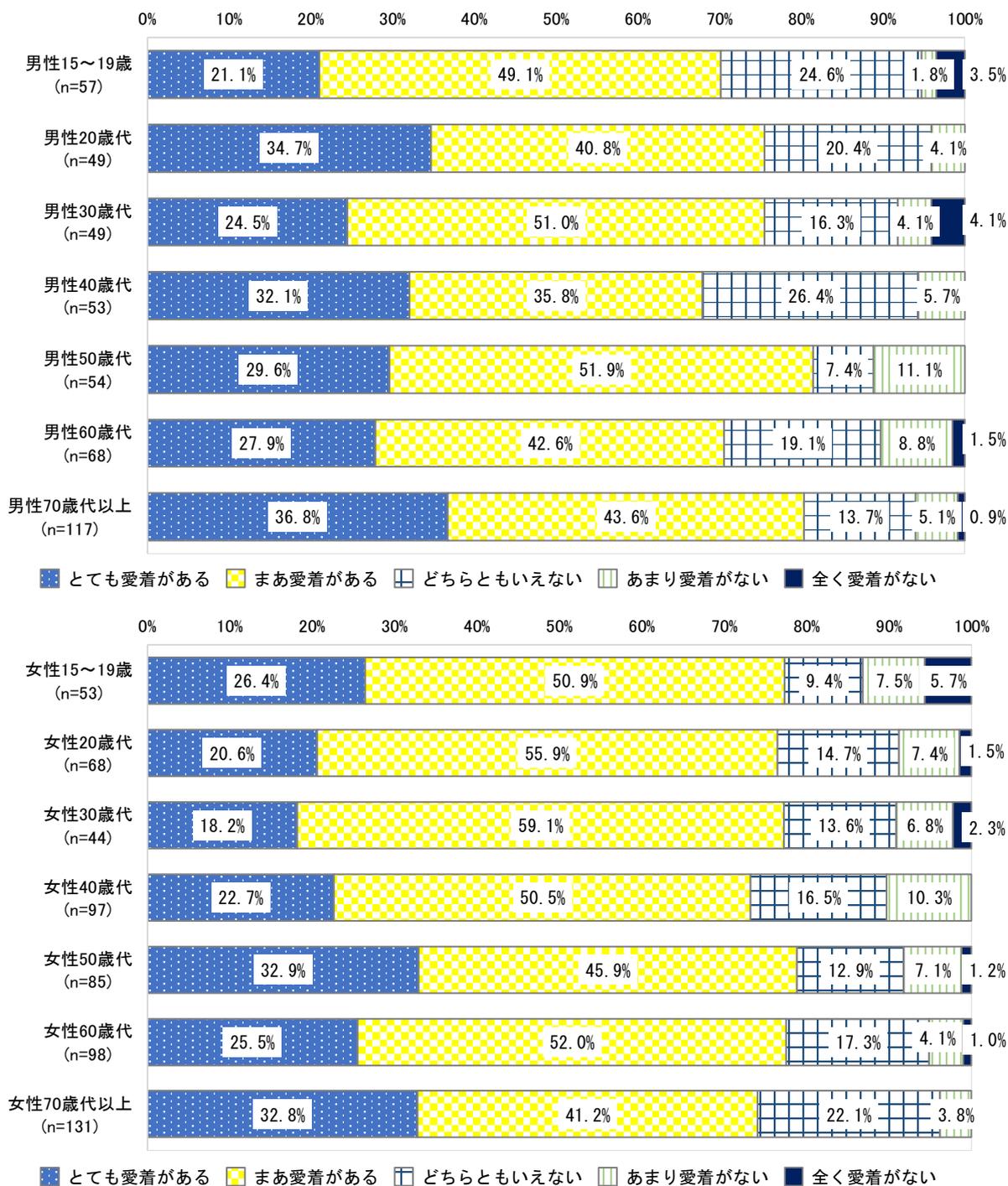


■ とても愛着がある ■ まあ愛着がある ■ どちらともいえない ■ あまり愛着がない ■ 全く愛着がない



■ とても愛着がある ■ まあ愛着がある ■ どちらともいえない ■ あまり愛着がない ■ 全く愛着がない

年齢区分別でみると、『愛着がある（「とても愛着がある」＋「まあ愛着がある」）』の割合は、男性では50歳代が81.5%で最も高く、次いで、70歳代以上が80.4%、20歳代・30歳代が75.5%の順。女性でも50歳代が78.8%で最も高く、次いで、60歳代が77.5%、15～19歳が77.3%の順。





## V 調査結果 -食の安全・安心-



## 1 生産・流通・消費の各段階における食品の安全性確保

生産から消費に至るまでのフードチェーンの高度化・複雑化や輸入食品の増加等食のグローバル化が進む中、1) 生産段階における食品の安全性の確保、2) 製造、加工、流通・販売の各段階における食品の安全性の確保、3) 食品などの検査、4) 消費段階における食品の安全性の確保など全般においてほぼ計画策定時（H24）より改善されているが、目標値には到達していない。

### 1) 生産段階における食品の安全性の確保

「残留農薬」に不安を感じている市民の割合は減少しているが目標値には到達していない。不安を取り除くためには、引き続き、生産段階での食品の安全性の確保を図る取組やその周知を進めることが必要である。

#### (1) 「残留農薬」について不安を感じる市民の割合

「残留農薬」について不安を感じる市民の割合は 48.6%。H24 年と比較すると 7.1 ポイント減少し、目標値に近づいたが到達はしていない。

項 目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(H30年・目標)
○「残留農薬」について不安を感じる市民の割合	55.7%	44.4%	48.6%	※40% (50%)

※15歳以上の回答者で、「残留農薬」を選択した人の割合

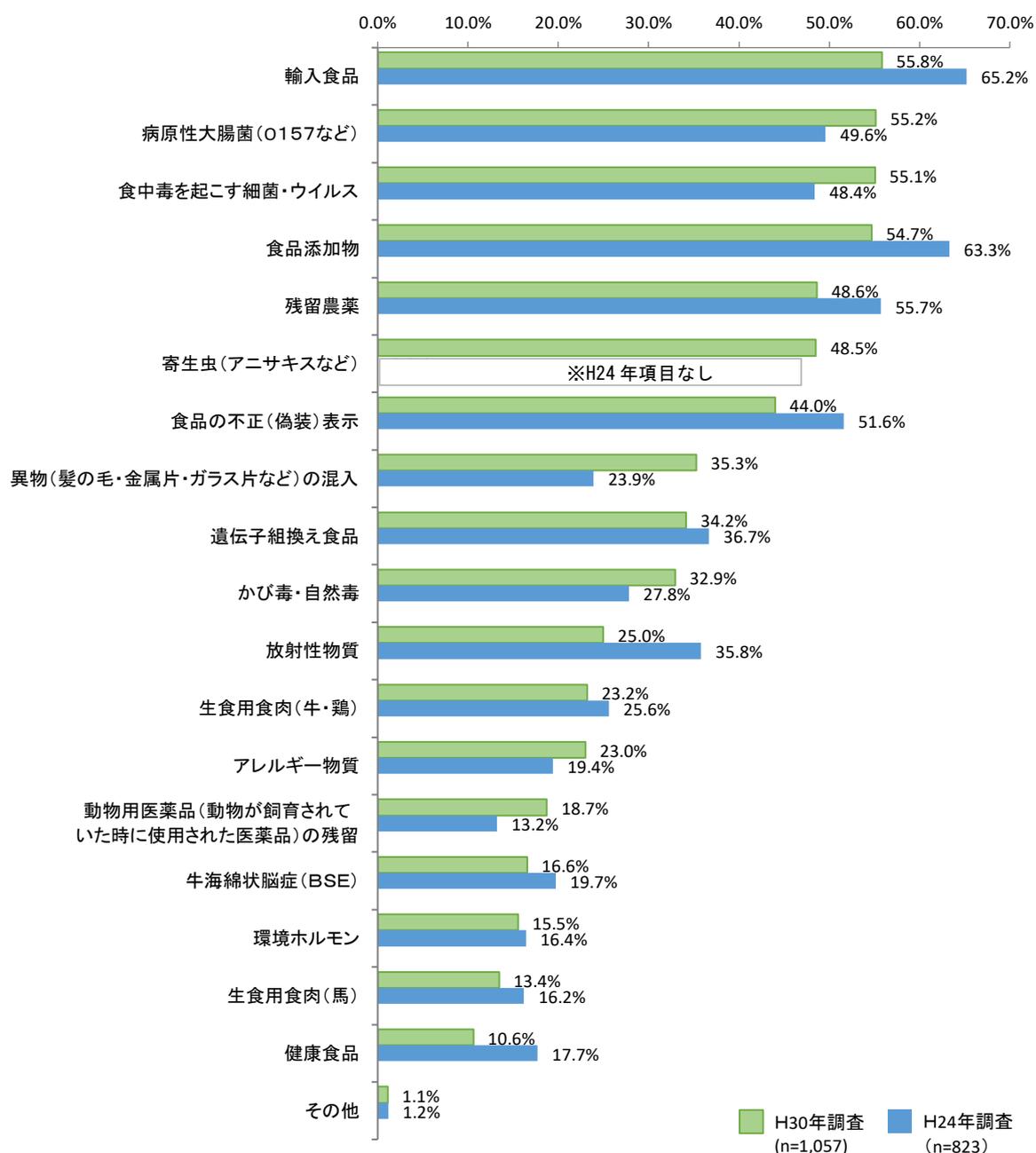
※H27年中間評価時に目標値を50%→40%へ上方修正した

## <調査結果>

### ■食の安全性に不安を感じるもの 〈15歳以上〉

食の安全性に不安を感じるものは、「輸入食品」を挙げた人が最も多く 55.8%、次いで「病原性大腸菌（O157 など）」が 55.2%、「食中毒を起こす細菌・ウイルス」が 55.1%、「食品添加物」が 54.7%となり、5割を超える。さらに「残留農薬」「寄生虫（アニサキスなど）」「食品の不正（偽装）表示」は4割を超え、「異物（髪の毛・金属片・ガラス片など）の混入」「遺伝子組換え食品」「かび毒・自然毒」は3割を超える。

平成 24 年調査と比較して、「病原性大腸菌（O157 など）」が 5.6 ポイント、「食中毒を起こす細菌・ウイルス」が 6.7 ポイント、「異物（髪の毛・金属片・ガラス片など）の混入」が 11.4 ポイントと上昇。異物や細菌感染に対する不安感が目立つ。



## ■残留農薬、輸入食品について不安を感じると回答した方の不安を感じるもの

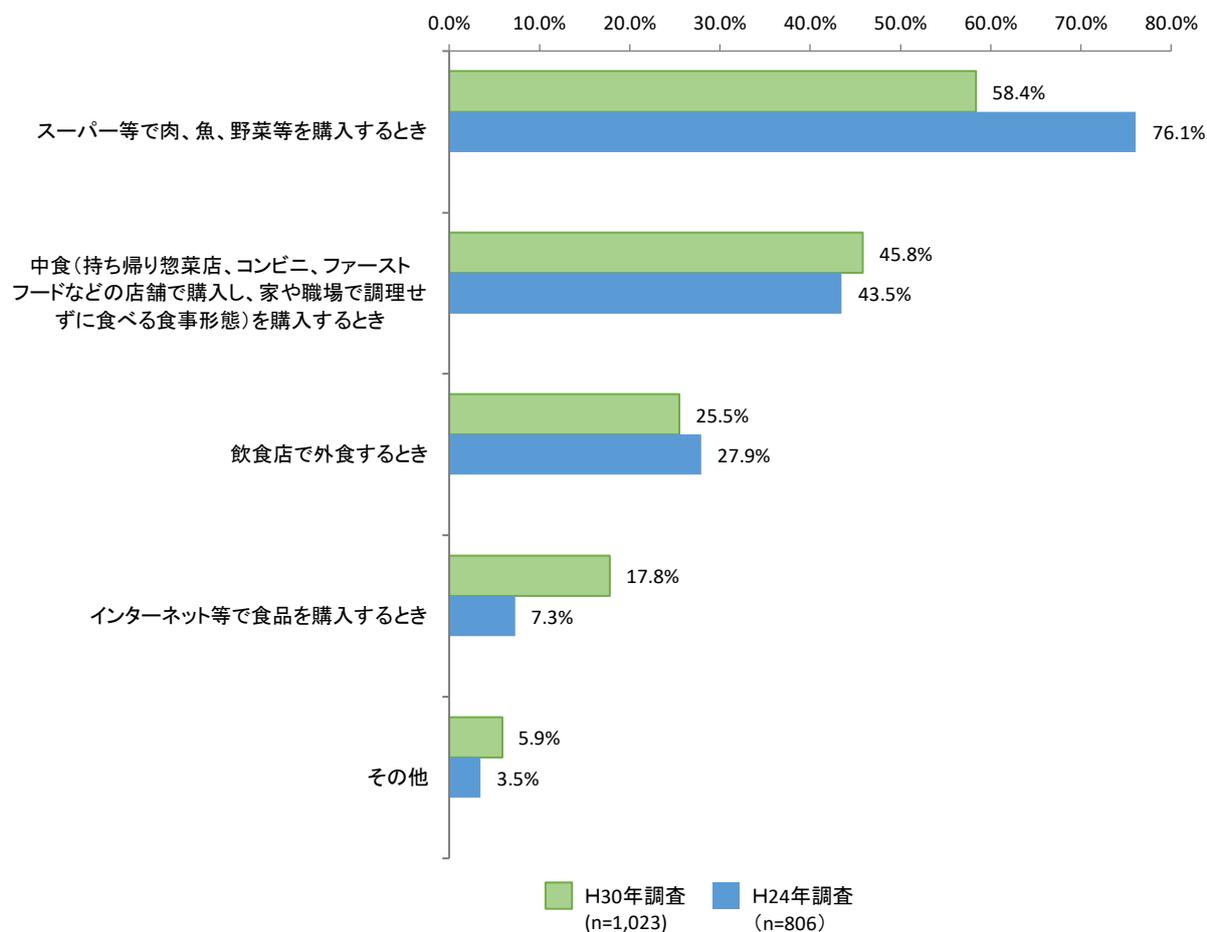
「残留農薬」、「輸入食品」について、不安を感じている方が、そのほかに不安を感じている項目は、「食品添加物」の割合が、両者とも最も大きい。

項目	全体	残留農薬	輸入食品
サンプル数	1,057	514	590
残留農薬	48.6%	-	60.8%
食品添加物	54.7%	71.2%	66.1%
輸入食品	55.8%	69.8%	-
病原性大腸菌(O 157など)	55.2%	59.7%	55.3%
食中毒を起こす細菌・ウイルス	55.1%	59.1%	57.3%
寄生虫(アニサキスなど)	48.5%	57.4%	53.1%
食品の不正(偽装)表示	44.0%	55.4%	53.4%
遺伝子組換え食品	34.2%	50.4%	44.7%
異物(髪の毛・金属片・ガラス片など)の混入	35.3%	41.1%	37.1%
かび毒・自然毒	32.9%	40.5%	35.6%
放射性物質	25.0%	37.2%	32.7%
動物用医薬品の残留	18.7%	34.4%	26.1%
生食用食肉(牛・鶏)	23.2%	29.6%	30.5%
アレルギー物質	23.0%	28.4%	25.6%
牛海綿状脳症(BSE)	16.6%	25.3%	21.7%
環境ホルモン	15.5%	24.7%	19.7%
生食用食肉(馬)	13.4%	18.9%	18.0%
健康食品	10.6%	14.6%	15.4%
その他	1.1%	1.0%	0.3%

## ■食品の安全性について不安を感じる時 〔15歳以上〕

食品の安全性について不安を感じる時は、「スーパー等で肉、魚、野菜等を購入するとき」が58.4%で最も高く、次いで、「中食を購入するとき」が45.8%、「飲食店で外食するとき」が25.5%、「インターネット等で食品を購入するとき」が17.8%の順。

平成24年調査と比較して、「スーパー等で肉、魚、野菜等を購入するとき」が17.7ポイント低下。一方、「インターネット等で食品を購入するとき」は10.5ポイント上昇。



## 2) 製造、加工、流通・販売の各段階における食品の安全性の確保

「食品添加物」、「食品の不正（偽装）表示」、「輸入食品」について不安を感じる市民の割合は、いずれも H24 年比で減少しているが、「食品添加物」と「輸入食品」は H27 年中間評価時に H30 年度の目標値を 40%へ上方修正したため、目標値には到達しておらず、引き続き、製造、加工、流通・販売の各段階における食品の安全性を確保する取組に努める必要がある。

### (1) 「食品添加物」について不安を感じる市民の割合

「食品添加物」について不安を感じる市民の割合は 54.7%。H24 年に比べ 8.6 ポイント減少し、目標とは 14.7 ポイント差となった。

項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(H30年・目標)
○「食品添加物」について不安を感じる市民の割合	63.3%	54.1%	54.7%	※40% (50%)

※15 歳以上の回答者で「食品添加物」を選択した人の割合  
※誤差率 5%の水準（95%の信頼度）で有意差があると認められる（H24→H30 年）  
※H27 年中間評価時に目標値を 50%→40%へ上方修正した

### (2) 「食品の不正（偽装）表示」について不安を感じる市民の割合

「食品の不正（偽装）表示」について不安を感じる市民の割合は 44.0%。H24 年と比較して 7.6 ポイント減少し、目標とは 4.0 ポイント差となった。

項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(H30年・目標)
○「食品の不正（偽装）表示」について不安を感じる市民の割合	51.6%	55.3%	44.0%	40%

※15 歳以上の回答者で「食品の不正（偽装）表示」を選択した人の割合

### (3) 「輸入食品」について不安を感じる市民の割合

「輸入食品」について不安を感じる市民の割合は 55.8%。H24 年と比較して 9.4 ポイント減少し、目標と 15.8 ポイント差となった。

項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(H30年・目標)
○「輸入食品」について不安を感じる市民の割合	65.2%	56.6%	55.8%	※40% (50%)

※15 歳以上の回答者で「輸入食品」を選択した人の割合  
※誤差率 5%の水準（95%の信頼度）で有意差があると認められる（H24→H30 年）  
※H27 年中間評価時に目標値を 50%→40%へ上方修正した

### 3) 食品などの検査

「残留農薬」、「食品添加物」、「輸入食品」について不安を感じる市民の割合は平成 24 年調査に比べていずれも減少したが、H27 年中間評価時に H30 年度の目標値をいずれも 40%へ上方修正したため、目標値には達していない。また熊本市が食品の安全確保のための検査を実施していることを「知っている」市民の割合が平成 24 年調査に比べて大幅に減少しており、周知に努める必要がある。

- (1) 「残留農薬」について不安を感じる市民の割合（再掲）
- (2) 「食品添加物」について不安を感じる市民の割合（再掲）
- (3) 「輸入食品」について不安を感じる市民の割合（再掲）

### 4) 消費段階における食品の安全性の確保

「食品の安全性や食品衛生に関する活動に参加している市民の割合」は、H24 年比で減少し、「食品を購入するたびに表示を確認している市民の割合」も減少している。

- (1) 「残留農薬」について不安を感じる市民の割合（再掲）
- (2) 「食品添加物」について不安を感じる市民の割合（再掲）
- (3) 「食品の不正（偽装）表示」について不安を感じる市民の割合（再掲）
- (4) 「輸入食品」について不安を感じる市民の割合（再掲）

#### (5) 食品の安全性や食品衛生に関する活動に参加している市民の割合

食品の安全性や食品衛生に関する活動に『参加している』市民の割合は 7.5%で、H24 年に比べ 1.4 ポイント減少し、目標値を 7.5 ポイント下回る。

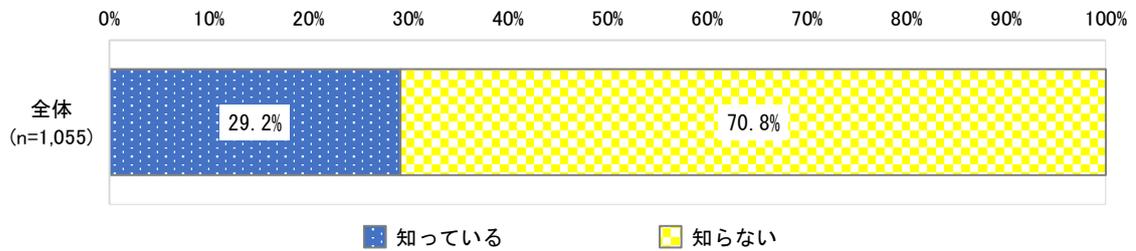
項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(H30年・目標)
○食品の安全性や食品衛生に関する活動に参加している市民の割合	8.9%	6.5%	7.5%	15%

※15 歳以上の「週に 1 回程度」+「月に 1～2 回程度」+「年に数回程度」を選択した人の割合

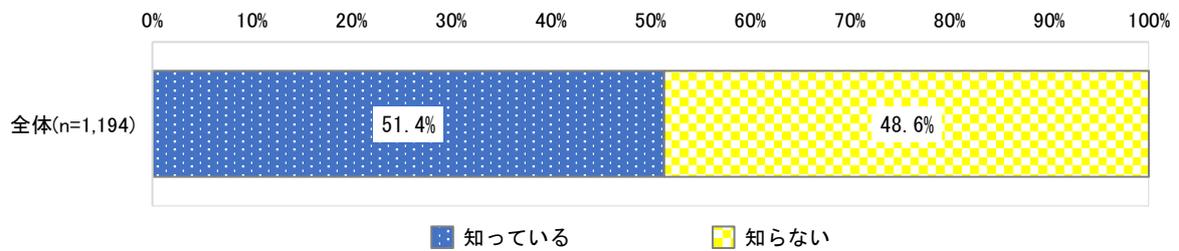
## ■熊本市が食品の安全確保のため検査を実施していることの認知度 〈15歳以上〉

熊本市が食品の安全確保のため検査を実施していることの認知度については、「知っている」は29.2%に留まる。平成24年調査と比較すると、大きく下回る。

### ■H30年調査



### ■H24年調査



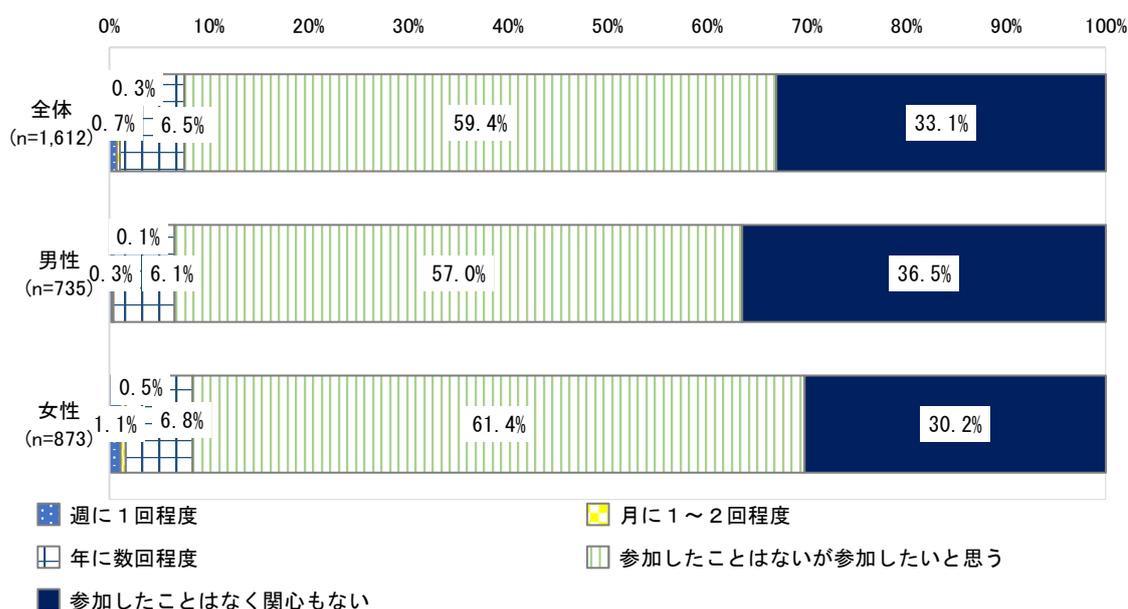
## <調査結果>

### ■食中毒予防講座など食品の安全性や食品衛生に関する活動への参加頻度と意向（0歳を除く）

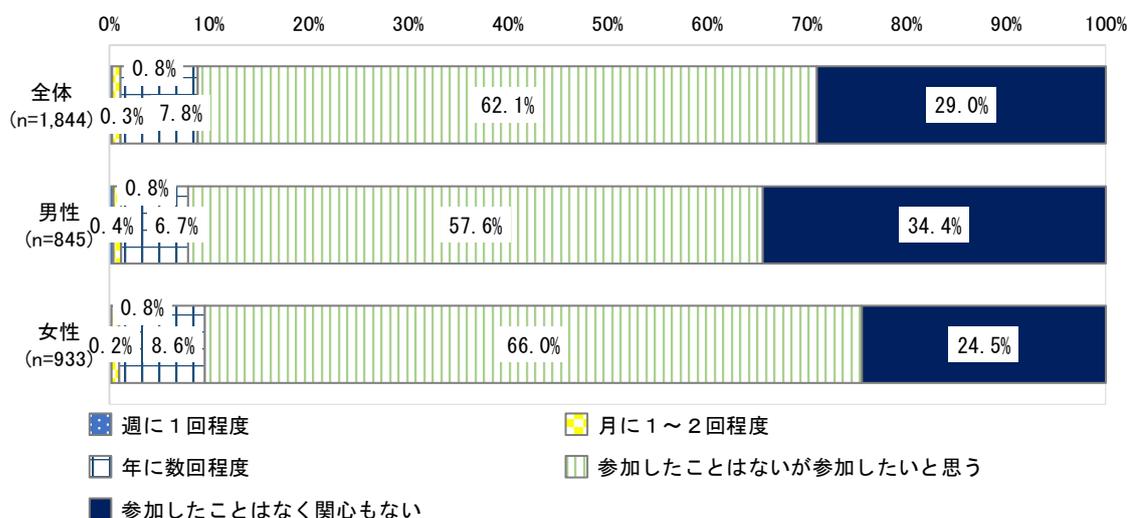
食中毒予防講座など食品の安全性や食品衛生に関する活動への参加頻度については、「週に1回程度」は0.7%、「月に1～2回程度」は0.3%、「年に数回程度」は6.5%と、合わせて7.5%が『参加している』としている。平成24年調査と比較して、1.4ポイント減少。

性別でみると、『参加している（「週に1回程度」+「月に1～2回程度」+「年に数回程度」）』の割合は、男性が6.5%、女性が8.4%で、女性が1.9ポイント上回る。

#### ■H30年調査

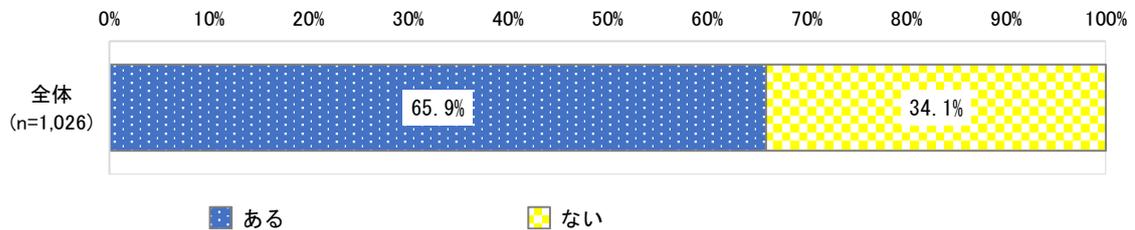


#### ■H24年調査



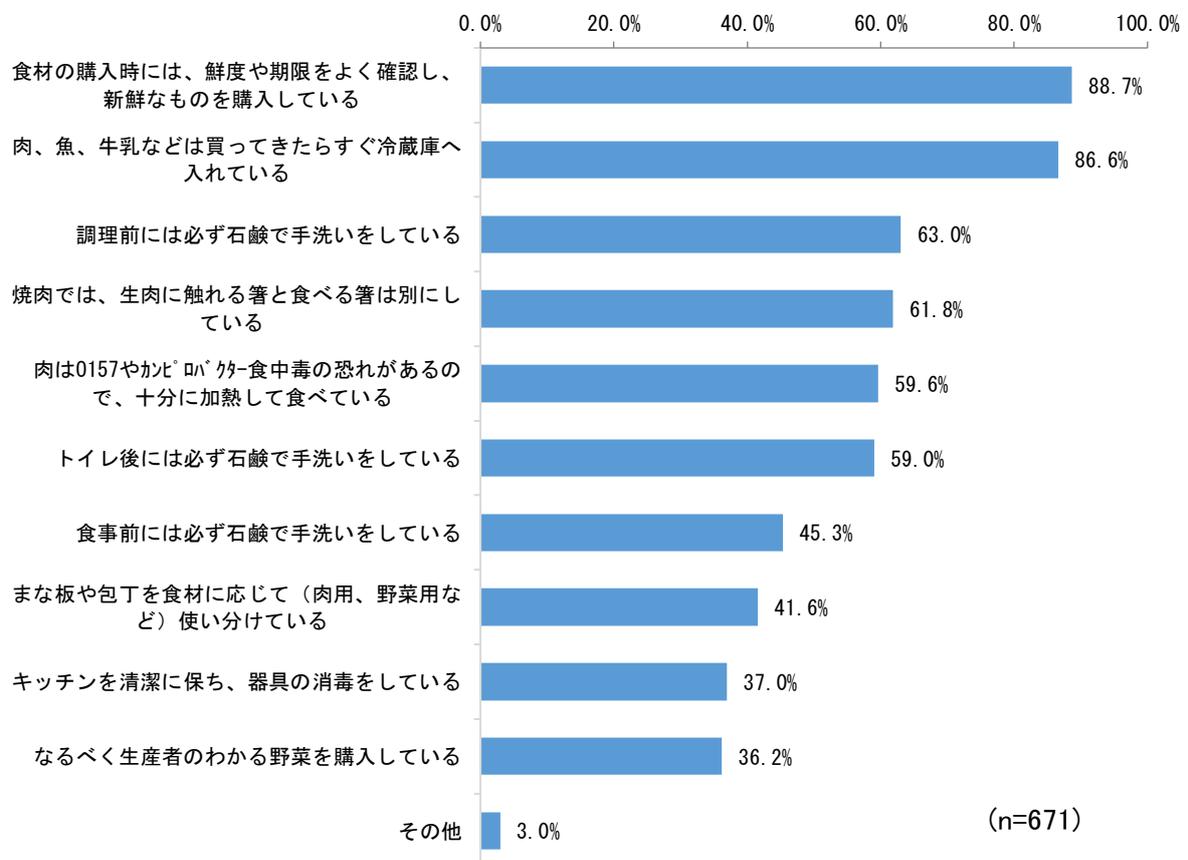
## ■食の安全性確保のために意識して実践していることがある市民の割合

食の安全性確保のために意識して実践していることがある市民の割合については、「ある」は65.9%となった。



## ■食品の安全性確保のために意識して実践していること

食品の安全性確保のために意識して実践していることは、「食材の購入時には、鮮度や期限をよく確認し、新鮮なものを購入している」が88.7%で最も高く、次いで、「肉、魚、牛乳などは買ってきたらすぐ冷蔵庫へ入れている」が86.6%、「調理前には必ず石鹸で手洗いをしている」が63.0%、「焼肉では、生肉に触れる箸と食べる箸は別になっている」が61.8%の順。



## (6) 食品を購入するたびに表示を確認している市民の割合

食品を購入するたびに表示を確認している市民の割合は 34.6%。H24 年から 5.6 ポイント低下。目標を 20.4 ポイント下回る。

項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(H30年・目標)
○食品を購入するたびに表示を確認している市民の割合	40.2%	42.3%	34.6%	55%

※15歳以上の回答者で「毎回確認している」と回答した割合

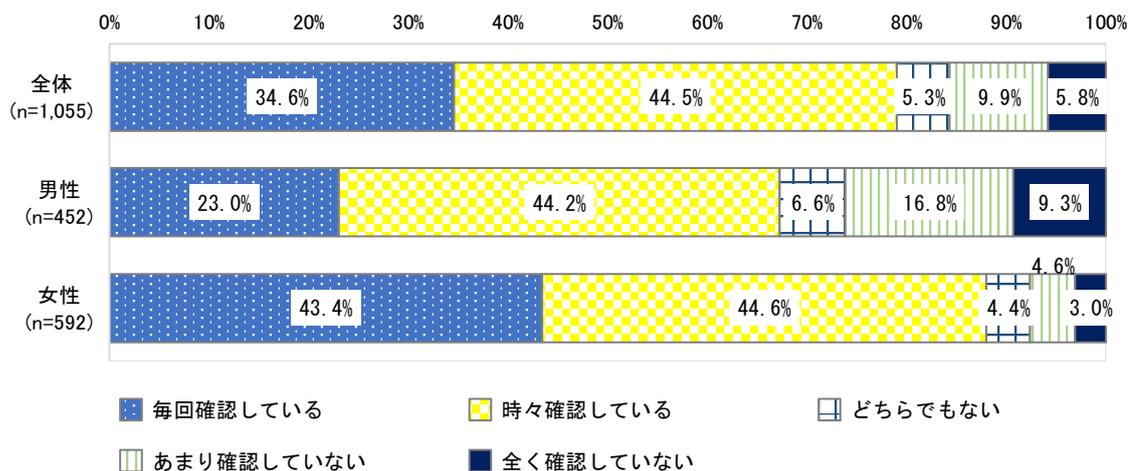
### <調査結果>

#### ■食品を購入する際の表示確認の有無 (15歳以上)

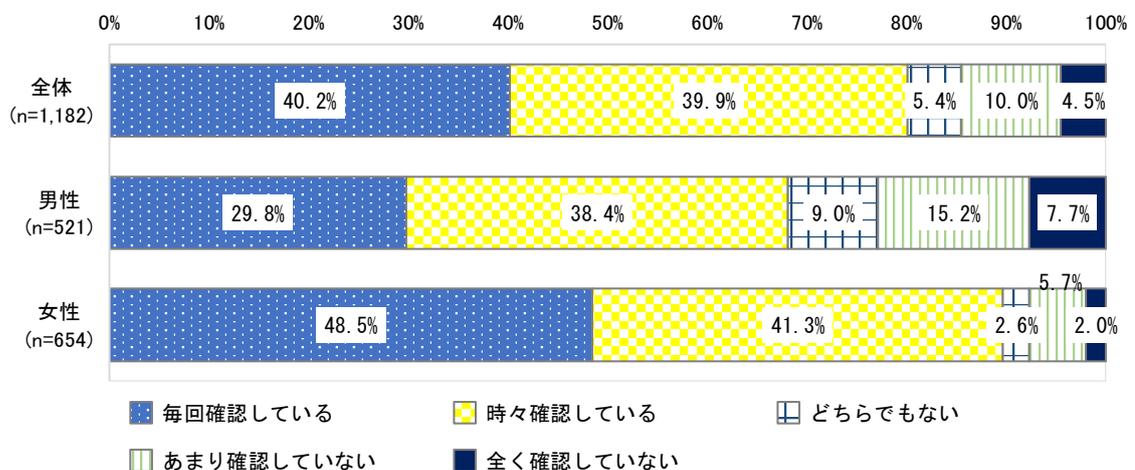
食品を購入する際の表示確認の有無については、「毎回確認している」が 34.6%で、平成 24 年調査と比較して 5.6 ポイント低下。

性別で見ると、男性が 23.0%、女性が 43.4%と、女性が 20.4 ポイント上回る。また女性は時々確認する人も含めると 88.0%の人が表示を見ているが、男性は 67.2%にとどまっている。

##### ■H30 年調査



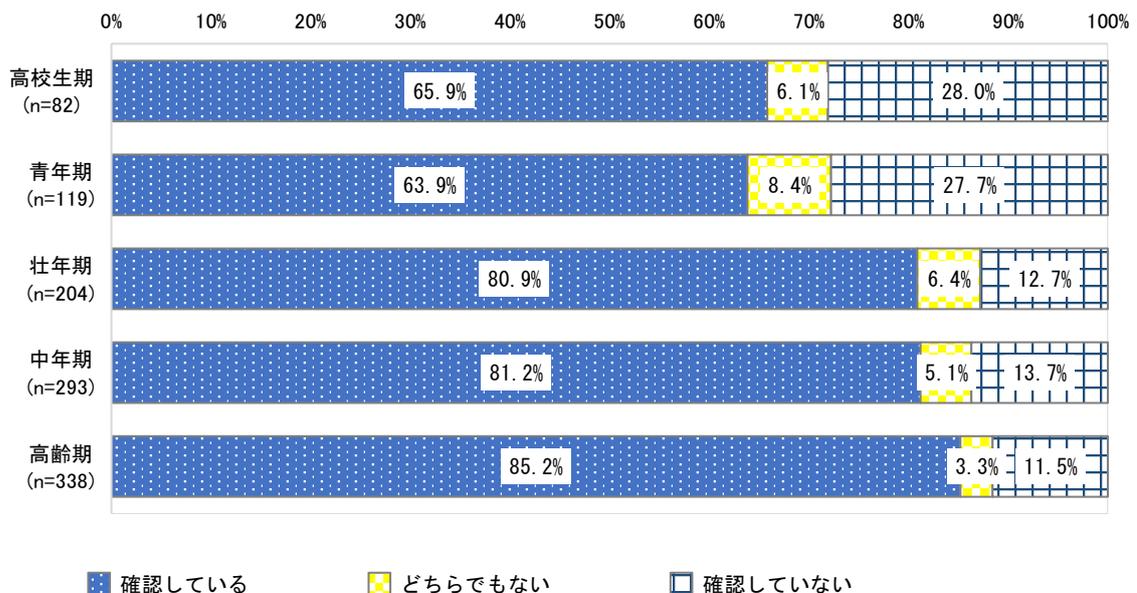
##### ■H24 年調査



ライフステージ別でみると、「毎回確認している」と「時々確認している」を合わせた、食品を購入する際に表示を『確認している』人の割合は、高齢期が最も高く 85.2%で、次いで、中年期が 81.2%、壮年期が 80.9%、高校生期と青年期は 60%台の順。

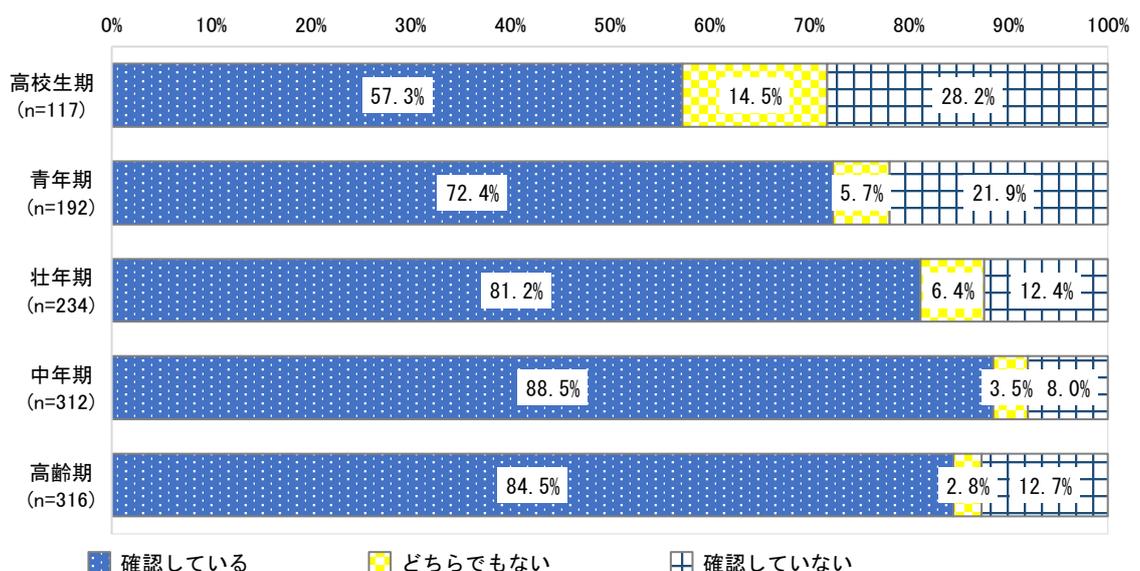
平成 24 年調査と比較して、『確認している（「毎回確認している」＋「時々確認している」）』の割合は、青年期が 8.5 ポイント低下している。

### ■ H30 年調査



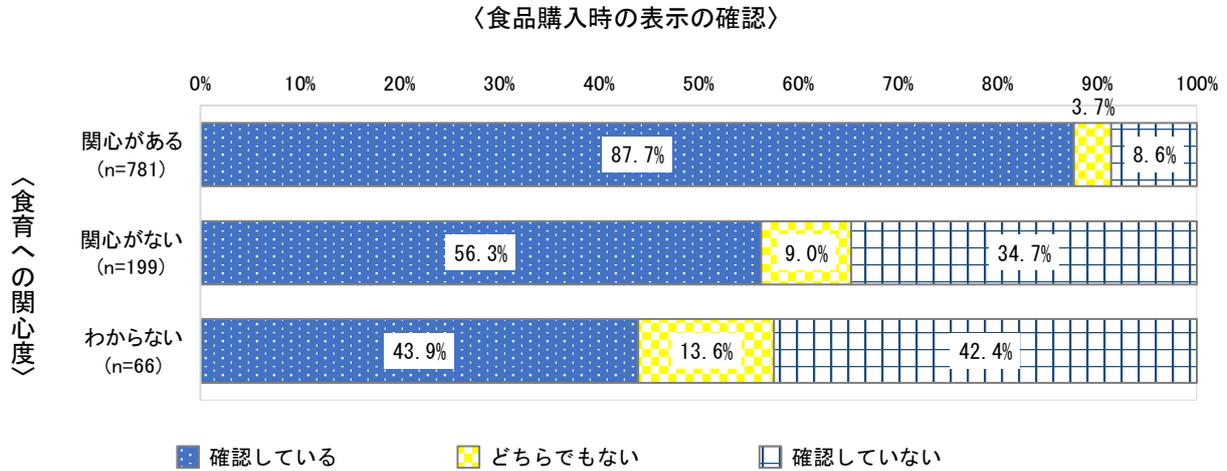
※表示を『確認している』は「毎回確認している」＋「時々確認している」  
 ※『確認していない』は「あまり確認していない」＋「全く確認していない」

### ■ H24 年調査



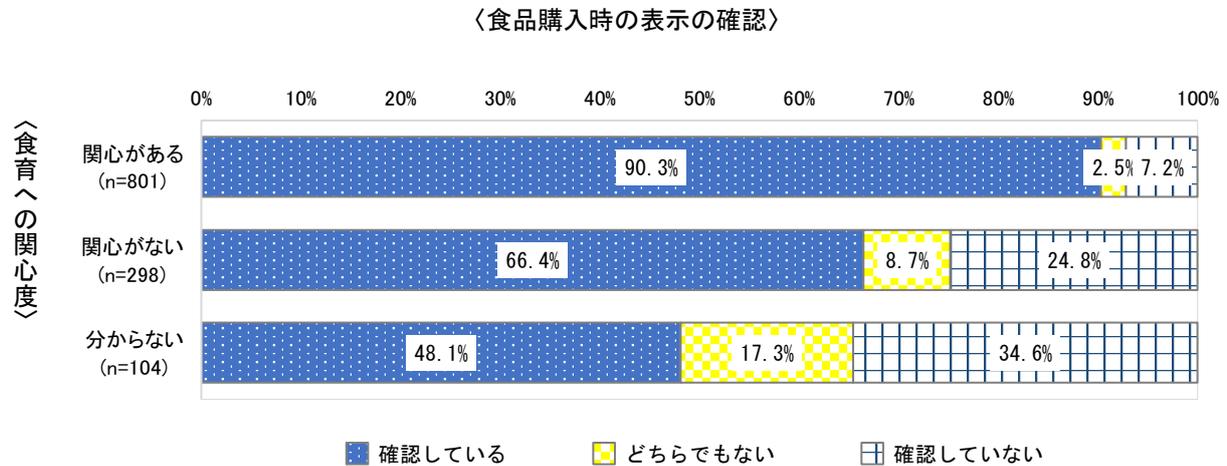
「食育への関心度」との関係を見ると、食品を購入する際に表示を『確認している（「毎回確認している」＋「時々確認している」）』では、食育に「関心がある」は87.7%を占め、「関心がない」と比較して、31.4ポイントと大きく上回る。

■H30年調査



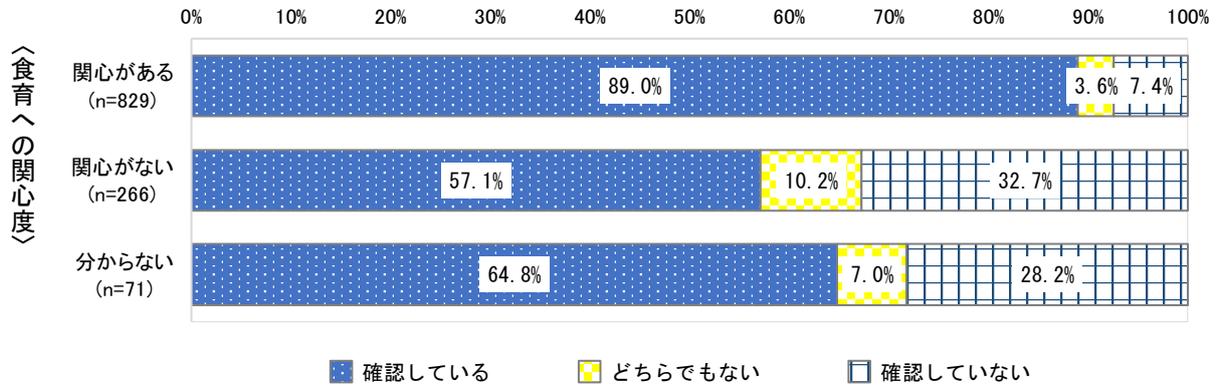
※表示を『確認している』は「毎回確認している」＋「時々確認している」  
 ※『確認していない』は「あまり確認していない」＋「全く確認していない」  
 ※食育に『関心がある』は「関心がある」＋「どちらかといえば関心がある」  
 ※『関心がない』は「どちらかといえば関心がない」＋「関心がない」

■H27年調査



■ H24 年調査

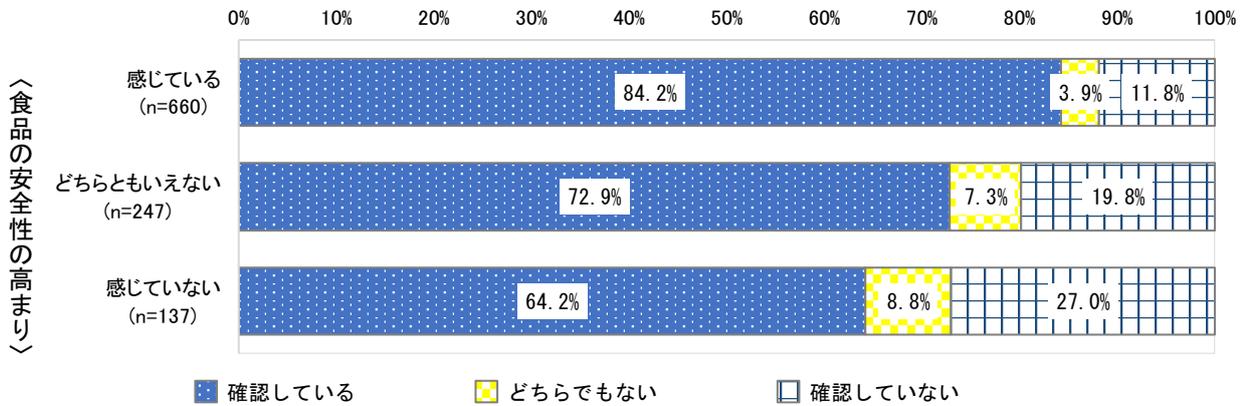
〈食品購入時の表示の確認〉



「食品の安全性の高まり」との関係を見ると、「確認している」では、安全性の高まりを「感じている」は84.2%を占め、「感じていない」と比較して、20ポイントと大きく上回る。

■ H30 年調査

〈食品購入時の表示の確認〉

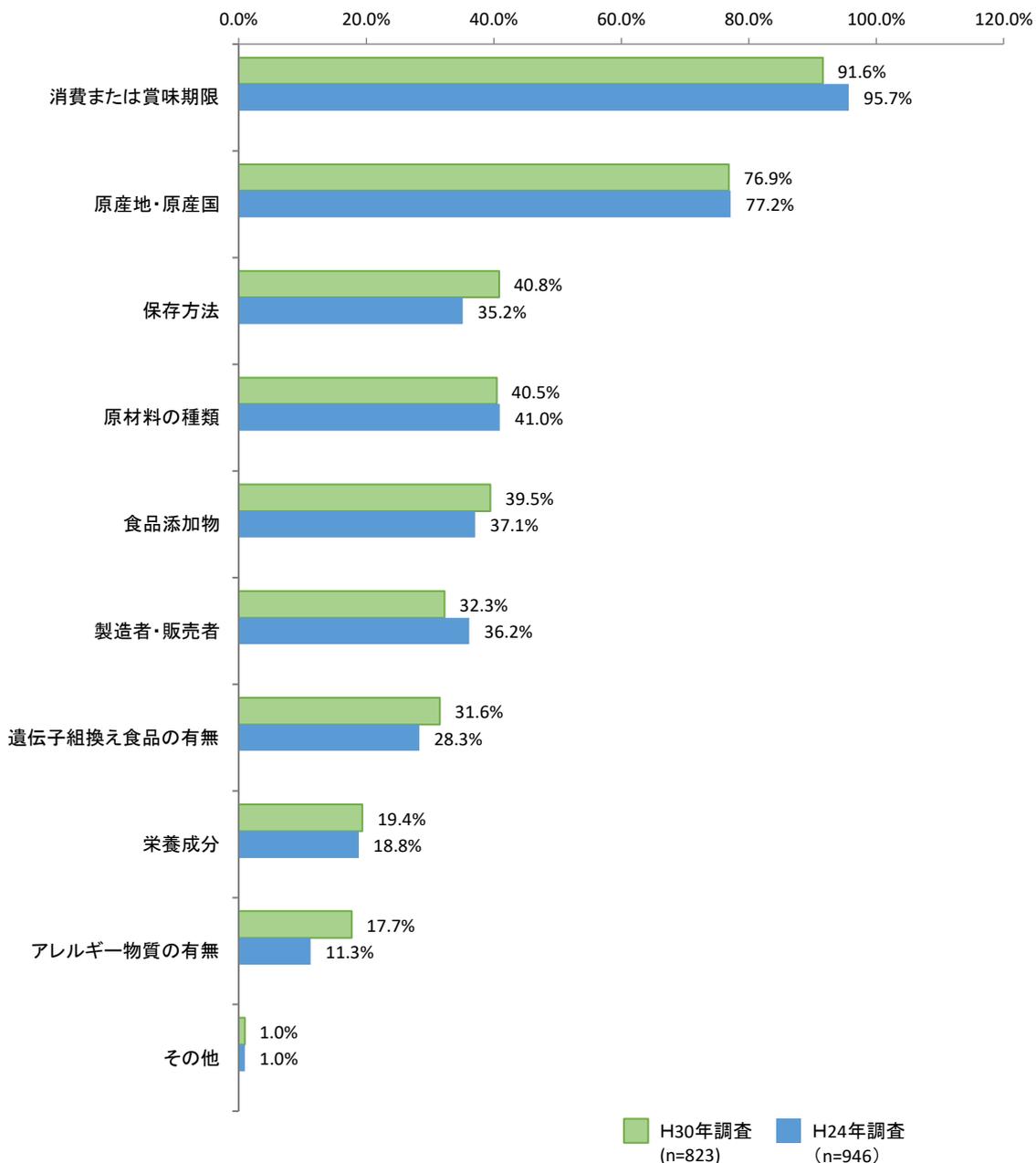


※『確認している』は「毎回確認している」+「時々確認している」

※『確認していない』は「あまり確認していない」+「全く確認していない」

## ■食品を購入する際の表示確認の有無 〈15歳以上〉

食品を購入する際に確認する表示は、「消費または賞味期限」が91.6%で最も高く、「原産地・原産国」が76.9%と、これらが多くの割合を占める。次いで、「保存方法」が40.8%、「原材料の種類」が40.5%、「食品添加物」が39.5%、「製造者・販売者」が32.3%、「遺伝子組換え食品の有無」が31.6%の順。平成24年調査と比較して、「保存方法」が5.6ポイント上昇。



## 2 熊本市独自の食品衛生の確保

市民の食品の安全意識については高い水準にあるものの、引き続き、安全な食品を作る手法であるHACCPの認知度は低く、熊本市独自の食品衛生の確保を推進しつつ、より一層の市民への情報提供が課題となっている。

### 1) 熊本市版食品衛生管理の普及と実践

「食品について安全性が高まっていると感じている市民の割合」は6割に達するものの、HACCPの認知度は低く、引き続き、熊本市食品自主衛生管理評価事業(熊本市版HACCP)等の普及と実践をあわせ、取組の周知を図る必要がある。

#### (1) 食品について安全性が高まっていると感じている市民の割合

食品について安全性が高まっていると感じている市民の割合は63.7%で、H24年の計画策定時の目標である50%に到達したが、H27年中間評価の際に再設定した目標を1.3ポイント下回る。

項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(H30年・目標)
○食品について安全性が高まっていると感じている市民の割合	—	59.1%	63.7%	※65% (50%)

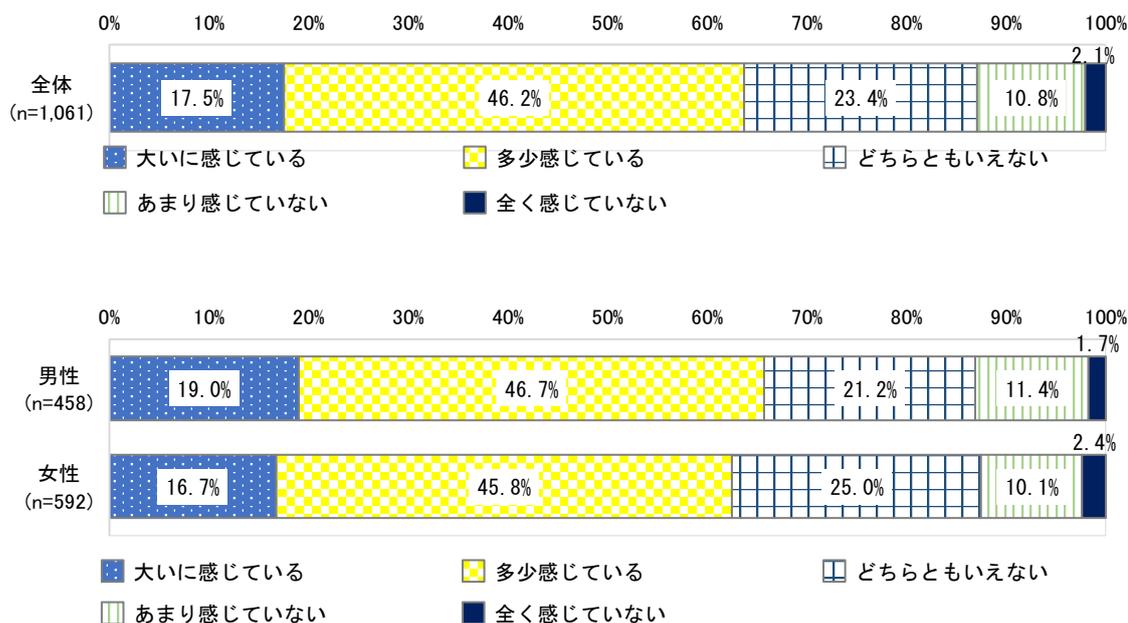
※15歳以上の回答者で、「大いに感じている」+「多少感じている」を選択した人の割合  
 ※H27年中間評価時に目標値を50%→65%へ上方修正した

#### <調査結果>

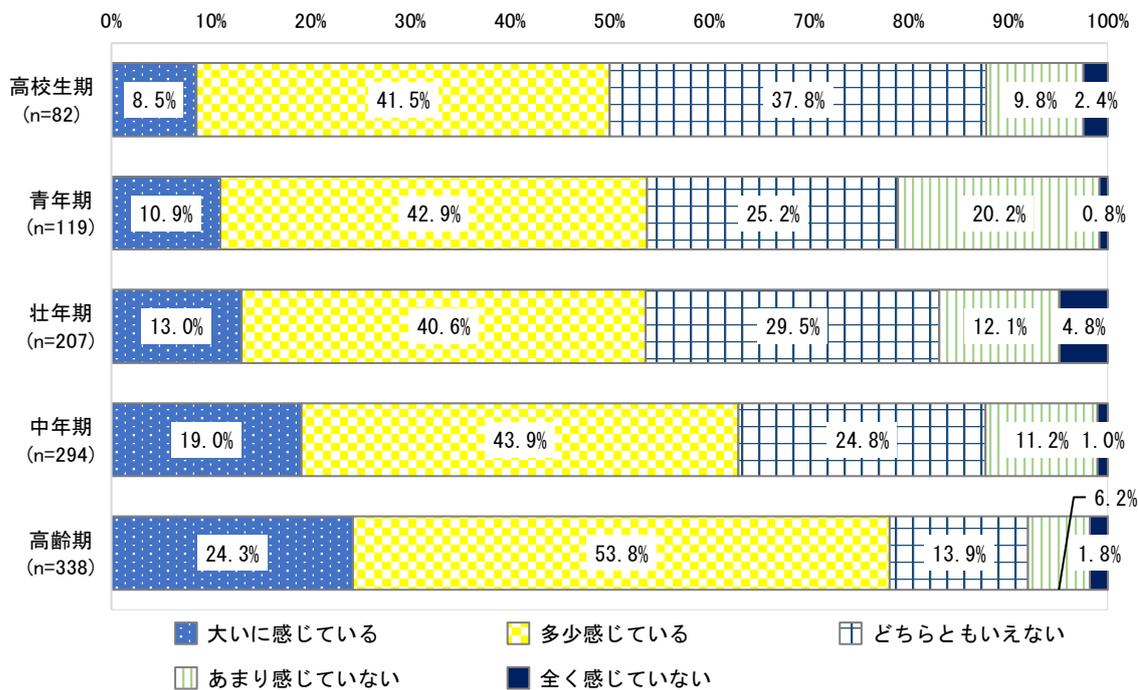
#### ■食品について安全性の高まりを感じる度合い (15歳以上)

食品について安全性の高まりを感じる度合いについて、「大いに感じている」が17.5%、「多少感じている」が46.2%と、合わせて63.7%が『感じている』としている。

性別でみると、男性が65.7%、女性が62.5%と、男性が僅かに上回る。



ライフステージ別でみると、食品について安全性の高まりを『感じている「大いに感じている」+「多少感じている」』は、いずれも半数を超えるが、中でも、高齢期が78.1%、中年期が62.9%と高い。

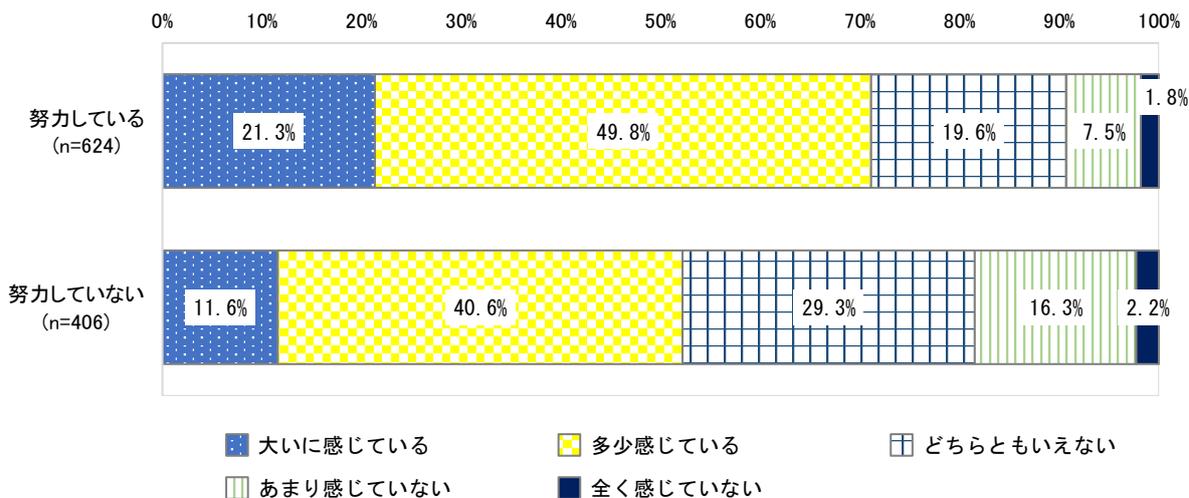


※安全性の高まりを『感じている』人は「大いに感じている」+「多少感じている」  
 ※『感じていない』は「あまり感じていない」+「全く感じていない」

「正しい知識や情報を得ようとする努力」との関係を見ると、『感じている「大いに感じている」+「多少感じている」』の割合は、「努力している」人は7割であるのに対し、「努力していない」人は5割にとどまる。

〈食の安全性の高まり〉

（正しい知識や情報を得ようとする努力の有無）



※『努力している』は「努力している」+「どちらかといえば努力している」  
 ※『努力していない』は「どちらかといえば努力していない」+「努力していない」

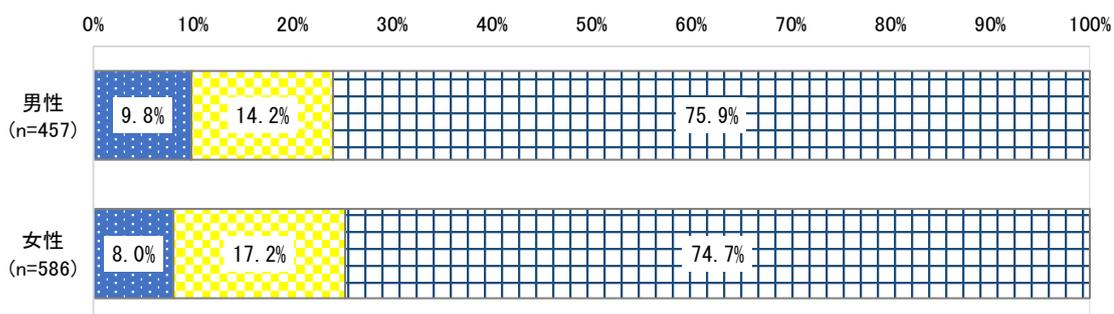
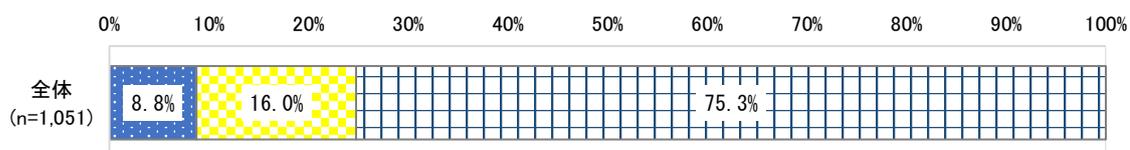
## <調査結果>

### ■食の安全性に不安を感じるもの 〈15歳以上〉(68ページを参照)

### ■HACCPの認知度 〈15歳以上〉

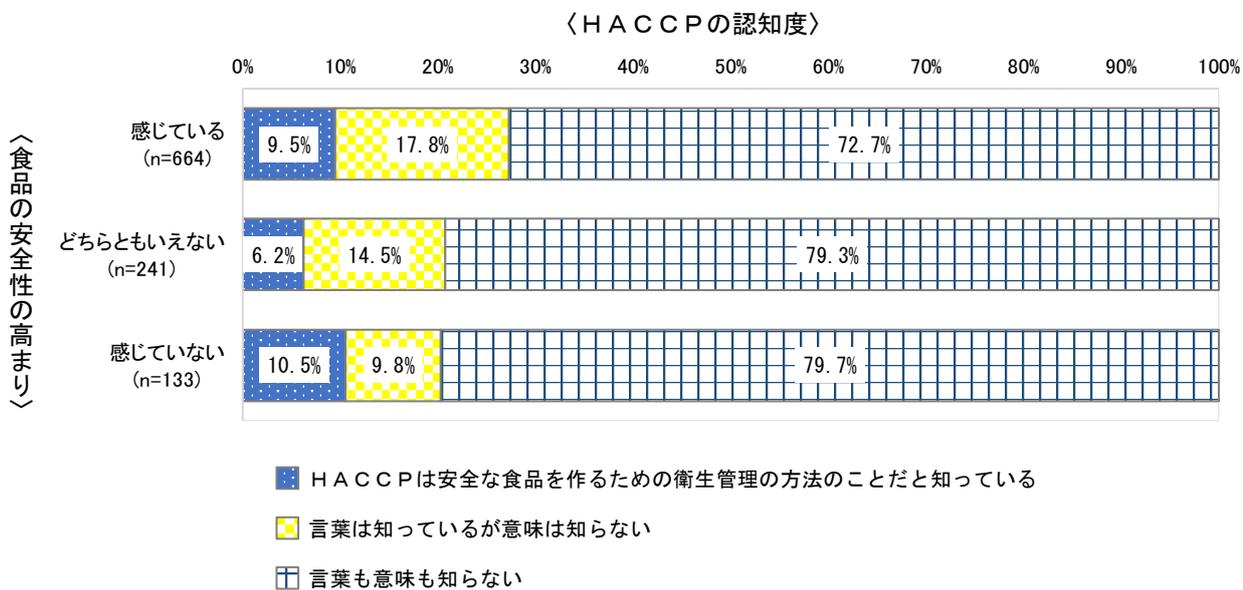
HACCPの認知度について、「意味も言葉も知っている」は8.8%、「言葉は知っているが、意味は知らない」は16.0%と、合わせて24.8%が『言葉は知っている』としている。

性別でみると、『言葉は知っている(「意味も言葉も知っている」+「言葉は知っているが、意味は知らない」)』の割合は、大きな差はない。



- HACCPは安全な食品を作るための衛生管理の方法のことだと知っている
- 言葉は知っているが意味は知らない
- 言葉も意味も知らない

食品の安全性の高まりを感じている人では、HACCPの言葉を知っている人（HACCPの認知度）が27.3%であるのに対し、安全性の高まりを感じていない人ではHACCP認知度が20.3%であった。安全性の高まりを感じている人の方が、感じていない人に比べHACCPの認知度が高い。



※『感じている』は「大いに感じている」+「多少感じている」

※『感じていない』は「あまり感じていない」+「全く感じていない」

## **2) 食品の大量取扱業者との情報の共有**

「食品について安全性が高まっていると感じている市民の割合」は63.7%で、目標にあと1.3ポイントと近づいた。引き続き、行政を中心に、市場、大型量販店等と連携を深め、情報を共有し、食品の安全性の確保に向けた取組の推進が必要である。

### **(1) 食品について安全性が高まっていると感じている市民の割合（再掲）**

## **3) 熊本の食に関する文化や製品の振興に向けた安全性の確保**

市民の食品の安全意識については高い水準にあるが、引き続き優れた自然環境を生かした熊本の食の素材や食文化を日本国内外へ発信するため、熊本の食に関する安全と信頼性を高める取組の推進が必要である。

### **(1) 食品について安全性が高まっていると感じている市民の割合（再掲）**

### **3 国・県・他市町村・庁内関係部署及び食品関係機関との連携**

市民の食品に対する安全意識は高い水準にあり、今後も食品の安全性を確保するためには、引き続き、国・県・市町村・庁内関係部署及び食品関連事業者等との連携が必要である。

#### **1) 健康危機管理体制の充実及び強化**

食品の安全性を確保するためには、引き続き、健康危機管理体制の充実・強化を図るとともに、食品衛生監視員等の資質向上を図る必要がある。

##### **(1) 食品について安全性が高まっていると感じる市民の割合（再掲）**

#### **2) 食品の安全確保のための連携**

市民の食品の安全意識については高い水準にあるが、今後も食品の安全性を確保するためには、各種関係機関等との連携が重要である。

##### **(1) 食品について安全性が高まっていると感じる市民の割合（再掲）**

## 4 消費者・生産者・食品関連事業者及び行政の相互理解・信頼関係の確率と推進

食の安全性に関する正しい知識や情報を提供し、食に関する安心を実感できるよう、1) 市民意見の施策への反映、2) 食や健康被害に関する情報提供の充実、3) 食に関する相談窓口の充実、を図り食の安全性を高めることが求められる。

### 1) 市民意見の施策への反映

「食品について安全性が高まっていると感じている市民の割合」は63.7%となり、目標まであと1.3ポイントと近づいている。引き続き、市民からの意見を食品安全に関する施策に反映させる体制づくりが必要である。

#### (1) 食品について安全性が高まっていると感じている市民の割合（再掲）

### 2) 食や健康被害に関する情報提供の充実

「食事・食品等に関する正しい知識や情報を得ようと努めている市民の割合」は6割を超え、「熊本の農林漁業の生産者が行っている生産物の安心・安全のための取組」については、8割が『知りたい（「知りたい」＋「どちらかといえば知りたい」）』としているものの、「くまもとの食（安全安心のひろば・食育のひろば）」の認知度は僅かに減少している。今後、情報提供の充実とともに、情報発信源の周知が必要である。

#### (1) 食品について安全性が高まっていると感じている市民の割合（再掲）

#### (2) 食事・食品等に関する正しい知識や情報を得ようと努めている市民の割合

食事・食品等に関する正しい知識や情報を得ようと努めている市民の割合は60.5%となった。目標を14.5ポイント下回る。

項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(H30年・目標)
○食事・食品等に関する正しい知識や情報を得ようと努めている市民の割合	—	61.3%	60.5%	75%

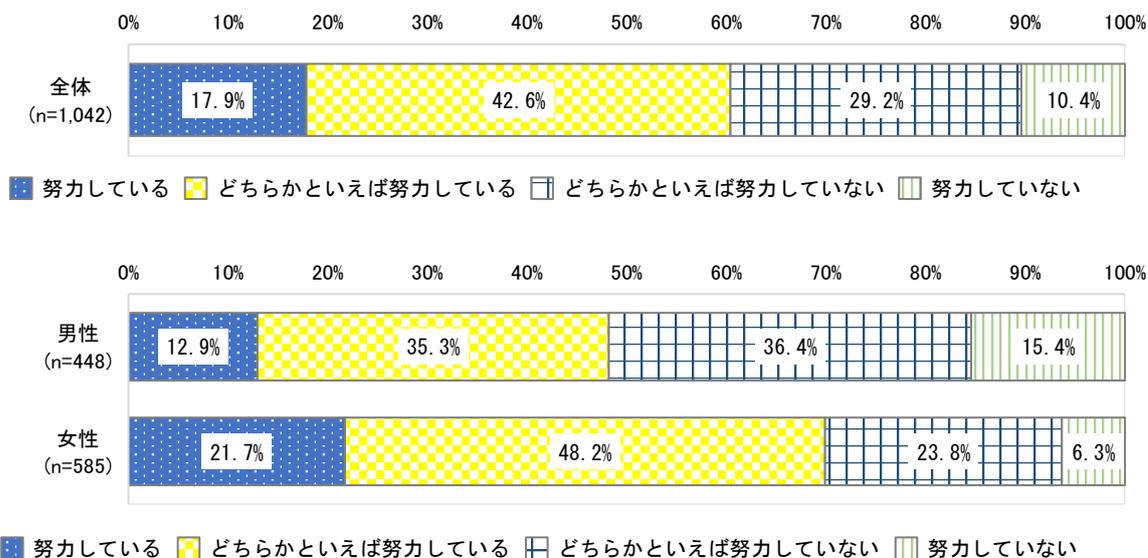
※15歳以上の回答者で、「努力している」＋「どちらかといえば努力している」を選択した人の割合

## <調査結果>

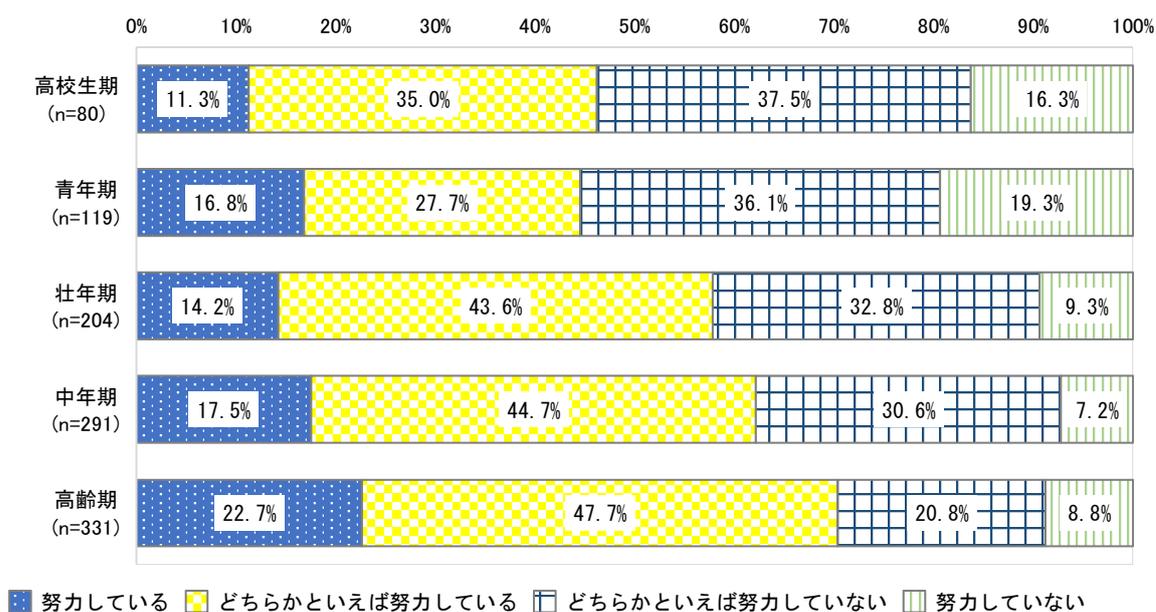
### ■栄養や食事・食品に関する正しい情報を得ようとする度合い (15歳以上)

栄養や食事・食品に関する正しい情報を得ようとする度合いについて、「努力している」は17.9%、「どちらかといえば努力している」は42.6%と、合わせて60.5%が『努力している』としている。

性別でみると、男性は48.2%で半数を下回るが、女性は69.9%と21.7ポイントと大きく上回る。

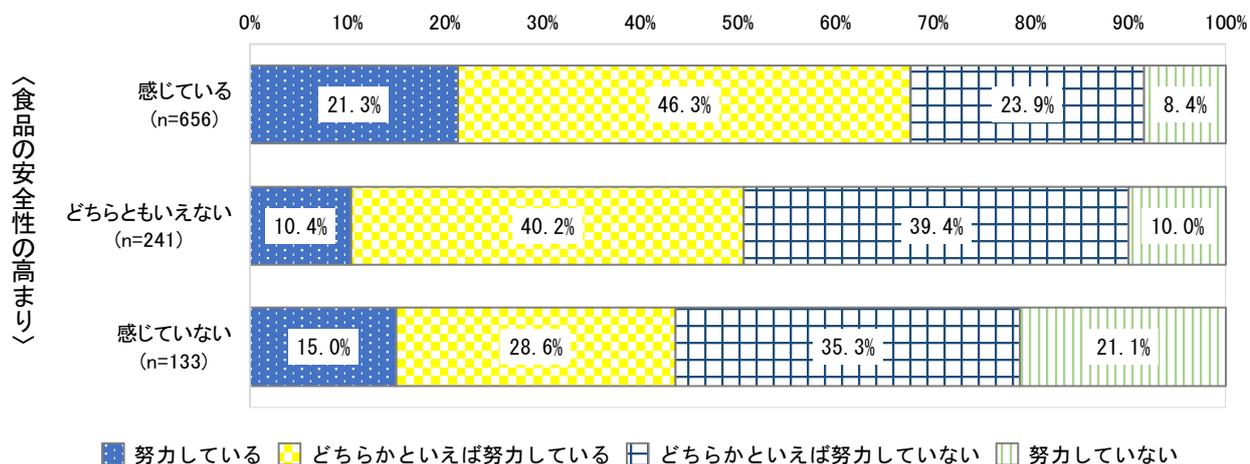


ライフステージ別でみると、『努力している（「努力している」＋「どちらかといえば努力している」）の割合は、高齢になるほど高く、壮年期では5割を超え、中年期、高齢期では6割を超える。これに対して高校生期、青年期は4割に留まる。



「食品の安全性の高まり」との関係を見ると、栄養や食事・食品に関する正しい情報を得ようと『努力している（「努力している」＋「どちらかといえば努力している」）』の割合は、安全性の高まりを「感じている」人は67.6%、「どちらともいえない」人、「感じていない」人を大きく上回る。

〈正しい知識や情報を得ようとする努力の有無〉

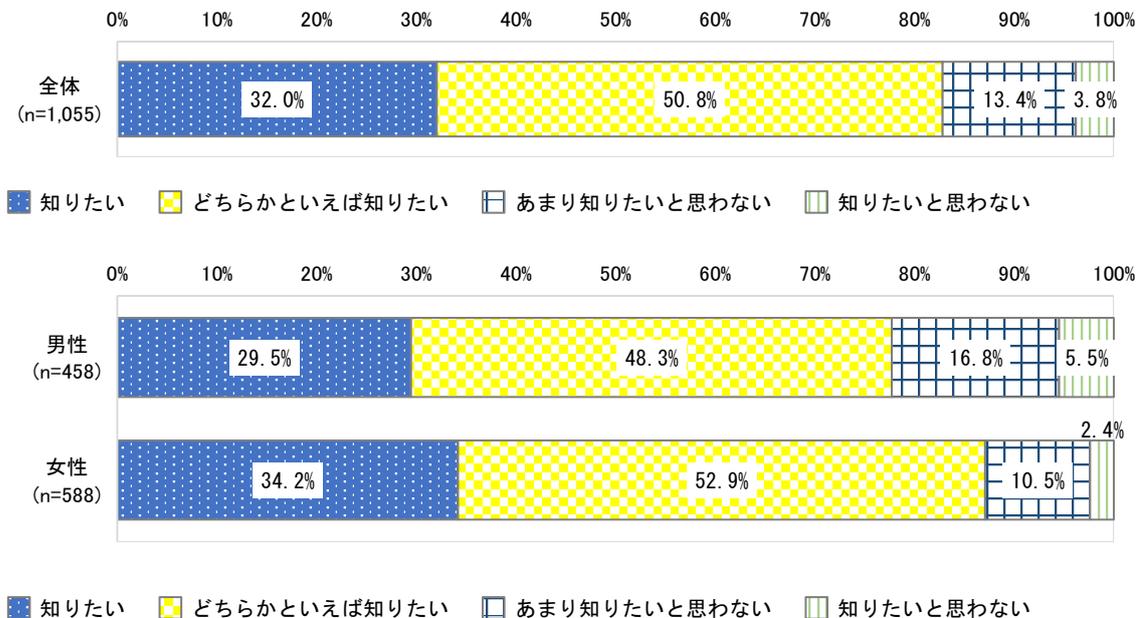


※『努力している』は「努力している」＋「どちらかといえば努力している」  
 ※『努力していない』は「どちらかといえば努力していない」＋「努力していない」  
 ※『感じている』は「大いに感じている」＋「多少感じている」  
 ※『感じていない』は「あまり感じていない」＋「全く感じていない」

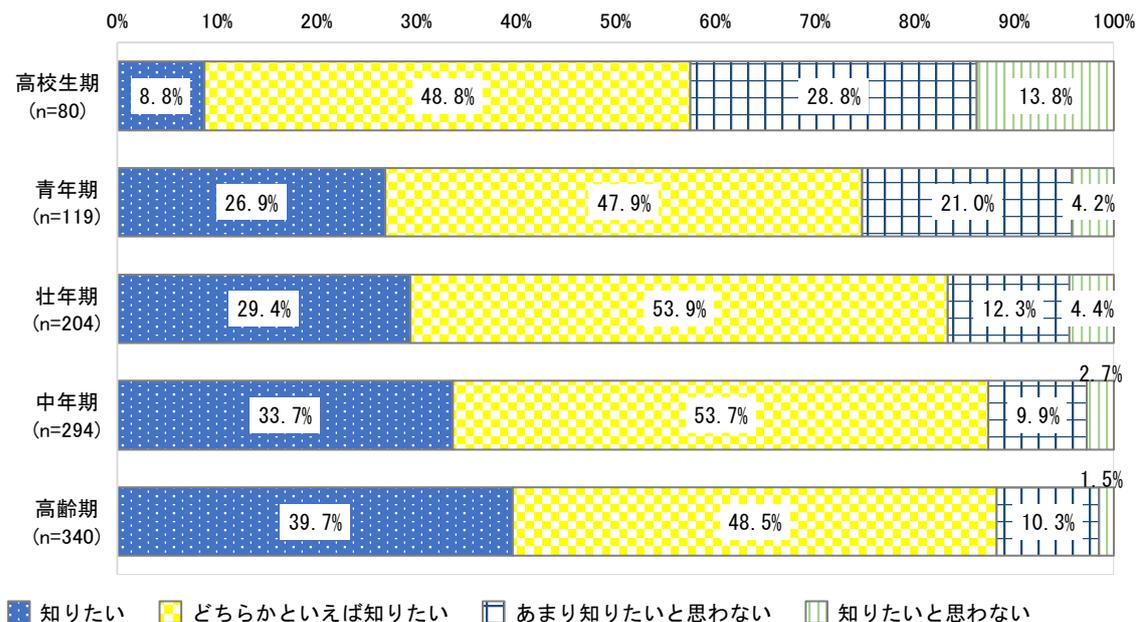
## ■くまもとの農林漁業の生産者が行っている生産物の安全・安心のための取組 〈15歳以上〉

熊本の農林漁業の生産者が行っている生産物の安心・安全のための取組について、「知りたい」は32.0%、「どちらかといえば知りたい」は50.8%と、合わせて82.8%が『知りたい』としている。

性別でみると、男性は77.8%、女性は87.1%で、女性が9.3ポイント上回る。

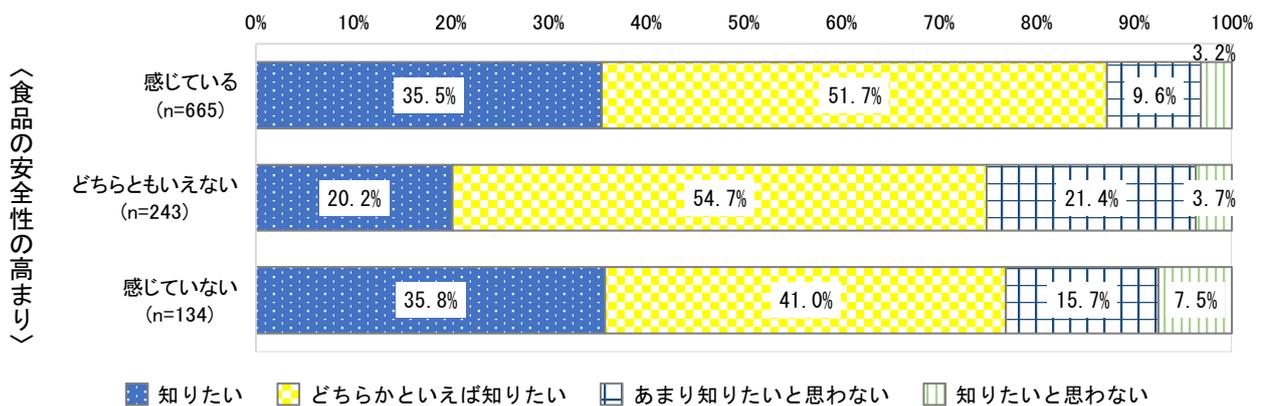


ライフステージ別でみると、『知りたい（「知りたい」＋「どちらかといえば知りたい」）』は、青年期以上では7割を超えるものの、高校生期では6割に満たない。



「食品の安全性の高まり」との関係を見ると、熊本の農林漁業の生産者が行っている生産物の安全・安心のための取組について『知りたい（「知りたい」+「どちらかといえば知りたい」）』の割合は、安全性の高まりを「感じている」人は約9割と高く、「どちらともいえない」、「感じていない」人は7割台となり、意識度で違いがみられる。

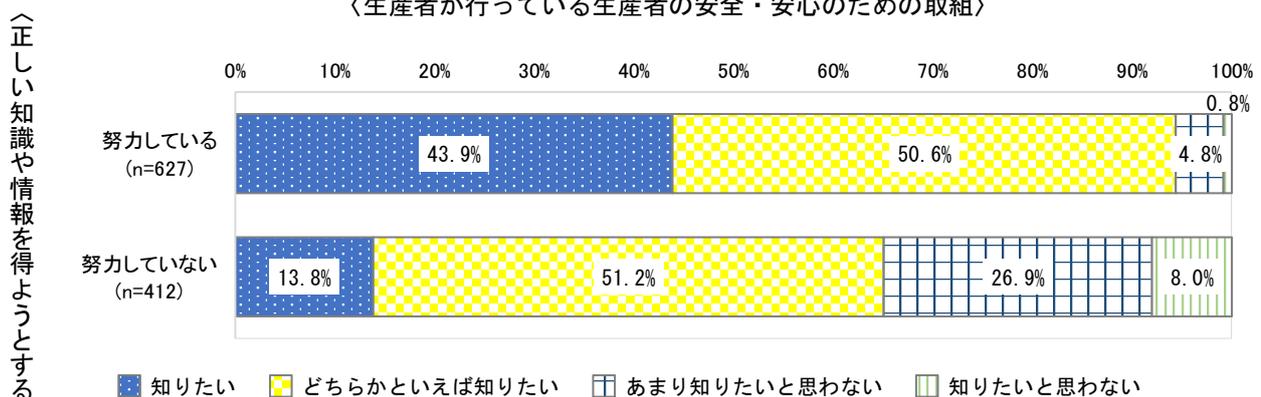
〈生産者が行っている生産者の安全・安心のための取組〉



※『知りたい』は「知りたい」+「どちらかといえば知りたい」  
 ※『知りたいと思わない』は「あまり知りたいと思わない」+「知りたいと思わない」  
 ※『感じている』は「大いに感じている」+「多少感じている」  
 ※『感じていない』は「あまり感じていない」+「全く感じていない」

「正しい知識や情報を得ようとする努力」との関係を見ると、『知りたい（「知りたい」+「どちらかといえば知りたい」）』の割合は、「努力している」人は94.5%に対し、「努力していない」人は65%で、29.5ポイントと大きく下回る。

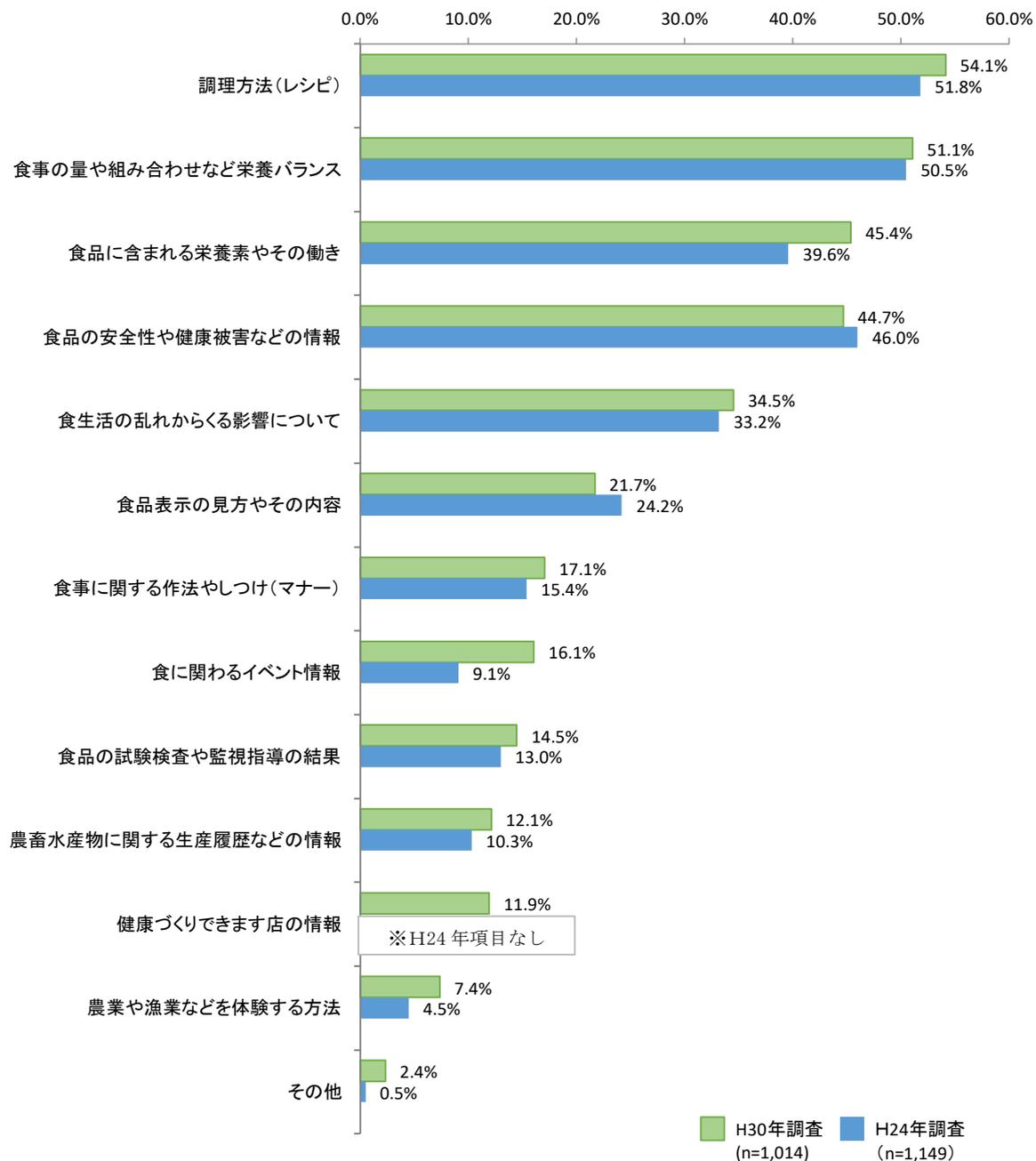
〈生産者が行っている生産者の安全・安心のための取組〉



※『努力している』は「努力している」+「どちらかといえば努力している」  
 ※『努力していない』は「どちらかといえば努力していない」+「努力していない」

## ■食生活や食品に関して欲しい情報 〈15歳以上〉

食生活や食品に関して欲しい情報については、「調理方法（レシピ）」が 54.1%で最も高く、次いで、「食事の量や組み合わせなど栄養バランス」が 51.1%、「食品に含まれる栄養素やその働き」が 45.4%、「食品の安全性や健康被害などの情報」が 44.7%の順。平成 24 年調査と比較して、「食に関わるイベント情報」は 7 ポイント上回る。

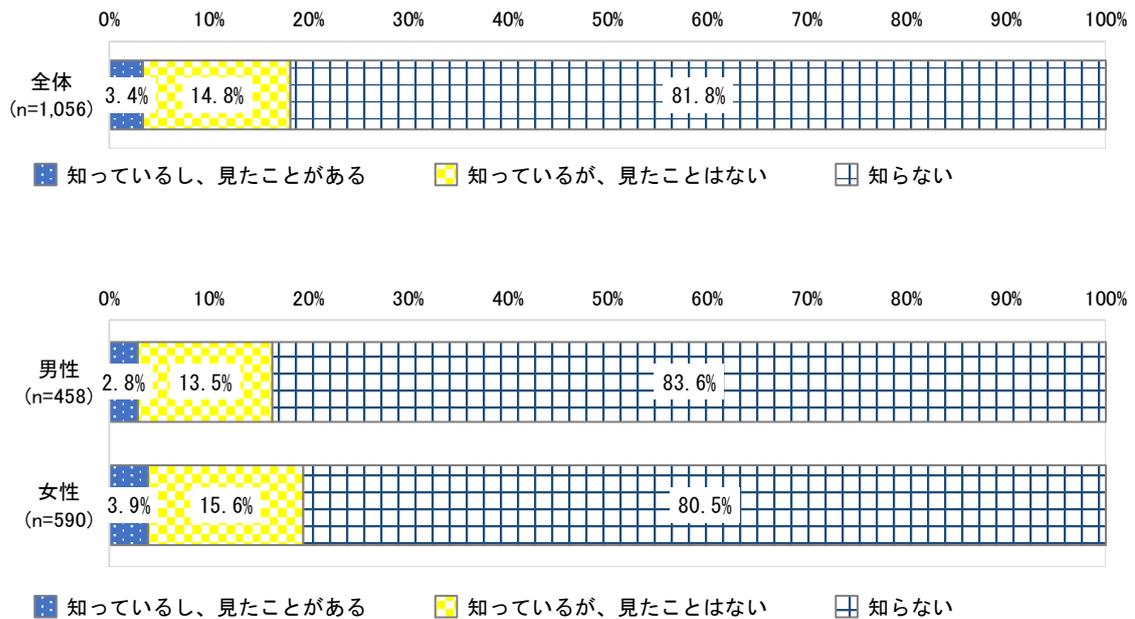


## ■「くまもとの食（安全安心のひろば・食育のひろば）」の認知度 〈15歳以上〉

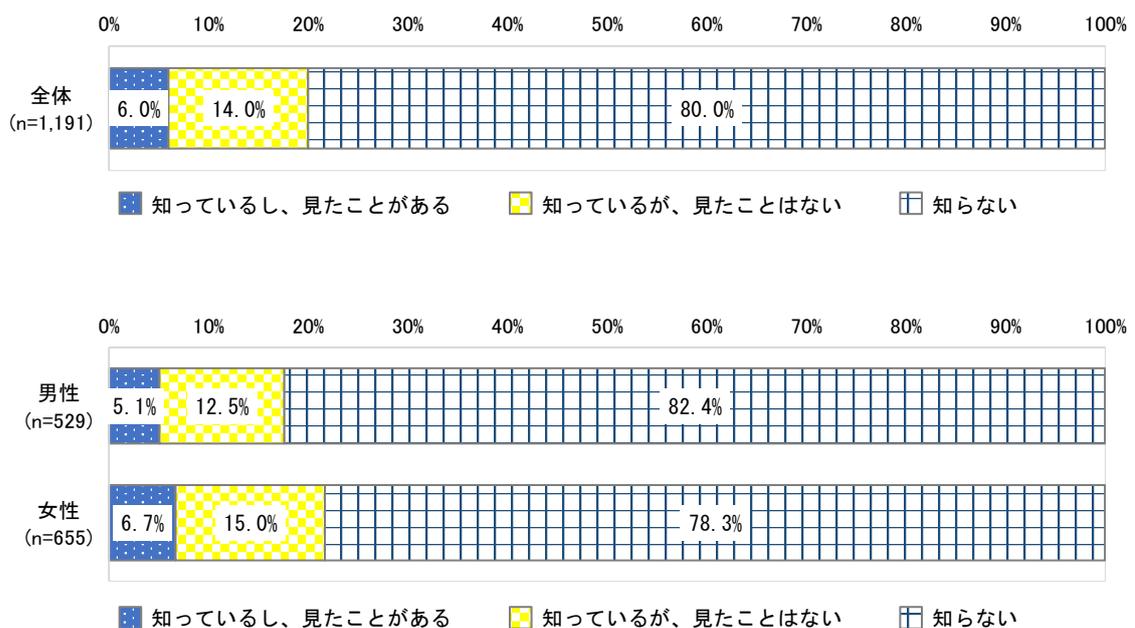
「くまもとの食（安全安心のひろば・食育のひろば）」の認知度については、「知っているし、見たことがある」は3.4%、「知っているが、見たことはない」は14.8%と、合わせて18.2%が『知っている』としている。平成24年調査と比較して、1.8ポイント下回る。

性別で見ると、大きな差はみられないものの、平成24年調査と比較して男女ともに下回る。

### ■H30年調査

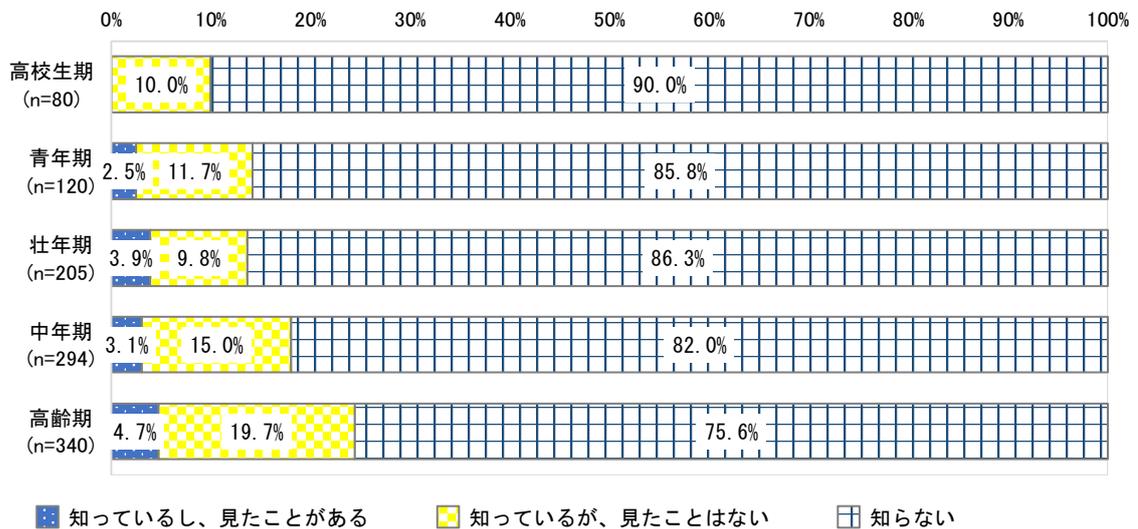


### ■H24年調査

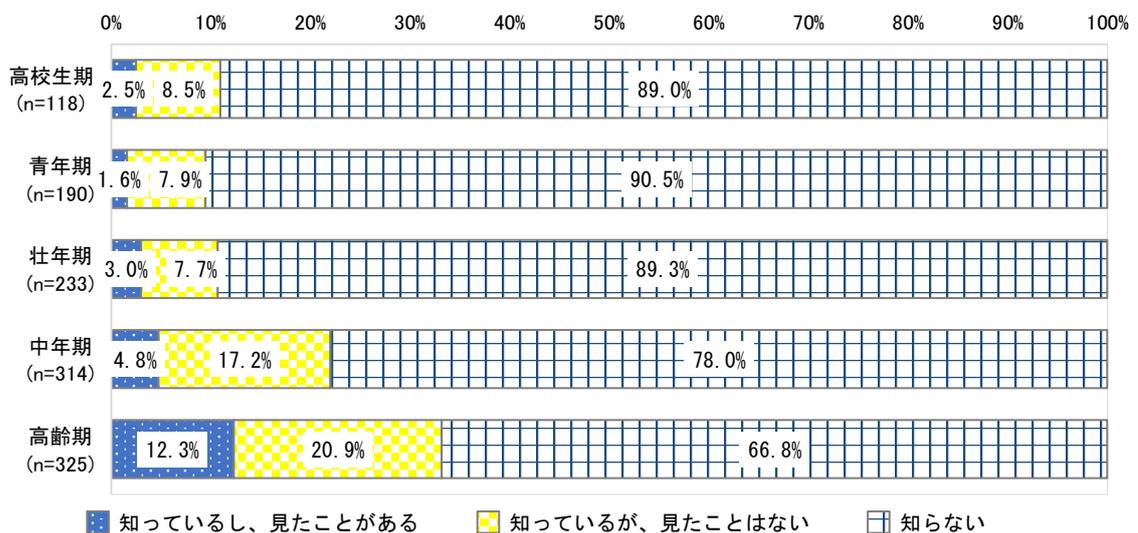


ライフステージ別でみると、「くまもとの食（安全安心のひろば・食育のひろば）」を『知っている（「知っているし、見たことがある」＋「知っているが、見たことはない」）』は、高齢期が最も高く 24.4%。これに対して高校生期が最も低く 1 割である。

### ■H30 年調査

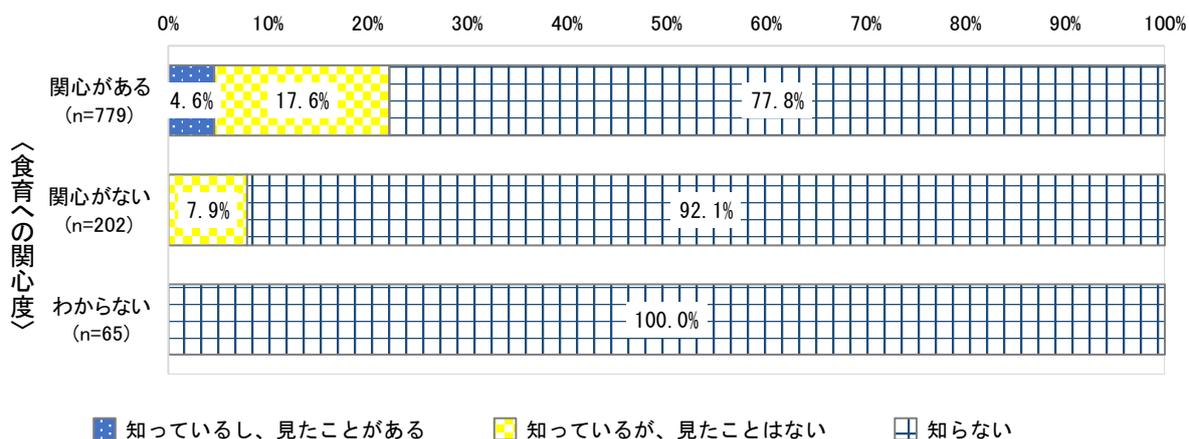


### ■H24 年調査



「食育への関心度」との関係を見ると、「くまもとの食（安全安心のひろば・食育のひろば）」を『知っている（「知っているし、みたことがある」＋「知っているが見たことはない」）』の割合は、食育に「関心がある」人は22.2%となり、「関心がない」人、「わからない」人を大きく上回る。

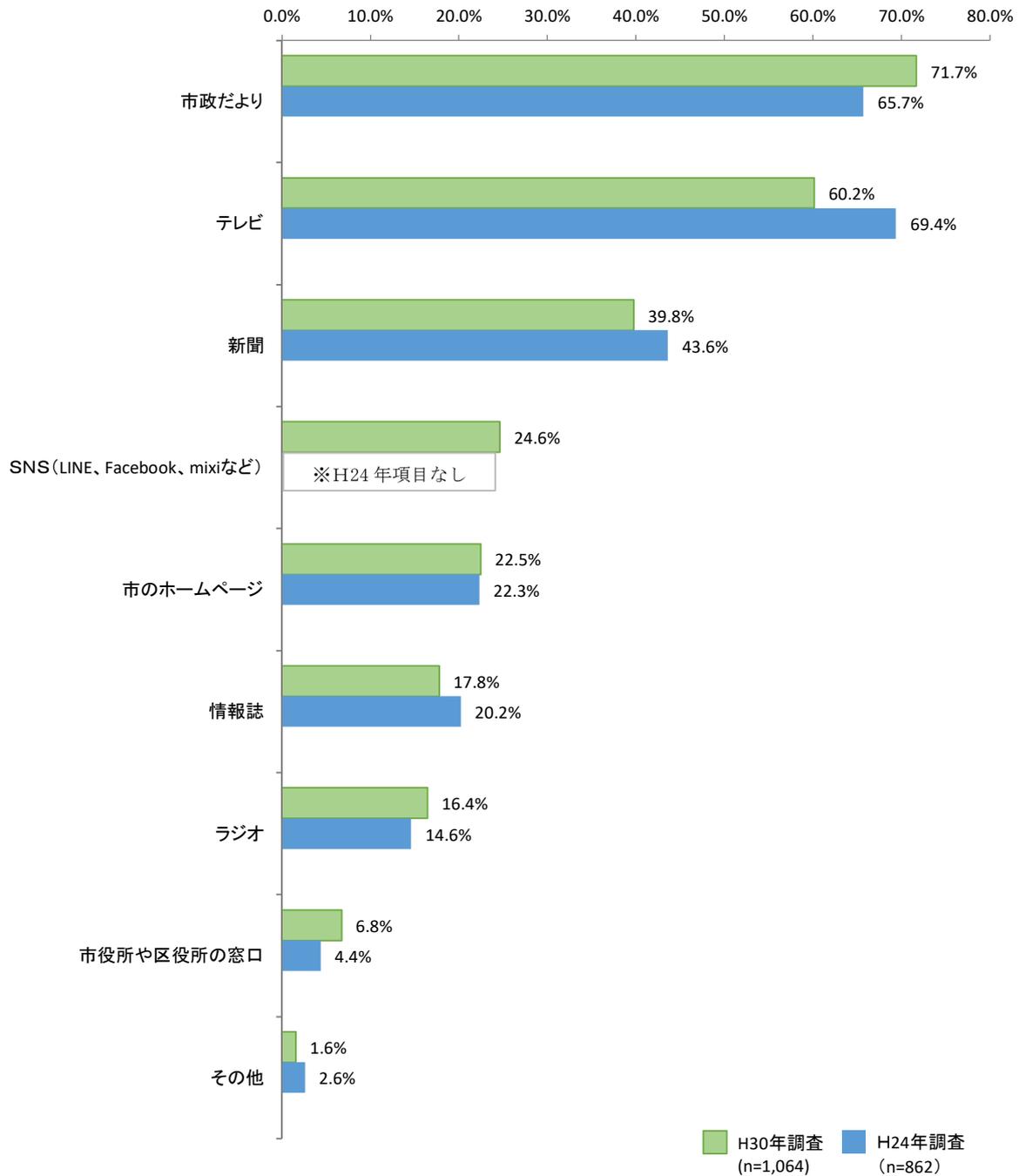
〈くまもとの食の認知度〉



※食育に『関心がある』は「関心がある」＋「どちらかといえば関心がある」  
 ※『関心がない』は「関心がない」＋「どちらかといえば関心がない」

## ■情報を発信する手段として効果的なもの 〈15～64歳〉

情報を発信する手段として効果的なものとしては、「市政だより」が71.7%で最も高く、次いで、「テレビ」が60.2%、「新聞」が39.8%の順であり、「テレビ」、「新聞」「情報誌」においては、平成24年調査を下回る。



### **3) 食に関する相談窓口の充実**

「食品について安全性が高まっていると感じている市民の割合」は6割に達するものの、食に対する安心感を高めるためには、今後も、食に関する相談窓口の充実を図ることが重要である。

#### **(1) 食品について安全性が高まっていると感じている市民の割合 (再掲)**

## 5 食育を通じた食の安全・安心の確保

「食品の安全性に関する知識があると思う市民の割合」は H24 年から微かに増加したが目標値には届いていない。市民の食品安全の基礎知識向上のために、引き続き、食育を通じた食の安全性や栄養等に関する理解を深める取組を進める必要がある。

### 1) 食の安全性や栄養等に関する理解の促進

「食品の安全性に関する知識があると思う市民の割合」は 53.0%となり、H24 年から 3.4 ポイントの増。「ライフステージ別」では高い年齢層ほど知識があると感じている。H24 年比では、高校生・青年期・壮年期では値が高くなっているが、中年期、高齢期では値が低くなっている。

「食の安全性や栄養等に関する理解の促進」を図るために、さらなる食育の推進が必要である。

#### (1) 食品の安全性に関する知識がありと思う市民の割合

食品の安全性に関する知識があると思う市民の割合は、53.0%となり、平成 24 年調査と比較して 3.4 ポイント上昇し、目標値を 7 ポイント下回った。

項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(H30年・目標)
○食品の安全性に関する知識があると思う市民の割合	49.6%	62.6%	53.0%	60%

※15 歳以上の回答者で、「十分にあると思う」+「ある程度あると思う」を選択した人の割合  
※誤差率 5% の水準（95% の信頼度）で有意差があると認められる

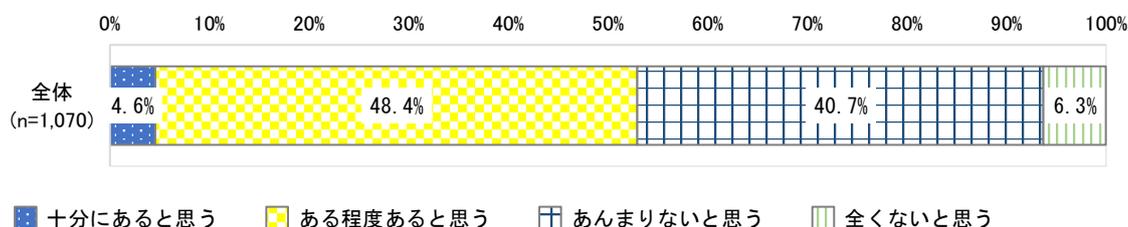
### <調査結果>

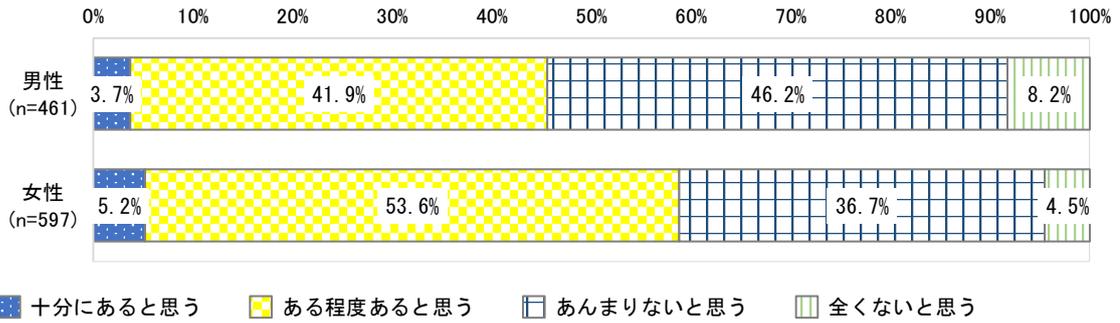
#### ■食品の安全性に関する知識の有無 〈15 歳以上〉

食品の安全性に関する知識の有無については「十分にあると思う」は 4.6%、「ある程度あると思う」は 48.4%と、合わせて 53.0%が『あると思う』としている。

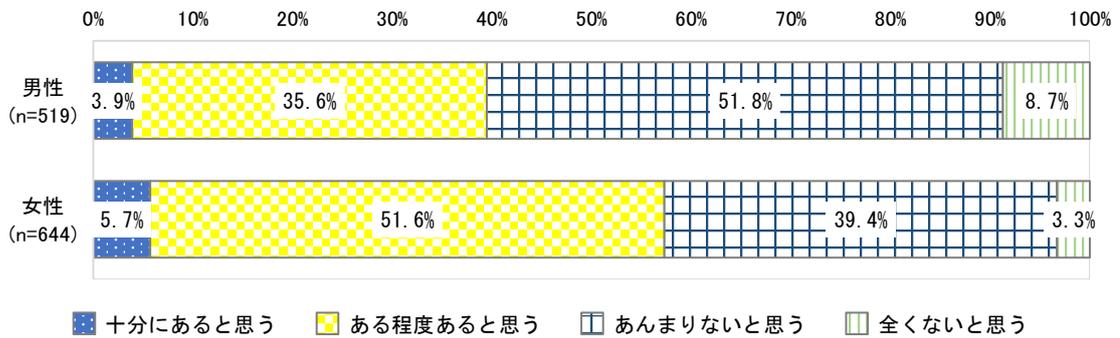
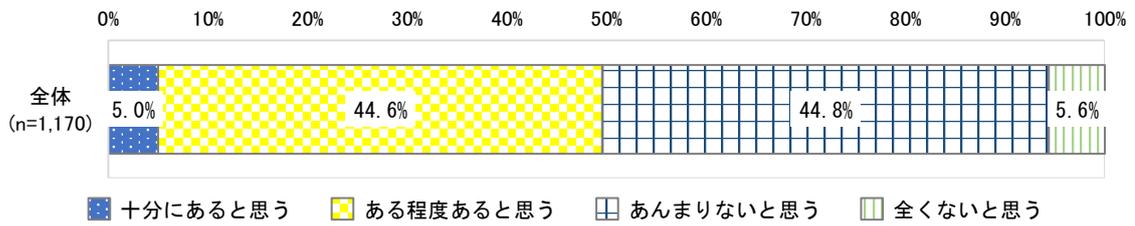
性別でみると、食品の安全性に関する知識が『あると思う「十分にあると思う」+「ある程度あると思う」』は、男性が 45.6%、女性が 58.8%で、女性が 13.2 ポイント上回る。

#### ■H30 年調査



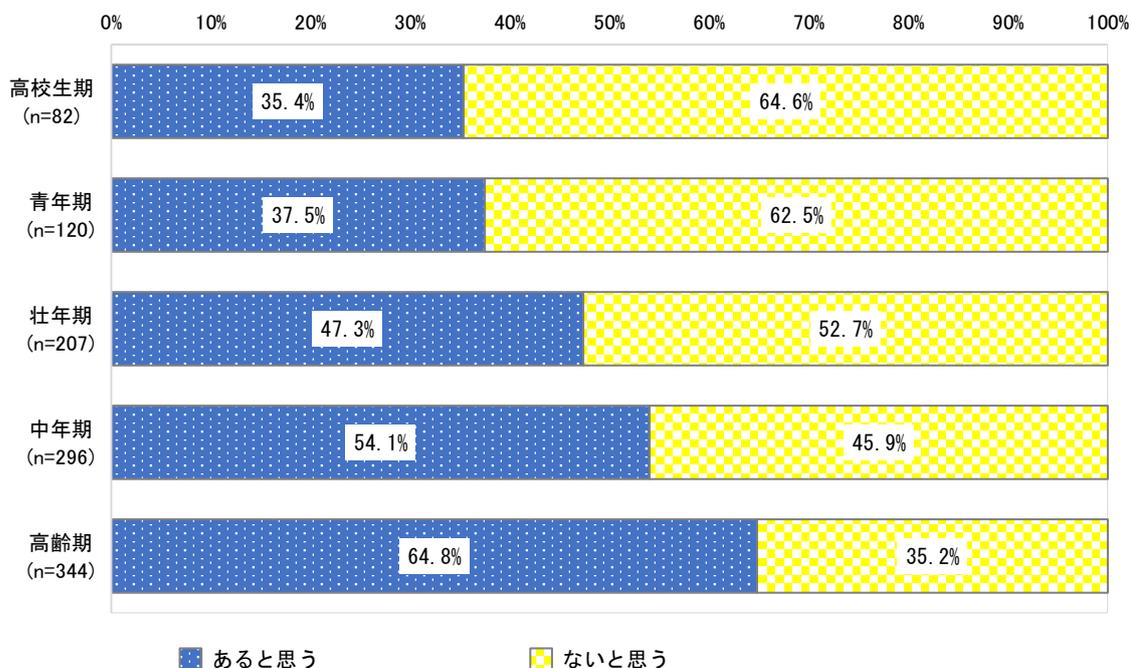


■ H24 年調査

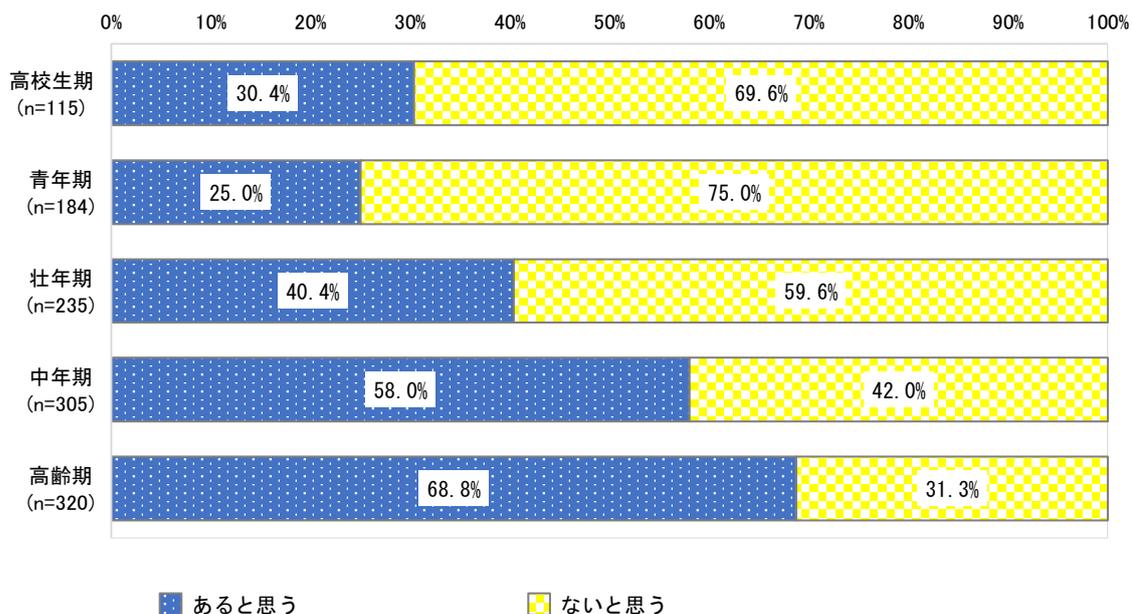


ライフステージ別でみると、食品の安全性に関する知識が『あると思う（「十分にあると思う」＋「ある程度あると思う」）』は、高齢期が64.8%で最も高く、次いで、中年期が54.1%、壮年期が47.3%の順。一方若い世代では、平成24年調査と比較して、「知識があると思う」の割合は高くなっている。

### ■H30年調査



### ■H24年調査



## VI 調査結果 - 食育 -



## 1 「市民自らが育む食」への理解と健全な食生活の実践

熊本市では、市民一人ひとりが自ら食に対する関心と理解を深め、健全な食生活を実践するために、家庭・学校・地域が連携し、食育の推進に向けた取組を進めている。1) 家庭における食育の推進では、食育への関心は若干上昇したものの、朝食の欠食率は伸び悩んでいる。2) 学校・保育所・幼稚園等における食育の推進では、体験型活動や食育の啓発活動に取り組んでいる。3) 職場・大学等における食育の推進では、講座の開催を進めている。今後、いかに関心・実践・継続へ結びつけていくかが課題となっている。

### 1) 家庭における食育の推進

「食」の基本は家庭にある。「食育に関心がある市民の割合」は7割を超えるが目標と大きな開きがある。また、食事のとき「楽しい」と感じる人は7割、共食の回数は9回と平成24年調査を若干下回る。「1週間あたりの朝食の欠食率」では、20歳代男性では改善傾向がみられるものの、全世代平均と比べると依然高い状況にある。引き続き、食育への関心を高め、「共食」を進めることで、家庭において子どもの頃からの食育の推進を図ることが求められる。

#### (1) 食育に関心がある市民の割合

20歳以上の食育に関心がある市民の割合は77.1%。平成24年調査と比較して3.7ポイント上昇したものの、目標を12.9ポイント下回る。

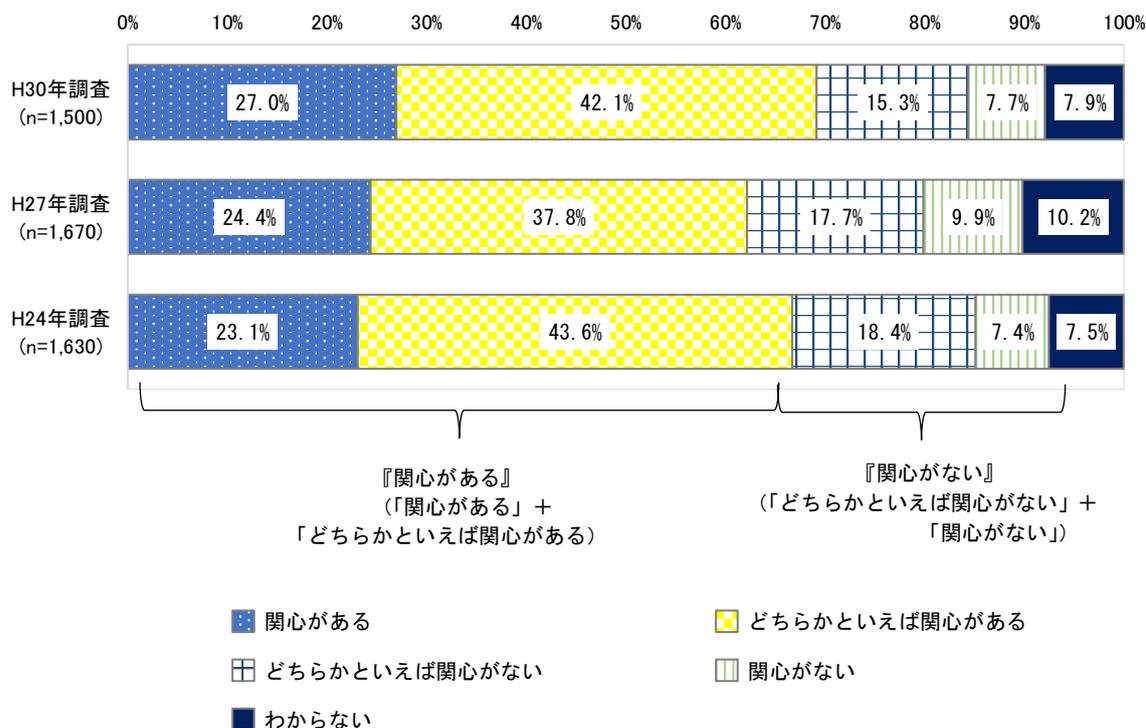
項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(H30年・目標)
○食育に関心がある市民の割合	73.4%	69.1%	77.1%	90%

※20歳以上の回答者で、「関心がある」+「どちらかと言えば関心がある」を選択した割合

## <調査結果>

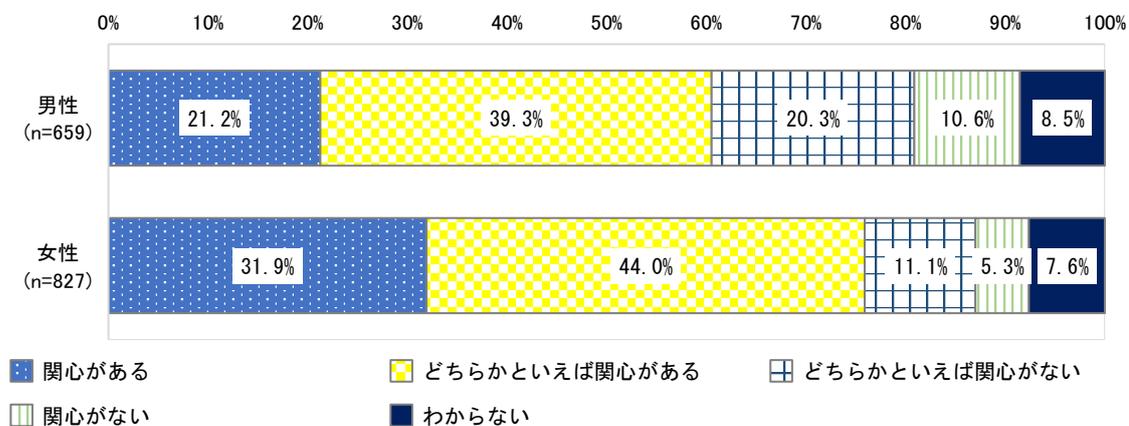
### ■食育への関心 〈6歳以上〉

6歳以上でみると、「関心がある」は27.0%、「どちらかといえば関心がある」は42.1%と、合わせて69.1%が『関心がある』としている。平成24年調査と比較して、2.4ポイント上回り、微増傾向である。

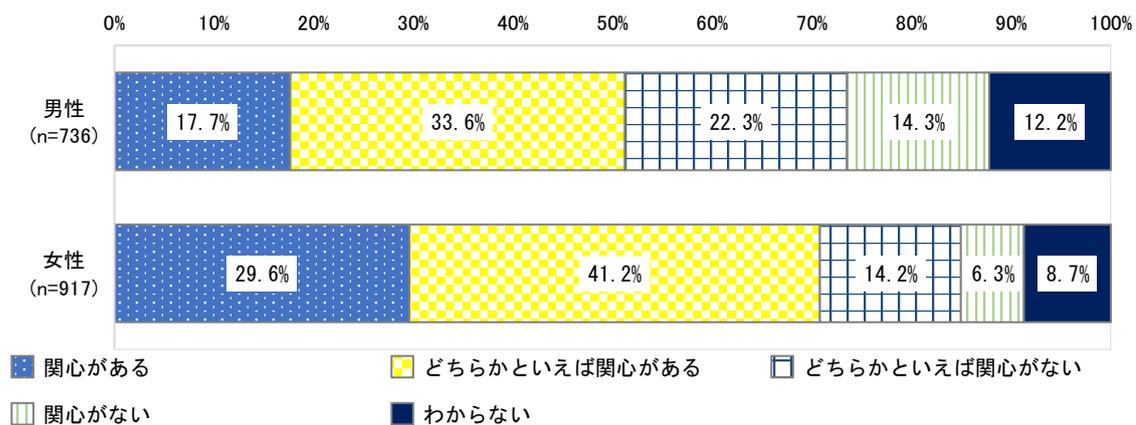


性別でみると、食育に『関心がある（「関心がある」 + 「どちらかといえば関心がある」）』の割合は、男性が60.5%、女性が75.9%で、女性が15ポイント以上上回る。

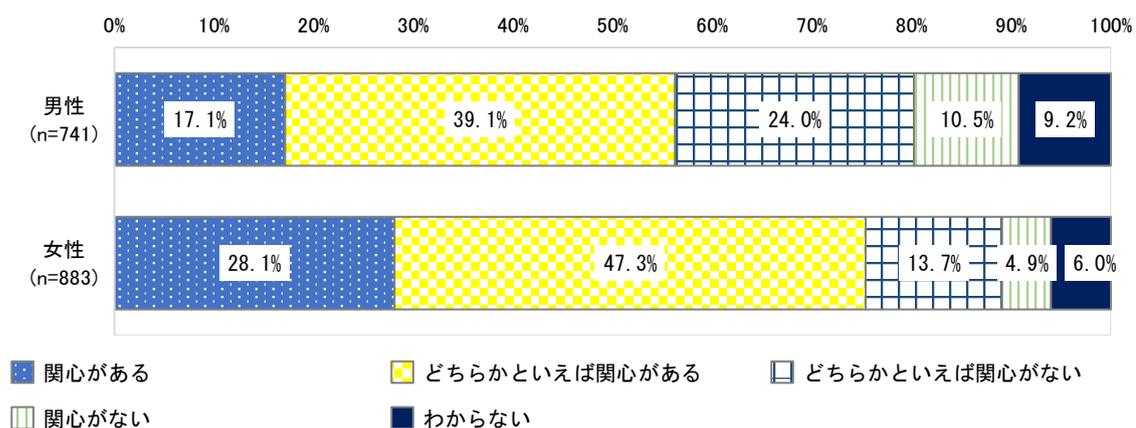
### ■H30年調査



■ H27 年調査

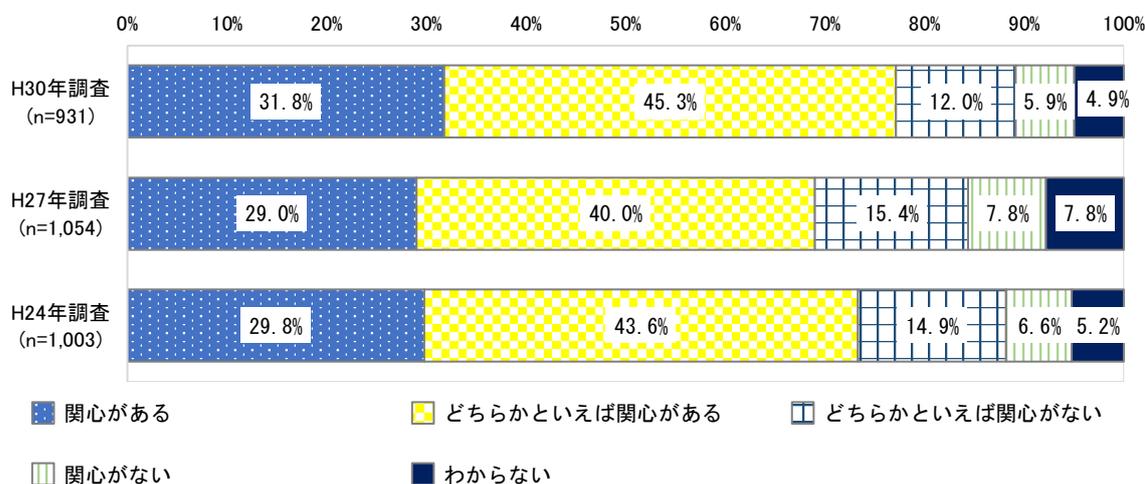


■ H24 年調査



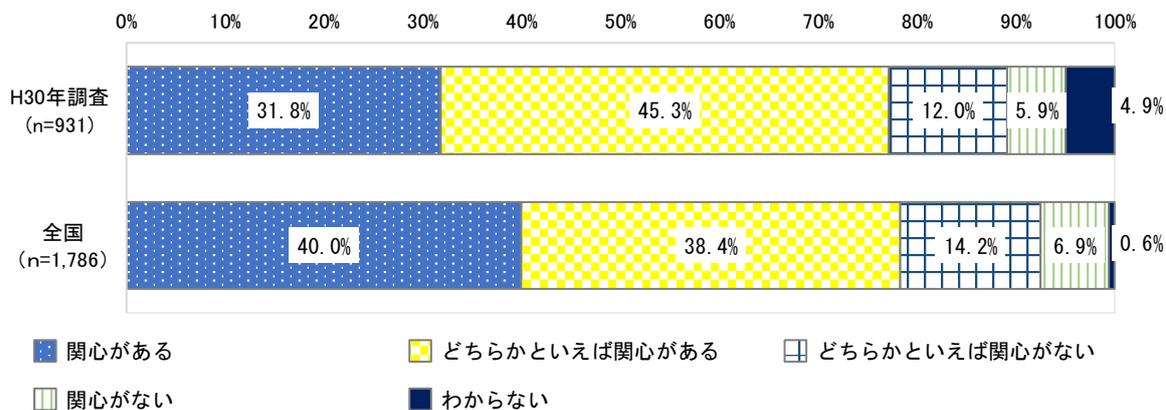
20歳以上で、食育に『関心がある（「関心がある」＋「どちらかといえば関心がある」）』人は77.1%。平成24年調査と比較して3.7ポイント上回る。

【20歳以上】



20歳以上で、食育に『関心がある（「関心がある」＋「どちらかといえば関心がある」）』人の割合は、全国と比較して大きな差はみられない。

【20歳以上】

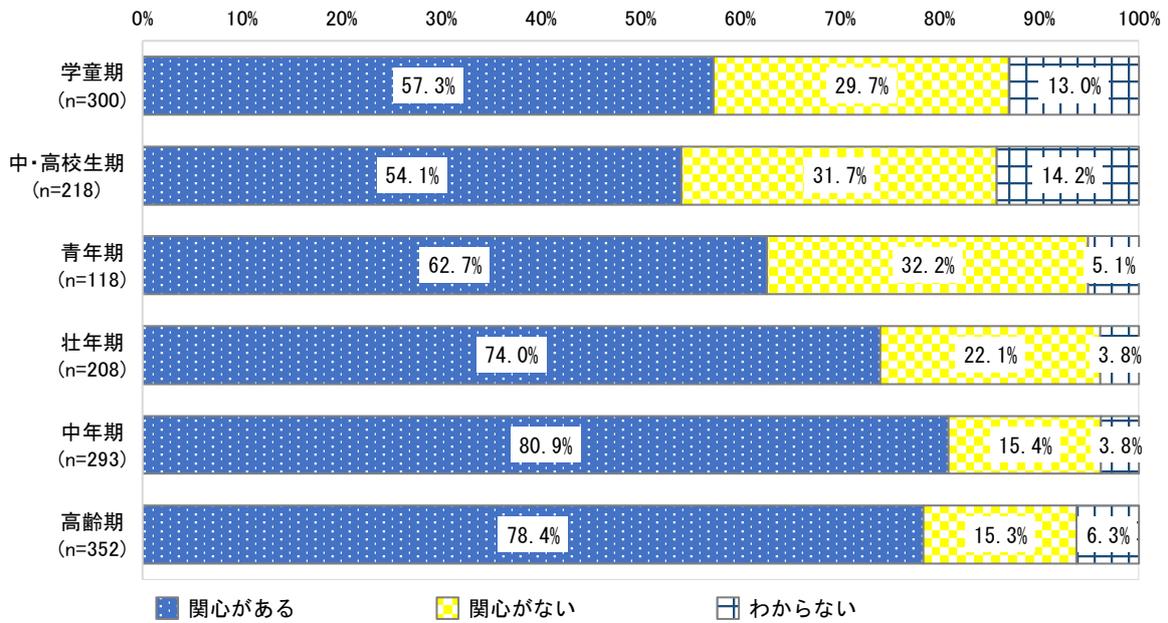


※全国データは農林水産省「食育に関する意識調査」(H30)

ライフステージ別で見ると、『関心がある(「関心がある」+「どちらかといえば関心がある」)』人の割合は、壮年期、中年期、高齢期では7割を超えているが、学童期と中・高校生期では5割台に留まる。

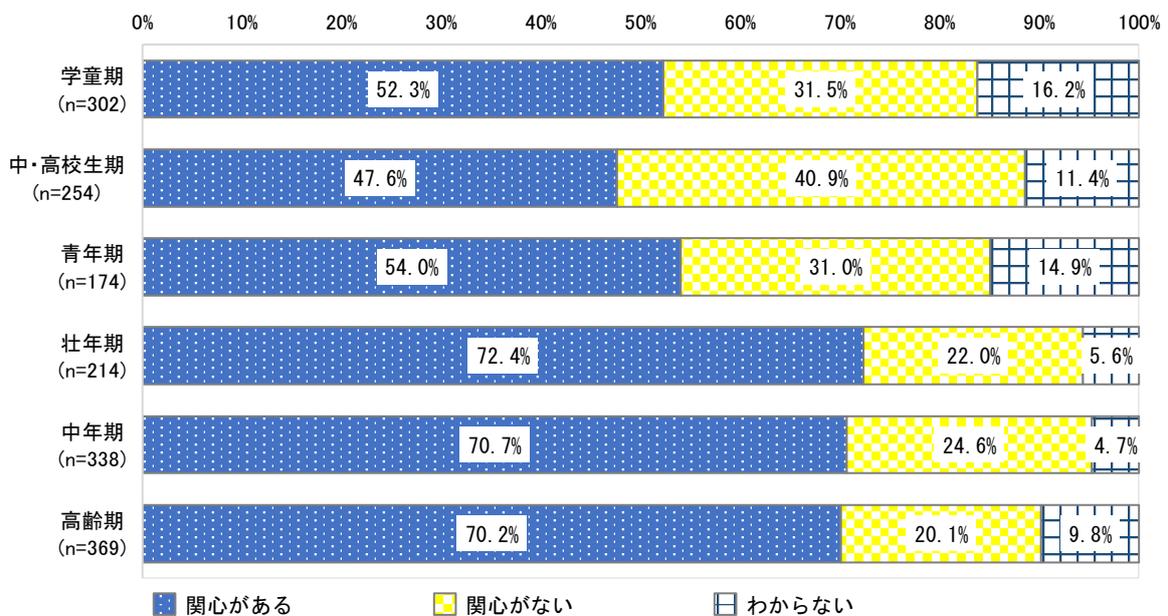
平成24年調査と比較して、大きな変化は見られない。

### ■H30年調査

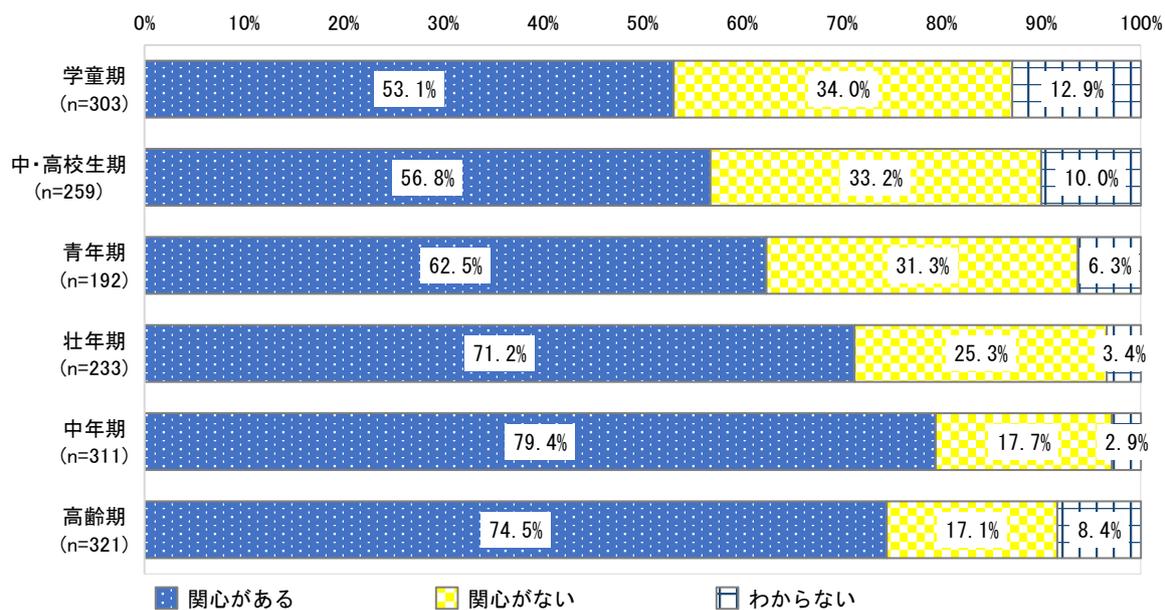


※食育に『関心がある』は「関心がある」+「どちらかといえば関心がある」、  
『関心がない』は「関心がない」+「どちらかといえば関心がない」

### ■H27年調査



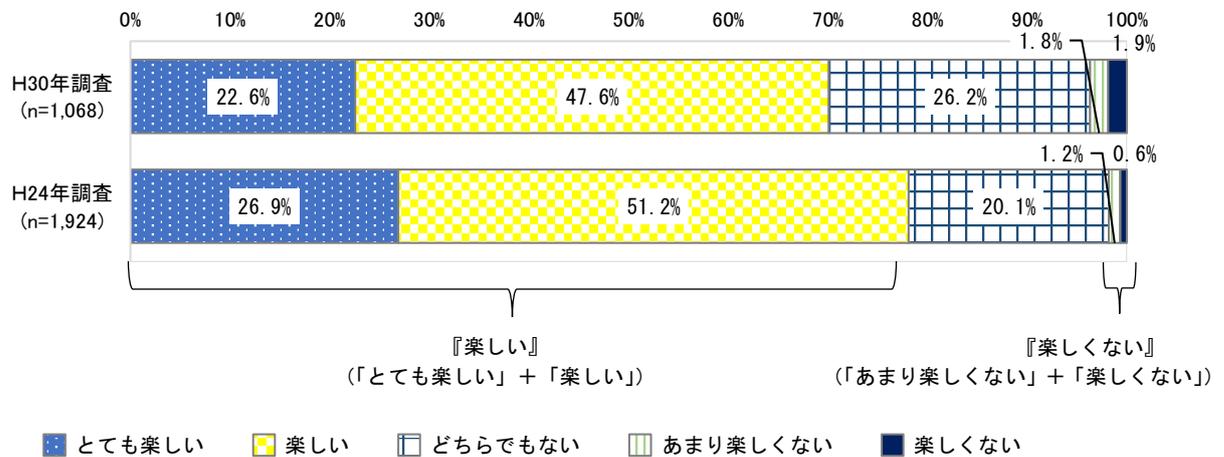
■ H24 年調査



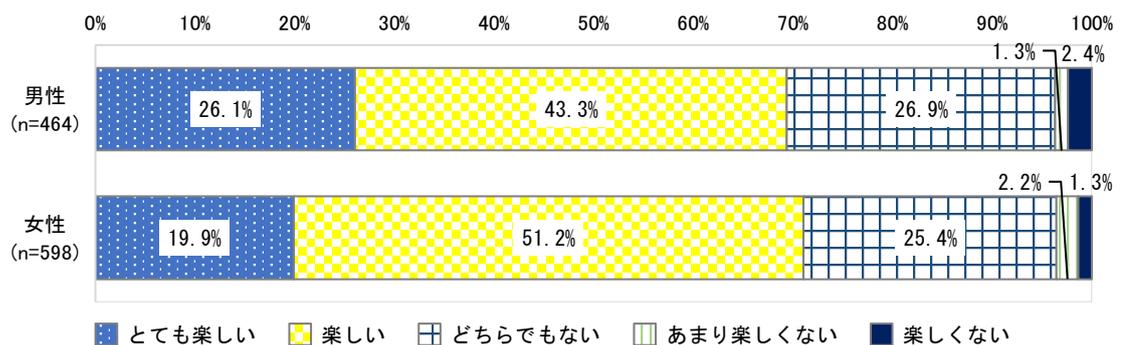
## ■食事のとき楽しいですか 〈15歳以上〉

食事のとき「とても楽しい」と回答した人は22.6%、「楽しい」は47.6%と、合わせて70.2%が『楽しい』としている。

性別でみると、大きな差はみられない。

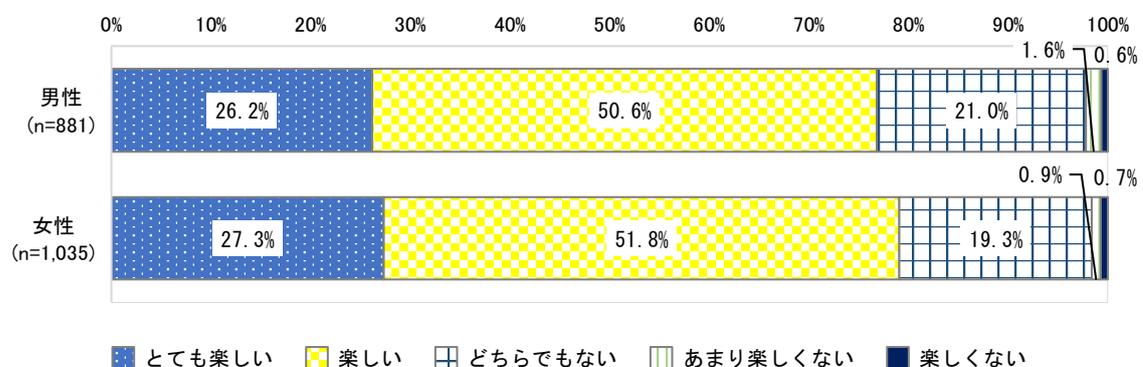


### ■H30年調査

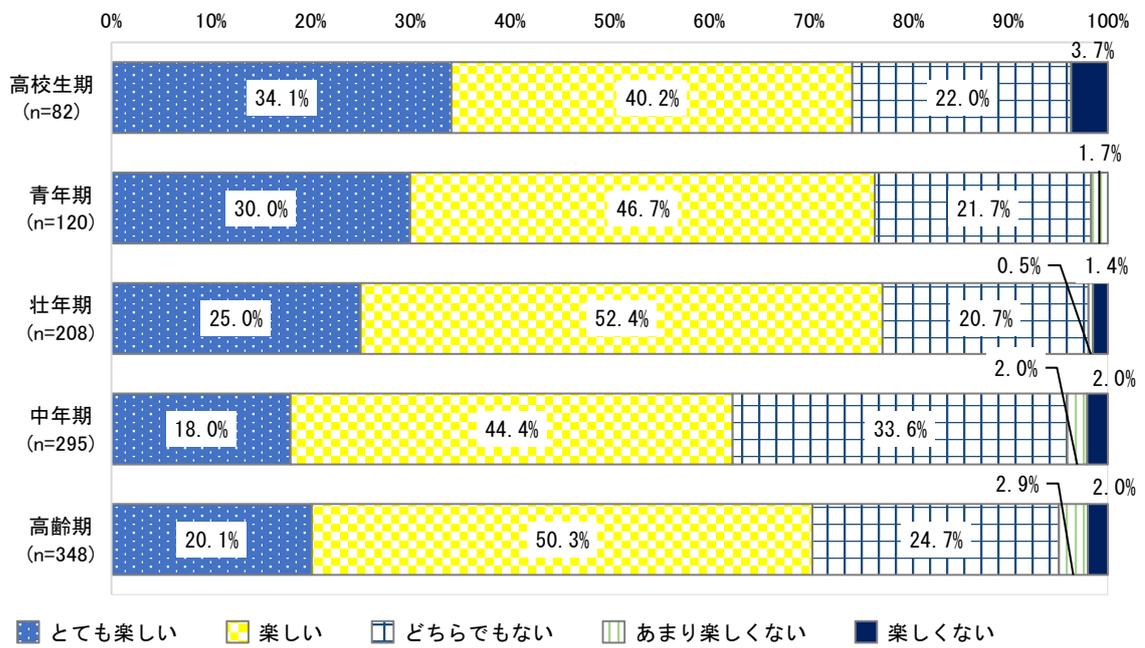


※『楽しい』は「とても楽しい」 + 「楽しい」、  
 ※『楽しくない』は「あまり楽しくない」 + 「楽しくない」

### ■H24年調査

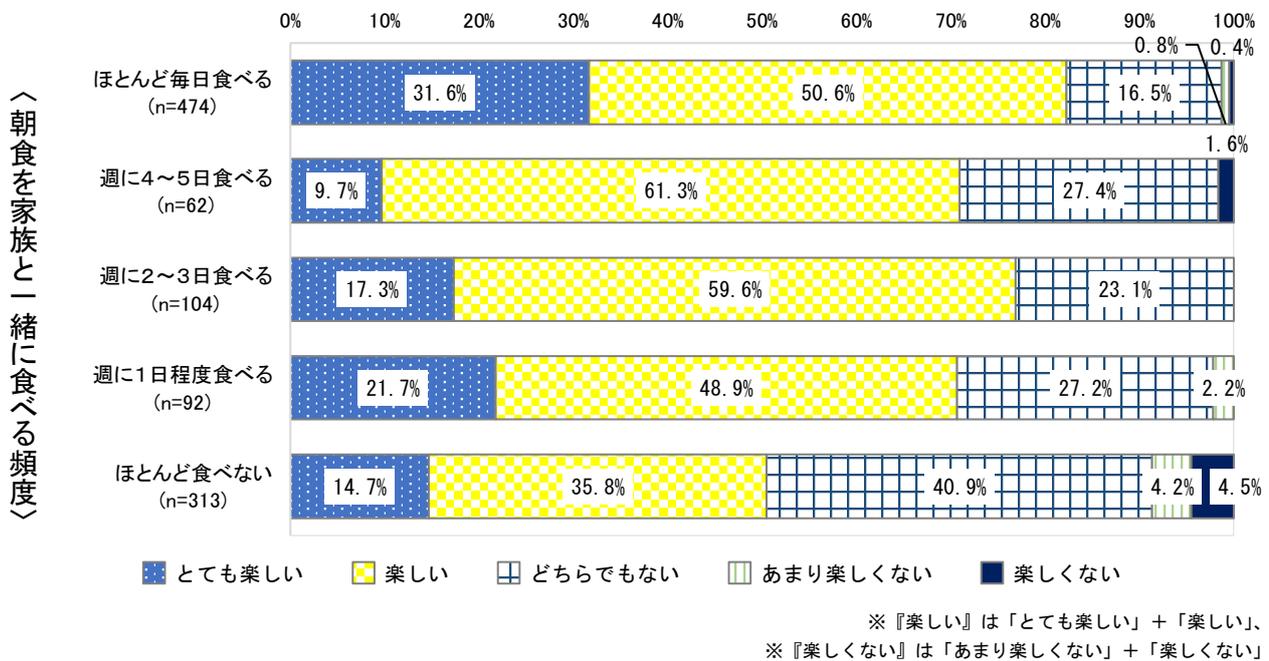


ライフステージ別でみると、食事が『楽しい（「とても楽しい」＋「楽しい」）』の割合は、中年期が6割で最も低いものの、他のライフステージにおいても7割程度であり、大きな差はみられない。



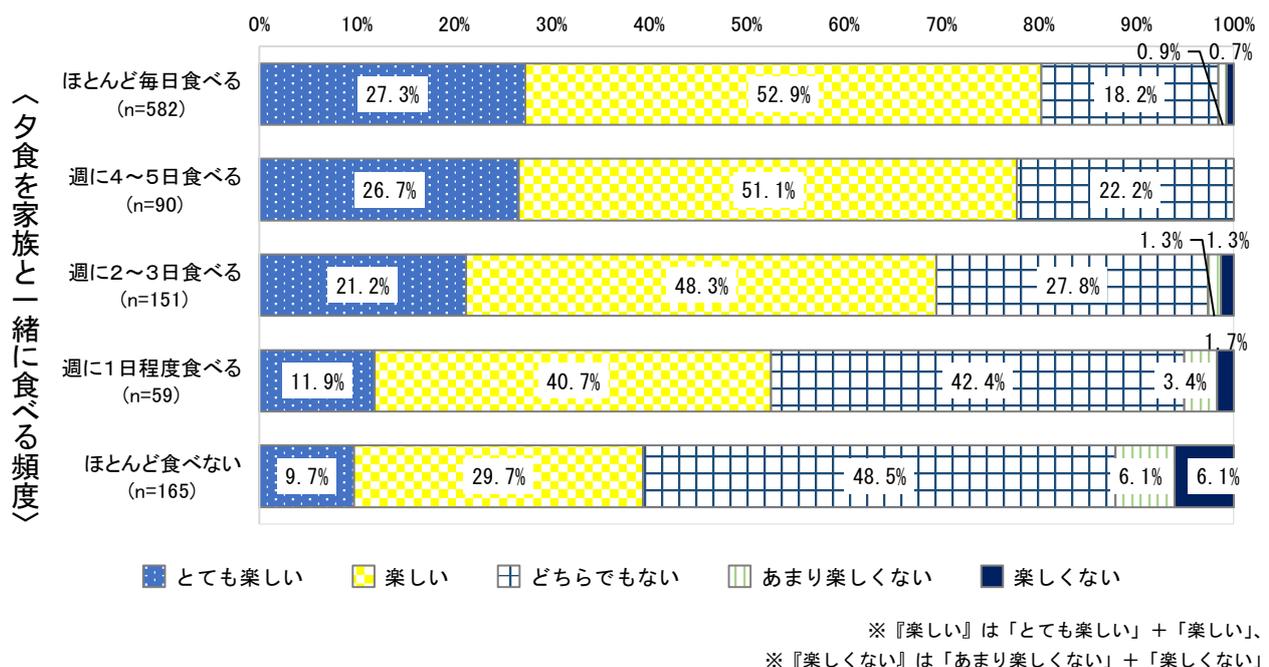
「朝食を家族と一緒に食べる頻度」との関係を見ると、食事が『楽しい（「とても楽しい」＋「楽しい」）』人の割合は、「ほとんど毎日食べる」が80%台、「ほとんど食べない」が50%台となり、一緒に食べる頻度が増加するにつれ『楽しい』の割合が高い傾向にある。

〈食事が楽しいか〉



「夕食を家族と一緒に食べる頻度」との関係を見ると、『楽しい（「とても楽しい」＋「楽しい」）』人の割合は、「ほとんど毎日食べる」が8割、「週に4~5日食べる」が7割であるものの、「ほとんど食べない」は約4割に留まる。

〈食事が楽しいか〉



## (2) 「朝食又は夕食を家族と一緒に食べる」共食の回数の増加

「朝食又は夕食を家族と一緒に食べる」共食の回数は1週間で9回となり、平成24年調査と比較して1回減少。

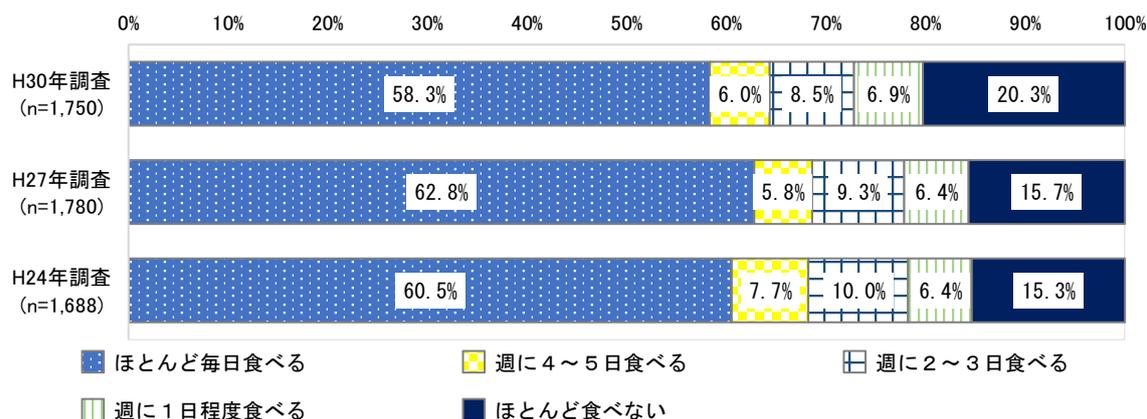
項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(H30年・目標)
○「朝食又は夕食を家族と一緒に食べる」共食の回数の増加 ※1週間のうち朝食又は夕食を家族と一緒に食べる回数	10回	10回	9回	さらに増加

※20歳以上の回答者で、朝食・夕食それぞれで「ほとんど毎日食べる」を7回、「週に4～5日食べる」を5回、「週に2～3日食べる」を3回、「週に1日程度食べる」を1回、「ほとんど食べない」を0回とし、各選択肢の回答者数と乗じたものの合計を回答者数の総数で割り、朝食・夕食の平均回数を算出。朝食・夕食の平均回数を足しあわせた数値を共食の回数としている。

### <調査結果>

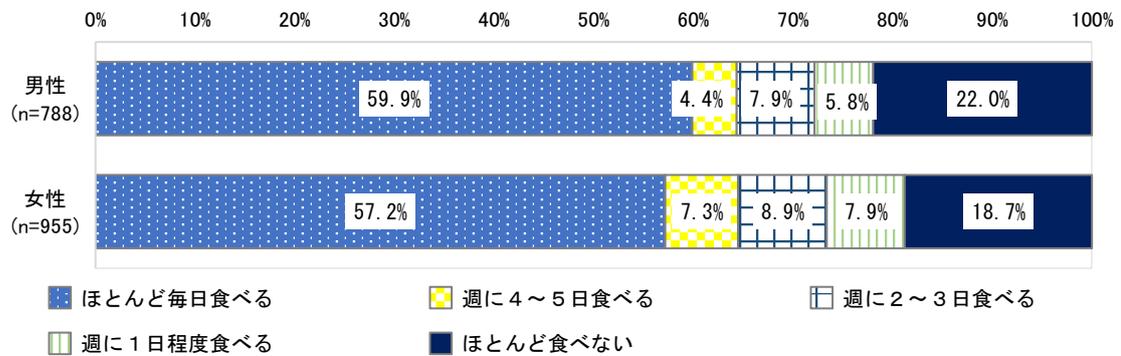
#### ■朝食を家族と一緒に食べる頻度 〈0歳を除く〉

朝食を家族と一緒に食べる頻度は、「ほとんど毎日食べる」は58.3%、「週に4～5日食べる」は6.0%と、合わせて64.3%が『共食している』とし、平成24年調査と比較して3.9ポイント下回る。

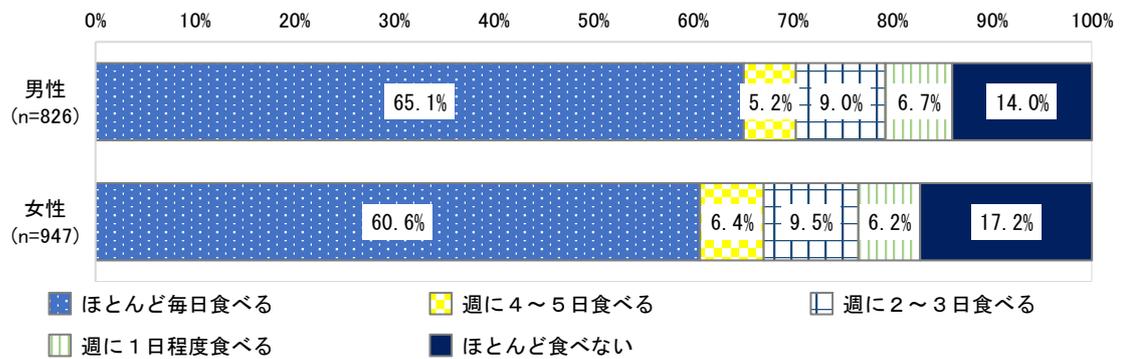


性別でみると、『共食している（「ほとんど毎日食べる」＋「週に4～5日食べる」）』人の割合は、平成24年調査と比較して、男女ともに減少しており、男女差はみられない。

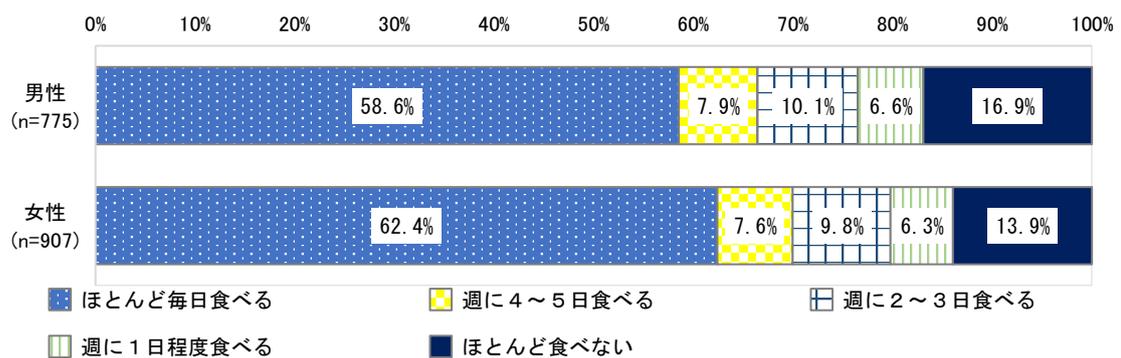
### ■H30年調査



### ■H27年調査

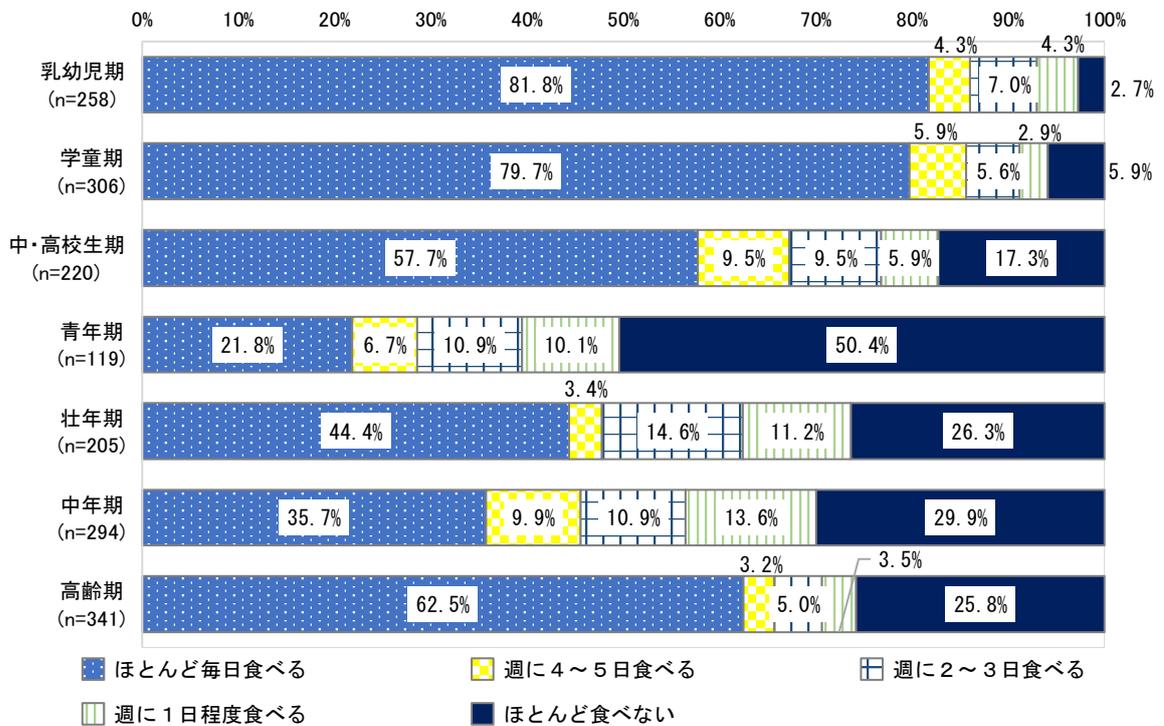


### ■H24年調査

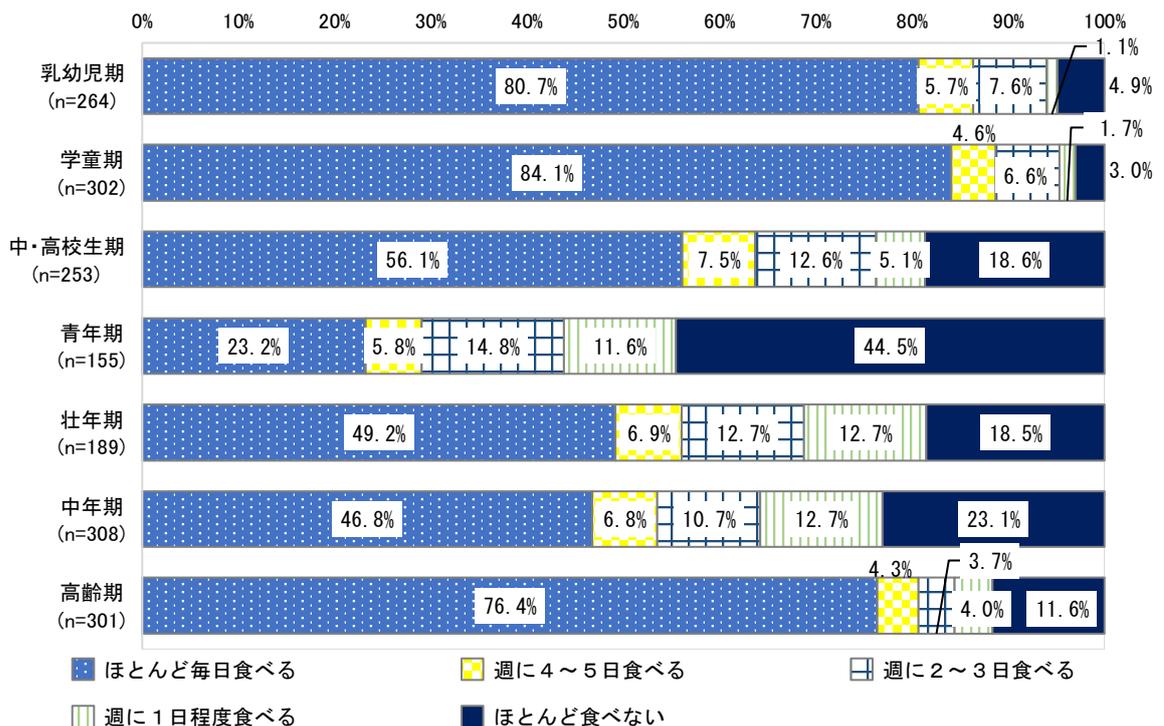


ライフステージ別でみると、『共食している（「ほとんど毎日食べる」＋「週に4～5日食べる」）』人の割合は、乳幼児が86.1%と最も高く、青年期が28.5%と最も低い。平成24年調査と比較して、中年期、高齢期では「ほとんど毎日食べる」が約17ポイントと大幅に下回る。

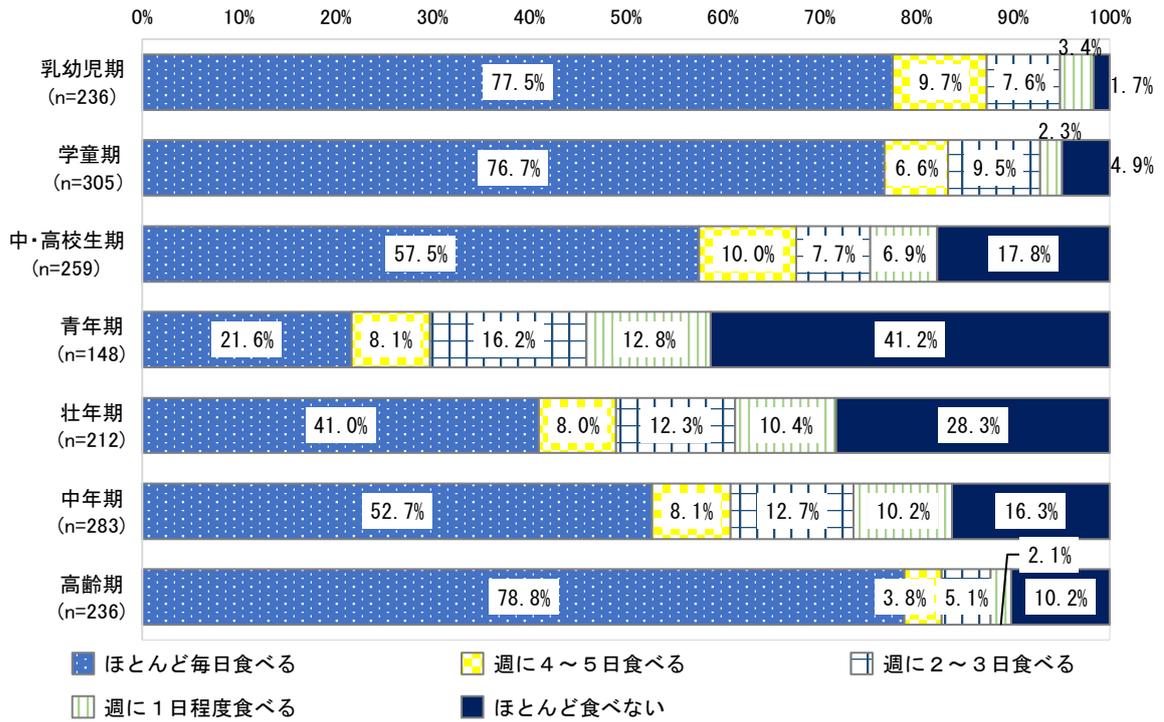
### ■H30年調査



### ■H27年調査

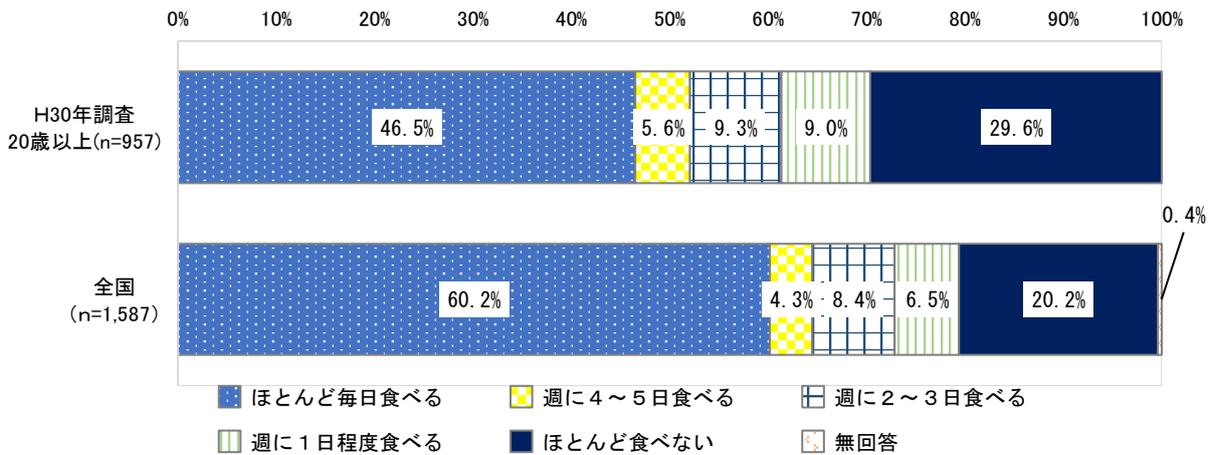


■ H24 年調査



朝食を家族と一緒に食べる頻度を20歳以上で見ると、『共食している(「ほとんど毎日食べる」+「週に4~5日食べる」)』人の割合は52.1%で、全国平均(64.5%)と比較して、12.4ポイントと大幅に下回る。

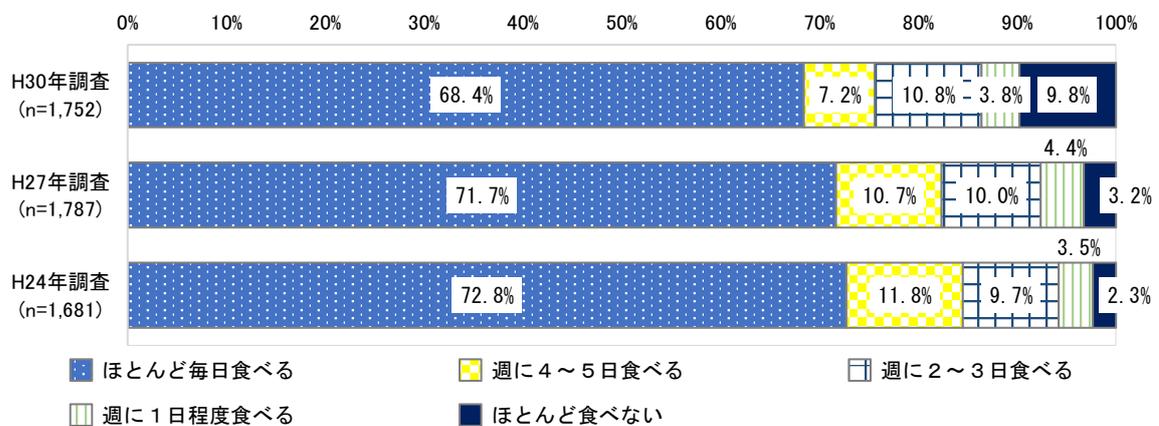
【20歳以上】



※全国データは農林水産省「食育に関する意識調査」(H30)

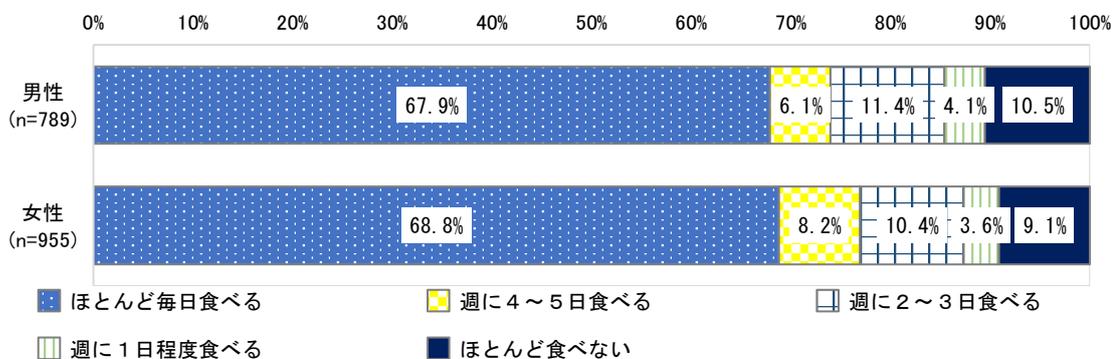
## ■夕食を家族と一緒に食べる頻度 〈0歳を除く〉

夕食を家族と一緒に食べる頻度について、『共食している（「ほとんど毎日食べる」＋「週に4～5日食べる」）』人の割合は75.6%で、平成24年調査と比較して9.0ポイント下回る。

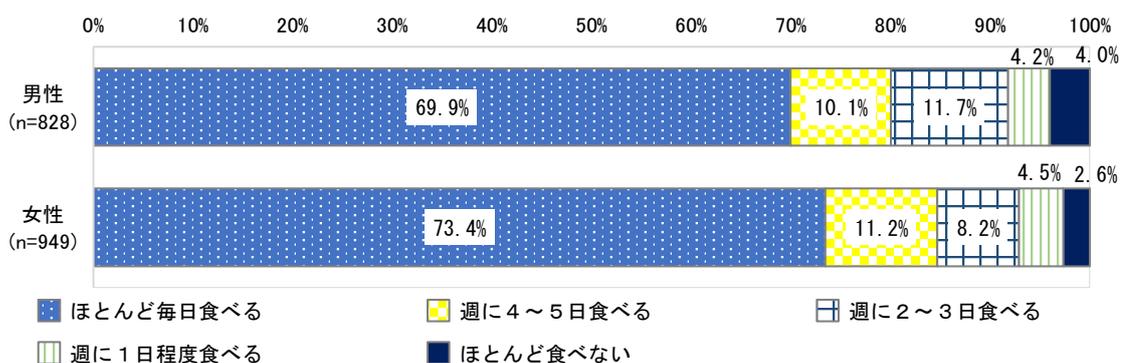


性別でみると、男性が74.0%、女性が77.0%で、男女差はみられない。また、平成24年調査と比較して、男女ともに下回る。

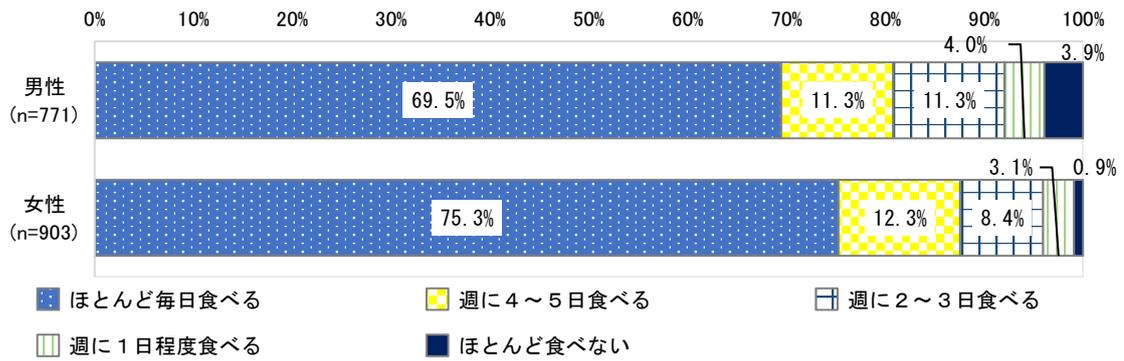
### ■H30年調査



### ■H27年調査



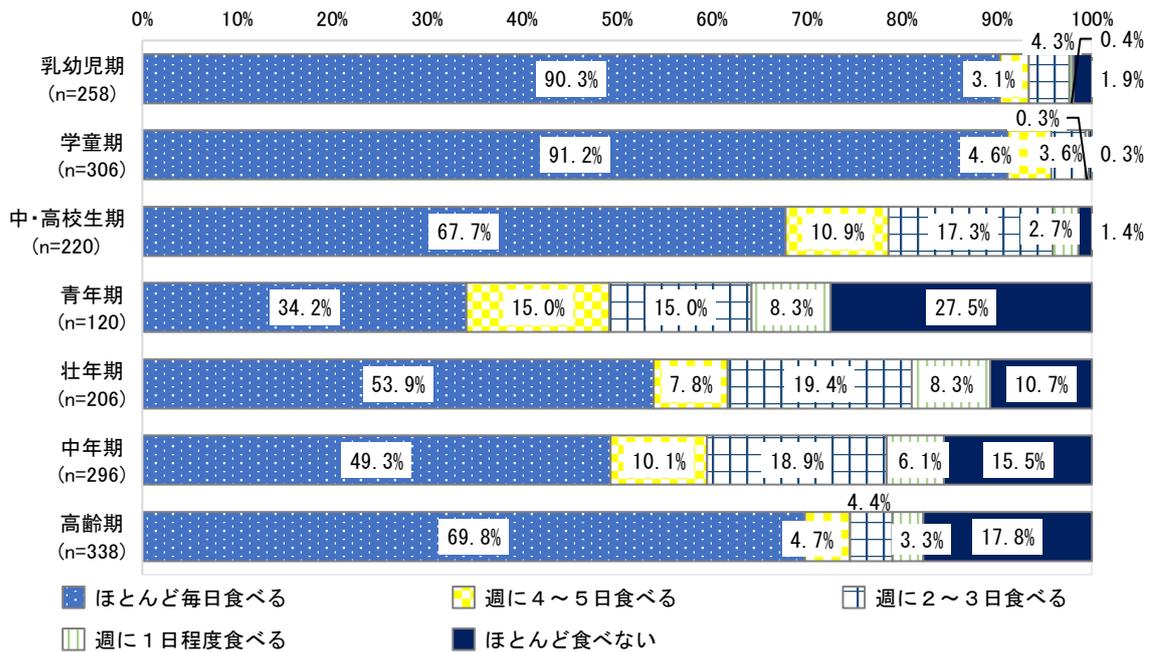
## ■ H24 年調査



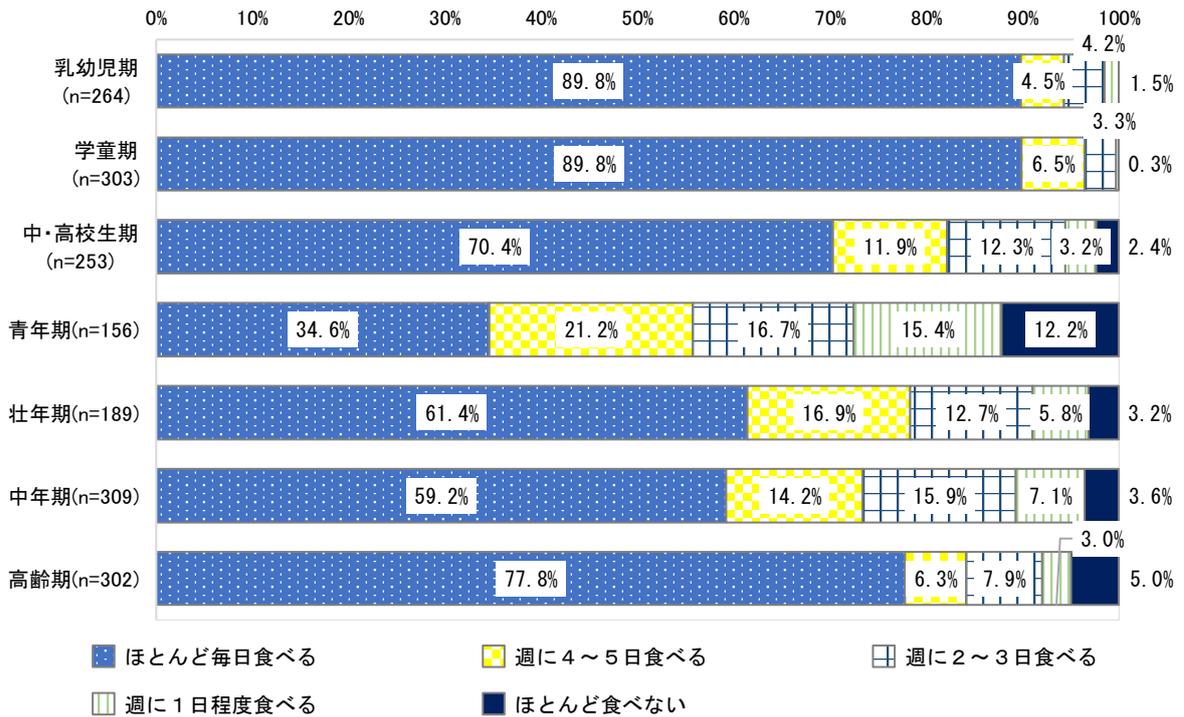
ライフステージ別で見ると、『共食している（「ほとんど毎日食べる」＋「週に4～5日食べる」）』人の割合は、学童期が95.8%と最も高く、青年期は49.2%と最も低い。壮年期からは再び増加し、高齢期では74.5%となる。

平成24年調査と比較して、中年期・高齢期で『共食している（「ほとんど毎日食べる」＋「週に4～5回食べる」）』人の割合は、約20ポイント下回る。

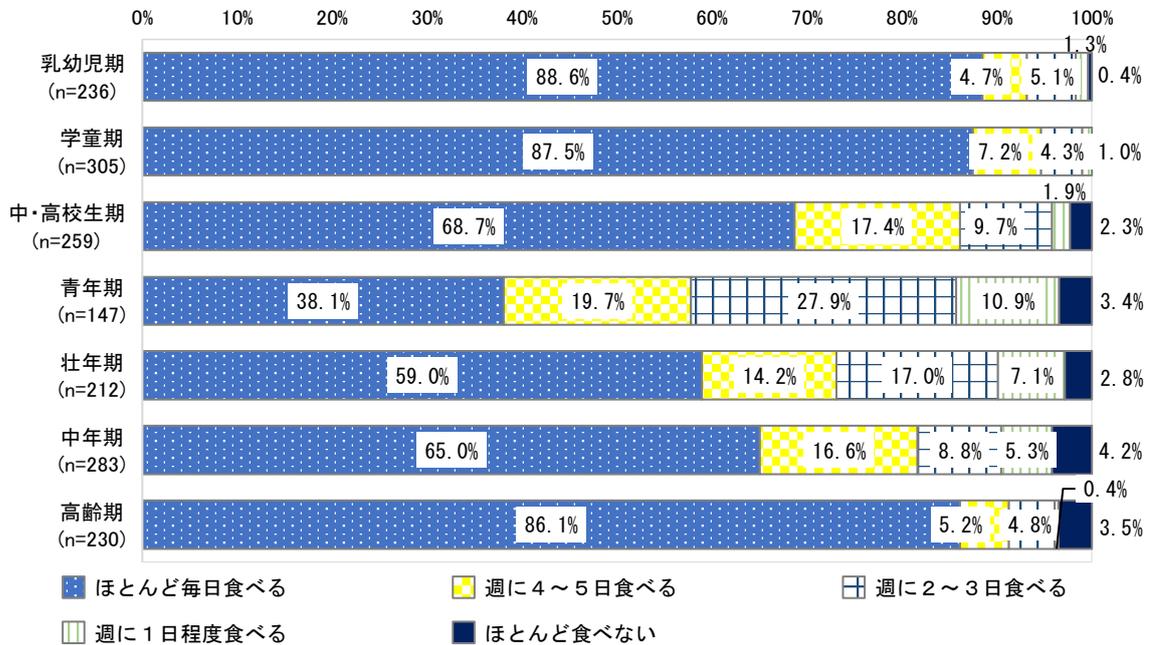
## ■ H30 年調査



## ■ H27 年調査

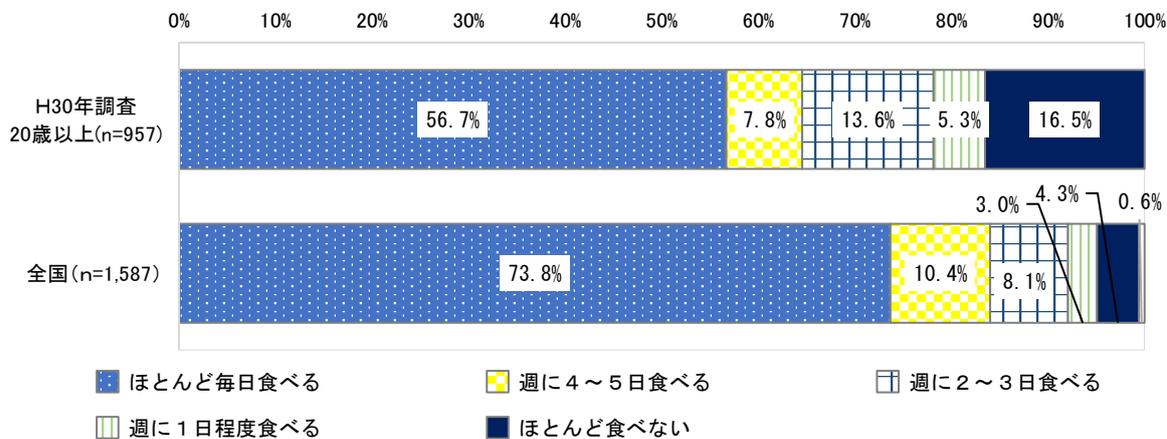


## ■ H24 年調査



夕食を家族と一緒に食べる頻度について全国と比較すると、『共食している（「ほとんど毎日食べる」＋「週に4～5日食べる」）』人の割合は、本市が64.5%、全国が84.2%となり、本市が19.7ポイントと大幅に下回る。

【20歳以上】



※全国データは農林水産省「食育に関する意識調査」(H30)

(3) 1週間当たりの朝食の欠食率

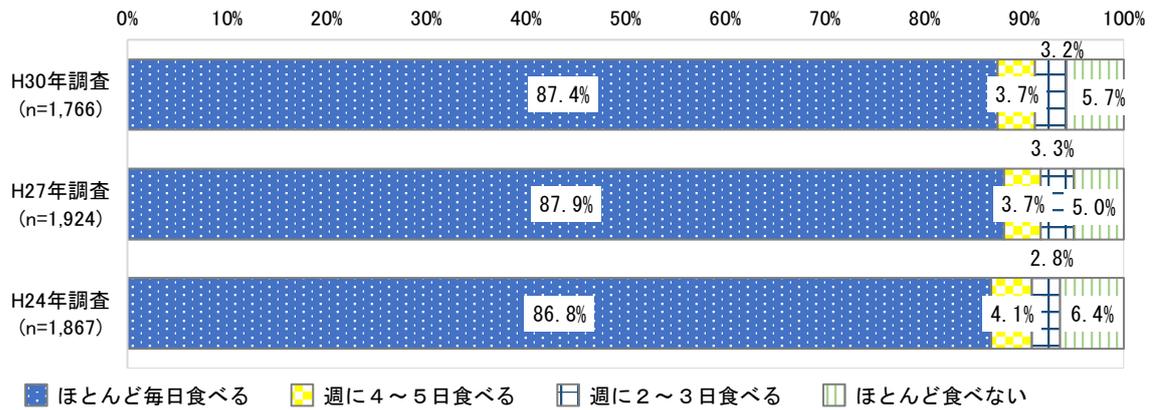
平成24年調査と比較して、幼児期、20歳代男性、30歳代男性及び高齢者は目標に近づいたものの、その他の世代については欠食率が増加した。

項目		(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(H30年・目標)
○1週間あたりの朝食の欠食率 ※幼児期は毎日食べている割合	幼児期(1歳～5歳)	95.3%	96.2%	97.3%	100%
	小学5年生	0.9%	0.9%	1.7%	0%
	中学2年生	2.0%	2.6%	4.2%	0%
	20歳代男性	29.4%	22.6%	20.0%	15.0%
	30歳代男性	29.4%	16.2%	26.5%	15.0%
	65歳以上	3.7%	1.8%	3.4%	0%

## <調査結果>

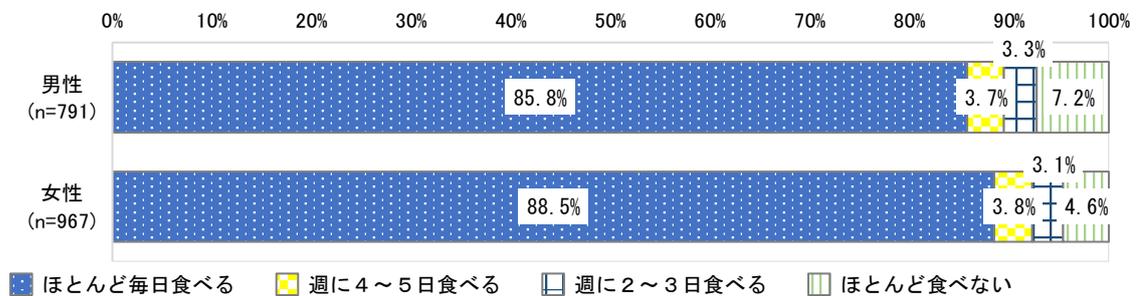
### ■1週間当たりの朝食を食べる頻度（0歳を除く）

1週間当たりの朝食を食べる頻度について、「ほとんど毎日食べる」は87.4%と約9割にせまる。「ほとんど食べない」とする朝食の欠食率は5.7%で、平成24年調査と比較して0.7ポイント下回る。

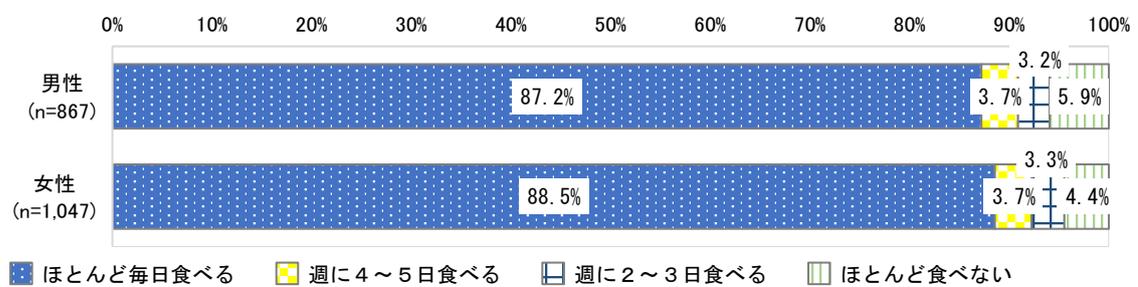


性別でみると、「ほとんど毎日食べる」は男性が 85.8%、女性が 88.5%、朝食の欠食率は男性が 7.2%、女性が 4.6%で、男性の欠食率が高い。

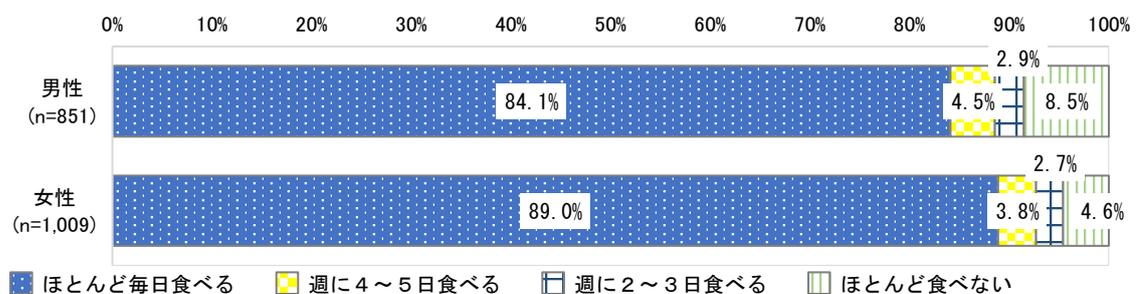
### ■ H30 年調査



### ■ H27 年調査

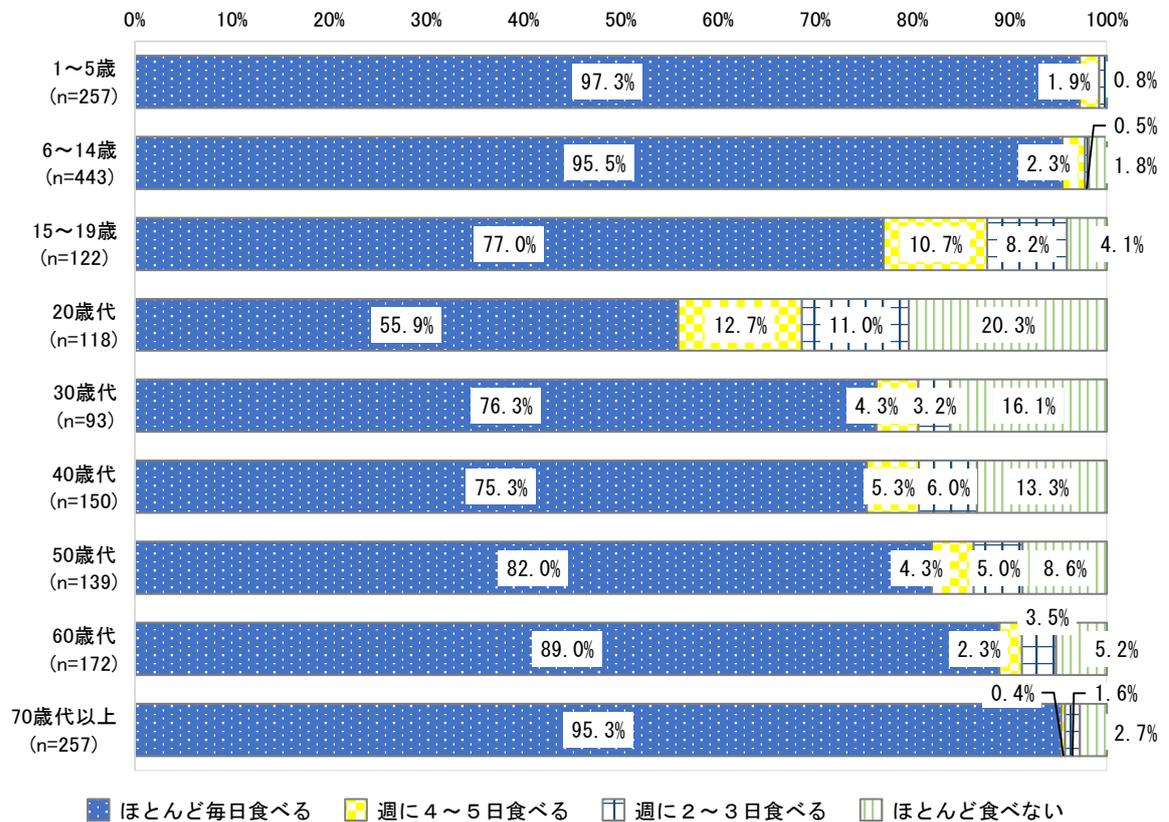


### ■ H24 年調査

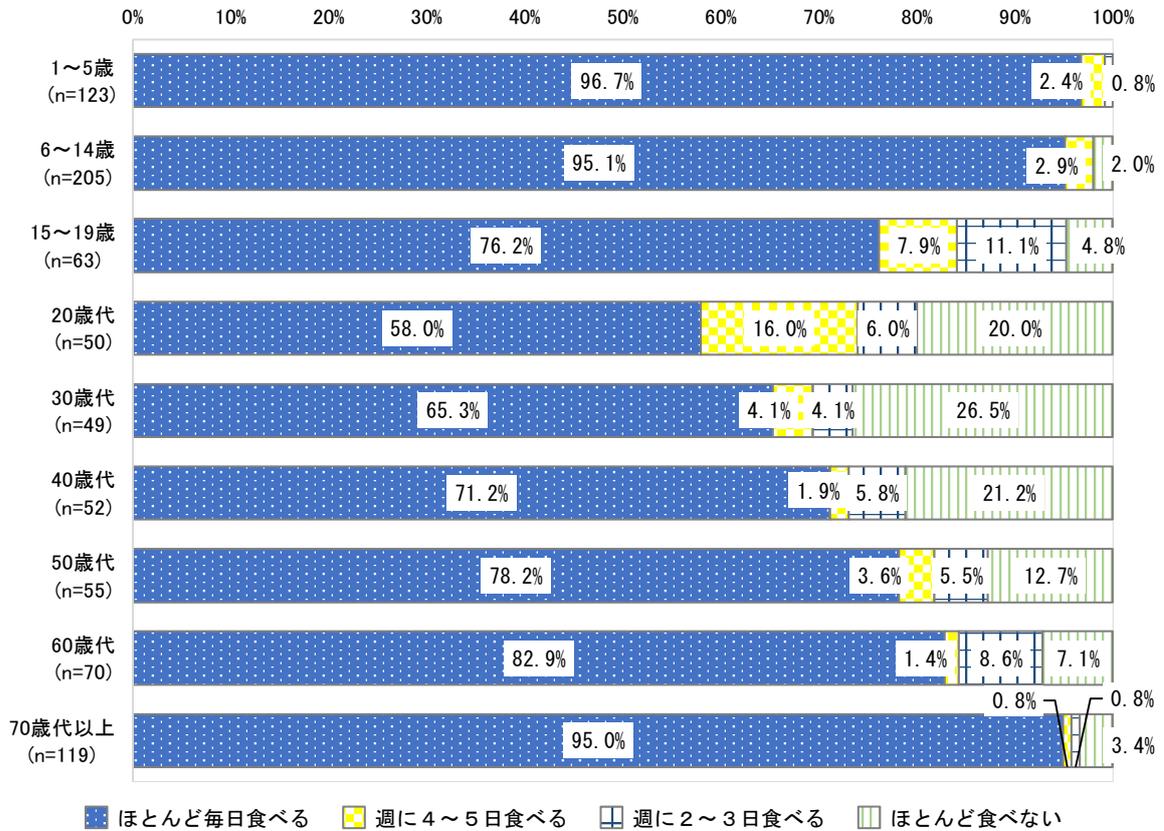


年齢区分別で見ると、「ほとんど食べない」とする朝食の欠食率は、男性では20歳代から増加し始め20.0%、30歳代が26.5%で最も高く、40歳代が21.2%の順。女性では、20歳代が20.6%で最も高く、際立っている。

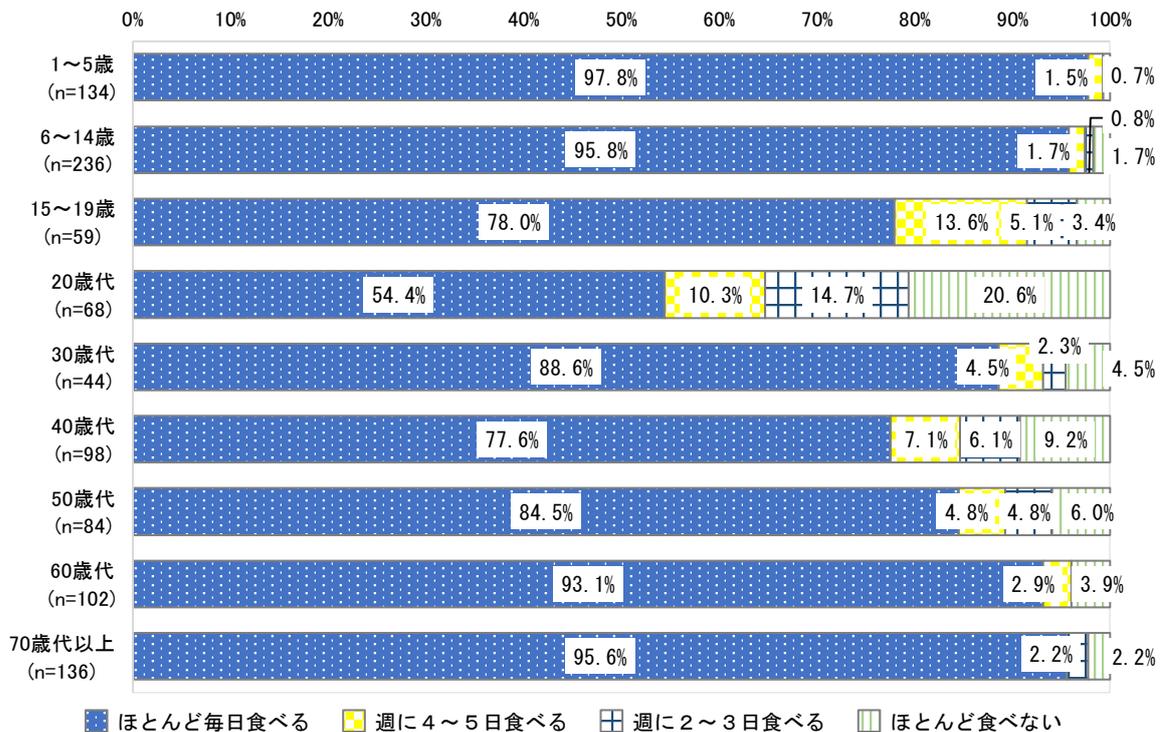
平成24年調査と比較して、男女ともに年代別で見ると同じような傾向にある。



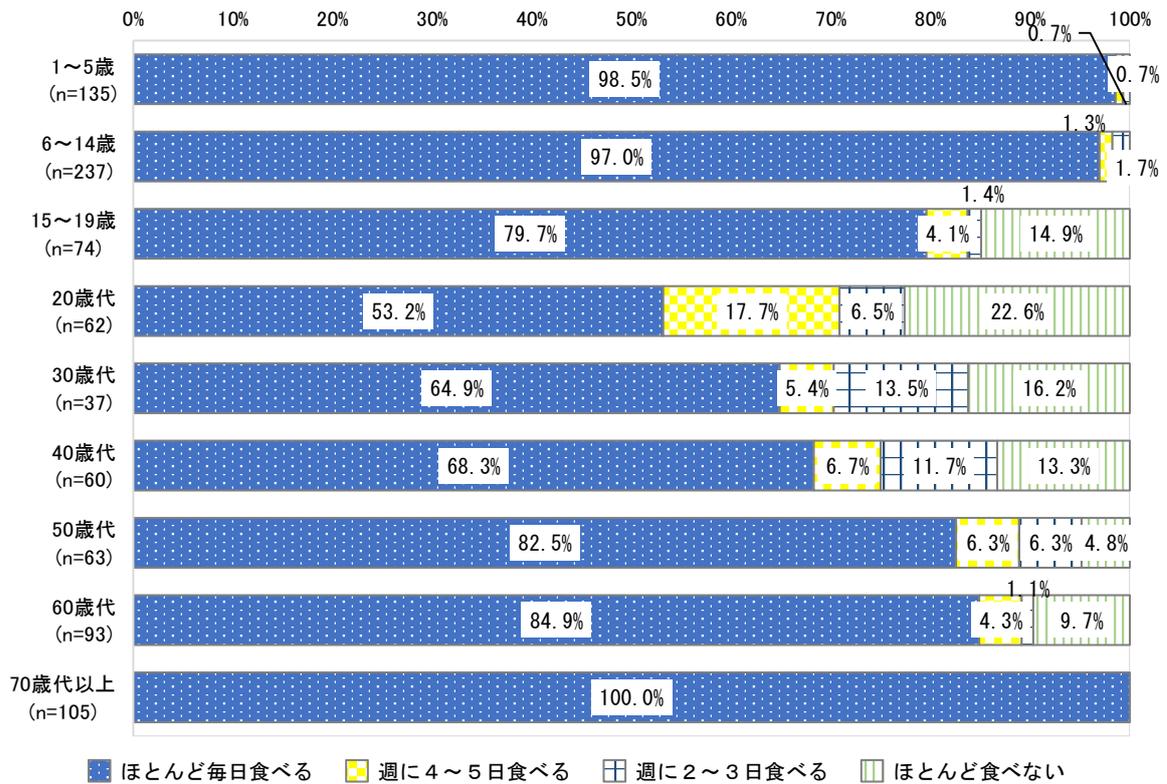
■ H30 年調査 男性



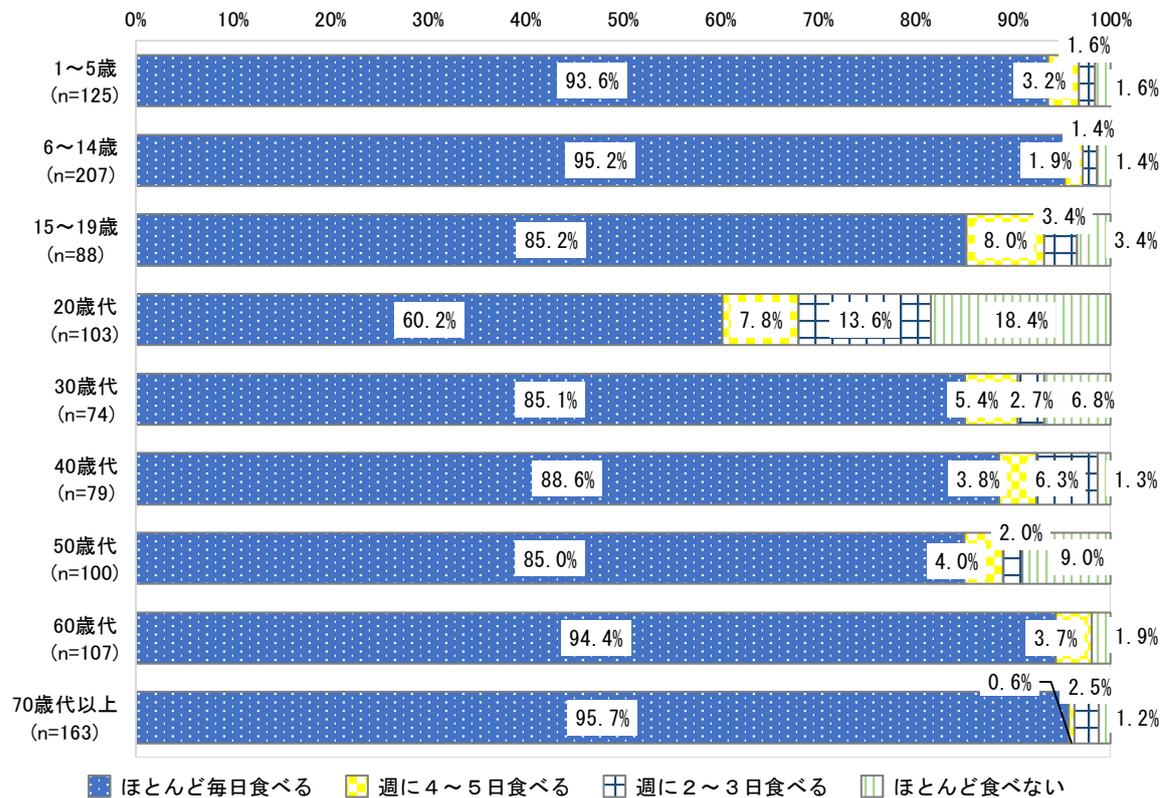
■ H30 年調査 女性



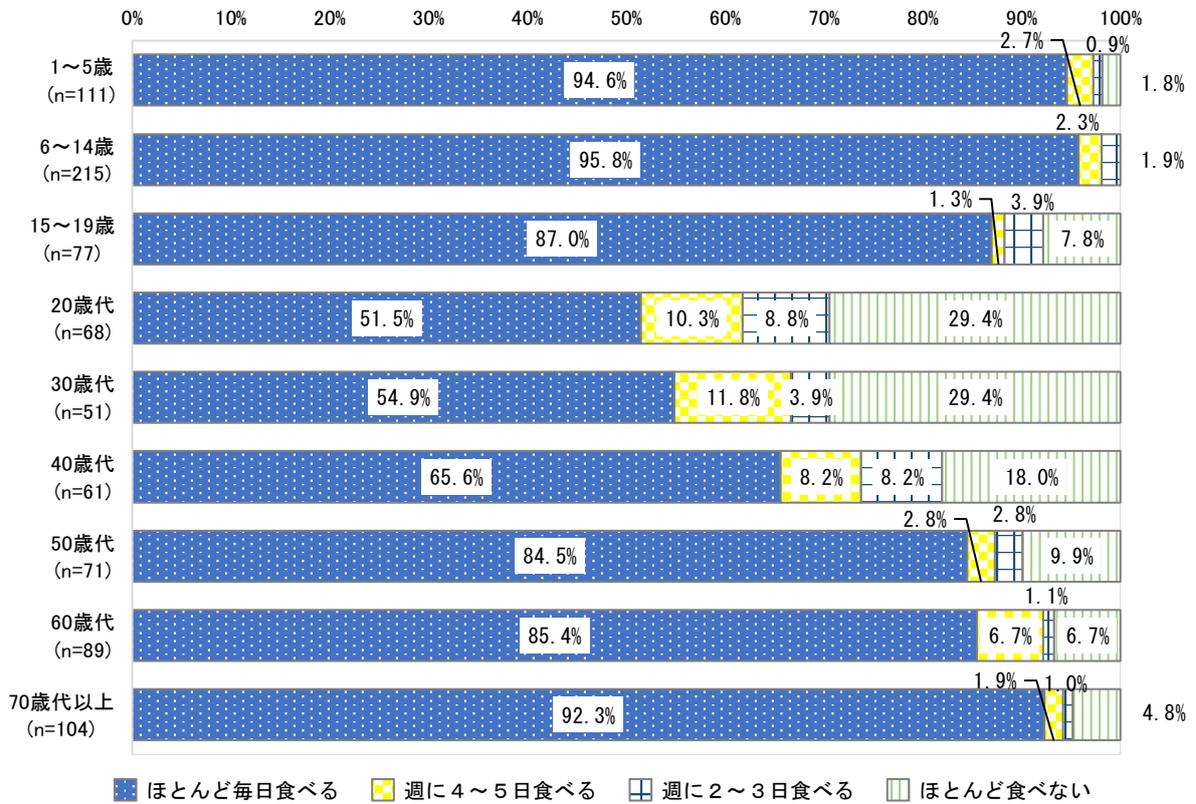
■H27年調査 男性



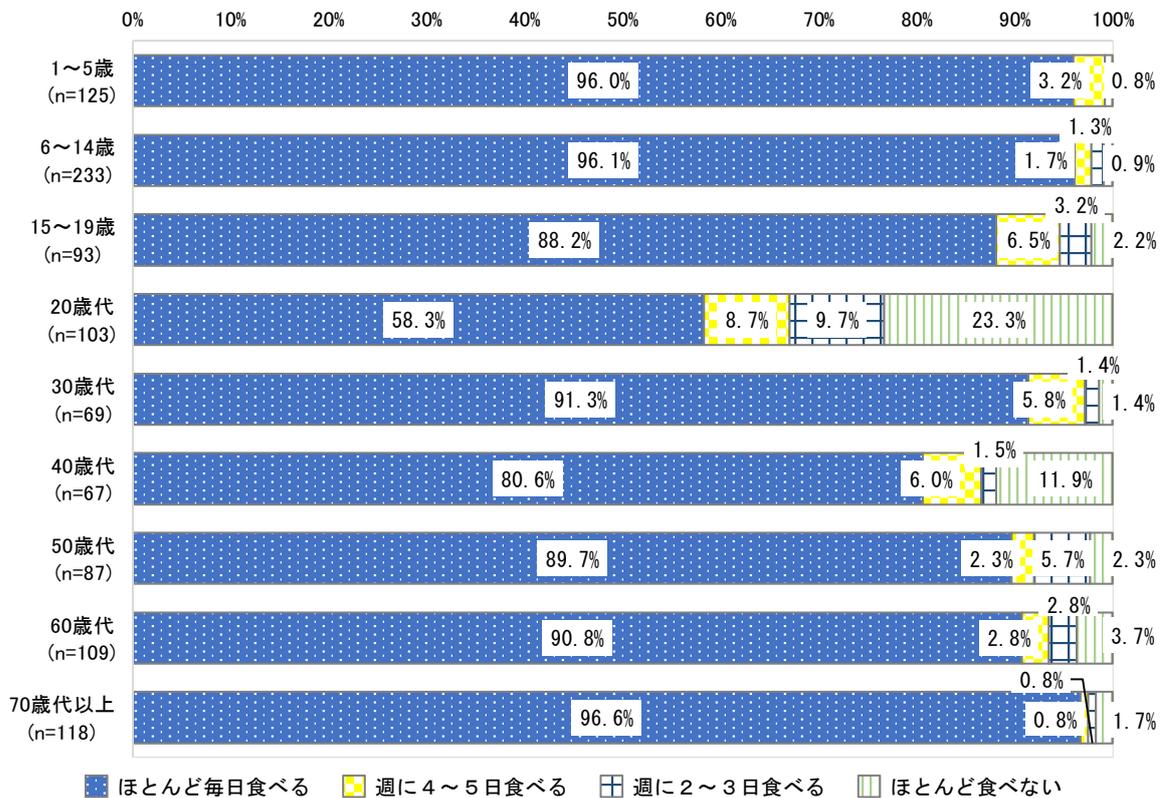
■H27年調査 女性



## ■H24年調査 男性



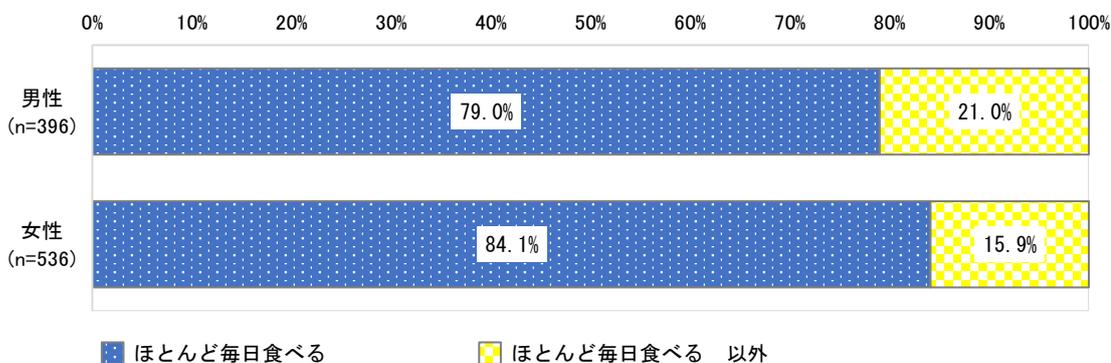
## ■H24年調査 女性



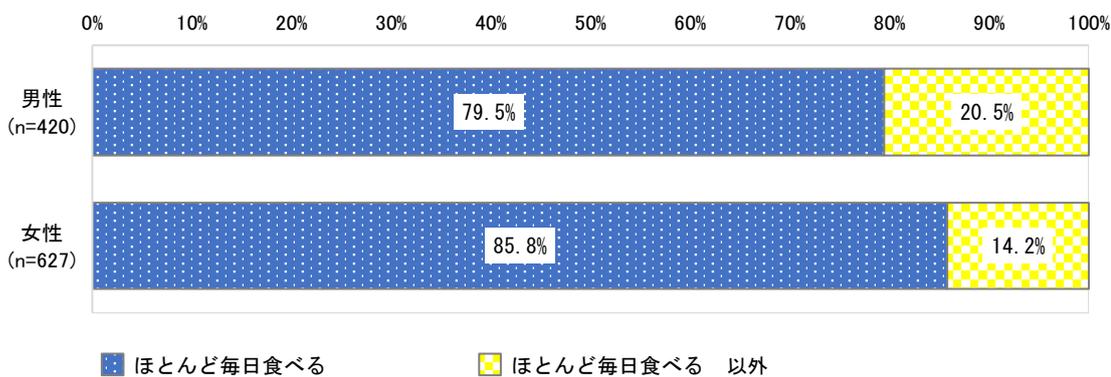
20歳以上でみると、朝食を「ほとんど毎日食べる」は男性が79.0%、女性が84.1%で女性が5.1ポイント上回る。

### 【20歳以上】

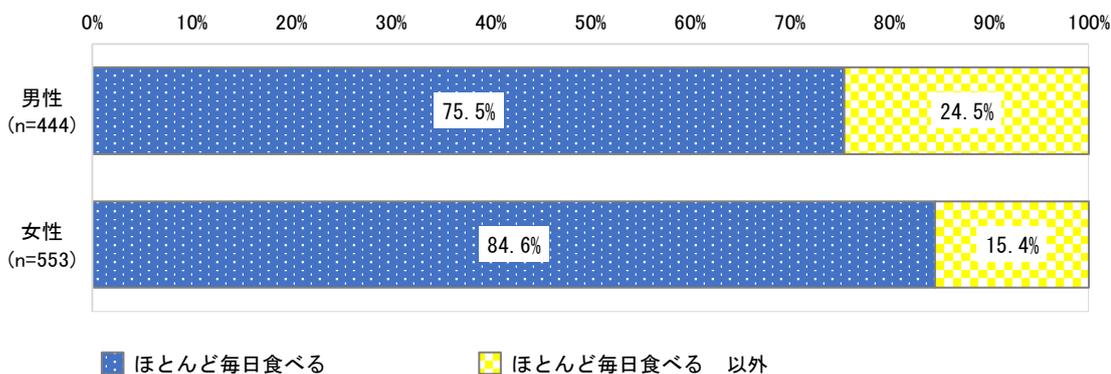
#### ■H30年調査



#### ■H27年調査

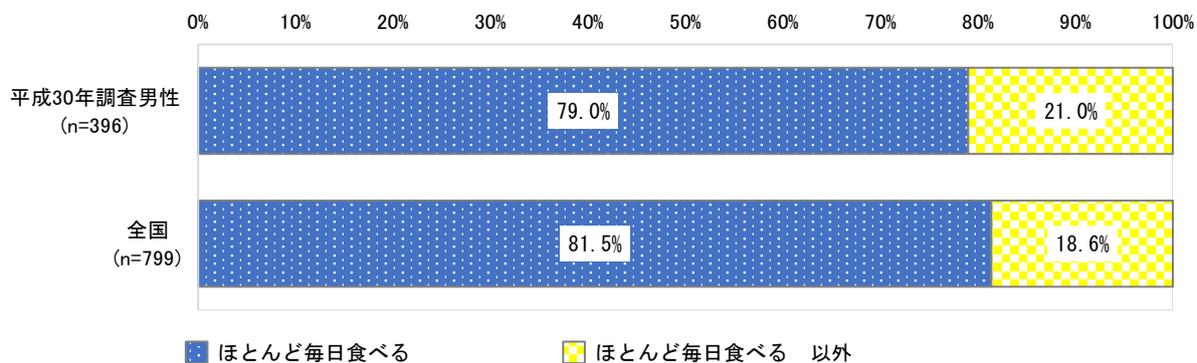


#### ■H24年調査

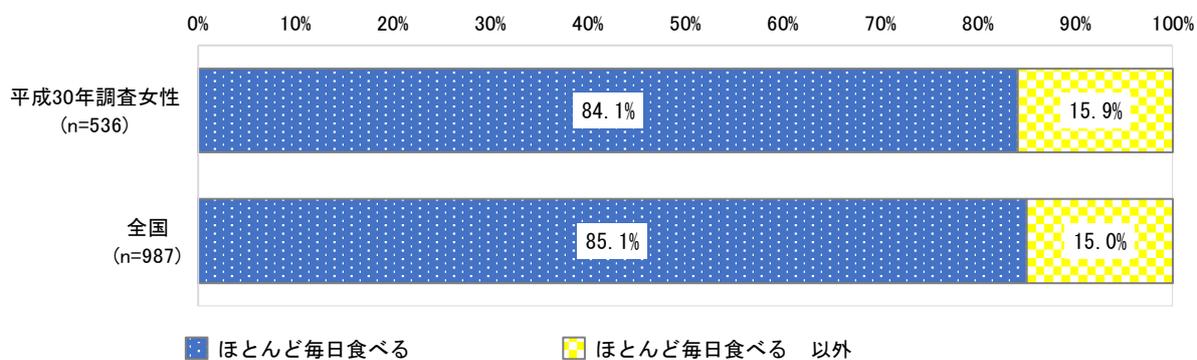


### 【20歳以上の男性】

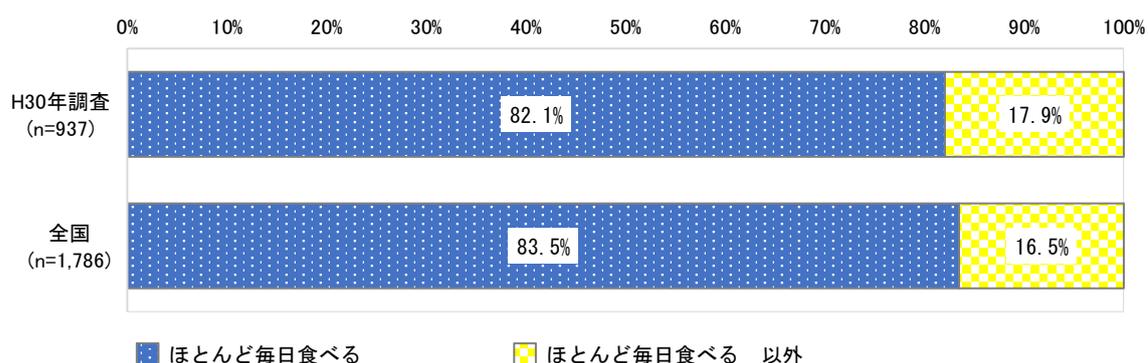
全国と比較して、「ほとんど毎日食べる」は男女ともほとんど変わらない。



### 【20歳以上の女性】



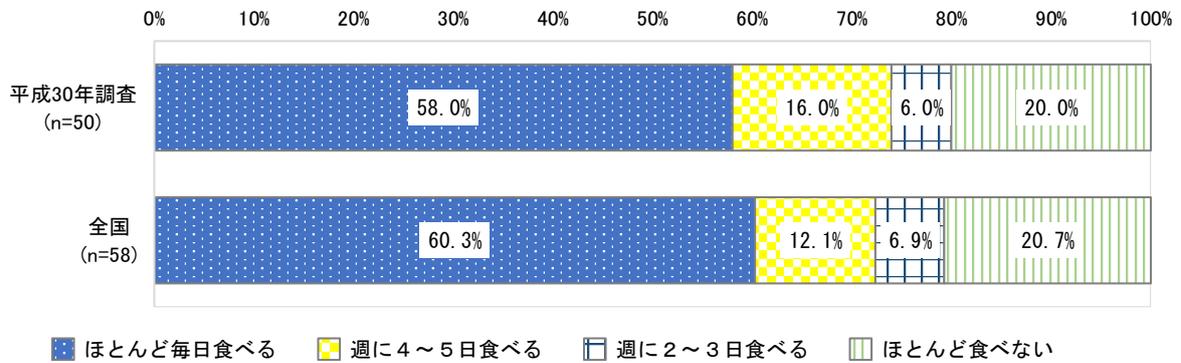
### 【20歳以上】



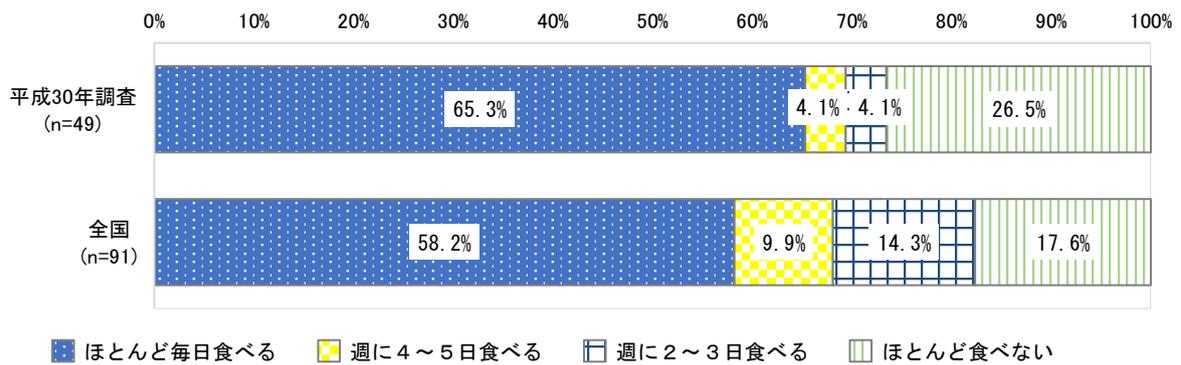
※全国データは農林水産省「食育に関する意識調査」(H30)

欠食率が高い男性の20歳代と30歳代を全国の状況と比較すると、「ほとんど食べない」割合は、20歳代では本市、全国ともに約20%、30歳代では本市が全国に比べ約9ポイント上回っている。

### 【20歳代男性】



### 【30歳代男性】

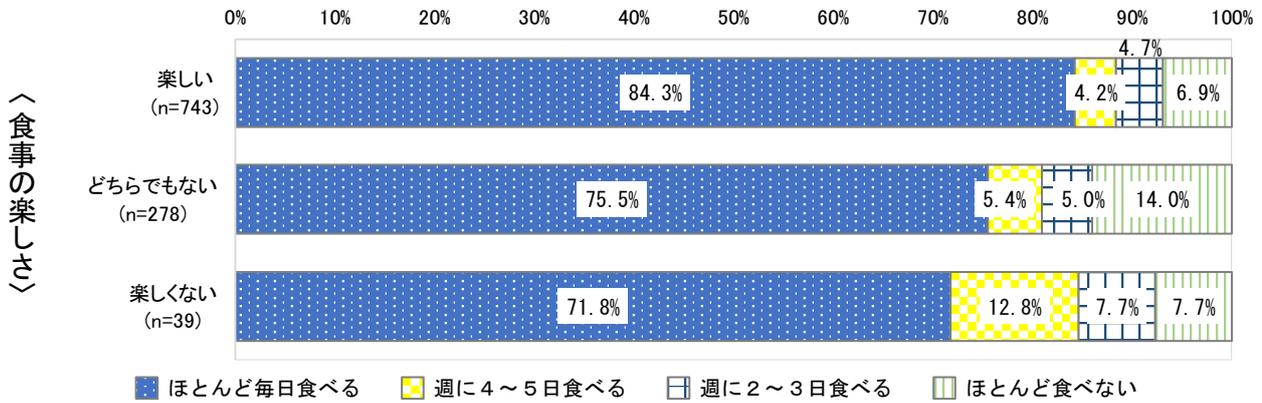


※全国データは農林水産省「食育に関する意識調査」(H30)

「食事の楽しさ」との関係を見ると、朝食を「ほとんど毎日食べる」人は、食事を「楽しい」と感じている人が、「楽しくない」と感じている人を 12.5 ポイントと大幅に上回る。また、平成 24 年調査と比較しても、同様の傾向がみられる。

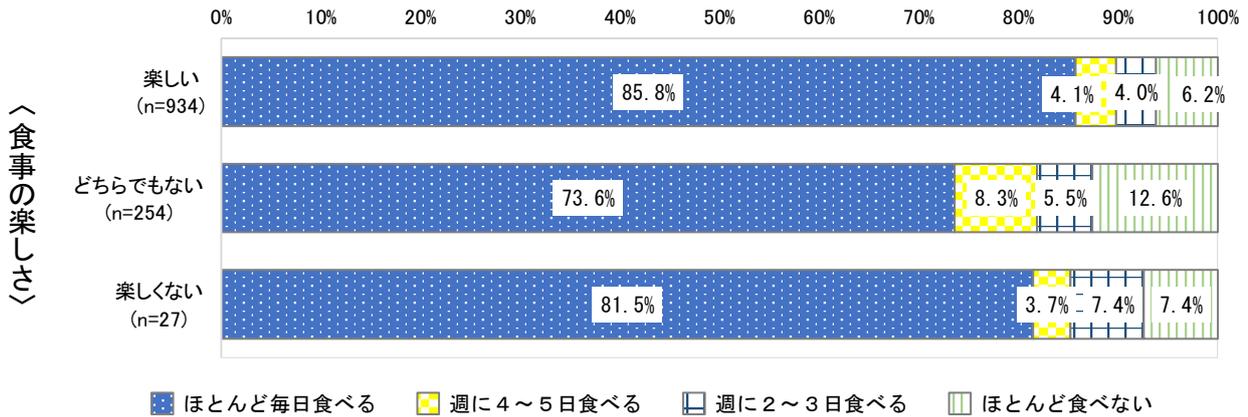
■ H30 年調査

〈1週間当たりの朝食を食べる頻度〉



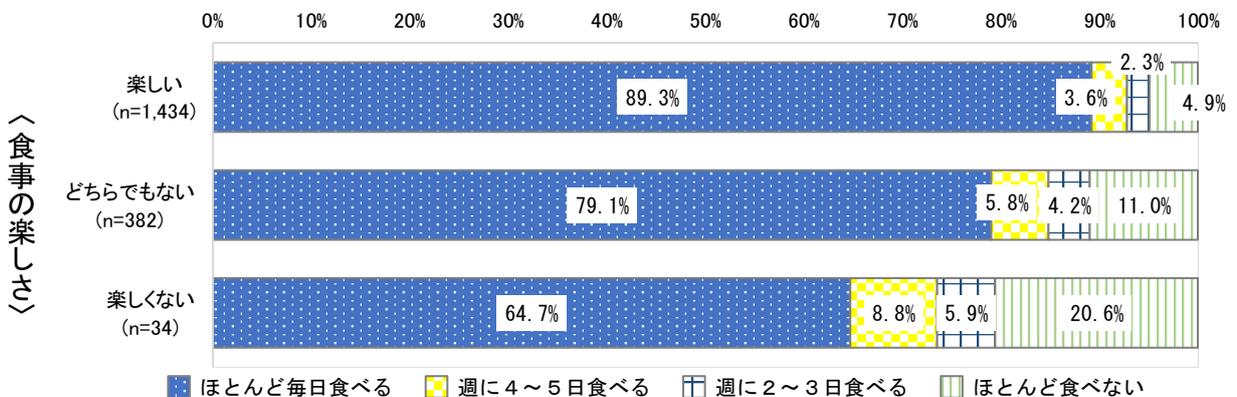
■ H27 年調査

〈1週間当たりの朝食を食べる頻度〉



■ H24 年調査

〈1週間当たりの朝食を食べる頻度〉

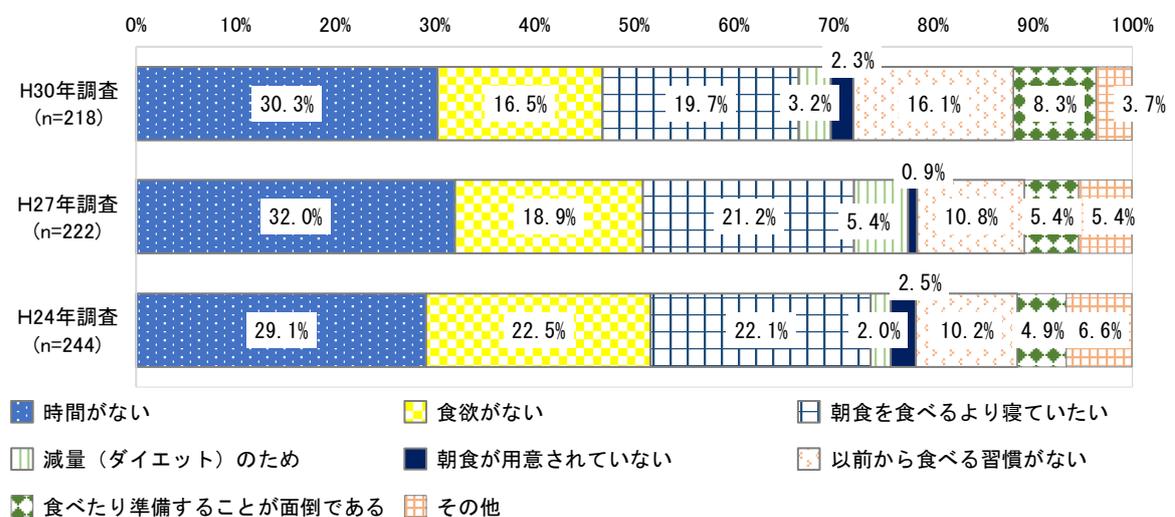


## ■朝食を食べない最も大きい理由 〈0歳を除く〉

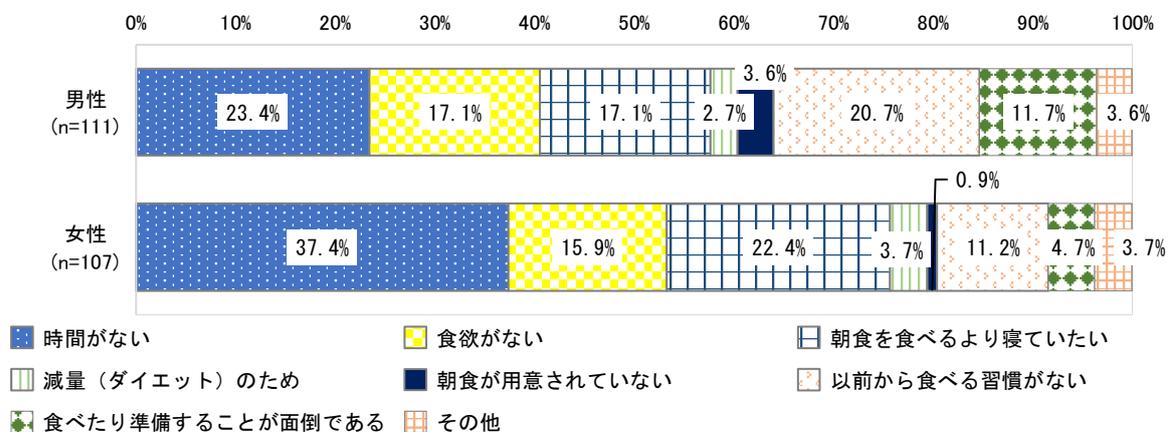
朝食を食べない最も大きい理由は、「時間がない」が30.3%で最も高く、次いで「朝食を食べるより寝ていたい」が19.7%、「食欲がない」が16.5%の順。

性別でみると、男性では「時間がない」が23.4%で最も高く、次いで「以前から食べる習慣がない」が20.7%、「食欲がない」「朝食を食べるより寝ていたい」が17.1%の順。女性では、「時間がない」が37.4%で最も高く、次いで「朝食を食べるより寝ていたい」が22.4%、「食欲がない」が15.9%の順。男女ともに最も多い理由である、「時間がない」では、女性が男性を14.0ポイントと大幅に上回る。

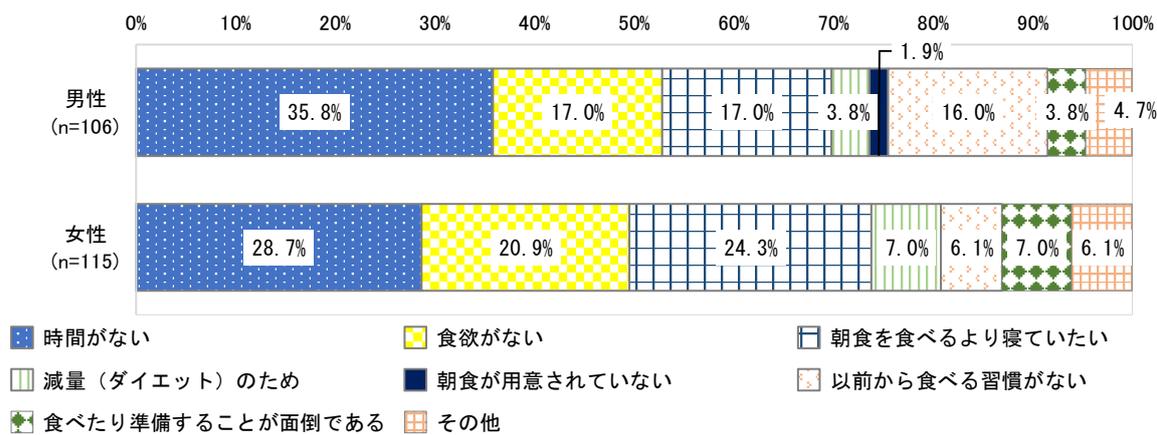
平成24年調査と比較して、特徴的なものとしては、「以前から食べる習慣がない」が男女ともに約1.6倍に増えている。



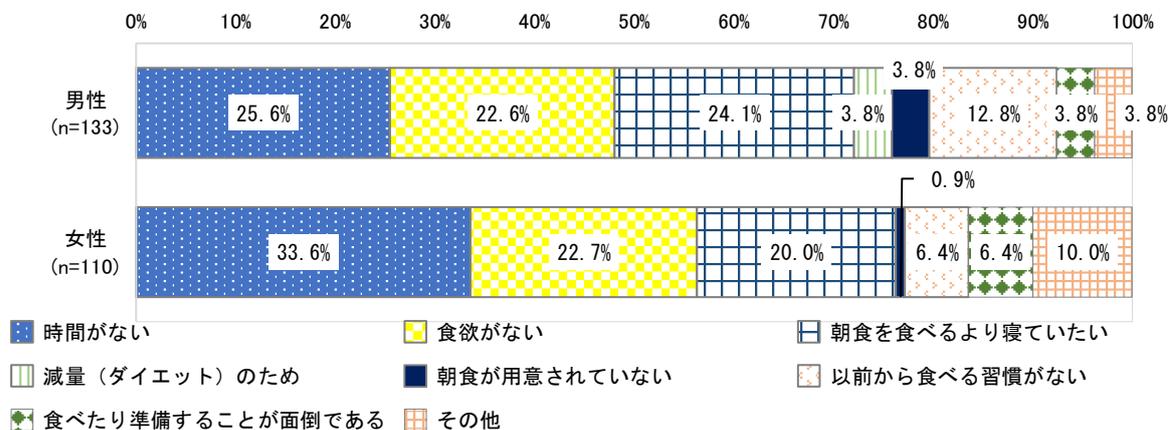
## ■H30年調査



## ■H27 年調査

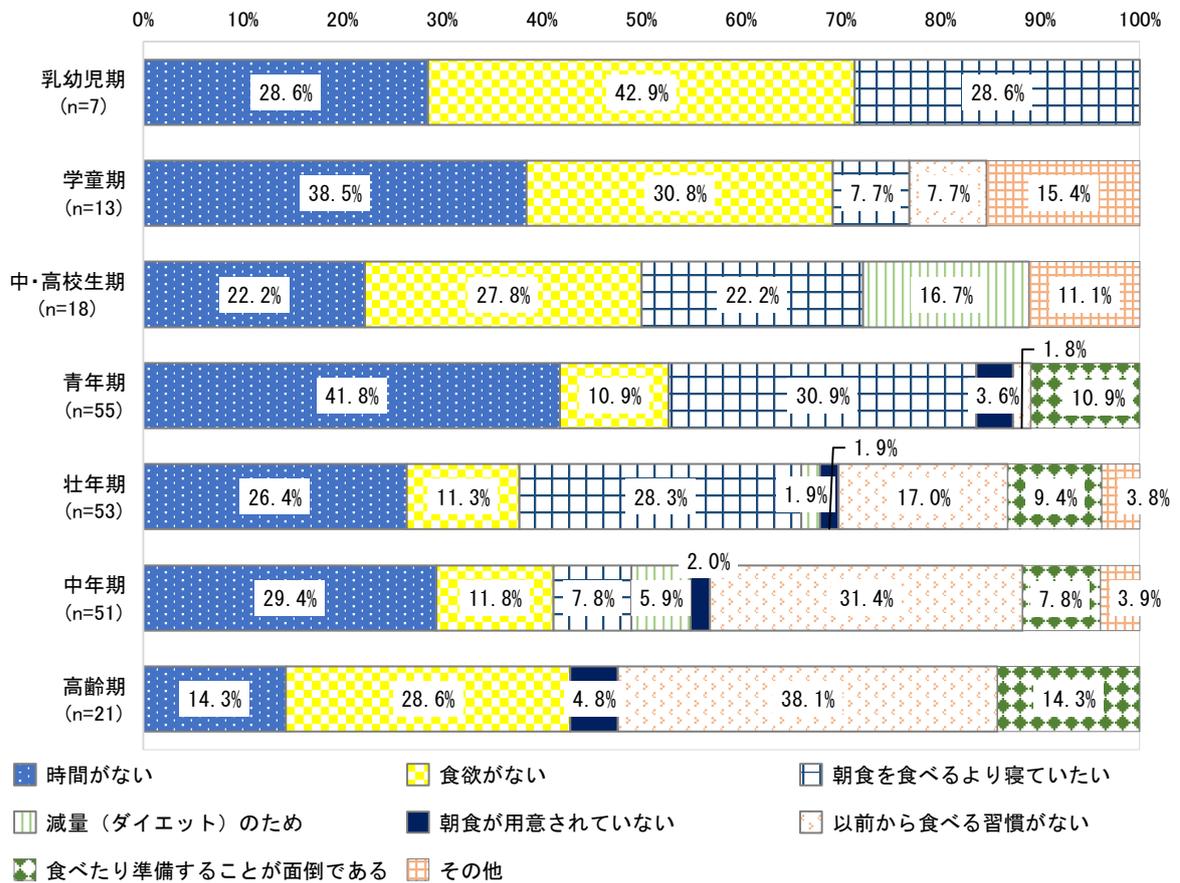


## ■H24 年調査

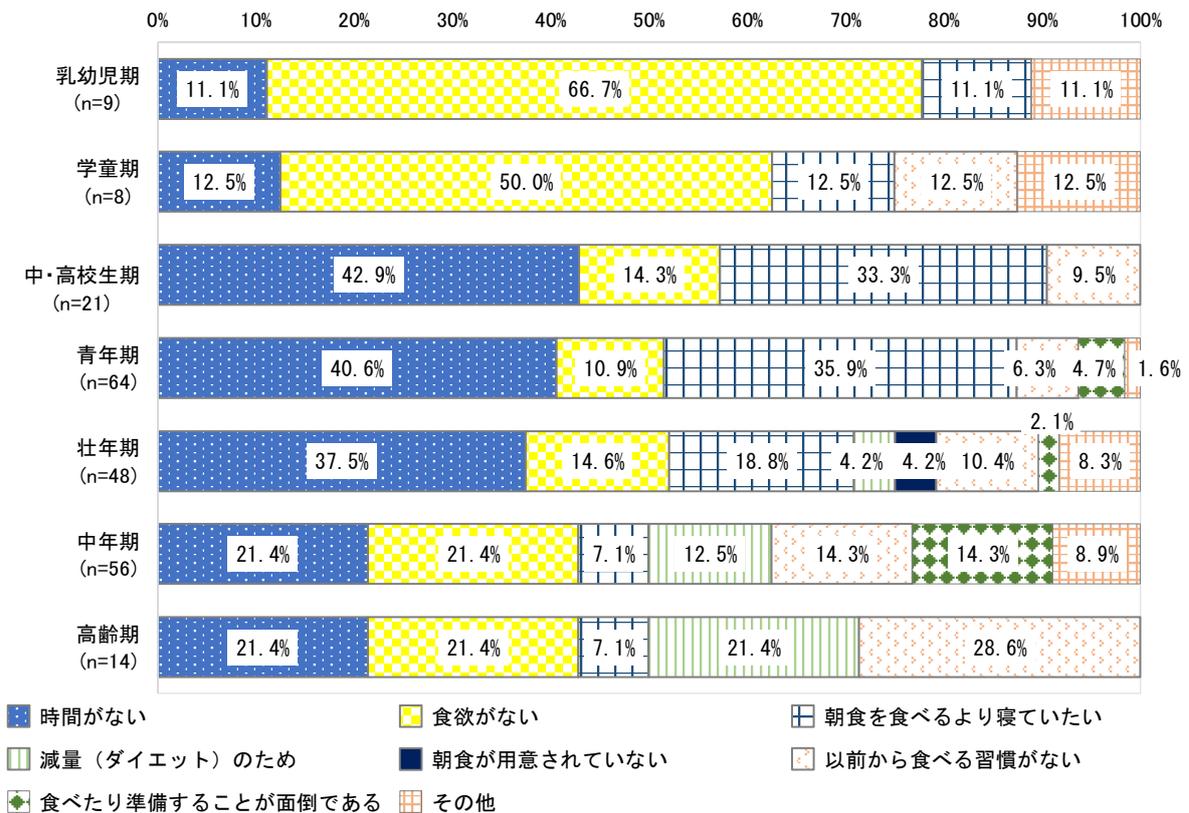


ライフステージ別でみると、乳幼児期、中・高校生期では「食欲がない」、学童期、青年期では「時間がない」、壮年期では「朝食を食べるより寝ていたい」、中年期、高齢期では「以前から食べる習慣がない」の割合がそれぞれ高い。平成24年調査と比較して、乳幼児期、学童期の「時間がない」の割合が大幅に増加。

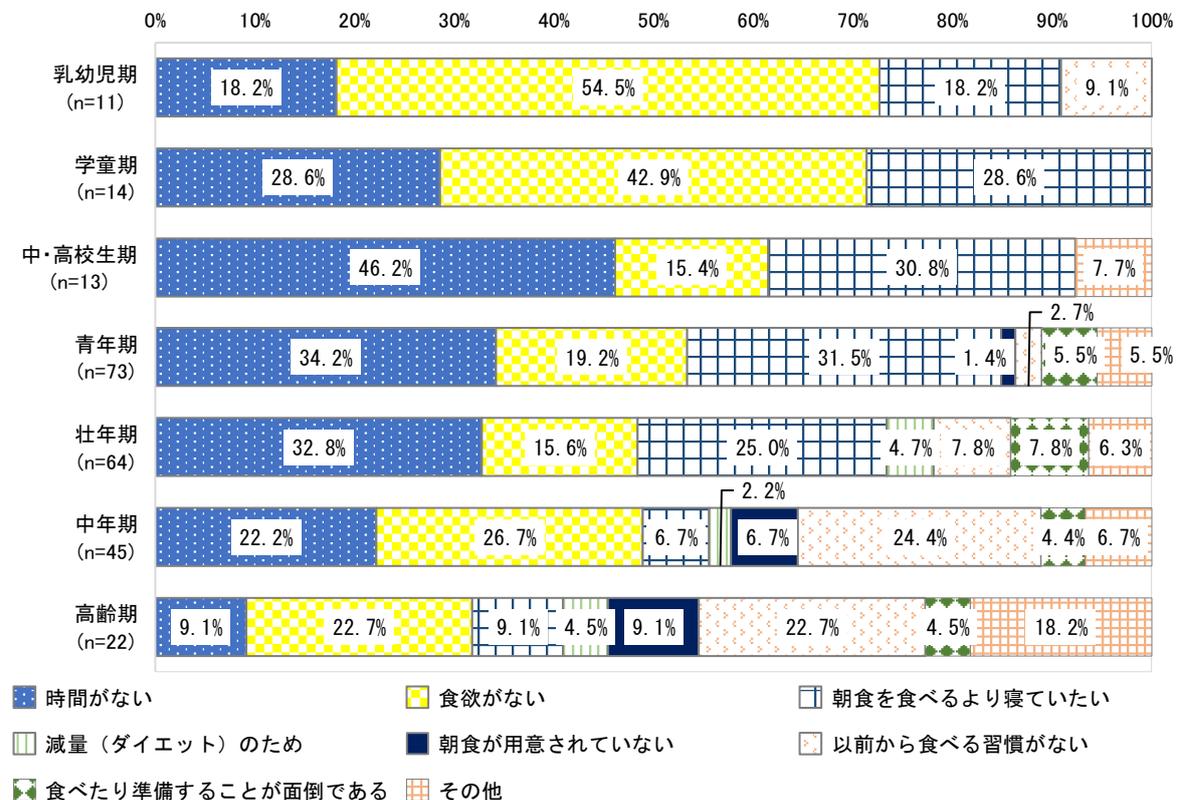
■ H30 年調査



## ■ H27 年調査



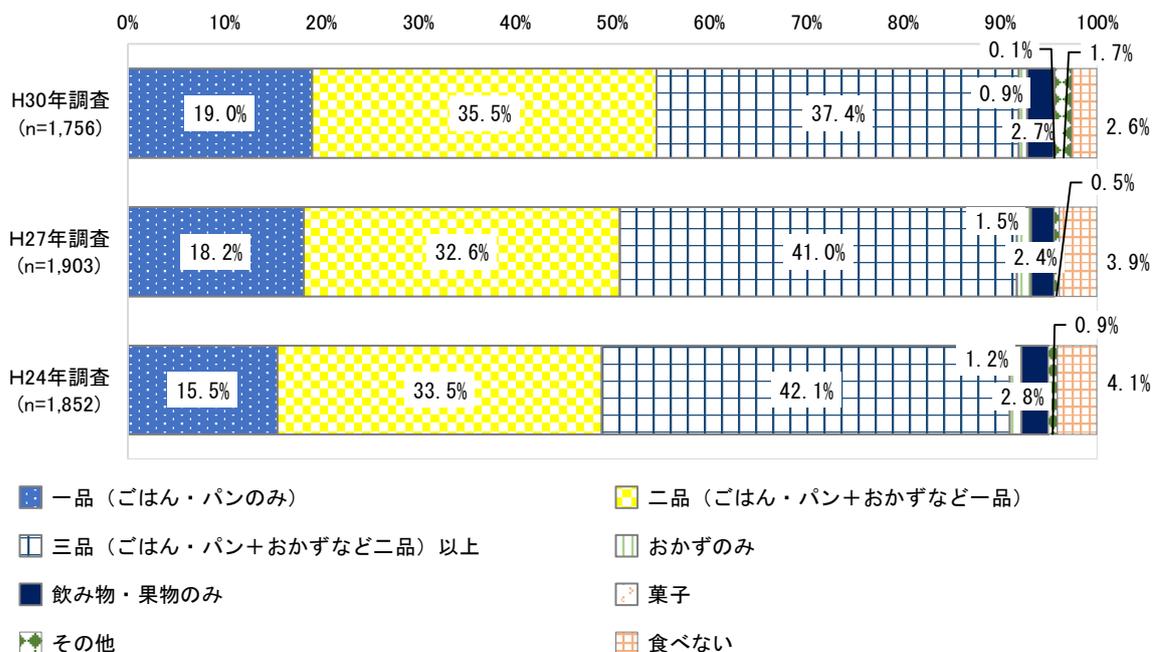
## ■ H24 年調査



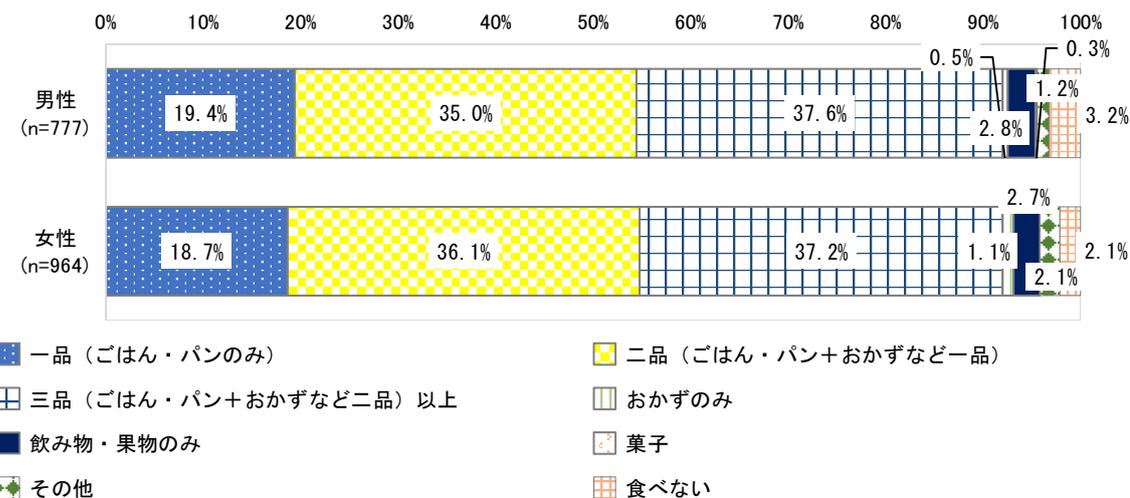
## ■朝食のメニュー 〈0歳を除く〉

朝食のメニューは、「三品以上」が37.4%で最も高く、「二品」が35.5%、「一品」が19.0%の順。平成24年調査と比較すると、「三品以上」の割合が若干減少し、「二品」「一品」が微増している。

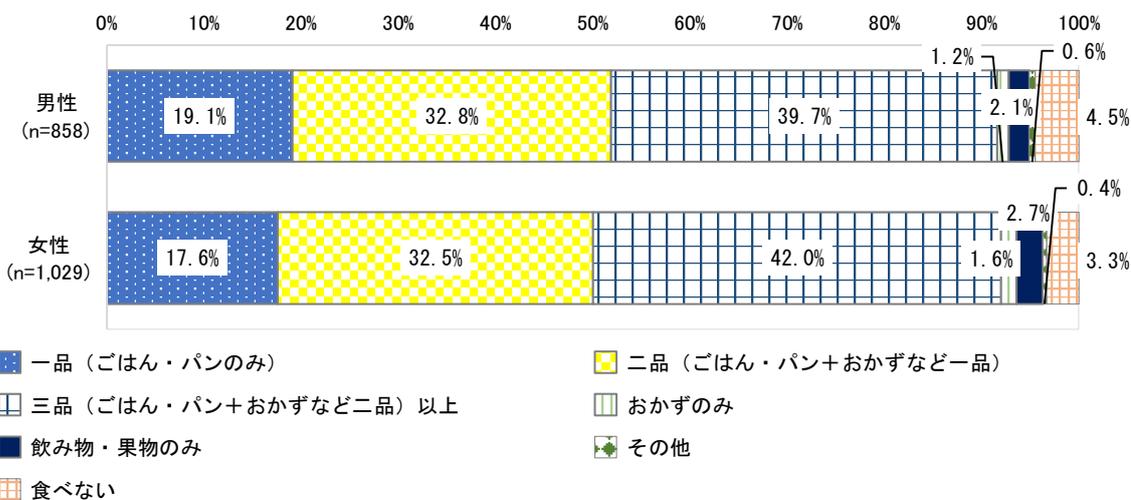
性別で見ると、大きな差はみられない。



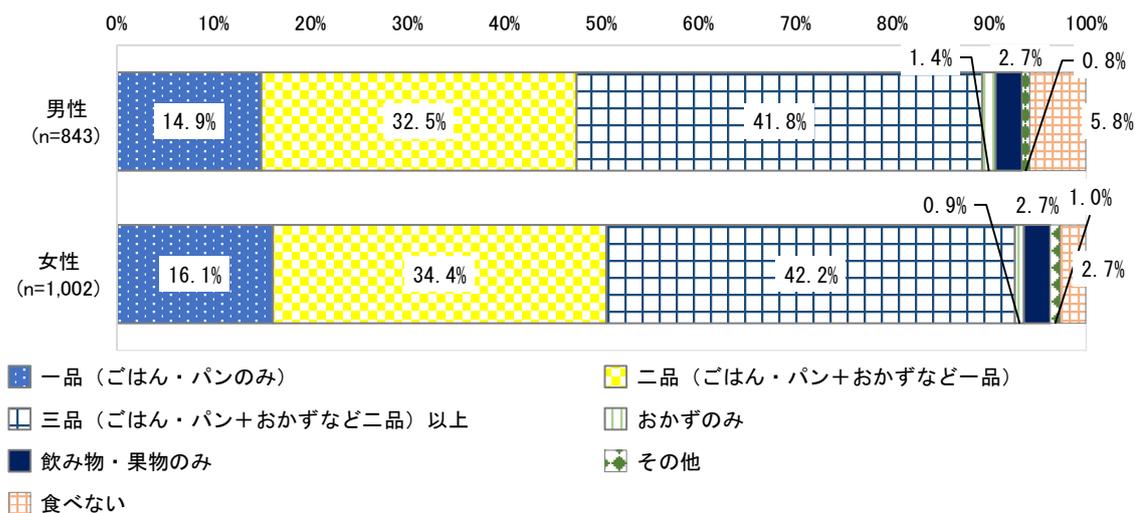
## ■H30年調査



## ■ H27 年調査

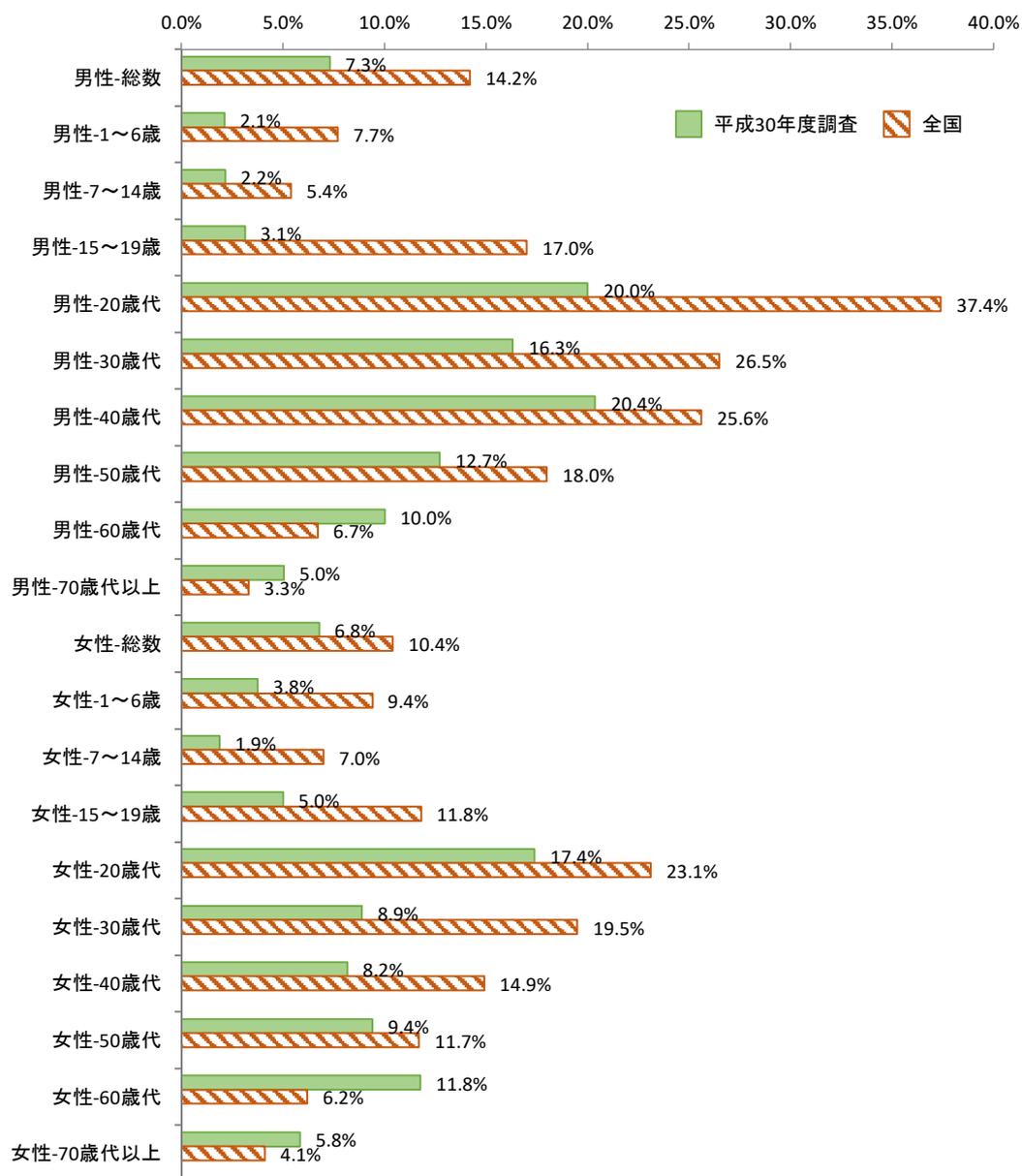


## ■ H24 年調査



「欠食とみなされる朝食」の状況を全国と比較すると、本市は男女とも総数では全国を下回る。

年齢区分別でみると、男女ともに60歳代、70歳代以上では、本市が全国平均を上回る。また、男女ともに15～19歳・20歳代・30歳代では割合が大幅に下回る。



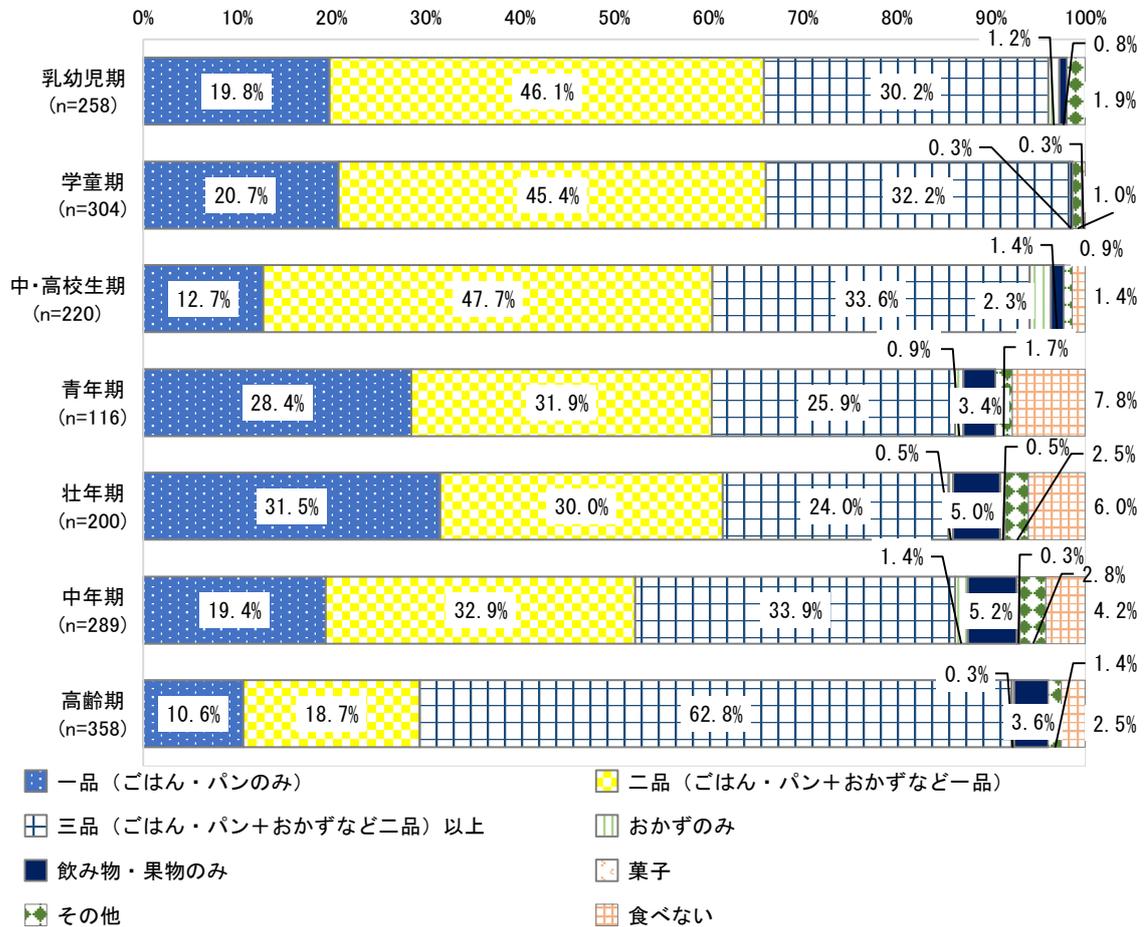
※全国データは厚生労働省「国民健康・栄養調査」(H28)から

※「欠食とみなされる朝食」は、H30年調査は「飲み物・果物のみ」「菓子」「その他」「何も食べていない」、全国は「菓子・果物のみ」「錠剤などのみ」「何も食べない」を選択した人の割合

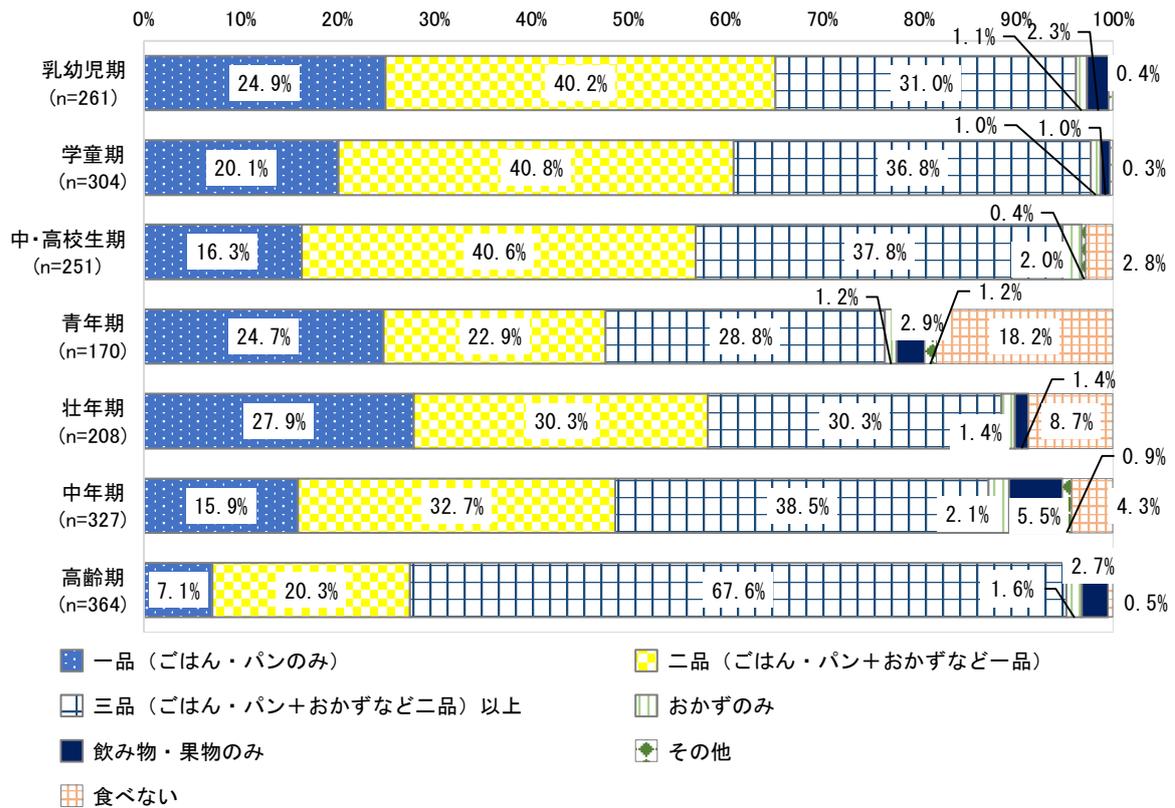
ライフステージ別でみると、高齢期を除くライフステージにおいて、「二品」が占める割合が3割から約5割と大きい。中でも高齢期においては、「三品以上」が6割を占める。

平成24年調査と比較して、乳幼児期を除き、「三品以上」が減少傾向にある。

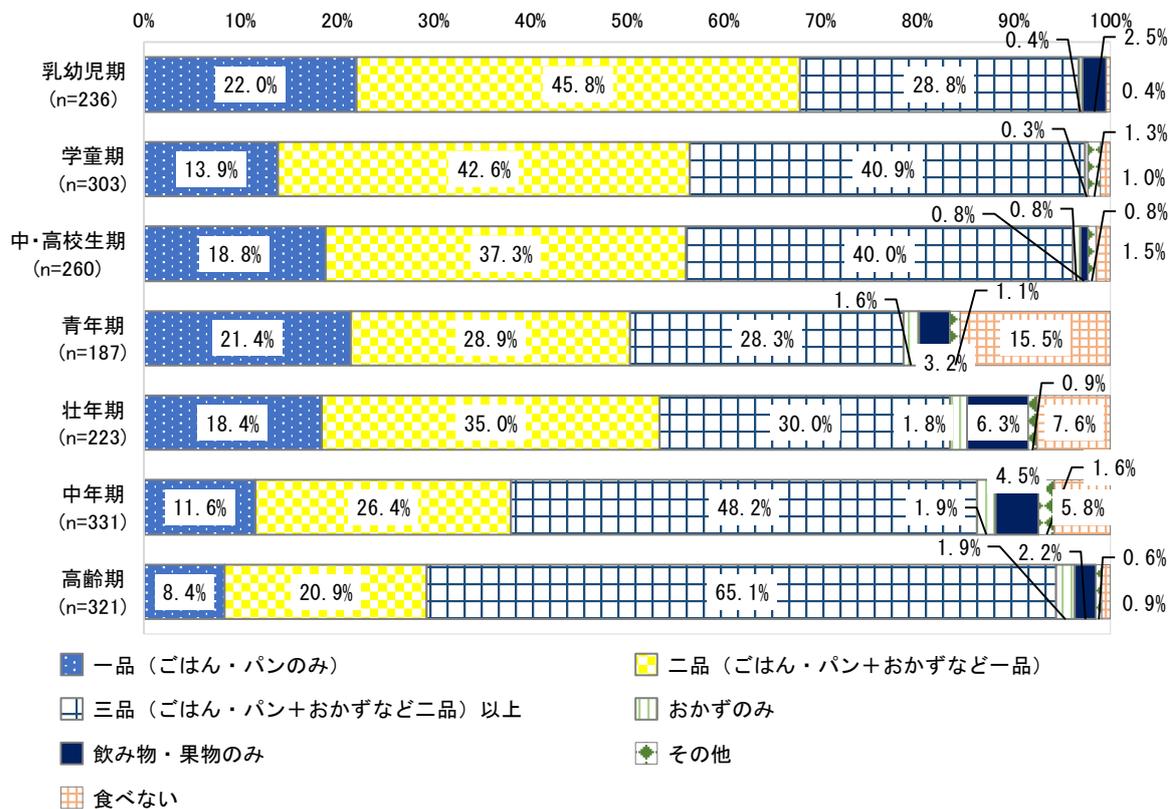
### ■ H30年調査



## ■H27 年調査



## ■H24 年調査



## 2) 学校・保育所・幼稚園等における食育の推進

保育所、幼稚園、学校での「体験型食育活動」は、施設に応じて高い割合で推進されている。

子どもへの食育と併せて、保護者への食育は、家庭における健全な食生活につながることから、今後も、各施設での取組が必要である。

### (1) 体験型食育活動の取組（保育所）

保育所での体験型食育活動の取組については、平成24年調査と比較して、公立では100%を維持し、私立は3.2ポイント減の87.2%となった。

項目		(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H29年・実績)	(H30年・目標)
○体験型食育活動の取組み (実施園数/全施設数)【保育所】	公立	100%	100%	100%	100%
	私立	90.4%	94.8%	87.2%	100%

### (2) 体験型食育活動の取組（幼稚園）

幼稚園での体験型食育活動の取組については、公立、私立ともに100%を維持している。

項目		(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H29年・実績)	(H30年・目標)
○体験型食育活動の取組み (実施園数/全施設数)【幼稚園】	公立	100%	100%	100%	100%
	私立	100%	100%	100%	100%

### (3) 授業参観・懇親会等で保護者へ食育の啓発を行った学校の割合

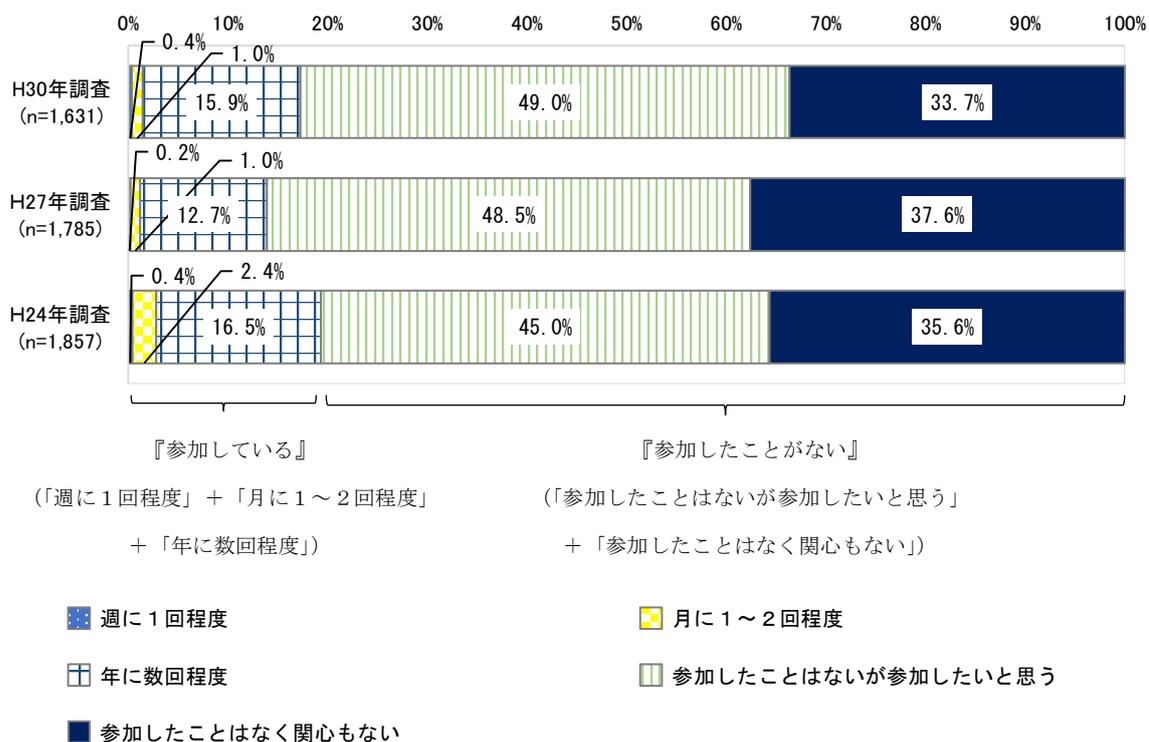
授業参観・懇親会等で保護者への食育の啓発を行った学校の割合は、平成24年調査と比較して、3.0ポイント減の94.0%となった。

項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H29年・実績)	(H30年・目標)
○授業参観・懇談会等で保護者へ食育の啓発を行った学校の割合	97.0%	98.5%	94.0%	100%

## <調査結果>

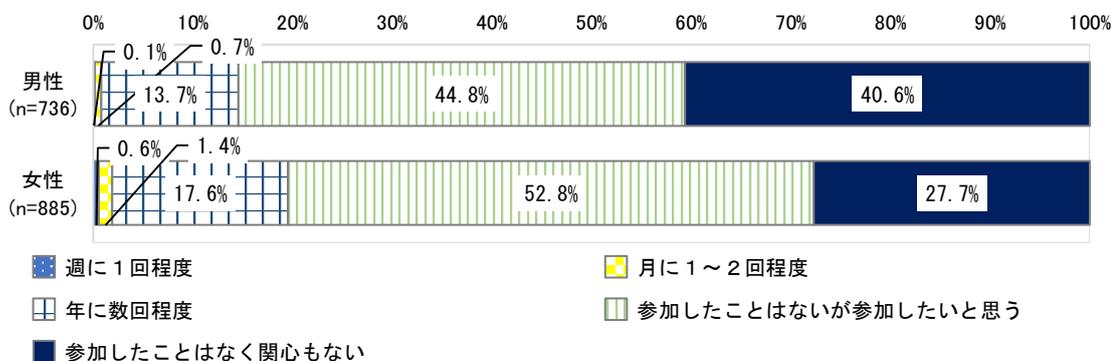
### ■親子料理教室など食生活改善や健康づくり活動の参加頻度と意向 (0歳を除く)

親子料理教室など食生活改善や健康づくり活動の参加頻度と意向については、『参加している(「週に1回程度」+「月に1~2回程度」+「年に数回程度」)』は17.3%で、平成24年調査と比較して2ポイント下回る。

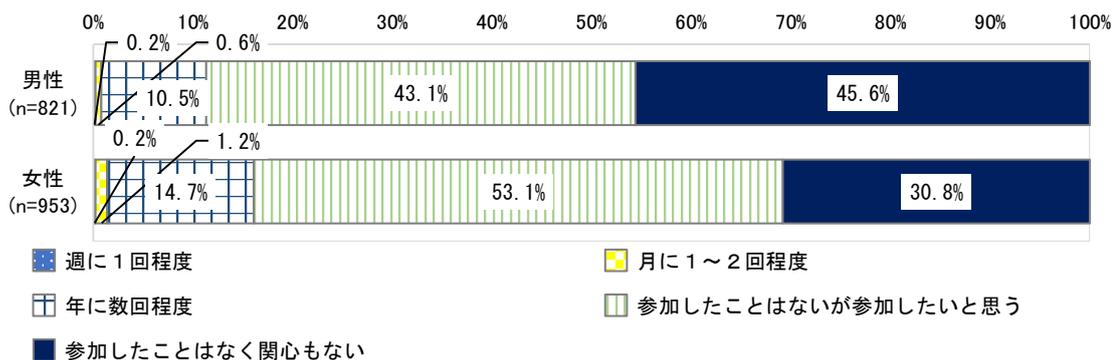


性別でみると、男性が14.5%、女性が19.6%で、女性が5.1ポイント上回る。平成24年調査と比較して、男性が0.9ポイント、女性が3.2ポイントと若干下回っている。

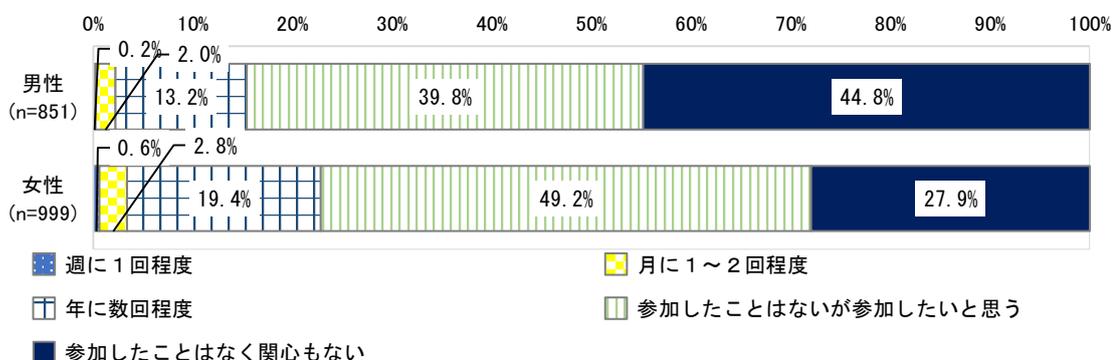
### ■H30年調査



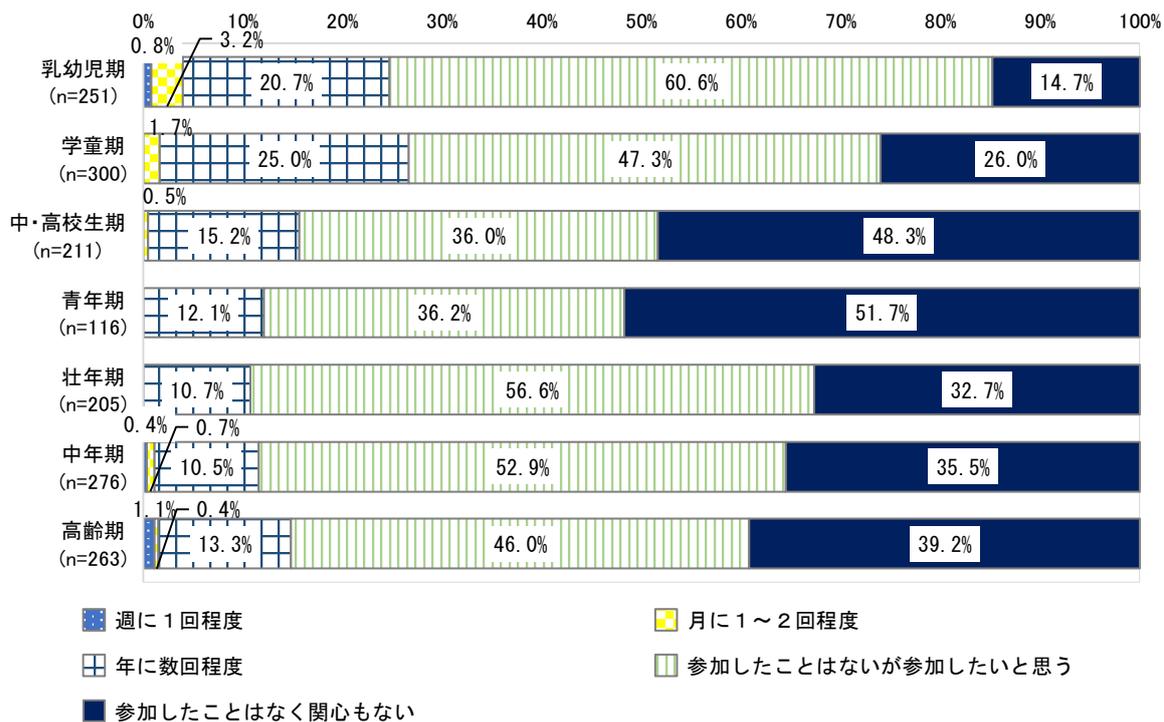
## ■ H27 年調査



## ■ H24 年調査



ライフステージ別でみると、『参加している（「週に1回程度」＋「月に1～2回程度」＋「年に数回程度」）』人の割合は、乳幼児期と学童期で2割を超え、中・高校生期以降は1割程度となっている。



### 3) 職場・大学等における食育の推進

「企業、大学等での食育に関する講座の開催件数」については、減少している。

青年期から壮年期は、欠食や生活習慣病予防の観点から重要な時期であり、今後も健康づくりにつながる食育の啓発が求められる。

#### (1) 企業、大学等での食育に関する講座の開催（件数）

企業、大学等での食育に関する講座の開催件数は、平成 24 年調査と比較して、1 件増の 20 件となった。

項 目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H29年・実績)	(H30年・目標)
○企業、大学等での食育に関する講座の開催(件数)	19件	40件	20件	30件

## 2 健全な食生活を実践するための環境整備

健全な食生活に必要な食に関する正しい知識や食品の選び方も含めた啓発と共に、食品関連事業者等と協働し、市民が食育を実践しやすい環境整備が必要である。

### 1) 日本型食生活の実践へ向けた情報の発信

「栄養に関する表示等を参考にしている市民の割合」は停滞しており、「内臓脂肪症候群の予防や改善のために適切な食事、定期的な運動、定期的な体重測定を継続的に実践している市民の割合」も若干増加したが、目標とは大きな開きがある。「栄養成分表示」や「食事バランスガイド」などの活用は、特に男性や若年層で課題となっており、栄養や食事・食品関連情報等の情報発信・活用についての啓発が求められる。

#### (1) 栄養に関する表示等を参考にしている市民の割合

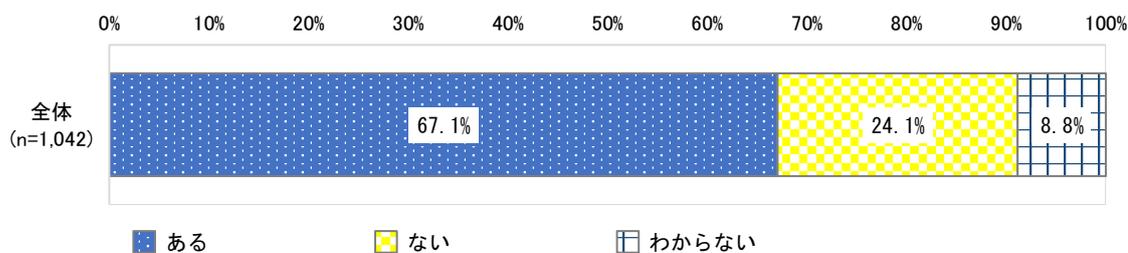
栄養に関する表示等を参考にしている市民の割合は 63.4% で、平成 24 年調査と比較して 5.6 ポイント低下し、目標を 16.6 ポイント下回る。

項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(H30年・目標)
○栄養に関する表示等を参考にしている市民の割合	69.0%	67.9%	63.4%	80%

### <調査結果>

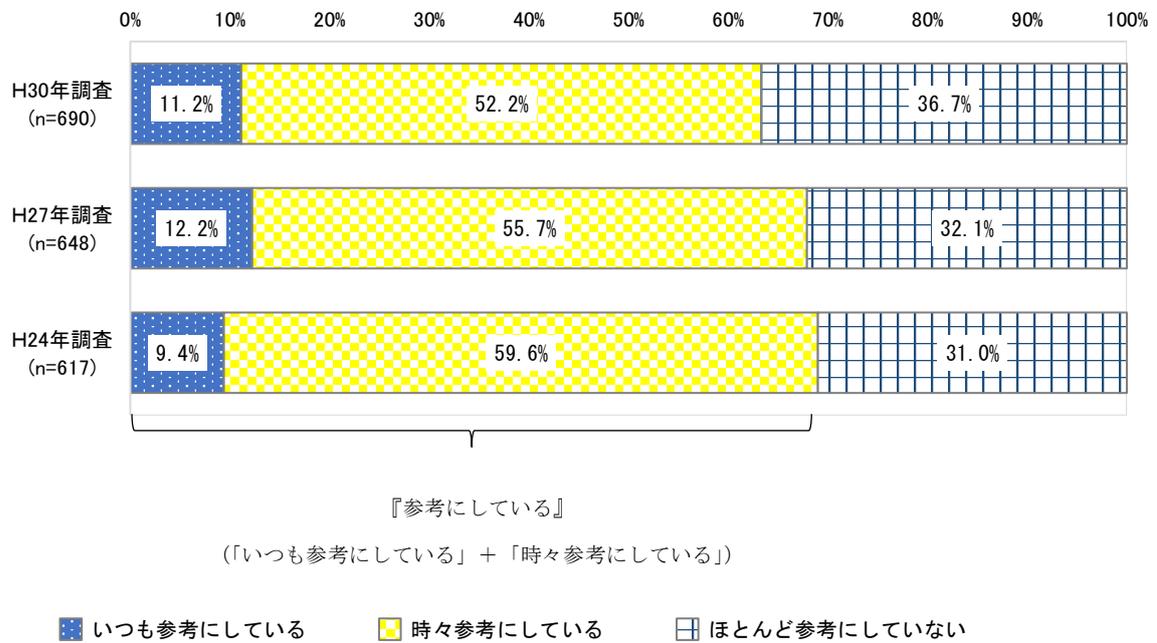
#### ■栄養成分表示の認知度〈15歳以上〉

栄養成分表示の認知度は、「ある」が 67.1%、「ない」が 24.1%。



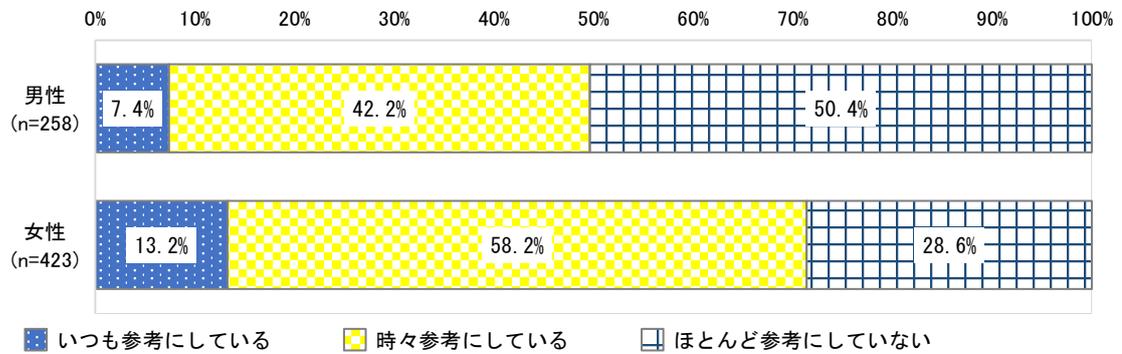
## ■栄養成分表示の参考度合い 〈15歳以上〉

栄養成分表示の参考度合いは、「いつも参考にしている」は 11.2%、「時々参考にしている」は 52.2%と、合わせて 63.4%が『参考にしている』としている。平成 24 年調査と比較して、5.6 ポイント下回る。

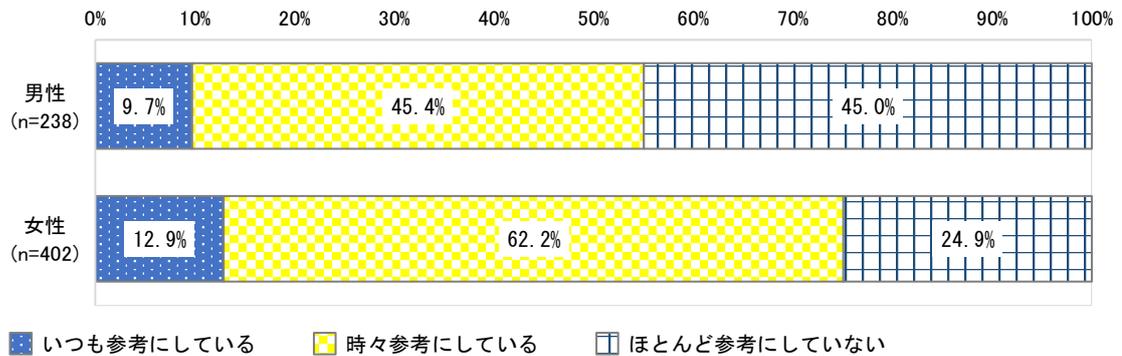


性別で見ると、男性が49.6%、女性が71.4%で、女性が約22ポイントと大幅に上回る。平成24年調査と比較して、男女とも低下している。

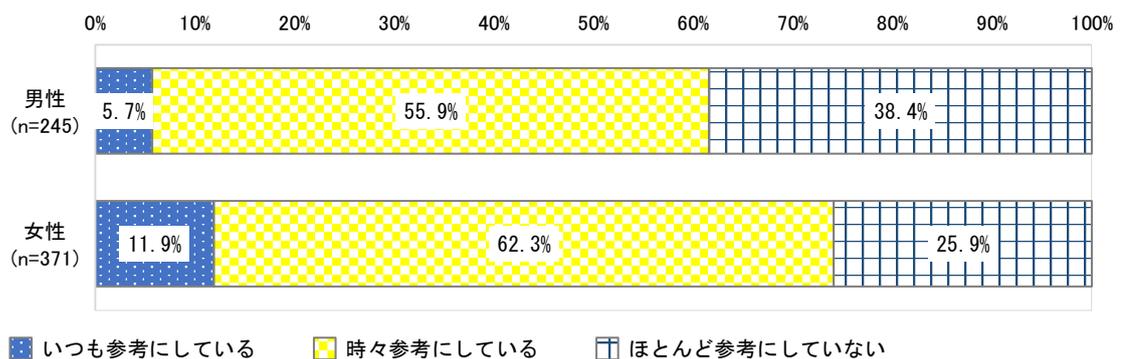
### ■H30年調査



### ■H27年調査



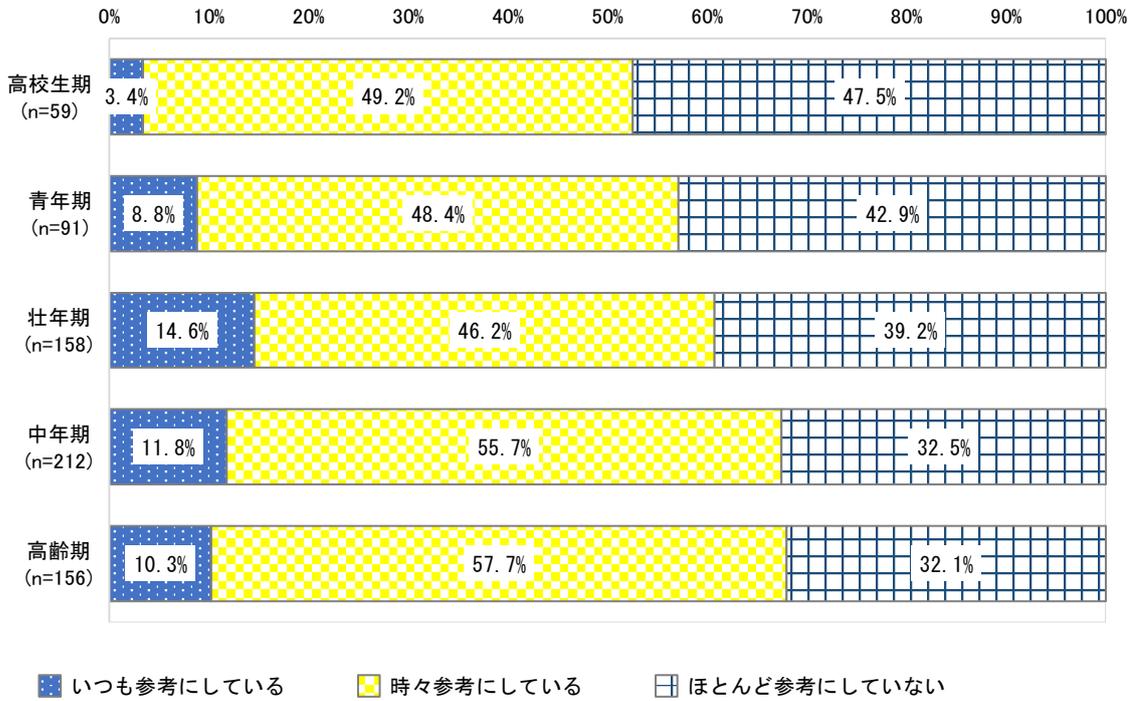
### ■H24年調査



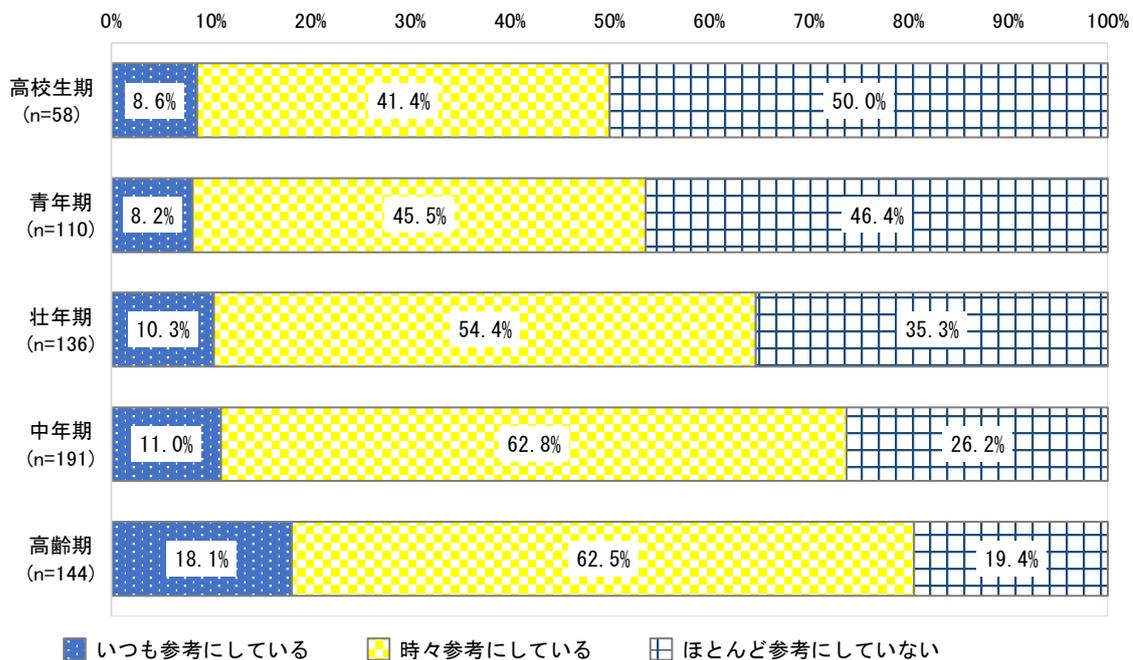
ライフステージ別でみると、『参考にしている（「いつも参考にしている」＋「時々参考にしている」）』人の割合は、すべてのライフステージにおいて、約5～6割となっているが、最も低い高校生期と最も高い中年期では14.9ポイントの差。

平成24年調査と比較して、高齢期では19.2ポイント下回る。

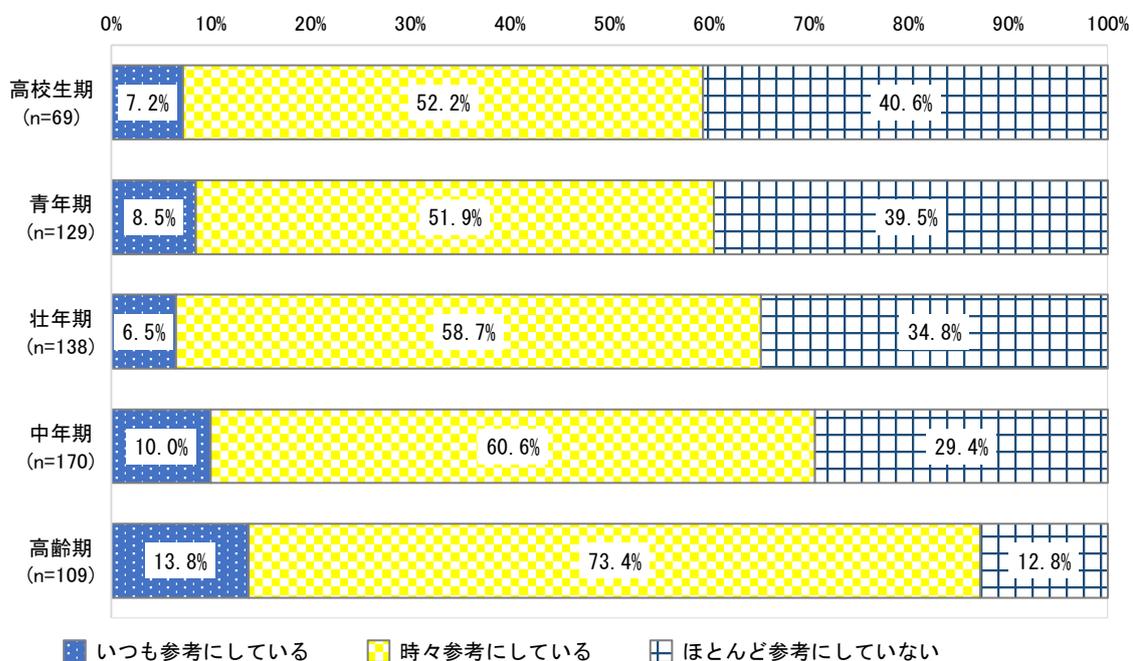
■ H30年調査



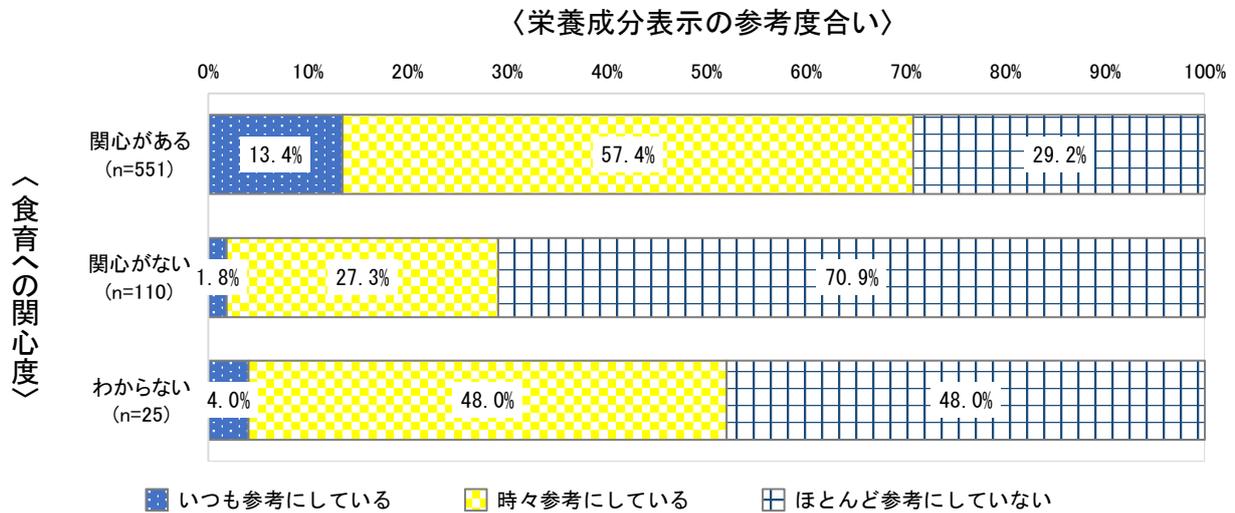
## ■ H27 年調査



## ■ H24 年調査

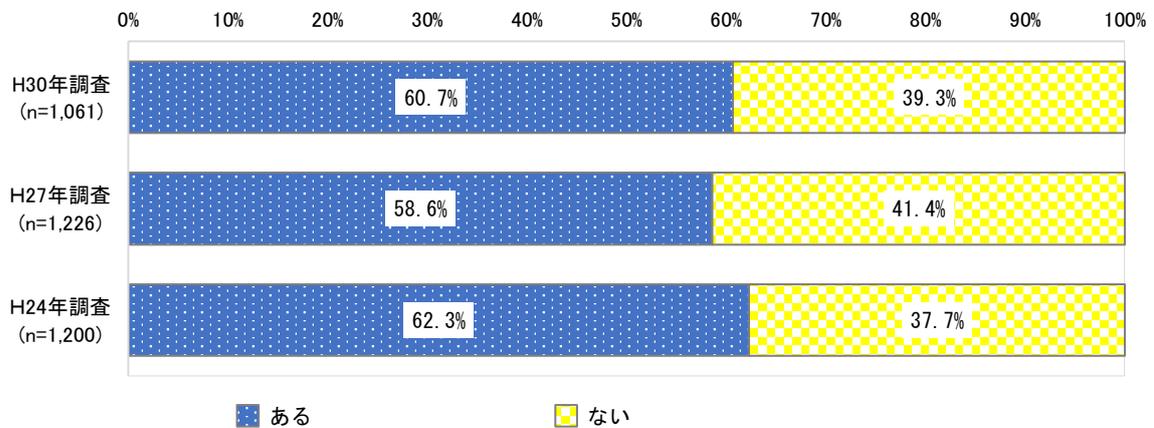


食育への関心度別でみると、『参考になっている（「いつも参考になっている」＋「時々参考になっている」）』人の割合は、「関心がある」では70.8%、「関心がない」では29.1%と41.7ポイントと大きな差がある。



## ■食事バランスガイドの認知度 〈15歳以上〉

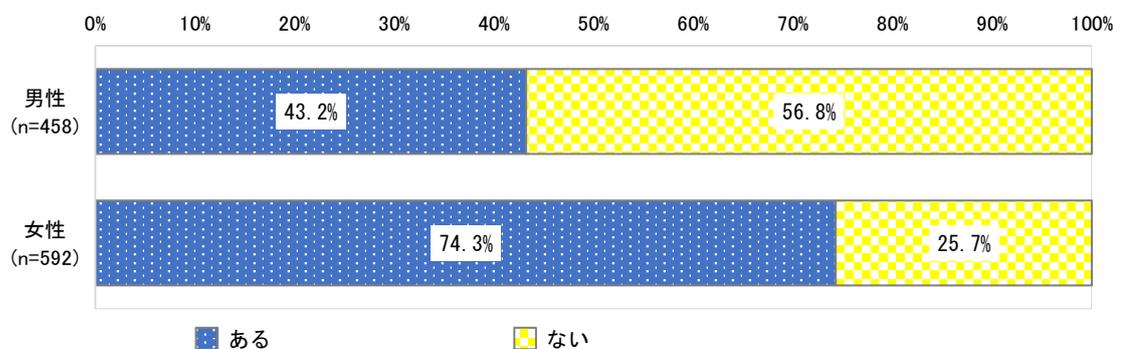
食事バランスガイドの認知度について、食事バランスガイドを見たことが「ある」人の割合は60.7%となり、平成24年調査と比較して1.6ポイント下回る。



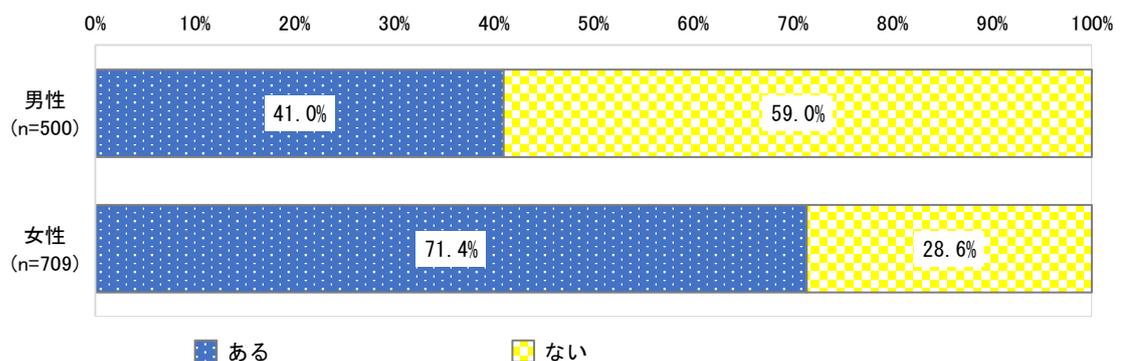
性別でみると、食事バランスガイドを見たことが「ある」人の割合は、男性が43.2%、女性が74.3%で、女性が31.1ポイントと大幅に上回る。

平成24年調査と比較して、男性は3.5ポイント、女性は1ポイント下回る。

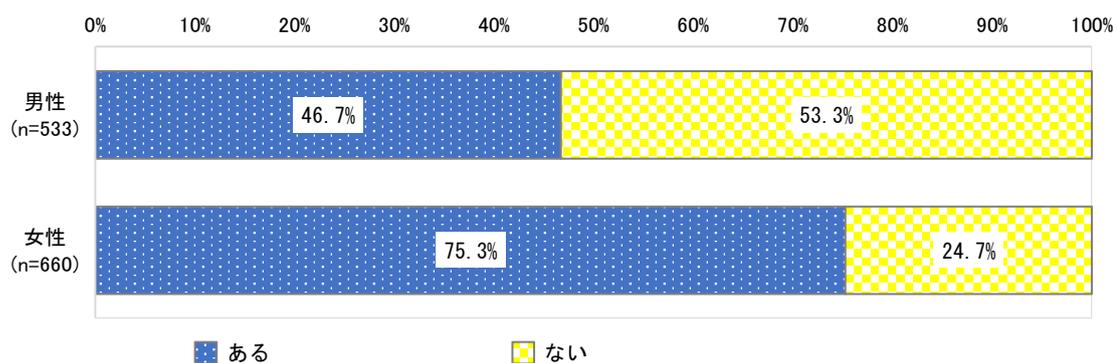
### ■H30年調査



### ■H27年調査



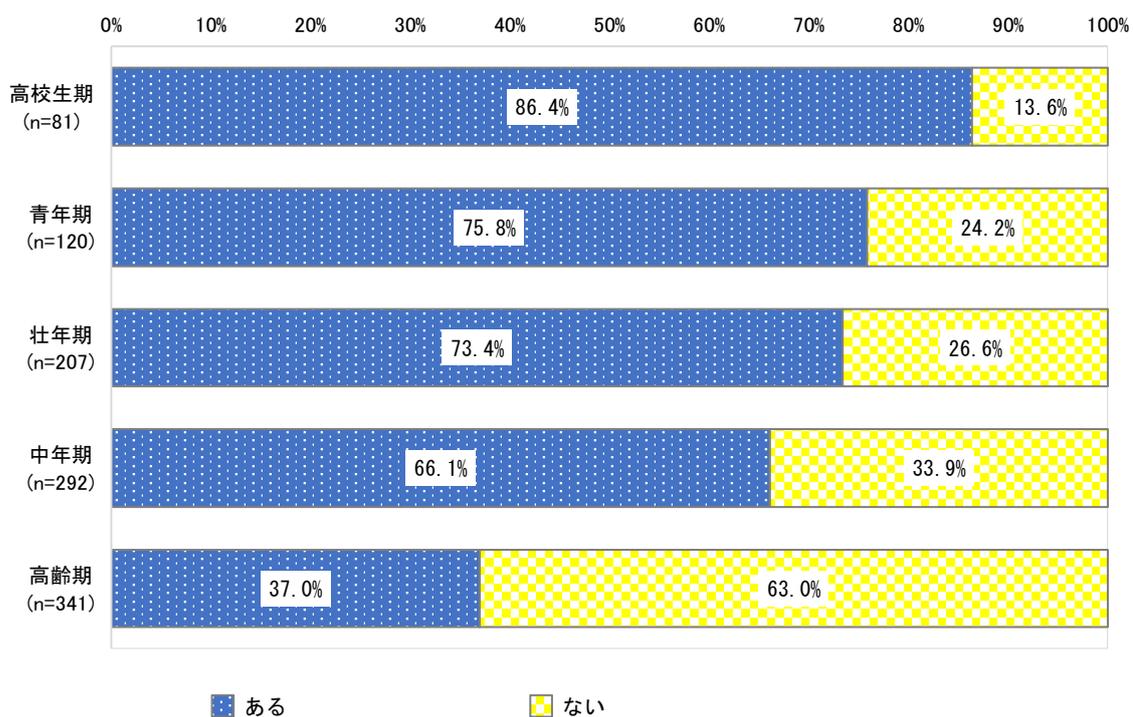
## ■ H24 年調査



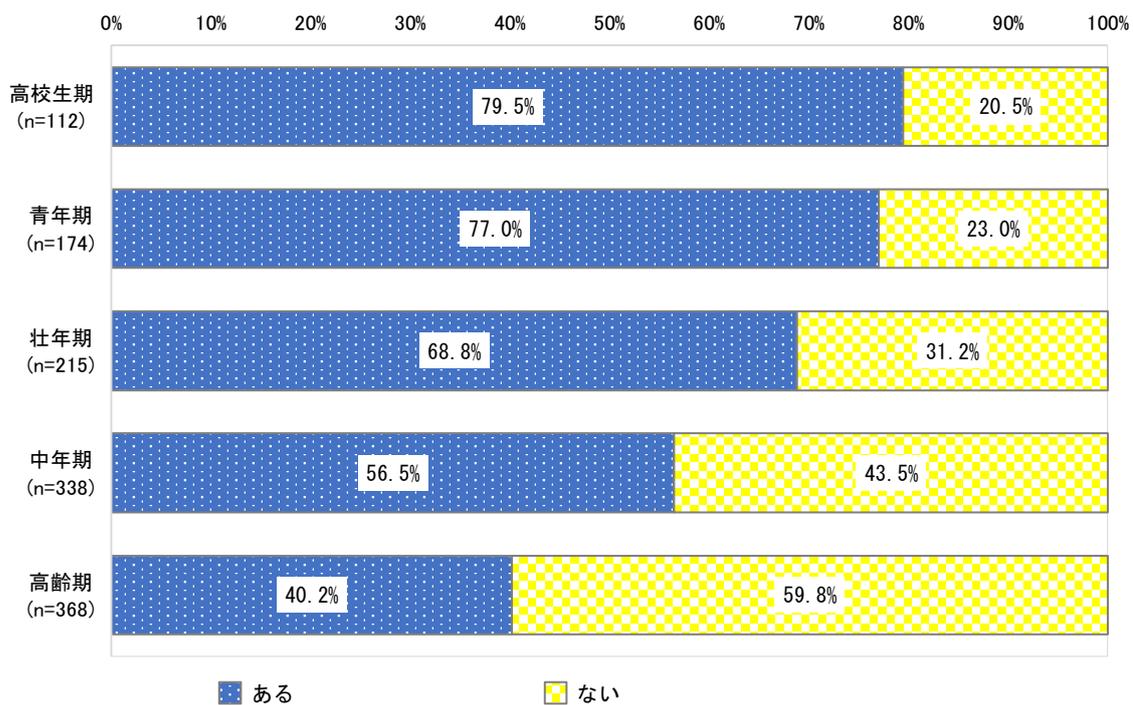
ライフステージ別でみると、食事バランスガイドを見たことが「ある」人の割合は、高校生期、青年期、壮年期、中年期のいずれも約7～8割と高くなっているが、高齢期では4割弱に留まる。

平成 24 年調査と比較して、青年期、中年期は 4 ポイント以上下回る。

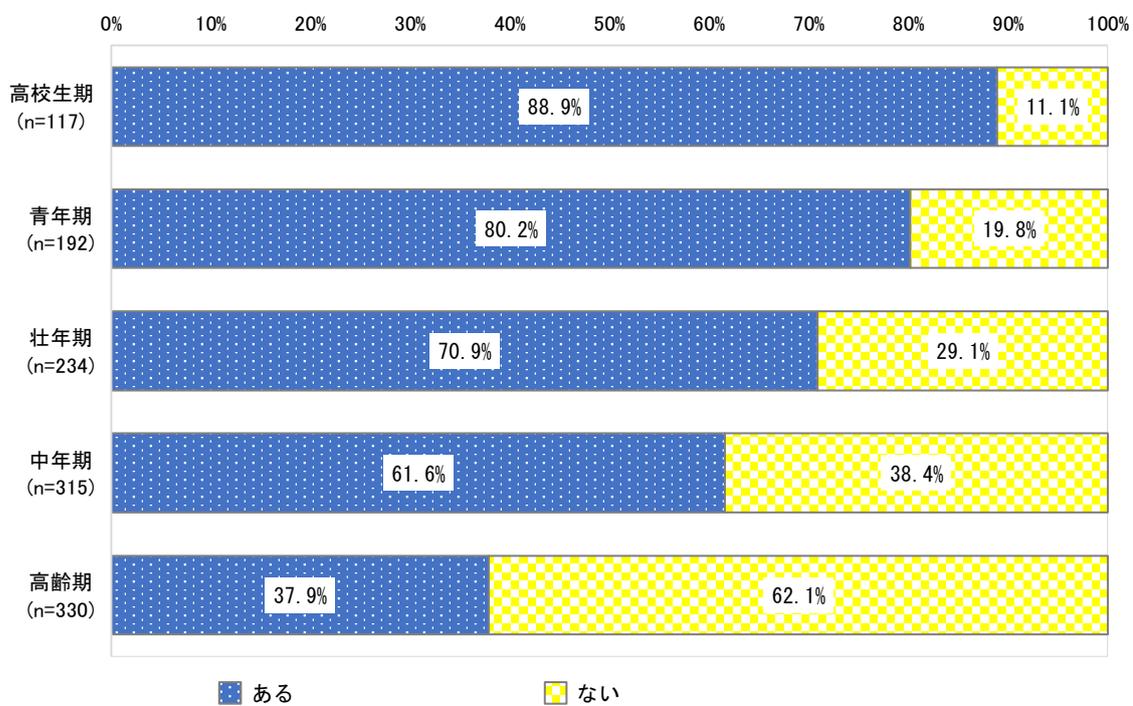
## ■ H30 年調査



## ■ H27 年調査

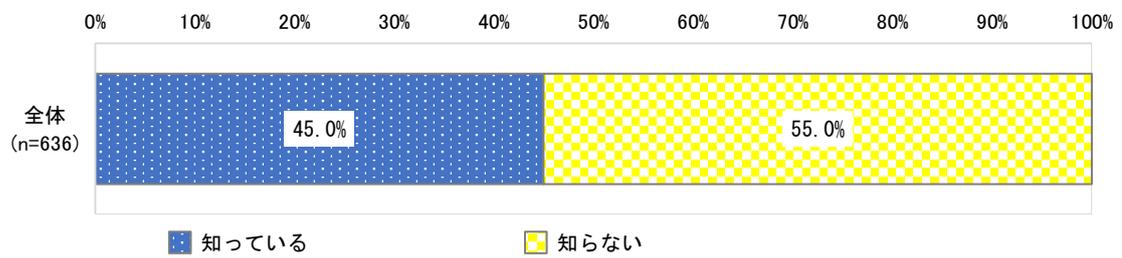


## ■ H24 年調査

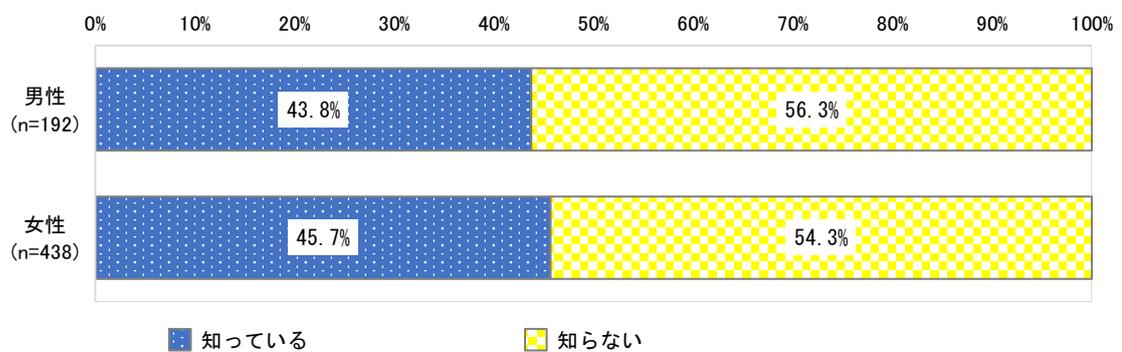


## ■食事バランスガイドの使い方 〈15歳以上〉

食事バランスガイドの使い方について、使い方を「知っている」人の割合は45.0%。



性別でみると、使い方を「知っている」人の割合は、男性が43.8%、女性が45.7%と、女性が男性を若干上回る。



## ■主食、主菜、副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている市民の割合

主食、主菜、副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている市民の割合は76.1%。

項目	(H30年・実績)
主食、主菜、副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている市民の割合	76.1%

※15歳以上の回答者で、「食べている」を選択した人の割合

### <調査結果>

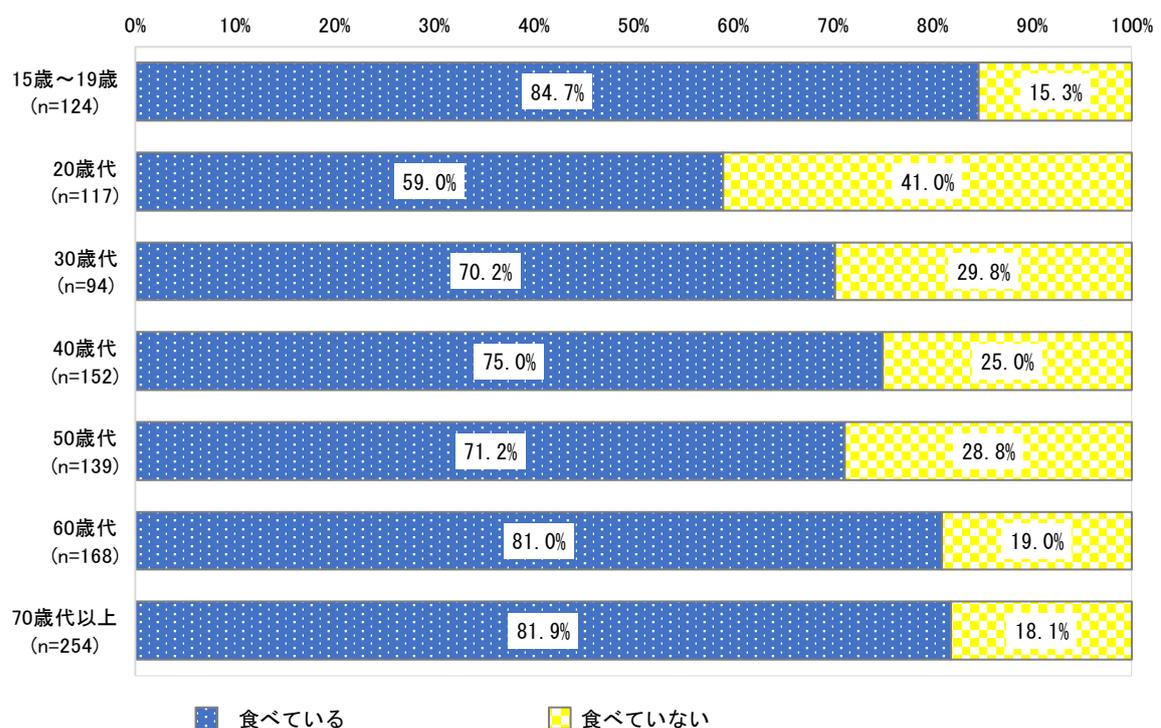
#### ■主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を食べる割合 〈15歳以上〉

主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を食べる割合は、「食べている」76.1%、「食べていない」23.9%となっている。



年齢区別に主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を食べる割合をみると、20歳代を除く年代で7割を超えている。なお、20歳代は59.0%に留まっている。

20歳代と30歳代を合わせると64.0%となっている。



## (2) 内臓脂肪症候群の予防や改善のために適切な食事、定期的な運動、定期的な体重測定を継続的に実践している市民の割合

内臓脂肪症候群の予防や改善のために適切な食事、定期的な運動、定期的な体重測定を継続的に実践している市民の割合は34.2%。平成24年調査と比較して6.5ポイント上回るが、目標を15.8ポイント下回る。

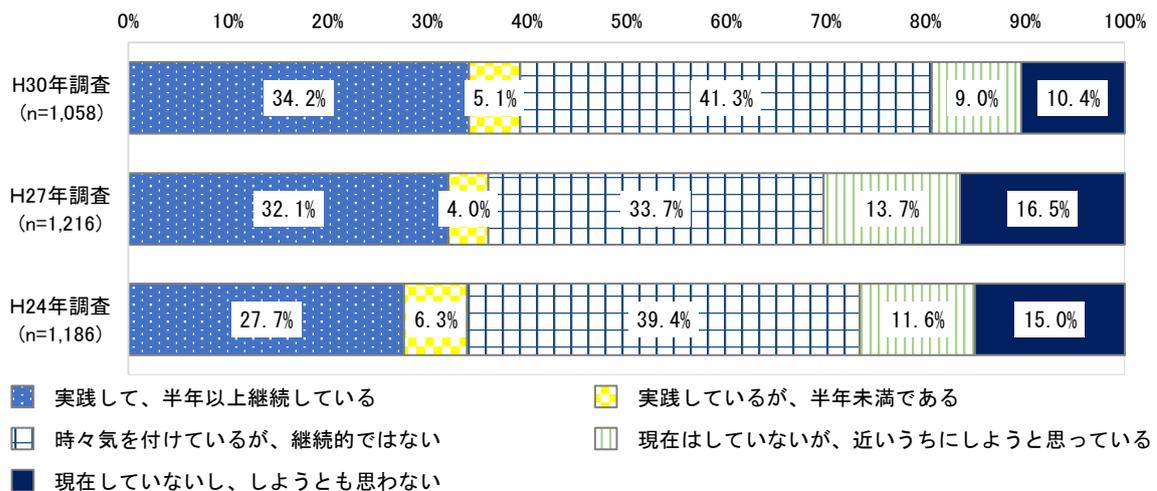
項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(H30年・目標)
○内臓脂肪症候群の予防や改善のために適切な食事、定期的な体重測定を継続的に実践している市民の割合	27.7%	32.1%	34.2%	50%

※15歳以上の回答者で、「実践して、半年以上継続している」を選択した人の割合

### <調査結果>

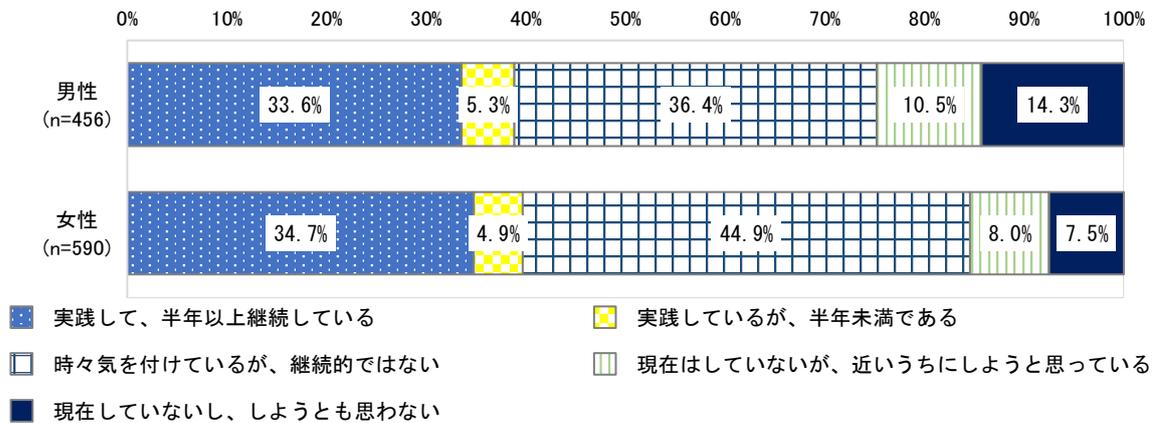
#### ■内臓脂肪症候群の予防や改善のため適切な食事等の実践 〈15歳以上〉

「内臓脂肪症候群の予防や改善のため適切な食事等の実践」について、「時々気を付けているが、継続的ではない」が41.3%と最も高く、次いで「実践して、半年以上継続している」が34.2%の順。

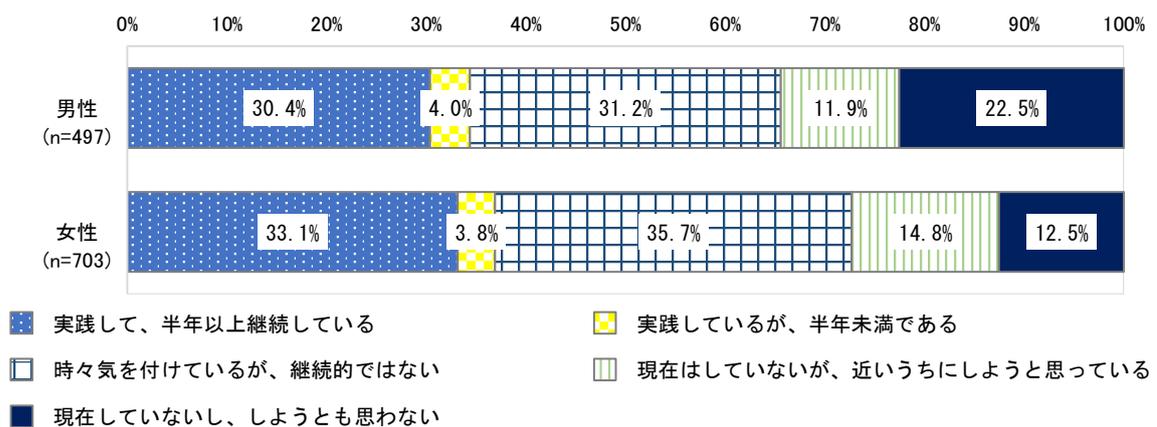


性別でみると、「実践して、半年以上継続している」は男性が 33.6%、女性が 34.7%で、ともに3割に達した。平成 24 年調査と比較して、男女ともに上回る。

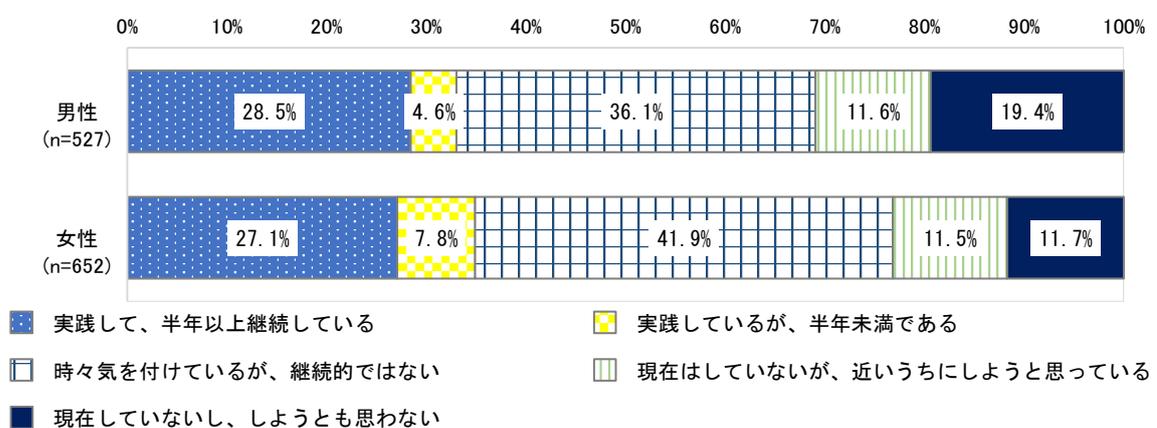
### ■ H30 年調査



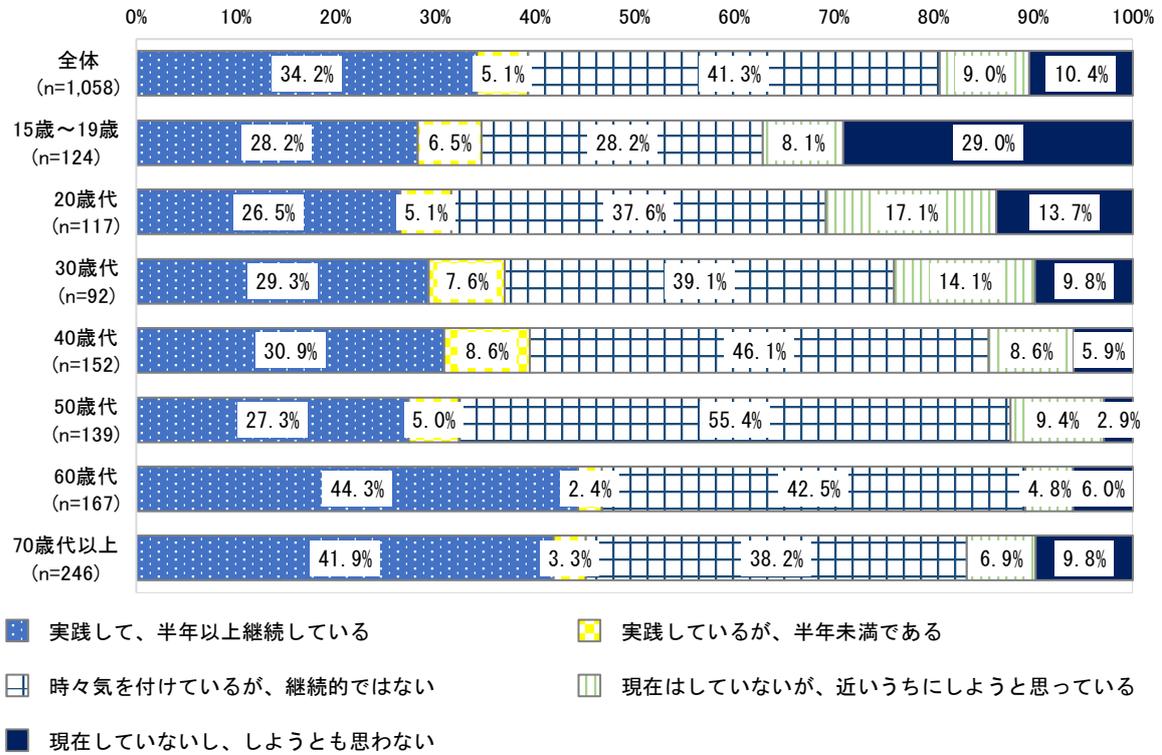
### ■ H27 年調査



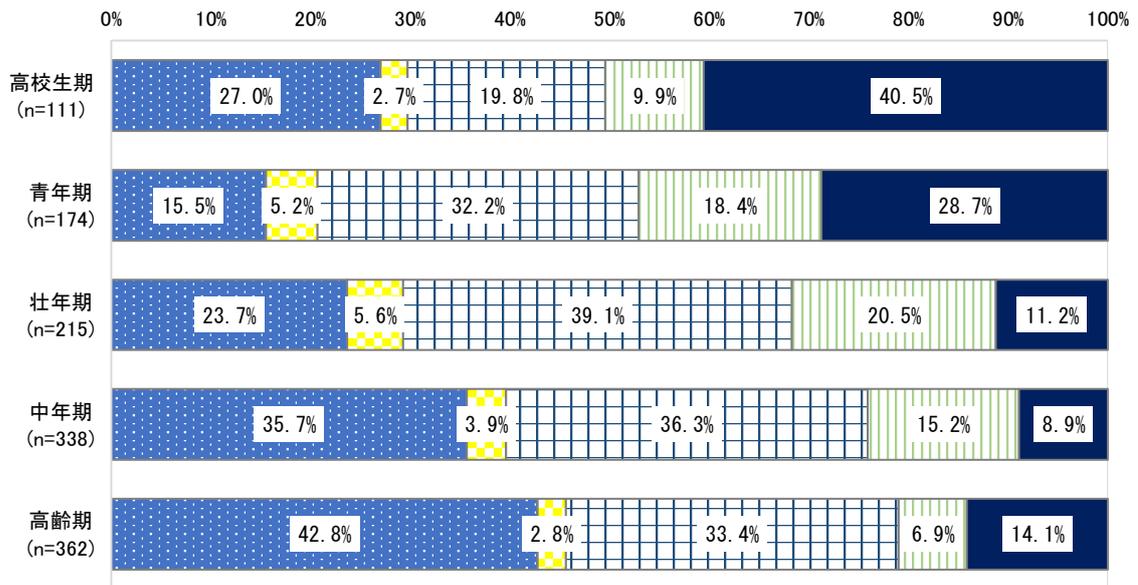
### ■ H24 年調査



年齢区分別でみると、「実践して、半年以上継続している」人の割合は、高年齢層で高く、60歳代は44.3%と4割に達する。一方、15歳～19歳では「現在していないし、しようとも思わない」が約3割と高い。

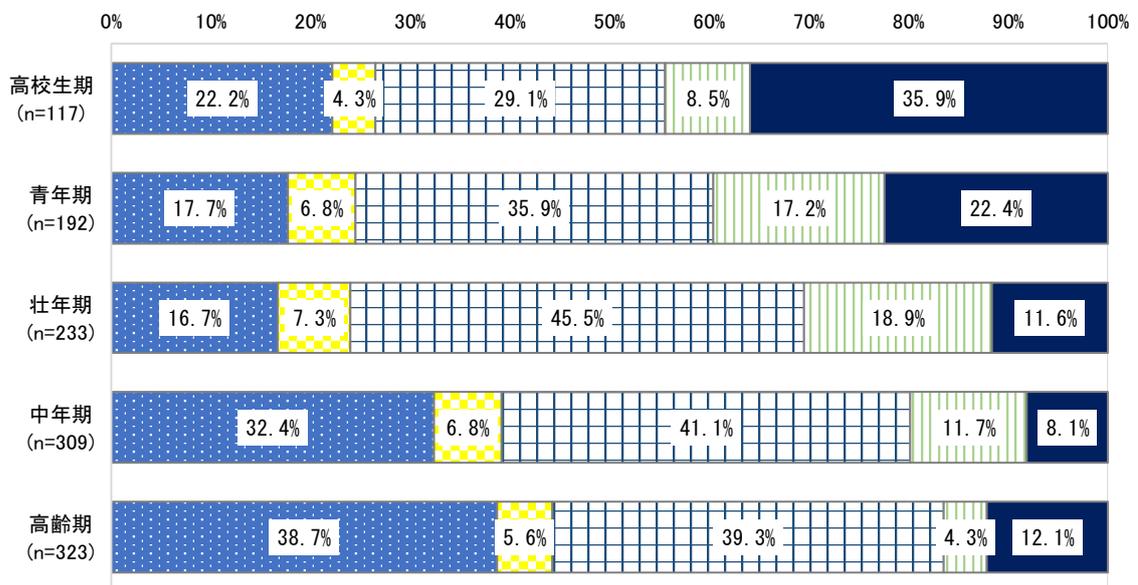


## ■ H27 年調査



- 実践して、半年以上継続している
- 実践しているが、半年未満である
- 時々気を付けているが、継続的ではない
- 現在はしていないが、近いうちにしようと思っている
- 現在していないし、しようとも思わない

## ■ H24 年調査



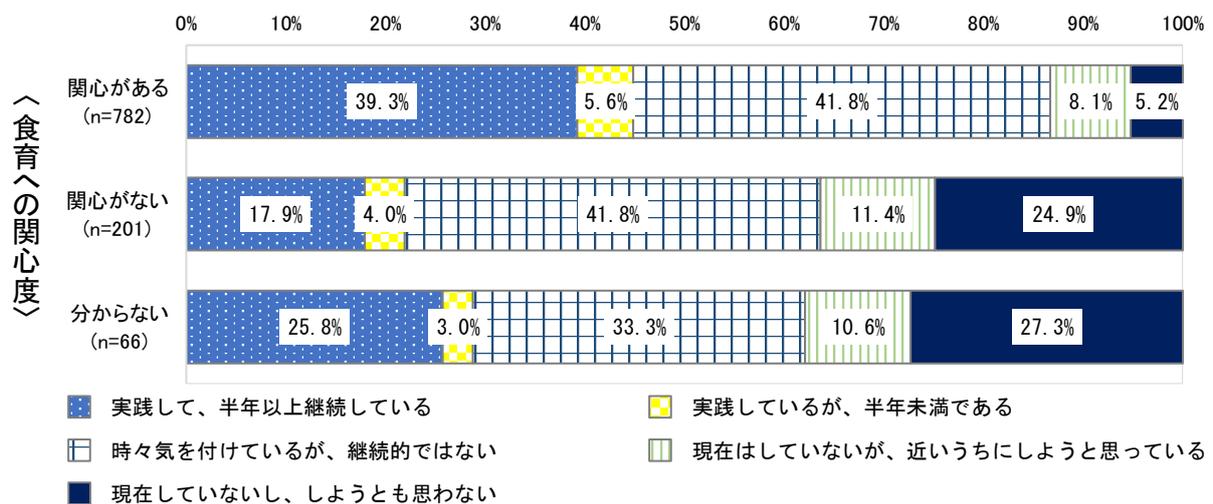
- 実践して、半年以上継続している
- 実践しているが、半年未満である
- 時々気を付けているが、継続的ではない
- 現在はしていないが、近いうちにしようと思っている
- 現在していないし、しようとも思わない

「内臓脂肪症候群の予防や改善のため適切な食事等の実践」と「食育への関心」との関係を見ると、「実践して、半年以上継続している」人の割合は、食育への「関心がある」人は39.3%を占めるが、「関心がない」人は17.9%に留まる。

平成24年調査と比較しても、同様の傾向である。

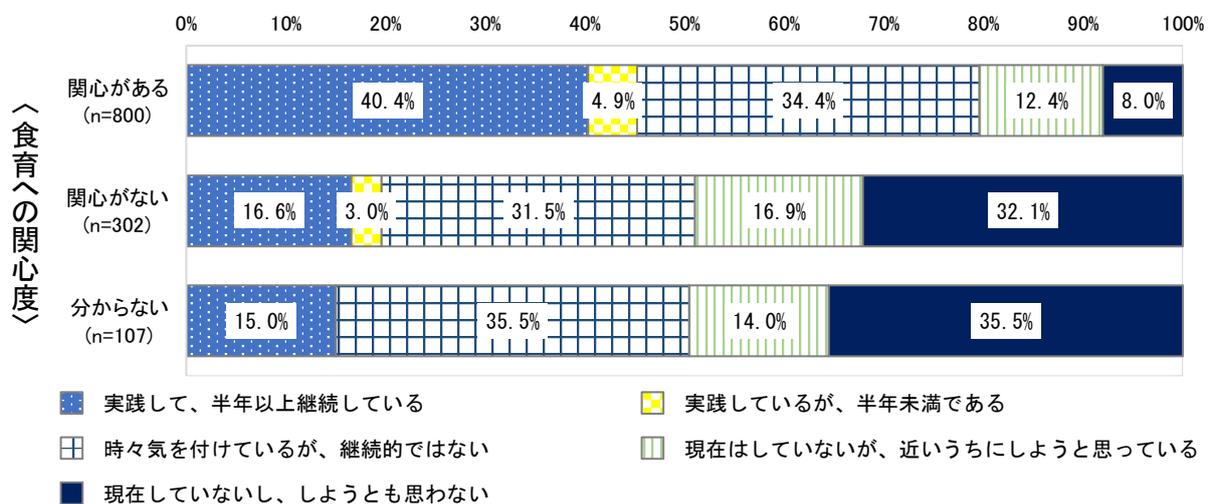
### ■H30年調査

#### 〈内臓脂肪症候群予防のための実践〉



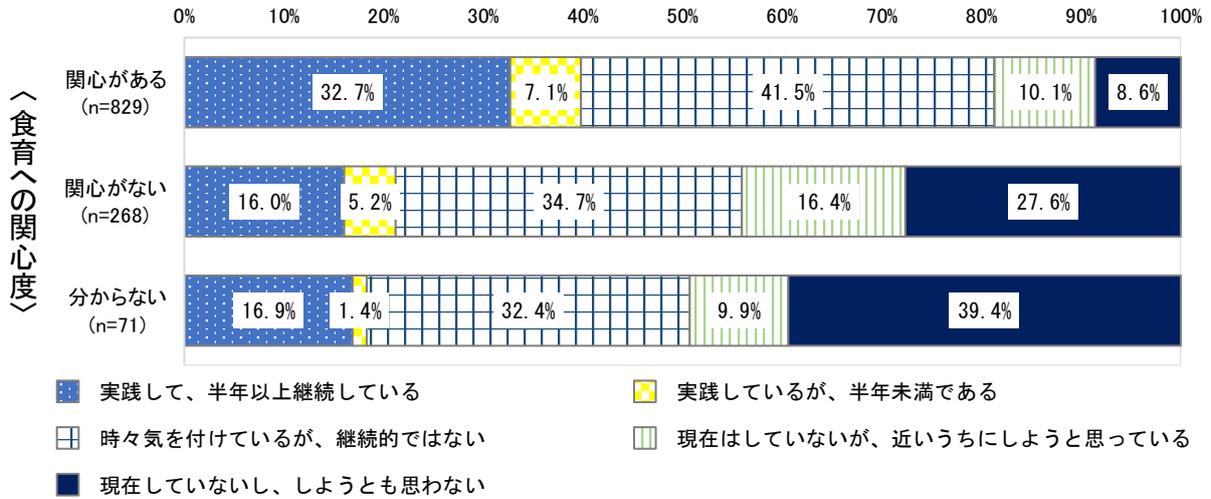
### ■H27年調査

#### 〈内臓脂肪症候群予防のための実践〉



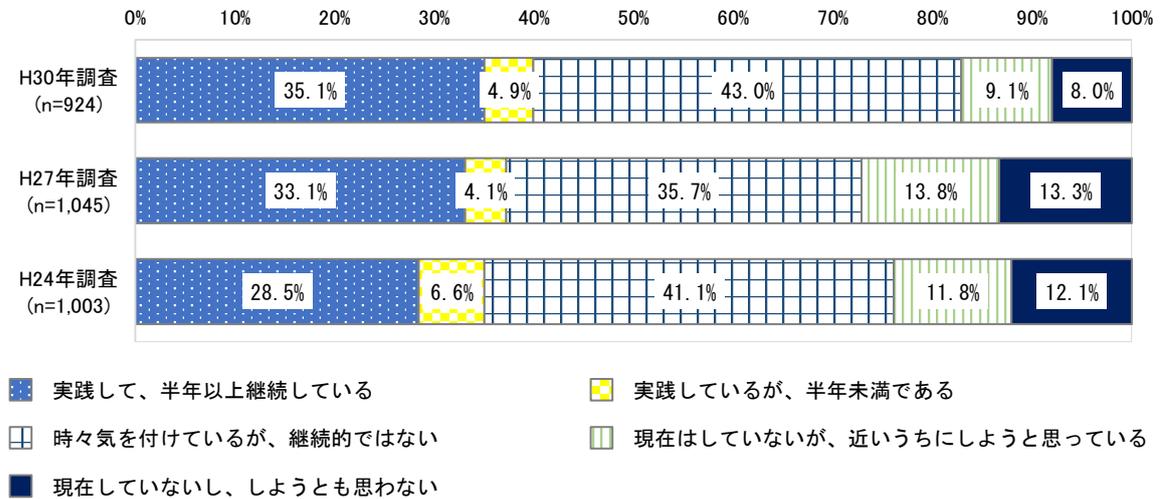
■ H24 年調査

〈内臓脂肪症候群予防のための実践〉



20 歳以上における、「内臓脂肪症候群の予防や改善のため適切な食事等」を「実践して、半年以上継続している」割合は 35.1%で、平成 24 年調査と比較して 6.6 ポイント上回る。

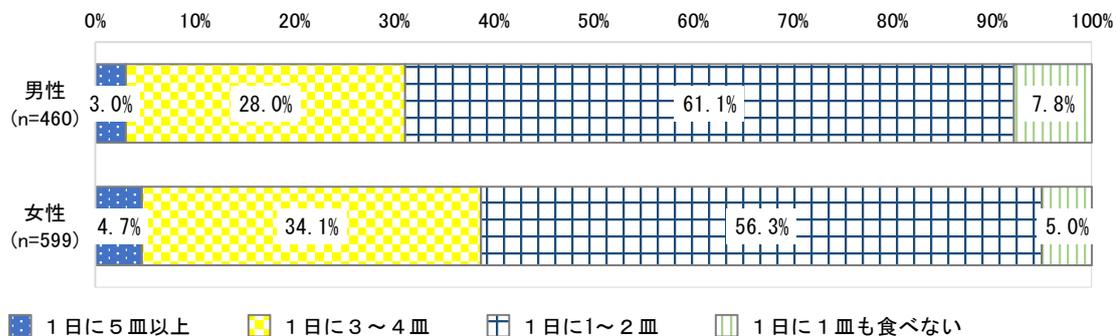
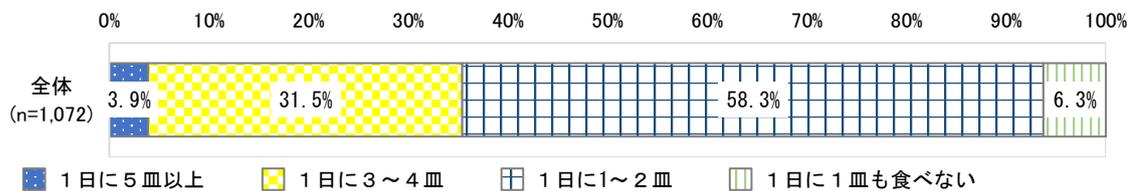
【20 歳以上】



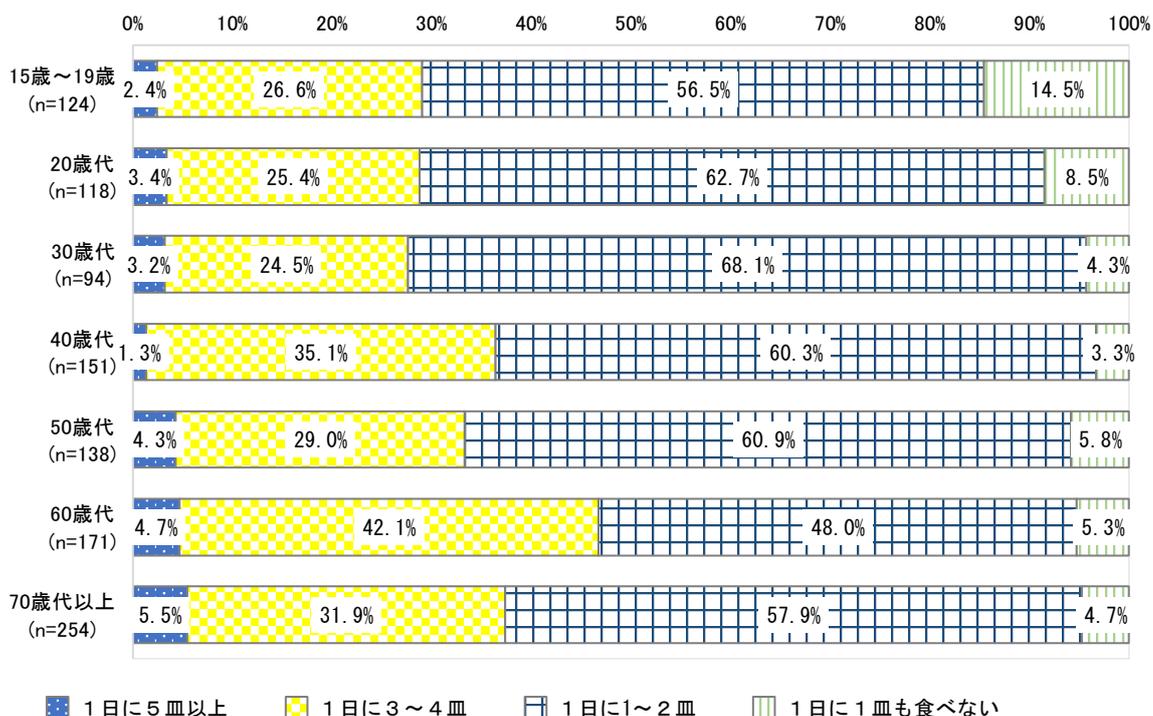
## ■野菜を1日に食べる量

野菜を1日に食べる量について、「1日に1～2皿」が58.3%と最も高く、次いで「1日に3～4皿」が31.5%の順。

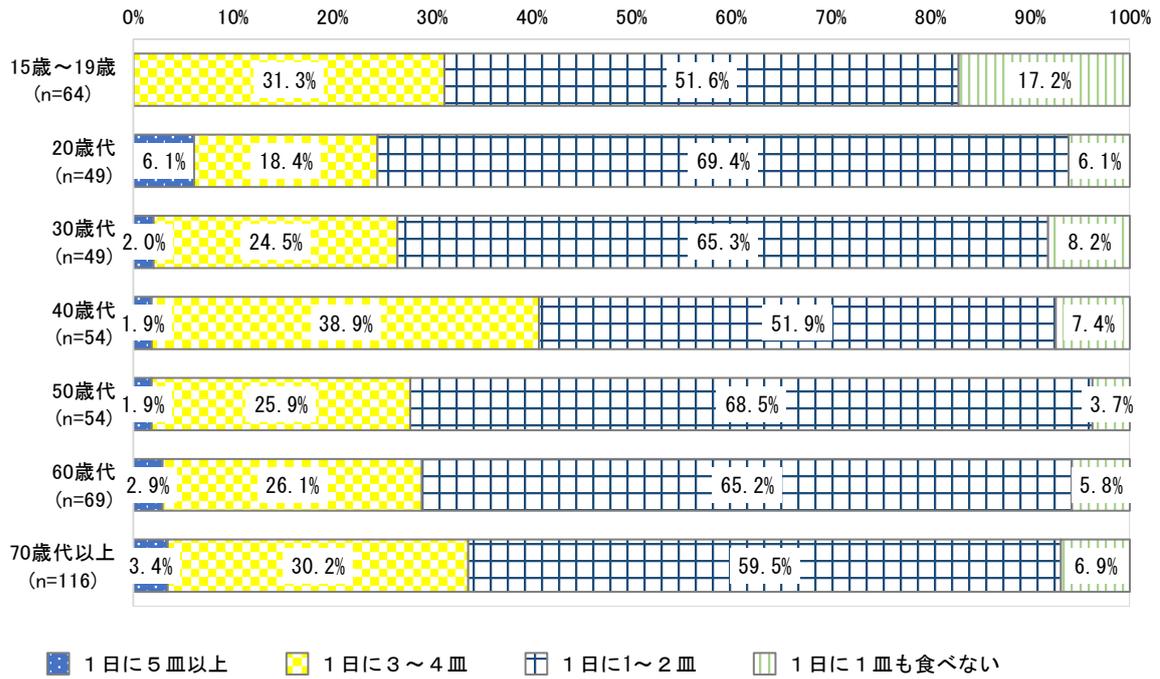
性別でみると、男女ともに「1日に1～2皿」が半数を超え、「1日に3～4皿」は男性が28.0%であるのに対し、女性は34.1%と、女性が6.1ポイント上回る。



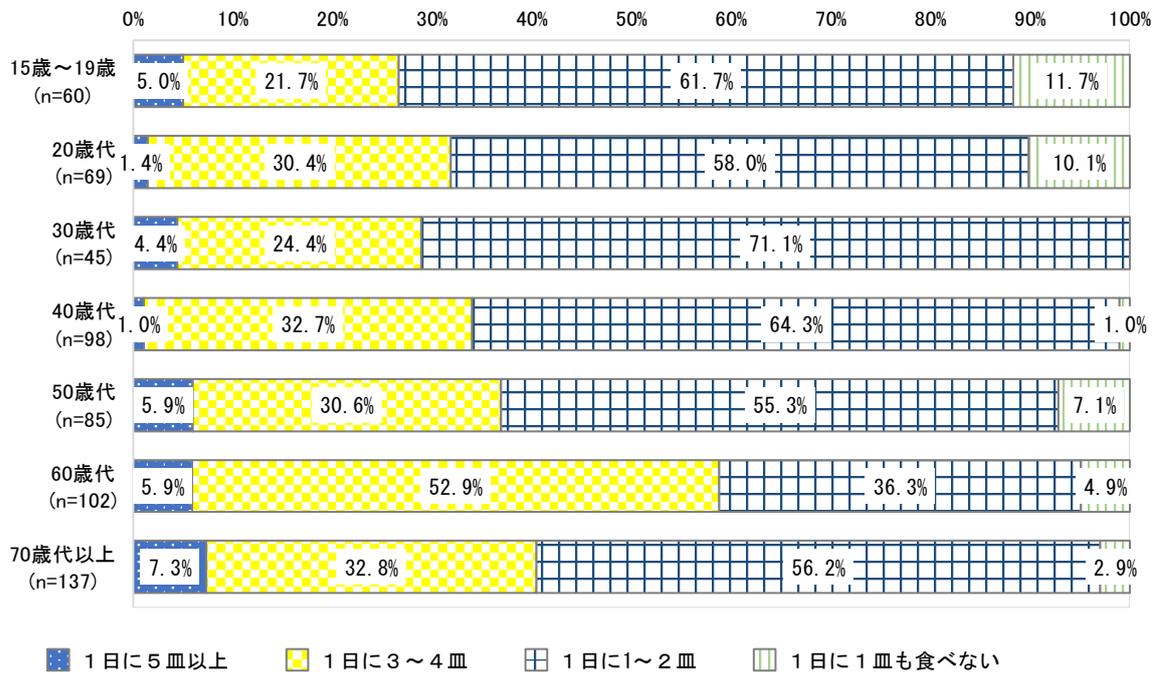
年齢区分別でみると、「1日に1～2皿」はすべてにおいて約5～6割を占めるが、15～19歳では「1日に1皿も食べない」が14.5%と他に比べ高い。



【男性】



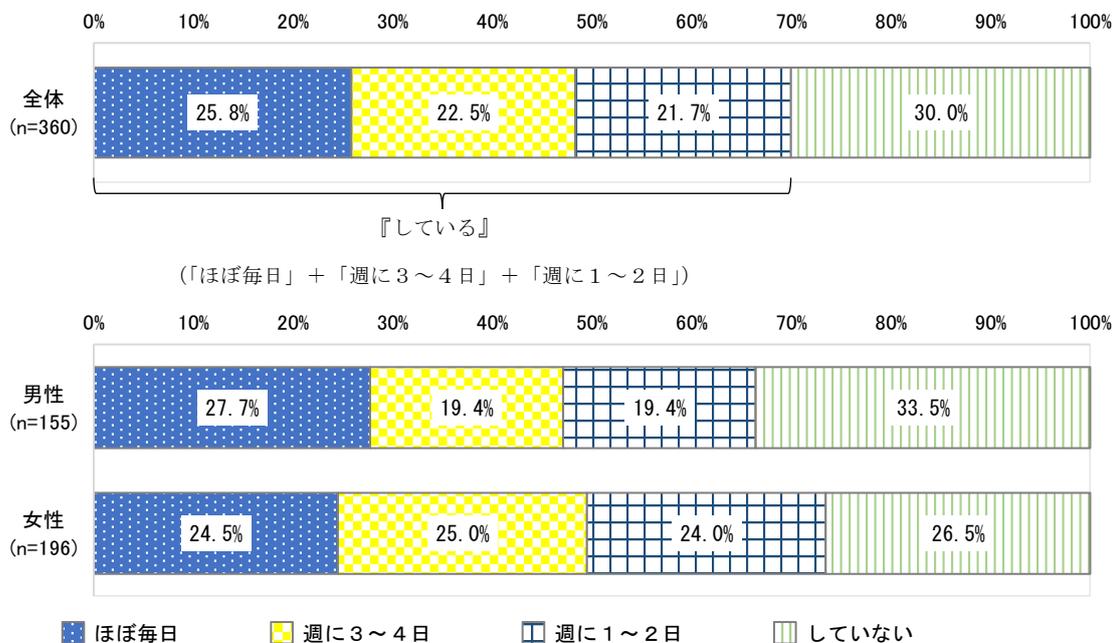
【女性】



## ■運動習慣の有無について <65歳以上>

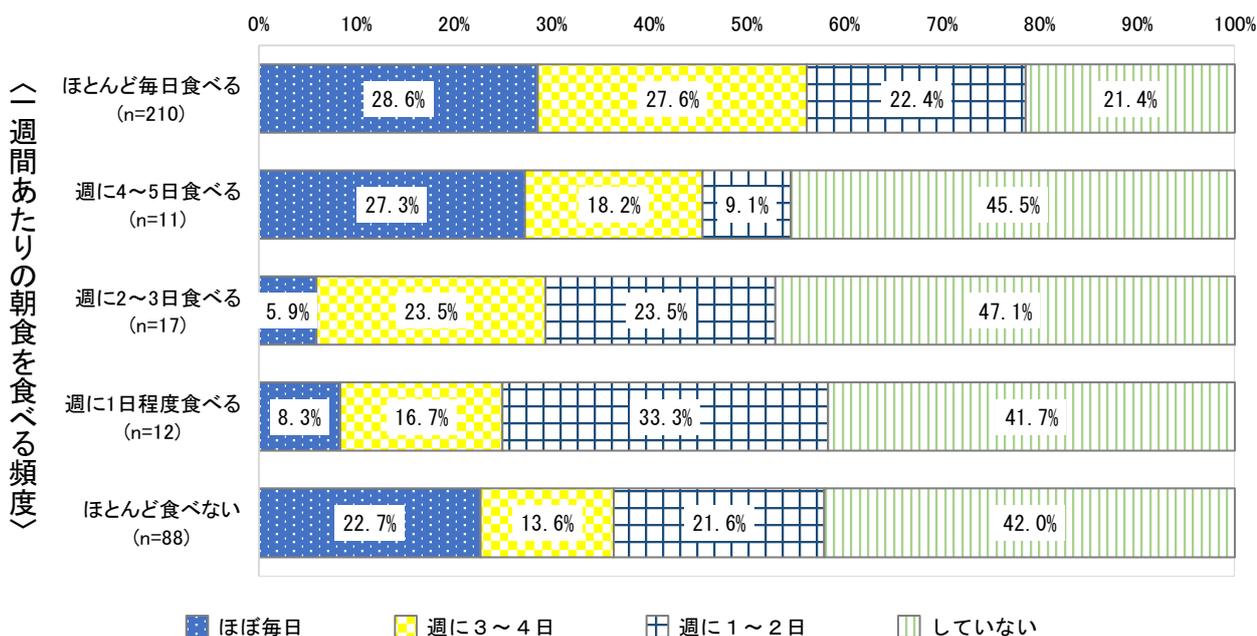
運動習慣の有無について、「ほぼ毎日」は25.8%、「週に3～4日」は22.5%、「週に1～2日」は21.7%と、合わせて70.0%が『している』としている。一方、「していない」は30.0%となっている。

性別でみると、男性が66.5%、女性が73.5%で、女性が7.0ポイント上回る。

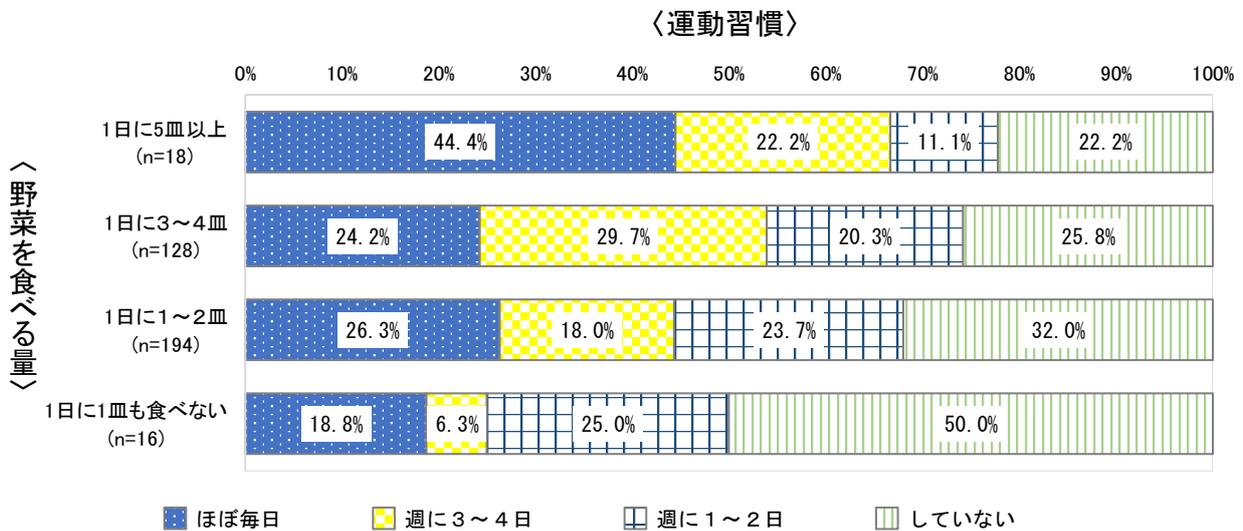


「1週間あたりの朝食を食べる頻度」との関係を見ると、運動を『している（「ほぼ毎日」 + 「週に3～4日」 + 「週に1～2日」）』割合は、「ほとんど毎日食べる」人が78.6%であるのに対し、「ほとんど食べない」人は57.9%で20.7ポイント下回る。朝食を食べる頻度が高い人ほど運動習慣は多い傾向にある。

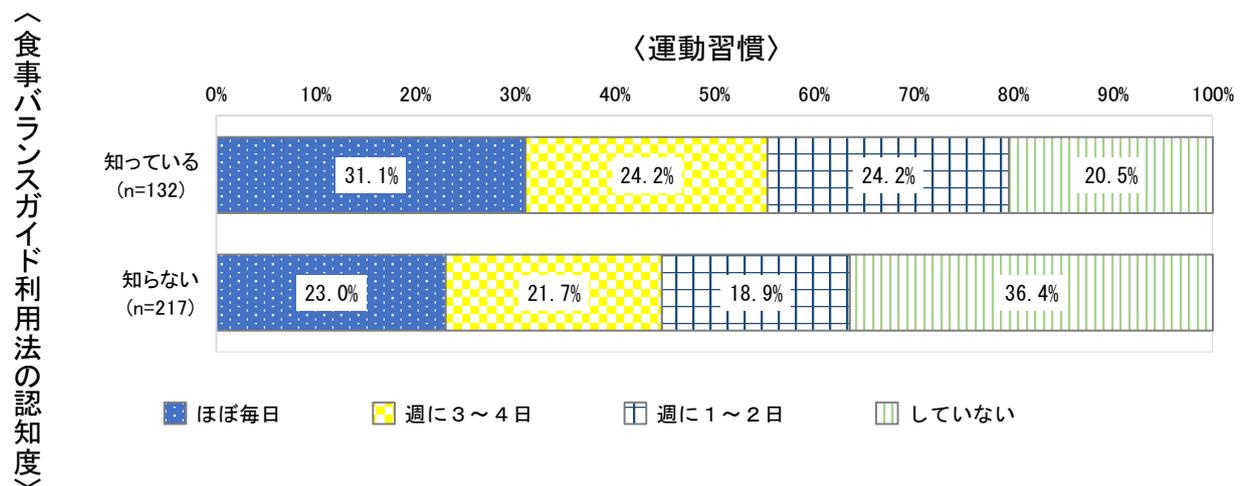
### <運動習慣>



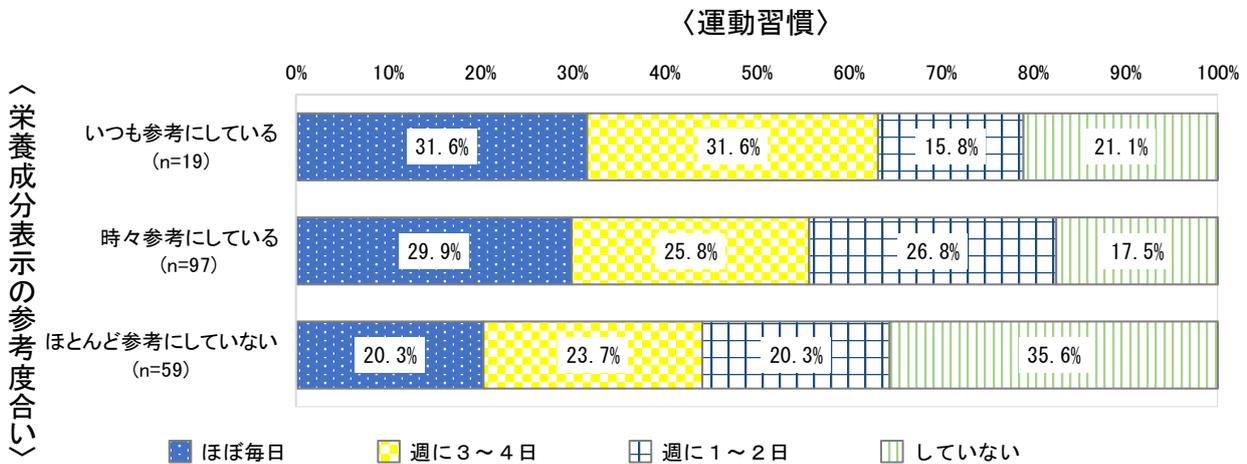
「野菜を食べる量」との関係を見ると、運動を『している（「ほぼ毎日」＋「週に3～4日」＋「週に1～2日」）』割合は、「1日に5皿以上」の人が77.7%であるのに対し、「1日に1皿も食べない」は、50.1%で27.6ポイントと大幅に下回る。野菜を食べる量が多い人ほど運動習慣は多い。



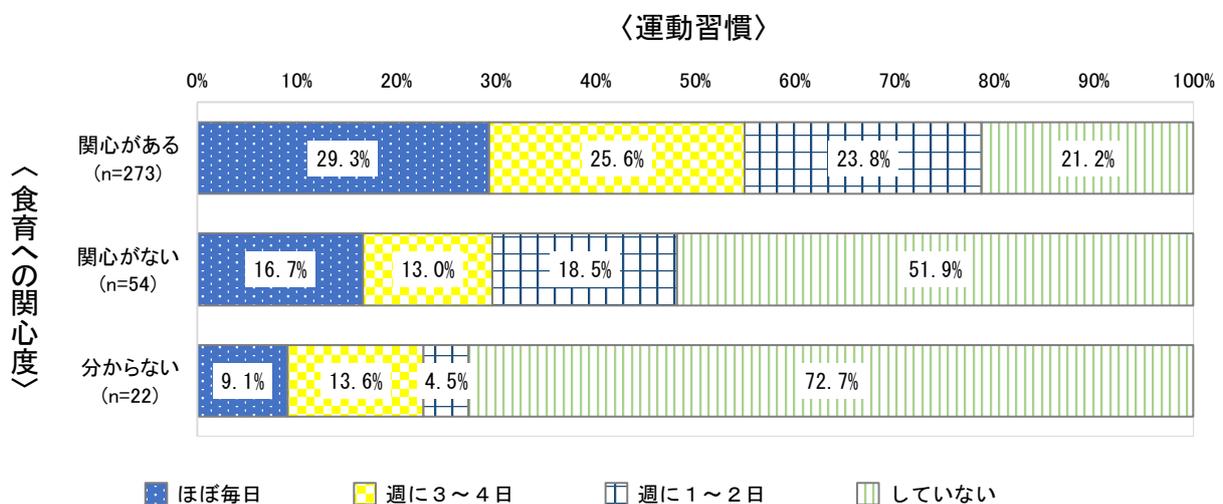
「食事バランスガイド利用法の認知度」との関係を見ると、運動を『している（「ほぼ毎日」＋「週に3～4日」＋「週に1～2日」）』割合は、「知っている」人が79.5%であるのに対し、「知らない」は63.6%と、「知っている」が15.9ポイント上回る。



「栄養成分表示の参考度合い」との関係を見ると、運動を『している（「ほぼ毎日」＋「週に3～4日」＋「週に1～2日」）』割合は、「いつも参考にしている」人が79.0%、「時々参考にしている」人が82.5%であるのに対し、「ほとんど参考にしていない」人は64.3%に留まる。栄養成分表示の参考度合いが高い人ほど運動習慣は多い傾向にある。



食育への関心別では、運動を『している（「ほぼ毎日」＋「週に3～4日」＋「週に1～2日」）』割合は、「関心がある」人が78.7%であるのに対し、「関心がない」人は48.2%と、約30ポイントと大幅に下回る。



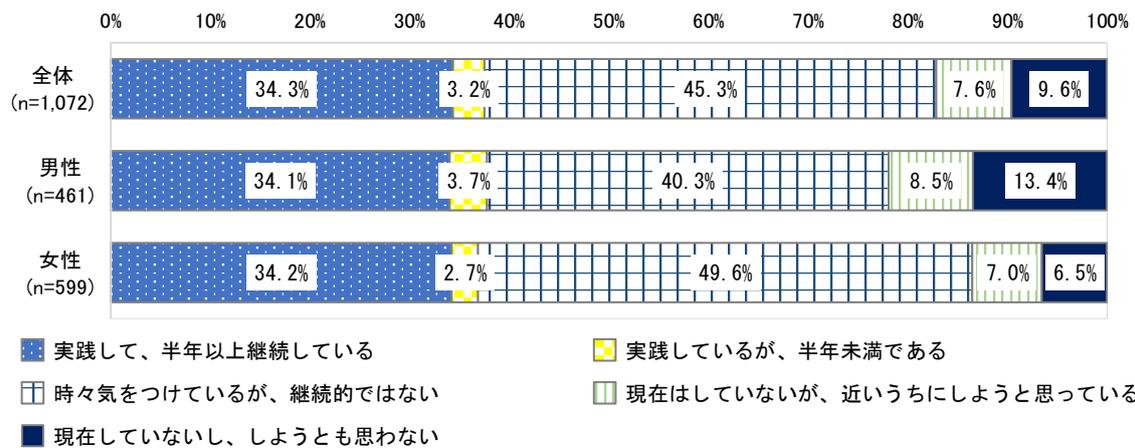
## ■生活習慣病の予防や改善のために、ふだんから適正体重の維持や減塩等に気をつけた食生活を継続的に実践している市民の割合

項目	(H30年・実績)
生活習慣病の予防や改善のために、ふだんから適正体重の維持や減塩等に気をつけた食生活を継続的に実践している市民の割合	34.3%

※15歳以上の回答者で、「実践して、半年以上継続している」を選択した人の割合

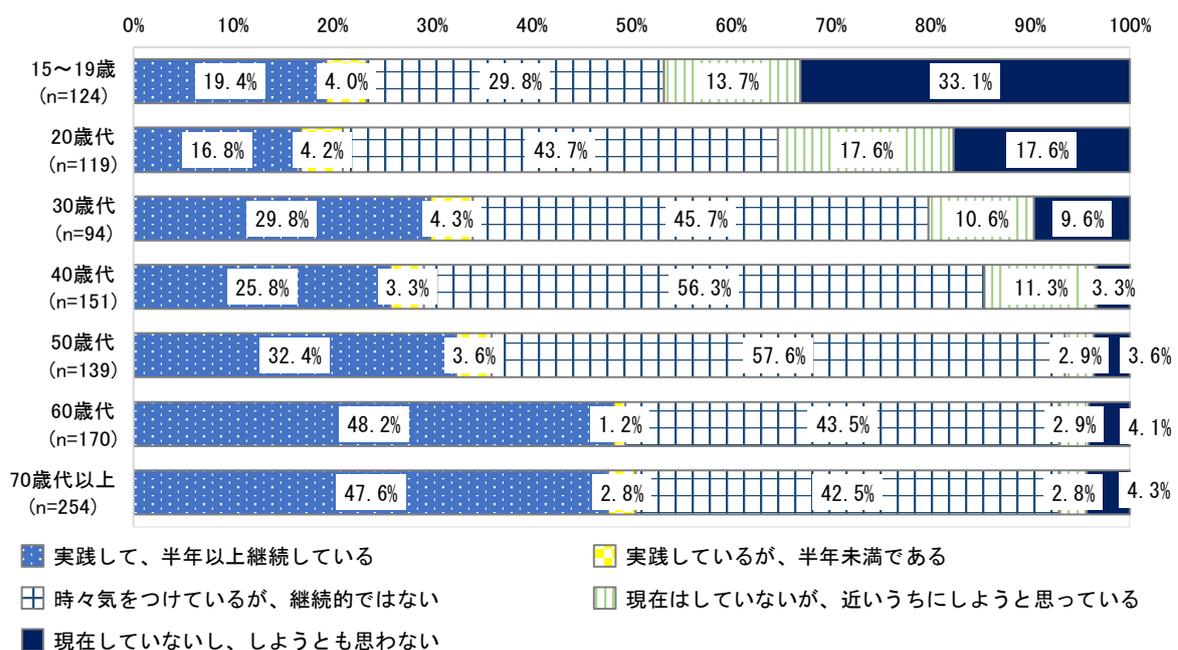
生活習慣病の予防改善のための適切な食事等の実践について、「時々気をつけているが、継続的ではない」の割合が45.3%と最も高く、次いで「実践して、半年以上継続している」が34.3%。

性別でみると、「実践して、半年以上継続している」人の割合は男性が34.1%、女性が34.2%で、大きな差はみられない。



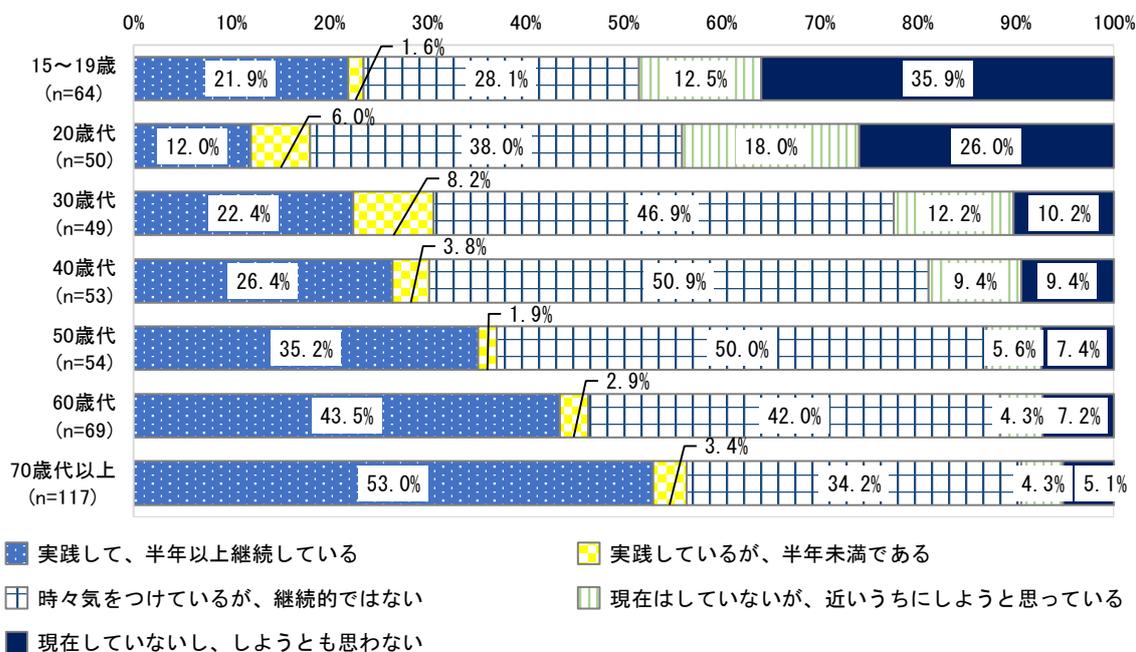
年齢区分別でみると、「実践して、半年以上継続している」人の割合は、高年齢層になるにつれ高くなる傾向にあるが、40歳代では少し落ち込んでいる。一方、15～19歳では「現在していないし、しようとも思わない」が3割を超える。

20歳代、30歳代を合わせると22.5%となっている。

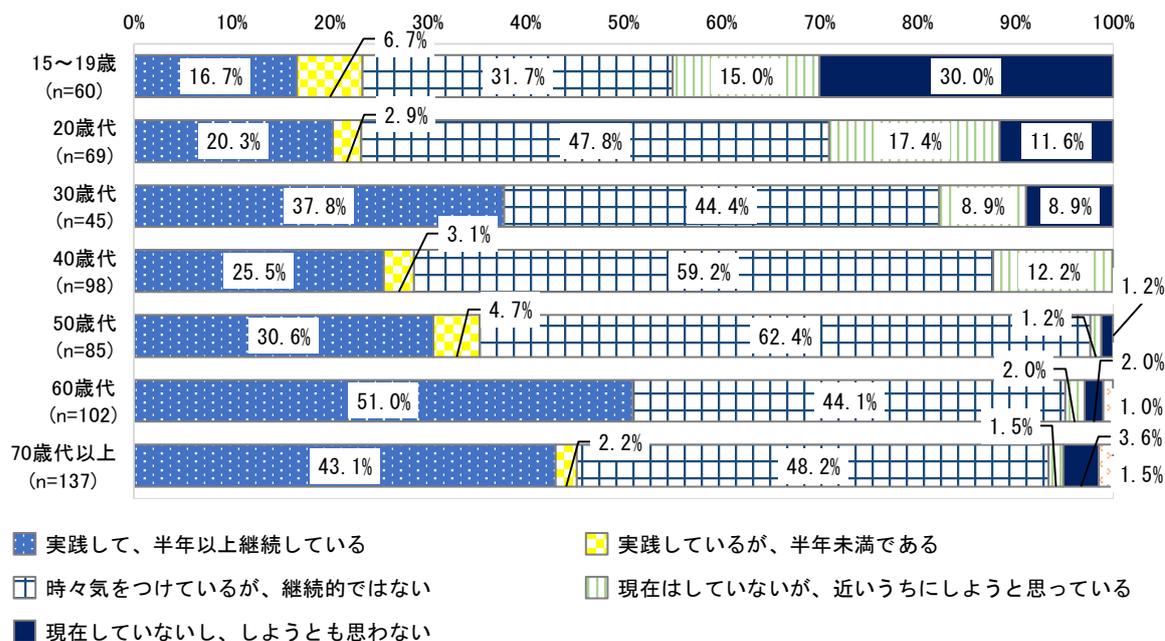


性別でみると、20歳代・30歳代で「実践して、半年以上継続している」人の割合は、いずれも男性よりも女性が高い。

### 【男性】

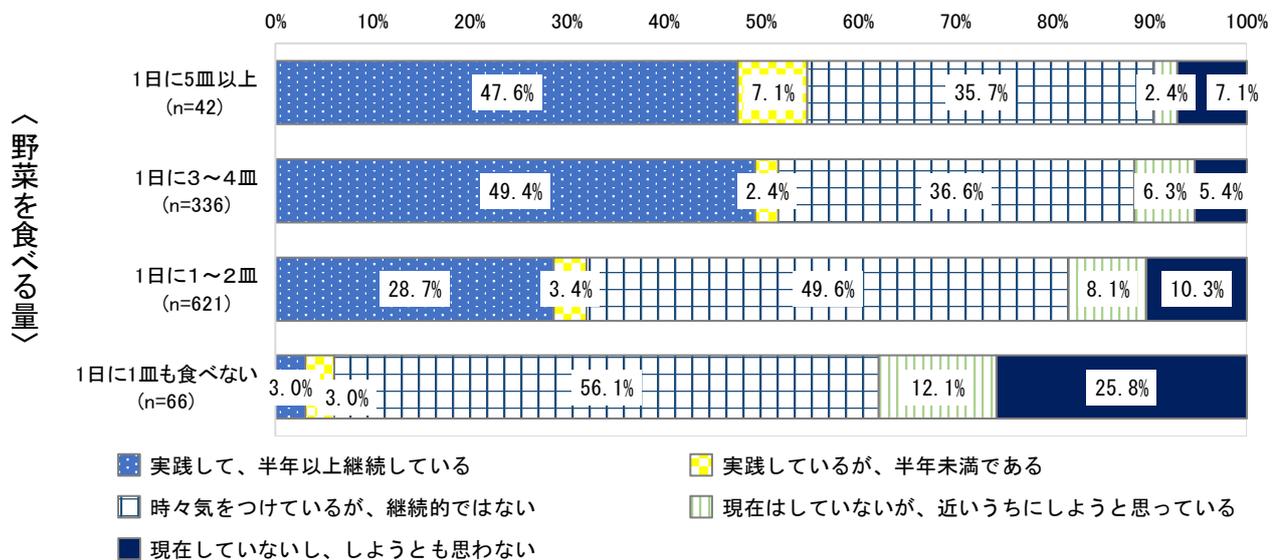


### 【女性】



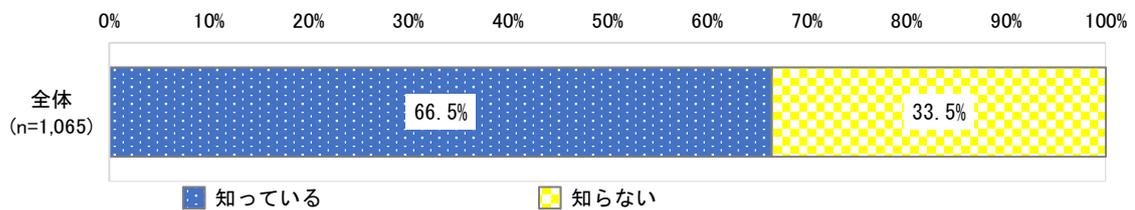
「野菜を食べる量」との関係を見ると、「1日に5皿以上」、「1日に3～4皿」とする人は「実践して、半年以上継続している」が約5割となっているが、「1日に1皿も食べない」とする人は1割にも満たない。

### 〈生活習慣病の予防や改善のため食生活の実践〉

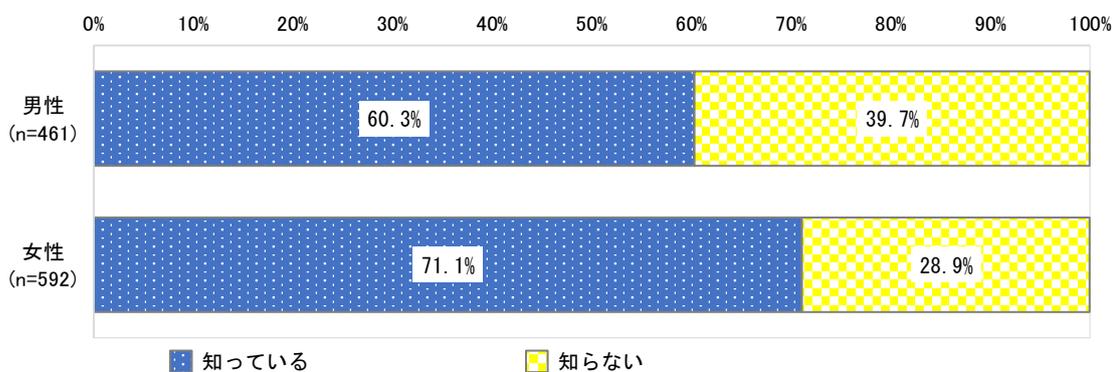


## ■自分の適正体重（BMI）を知っていますか 〈15歳以上〉

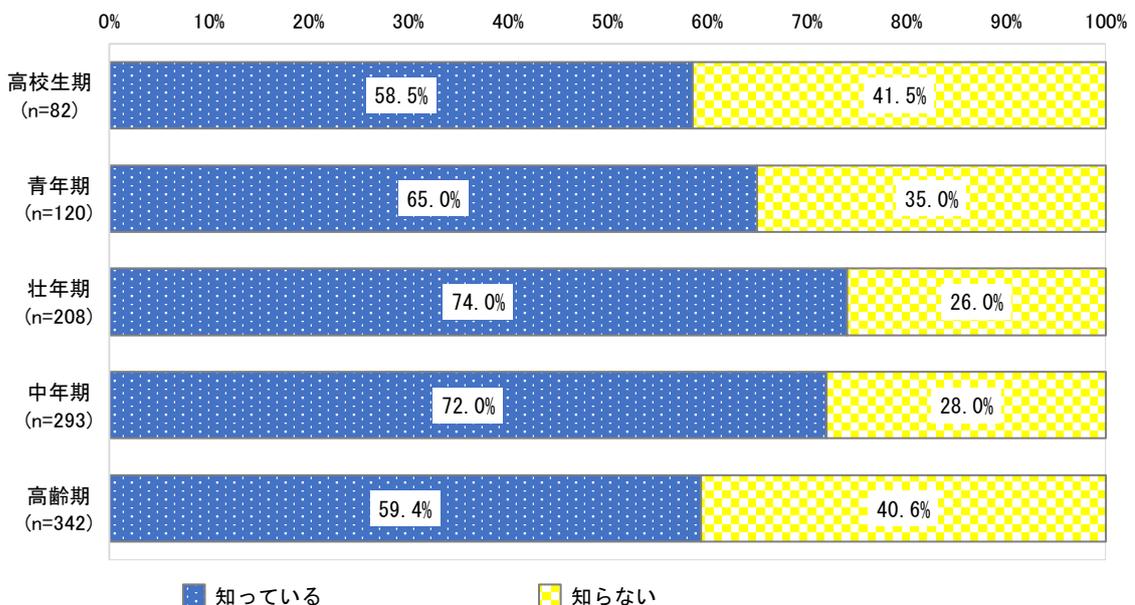
自分の適正体重（BMI）を知っているかについて、「知っている」が66.5%、「知らない」が33.5%。



性別で見ると、「知っている」は男性が60.3%、女性が71.1%で、女性が10.8ポイント上回る。

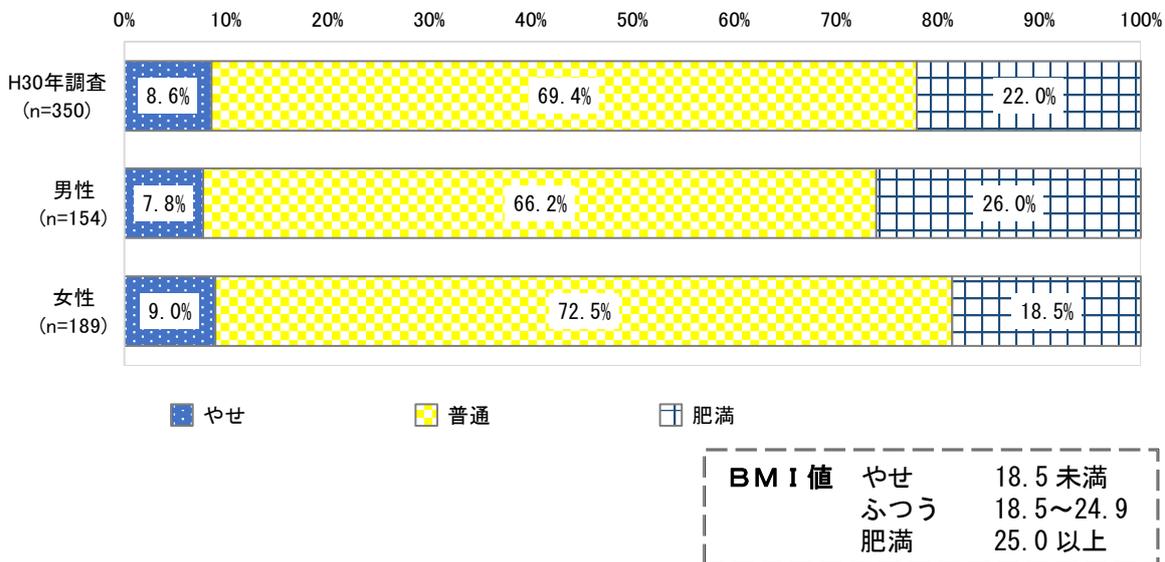


ライフステージ別で見ると、すべての世代で「知っている」は5割を超える。最も割合が高い壮年期で74.0%となっている。



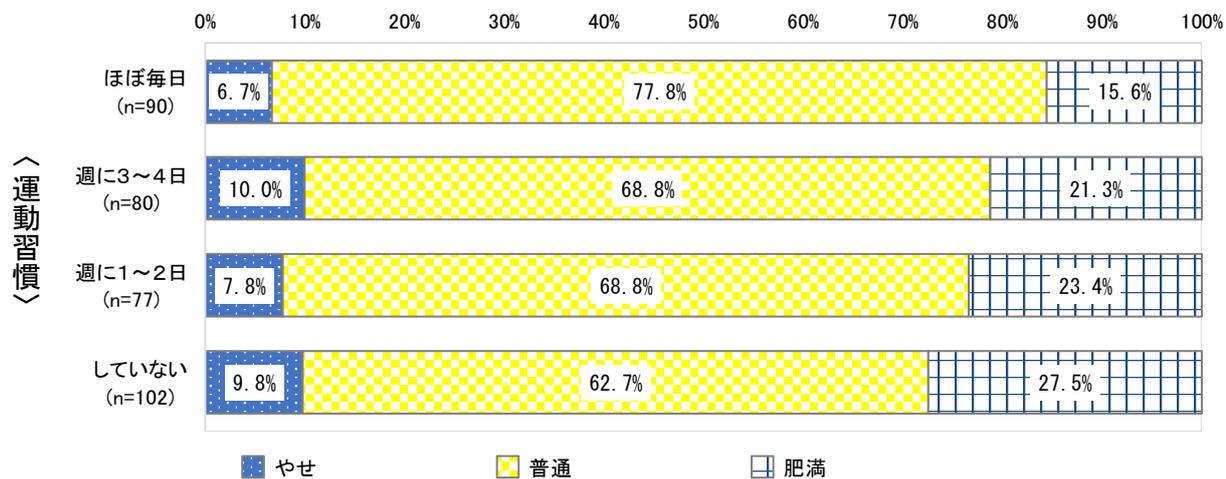
## ■BMI判定 〈65歳以上〉

65歳以上のBMI判定は、「普通」が69.4%、「肥満」が22.0%、「やせ」が8.6%。  
性別でみると、「肥満」は、男性が26.0%、女性が18.5%で、男性が7.5ポイント上回る。



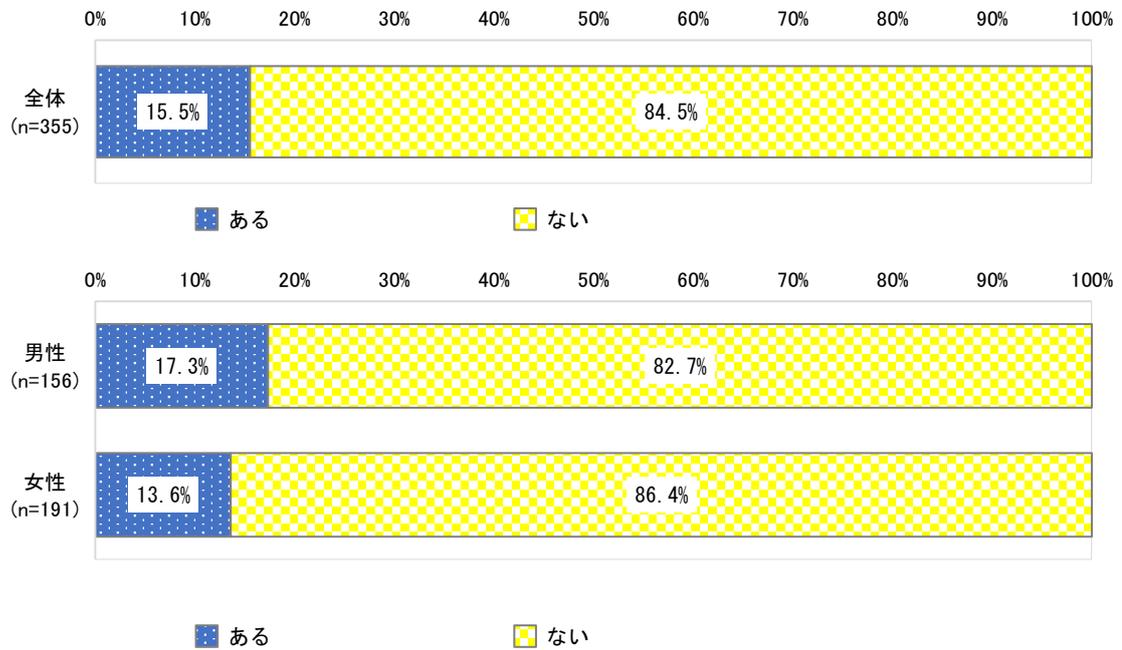
「運動習慣」との関係を見ると、運動習慣の頻度が多い人は、「普通」が多く、「肥満」が少ない状況にある。

### 〈BMI判定〉



### ■この6ヶ月での2～3kgの体重減少の有無 〈65歳以上〉

この6ヶ月での2～3kgの体重減少について、「ある」が15.5%、「ない」が84.5%。  
性別でみると、「ある」は、男性が17.3%、女性が13.6%で、男性が3.7ポイント上回る。



## 2) 食生活改善をサポートする人材育成

「食育の推進に関するボランティア数」は増えており、健全な食生活を実践するための環境整備は着実に進んでいる。今後も、食生活をサポートする体制の充実と、実践への結びつきが求められる。

### (1) 食育の推進に関するボランティア数

食育の推進に関するボランティア数は1,536人で、平成24年から328人増加し、目標との差は64人となった。

項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H29年・実績)	(H30年・目標)
○食育の推進に関するボランティア数	1,208人	1,410人	1,536人	1,600人

### 3) 食品関連事業者と連携した食育の推進

「飲食店等での栄養成分の表示の認知度」は増加しているものの、引き続き、食品関連事業者等と連携した食育と、食品関連事業者への啓発を推進し、自発的な活動を支援する取組を進める必要がある。

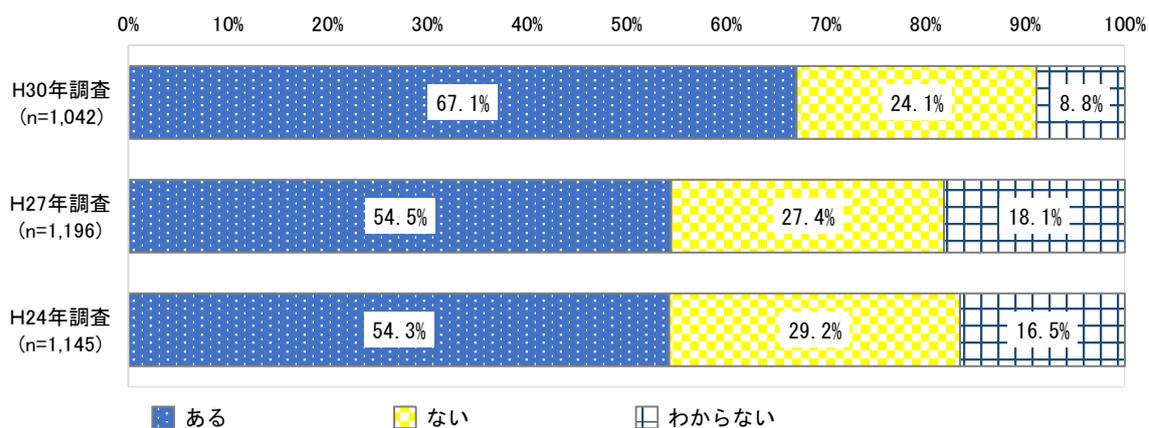
#### (1) 栄養に関する表示等を参考にしている市民の割合 (再掲)

##### <調査結果>

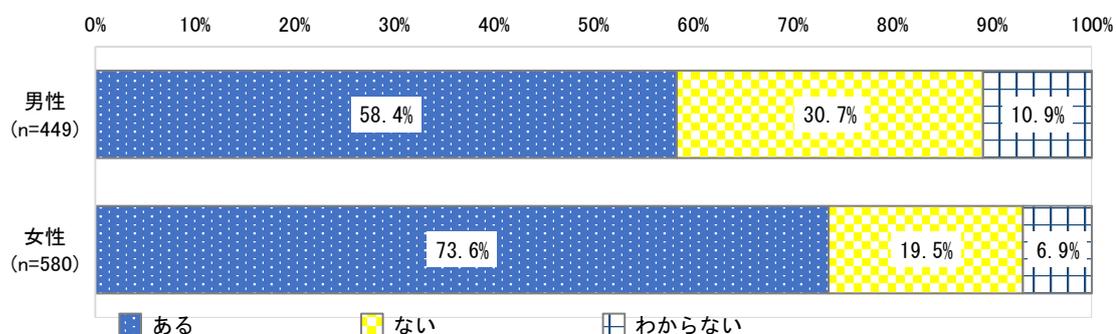
##### ■飲食店等での栄養成分の表示の認知度 (15歳以上)

飲食店等での栄養成分の表示の認知度について、「ある」が67.1%、「ない」が24.1%、「わからない」が8.8%だった。平成24年調査と比較して、「ある」は約13ポイントと上回り、「ない」は5ポイント以上下回った。飲食店等での栄養成分表示を見たことがある機会が増えている。

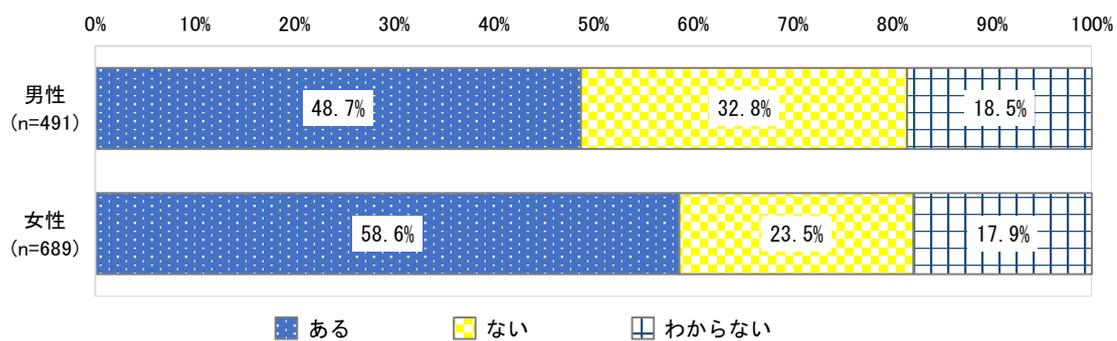
性別でみると、「ある」は、男性が58.4%、女性が73.6%で、女性が15.2ポイント上回る。



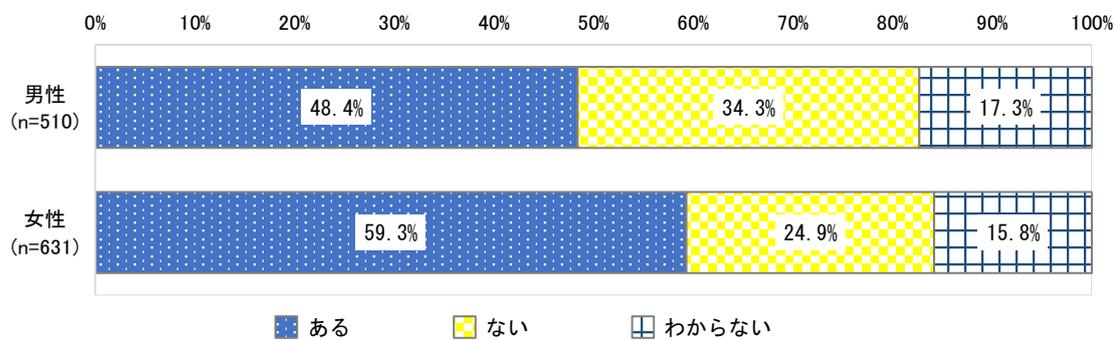
##### ■H30年調査



■ H27 年調査



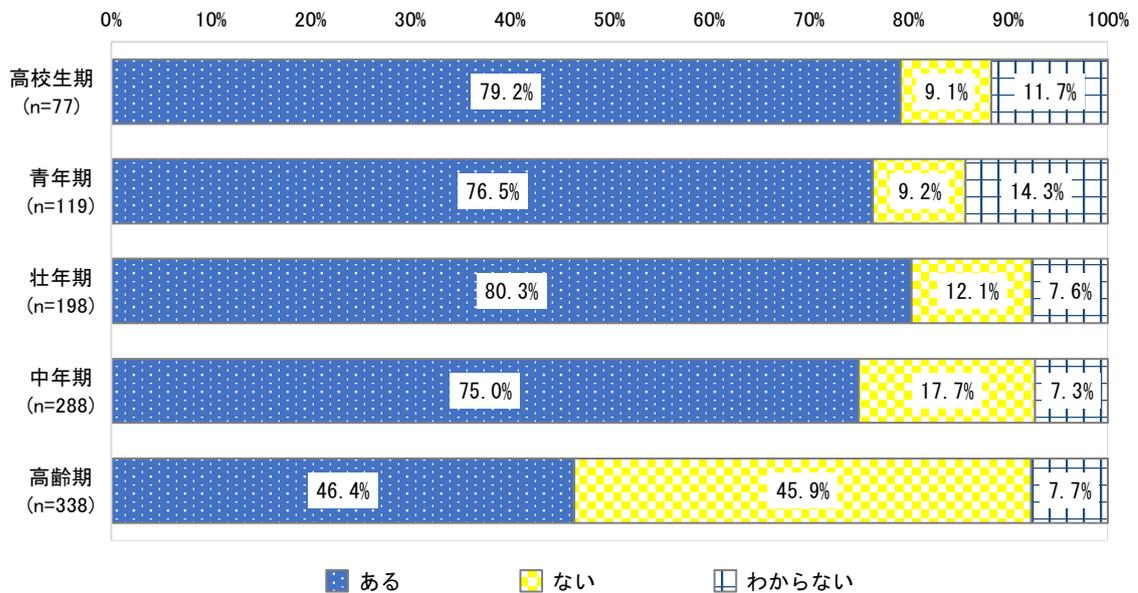
■ H24 年調査



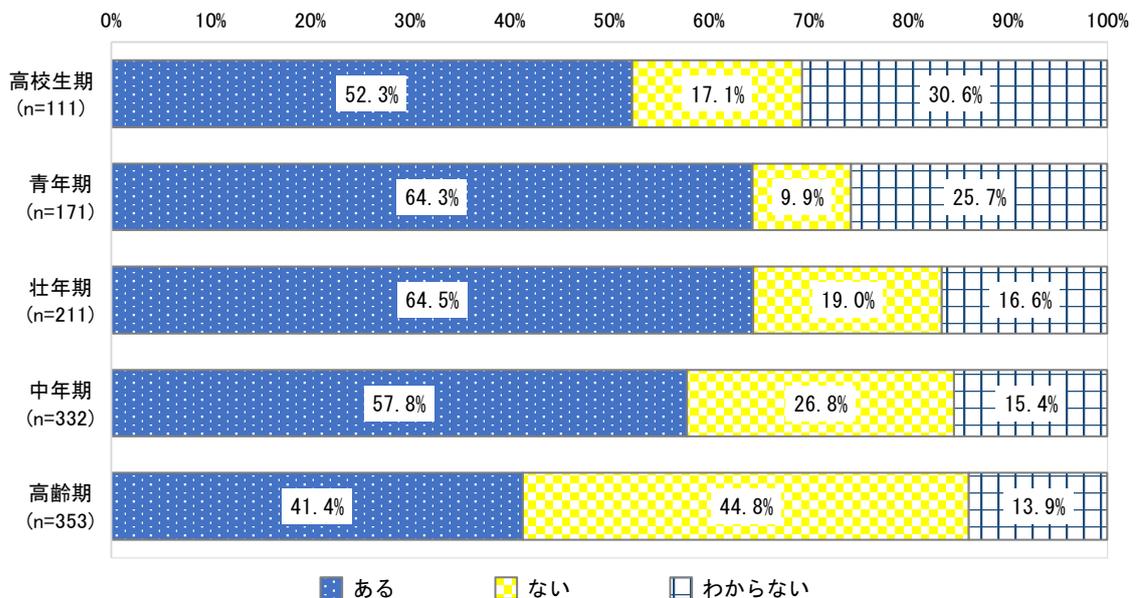
ライフステージ別で見ると、見たことが「ある」は、壮年期が80.3%で最も高く、高齢期が46.4%で最も低い。

平成24年調査と比較して、全ての世代で見たことが「ある」は、増加している。

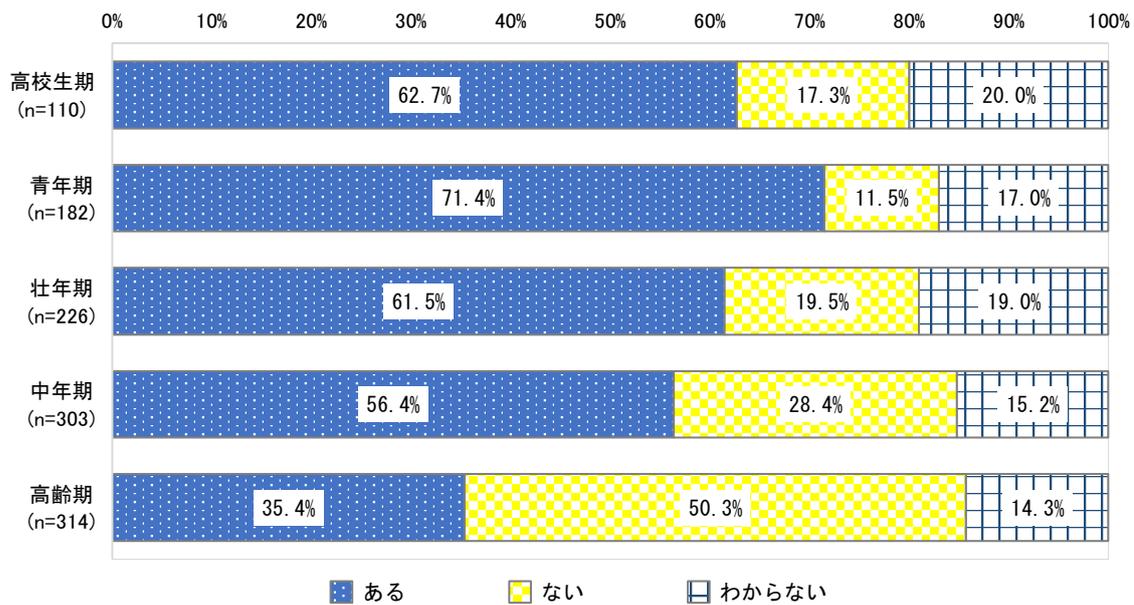
### ■H30年調査



### ■H27年調査



■ H24 年調査



### 3 市民運動としての食育の推進

食育の推進を市民運動として展開するために、1) 市民協働による食育運動の展開、2) 食育支援団体のネットワーク整備により、引き続き、市民の食育への関心を高めることが求められる。

#### 1) 市民協働による食育運動の展開

「食育に関心がある市民の割合」、「食生活面で『くまもとらしさ』を感じたことのある市民の割合」はともに減少している。今後さらに、食育の推進を市民運動としての展開へ結びつけるため、周知・啓発の取組を進め、食育への関心を高める必要がある。

##### (1) 食育に関心がある市民の割合（再掲）

##### (2) 食生活面で「くまもとらしさ」を感じたことのある市民の割合

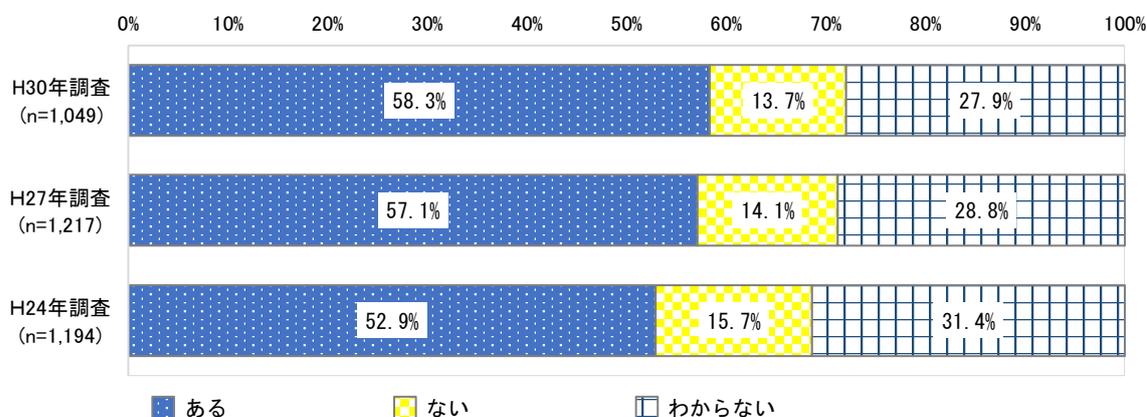
食生活面で「くまもとらしさ」を感じたことのある市民の割合は58.3%で、平成24年調査と比較して5.4ポイント上回り、目標を6.7ポイント下回る。

項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(H30年・目標)
○食生活面で「くまもとらしさ」を感じたことのある市民の割合	52.9%	57.1%	58.3%	65%

#### <調査結果>

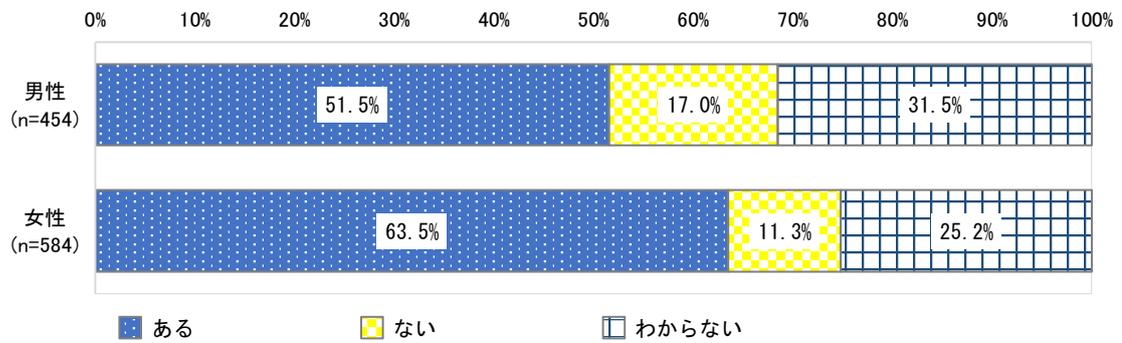
##### ■食生活面で「くまもとらしさ」を感じることの有無（15歳以上）

食生活面で「くまもとらしさ」を感じることについて、「くまもとらしさ」を感じたことが「ある」が58.3%、「ない」が13.7%、「わからない」が27.9%。

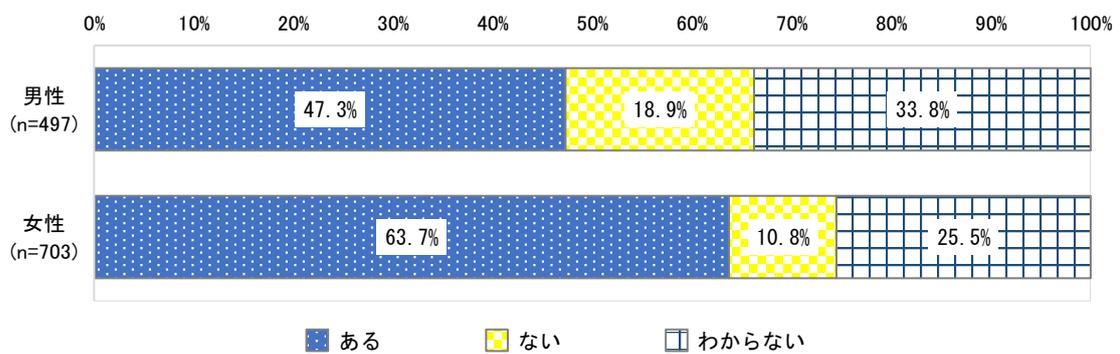


性別でみると、「くまもとしさ」を感じたことが「ある」割合は、男性が 51.5%、女性が 63.5%で、女性が 12 ポイント上回り、平成 24 年調査と比較して、同じような傾向がみられた。

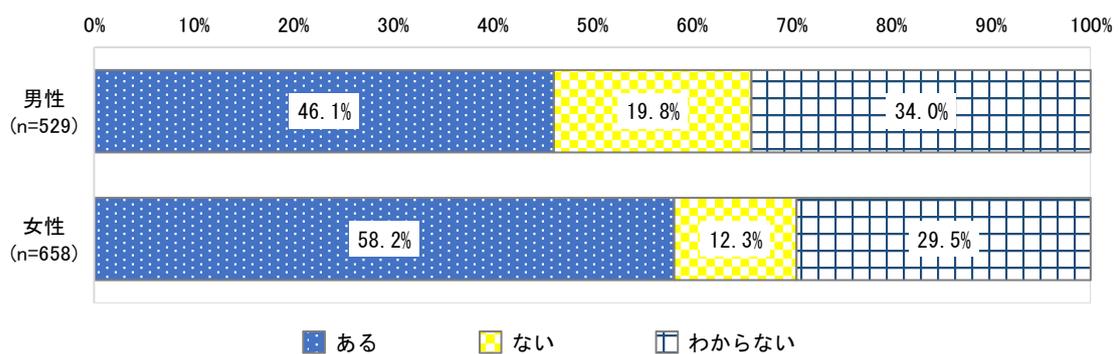
### ■ H30 年調査



### ■ H27 年調査



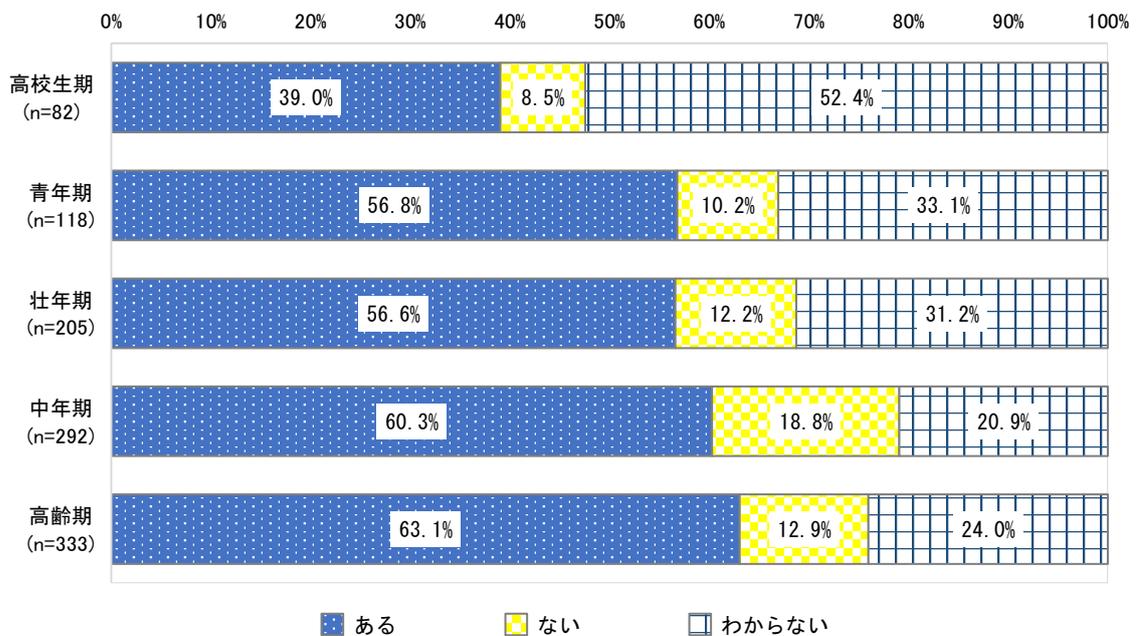
### ■ H24 年調査



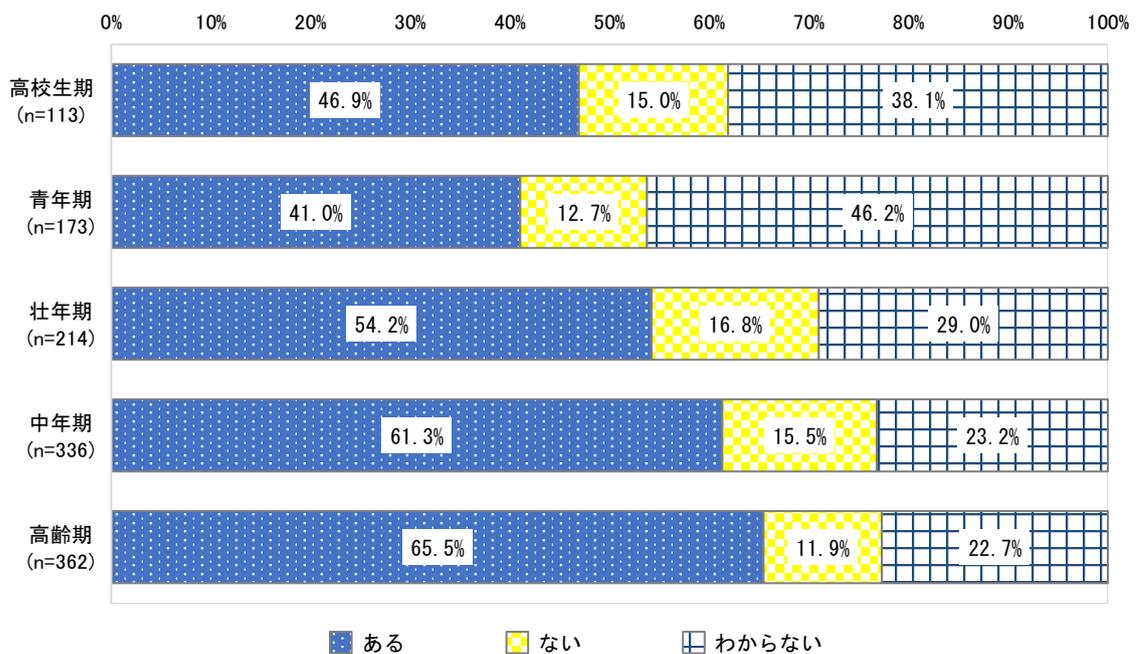
ライフステージ別でみると、中年期と高齢期では、「くまもとらしさ」を感じたことが「ある」が6割であるものの、高校生期では4割弱と最も低い。

平成24年調査と比較して、青年期では、「くまもとらしさ」を感じたことが「ある」が22.2ポイント上回る。

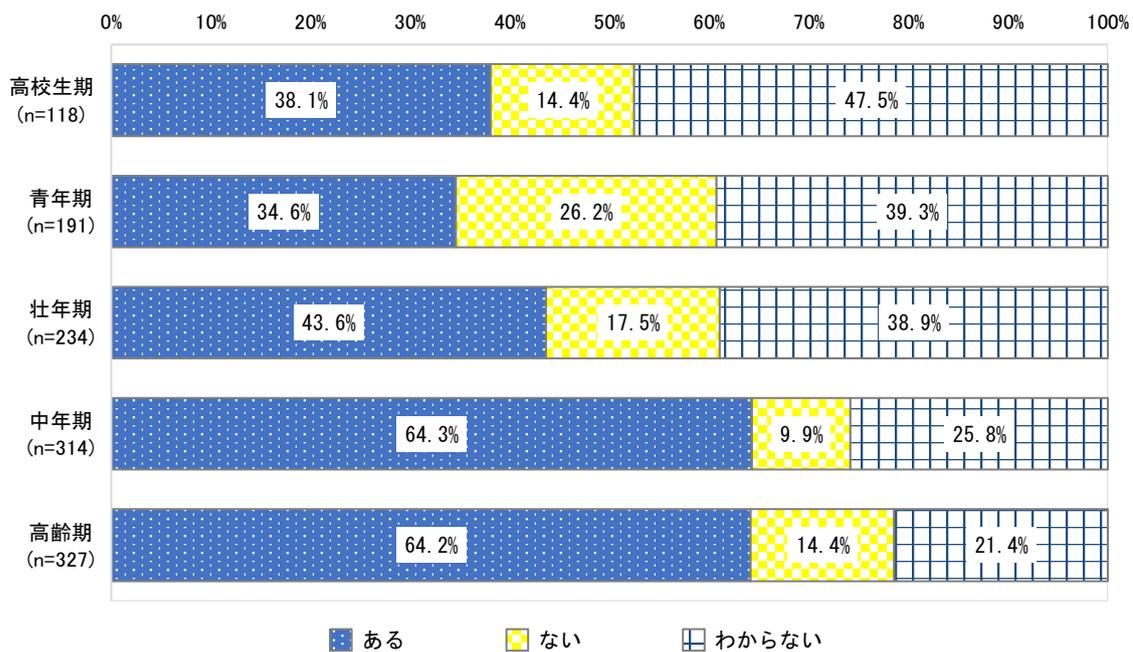
### ■H30年調査



### ■H27年調査



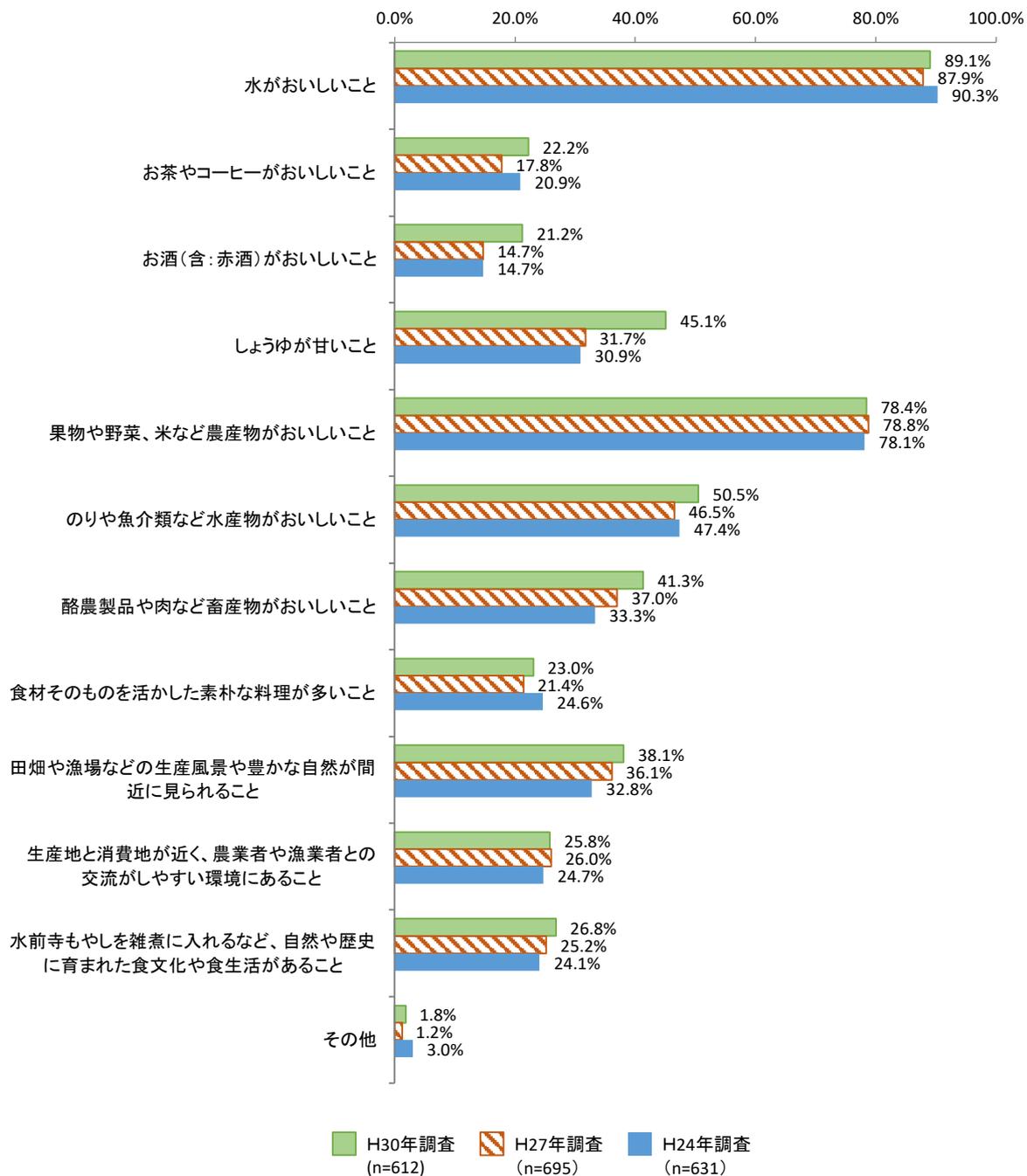
■ H24 年調査



## ■ 「くまもとらしさ」を感じるのとはどんなことか 〈15歳以上〉

「くまもとらしさ」を感じる場所は、「水がおいしいこと」が89.1%で最も高く、次いで、「果物や野菜、米など農産物がおいしいこと」が78.4%、「のりや魚介類など水産物がおいしいこと」が50.5%、「しょうゆが甘いこと」が45.1%の順。

平成24年調査と比較して、「水がおいしいこと」、「食材そのものを活かした素朴な料理が多いこと」、「その他」を除く項目で増加しており、中でも「しょうゆが甘いこと」が14.2ポイント増加している。



## 2) 食育支援団体のネットワークの整備

「熊本市子どもの食育推進ネットワーク」における連携活動した団体等の割合は大きく上昇し、目標を達成した。

今後も団体間の連携を強化し、それぞれの専門性を活かした地域における食育活動の推進が求められる。

### (1) 「熊本市子どもの食育推進ネットワーク」における連携活動した団体等の割合

「熊本市子どもの食育推進ネットワーク」における連携活動した団体等の割合は、62.6%と  
り、目標を達成した。

項 目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H29年・実績)	(H30年・目標)
○「熊本市子どもの食育推進ネットワーク」における連携活動した団体等の割合 ※保育園・幼稚園が他団体と連携して食育に取り組んだ割合	37.6%	62.7%	62.6%	60%

## 4 くまもとの自然環境と食文化に根差した食育の推進

1) 生産者と消費者の交流促進、は停滞しているものの、2) 地産地消の促進、3) くまもとの食文化の伝承、4) 食育を通じた環境保全、はいずれも増加し、中でも、3) くまもとの食文化の伝承、においては大幅な増加がみられた。今後も、「くまもとの食文化」について広く情報発信し、体験活動の機会提供や参加の促進により、食に対する関心や理解を深め、実践につなげることを課題としている。

### 1) 生産者と消費者の交流促進

「農林漁業体験を経験した市民の割合」は増加しているものの、「参加したことはなく関心もない」人が中・高校生期以降の年齢層では約3割程度となった。食に対する関心や理解を深めるためにも、体験の楽しさを周知し、機会の提供を図る必要がある。

#### (1) 農林漁業体験を経験した市民の割合

農林漁業体験を経験した市民の割合『参加したことがある（「週に1回程度」＋「月に1～2回程度」＋「年に数回程度」）』は32.5%で、平成24年調査と比較して5.2ポイント、目標を17.5ポイントと下回る。

項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(H30年・目標)
○農林漁業体験を経験した市民の割合	37.7%	27.5%	32.5%	50%

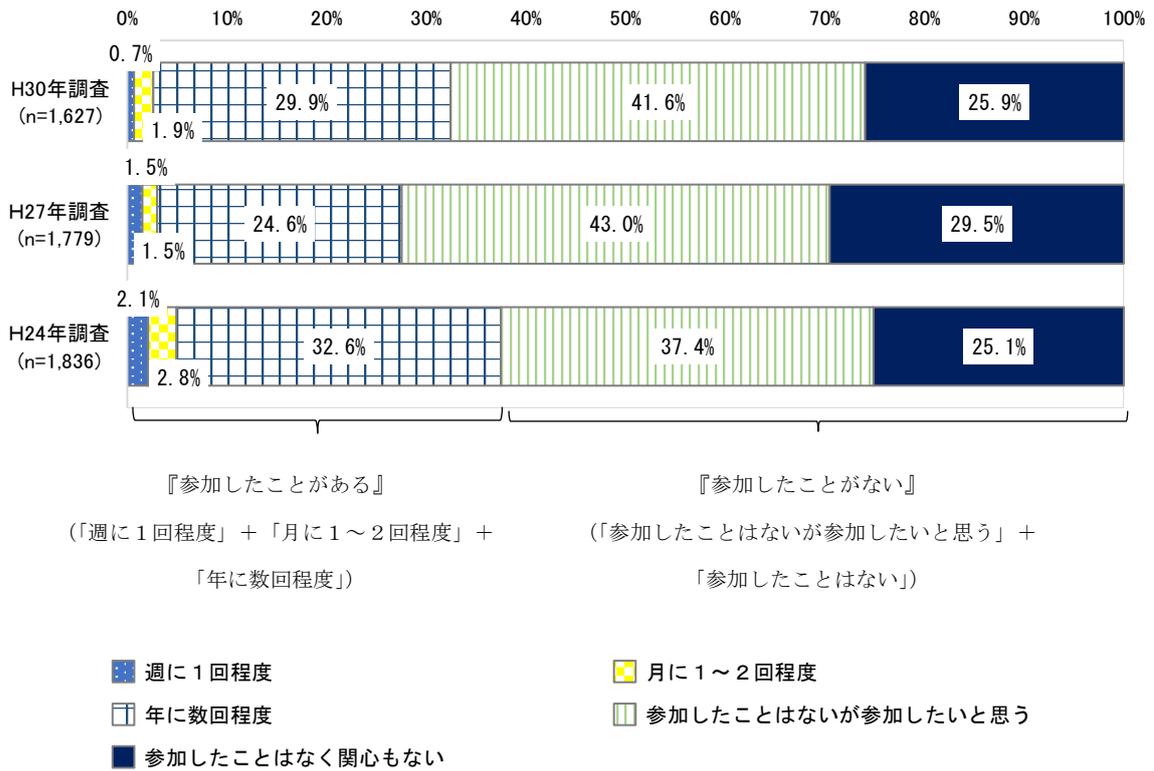
### <調査結果>

#### ■田植えや芋ほりといった農林漁業やその産物に関する栽培・収穫体験の参加頻度と意向

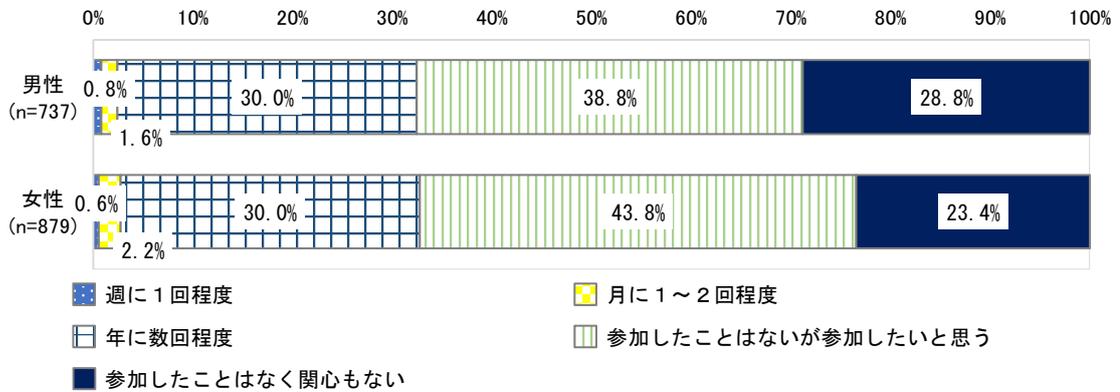
##### <0歳を除く>

田植えや芋ほりといった農林漁業やその産物に関する栽培・収穫体験の参加頻度は、「参加したことはないが参加したいと思う」が41.6%で最も高く、次いで、「年に数回程度」が29.9%、「参加したことはなく関心もない」が25.9%の順。『参加したことがある（「週に1回程度」＋「月に1～2回程度」＋「年に数回程度」）』割合は3割に留まり、『参加したことがない（「参加したことはないが参加したいと思う」＋「参加したことはない」）』割合は約7割である。

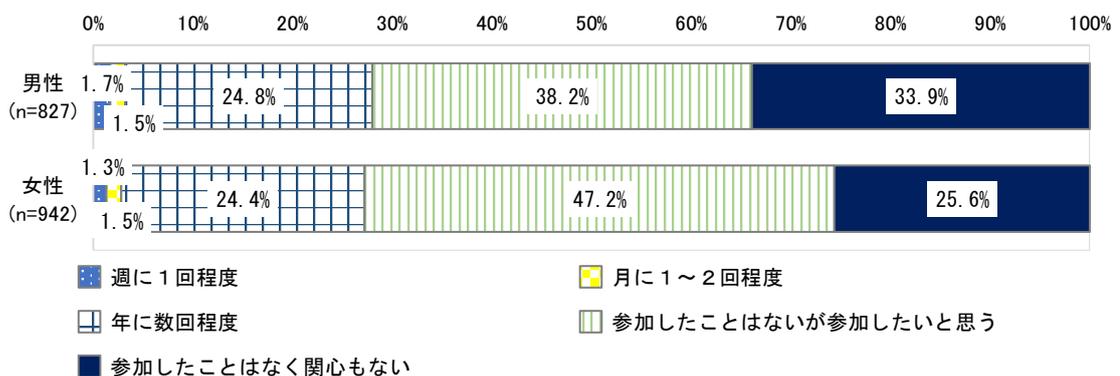
性別でみると、『参加したことがある（「週に1回程度」＋「月に1～2回程度」＋「年に数回程度」）』割合は、男性が32.4%、女性が32.8%で、大きな差はみられない。



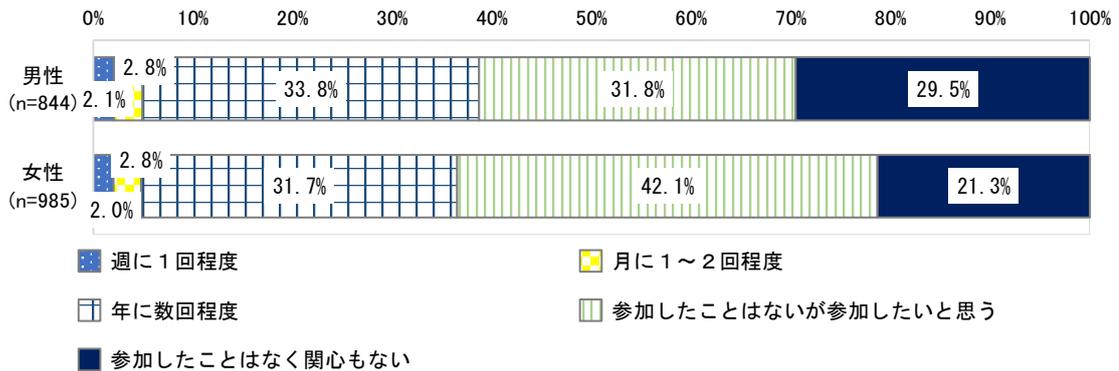
### ■ H30年調査



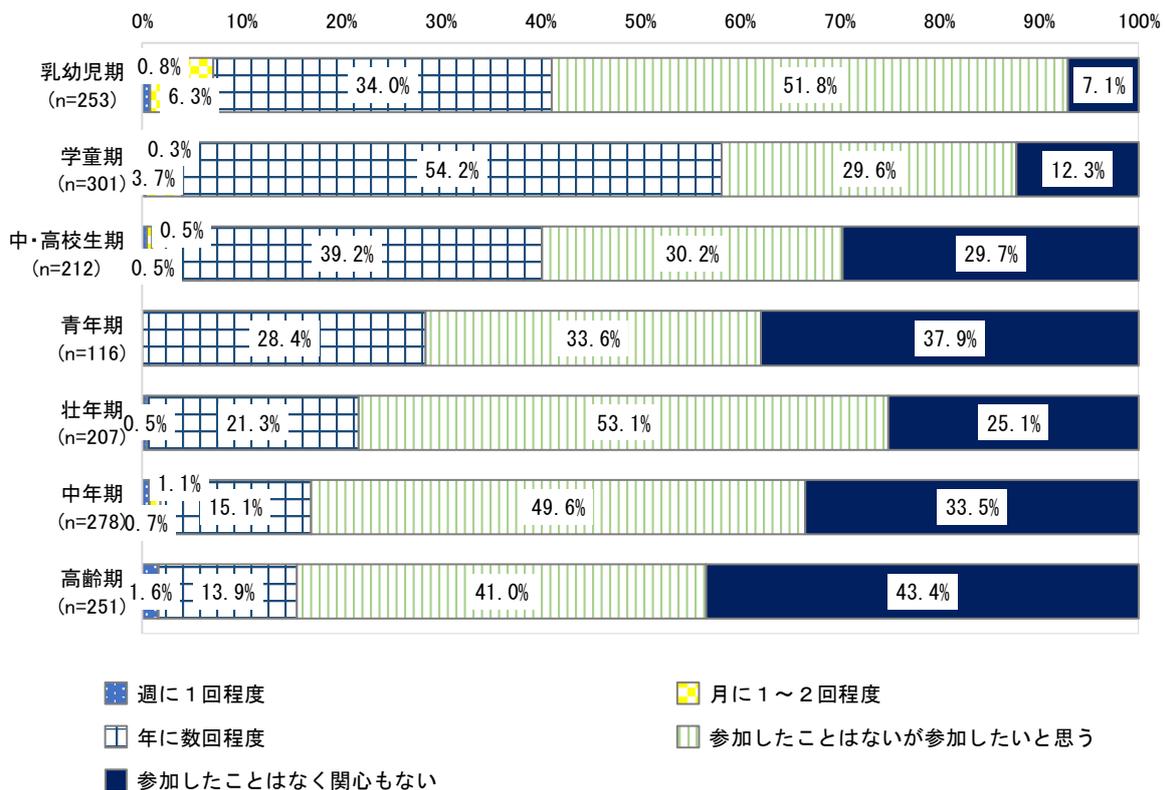
### ■ H27年調査



## ■H24 年調査



ライフステージ別でみると、『参加したことがある（「週に1回程度」＋「月に1～2回程度」＋「年に数回程度」）』割合は、若年層で高く、学童期が58.2%、乳幼児期が41.1%。一方、年齢層が高くなるにつれて減少し、中年期と高齢期では10%台に留まる。



**■農林漁業体験（みかん狩り・芋ほり・潮干狩り・魚釣り・植樹体験・山菜採取など）を、今まで体験したことがある市民の割合**

「農林漁業体験（みかん狩り・芋ほり・潮干狩り・魚釣り・植樹体験・山菜採取など）を、今まで体験したことがありますか」の問いに対し、体験したことがあるは83.0%、体験したことがないは17.0%であった。

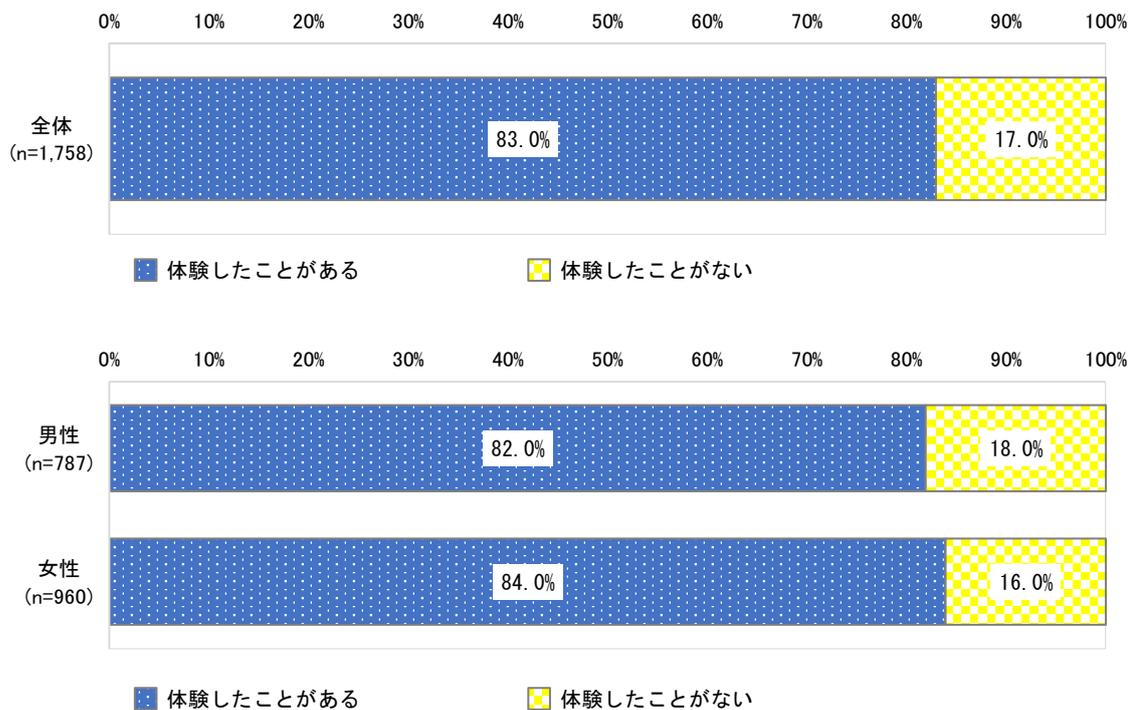
項目	(H30年・実績)
農林漁業体験を、今まで体験したことがある市民の割合	83.0%

**<調査結果>**

**■農林漁業体験を今まで体験したことがあるか。〈0歳を除く〉**

農林漁業体験を今までに「体験したことがある」が83.0%、「体験したことがない」が17.0%であった。

性別でみると、大きな差はみられない。



## 2) 地産地消の促進

「進んで地元農産物を購入する市民の割合」は増加している。農産物購入時の重視点として「鮮度」が最も高く、高年齢層ほど、「鮮度」や「産地」を重視する傾向がみられる。引き続き、地元産物の情報提供と地産地消の理解向上が課題となっている。

### (1) 進んで地元農産物を購入する市民の割合

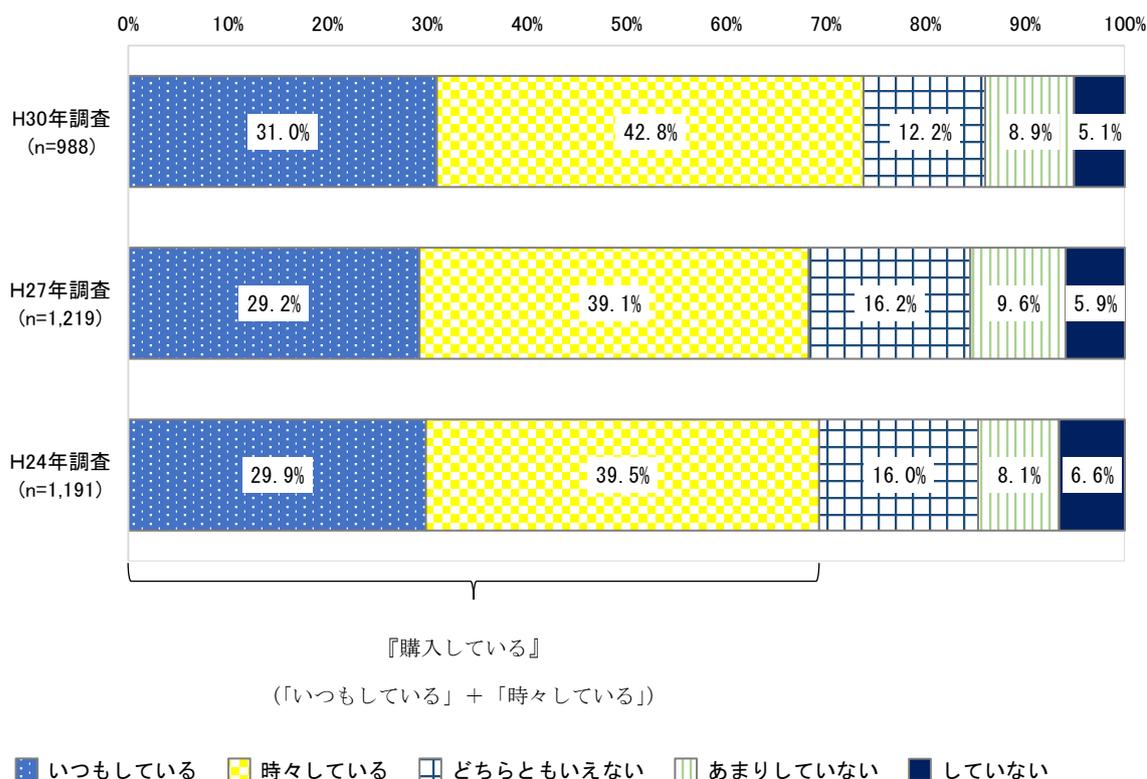
進んで地元農産物を購入する市民の割合は 73.8%で、平成 24 年調査と比較して 4.4 ポイント上回り、目標を 6.2 ポイント下回る。

項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(H30年・目標)
○進んで地元農産物を購入する市民の割合	69.4%	68.3%	73.8%	80%

### <調査結果>

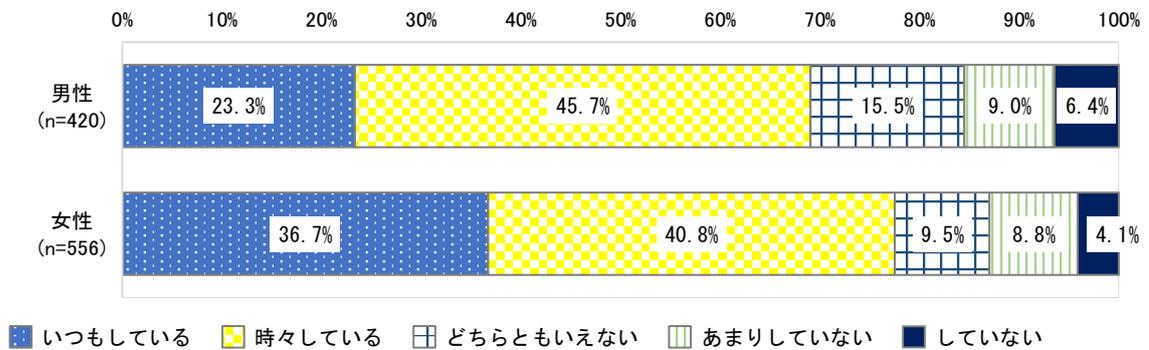
#### ■地元産の農産物や水産物の購入 〈15歳以上〉

地元産の農産物や水産物の購入について、「いつもしている」が 31.0%、「時々している」が 42.8%と、合わせて 73.8%が『購入している』としており、平成 24 年調査と比較して 4.4 ポイント上回る。

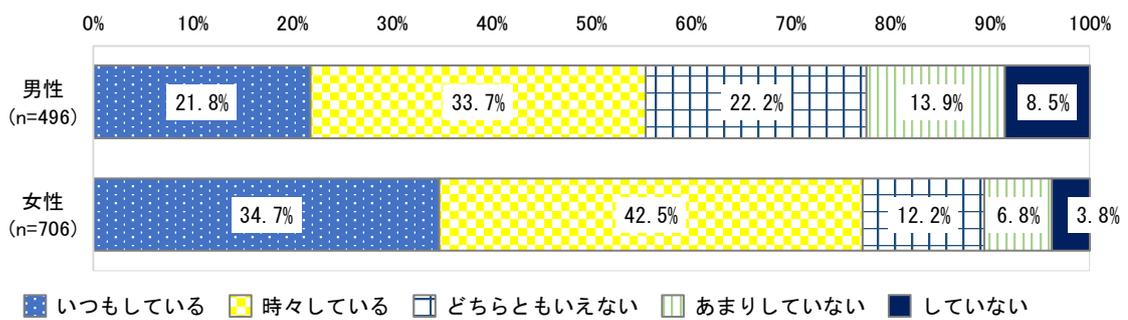


性別でみると、『購入している(「いつもしている」+「時々している)』割合は、男性が69.0%、女性が77.5%で、女性が8.5ポイント上回る。

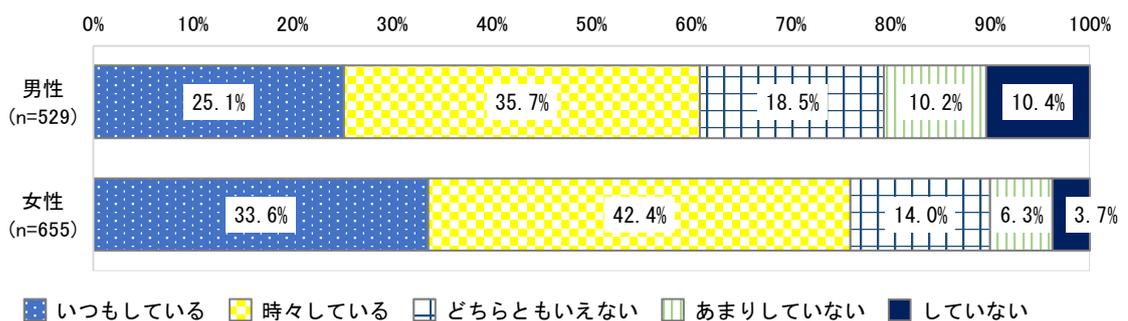
### ■H30年調査



### ■H27年調査



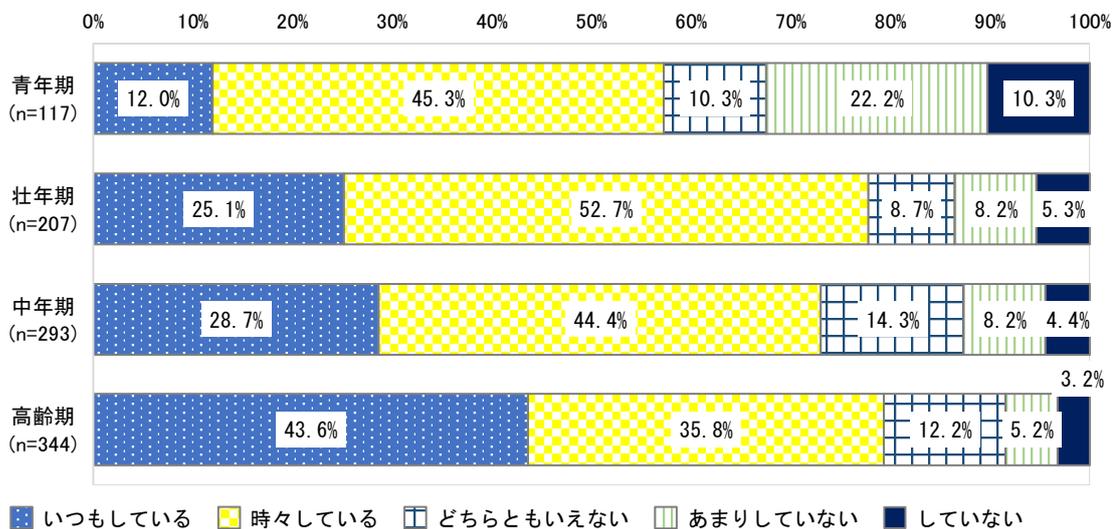
### ■H24年調査



ライフステージ別で見ると、壮年期以上では『購入している（「いつもしている」＋「時々している」）』割合が7割以上を占めている。

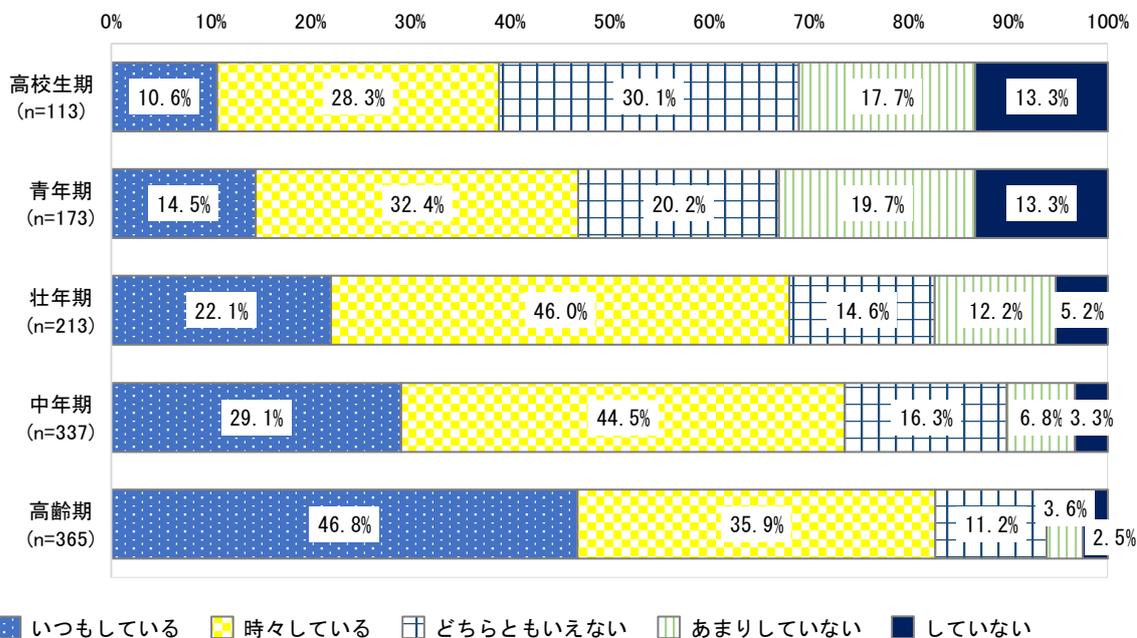
平成24年調査と比較して、『購入している（「いつもしている」＋「時々している」）』割合は、青年期及び壮年期で増加した。

### ■H30年調査

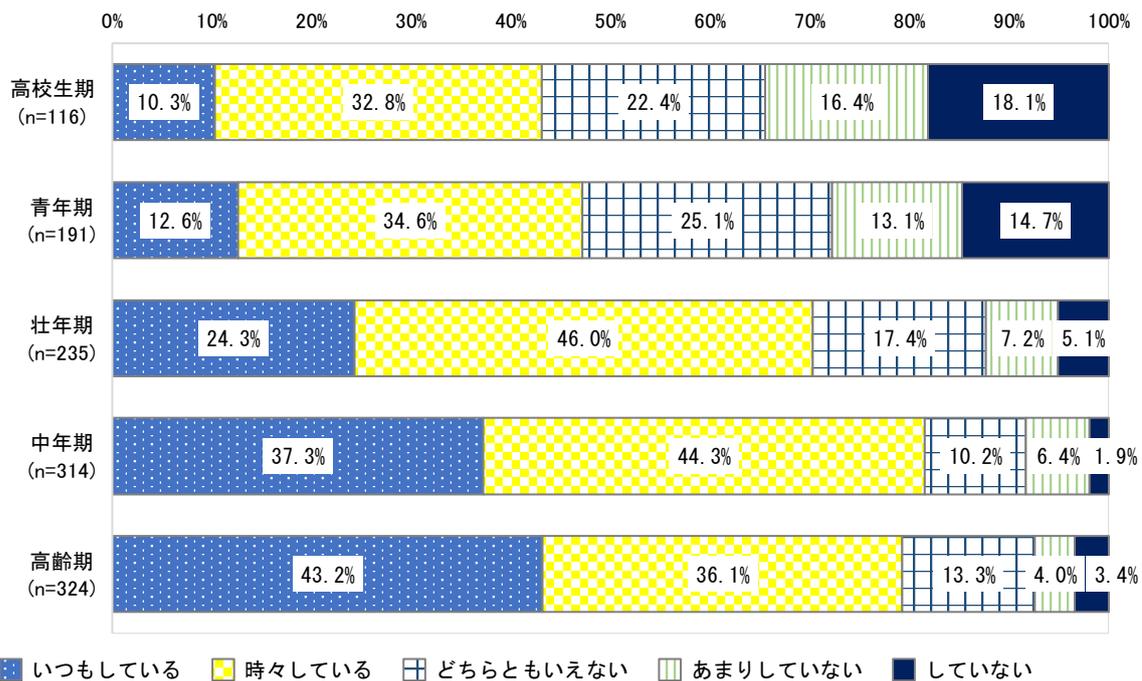


※今回調査より18歳以上が対象のため、高校生期はデータがない

### ■H27年調査

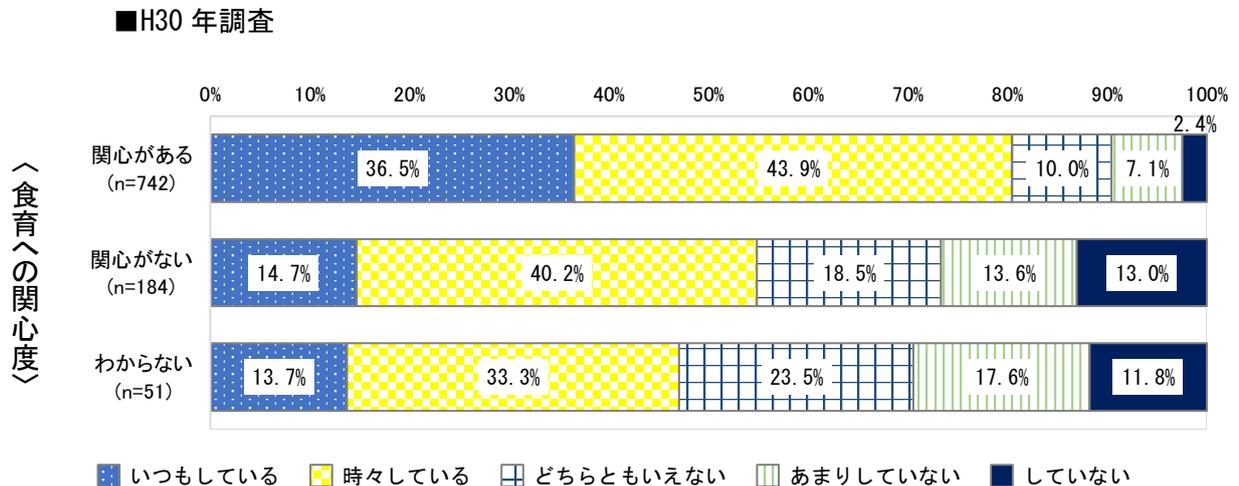


■ H24 年調査

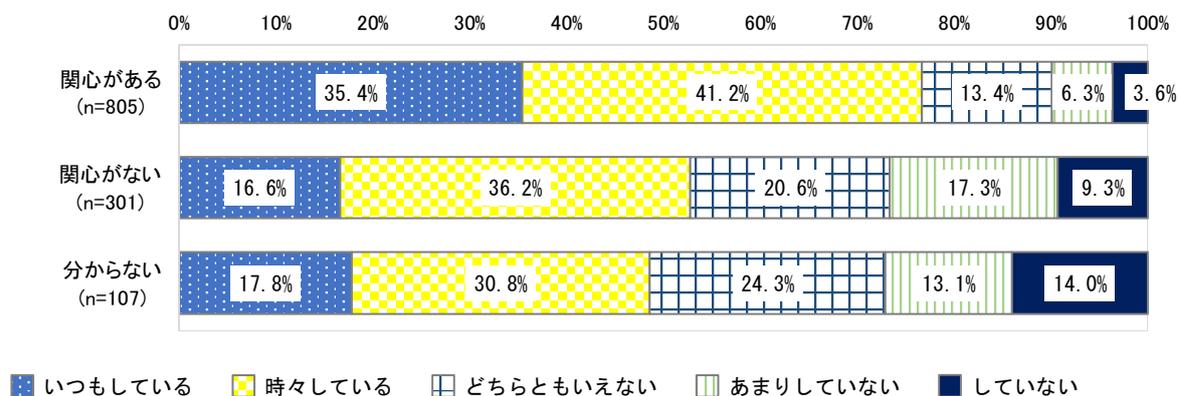


「地元産の農産物や水産物の購入」と「食育への関心度」との関係を見ると、『購入している（「いつもしている」＋「時々している」）』割合は、「関心がある」人が80.4%、「関心がない」人が54.9%。関心度が高い人ほど地元産を購入する傾向がみられる。平成24年調査と比較して、大きな差はみられない。

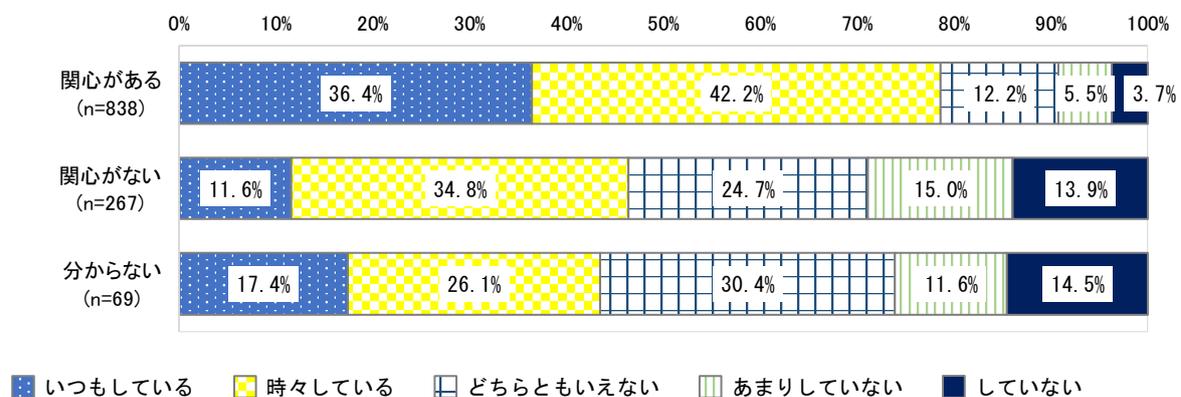
### 〈地元産の農産物や水産物の購入〉



■ H27年調査



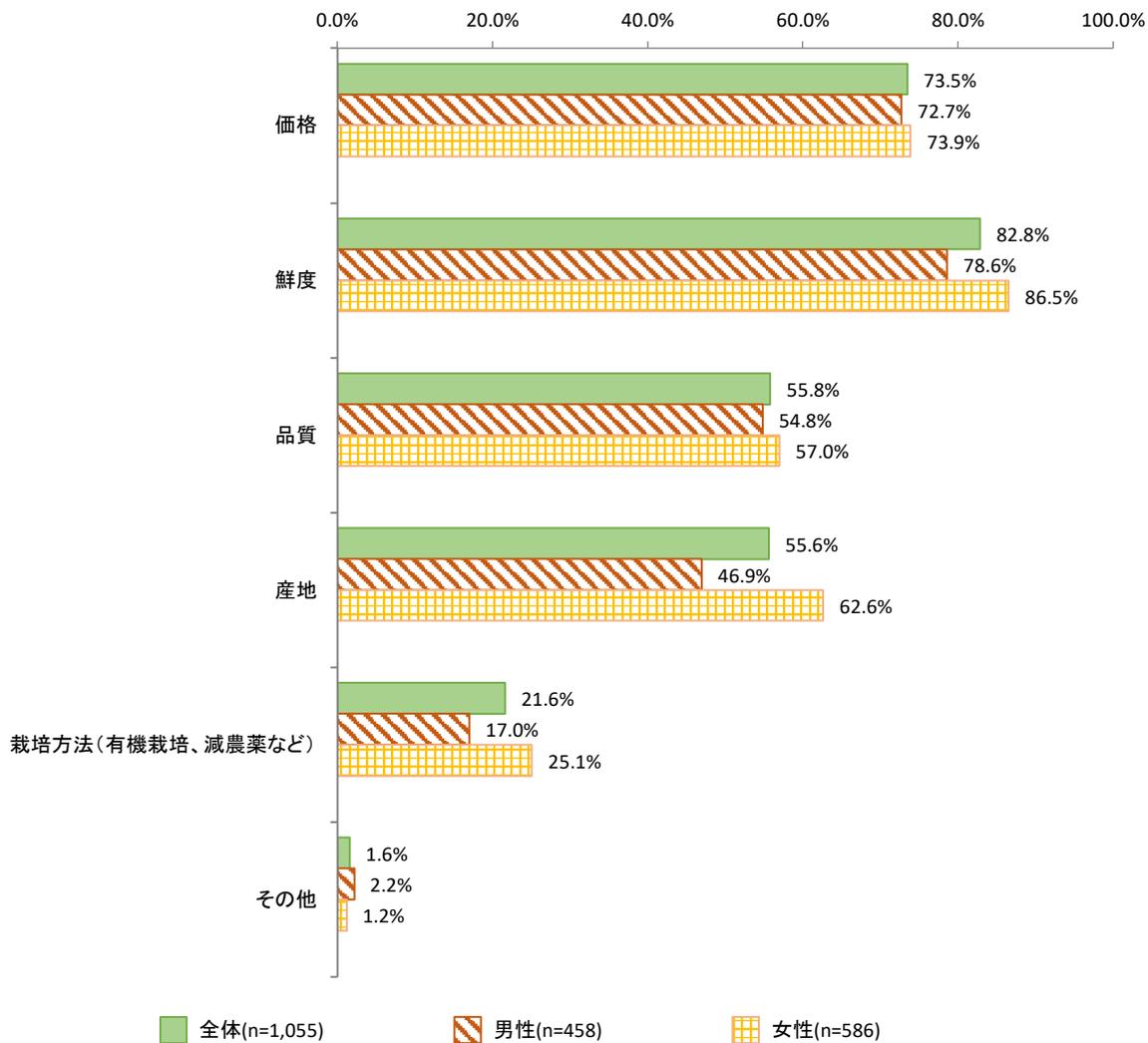
■ H24年調査



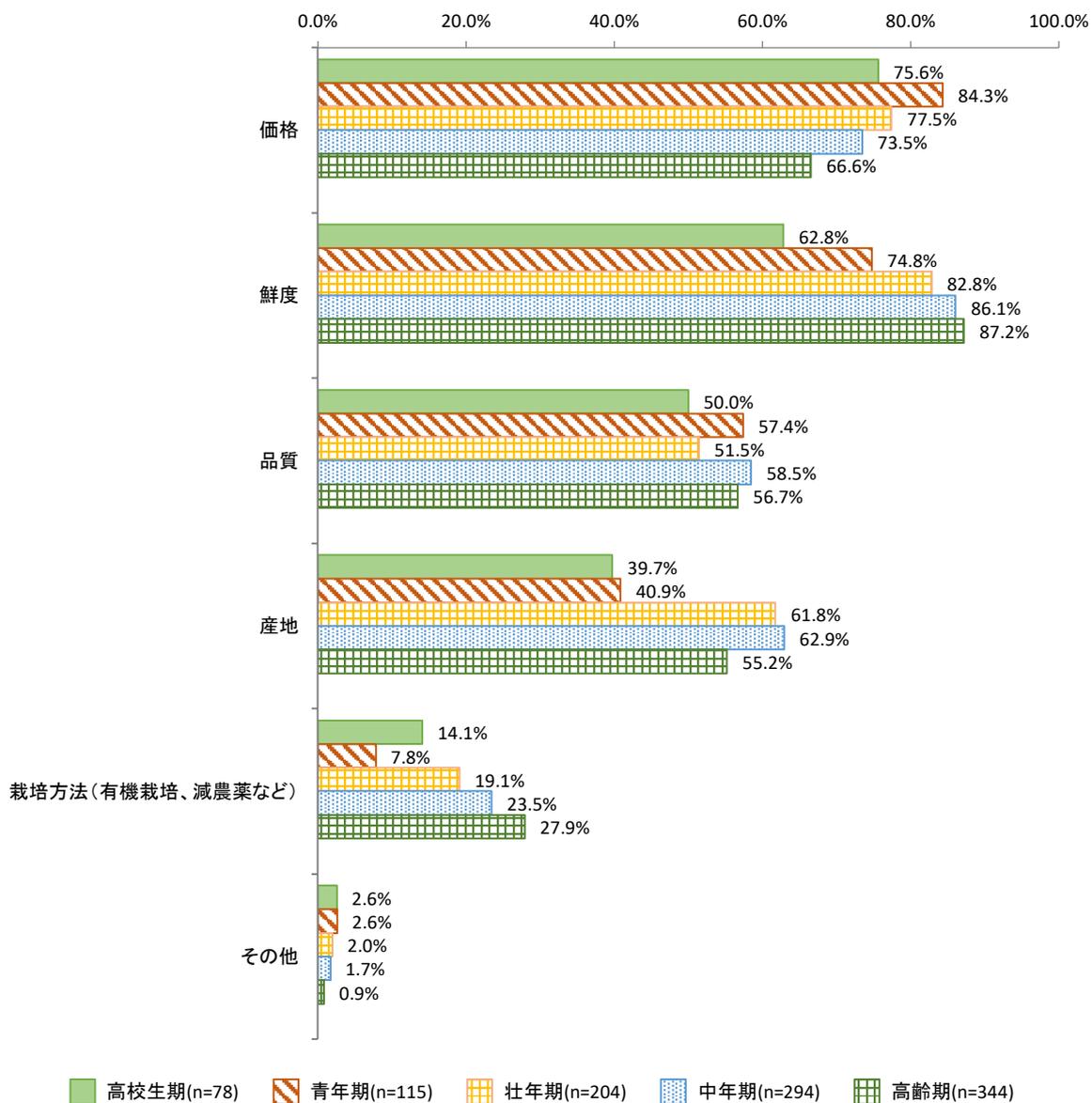
## ■農産物購入時の重視点 〈15歳以上〉

農産物購入時の重視点について、「鮮度」が82.8%で最も高く、次いで、「価格」が73.5%、「品質」が55.8%、「産地」が55.6%の順。

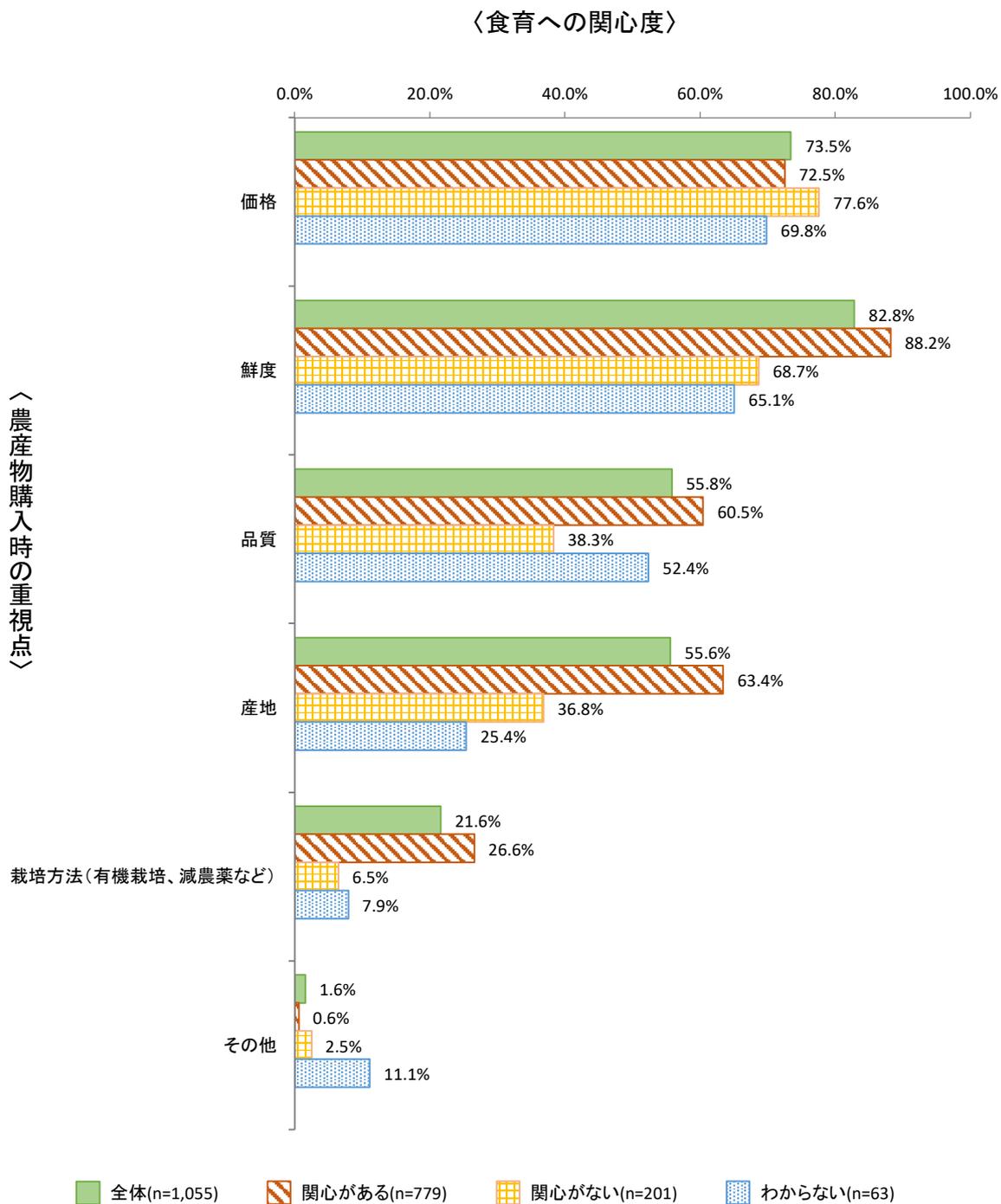
男女別でみると、全ての項目において、女性が重視している割合が高い。



ライフステージ別でみると、高校生期、青年期は「価格」を重視し、壮年期以降では「鮮度」を重視している。



農産物購入時の重視点と「食育への関心度」との関係を見ると、関心がある人は、関心がない人に比べて、「鮮度」、「品質」、「産地」、「栽培方法（有機栽培、減農薬など）」を重視している。



## (2) 学校給食における地元農産物を使用する品目数

学校給食における地元農産物を使用する品目数は33品目。目標より12品目少なくなった。

項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H29年・実績)	(H30年・目標)
○学校給食における地元農産物を使用する品目数	39品目	40品目	33品目	45品目

### 3) くまもとの食文化の伝承

「家庭での食事に郷土料理等を取り入れている市民の割合」は大幅に増加し、若い世代への食文化の伝承も進んでいる傾向がみられた。一方で、「熊本の郷土料理や伝統文化、食文化」について「伝えたい」とする割合は6割であることから、世代間をつなぐ取組と、「くまもとの食文化」の情報発信や体験する機会の提供が求められる。

#### (1) 家庭での食事に郷土料理等を取り入れている市民の割合

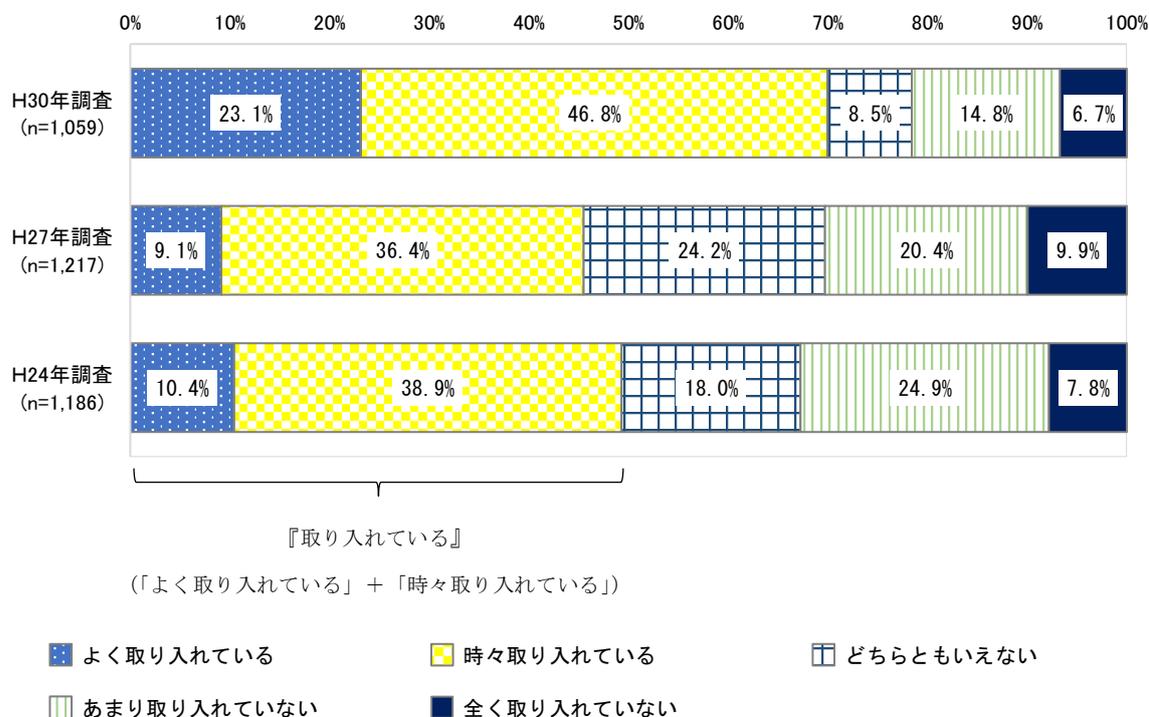
家庭での食事に郷土料理等を取り入れている市民の割合は69.9%で、平成24年調査と比較して20.7ポイントと大幅に上回り、目標を0.1ポイント下回る。

項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(H30年・目標)
○家庭での食事に郷土料理等を取り入れている市民の割合	49.2%	45.5%	69.9%	70%

#### <調査結果>

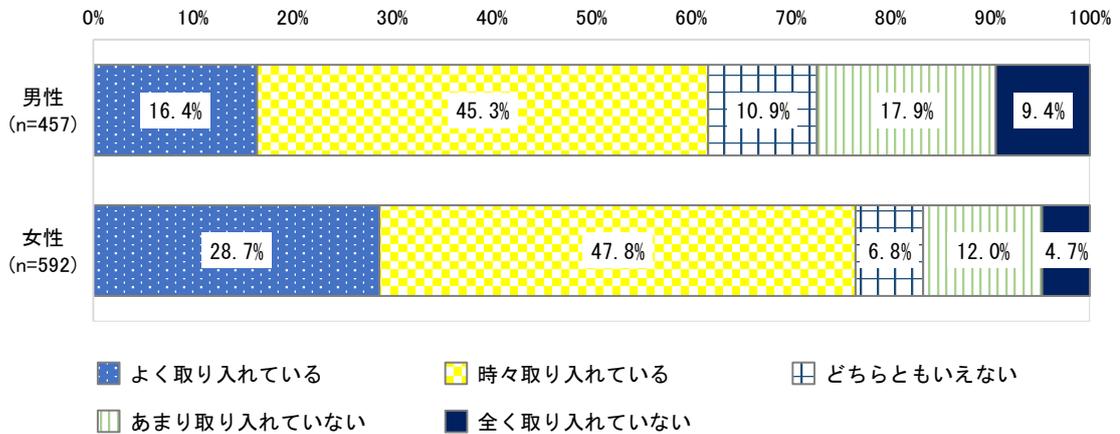
#### ■家庭の食事での伝統料理や郷土料理の取り入れ状況 -15歳以上-

家庭の食事での伝統料理や郷土料理の取り入れ状況について、「よく取り入れている」が23.1%、「時々取り入れている」が46.8%と、合わせて69.9%が『取り入れている』としており、平成24年調査と比較して20.6ポイントと大幅に上回る。

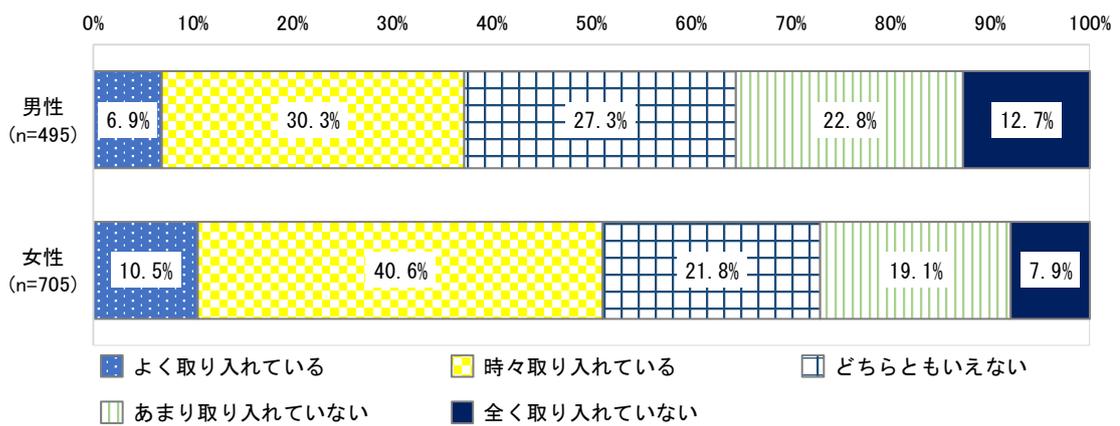


性別でみると、『取り入れている（「よく取り入れている」＋「時々取り入れている」）』人は、男性が61.7%、女性が76.5%で、女性が14.8ポイント上回る。平成24年調査と比較して、男性で19.7ポイント、女性で21.6ポイントとそれぞれ大幅に上回る。

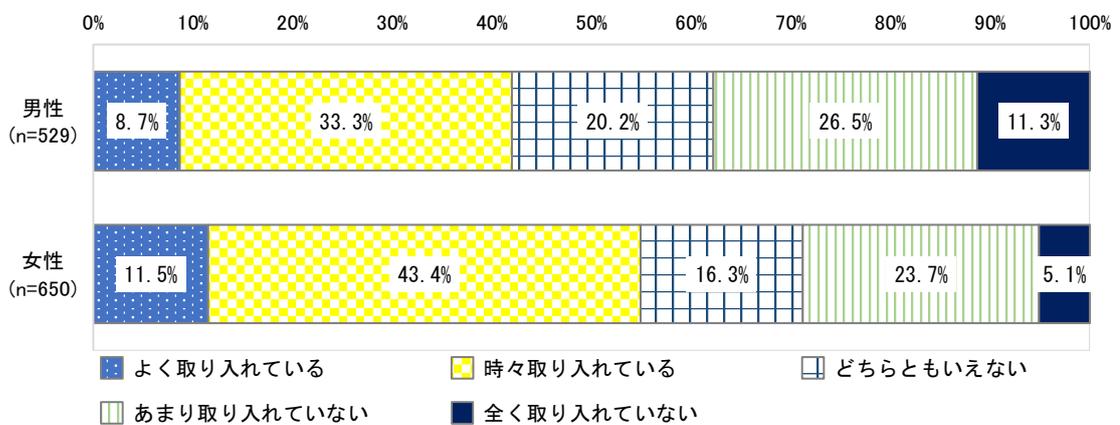
### ■H30年調査



### ■H27年調査

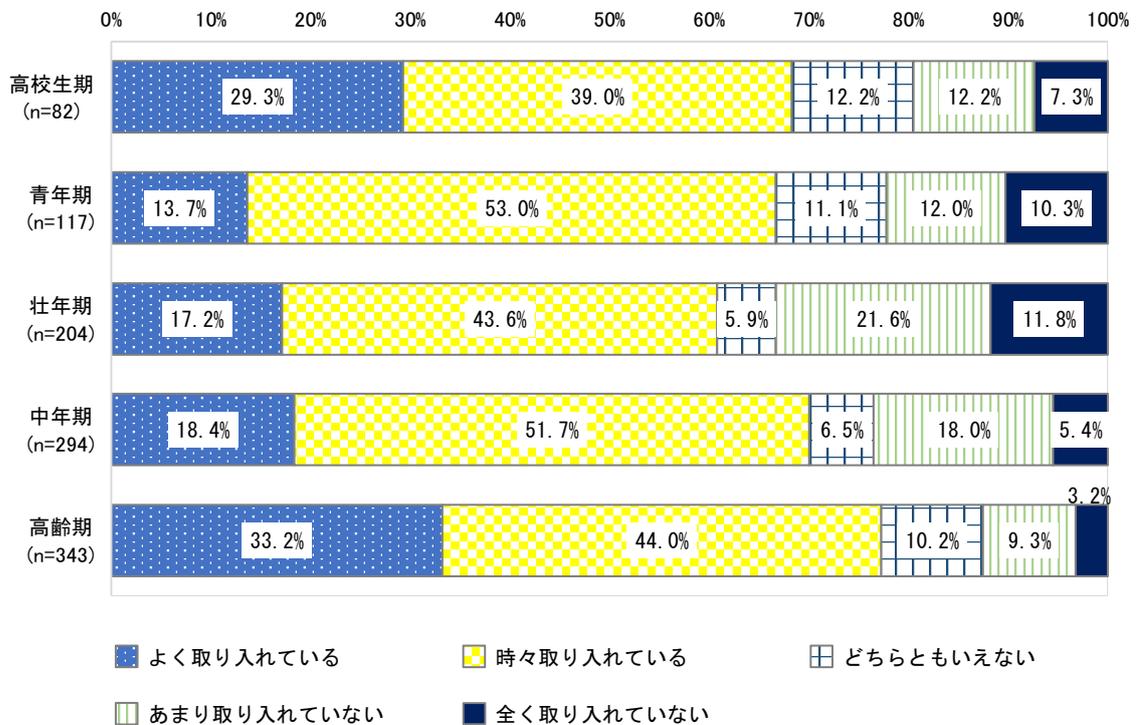


### ■H24年調査

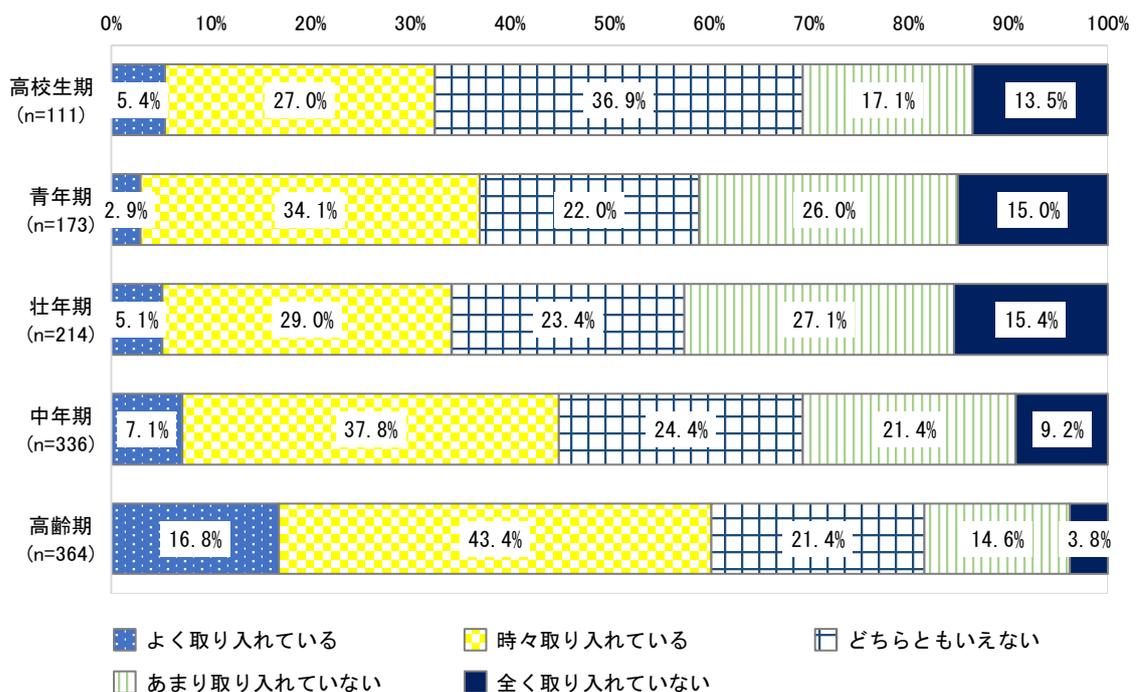


ライフステージ別でみると、『取り入れている（「よく取り入れている」＋「時々取り入れている」）』人は、すべてにおいて6割を超え、平成24年調査と比較して、すべてにおいて上回っている。

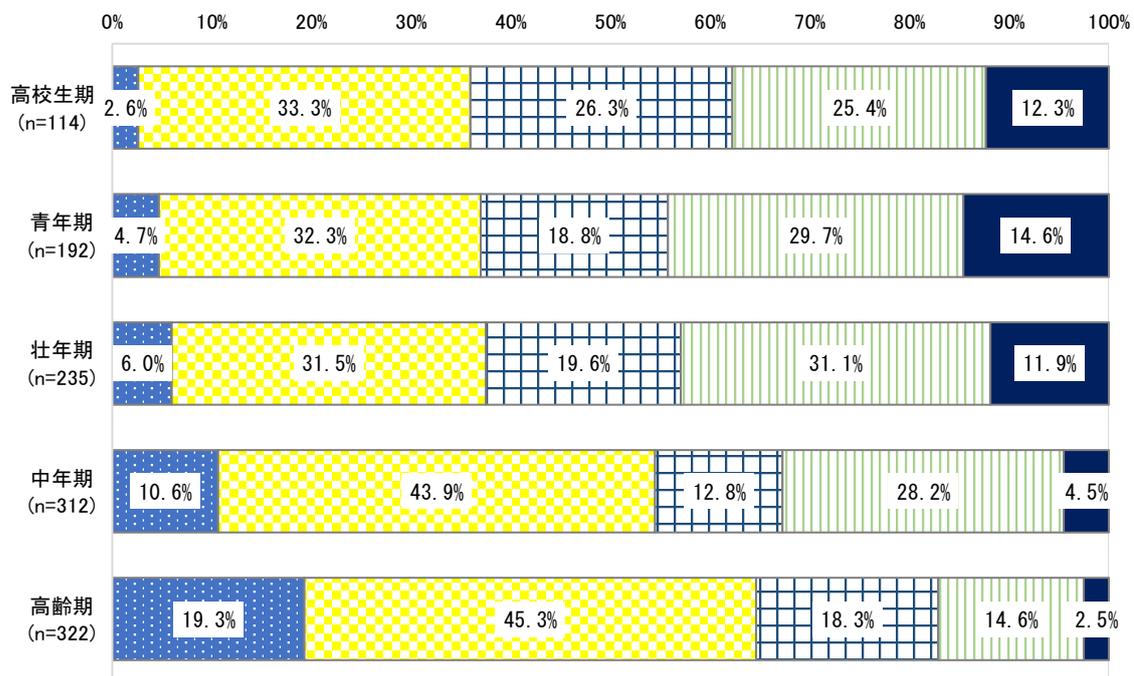
### ■H30年調査



### ■H27年調査



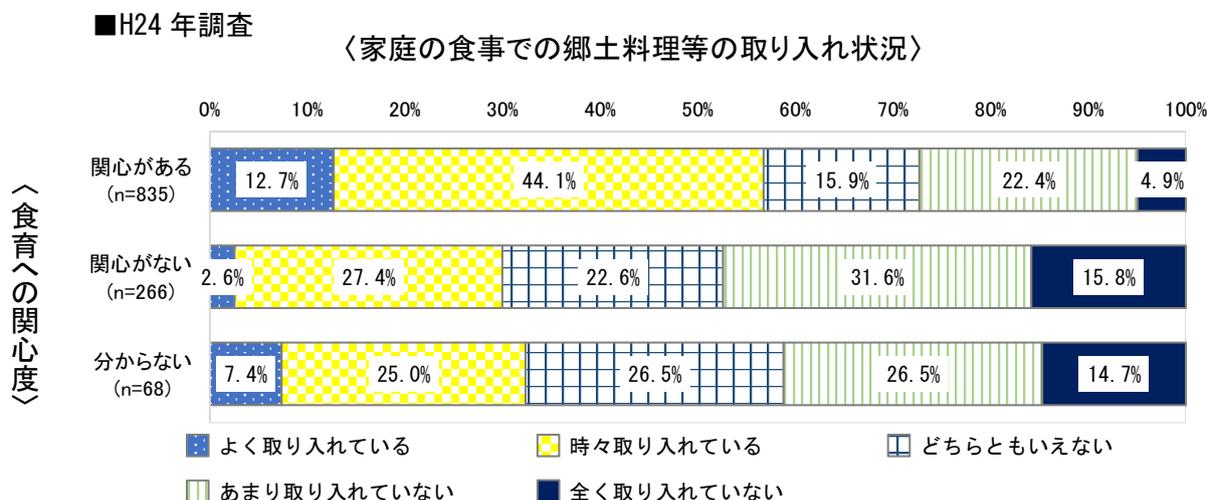
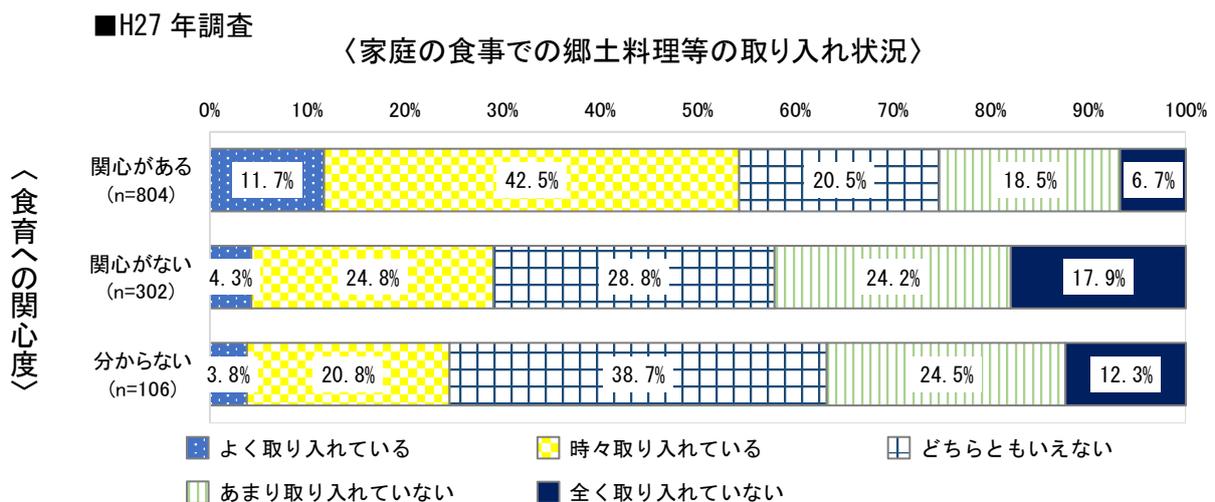
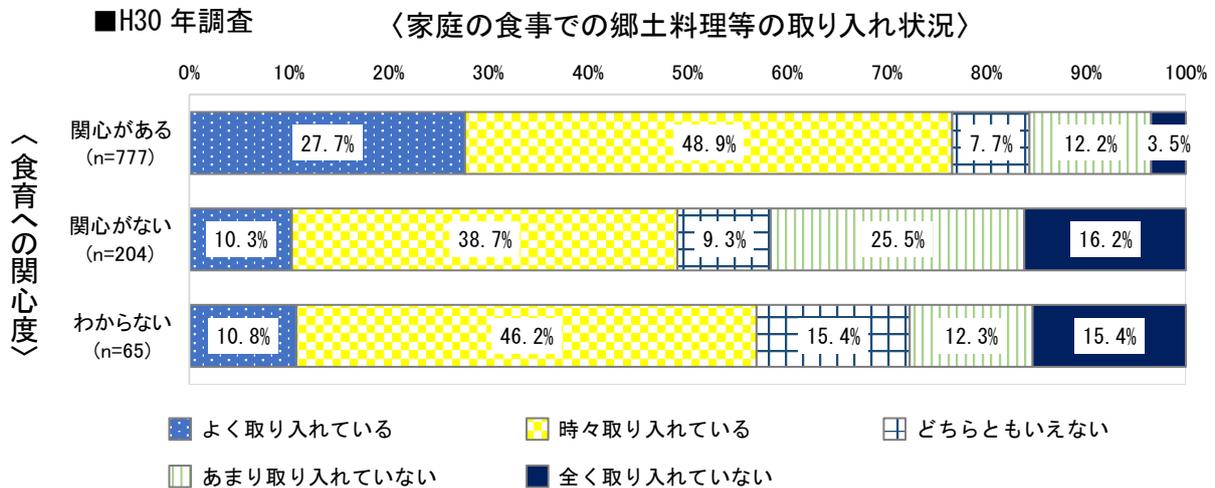
■ H24 年調査



よく取り入れている
  時々取り入れている
  どちらともいえない  
 あまり取り入れていない
  全く取り入れていない

「家庭の食事での伝統料理や郷土料理の取り入れ状況」と「食育への関心度」との関係を見ると、「関心がある」人が『取り入れている（「よく取り入れている」＋「時々取り入れている」）』割合が高い。

平成 24 年調査と比較すると、同じような傾向がみられる。

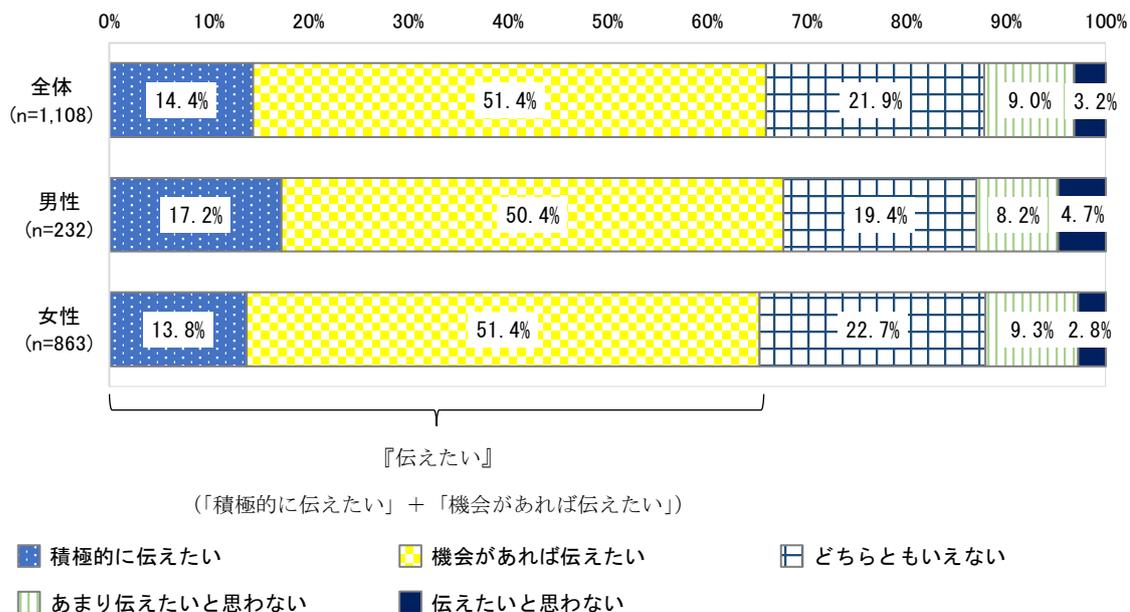


## ■熊本の郷土料理や伝統文化、食文化についての子や孫への伝承意向

### 〈14歳以下の保護者、65歳以上〉

熊本の郷土料理や伝統文化、食文化についての子や孫への伝承について、「積極的に伝えたい」が14.4%、「機会があれば伝えたい」が51.4%と、合わせて65.8%が『伝えたい』としている。

性別でみると、『伝えたい（「積極的に伝えたい」＋「機会があれば伝えたい」）』の割合は男性が67.6%、女性が65.2%となり、大きな差はみられない。



※前回調査は対象者が65歳以上であったが、今回調査は14歳以下の保護者と65歳以上が対象のため比較できない

#### 4) 食育を通じた環境保全

「ごみを少なくするため『買いすぎ』『作りすぎ』をしないよう心がけをしている市民の割合」は増加し、「環境保全活動」に「参加したことがある」人は減少している。一方、「熊本市の良質な水がおいしさの基になっていると思う市民の割合」は8割を維持している。豊かな自然環境で育まれた「くまもとの恵み」を残していくためにも、環境面からの「食を大切にする教育」の推進と、環境保全活動への参加を促す取組が求められる。

##### (1) ごみを少なくするため『買いすぎ』『作りすぎ』をしないよう心がけをしている市民の割合

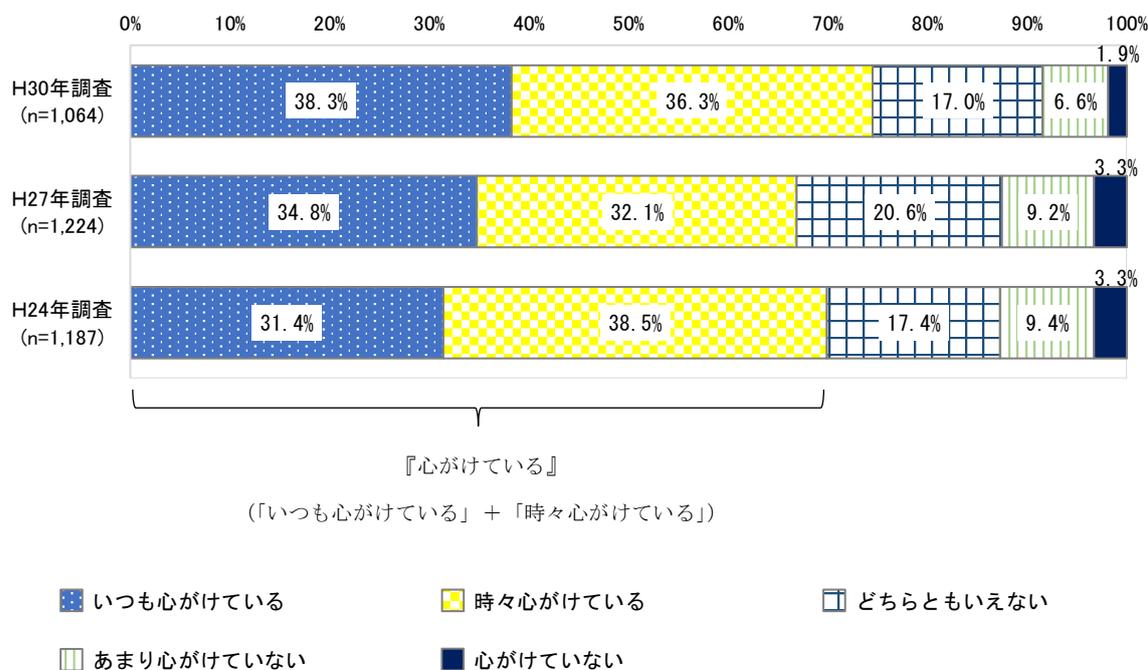
ごみを少なくするため「買いすぎ」「作りすぎ」をしないよう心がけをしている市民の割合は74.6%で、平成24年調査を4.7ポイント上回る。目標とは0.4ポイントの差がある。

項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(H30年・目標)
○ごみを少なくするため「買いすぎ」「作りすぎ」をしないよう心がけをしている市民の割合	69.9%	66.9%	74.6%	75%

#### <調査結果>

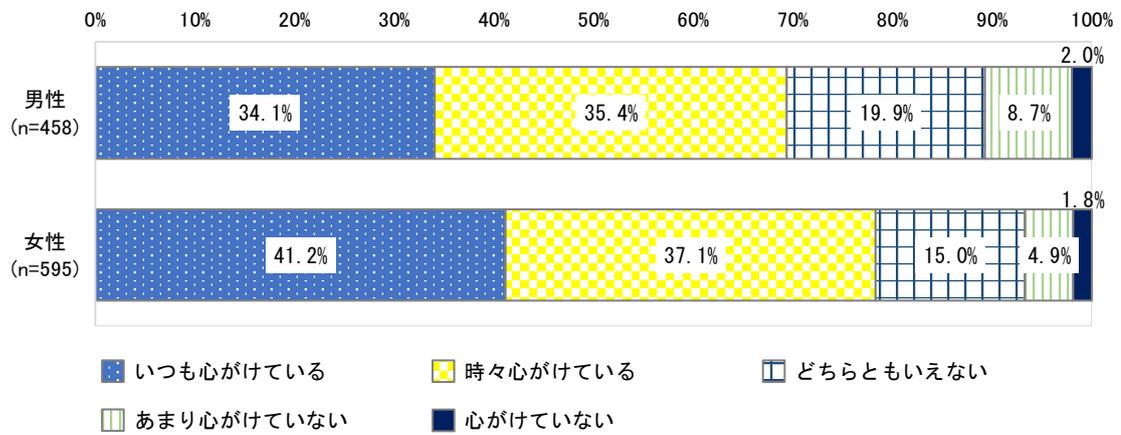
##### ■ごみを少なくするため『買いすぎ』『作りすぎ』をしないような心がけの有無 (15歳以上)

ごみを少なくするため『買いすぎ』『作りすぎ』をしないような心がけについて、「いつも心がけている」が38.3%、「時々心がけている」が36.3%と、合わせて74.6%が『心がけている』とし、平成24年調査と比較して4.7ポイント上回る。

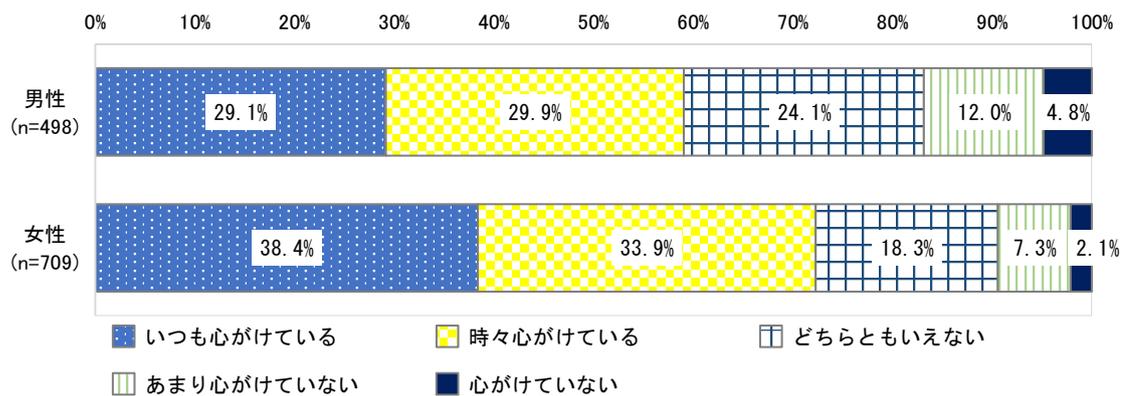


性別でみると、『心がけている（「いつも心がけている」＋「時々心がけている」）』割合は、男性が69.5%、女性が78.3%で、女性が8.8ポイント上回る。

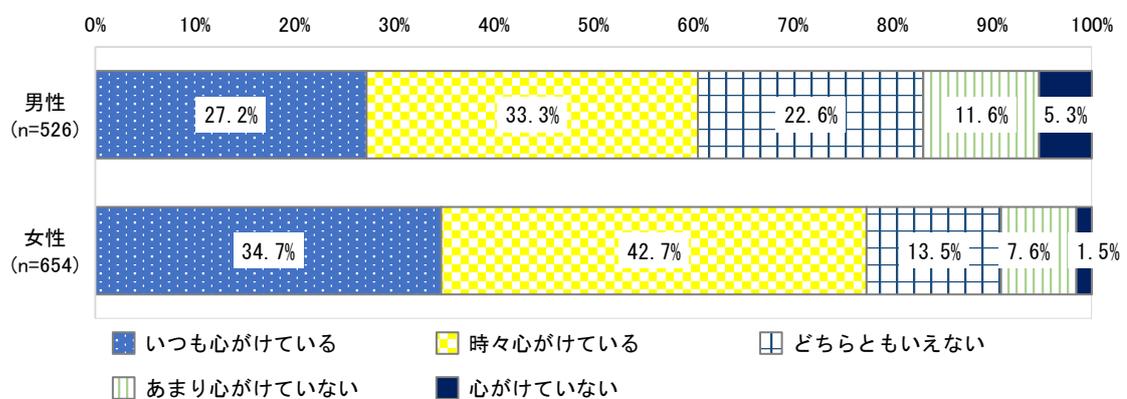
### ■H30年調査



### ■H27年調査

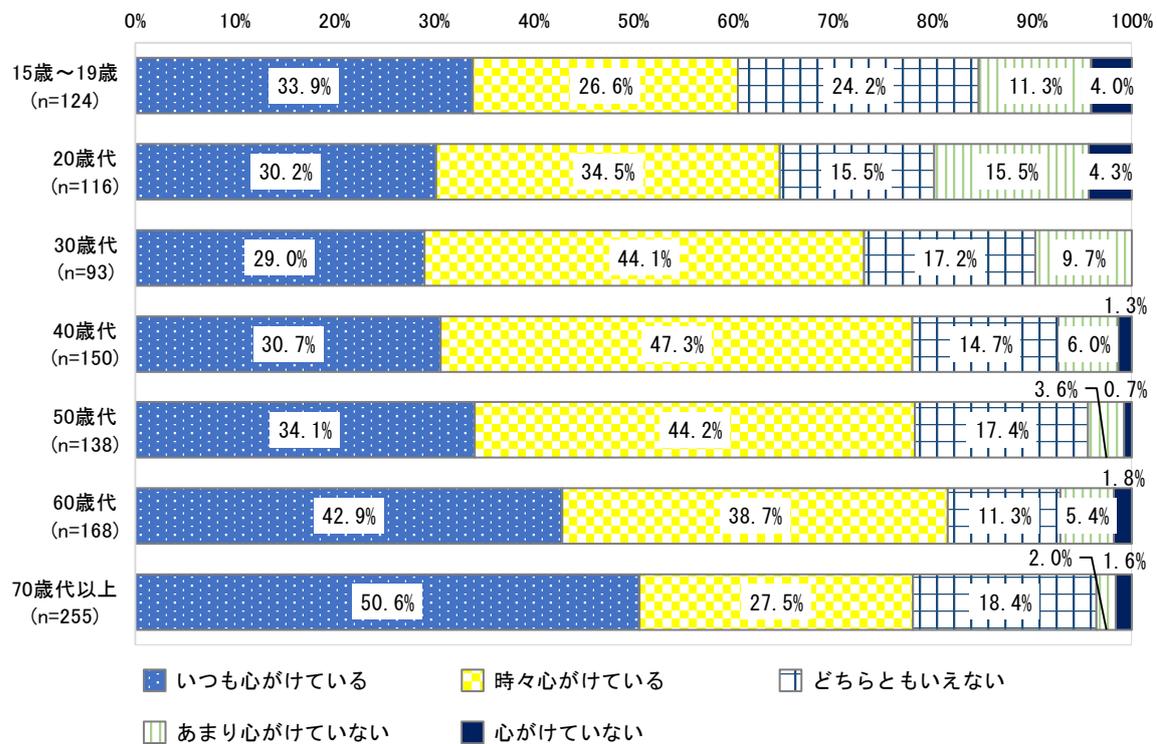


### ■H24年調査



年齢別区分で見ると、『心がけている（「いつも心がけている」＋「時々心がけている」）』割合は、全年代で6割を超えている。

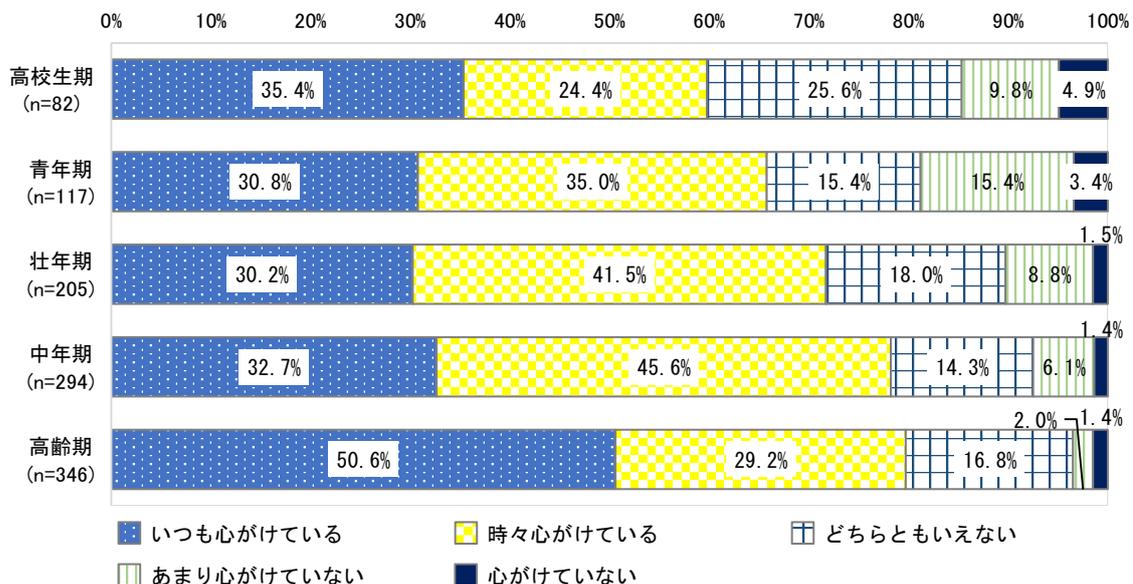
20歳代、30歳代を合わせると「心がけている」割合は68.4%となっている。



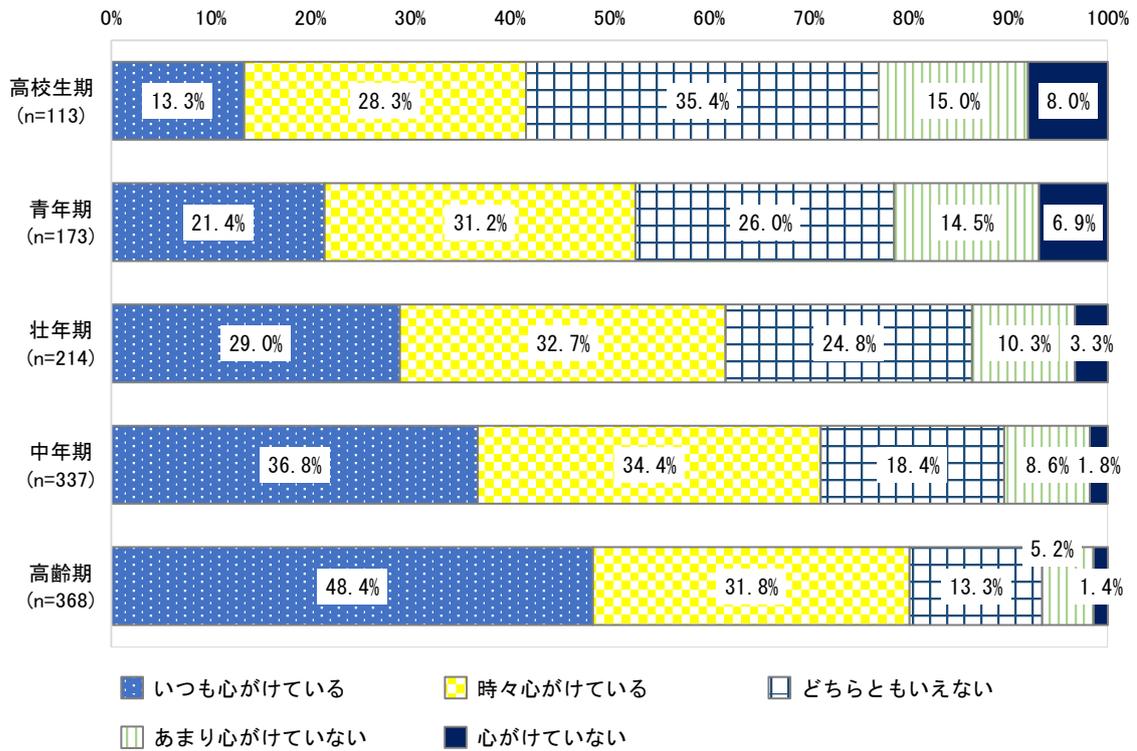
ライフステージ別で見ると、『心がけている（「いつも心がけている」＋「時々心がけている」）』割合は、すべてにおいて約6割を超えるが、高齢層ほど高く、高齢期が79.8%、中年期が78.3%。

平成24年調査と比較して、高校生期、青年期、壮年期では、「いつも心がけている」の割合が大幅に増加した。

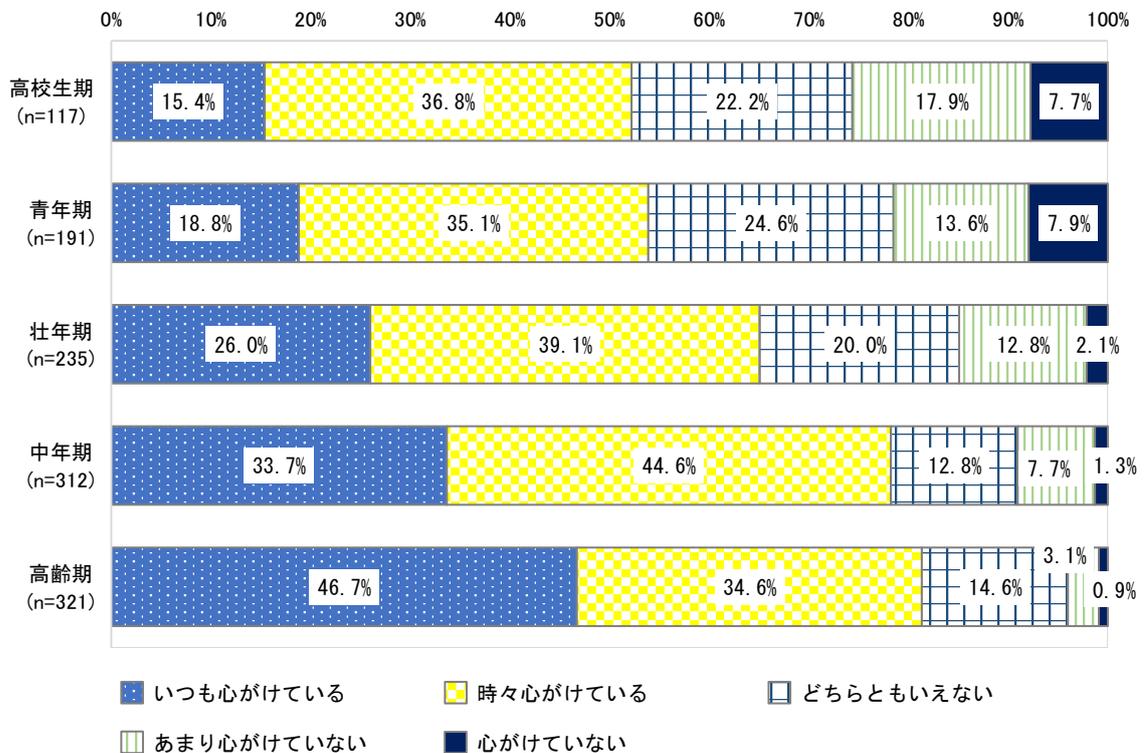
■ H30年調査



## ■ H27 年調査

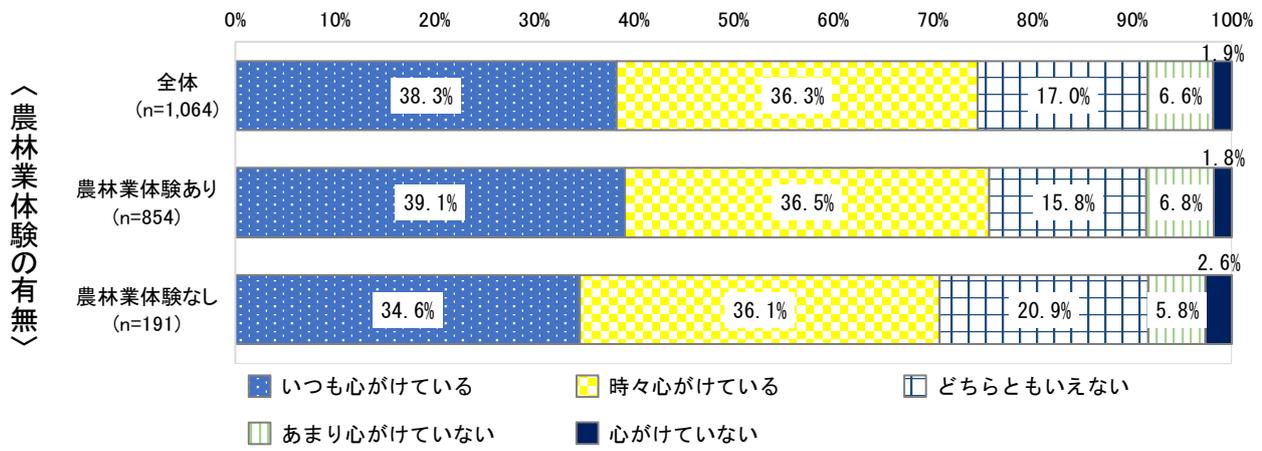


## ■ H24 年調査



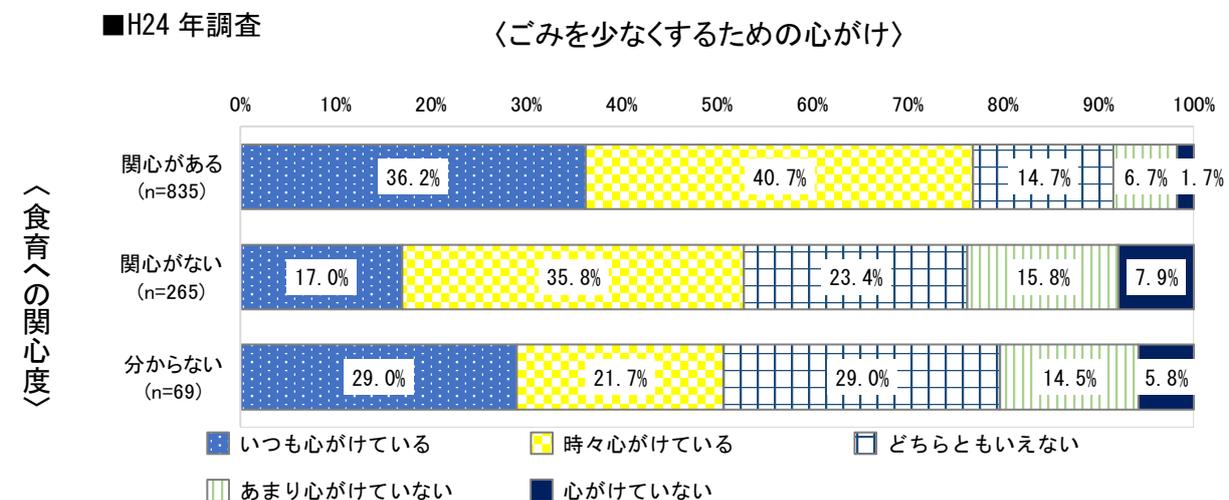
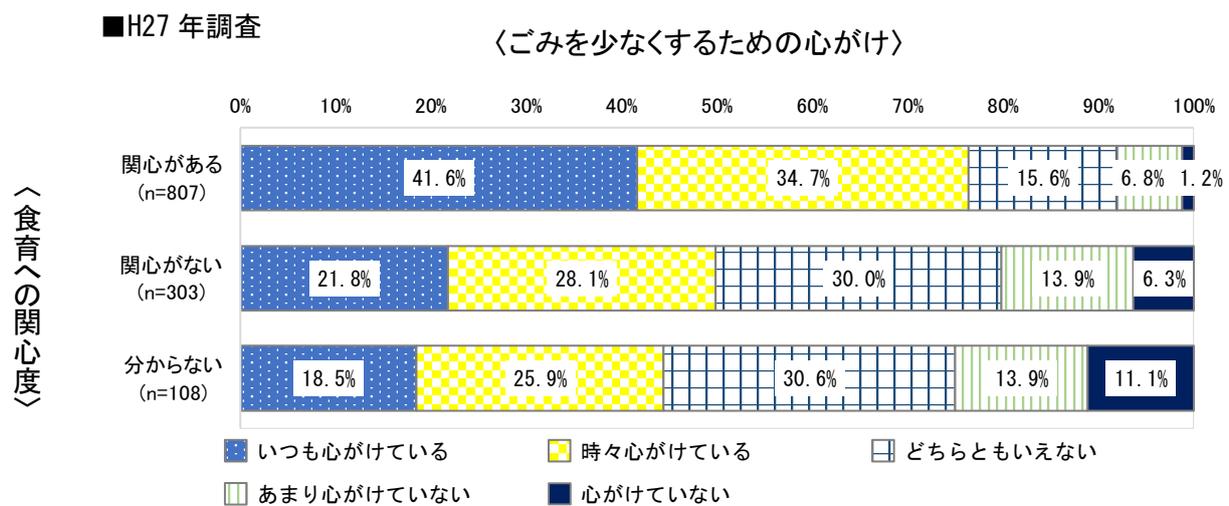
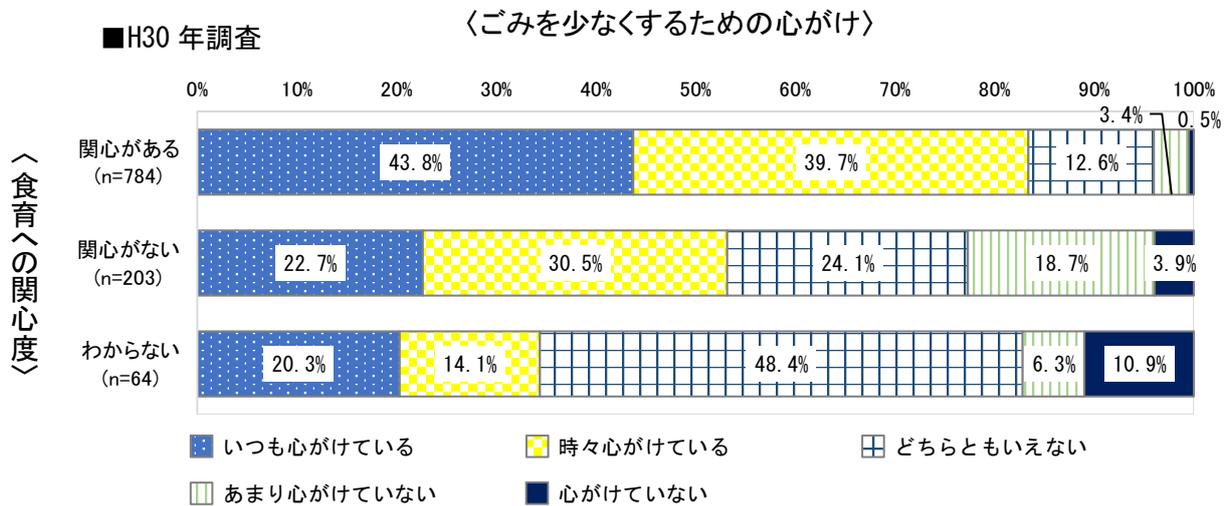
農林漁業体験の有無別に「ごみを少なくする心がけ」の関係をみると、大きな差はみられない。

### 〈ごみを少なくするための心がけ〉



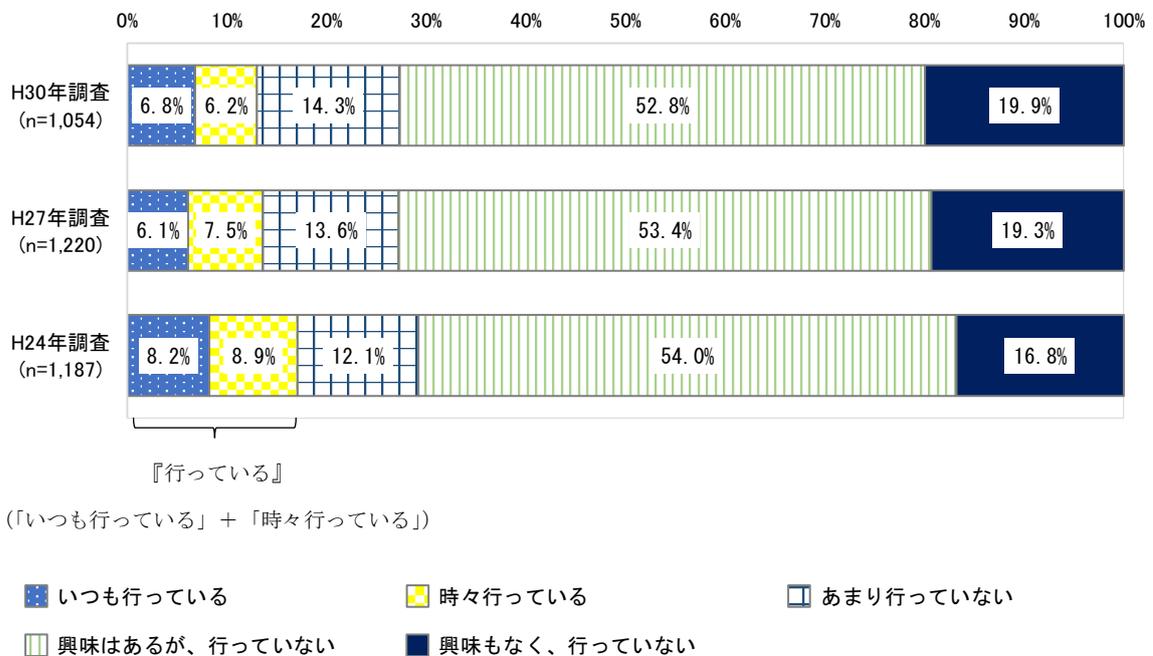
「ごみを少なくするため『買いすぎ』『作りすぎ』をしないような心がけ」と「食育への関心度」との関係を見ると、『心がけている（「いつも心がけている」＋「時々心がけている」）』割合は、「関心がある」が83.5%、「関心がない」が53.2%で、食育に関心がある人ほど心がけている割合が高い。

平成24年調査と比較して、同様の傾向がみられる。



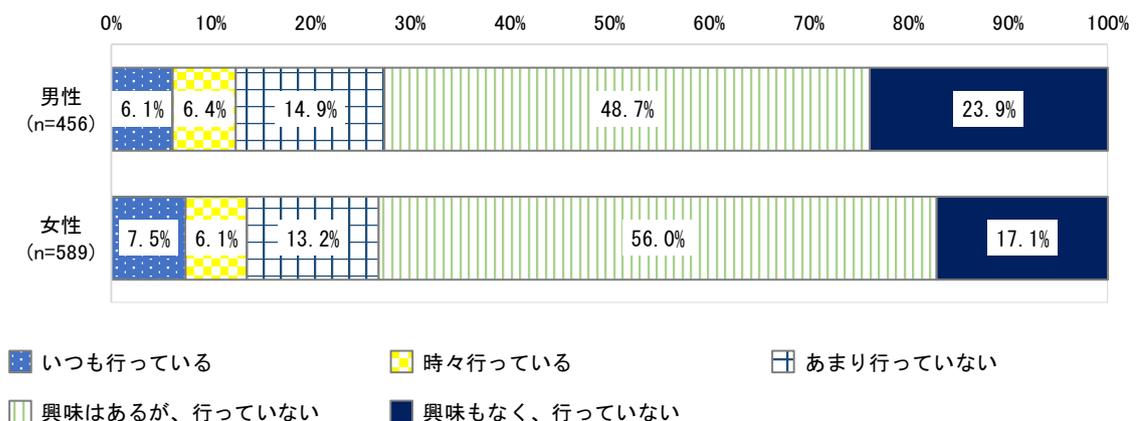
## ■処理機を用いてたい肥を作るなどリサイクルに関する取組の有無 〈15歳以上〉

処理機を用いてたい肥を作るなどリサイクルに関する取組について、「いつも行っている」が6.8%、「時々行っている」が6.2%と、合わせて13.0%が『行っている』としており、平成24年調査と比較して4.1ポイント下回る。

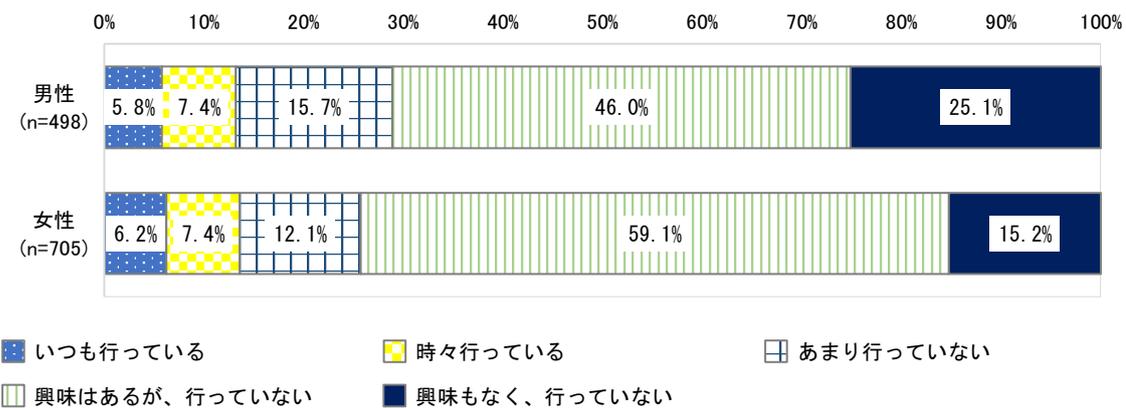


性別でみると、『行っている（「いつも行っている」 + 「時々行っている」）』割合は、男性が12.5%、女性が13.6%と、女性が僅かに上回る。

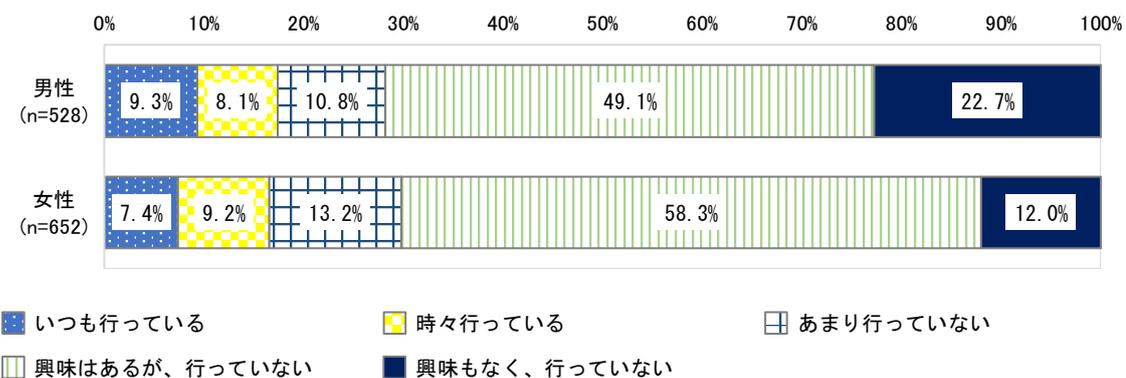
### ■H30年調査



## ■ H27 年調査



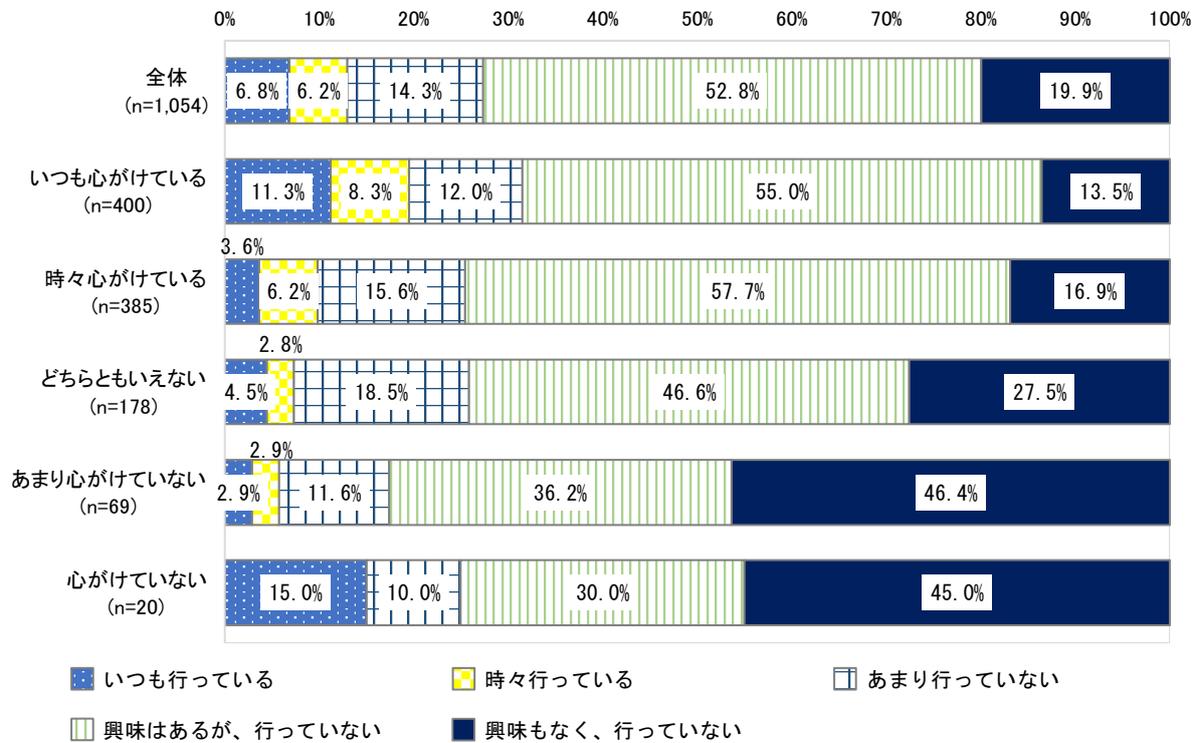
## ■ H24 年調査



「ごみを少なくするための心がけ」との関係を見ると、リサイクルに関する取組を興味もなく行っていない人ほどごみを少なくするための心がけも低い。

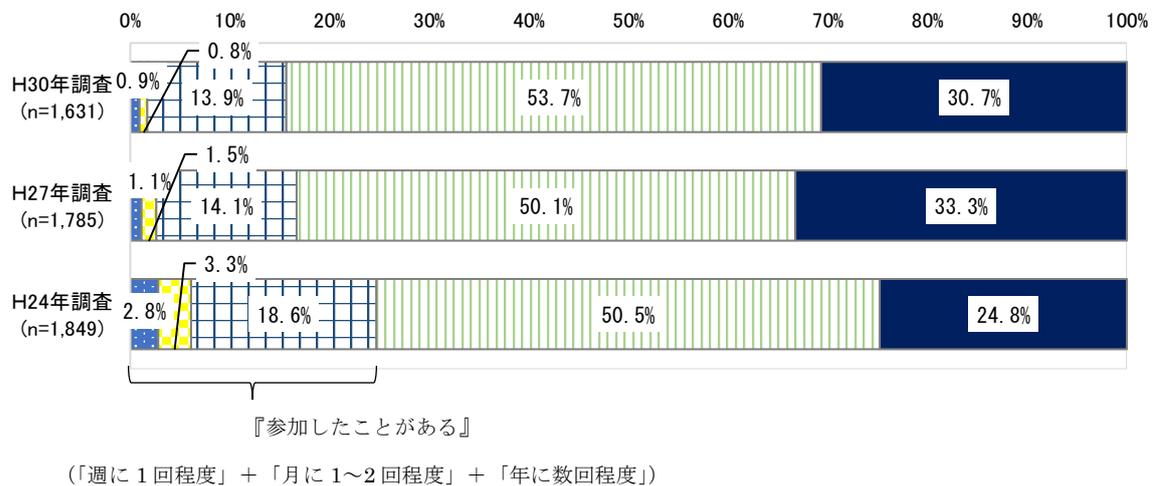
### 〈リサイクルに関する取組〉

〈ごみを少なくするための心がけ〉



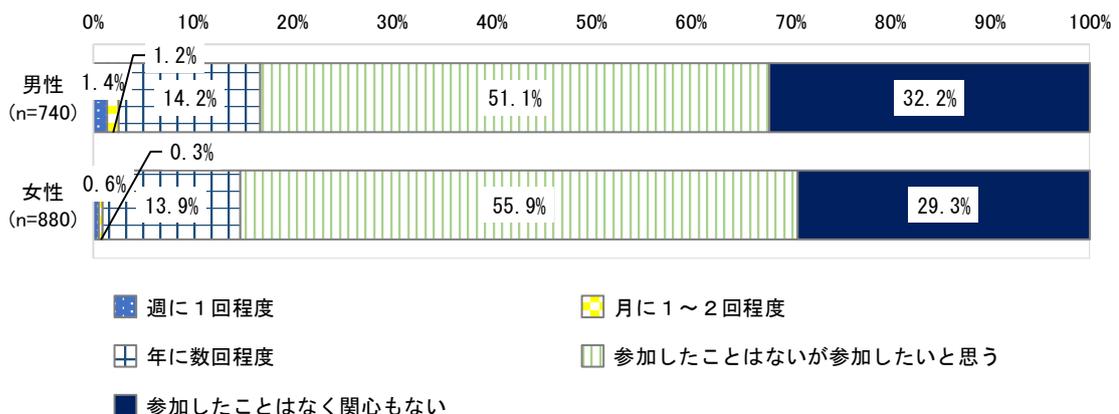
## ■ごみ減量やリサイクルなど環境保全活動への参加頻度と意向 <0歳を除く>

ごみ減量やリサイクルなど環境保全活動への参加頻度と意向について、「週に1回程度」が0.9%、「月に1~2回程度」が0.8%、「年に数回程度」が13.9%と、合わせて15.6%が『参加したことがある』とし、平成24年調査と比較して9.1ポイント下回る。

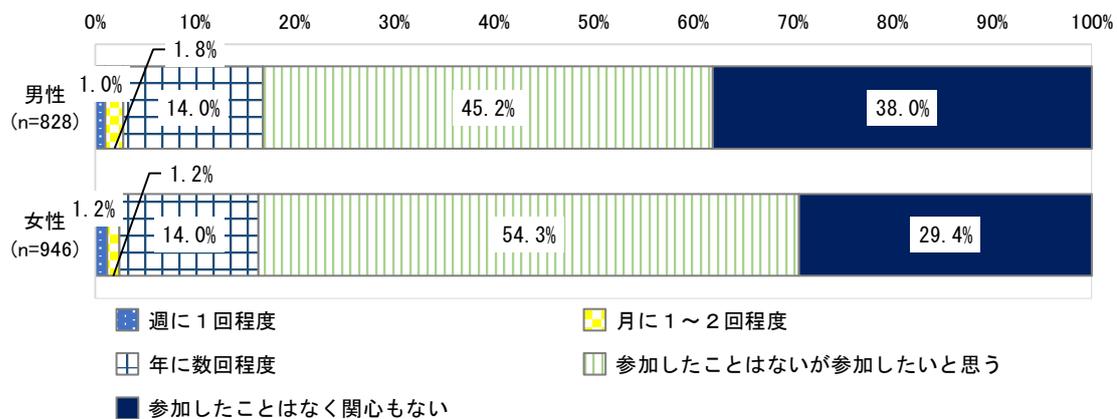


性別でみると、『参加したことがある（「週に1回程度」 + 「月に1~2回程度」 + 「年に数回程度」）』割合は、男性が16.8%、女性が14.8%で、大きな差はみられない。平成24年調査と比較して、男女ともに10ポイント近く下回る。

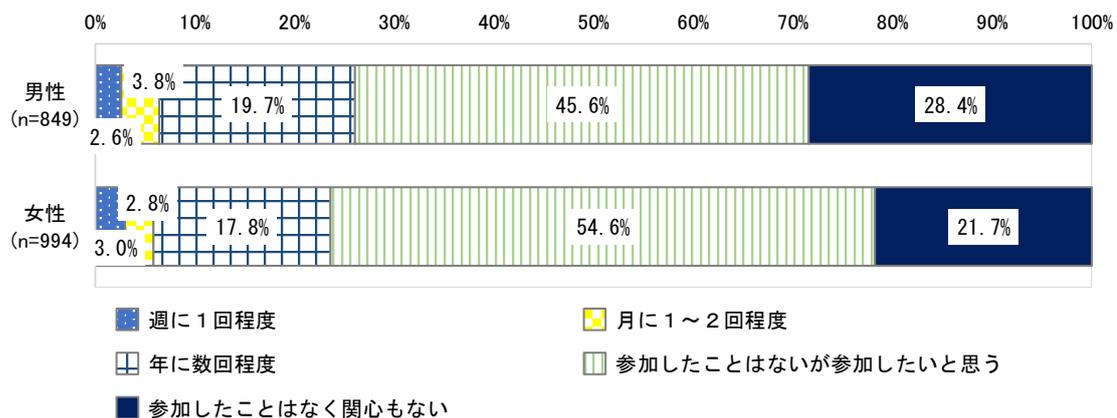
## ■H30年調査



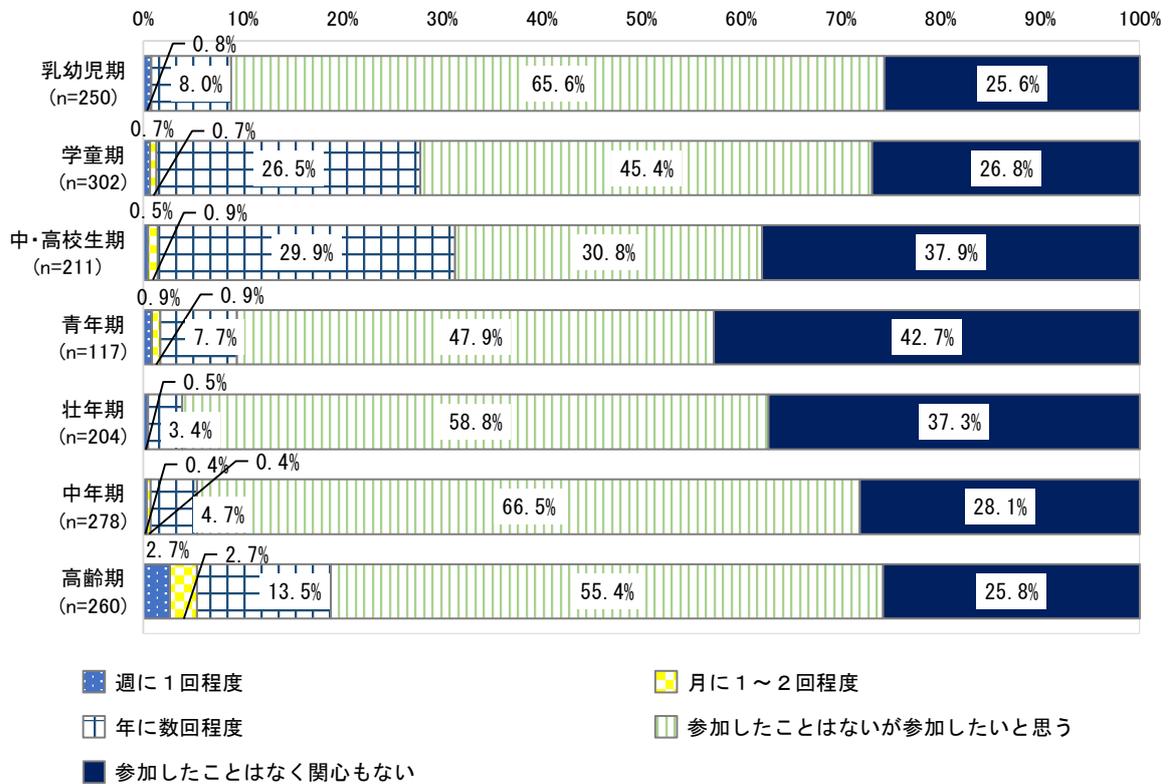
## ■ H27 年調査



## ■ H24 年調査



ライフステージ別でみると、『参加したことがある（「週に1回程度」＋「月に1～2回程度」＋「年に数回程度」）』割合は、中・高校生期が31.3%で最も高く、次いで、学童期が27.9%、高齢期は18.9%の順。一方、他の年齢層は1割前後に留まる。



## (2) 熊本市の良質な水がおいしさの基になっていると思う市民の割合

熊本市の良質な水がおいしさの基になっていると思う市民の割合は 80.7% となり、平成 24 年調査を 0.1 ポイント下回る。目標とは 4.3 ポイント差となった。

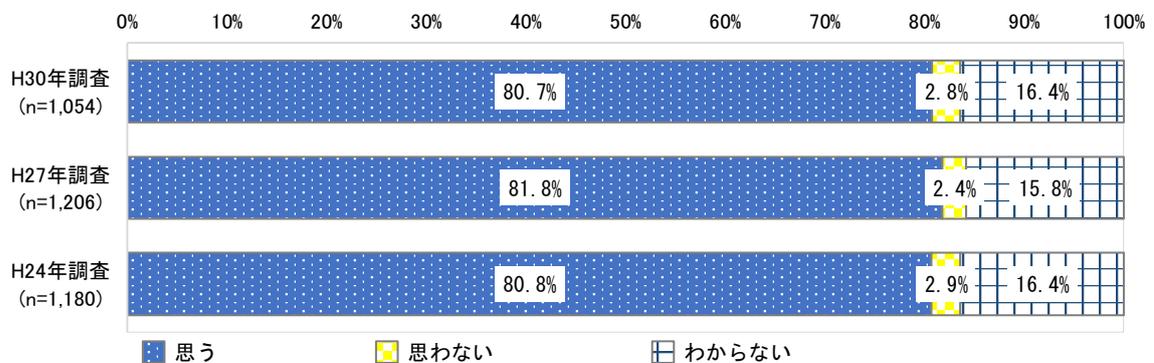
項目	(H24年・基準)	(H27年・実績)	(H30年・実績)	(H30年・目標)
○熊本市の良質な水がおいしさの基になっていると思う市民の割合	80.8%	81.8%	80.7%	85%

### <調査結果>

#### ■熊本市の良質な水が地元の食材や料理の「おいしさ」の基になっていることについて

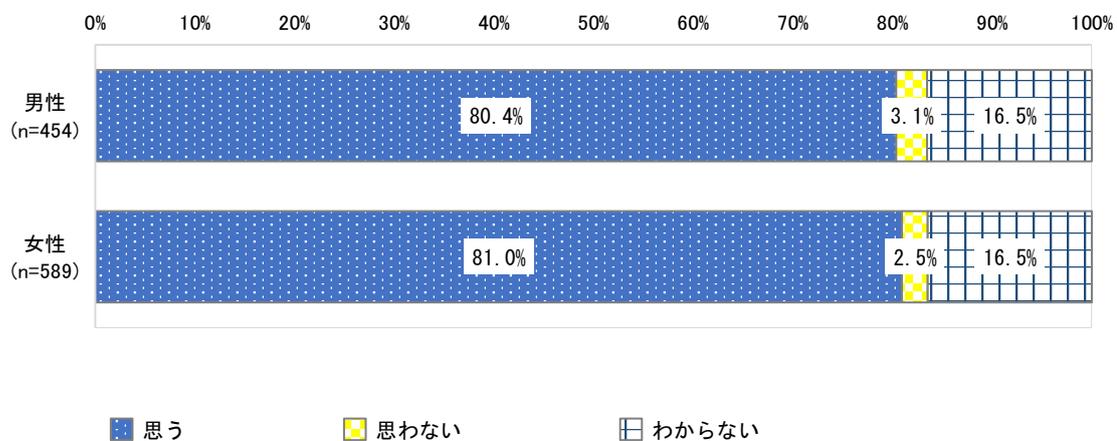
##### <15 歳以上>

熊本市の良質な水が地元の食材や料理の「おいしさ」の基になっていることについて、「思う」が 80.7% を占め、「思わない」が 2.8%。平成 24 年調査と比較して、大きな差はみられない。

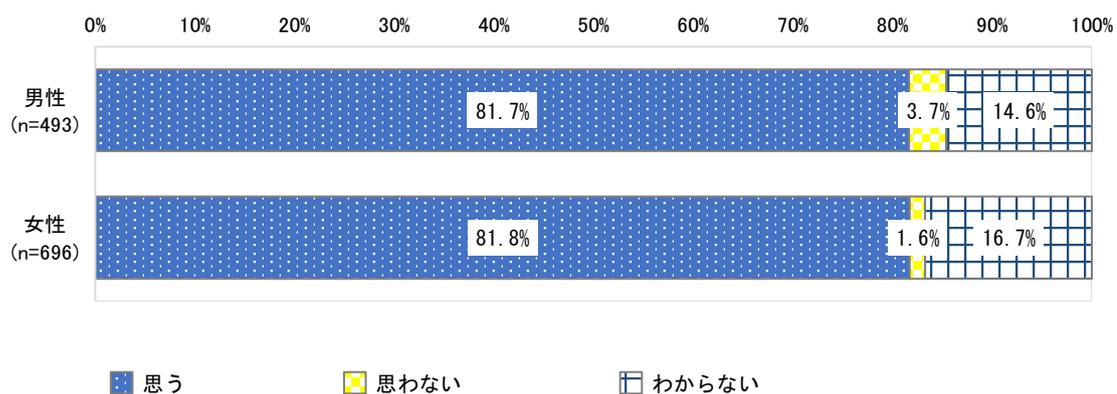


性別でみると、「思う」は、男性が80.4%、女性が81.0%と、大きな差はみられない。

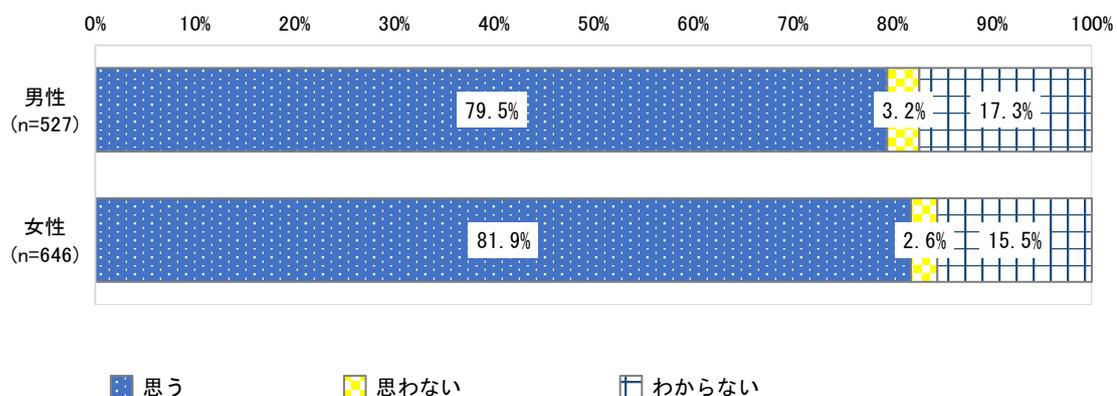
### ■ H30 年調査



### ■ H27 年調査

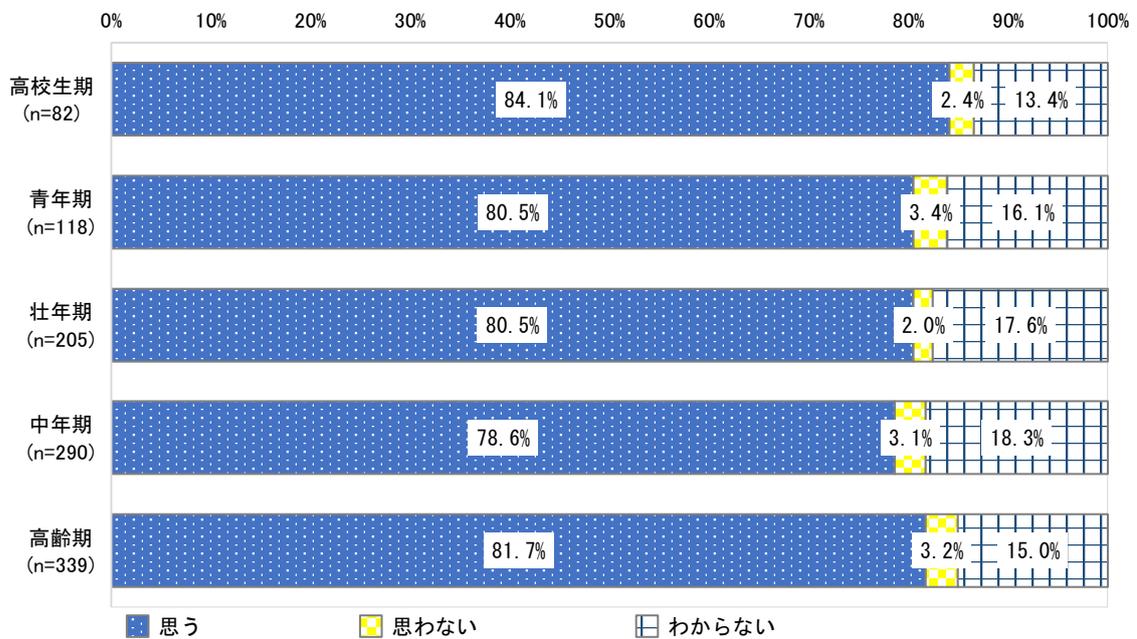


### ■ H24 年調査

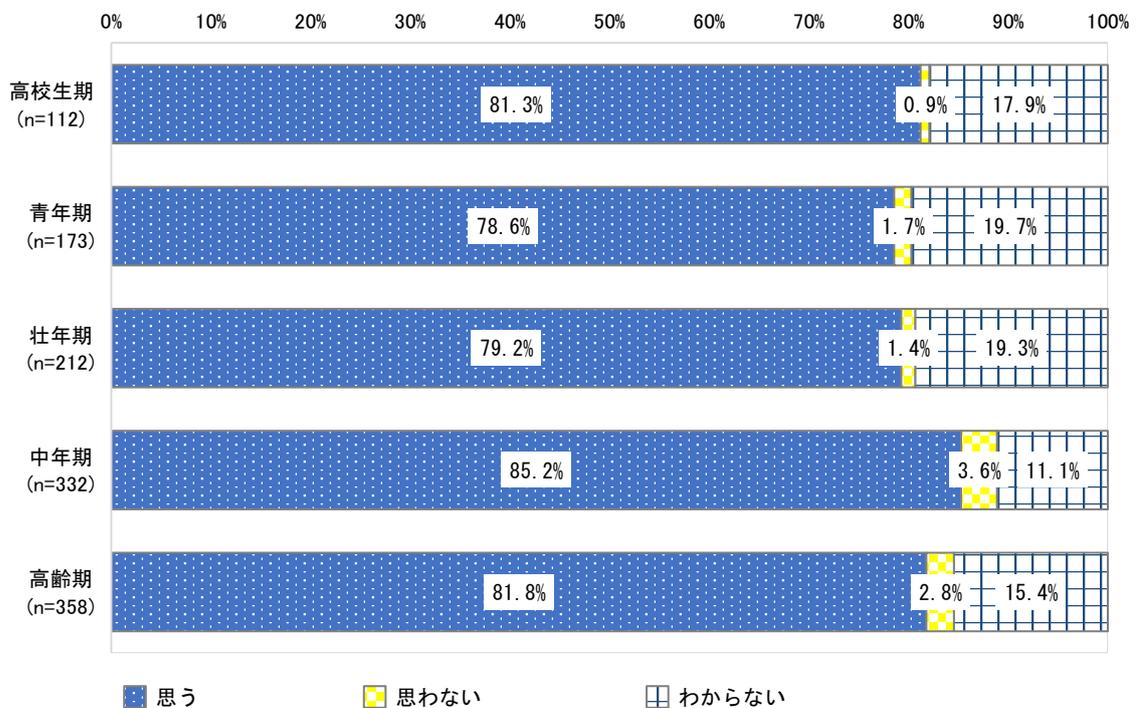


ライフステージ別で見ると、「思う」の割合は、すべてにおいて8割前後を占める。  
平成24年調査と比較して、高校生期では10ポイント増加した。

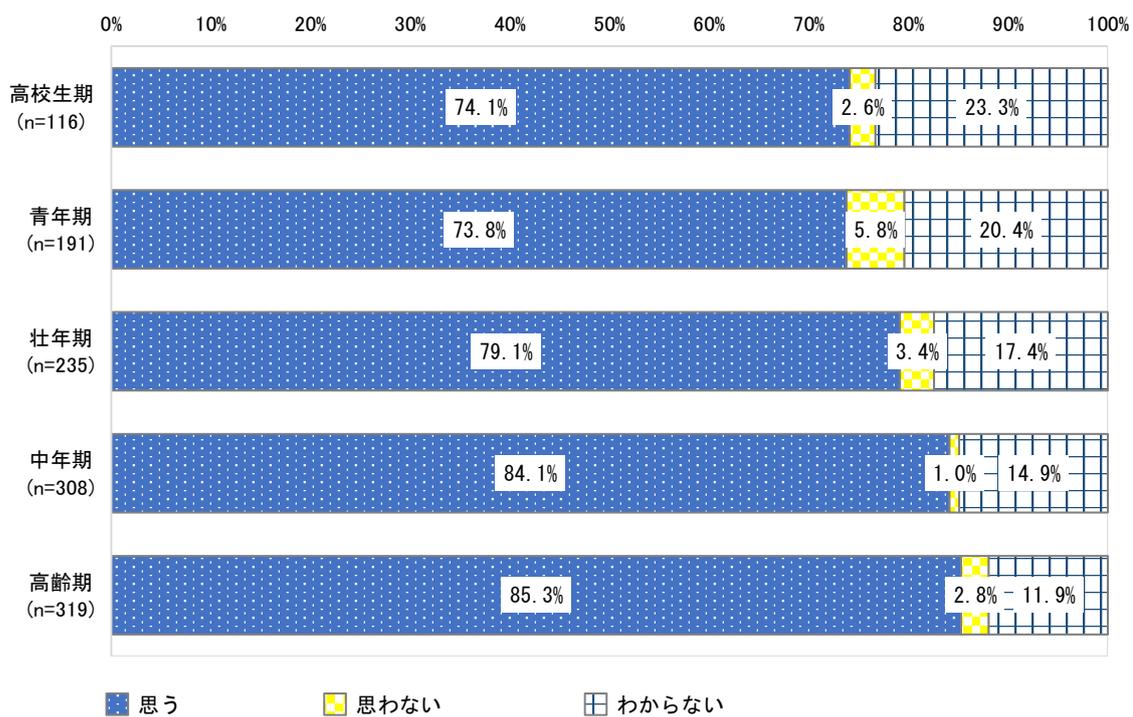
### ■H30年調査



### ■H27年調査



■ H24 年調査



## Ⅶ 調査結果 — 歯科保健 —



## 1 40歳代で喪失歯のない者の増加

40歳代で喪失歯のない人は71.5%となり、前回調査と比較して2.3ポイント上回ったが、目標まであと3.5ポイントとなった。

項目	(H22年・基準)	(H27年・参考値)	(H30年・参考値)	(H34年・目標)
○40歳代で喪失歯のない者の増加	68.5%	69.2%	71.5%	75%

※40歳代の回答者で「ない」を選択した人の割合

### <調査結果>

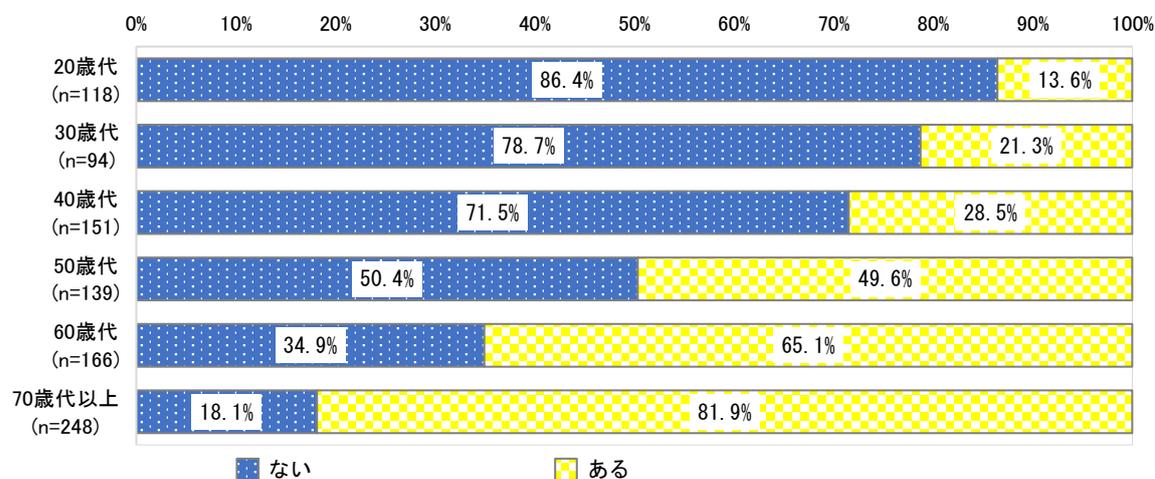
#### ■喪失歯の有無（0歳を除く）

喪失歯の有無について、「ない」は71.0%。

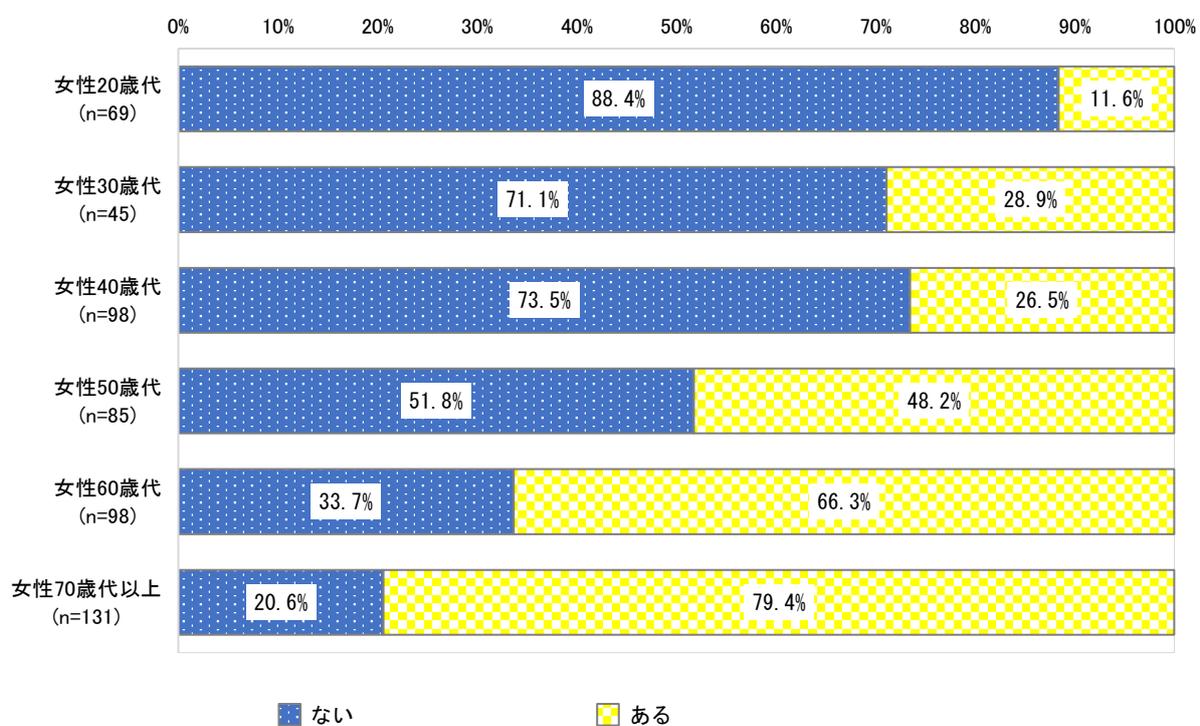
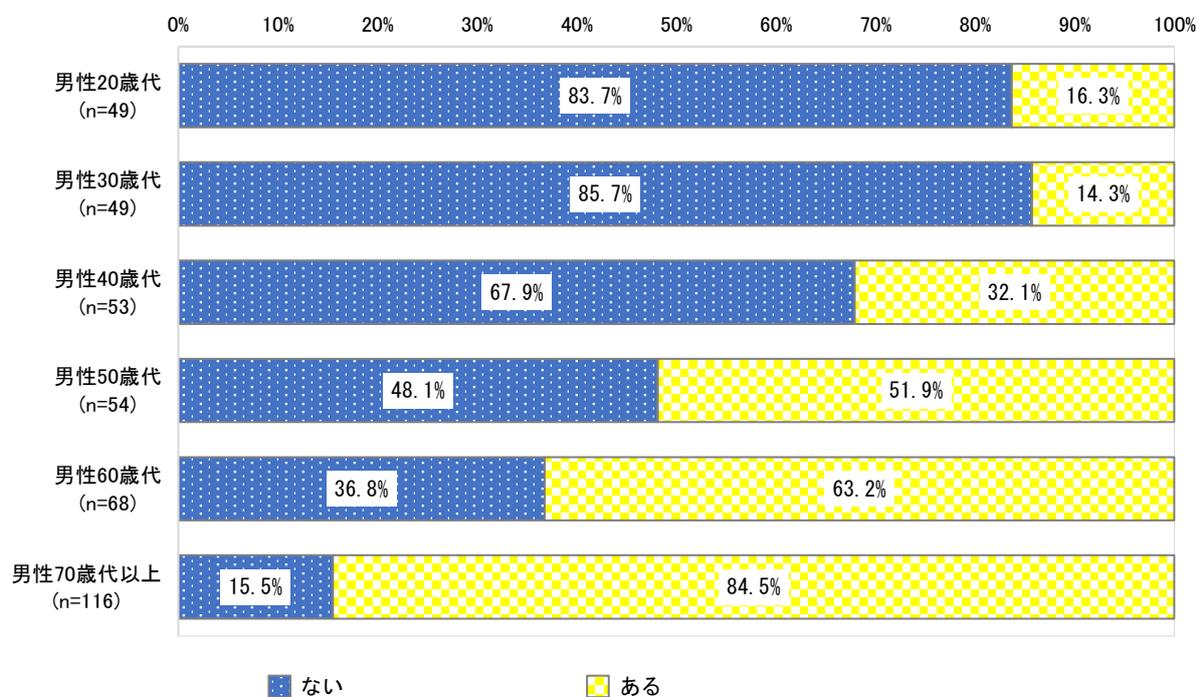
性別でみると、「ない」は、男性が71.6%、女性が71.0%となり、男女間で差はみられない。



年齢区分別でみると、喪失歯が「ない」人は20歳代で約9割を占めるが、年代が上がるにつれ低くなり、70歳代以上は2割に満たない。また、40歳代から50歳代にかけて、喪失歯のないものの減少が最も多く、21.1ポイント減少している。



性別・年齢区分別でみると、喪失歯が「ない」人は、男女ともに年代が上がるにつれ低くなる傾向にあり、男女間で大きな差はみられないが、30歳代においては、男性が女性を約15ポイント大幅に上回る。



## 2 60歳で24歯以上の自分の歯を有する者の増加

60歳で24歯以上の歯を有する人の割合は76.1%となり、前回調査と比較して、7.9ポイント増加。目標も6.1ポイント上回る。

項目	(H23年・基準)	(H27年・参考値)	(H30年・実績)	(H34年・目標)
○60歳で24歯以上の自分の歯を有する者の増加	63.9%	68.2%	76.1%	70%

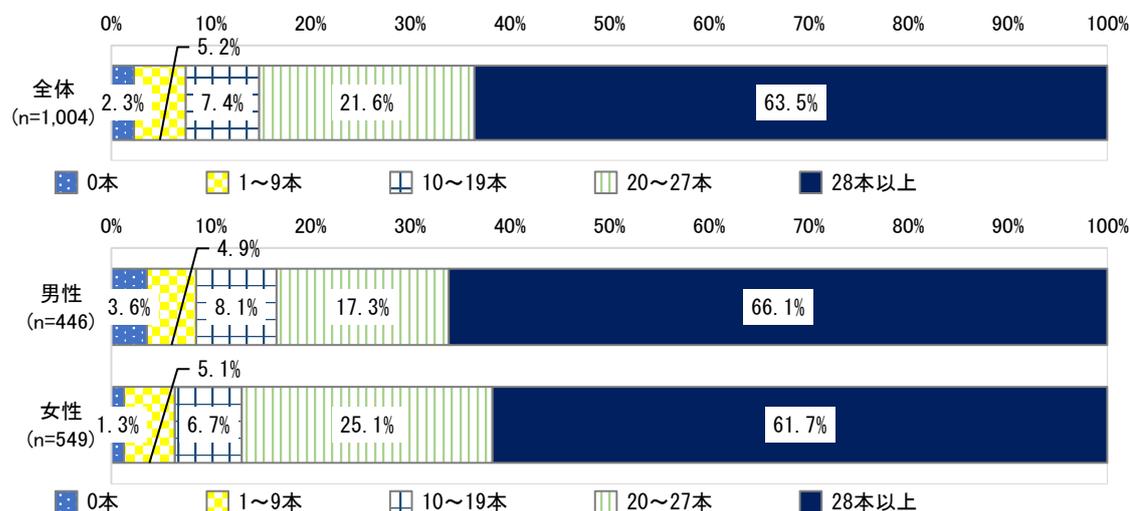
※60歳～64歳の回答者で、歯の本数を24本以上と回答した人の割合

### <調査結果>

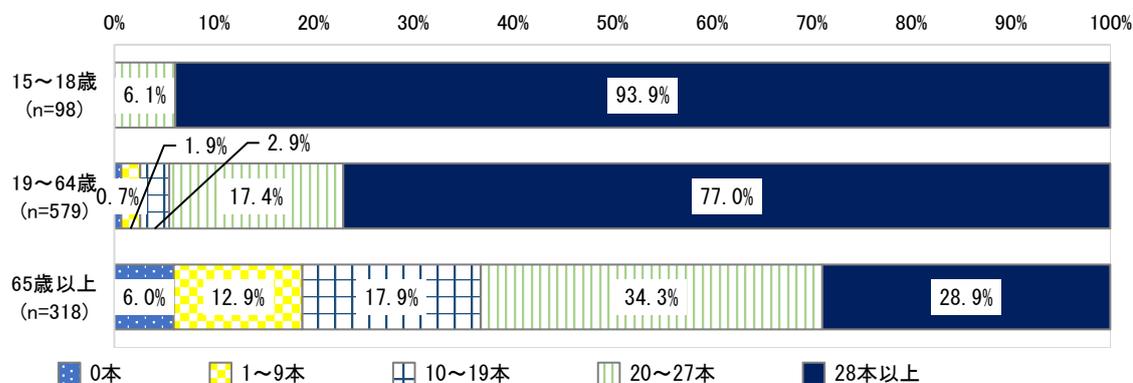
#### ■現在の歯の本数 〈15歳以上〉

現在の歯の本数は、「28本以上」が63.5%占め、「20～27本」が21.6%、「10～19本」が7.4%、「1～9本」が5.2%、「0本」が2.3%の順である。

性別でみると、20本以上自分の歯を有する者は、女性の方が3.4ポイント多い。



年齢区分別でみると、「28本以上」の割合は、15～18歳では、9割以上を占めるものの、19～64歳では約8割、65歳以上では約3割と大幅に低下。「20本以上」の割合は、15～18歳が100.0%、19～64歳が9割を超えるのに対し、65歳以上では、6割に留まる。



### 3 60歳代における咀嚼良好者の増加

60歳代における咀嚼の良好な人は79.0%で、前回調査と比較して10.6ポイント上回り、目標達成まであと1ポイントである。

項目	(H22年・基準)	(H27年・参考値)	(H30年・参考値)	(H34年・目標)
○60歳代における咀嚼良好者の増加	51.6%	68.4%	79.0%	80%

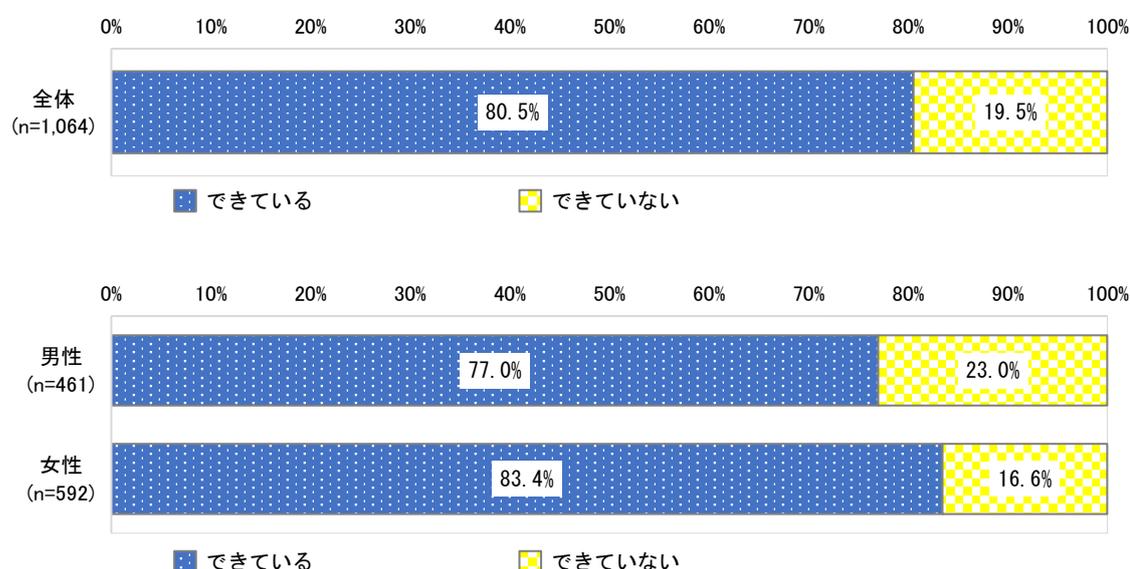
※60歳代の回答者で、「できている」を選択した人の割合

#### <調査結果>

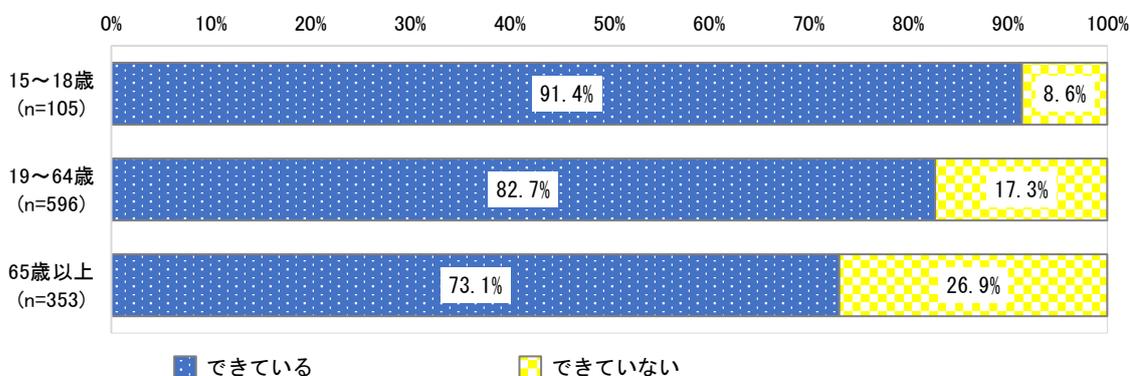
#### ■咀嚼の状況 〈15歳以上〉

咀嚼について、「できている」は80.5%、「できていない」は19.5%。

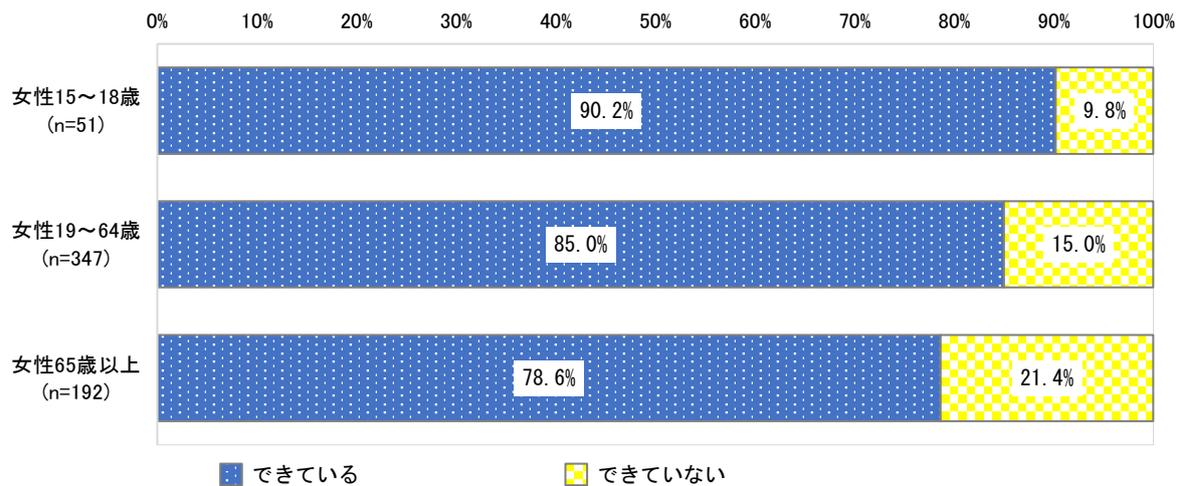
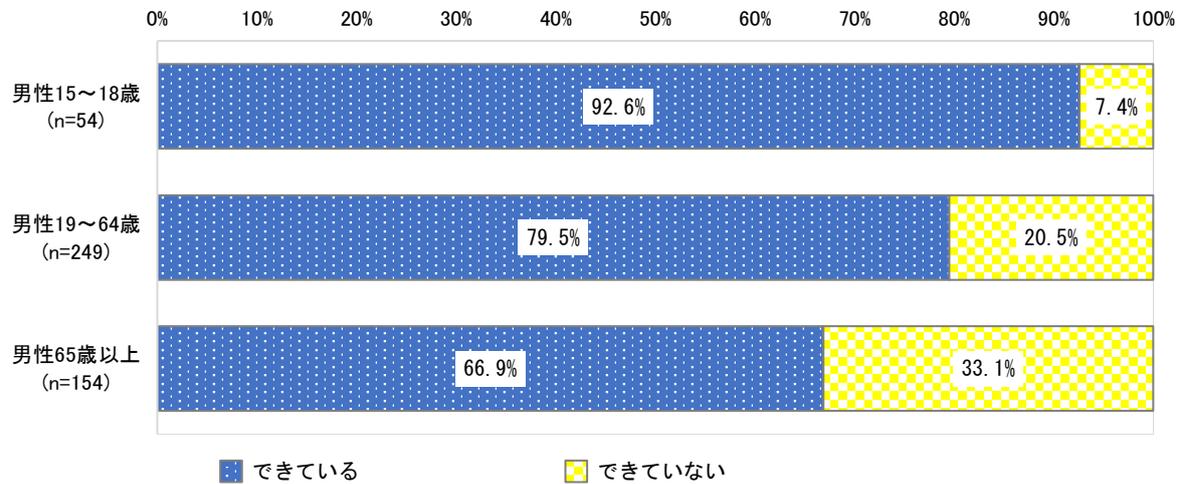
性別でみると、「できている」は、男性が77.0%、女性が83.4%となり、女性が6.4ポイント上回る。



年齢区分別でみると、「できている」は、15～18歳では9割を超えるが、19～64歳では82.7%、65歳以上では73.1%となり、年齢が上がるとともに徐々に、咀嚼が低下している。



性別・年齢区分別でみると、「できている」は、男女ともに15～18歳では9割を超える。男性の65歳以上では66.9%、女性の65歳以上では78.6%となり、女性が11.7ポイントと大幅に上回る。



## 4 定期健診を受ける者の増加

定期健診を受ける人は55.6%となり、前回調査と比較して7.6ポイント上回り、目標まであと9.4ポイントである。

項目	(H23年・基準)	(H27年・参考値)	(H30年・参考値)	(H34年・目標)
○定期検診を受ける者の増加	25.4%	48.0%	55.6%	65%

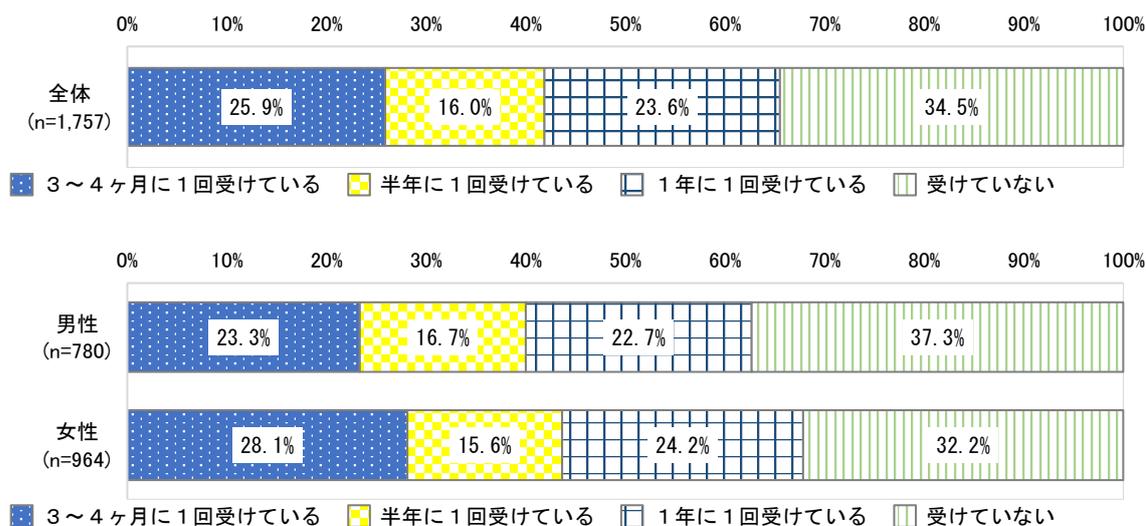
※40～69歳の回答者で、「3～4ヶ月に1回受けている」+「半年に1回受けている」+「1年に1回受けている」を選択した人の割合

### <調査結果>

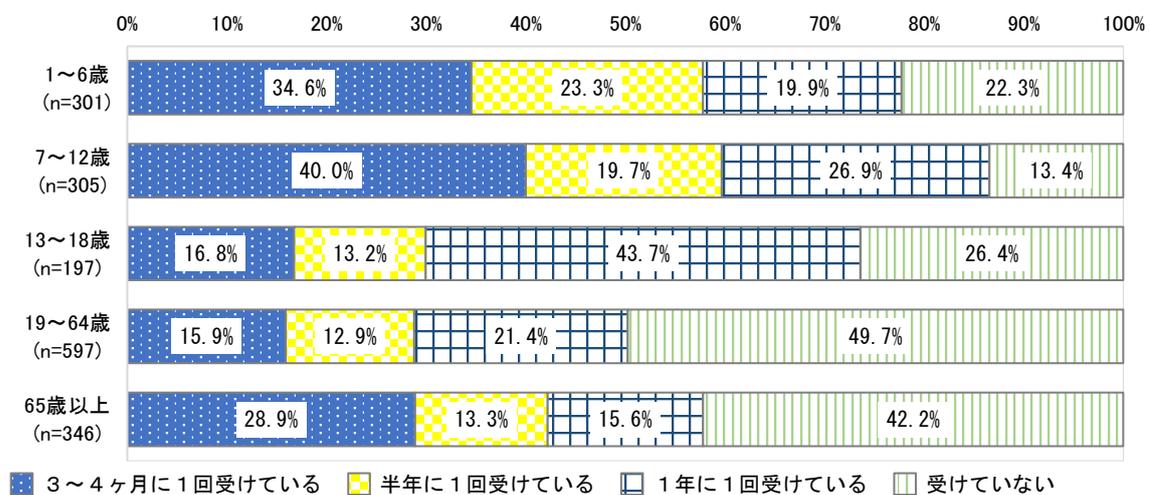
#### ■歯科検診の受診状況（0歳を除く）

歯科検診の受診について、「3～4ヶ月に1回受けている」が25.9%、「半年に1回受けている」が16.0%、「1年に1回受けている」が23.6%と、合わせて65.5%が『1年に1回以上受けている』としている。

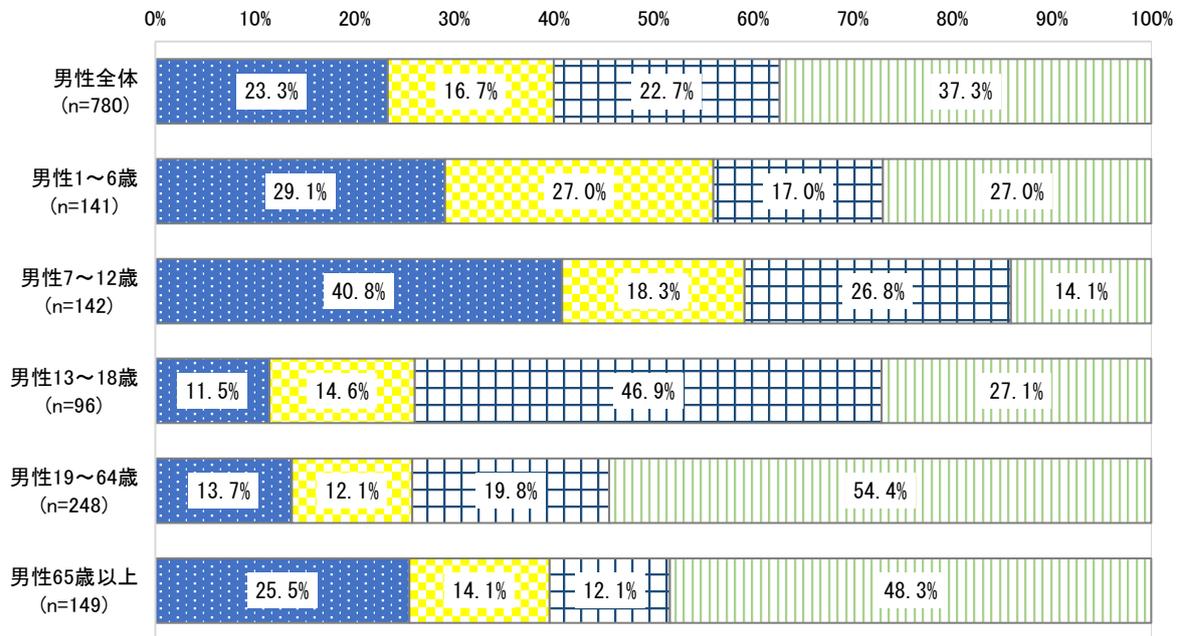
性別でみると、『1年に1回以上受けている（「3～4ヶ月に1回受けている」+「半年に1回受けている」+「1年に1回受けている」）』割合は、男性が62.7%、女性が67.9%で女性が上回る。



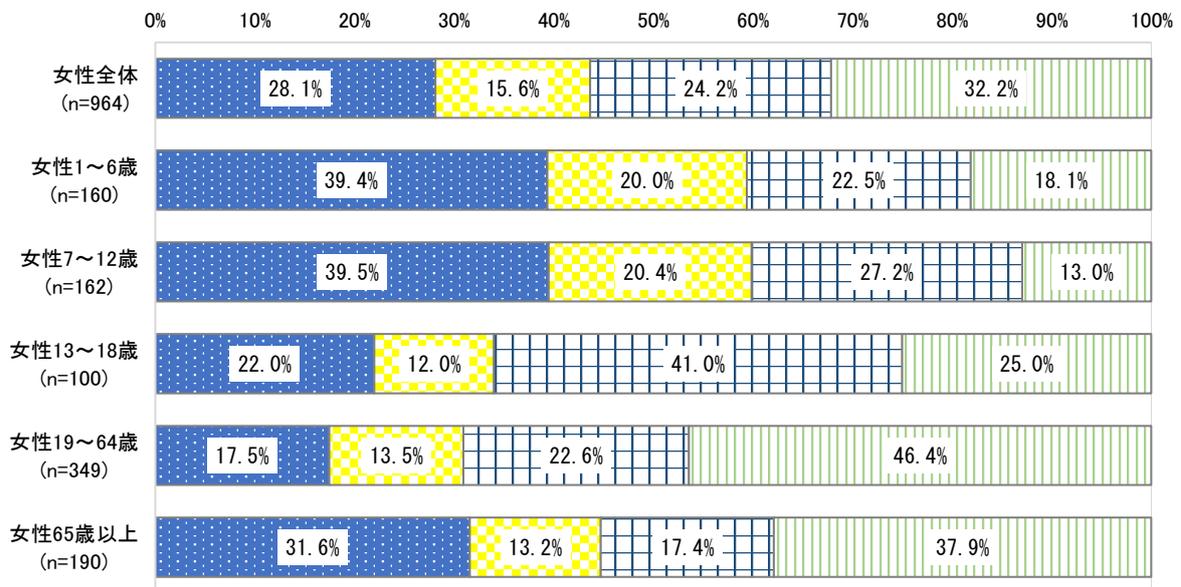
年齢区分別でみると、『1年に1回以上受けている（「3～4ヶ月に1回受けている」＋「半年に1回受けている」＋「1年に1回受けている」）』割合は、7～12歳が86.6%と最も高く、次いで、1～6歳が77.8%、13～18歳が73.7%の順。19～64歳は5割、65歳以上は約6割に留まる。



性別・年齢区別でみると、『1年に1回以上受けている（「3～4ヶ月に1回受けている」＋「半年に1回受けている」＋「1年に1回受けている」）』割合は、男女ともに、1～6歳、7～12歳、13～18歳が高く、19～64歳が最も低い。



■ 3～4ヶ月に1回受けている ■ 半年に1回受けている ■ 1年に1回受けている ■ 受けていない

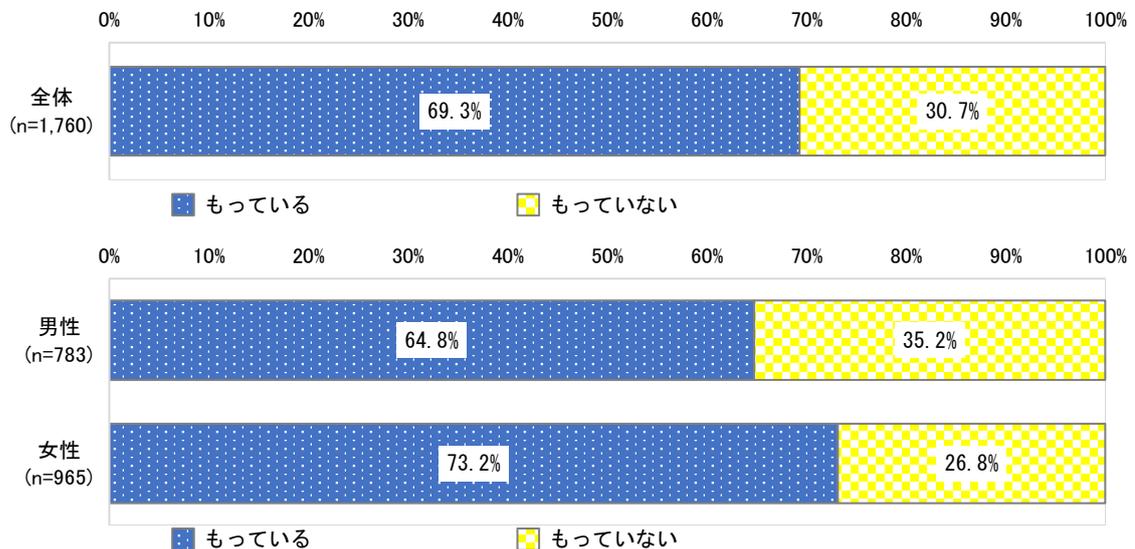


■ 3～4ヶ月に1回受けている ■ 半年に1回受けている ■ 1年に1回受けている ■ 受けていない

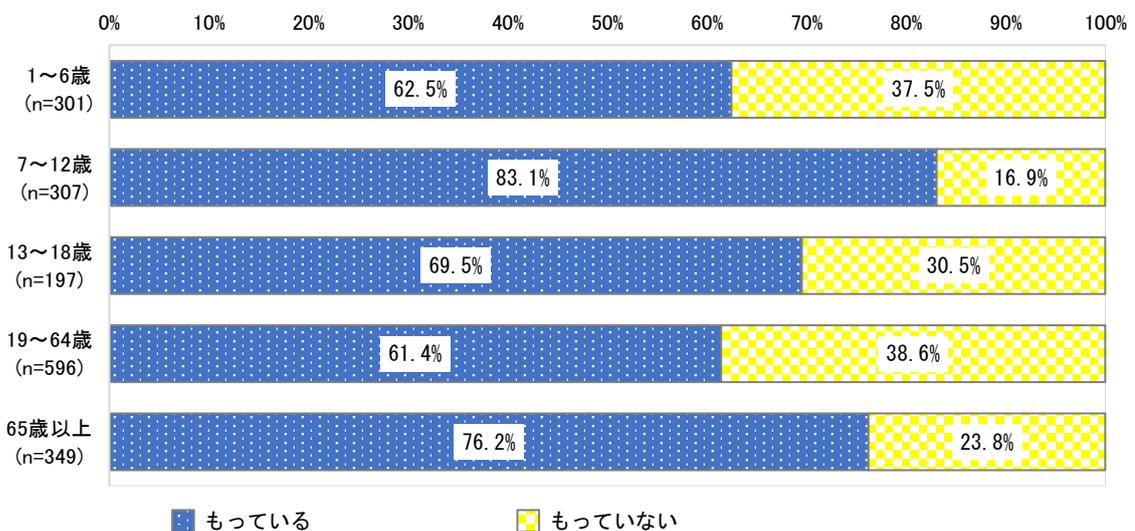
## ■かかりつけの歯科医の有無 〈0歳を除く〉

かかりつけの歯科医を「持っている」と回答した人の割合は69.3%。

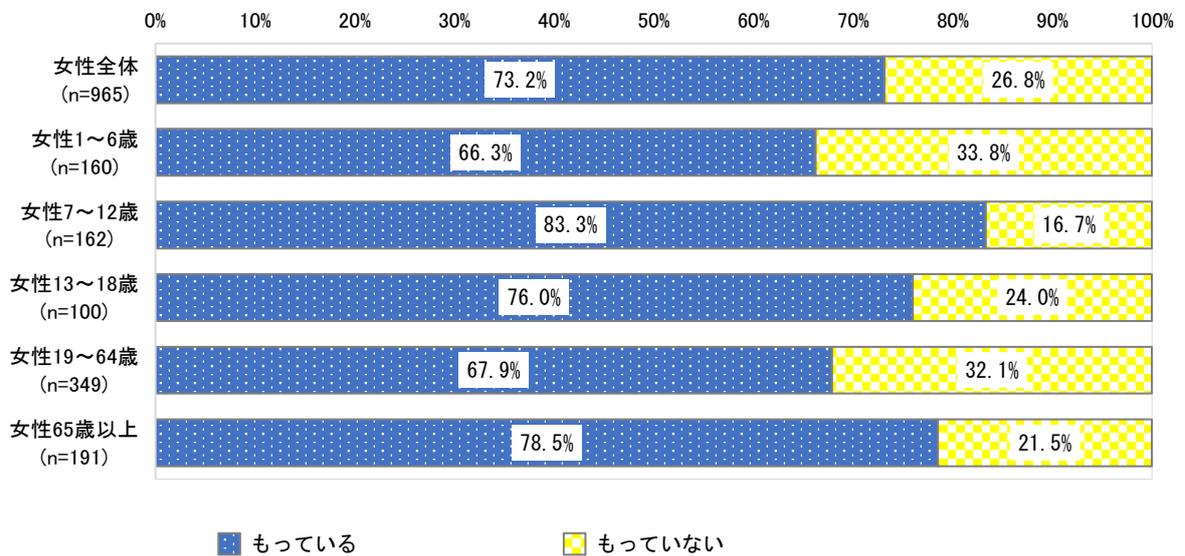
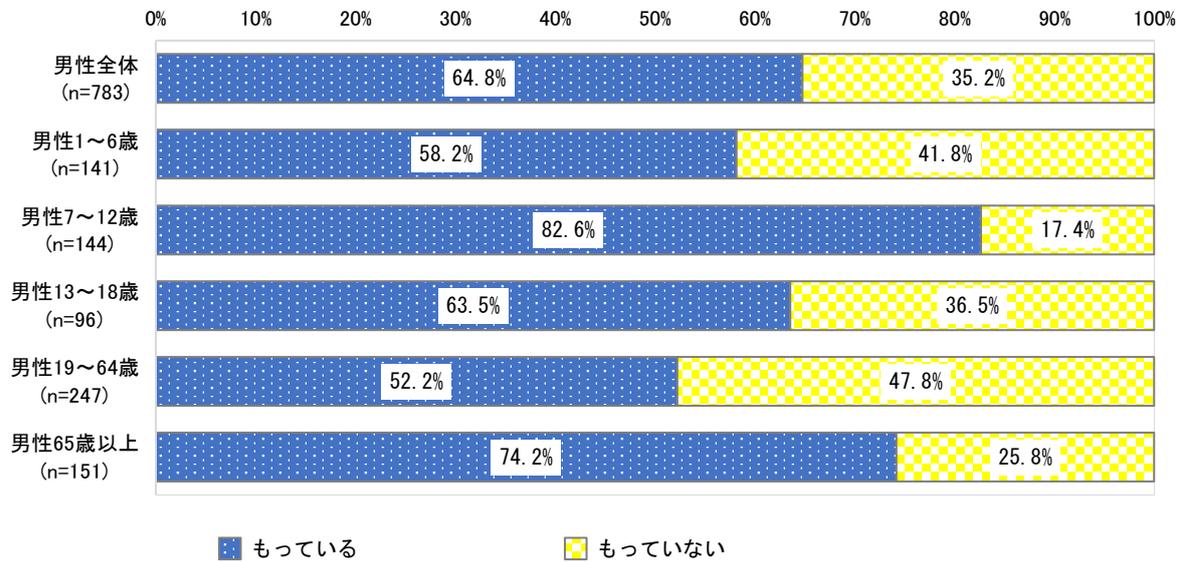
性別で見ると、「持っている」は、男性が64.8%、女性が73.2%で女性が8.4ポイント上回る。



年齢区分別で見ると、「持っている」は、7～12歳が83.1%で最も高く、次いで、65歳以上が76.2%、13～18歳が69.5%の順。すべてにおいて6割を超える。



性別・年齢区分別でみると、かかりつけの歯科医を「持っている」と回答した人の割合は、男女ともに7～12歳が最も高い。女性に比べ男性の割合が比較的低く、19～64歳においては、男性が15.7ポイントと大幅に下回る。



## 5 口の健康と喫煙の関係について知っている者の増加

口の健康と喫煙の関係について知っている人の割合は、68.2%となり、前回調査より4ポイント上回り、目標まで1.8ポイントとなった。

項目	(H23年・基準)	(H27年・参考値)	(H30年・参考値)	(H34年・目標)
○口の健康と喫煙の関係について知っている者の増加	29.5%	64.2%	68.2%	70%

※40～69歳の回答者で、「1.知っている」を選択した人の割合

### <調査結果>

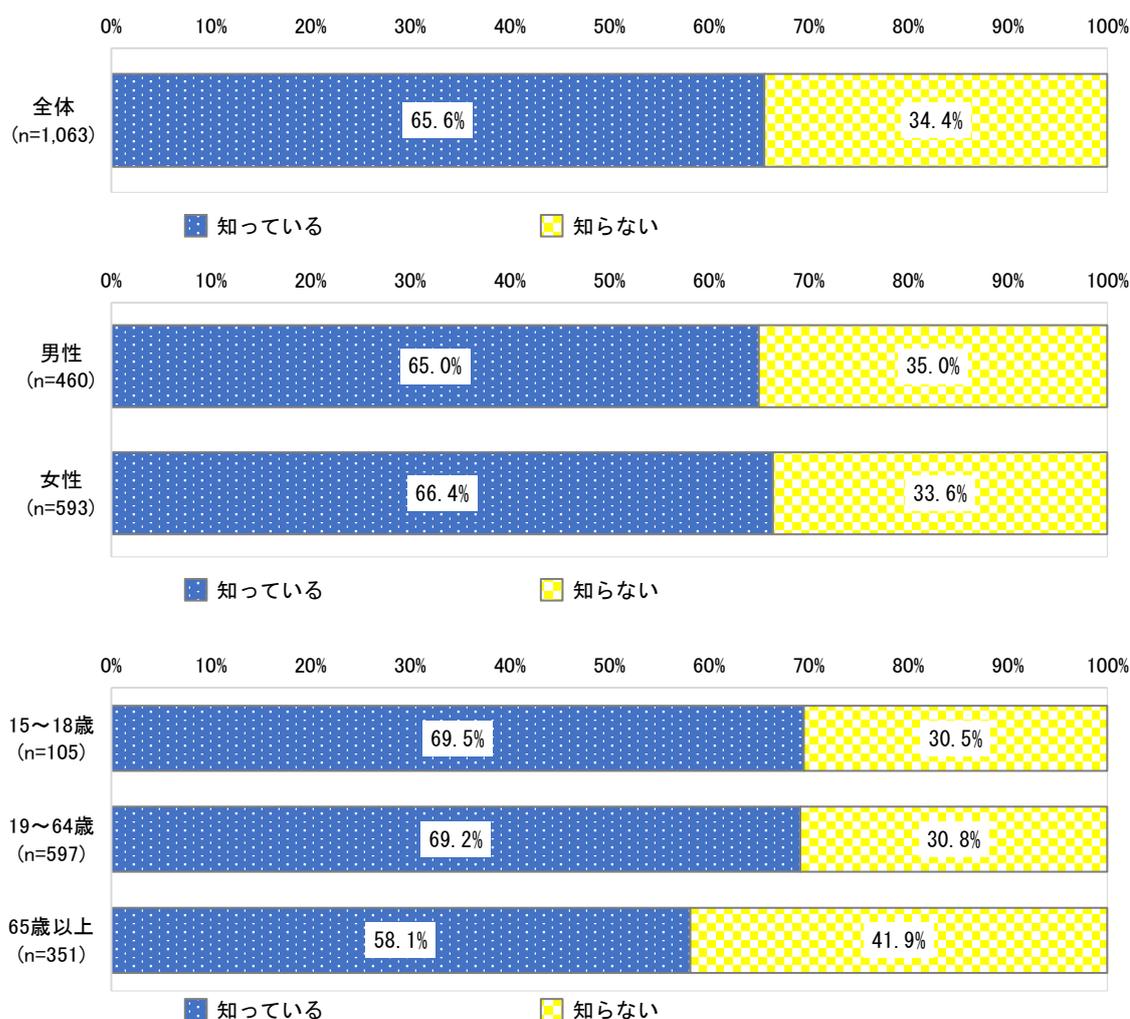
#### ■喫煙が歯周病を進行させる要因であることの認知度 〈15歳以上〉

喫煙が歯周病を進行させる要因であることについて、「知っている」人は65.6%。

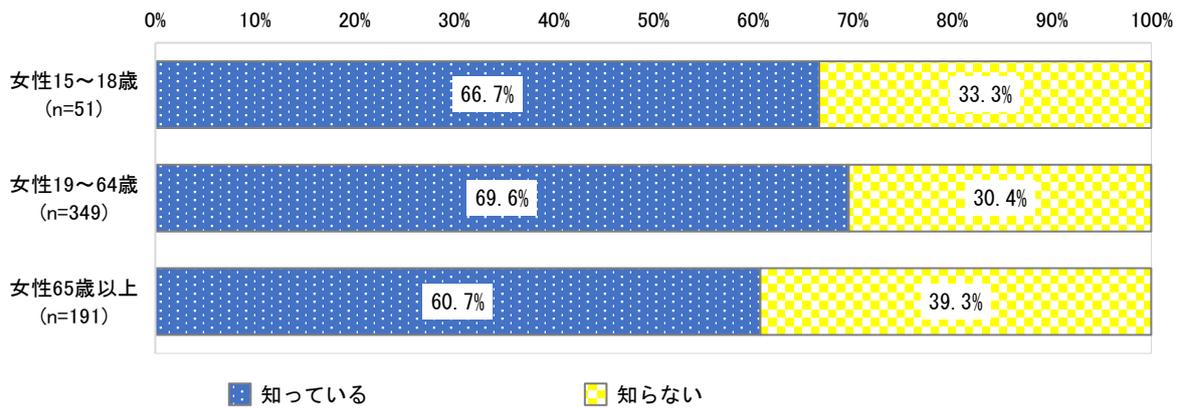
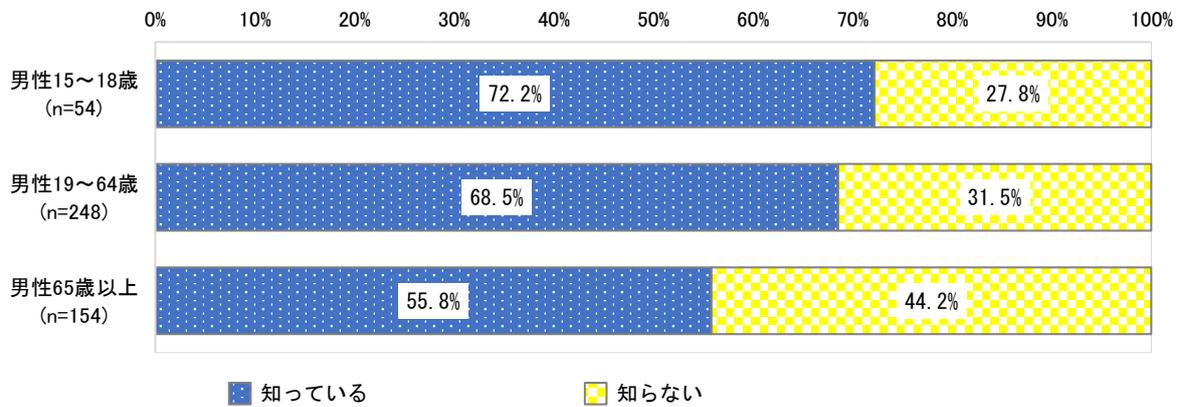
性別で見ると、「知っている」人は、男性が65.0%、女性が66.4%で大きな差はみられない。

年齢区分別で見ると、「知っている」人は、15～18歳が69.5%、19～64歳が69.2%と約7割。

最も低いのは、65歳以上の58.1%。



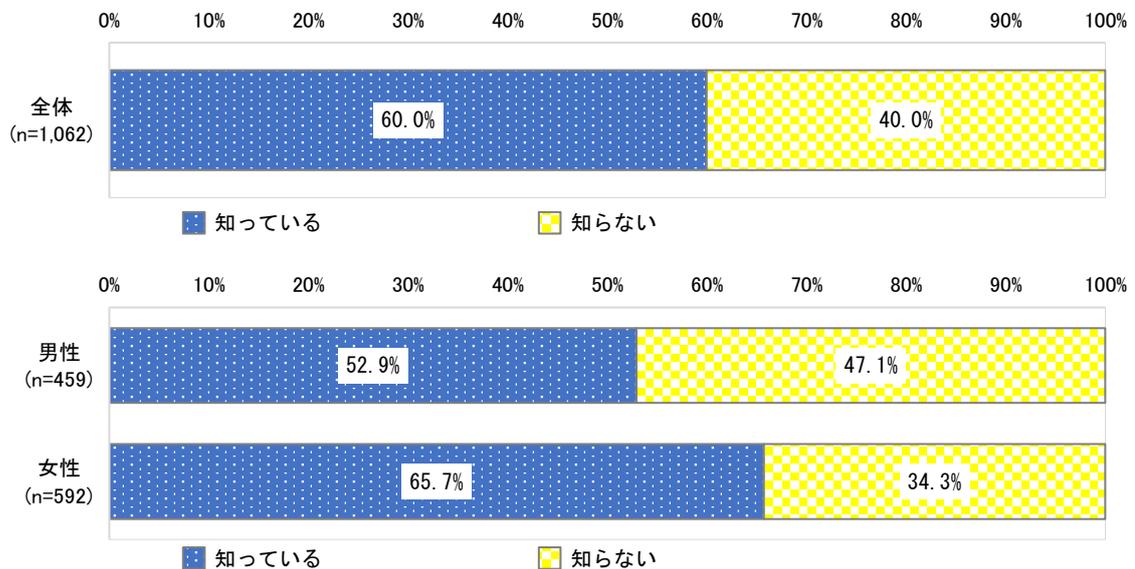
性別・年齢区分別でみると、喫煙が歯周病を進行させる要因であることについて、「知っている」人は、65歳以上の男性が5割、女性が6割であるものの、15～18歳、19～64歳は7割前後と高い。



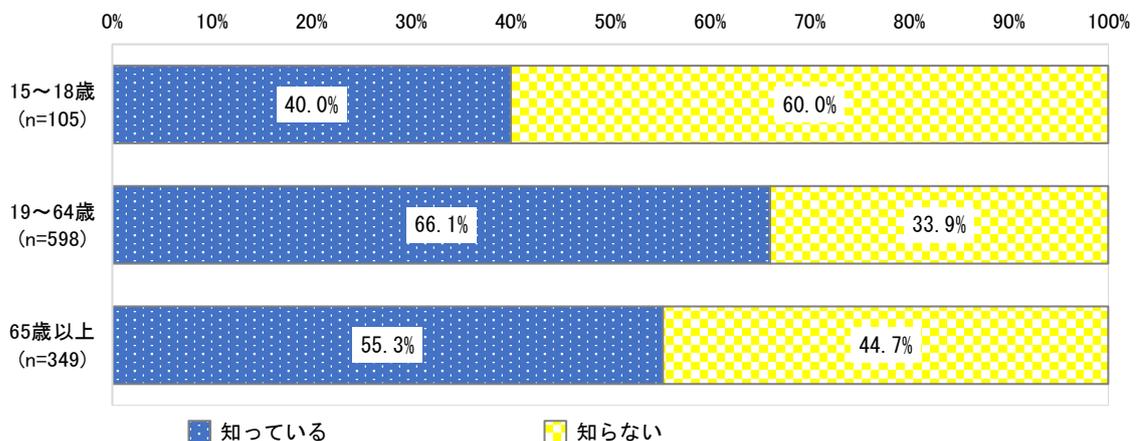
## ■歯周病が全身疾患との関連があることの認知度 〈15歳以上〉

歯周病が全身疾患との関連があることについて、「知っている」人は60.0%。

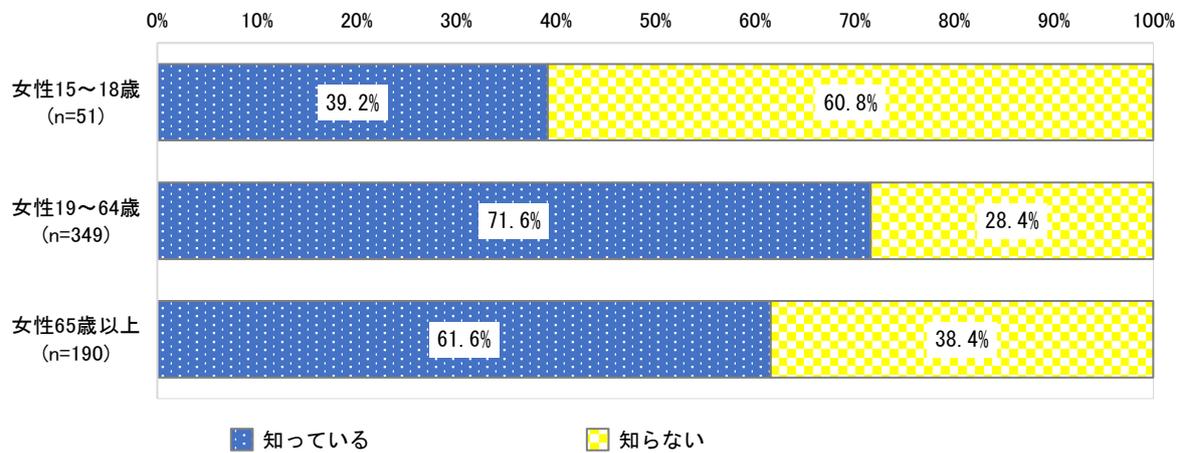
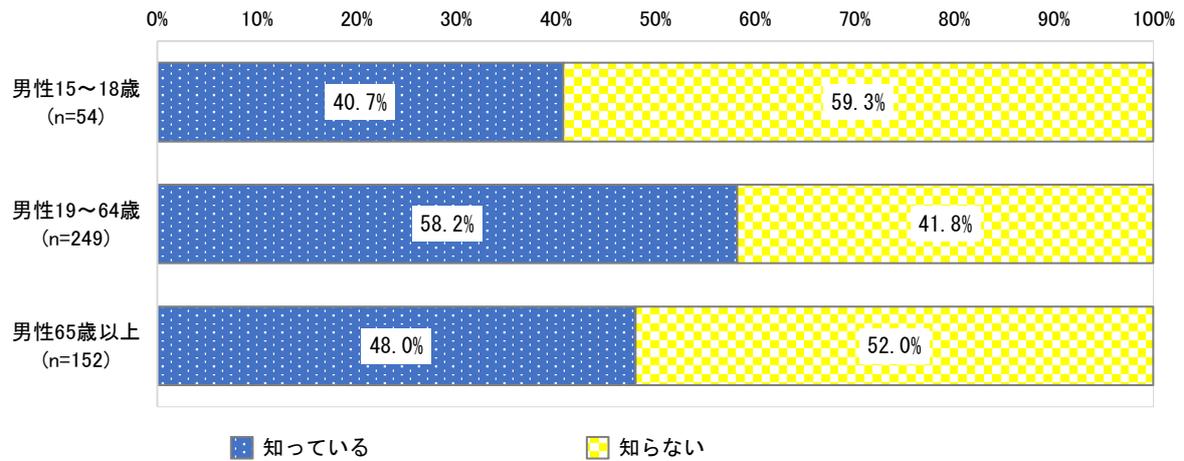
性別で見ると、「知っている」人は、男性が52.9%、女性が65.7%で女性が12.8ポイント上回る。



年齢区分別で見ると、「知っている」人は、19～64歳は66.1%で6割を超えるものの、15～18歳は40.0%で半数を下回る。



性別・年齢区分別でみると、歯周病が全身疾患との関連があることについて、「知っている」人は、女性の19～64歳が71.6%で最も高い。一方、男女ともに15～18歳は4割前後と低い。



## 6 80歳で20歯以上の自分の歯を有する者（8020達成）の増加

80歳で20歯以上の歯を有する人の割合は、62.0%となり、前回調査と比較して、7.5ポイント増加し、目標も2ポイント上回る。

項目	(H23年・基準)	(H27年・参考値)	(H30年・参考値)	(H34年・目標)
○80歳で20歯以上の自分の歯を有する者（8020達成）の増加	38.3%	54.5%	62.0%	60%

※75歳～84歳の回答者で、歯の本数を20本以上と回答した人の割合  
(国の調査対象年齢75～84歳)

### <調査結果>

■現在の歯の本数（15歳以上）（221ページを参照）



## Ⅷ 「健康づくり」に関するご意見など



「健康づくり」や「食の安全安心・食育」に関するご意見をうかがったところ、289件の意見があった。(複数回答)

最も多かったのが「情報発信・啓発に関すること」で58件あり、「健康や食に関するわかりやすい情報の発信」や「親子や幼児向け、学校・職場等でのイベント等の開催」を求める意見が多く見られた。

次に多いのは「がん検診・健康診断等に関わること」が47件で、「がん検診の対象年齢を引き下げ若者が受信できるようにしてほしい」や「がん検診についてや、がんにならないための情報を発信してほしい」という意見がみられる。

「食の安全安心に関すること」についても37件の意見があり「食は「安全・安心」とは言い切れない、信じられず不安を感じている」や「中国産・韓国産の食品に不安がある、信用できない」など食の不安を感じているとの思いが見られる。

また、「健康づくりに関すること」が26件、「食育に関すること」が21件と続いている。

主な内容は以下の通りである。

<b>■情報発信・啓発に関すること</b>	<b>58件</b>
健康や食に関するわかりやすい情報をもっと発信してほしい	28件
親子や幼児向け、公民館や学校・職場等でのイベントや体験講座、講習会などを催してほしい	14件
情報提供は紙媒体の方が目を通すように思う	2件
バランスの取れた食事や郷土料理等のレシピを教えてほしい	1件
男性の食事作りを啓発してほしい	1件
情報発信・啓発についてのその他のご意見	12件
<b>■がん検診・健康診断等に関すること</b>	<b>47件</b>
がん検診の対象年齢を引き下げ、若者が受診できるようにしてほしい	19件
がん検診についてや、がんにならないための情報を発信してほしい	9件
がん検診・健康診断等を無料・安価にほしい	5件
忙しい等で検診に行けないため、きっかけや気軽に行ける場をつくってほしい	4件
がん検診でも胃カメラ、内視鏡検査、血液検査(腫瘍マーカー)を行ってほしい	2件
がん検診・健康診断は一度に済むように工夫してほしい	1件
がん検診・健康診断等についてその他のご意見	7件
<b>■食の安全安心に関すること</b>	<b>37件</b>
食は「安全・安心」とは言い切れない、信じられず不安を感じている	6件
食の安全性を確立する体制・システムを強化してほしい	5件
中国産・韓国産の食品に不安がある、信用できない	5件
安全な食品を安心して購入できる場所が増えてほしい	3件
食の安全性に対して気を使っているが、一般の方と温度差を感じる	3件
食品の産地表示、原材料の生産地表示を徹底してほしい	2件
食の安全安心についてその他のご意見	13件

<b>■健康づくりに関すること</b>	26件
継続して運動に取り組みたい、取り組むことが大切	9件
気軽に参加できる運動イベントや、近くの公民館などで利用できる運動施設・講座があるといい	8件
健康づくりは一人ひとりの心がけのため、その心がけが高まる方法を熊本市には考えてほしい	2件
「健康寿命」をしっかり伸ばしていく取り組みが重要	1件
健康のために食事と運動が大切だと思うが、なかなか実践できない	1件
無料、負担額が少ない公民館等の施設が近くにほしい	1件
老後が不安、高齢の一人暮らしのため、孤独死が不安等	1件
健康づくりについてその他のご意見	3件
<b>■食育に関すること</b>	21件
保育園・幼稚園・小・中学校等で体験学習等による食育に取り組んでほしい	7件
子どもが食育に関心を持ち、知識を得るように教育したい	3件
子ども達のために学校・家庭・母親にしっかりと食育を指導してほしい	3件
熊本の食べ物はおいしい、新鮮だ	1件
食育についてその他のご意見	7件
<b>■喫煙に関すること</b>	8件
学校・公共施設などや街中は全て禁煙にすべき	4件
行政機関、スーパー、コンビニの入口前にある灰皿の場所を変えるよう指導してほしい、街中の喫煙所は人通りの少ない場所にしてほしい	2件
喫煙についてその他のご意見	2件
<b>■医療費・保険料に関すること</b>	6件
医療費・保険料についてその他のご意見	6件
<b>■健康づくり・食の安全安心・食育に関すること</b>	6件
健康づくり、食の安全安心、食育について自分なりに気をつけている、気をつけたい	3件
健康づくり・食の安全安心・食育についてその他のご意見	3件
<b>■健康づくり・食育に関すること</b>	5件
食生活と病気は関わり深いので気をつけたい	3件
健康づくり・食育は自分自身の心がけが大切だ	2件
<b>■学校給食に関すること</b>	5件
学校給食の量が少ない、口に入るときのバランスへの取り組みこそが大切ではないか	1件
学校給食についてその他のご意見	4件

<b>■食品の購入先に関すること</b>	5件
食品の購入先についてその他のご意見	3件
熊本産の野菜を、道の駅だけでなくスーパーでも買えるようにしてほしい	2件
<b>■歯科保健に関すること</b>	4件
子どもの歯の予防に力を入れてほしい、小児の歯科医院の情報が少ない	1件
歯科保健についてその他のご意見	3件
<b>■アンケートに関すること</b>	22件
アンケートによって意識が変わった、勉強になった等のご意見	1件
アンケートが長すぎる、負担等のご意見	2件
アンケートについての改善点等のご意見	15件
アンケートについてその他のご意見	4件
<b>■その他</b>	39件
健康づくり・食の安全安心・食育の取り組みを応援している、頑張ってください	10件
その他のご意見	29件

※複数回答



## IX 調査票



【対象者が 14 歳以下の方】

## 熊本市健康づくりに関する市民アンケート

### <アンケート回答のお願い>

皆様には、日頃から市政にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

さて、熊本市では、「全ての市民が生涯を通して、住み慣れた地域で健康でいきいきと暮らせるまちを市民と協働でつくる」という考えに基づき健康づくりの取り組みを計画的に実施しています。

このたび、取り組みの評価および新たな計画策定のため、アンケートを実施することになりました。いただいた回答を参考にしながら各機関との情報共有や連携により市民の健康づくりを進めてまいります。

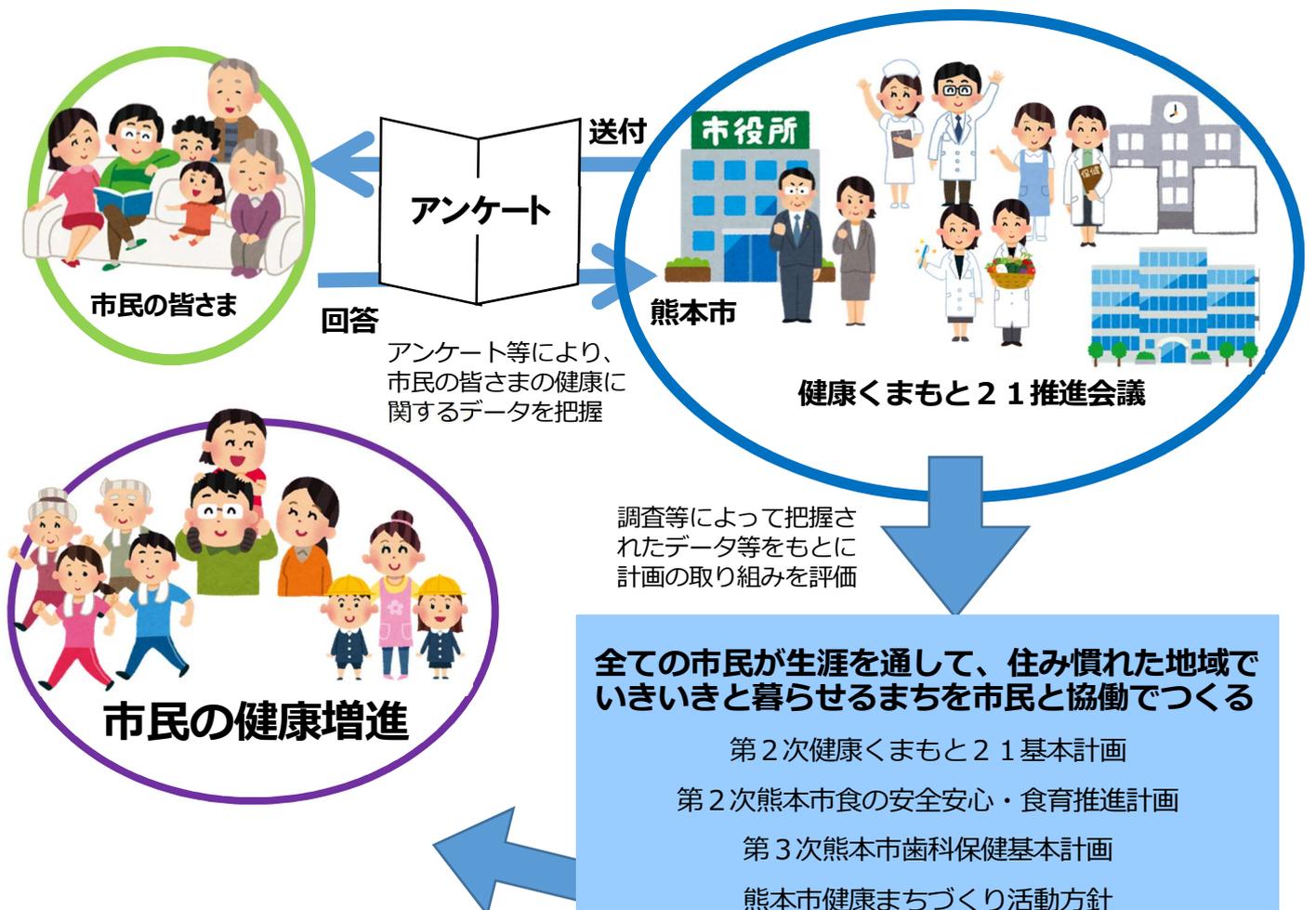
また、このアンケートは無記名でご回答いただき、結果は統計的に処理するため、回答者個人が特定されたり個々の回答内容がほかに漏れたり、他の目的に利用されることは一切ございません。

ご多忙中とは存じますが、何卒、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成30年5月

熊本市

いただいた回答は市民の健康づくりの取り組みに生かされます



### <ご記入にあたっての注意>

1. 質問は、**保護者の方が封筒の宛名のお子さんについて**ご記入ください。
2. 質問に対する回答については、次の2種類があります。
  - ・【〇はいくつでも】…選択肢の中から該当するものをすべてお選びください。
  - ・【〇は1つ】…選択肢の中から該当するものを1つだけお選びください。
3. 黒の鉛筆またはボールペンなどではっきりと記入してください。
4. 調査票、返信用封筒には、住所、氏名を記入する必要はありません。
5. 記入した調査票は、**平成30年6月4日（月）**までに同封の返信用封筒に入れ、ポストに入れてください（※切手は不要です）。
6. このアンケートに関するお問い合わせは、下記までお願いします。

【お問い合わせ】 熊本市役所 健康福祉局 健康づくり推進課

電 話：096-361-2145・FAX：096-366-1173

Eメール：kenkouzukuri@city.kumamoto.lg.jp

### ●封筒の宛名のお子さんについておたずねします。

・性別（男・女）

・年齢(平成30年4月1日現在) ( ) 歳

・お住まいの小学校校区 ( ) 校区

校区がわからない方はお住まいの町名 ( ) 区 ( ) 町

例えば「東区健軍1丁目」「中央区手取本町」

問1 お子さんの世帯構成は次のどれですか。【〇は1つ】

1. 単身世帯（1人暮らし）
2. 一世代世帯（夫婦のみの世帯または兄弟姉妹のみの世帯）
3. 二世帯世帯（親子で暮らしている世帯）
4. 三世帯世帯（親、子、孫と暮らしている世帯）
5. その他 ( )

ここからは1歳以上のお子さんについておたずねします。  
1歳未満のお子さんの保護者の方は **問12へ** お進みください。

問2 お子さんが、朝食を家族と一緒に食べることはどのくらいありますか。【○は1つ】

1. ほとんど毎日食べる
2. 週に4～5日食べる
3. 週に2～3日食べる
4. 週に1日程度食べる
5. ほとんど食べない

問3 お子さんが、夕食を家族と一緒に食べることはどのくらいありますか。【○は1つ】

1. ほとんど毎日食べる
2. 週に4～5日食べる
3. 週に2～3日食べる
4. 週に1日程度食べる
5. ほとんど食べない

問4 お子さんは、ふだん朝食を食べますか。【○は1つ】

1. ほとんど毎日食べる \_\_\_\_\_ **問5へ**
2. 週に4～5日食べる \_\_\_\_\_
3. 週に2～3日食べる \_\_\_\_\_ **問4-2へ**
4. ほとんど食べない \_\_\_\_\_

問4-2 **※問4で「2」～「4」と回答した方におたずねします。**

朝食を食べない最も大きな理由は何ですか。【○は1つ】

1. 時間がない
2. 食欲がない
3. 朝食を食べるより寝ていたい
4. 減量（ダイエット）のため
5. 朝食が用意されていない
6. 以前から食べる習慣がない
7. 食べたり準備することが面倒である
8. その他 ( )

問5 お子さんは普段、どんな朝食を食べることが多いですか。【〇は1つ】

1. 一品 (ごはん・パンのみ)
2. 二品 (ごはん・パン+おかずなど一品)
3. 三品 (ごはん・パン+おかずなど二品) 以上
4. おかずのみ
5. 飲み物・果物のみ
6. 菓子
7. その他 ( )
8. 食べない

問6 お子さんは次の項目に関する活動（学校の授業や保育所・幼稚園での行事、地域で開催される講演会、イベント、体験活動、自主グループなどの活動）に参加したことがありますか。【それぞれ〇は1つ】

	週に1回程度	月に1〜2回程度	年に数回程度	参加したいと思う	参加したことはないが	参加したことはなく 関心もない
(1) 親子料理教室など、食生活改善や健康づくりに関するもの	1	2	3	4	5	
(2) 田植えや芋ほりといった栽培・収穫体験など、農林漁業やその産物に関するもの	1	2	3	4	5	
(3) ごみ減量やリサイクルなど、環境保全に関するもの	1	2	3	4	5	
(4) 食中毒予防講座など、食品の安全性や食品衛生に関するもの	1	2	3	4	5	

問7 お子さんは、農林漁業体験（みかん狩り・芋ほり・潮干狩り・魚釣り・植樹体験・山菜採取など）を、今まで体験したことがありますか。【〇は1つ】

1. 体験したことがある                      2. 体験したことがない

問8 お子さんは、定期的に歯科健診を受けていますか。【〇は1つ】

1. 3～4ヶ月に1回受けている              2. 半年に1回受けている  
3. 1年に1回受けている                      4. 受けていない

問9 お子さんは、かかりつけ歯科医をもっていますか。【〇は1つ】

※痛くなったら治療に行く歯科医は「行きつけの歯科医」。それに対し、治療だけでなくお口の健康を維持するために行く歯科医を「かかりつけ歯科医」といいます。

1. もっている                                  2. もっていない

問10 お子さんは、むし歯や歯周病で歯を失ったことはありますか。【〇は1つ】

1. ない    2. ある

---

**問1 1は6歳以上のお子さんについておたずねします。**  
**5歳以下のお子さんの保護者の方は 問1 2へ お進みください。**

---

問11 食育とは、さまざまな経験を通して「食」に関する知識と「食」を選択する力を身に付け、健全な食生活を実践できる力を育てることです。お子さんは「食育」に関心がありますか。【〇は1つ】

1. 関心がある                                      2. どちらかといえば関心がある  
3. どちらかといえば関心がない              4. 関心がない  
5. わからない

**●ご記入いただいている保護者の方についておたずねします。**

問 12 あなたの性別や年齢をお聞かせください。

- ・性別 ( 男 ・ 女 )
- ・年齢(平成30年4月1日現在) ( ) 歳

問 13 あなたは食事の時間が楽しいですか。【○は1つ】

- 1. とても楽しい
- 2. 楽しい
- 3. どちらでもない
- 4. あまり楽しくない
- 5. 楽しくない

問 14 あなたは、野菜料理を小鉢 1 皿 (70g) と考えて、1 日にどのくらい食べますか。【○は 1 つ】

- 1. 1 日に 1～2 皿
- 2. 1 日に 3～4 皿
- 3. 1 日に 5 皿以上
- 4. 1 日に 1 皿も食べない

問 15 あなたは自分の適正体重 (BMI) を知っていますか。【○は 1 つ】

※BMI (体重kg÷身長m÷身長m) とは国際的に広く用いられている体格指数による肥満度の計算法です。18.5 以上 25 未満が標準といわれています。

- 1. 知っている
- 2. 知らない

問 16 あなたは、下のコマ型の「食事バランスガイド」を見たことがありますか。

【○は 1 つ】

- 1. ある ——— 問 16-2 へ
- 2. ない ——— 問 17 へ



「食事バランスガイド」とは、1 日に「何を」「どれだけ」食べたらよいかを考える際の参考にさせていただけるよう、食事の望ましい組み合わせとおおよその量をイラストでわかりやすくしめたものです。5 つの料理グループ (主食、副菜、主菜、牛乳・乳製品、果物) からできていて、どれかが足りないとコマが倒れてしまいます。見た目の量と主に使われている食材から判断します。

問 16-2 ※問 18 で「1. ある」と回答した方におたずねします。あなたは、「食事バランスガイド」の使い方を知っていますか。【○は1つ】

- 1. 知っている
- 2. 知らない

問 17 あなたは飲食店、レストラン、食品売り場および職場（学校）の給食施設・食堂などで食品や料理の栄養成分が表示してあるのを見たことがありますか。【○は1つ】

- 1. ある  問 17-2 へ
- 2. ない
- 3. わからない  問 18 へ

【例示】

栄養成分表示 (1 枚当たり)	
エネルギー	25kcal
たんぱく質	0.3g
脂質	1.1g
炭水化物	3.5g
食塩相当量	0.04g

問 17-2 ※問 17 で「1. ある」と回答した方におたずねします。その場合、栄養成分を参考にしてメニューを選びますか。【○は1つ】

- 1. いつも参考にしている
- 2. 時々参考にしている
- 3. ほとんど参考にしていない

問 18 あなたは、食品の安全性が高まっていると感じていますか。【○は1つ】

- 1. 大いに感じている
- 2. 多少感じている
- 3. どちらともいえない
- 4. あまり感じていない
- 5. 全く感じていない



問 22-2 ※問 22 で「1. 毎回確認している」「2. 時々確認している」と回答した方にお  
たずねします。 何を確認していますか。【〇はいくつでも】

- |               |                |
|---------------|----------------|
| 1. 消費または賞味期限  | 2. 保存方法        |
| 3. 原材料の種類     | 4. 原産地・原産国     |
| 5. 食品添加物      | 6. 遺伝子組換え食品の有無 |
| 7. アレルギー物質の有無 | 8. 製造者・販売者     |
| 9. 栄養成分       |                |
| 10. その他 ( )   |                |

【表示例】 原産地表示 遺伝子組換え表示 アレルギー表示

名称	豆菓子
原材料名	落花生(国産)、きなこ(遺伝子組換え)、米粉、 でん粉、植物油、しょうゆ(小麦を含む)、 食塩、砂糖、香辛料
添加物	調味料(アミノ酸等)、着色料(カラメル、 紅麹、カロチノイド)
内容量	100 g
賞味期限	2020. 7. 1
保存方法	直射日光を避け、常温で保存してください。
製造者	〇〇食品株式会社 〇〇県〇〇町 1-2

栄養成分表示 (1 枚当たり)	
エネルギー	25kcal
たんぱく質	0.3g
脂質	1.1g
炭水化物	3.5g
食塩相当量	0.04g

問 23 あなたは、栄養や食事・食品に関する正しい知識や情報を得ようと努めていますか。  
【〇は1つ】

- |                    |                   |
|--------------------|-------------------|
| 1. 努力している          | 2. どちらかといえば努力している |
| 3. どちらかといえば努力していない | 4. 努力していない        |

問 24 あなたは、熊本の農林漁業の生産者が生産物の安全・安心のために行っている  
工夫や取り組みなどを、もっと知りたいと思いますか。【〇は1つ】

- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| 1. 知りたい         | 2. どちらかといえば知りたい |
| 3. あまり知りたいと思わない | 4. 知りたいと思わない    |

問 25 あなたは、HACCP (ハサップ) について知っていますか。【〇は1つ】

- |                                       |
|---------------------------------------|
| 1. HACCPは安全な食品を作るための衛生管理の方法のことだと知っている |
| 2. 言葉は知っているが意味は知らない                   |
| 3. 言葉も意味も知らない                         |

問 26 あなたは、食生活や食品に関してどのような情報が欲しいですか。

【〇はいくつでも】

1. 食事の量や組み合わせなど栄養バランス
2. 食品に含まれる栄養素やその働き
3. 食事に関する作法やしつけ（マナー）
4. 調理方法（レシピ）
5. 食生活の乱れからくる影響について
6. 農業や漁業などを体験する方法
7. 農畜水産物に関する生産履歴などの情報
8. 食品の安全性や健康被害などの情報
9. 食品の試験検査や監視指導の結果
10. 食品表示の見方やその内容
11. 食に関わるイベント情報
12. 健康づくりができます店の情報
13. その他（   ）

【参考】健康づくりができます店とは？



問 27 あなたは、熊本市のホームページに「くまもとの食（安全安心のひろば・食育のひろば）」があることを知っていますか？【〇は1つ】

【参考】ホームページが開きます。

1. 知っているし、見たことがある
2. 知っているが、見たことはない
3. 知らない



問 28 あなたは、熊本市が食品の安全確保のため検査を実施していることを知っていますか？【〇は1つ】

1. 知っている
2. 知らない

問 29 あなたは、農産物を購入する際、主にどのような点を重要視して購入していますか。  
【○はいくつでも】

1. 価格
2. 鮮度
3. 品質
4. 産地
5. 栽培方法（有機栽培、減農薬など）
6. その他（ )

問 30 あなたは、地産地消の推進のため、すすんで地元産（熊本市産や熊本県産）の農産物や水産物を購入していますか。【○は1つ】

- |              |             |
|--------------|-------------|
| 1. いつもしている   | 2. 時々している   |
| 3. どちらともいえない | 4. あまりしていない |
| 5. していない     |             |

問 31 あなたは、熊本市の良質な地下水が、地元の食材や料理の「おいしさ」の基になっていると思っていますか。【○は1つ】

- |       |         |          |
|-------|---------|----------|
| 1. 思う | 2. 思わない | 3. わからない |
|-------|---------|----------|

問 32 あなたは、熊本の郷土料理や伝統料理、食文化などについて、子どもや孫たちに伝えたいと思いますか。【○は1つ】

- |              |               |
|--------------|---------------|
| 1. いつも心がけている | 2. 時々心がけている   |
| 3. どちらともいえない | 4. あまり心がけていない |
| 5. 心がけていない   |               |

問 33 あなたは、家庭での食事に郷土料理（だご汁、いきなりだんごなど）や行事食（おせち料理、お雑煮、七草がゆなど）を取り入れていますか。【○は1つ】

1. よく取り入れている
2. 時々取り入れている
3. どちらともいえない
4. あまり取り入っていない
5. 全く取り入っていない

問 34 あなたは、食生活面で「くまもとらしさ」を感じることはありますか。

【○は1つ】

1. ある \_\_\_\_\_ 問 34-2 へ
2. ない \_\_\_\_\_
3. わからない \_\_\_\_\_ 問 35 へ

問 34-2 ※問 34 で「1. ある」と回答した方におたずねします。  
それはどんなことですか。【○はいくつでも】

1. 水がおいしいこと
2. お茶やコーヒーがおいしいこと
3. お酒（含：赤酒）がおいしいこと
4. しょうゆが甘いこと
5. 果物や野菜、米など農産物がおいしいこと
6. のりや魚介類など水産物がおいしいこと
7. 酪農製品や肉など畜産物がおいしいこと
8. 食材そのものを活かした素朴な料理が多いこと
9. 田畑や漁場などの生産風景や豊かな自然が間近に見られること
10. 生産地と消費地が近く、農業者や漁業者との交流がしやすい環境にあること
11. 水前寺もやしを雑煮に入れるなど、自然や歴史に育まれた食文化や食生活があること
12. その他 ( \_\_\_\_\_ )

問 35 あなたは、食品を購入したり食事を作る際に、ごみを少なくするために「買いすぎない」「作りすぎない」「食べ残さない」をしないように心がけていますか。

【○は1つ】

1. いつも心がけている
2. 時々心がけている
3. どちらともいえない
4. あまり心がけていない
5. 心がけていない

問 36 あなたは、家庭で出る生ごみについて、処理機を用いてたい肥を作るなどリサイクルに関する取り組みを行っていますか。【○は1つ】

1. いつも行っている
2. 時々行っている
3. あまり行っていない
4. 興味はあるが、行っていない
5. 興味もなく、行っていない

問 37 あなたは、「熊本市」が情報を発信する手段として、効率的だと思うものはつぎのどれですか。【○はいくつでも】

- |             |                                |
|-------------|--------------------------------|
| 1. 市政だより    | 2. 市役所や区役所の窓口                  |
| 3. 市のホームページ | 4. 新聞                          |
| 5. ラジオ      | 6. テレビ                         |
| 7. 情報誌      | 8. SNS (LINE、Facebook、mixi など) |
| 9. その他 ( )  |                                |

問 38 あなたは、ふだん朝食を食べますか。【○は1つ】

1. ほとんど毎日食べる
2. 週に4～5日食べる
3. 週に2～3日食べる
4. ほとんど食べない

問 39 主食（ごはん、パン、麺など）、主菜（肉・魚・卵・大豆製品などを使ったメインの料理）、副菜（野菜・きのこ・いも・海藻などを使った小鉢・小皿の料理）を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べていますか。（中食、外食も含む）  
【〇は1つ】

1. 食べている  
2. 食べていない

問 40 あなたは、食の安全性確保のために意識して実践していることがありますか。  
【〇は1つ】

1. ある ————— [問40-2へ](#)  
2. ない ————— [問41へ](#)

問 40-2 ※問40で「1. ある」と回答した方におたずねします。  
それはどんなことですか。【〇はいくつでも】

1. 食材の購入時には、鮮度や期限をよく確認し、新鮮なものを購入している
2. なるべく生産者のわかる野菜を購入している
3. 調理前には必ず石鹸で手洗いをしている
4. 食事前には必ず石鹸で手洗いをしている
5. トイレ後には必ず石鹸で手洗いをしている
6. まな板や包丁を食材に応じて（肉用、野菜用など）使い分けている
7. キッチンを清潔に保ち、器具の消毒をしている
8. 肉は O157 やカンピロバクター食中毒の恐れがあるので、十分に加熱して食べている
9. 焼肉では、生肉に触れる箸と食べる箸は別になっている
10. 肉、魚、牛乳などは買ってきたらすぐ冷蔵庫へ入れている
11. その他（）

問 41 過去1年間（乳がん・子宮頸がんは過去2年間）に受診したがん検診はどれですか。  
【〇はいくつでも】

- |            |       |                        |
|------------|-------|------------------------|
| 1. 肺がん検診   | ————— |                        |
| 2. 胃がん検診   | ————— |                        |
| 3. 大腸がん検診  | ————— | <a href="#">問41-2へ</a> |
| 4. 乳がん検診   | ————— |                        |
| 5. 子宮頸がん検診 | ————— |                        |
| 6. 受診していない | ————— | <a href="#">問41-3へ</a> |

問 41-2 **※問 41 で「1」～「5」と回答した方におたずねします。**

どこで受診しましたか。【○はいくつでも】

	市が行うがん検診※	職場検診（医療機関・人間ドックに委託されたものや家族検診を含む）	農協や商工会議所が実施する検診	人間ドック（個人で受診したもの）	医療機関（個人で受診したもの）	その他（具体的に）
1. 肺がん検診	1	2	3	4	5	6 ( )
2. 胃がん検診	1	2	3	4	5	6 ( )
3. 大腸がん検診	1	2	3	4	5	6 ( )
4. 乳がん検診	1	2	3	4	5	6 ( )
5. 子宮頸がん検診	1	2	3	4	5	6 ( )

※市が行うがん検診は、最終ページの「熊本市のがん検診について」を参照ください。

問 41-3 **※問 41 で「6. 受診していない」と回答した方におたずねします。**

受診しなかった理由はなんですか。【○はいくつでも】

1. 検診を知らなかったから
2. 時間が取れなかったから
3. 費用がかかるから
4. めんどうだから
5. 検査等に不安がある（検査が痛い、怖い）から
6. 健康状態に自信があり必要性を感じないから
7. 心配なときはいつでも医療機関を受診できるから
8. 対象年齢※ではないから
9. その他 ( )

※がん検診の対象者は最終ページの「熊本市のがん検診について」を参照ください。

問 42 熊本市のがん検診は、一定の検診料を公費で負担し、市民の皆様が安価※で受診できるようにしていますが、あなたは熊本市のがん検診の自己負担割合はどのくらいが適当だと思いますか。【○は1つ】

※自己負担は概ね検診費用の2割程度です。がん検診の負担金は最終ページ「熊本市のがん検診について」を参照ください。

1. 無料
2. 検診費用の1割程度
3. 検診費用の2割程度
4. 検診費用の3割程度
5. その他 ( )

問 43 CKD（慢性腎臓病）という言葉を知っていますか。【○は1つ】

1. 知っている
2. 聞いたことがある
3. 知らない

問 44 あなたはロコモティブシンドローム（運動器症候群）という言葉やその意味を知っていますか。【○は1つ】

1. 言葉も意味もよく知っている
2. 言葉も知っていたし、意味も大体知っている
3. 言葉は知っていたが、意味はあまり知らない
4. 言葉は聞いたことがあるが、意味は知らない
5. 言葉も意味も知らない

問 45 COPD（慢性閉塞性肺疾患）とは主として長期の喫煙によってもたらされる肺の炎症性疾患です。主に咳・痰・息切れなどの症状があり、緩やかに呼吸障害が進行するかつて「肺気腫」「慢性気管支炎」と称された疾患です。あなたはこの病気を知っていますか。【○は1つ】

1. どんな病気なのかよく知っている
2. 名前は聞いたことがある
3. 知らない（今回の調査で初めてきいた場合を含む）

問 46 あなたは、この1ヶ月間に、自分以外の人が吸っていたたばこの煙を吸う機会（受動喫煙）がありましたか。【○はいくつでも】

	ほぼ毎日	週に数回程度	週に1回程度	月に1回程度	全くなかった	行かなかった
1. 行政機関（市役所、区役所、公民館など）	1	2	3	4	5	6
2. 医療機関	1	2	3	4	5	6
3. 職場	1	2	3	4	5	6
4. 家庭	1	2	3	4	5	
5. 飲食店	1	2	3	4	5	6

問 47 あなたはタバコを吸いますか。※「5. 吸っている・・・1日およそ21本以上」と回答した方は、具体的に何本吸っているか数値をご記入ください。【○は1つ】

1. 吸わない	_____	問 48 へ
2. 以前は吸っていたが、今はやめている	_____	
3. 吸っている・・・1日およそ10本以下	_____	問 47-2 へ
4. 吸っている・・・1日およそ11本～20本程度	_____	
5. 吸っている・・・1日およそ21本以上	→ (        ) 本	

問 47-2 ※問 47 で「3」～「5」と回答した方におたずねします。  
禁煙に取り組もうと思いませんか。【○は1つ】

1. 取り組もうと思わない
2. 禁煙に関心はあるが、今すぐ取り組もうとは思わない
3. 禁煙に関心があり、今すぐ取り組みたいと思う

問 48 あなたの歯は、現在何本ありますか。【(親知らずを含む) 総数は32本です】

	本です。
--	------

問 49 あなたは、食べ物をよく噛み砕くことができますか。【○は1つ】

1. できている
2. できていない

問 50 喫煙は、歯周病を進行させる要因であることを知っていますか。【○は1つ】

1. 知っている
2. 知らない

問 51 あなたは、歯周病が糖尿病や心疾患、胎児の早産などの全身疾患と関連があることを知っていますか。【○は1つ】

1. 知っている
2. 知らない

問 52 健康寿命とは「日常的に介護を必要としないで、自立した生活ができる生存期間」のことです。あなたはこの「健康寿命」という言葉を知っていましたか。【○は1つ】

1. 言葉も意味も知っていた
2. 言葉は知っていたが、意味は知らなかった
3. 言葉も意味も知らなかった（今回の調査で初めて聞いた場合を含む）

問 53 あなたは「健康まちづくり」という言葉やその意味を知っていましたか。

【○は1つ】

1. 言葉も意味も知っていた
2. 言葉は知っていたが、意味は知らなかった
3. 言葉も意味も知らなかった（今回の調査で初めて聞いた場合を含む）

問 54 あなたは「特定健診」や「がん検診」等に行く前に、近所の人や友人を誘いますか。【○は1つ】

1. 誘う
2. 誘わない

問 55 あなたは現在住んでいる地域にどの程度愛着がありますか【○は1つ】

1. とても愛着がある    2. まあ愛着がある    3. どちらともいえない  
 4. あまり愛着がない    5. 全く愛着がない

問 56 『健康づくり』や『食の安全安心・食育』に関するご意見などありましたら何でも結構です。ご自由にお書きください。

以上です。ご協力ありがとうございました。

## ■熊本市のがん検診について

熊本市の死因の第1位は「がん」です。3人に1人は「がん」で亡くなっています。がんによる死亡を減少させるには、早期発見・早期治療が大切です。本市では積極的にがん検診の受診をすすめています。

(平成30年度)

検診名	対象者	検診内容	検診場所	個人の負担金
肺がん検診	年度内に40歳以上になる方	問診・胸部エックス線検査	巡回検診車 セット検診実施医療機関	40～64歳の方    300円
	肺がん検診の問診により必要と認められた方	喀痰細胞診		65歳以上の方    200円
胃がん検診	年度内に40歳以上になる方	問診・胃部エックス線検査	巡回検診車 セット検診実施医療機関	500円
大腸がん検診	年度内に40歳以上になる方	問診・便潜血検査	実施医療機関	個別検診    500円
			巡回検診車	集団検診    300円
子宮がん検診	20歳以上で、年度内に偶数年齢になる女性	問診・視診・内診・細胞診	実施医療機関 検診車での検診	個別検診    1,200円
				集団検診    1,000円
乳がん検診	40歳以上で、年度内に偶数年齢になる女性	問診・視触診・乳房エックス線検査（マンモグラフィ）	実施医療機関 検診車での検診	40歳代の方    1,500円
				50歳以上の方    1,100円

【対象者が 15 歳～64 歳以下の方】

# 熊本市健康づくりに関する市民アンケート

## <アンケート回答のお願い>

皆様には、日頃から市政にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

さて、熊本市では、「全ての市民が生涯を通して、住み慣れた地域で健康でいきいきと暮らせるまちを市民と協働でつくる」という考えに基づき健康づくりの取り組みを計画的に実施しています。

このたび、取り組みの評価および新たな計画策定のため、アンケートを実施することになりました。いただいた回答を参考にしながら各機関との情報共有や連携により市民の健康づくりを進めてまいります。

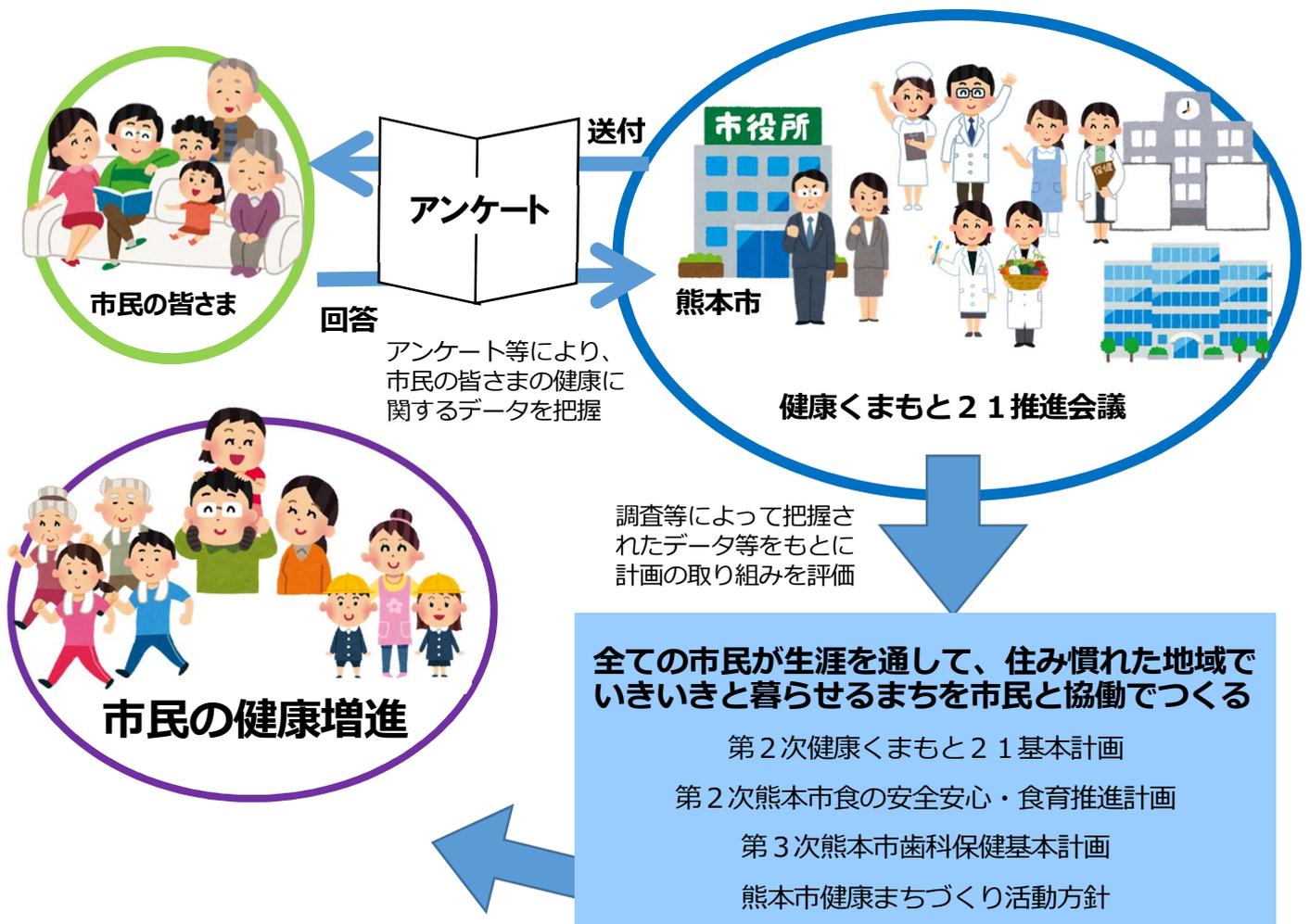
また、このアンケートは無記名でご回答いただき、結果は統計的に処理するため、回答者個人が特定されたり個々の回答内容がほかに漏れたり、他の目的に利用されることは一切ございません。

ご多忙中とは存じますが、何卒、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成30年5月

熊本市

いただいた回答は市民の健康づくりの取り組みに活かされます



## <ご記入にあたっての注意>

1. 質問は、**封筒の宛名の方**のご意見でご記入ください。
2. 質問に対する回答については、次の2種類があります。
  - ・【〇はいくつでも】…選択肢の中から該当するものをすべてお選びください。
  - ・【〇は1つ】…選択肢の中から該当するものを1つだけお選びください。
3. 黒の鉛筆またはボールペンなどではっきりと記入してください。
4. 調査票、返信用封筒には、住所、氏名を記入する必要はありません。
5. 記入した調査票は、**平成30年6月4日（月）**までに  
同封の返信用封筒に入れ、ポストに入れてください（※切手は不要です）。
6. このアンケートに関するお問い合わせは、下記までお願いします。  
【お問い合わせ】 熊本市役所 健康福祉局 健康づくり推進課  
電 話：096-361-2145・FAX：096-366-1173  
Eメール：kenkouzukuri@city.kumamoto.lg.jp

## ●あなたご自身のことについておたずねします。

- ・性別（男・女）
- ・年齢(平成30年4月1日現在)（ ）歳
- ・お住まいの小学校校区（ ）校区  
校区がわからない方はお住まいの町名（ ）区（ ）町  
例えば「東区健軍1丁目」「中央区手取本町」

### 問1 あなたの世帯構成は次のどれですか【〇は1つ】

1. 単身世帯（1人暮らし）
2. 一世代世帯（夫婦のみの世帯または兄弟姉妹のみの世帯）
3. 二世帯世帯（親子で暮らしている世帯）
4. 三世帯世帯（親、子、孫と暮らしている世帯）
5. その他（ ）

### 問2 朝食を家族と一緒に食べることはどのくらいありますか。【〇は1つ】

1. ほとんど毎日食べる
2. 週に4～5日食べる
3. 週に2～3日食べる
4. 週に1日程度食べる
5. ほとんど食べない

問3 夕食を家族と一緒に食べることはどのくらいありますか。【〇は1つ】

1. ほとんど毎日食べる
2. 週に4～5日食べる
3. 週に2～3日食べる
4. 週に1日程度食べる
5. ほとんど食べない

問4 あなたは食事の時間が楽しいですか。【〇は1つ】

1. とても楽しい
2. 楽しい
3. どちらでもない
4. あまり楽しくない
5. 楽しくない

問5 あなたは、ふだん朝食を食べますか。【〇は1つ】

1. ほとんど毎日食べる \_\_\_\_\_ 問6へ
2. 週に4～5日食べる \_\_\_\_\_
3. 週に2～3日食べる \_\_\_\_\_ 問5-2へ
4. ほとんど食べない \_\_\_\_\_

問5-2 ※問5で「2」～「4」と回答した方におたずねします。

朝食を食べない最も大きな理由は何ですか。【〇は1つ】

1. 時間がない
2. 食欲がない
3. 朝食を食べるより寝ていたい
4. 減量（ダイエット）のため
5. 朝食が用意されていない
6. 以前から食べる習慣がない
7. 食べたり準備することが面倒である
8. その他 ( )

問6 あなたは普段、どのような朝食を食べることが多いですか。【○は1つ】

1. 一品 (ごはん・パンのみ)
2. 二品 (ごはん・パン+おかずなど一品)
3. 三品 (ごはん・パン+おかずなど二品) 以上
4. おかずのみ
5. 飲み物・果物のみ
6. 菓子
7. その他 ( )
8. 食べない

問7 あなたは、野菜料理を小鉢1皿(70g)と考えて、1日にどのくらい食べますか。【○は1つ】

1. 1日に1～2皿
2. 1日に3～4皿
3. 1日に5皿以上
4. 1日に1皿も食べない

問8 あなたは自分の適正体重(BMI)を知っていますか。【○は1つ】

※BMI(体重kg÷身長m÷身長m)とは国際的に広く用いられている体格指数による肥満度の計算法です。18.5以上25未満が標準といわれています。

1. 知っている
2. 知らない

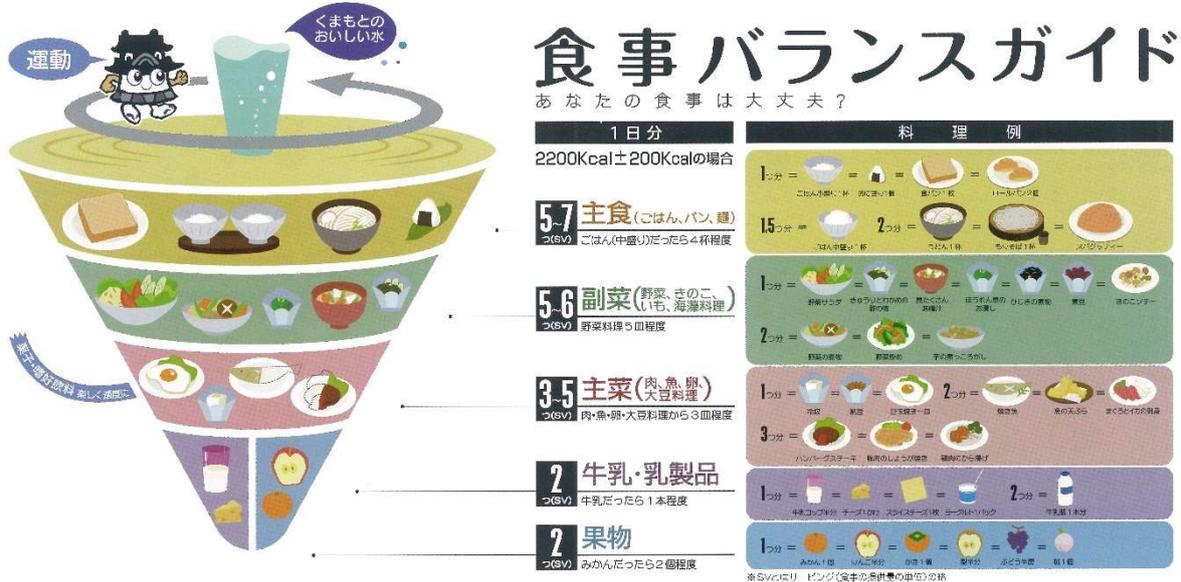
問9 生活習慣病の予防や改善のために、ふだんから適正体重の維持や減塩等に気をつけた食生活を実践していますか。【○は1つ】

1. 実践して、半年以上継続している
2. 実践しているが、半年未満である
3. 時々気をつけているが、継続的ではない
4. 現在はしていないが、近いうちにしようと思っている
5. 現在していないし、しようとも思わない

問 10 あなたは、下のコマ型の「食事バランスガイド」を見たことがありますか。

【〇は1つ】

1. ある ————— 問 10-2 へ                      2. ない ————— 問 11 へ



「食事バランスガイド」とは、1日に「何を」「どれだけ」食べたらよいかを考える際の参考にしていただけるよう、食事の望ましい組み合わせとおおよその量をイラストでわかりやすくしめしたものです。5つの料理グループ（主食、副菜、主菜、牛乳・乳製品、果物）からできていて、どれかが足りないとコマが倒れてしまいます。見た目の量と主に使われている食材から判断します。

問 10-2 ※問 10 で「1. ある」と回答した方におたずねします。あなたは、「食事バランスガイド」の使い方を知っていますか。【〇は1つ】

1. 知っている    2. 知らない

問 11 あなたは飲食店、レストラン、食品売り場および職場（学校）の給食施設・食堂などで食品や料理の栄養成分が表示してあるのを見たことがありますか。【〇は1つ】

1. ある ————— 問 11-2 へ  
 2. ない —————  
 3. わからない ————— 問 12 へ

【例示】

栄養成分表示 (1枚当たり)	
エネルギー	25kcal
たんぱく質	0.3g
脂質	1.1g
炭水化物	3.5g
食塩相当量	0.04g

問 11-2 ※問 11 で「1. ある」と回答した方におたずねします。その場合、栄養成分を参考にしてメニューを選びますか。【○は1つ】

1. いつも参考になっている
2. 時々参考になっている
3. ほとんど参考にしていない

問 12 食育とは、さまざまな経験を通して「食」に関する知識と「食」を選択する力を身に付け、健全な食生活を実践できる力を育てることです。あなたは「食育」に関心がありますか。【○は1つ】

1. 関心がある
2. どちらかといえば関心がある
3. どちらかといえば関心がない
4. 関心がない
5. わからない

問 13 あなたは、食品の安全性が高まっていると感じていますか。【○は1つ】

1. 大いに感じている
2. 多少感じている
3. どちらともいえない
4. あまり感じていない
5. 全く感じていない

問 14 食品の安全性に関して、不安を感じるものは何ですか。【○はいくつでも】

1. 病原性大腸菌（O157など）
2. 残留農薬
3. 動物用医薬品（動物が飼育されていた時に使用された医薬品）の残留
4. 遺伝子組換え食品
5. 食品添加物
6. 輸入食品
7. 食品の不正（偽装）表示
8. 牛海綿状脳症（BSE）
9. 健康食品
10. 環境ホルモン
11. かび毒・自然毒
12. 食中毒を起こす細菌・ウイルス
13. 異物（髪の毛・金属片・ガラス片など）の混入
14. アレルギー物質
15. 放射性物質
16. 生食用食肉（牛・鶏）
17. 生食用食肉（馬）
18. 寄生虫（アニサキスなど）
19. その他（ ）

問 15 食品の安全性に関して、どんな時に不安を感じますか。【〇はいくつでも】

1. スーパー等で肉、魚、野菜等を購入するとき
2. 中食（持ち帰り惣菜店、コンビニ、ファーストフードなどの店舗で購入し、家や職場で調理せずに食べる食事形態）を購入するとき
3. 飲食店で外食するとき
4. インターネット等で食品を購入するとき
5. その他（ ）

問 16 あなたは、食品の安全な取り扱いや選び方など食品の安全性に関する知識があると思いますか。【〇は1つ】

1. 十分にあると思う
2. ある程度あると思う
3. あんまりないと思う
4. 全くないと思う

問 17 あなたは、食品を購入する際に「問 17-2」に示すような表示を確認しますか。【〇は1つ】

1. 毎回確認している  問 17-2 へ
2. 時々確認している
3. どちらでもない
4. あまり確認していない  問 18 へ
5. 全く確認していない

問 17-2 ※問 17 で「1. 毎回確認している」「2. 時々確認している」と回答した方におたずねします。 何を確認していますか。【〇はいくつでも】

1. 消費または賞味期限
2. 保存方法
3. 原材料の種類
4. 原産地・原産国
5. 食品添加物
6. 遺伝子組換え食品の有無
7. アレルギー物質の有無
8. 製造者・販売者
9. 栄養成分
10. その他（ ）

【表示例】 原産地表示 遺伝子組換え表示 アレルギー表示

名称	豆菓子
原材料名	落花生(国産)、きなこ(遺伝子組換え)、米粉、でん粉、植物油、しょうゆ(小麦を含む)、食塩、砂糖、香辛料
添加物	調味料(アミノ酸等)、着色料(カラメル、紅麹、カロチノイド)
内容量	100 g
賞味期限	2020. 7. 1
保存方法	直射日光を避け、常温で保存してください。
製造者	〇〇食品株式会社 〇〇県〇〇町 1-2

栄養成分表示 (1枚当たり)	
エネルギー	25kcal
たんぱく質	0.3g
脂質	1.1g
炭水化物	3.5g
食塩相当量	0.04g

問 18 あなたは、栄養や食事・食品に関する正しい知識や情報を得ようと努めていますか。  
【〇は1つ】

1. 努力している
2. どちらかといえば努力している
3. どちらかといえば努力していない
4. 努力していない

問 19 あなたは、熊本の農林漁業の生産者が生産物の安全・安心のために行っている工夫や取り組みなどを、もっと知りたいと思いませんか。【〇は1つ】

1. 知りたい
2. どちらかといえば知りたい
3. あまり知りたいと思わない
4. 知りたいと思わない

問 20 農林漁業体験（みかん狩り・芋ほり・潮干狩り・魚釣り・植樹体験・山菜採取など）を、今まで体験したことがありますか。【〇は1つ】

1. 体験したことがある
2. 体験したことがない

問 21 あなたは、HACCP（ハサップ）について知っていますか。【〇は1つ】

1. HACCPは安全な食品を作るための衛生管理の方法のことだと知っている。
2. 言葉は知っているが意味は知らない
3. 言葉も意味も知らない



問 25 あなたは、農産物を購入する際、主にどのような点を重要視して購入していますか。  
【〇はいくつでも】

- |                     |       |
|---------------------|-------|
| 1. 価格               | 2. 鮮度 |
| 3. 品質               | 4. 産地 |
| 5. 栽培方法（有機栽培、減農薬など） |       |
| 6. その他（             | ）     |

問 26 あなたは、食生活面で「くまもとらしさ」を感じるがありますか。【〇は1つ】

- |          |       |          |
|----------|-------|----------|
| 1. ある    | _____ | 問 26-2 へ |
| 2. ない    | _____ |          |
| 3. わからない | _____ | 問 27 へ   |

問 26-2 ※問 26 で「1. ある」と回答した方におたずねします。  
それはどんなことですか。【〇はいくつでも】

- |  |   |
|--|---|
| 1. 水がおいしいこと                                |   |
| 2. お茶やコーヒーがおいしいこと                          |   |
| 3. お酒（含：赤酒）がおいしいこと                         |   |
| 4. しょうゆが甘いこと                               |   |
| 5. 果物や野菜、米など農産物がおいしいこと                     |   |
| 6. のりや魚介類など水産物がおいしいこと                      |   |
| 7. 酪農製品や肉など畜産物がおいしいこと                      |   |
| 8. 食材そのものを活かした素朴な料理が多いこと                   |   |
| 9. 田畑や漁場などの生産風景や豊かな自然が間近に見られること            |   |
| 10. 生産地と消費地が近く、農業者や漁業者との交流がしやすい環境にあること     |   |
| 11. 水前寺もやしを雑煮に入れるなど、自然や歴史に育まれた食文化や食生活があること |   |
| 12. その他（                                   | ） |

問 27 あなたは、熊本市の良質な地下水が、地元の食材や料理の「おいしさ」の基になっていると思っていますか。【○は1つ】

1. 思う                                      2. 思わない                                      3. わからない

問 28 あなたは、家庭での食事に郷土料理（だご汁、いきなりだんごなど）や行事食（おせち料理、お雑煮、七草がゆなど）を取り入れていますか。【○は1つ】

1. よく取り入れている  
2. 時々取り入れている  
3. どちらともいえない  
4. あまり取り入っていない  
5. 全く取り入っていない

問 29 あなたは、食品を購入したり食事を作る際に、ごみを少なくするために「買いすぎない」「作りすぎない」「食べ残さない」をしないように心がけていますか。【○は1つ】

1. いつも心がけている  
2. 時々心がけている  
3. どちらともいえない  
4. あまり心がけていない  
5. 心がけていない

問 30 あなたは、家庭で出る生ごみについて、処理機を用いてたい肥を作るなどリサイクルに関する取り組みを行っていますか。【○は1つ】

1. いつも行っている  
2. 時々行っている  
3. あまり行っていない  
4. 興味はあるが、行っていない  
5. 興味もなく、行っていない

問 31 あなたは、次の項目に関する活動（学校の授業や保育所・幼稚園での行事、地域で開催される講演会、イベント、体験活動、自主グループなどの活動）に参加したことがありますか。【それぞれ○は1つ】

	週に1回程度	月に1～2回程度	年に数回程度	参加したいと思う	参加したことはないが	参加したことはなく 関心もない
(1) 親子料理教室など、食生活改善や健康づくりに関するもの	1	2	3	4	5	
(2) 田植えや芋ほりといった栽培・収穫体験など、農林漁業やその産物に関するもの	1	2	3	4	5	
(3) ごみ減量やリサイクルなど、環境保全に関するもの	1	2	3	4	5	
(4) 食中毒予防講座など、食品の安全性や食品衛生に関するもの	1	2	3	4	5	

問 32 あなたは、「熊本市」が情報を発信する手段として、効率的だと思うものはつぎのどれですか。【○はいくつでも】

- |             |                                |
|-------------|--------------------------------|
| 1. 市政だより    | 2. 市役所や区役所の窓口                  |
| 3. 市のホームページ | 4. 新聞                          |
| 5. ラジオ      | 6. テレビ                         |
| 7. 情報誌      | 8. SNS (LINE、Facebook、mixi など) |
| 9. その他 ( )  |                                |

問 33 主食（ごはん、パン、麺など）、主菜（肉・魚・卵・大豆製品などを使ったメインの料理）、副菜（野菜・きのこ・いも・海藻などを使った小鉢・小皿の料理）を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べていますか。（中食、外食も含む）【○は1つ】

- |          |           |
|----------|-----------|
| 1. 食べている | 2. 食べていない |
|----------|-----------|

問 34 あなたは、内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）の予防や改善のために、適切な食事、定期的な運動、週に複数回の体重計測、のいずれかを実践していますか。【○は1つ】

1. 実践して、半年以上継続している
2. 実践しているが、半年未満である
3. 時々気を付けているが、継続的ではない
4. 現在はしていないが、近いうちにしようと思っている
5. 現在していないし、しようとも思わない

問 35 あなたは、食の安全性確保のために意識して実践していることがありますか。【○は1つ】

1. ある ————— 問 35-2 へ
2. ない ————— 問 36 へ

問 35-2 ※問 35 で「1. ある」と回答した方におたずねします。  
それはどんなことですか。【○はいくつでも】

1. 食材の購入時には、鮮度や期限をよく確認し、新鮮なものを購入している
2. なるべく生産者のわかる野菜を購入している
3. 調理前には必ず石鹼で手洗いをしている
4. 食事前には必ず石鹼で手洗いをしている
5. トイレ後には必ず石鹼で手洗いをしている
6. まな板や包丁を食材に応じて（肉用、野菜用など）使い分けている
7. キッチンを清潔に保ち、器具の消毒をしている
8. 肉は O157 やカンピバクター食中毒の恐れがあるので、十分に加熱して食べている
9. 焼肉では、生肉に触れる箸と食べる箸は別にしてしている
10. 肉、魚、牛乳などは買ってきたらすぐ冷蔵庫へ入れている
11. その他（ )

問 36 あなたは「健康まちづくり」という言葉やその意味を知っていましたか。

【○は1つ】

1. 言葉も意味も知っていた
2. 言葉は知っていたが、意味は知らなかった
3. 言葉も意味も知らなかった（今回の調査で初めて聞いた場合を含む）

問 37 あなたの歯は、現在何本ありますか。【(親知らずを含む) 総数は32本です】

<input type="text"/>	本です。
----------------------	------

問 38 あなたは、食べ物をよく噛み砕くことができますか。【○は1つ】

1. できている
2. できていない

問 39 喫煙は、歯周病を進行させる要因であることを知っていますか。【○は1つ】

1. 知っている	2. 知らない
----------	---------

問 40 あなたは、歯周病が糖尿病や心疾患、胎児の早産などの全身疾患と関連があることを知っていますか。【○は1つ】

1. 知っている	2. 知らない
----------	---------

問 41 あなたは、定期的に歯科健診を受けていますか。【○は1つ】

1. 3～4ヶ月に1回受けている	2. 半年に1回受けている
3. 1年に1回受けている	4. 受けていない

問 42 あなたは、かかりつけ歯科医をもっていますか。【○は1つ】

※痛くなったら治療に行く歯科医は「行きつけの歯科医」。それに対し、治療だけでなくお口の健康を維持するために行く歯科医を「かかりつけ歯科医」といいます。

1. もっている	2. もっていない
----------	-----------

問 43 あなたは、むし歯や歯周病で歯を失ったことはありますか。(※親知らずは除きます) 【○は1つ】

1. ない	2. ある
-------	-------

ここからは 18 歳以上の方がご回答ください。  
18 歳未満の方は **問 53 へ** お進みください。

問 44 あなたは、地産地消の推進のため、すすんで地元産（熊本市産や熊本県産）の農産物や水産物を購入していますか。【○は1つ】

- |              |             |
|--------------|-------------|
| 1. いつもしている   | 2. 時々している   |
| 3. どちらともいえない | 4. あまりしていない |
| 5. していない     |             |

問 45 過去 1 年間（乳がん・子宮頸がんは過去 2 年間）に受診したがん検診はどれですか。  
【○はいくつでも】

- |                  |                 |
|------------------|-----------------|
| 1. 肺がん検診 _____   |                 |
| 2. 胃がん検診 _____   |                 |
| 3. 大腸がん検診 _____  | <b>問 45-2 へ</b> |
| 4. 乳がん検診 _____   |                 |
| 5. 子宮頸がん検診 _____ |                 |
| 6. 受診していない _____ | <b>問 45-3 へ</b> |

問 45-2 ※問 45 で「1」～「5」と回答した方におたずねします。

どこで受診しましたか。【○はいくつでも】

	市が行うがん検診※	職場検診（医療機関・人間ドックに委託されたものや家族検診を含む）	農協や商工会議所が実施する検診	人間ドック（個人で受診したもの）	医療機関（個人で受診したもの）	その他（具体的に）
1. 肺がん検診	1	2	3	4	5	6 ( )
2. 胃がん検診	1	2	3	4	5	6 ( )
3. 大腸がん検診	1	2	3	4	5	6 ( )
4. 乳がん検診	1	2	3	4	5	6 ( )
5. 子宮頸がん検診	1	2	3	4	5	6 ( )

※市が行うがん検診は、最終ページの「熊本市のがん検診について」を参照ください。



問 49 あなたはロコモティブシンドローム（運動器症候群）という言葉やその意味を知っていますか。【○は1つ】

1. 言葉も意味もよく知っている
2. 言葉も知っていたし、意味も大体知っている
3. 言葉は知っていたが、意味はあまり知らない
4. 言葉は聞いたことがあるが、意味は知らない
5. 言葉も意味も知らない

問 50 COPD（慢性閉塞性肺疾患）とは主として長期の喫煙によってもたらされる肺の炎症性疾患です。主に咳・痰・息切れなどの症状があり、緩やかに呼吸障害が進行するかつて「肺気腫」「慢性気管支炎」と称された疾患です。あなたはこの病気を知っていますか。【○は1つ】

1. どんな病気なのかよく知っている
2. 名前は聞いたことがある
3. 知らない（今回の調査で初めてきいた場合を含む）

問 51 あなたは、この1ヶ月間に、自分以外の人が吸っていたたばこの煙を吸う機会（受動喫煙）がありましたか。【○はいくつでも】

	ほぼ毎日	週に数回程度	週に1回程度	月に1回程度	全くなかった	行かなかった
1. 行政機関（市役所、区役所、公民館など）	1	2	3	4	5	6
2. 医療機関	1	2	3	4	5	6
3. 職場	1	2	3	4	5	6
4. 家庭	1	2	3	4	5	
5. 飲食店	1	2	3	4	5	6

問 52 あなたはタバコを吸いますか。※「5. 吸っている・・・1日およそ21本以上」と回答した方は、具体的に何本吸っているか数値をご記入ください。【○は1つ】

- |                           |              |            |
|---------------------------|--------------|------------|
| 1. 吸わない                   | _____        | — 問 53 へ   |
| 2. 以前は吸っていたが、今はやめている      | _____        |            |
| 3. 吸っている・・・1日およそ10本以下     | _____        | — 問 52-2 へ |
| 4. 吸っている・・・1日およそ11本～20本程度 | _____        |            |
| 5. 吸っている・・・1日およそ21本以上     | → (      ) 本 |            |

問 52-2 ※問 52 で「3」～「5」と回答した方におたずねします。  
禁煙に取り組もうと思いませんか。【○は1つ】

1. 取り組もうと思わない
2. 禁煙に関心はあるが、今すぐ取り組もうとは思わない
3. 禁煙に関心があり、今すぐ取り組みたいと思う

問 53 健康寿命とは「日常的に介護を必要としないで、自立した生活ができる生存期間」のことです。あなたはこの「健康寿命」という言葉を知っていましたか。【○は1つ】

1. 言葉も意味も知っていた
2. 言葉は知っていたが、意味は知らなかった
3. 言葉も意味も知らなかった（今回の調査で初めて聞いた場合を含む）

問 54 あなたは現在住んでいる地域にどの程度愛着がありますか 【○は1つ】

- |             |            |              |
|-------------|------------|--------------|
| 1. とても愛着がある | 2. まあ愛着がある | 3. どちらともいえない |
| 4. あまり愛着がない | 5. 全く愛着がない |              |

問 55 『健康づくり』や『食の安全安心・食育』に関するご意見などありましたら何でも結構です。ご自由にお書きください。

以上です。ご協力ありがとうございました。

## ■ 熊本市のがん検診について

熊本市の死因の第1位は「がん」です。3人に1人は「がん」で亡くなっています。がんによる死亡を減少させるには、早期発見・早期治療が大切です。本市では積極的にがん検診の受診をすすめています。

(平成30年度)

検診名	対象者	検診内容	検診場所	個人の負担金
肺がん検診	年度内に40歳以上になる方	問診・胸部エックス線検査	巡回検診車 セット検診実施医療機関	40～64歳の方 300円
	肺がん検診の問診により必要と認められた方	喀痰細胞診		65歳以上の方 200円
				500円
胃がん検診	年度内に40歳以上になる方	問診・胃部エックス線検査	巡回検診車 セット検診実施医療機関	1,000円
大腸がん検診	年度内に40歳以上になる方	問診・便潜血検査	実施医療機関	個別検診 500円
			巡回検診車	集団検診 300円
子宮がん検診	20歳以上で、年度内に偶数年齢になる女性	問診・視診・内診・細胞診	実施医療機関 検診車での検診	個別検診 1,200円
				集団検診 1,000円
乳がん検診	40歳以上で、年度内に偶数年齢になる女性	問診・視触診・乳房エックス線検査（マンモグラフィ）	実施医療機関 検診車での検診	40歳代の方 1,500円
				50歳以上の方 1,100円

【対象者が 65 歳以上の方】

## 熊本市健康づくりに関する市民アンケート

### ＜アンケート回答のお願い＞

皆様には、日頃から市政にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

さて、熊本市では、「全ての市民が生涯を通して、住み慣れた地域で健康でいきいきと暮らせるまちを市民と協働でつくる」という考えに基づき健康づくりの取り組みを計画的に実施しています。

このたび、取り組みの評価および新たな計画策定のため、アンケートを実施することになりました。いただいた回答を参考にしながら各機関との情報共有や連携により市民の健康づくりを進めてまいります。

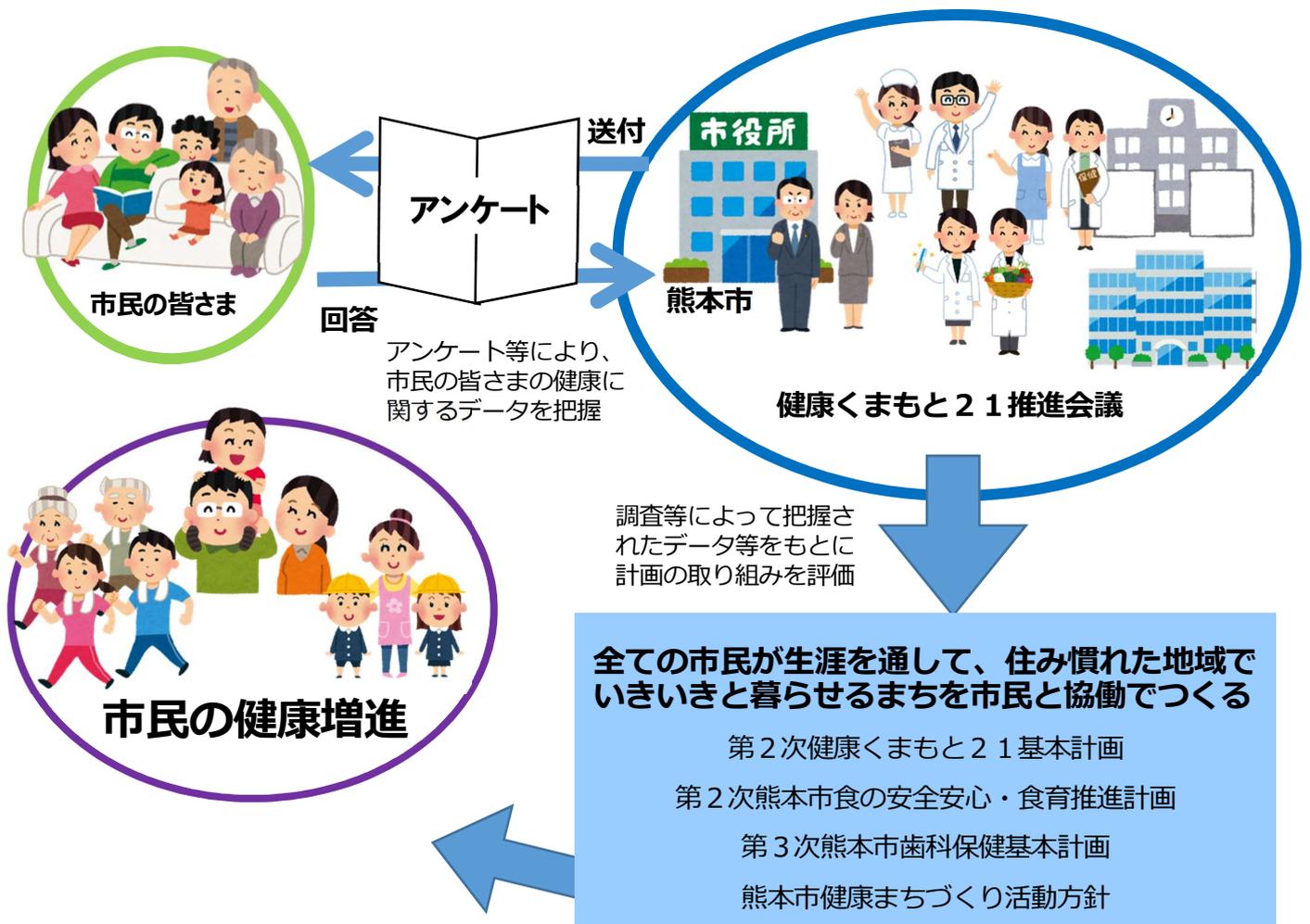
また、このアンケートは無記名でご回答いただき、結果は統計的に処理するため、回答者個人が特定されたり個々の回答内容がほかに漏れたり、他の目的に利用されることは一切ございません。

ご多忙中とは存じますが、何卒、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成30年5月

熊本市

いただいた回答は市民の健康づくりの取り組みに生かされます



## ＜ご記入にあたっての注意＞

1. 質問は、**封筒の宛名の方**のご意見でご記入ください。
2. 質問に対する回答については、次の2種類があります。
  - ・【〇はいくつでも】…選択肢の中から該当するものをすべてお選びください。
  - ・【〇は1つ】…選択肢の中から該当するものを1つだけお選びください。
3. 黒の鉛筆またはボールペンなどではっきりと記入してください。
4. 調査票、返信用封筒には、住所、氏名を記入する必要はありません。
5. 記入した調査票は、**平成30年6月4日（月）**までに  
同封の返信用封筒に入れ、ポストに入れてください（※切手は不要です）。
6. このアンケートに関するお問い合わせは、下記までお願いします。  
【お問い合わせ】 熊本市役所 健康福祉局 健康づくり推進課  
電 話：096-361-2145・FAX：096-366-1173  
Eメール：kenkouzukuri@city.kumamoto.lg.jp

## ●あなたご自身のことについておたずねします。

- ・性別（男・女）
- ・年齢(平成30年4月1日現在)（ ）歳
- ・お住まいの小学校校区（ ）校区  
校区がわからない方はお住まいの町名（ ）区（ ）町  
例えば「東区健軍1丁目」「中央区手取本町」

### 問1 あなたの世帯構成は次のどれですか【〇は1つ】

1. 単身世帯（1人暮らし）
2. 一世代世帯（夫婦のみの世帯または兄弟姉妹のみの世帯）
3. 二世帯世帯（親子で暮らしている世帯）
4. 三世帯世帯（親、子、孫と暮らしている世帯）
5. その他（ ）

問2 朝食を家族と一緒に食べることはどのくらいありますか。【Oは1つ】

- 1. ほとんど毎日食べる
- 2. 週に4～5日食べる
- 3. 週に2～3日食べる
- 4. 週に1日程度食べる
- 5. ほとんど食べない

問3 夕食を家族と一緒に食べることはどのくらいありますか。【Oは1つ】

- 1. ほとんど毎日食べる
- 2. 週に4～5日食べる
- 3. 週に2～3日食べる
- 4. 週に1日程度食べる
- 5. ほとんど食べない

問4 あなたは食事の時間が楽しいですか。【Oは1つ】

- 1. とても楽しい
- 2. 楽しい
- 3. どちらでもない
- 4. あまり楽しくない
- 5. 楽しくない

問5 あなたは、ふだん朝食を食べますか。【Oは1つ】

- 1. ほとんど毎日食べる \_\_\_\_\_ 問6へ
- 2. 週に4～5日食べる \_\_\_\_\_
- 3. 週に2～3日食べる \_\_\_\_\_ 問5-2へ
- 4. ほとんど食べない \_\_\_\_\_

問5-2 ※問5で「2」～「4」と回答した方におたずねします。

朝食を食べない最も大きな理由は何ですか。【Oは1つ】

- 1. 時間がない
- 2. 食欲がない
- 3. 朝食を食べるより寝ていたい
- 4. 減量（ダイエット）のため
- 5. 朝食が用意されていない
- 6. 以前から食べる習慣がない
- 7. 食べたり準備することが面倒である
- 8. その他 ( )

問6 あなたは普段、どのような朝食を食べることが多いですか。【〇は1つ】

1. 一品 (ごはん・パンのみ)
2. 二品 (ごはん・パン+おかずなど一品)
3. 三品 (ごはん・パン+おかずなど二品) 以上
4. おかずのみ
5. 飲み物・果物のみ
6. 菓子
7. その他 ( )
8. 食べない

問7 あなたは、野菜料理を小鉢1皿(70g)と考えて、1日にどのくらい食べますか。  
【〇は1つ】

1. 1日に1~2皿
2. 1日に3~4皿
3. 1日に5皿以上
4. 1日に1皿も食べない

問8 あなたは自分の適正体重(BMI)を知っていますか。【〇は1つ】

※BMI(体重kg÷身長m÷身長m)とは国際的に広く用いられている体格指数による肥満度の計算法です。18.5以上25未満が標準といわれています。

1. 知っている
2. 知らない

問9 あなたは、運動をしていますか。【〇は1つ】

1. ほぼ毎日
2. 週に3~4日
3. 週に1~2日
4. していない

問10 生活習慣病の予防や改善のために、ふだんから適正体重の維持や減塩等に気をつけた食生活を実践していますか。【〇は1つ】

1. 実践して、半年以上継続している
2. 実践しているが、半年未満である
3. 時々気をつけているが、継続的ではない
4. 現在はしていないが、近いうちにしようと思っている
5. 現在していないし、しようとも思わない

問 11 あなたの身長、体重をお知らせください。

身長  cm                      体重  kg

問 12 あなたはこの6ヶ月で2～3kg以上の体重の減少がありましたか。【〇は1つ】

1. ある                                      2. ない

問 13 あなたは、下のコマ型の「食事バランスガイド」を見たことがありますか。

【〇は1つ】

1. ある ———— **問 13-2 へ**                      2. ない ———— **問 14 へ**

**食事バランスガイド**  
あなたの食事は大丈夫？

1日分 2200Kcal±200Kcalの場合

料理例
<b>5-7 主食(ごはん、パン、麺)</b> ごはん(中盛り)だったら4杯程度 1.5分 = ごはん(中盛り)1杯 2.0分 = うどん1杯 2.5分 = そぼろそば1杯 3.0分 = ぶどうパン1個
<b>5-6 副菜(野菜、きのこ、いも、海藻料理)</b> 野菜料理5皿程度 1.0分 = 野菜サラダ、きんぴら(きのこのみ)、納豆(きのこ)、お浸し、ほうろく煮、ひじきの煮物、煮干し、きのこのソテー 2.0分 = 野菜の煮物、野菜炒め、きのこのみそ汁
<b>3-5 主菜(肉、魚、卵、大豆料理)</b> 肉・魚・卵・大豆料理から3皿程度 1.0分 = 鶏肉、鯖、鶏肉、豆腐、鶏肉、豆腐、鶏肉、豆腐 2.0分 = 豚肉、鶏肉、鶏肉、豆腐、鶏肉、豆腐 3.0分 = ハンバーグステーキ、豚肉のしょうが焼き、鶏肉のみそ煮
<b>2 牛乳・乳製品</b> 牛乳だったら1本程度 1.0分 = 牛乳コップ半分、チーズ10g、スライスチーズ1枚、ヨーグルト100g 2.0分 = 牛乳1本分
<b>2 果物</b> みかんだったら2個程度 1.0分 = みかん1個、りんご半分、いちじく1個、梨半分、ぶどう半房、桃1個

※SVとはサービング(食事の提供量の単位)の略

「食事バランスガイド」とは、1日に「何を」「どれだけ」食べたらよいかを考える際の参考にしていただけるよう、食事の望ましい組み合わせとおおよその量をイラストでわかりやすくしめしたものです。5つの料理グループ(主食、副菜、主菜、牛乳・乳製品、果物)からできていて、どれかが足りないとコマが倒れてしまいます。見た目の量と主に使われている食材から判断します。

問 13-2 ※問 13 で「1. ある」と回答した方におたずねします。あなたは、「食事バランスガイド」の使い方を知っていますか。【〇は1つ】

1. 知っている                                      2. 知らない

問 14 あなたは飲食店、レストラン、食品売り場および職場（学校）の給食施設・食堂などで食品や料理の栄養成分が表示してあるのを見たことがありますか。【○は1つ】

1. ある \_\_\_\_\_ 問 14-2 へ  
2. ない \_\_\_\_\_  
3. わからない \_\_\_\_\_ 問 15 へ

【例示】

栄養成分表示 (1枚当たり)	
エネルギー	25kcal
たんぱく質	0.3g
脂質	1.1g
炭水化物	3.5g
食塩相当量	0.04g

問 14-2 ※問 14 で「1. ある」と回答した方におたずねします。その場合、栄養成分を参考にしてメニューを選びますか。【○は1つ】

1. いつも参考になっている  
2. 時々参考になっている  
3. ほとんど参考にしていない

問 15 食育とは、さまざまな経験を通して「食」に関する知識と「食」を選択する力を身に付け、健全な食生活を実践できる力を育てることです。あなたは「食育」に関心がありますか。【○は1つ】

1. 関心がある  
2. どちらかといえば関心がある  
3. どちらかといえば関心がない  
4. 関心がない  
5. わからない

問 16 あなたは、食品の安全性が高まっていると感じていますか。【○は1つ】

1. 大いに感じている  
2. 多少感じている  
3. どちらともいえない  
4. あまり感じていない  
5. 全く感じていない

問 17 食品の安全性に関して、不安を感じるものは何ですか。【○はいくつでも】

1. 病原性大腸菌 (O157 など)
2. 残留農薬
3. 動物用医薬品 (動物が飼育されていた時に使用された医薬品) の残留
4. 遺伝子組換え食品
5. 食品添加物
6. 輸入食品
7. 食品の不正 (偽装) 表示
8. 牛海綿状脳症 (BSE)
9. 健康食品
10. 環境ホルモン
11. かび毒・自然毒
12. 食中毒を起こす細菌・ウイルス
13. 異物 (髪の毛・金属片・ガラス片など) の混入
14. アレルギー物質
15. 放射性物質
16. 生食用食肉 (牛・鶏)
17. 生食用食肉 (馬)
18. 寄生虫 (アニサキスなど)
19. その他 ( )

問 18 食品の安全性に関して、どんな時に不安を感じますか。【○はいくつでも】

1. スーパー等で肉、魚、野菜等を購入するとき
2. 中食 (持ち帰り惣菜店、コンビニ、ファーストフードなどの店舗で購入し、家や職場で調理せずに食べる食事形態) を購入するとき
3. 飲食店で外食するとき
4. インターネット等で食品を購入するとき
5. その他 ( )

問 19 あなたは、食品の安全な取り扱いや選び方など食品の安全性に関する知識があると思いますか。【○は1つ】

1. 十分にあると思う
2. ある程度あると思う
3. あんまりないと思う
4. 全くないと思う

問 20 あなたは、食品を購入する際に「問 20-2」に示すような表示を確認しますか。【○は1つ】

1. 毎回確認している \_\_\_\_\_
2. 時々確認している \_\_\_\_\_ **問 20-2 へ**
3. どちらでもない \_\_\_\_\_
4. あまり確認していない \_\_\_\_\_ **問 21 へ**
5. 全く確認していない \_\_\_\_\_

問 20-2 ※問 20 で「1. 毎回確認している」「2. 時々確認している」と回答した方にお  
たずねします。 何を確認していますか。【〇はいくつでも】

- |               |                |
|---------------|----------------|
| 1. 消費または賞味期限  | 2. 保存方法        |
| 3. 原材料の種類     | 4. 原産地・原産国     |
| 5. 食品添加物      | 6. 遺伝子組換え食品の有無 |
| 7. アレルギー物質の有無 | 8. 製造者・販売者     |
| 9. 栄養成分       | 10. その他 ( )    |

【表示例】

	原産地表示	遺伝子組換え表示	アレルギー表示	
名称	豆菓子			<b>栄養成分表示</b> (1 枚当たり) エネルギー 25kcal たんぱく質 0.3g 脂質 1.1g 炭水化物 3.5g 食塩相当量 0.04g
原材料名	落花生(国産)、きなこ(遺伝子組換え)、米粉、 でん粉、植物油、しょうゆ(小麦を含む)、 食塩、砂糖、香辛料			
添加物	調味料(アミノ酸等)、着色料(カラメル、 紅麹、カロチノイド)			
内容量	100 g			
賞味期限	2020. 7. 1			
保存方法	直射日光を避け、常温で保存してください。			
製造者	〇〇食品株式会社 〇〇県〇〇町 1-2			

問 21 あなたは、栄養や食事・食品に関する正しい知識や情報を得ようと努めていますか。  
【〇は1つ】

- |                    |                   |
|--------------------|-------------------|
| 1. 努力している          | 2. どちらかといえば努力している |
| 3. どちらかといえば努力していない | 4. 努力していない        |

問 22 あなたは、熊本の農林漁業の生産者が生産物の安全・安心のために行っている  
工夫や取り組みなどを、もっと知りたいと思いませんか。【〇は1つ】

- |                 |
|-----------------|
| 1. 知りたい         |
| 2. どちらかといえば知りたい |
| 3. あまり知りたいと思わない |
| 4. 知りたいと思わない    |

問 23 農林漁業体験(みかん狩り・芋ほり・潮干狩り・魚釣り・植樹体験・山菜採取など)  
を、今まで体験したことがありますか。【〇は1つ】

- |              |              |
|--------------|--------------|
| 1. 体験したことがある | 2. 体験したことがない |
|--------------|--------------|

問 24 あなたは、HACCP（ハサップ）について知っていますか。【〇は1つ】

1. HACCPは安全な食品を作るための衛生管理の方法のことだと知っている
2. 言葉は知っているが意味は知らない
3. 言葉も意味も知らない

問 25 あなたは、食生活や食品に関してどのような情報が欲しいですか。

【〇はいくつでも】

1. 食事の量や組み合わせなど栄養バランス
2. 食品に含まれる栄養素やその働き
3. 食事に関する作法やしつけ（マナー）
4. 調理方法（レシピ）
5. 食生活の乱れからくる影響について
6. 農業や漁業などを体験する方法
7. 農畜水産物に関する生産履歴などの情報
8. 食品の安全性や健康被害などの情報
9. 食品の試験検査や監視指導の結果
10. 食品表示の見方やその内容
11. 食に関わるイベント情報
12. 健康づくりできます店の情報
13. その他（ ）

【参考】健康づくりできます店とは？



問 26 あなたは、熊本市のホームページに「くまもとの食（安全安心のひろば・食育のひろば）」があることを知っていますか？【〇は1つ】

1. 知っているし、見たことがある
2. 知っているが、見たことはない
3. 知らない

【参考】ホームページが開きます。



問 27 あなたは、熊本市が食品の安全確保のため検査を実施していることを知っていますか？【〇は1つ】

1. 知っている
2. 知らない

問 28 あなたは、農産物を購入する際、主にどのような点を重要視して購入していますか。  
【〇はいくつでも】

- |                     |       |
|---------------------|-------|
| 1. 価格               | 2. 鮮度 |
| 3. 品質               | 4. 産地 |
| 5. 栽培方法（有機栽培、減農薬など） |       |
| 6. その他（             | ）     |

問 29 あなたは、地産地消の推進のため、すすんで地元産（熊本市産や熊本県産）の農産物や水産物を購入していますか。【〇は1つ】

- |              |             |
|--------------|-------------|
| 1. いつもしている   | 2. 時々している   |
| 3. どちらともいえない | 4. あまりしていない |
| 5. していない     |             |

問 30 あなたは、食生活面で「くまもとらしさ」を感じるがありますか。【〇は1つ】

- |          |          |
|----------|----------|
| 1. ある    | 問 30-2 へ |
| 2. ない    |          |
| 3. わからない | 問 31 へ   |

問 30-2 ※問 30 で「1. ある」と回答した方におたずねします。  
それはどんなことですか。【〇はいくつでも】

- |  |   |
|--|---|
| 1. 水がおいしいこと                                |   |
| 2. お茶やコーヒーがおいしいこと                          |   |
| 3. お酒（含；赤酒）がおいしいこと                         |   |
| 4. しょうゆが甘いこと                               |   |
| 5. 果物や野菜、米など農産物がおいしいこと                     |   |
| 6. のりや魚介類など水産物がおいしいこと                      |   |
| 7. 酪農製品や肉など畜産物がおいしいこと                      |   |
| 8. 食材そのものを活かした素朴な料理が多いこと                   |   |
| 9. 田畑や漁場などの生産風景や豊かな自然が間近に見られること            |   |
| 10. 生産地と消費地が近く、農業者や漁業者との交流がしやすい環境にあること     |   |
| 11. 水前寺もやしを雑煮に入れるなど、自然や歴史に育まれた食文化や食生活があること |   |
| 12. その他（                                   | ） |

問 31 あなたは、熊本市の良質な地下水が、地元の食材や料理の「おいしさ」の基になっていると思っていますか。【〇は1つ】

1. 思う
2. 思わない
3. わからない

問 32 あなたは、熊本の郷土料理や伝統料理、食文化などについて、子どもや孫たちに伝えたいと思いますか。【〇は1つだけ】

1. 積極的に伝えたい
2. 機会があれば伝えたい
3. どちらともいえない
4. あまり伝えたいと思わない
5. 伝えたいと思わない

問 33 あなたは、家庭での食事に郷土料理（だご汁、いきなりだんごなど）や行事食（おせち料理、お雑煮、七草がゆなど）を取り入れていますか。【〇は1つ】

1. よく取り入れている
2. 時々取り入れている
3. どちらともいえない
4. あまり取り入っていない
5. 全く取り入っていない

問 34 あなたは、食品を購入したり食事を作る際に、ごみを少なくするために「買いすぎない」「作りすぎない」「食べ残さない」をしないように心がけていますか。【〇は1つ】

1. いつも心がけている
2. 時々心がけている
3. どちらともいえない
4. あまり心がけていない
5. 心がけていない

問 35 あなたは、家庭で出る生ごみについて、処理機を用いてたい肥を作るなどリサイクルに関する取り組みを行っていますか。【○は1つ】

- 1. いつも行っている
- 2. 時々行っている
- 3. あまり行っていない
- 4. 興味はあるが、行っていない
- 5. 興味もなく、行っていない

問 36 あなたは、次の項目に関する活動（学校の授業や保育所・幼稚園での行事、地域で開催される講演会、イベント、体験活動、自主グループなどの活動）に参加したことがありますか。【それぞれ○は1つ】

	週に1回程度	月に1〜2回程度	年に数回程度	参加したいと思う	参加したことはないが	参加したことはなく 関心もない
(1) 親子料理教室など、食生活改善や健康づくりに関するもの	1	2	3	4	5	
(2) 田植えや芋ほりといった栽培・収穫体験など、農林漁業やその産物に関するもの	1	2	3	4	5	
(3) ごみ減量やリサイクルなど、環境保全に関するもの	1	2	3	4	5	
(4) 食中毒予防講座など、食品の安全性や食品衛生に関するもの	1	2	3	4	5	

問 37 あなたは、「熊本市」が情報を発信する手段として、効率的だと思うものはつぎのどれですか。【○はいくつでも】

- |             |                                |
|-------------|--------------------------------|
| 1. 市政だより    | 2. 市役所や区役所の窓口                  |
| 3. 市のホームページ | 4. 新聞                          |
| 5. ラジオ      | 6. テレビ                         |
| 7. 情報誌      | 8. SNS (LINE、Facebook、mixi など) |
| 9. その他 ( )  |                                |

問 38 主食（ごはん、パン、麺など）、主菜（肉・魚・卵・大豆製品などを使ったメインの料理）、副菜（野菜・きのこ・いも・海藻などを使った小鉢・小皿の料理）を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べていますか。（中食、外食も含む）【○は1つ】

- |          |           |
|----------|-----------|
| 1. 食べている | 2. 食べていない |
|----------|-----------|

問 39 あなたは、内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）の予防や改善のために、適切な食事、定期的な運動、週に複数回の体重計測、のいずれかを実践していますか。【○は1つ】

1. 実践して、半年以上継続している
2. 実践しているが、半年未満である
3. 時々気を付けているが、継続的ではない
4. 現在はしていないが、近いうちにしようと思っている
5. 現在していないし、しようとも思わない

問 40 あなたは、食の安全性確保のために意識して実践していることがありますか。【○は1つ】

- |       |      |               |
|-------|------|---------------|
| 1. ある | ———— | <u>問40-2へ</u> |
| 2. ない | ———— | <u>問41へ</u>   |



問 41-2 **※問 41 で「1」～「5」と回答した方におたずねします。**

どこで受診しましたか。【○はいくつでも】

	市が行うがん検診※	職場検診（医療機関・人間ドックに委託されたものや家族検診を含む）	農協や商工会議所が実施する検診	人間ドック（個人で受診したもの）	医療機関（個人で受診したもの）	その他（具体的に）
1. 肺がん検診	1	2	3	4	5	6 ( )
2. 胃がん検診	1	2	3	4	5	6 ( )
3. 大腸がん検診	1	2	3	4	5	6 ( )
4. 乳がん検診	1	2	3	4	5	6 ( )
5. 子宮頸がん検診	1	2	3	4	5	6 ( )

※市が行うがん検診は、最終ページの「熊本市のがん検診について」を参照ください。

問 41-3 **※問 41 で「6. 受診していない」と回答した方におたずねします。**

受診しなかった理由はなんですか。【○はいくつでも】

1. 検診を知らなかったから
2. 時間が取れなかったから
3. 費用がかかるから
4. めんどうだから
5. 検査等に不安がある（検査が痛い、怖い）から
6. 健康状態に自信があり必要性を感じないから
7. 心配なときはいつでも医療機関を受診できるから
8. 対象年齢※ではないから
9. その他 ( )

※がん検診の対象者は最終ページの「熊本市のがん検診について」を参照ください。

問 42 熊本市のがん検診は、一定の検診料を公費で負担し、市民の皆様が安価※で受診できるようにしていますが、あなたは熊本市のがん検診の自己負担割合はどのくらいが適当だと思いますか。【○は1つ】

※自己負担は概ね検診費用の2割程度です。がん検診負担金は最終ページの「熊本市のがん検診について」を参照ください。

1. 無料
2. 検診費用の1割程度
3. 検診費用の2割程度
4. 検診費用の3割程度
5. その他 ( )

問 43 CKD（慢性腎臓病）という言葉を知っていますか。【○は1つ】

1. 知っている
2. 聞いたことがある
3. 知らない

問 44 あなたはロコモティブシンドローム（運動器症候群）という言葉やその意味を知っていますか。【○は1つ】

1. 言葉も意味もよく知っている
2. 言葉も知っていたし、意味も大体知っている
3. 言葉は知っていたが、意味はあまり知らない
4. 言葉は聞いたことがあるが、意味は知らない
5. 言葉も意味も知らない

問 45 COPD（慢性閉塞性肺疾患）とは主として長期の喫煙によってもたらされる肺の炎症性疾患です。主に咳・痰・息切れなどの症状があり、緩やかに呼吸障害が進行するかつて「肺気腫」「慢性気管支炎」と称された疾患です。あなたはこの病気を知っていますか。【○は1つ】

1. どんな病気なのかよく知っている
2. 名前は聞いたことがある
3. 知らない（今回の調査で初めてきいた場合を含む）

問 46 あなたは、この1ヶ月間に、自分以外の人が吸っていたたばこの煙を吸う機会（受動喫煙）がありましたか。【○はいくつでも】

	ほぼ毎日	週に数回程度	週に1回程度	月に1回程度	全くなかった	行かなかった
1. 行政機関（市役所、区役所、公民館など）	1	2	3	4	5	6
2. 医療機関	1	2	3	4	5	6
3. 職場	1	2	3	4	5	6
4. 家庭	1	2	3	4	5	
5. 飲食店	1	2	3	4	5	6

問 47 あなたはタバコを吸いますか。※「5. 吸っている・・・1日およそ21本以上」と回答した方は、具体的に何本吸っているか数値をご記入ください。【○は1つ】

1. 吸わない	_____	— 問 48 へ
2. 以前は吸っていたが、今はやめている	_____	
3. 吸っている・・・1日およそ10本以下	_____	— 問 47-2 へ
4. 吸っている・・・1日およそ11本～20本程度	_____	
5. 吸っている・・・1日およそ21本以上	→ ( ) 本	

問 47-2 ※問 47 で「3」～「5」と回答した方におたずねします。  
禁煙に取り組もうと思いますか。【○は1つ】

1. 取り組もうと思わない
2. 禁煙に関心はあるが、今すぐ取り組もうとは思わない
3. 禁煙に関心があり、今すぐ取り組みたいと思う

問 48 あなたの歯は、現在何本ありますか。【（親知らずを含む）総数は32本です】

	本です。
--	------

問 49 あなたは、食べ物をよく噛み砕くことができますか。【○は1つ】

- 1. できている
- 2. できていない

問 50 喫煙は、歯周病を進行させる要因であることを知っていますか。【○は1つ】

- 1. 知っている
- 2. 知らない

問 51 あなたは、歯周病が糖尿病や心疾患、胎児の早産などの全身疾患と関連があることを知っていますか。【○は1つ】

- 1. 知っている
- 2. 知らない

問 52 あなたは、定期的に歯科健診を受けていますか。【○は1つ】

- 1. 3～4ヶ月に1回受けている
- 2. 半年に1回受けている
- 3. 1年に1回受けている
- 4. 受けていない

問 53 あなたは、かかりつけ歯科医をもっていますか。【○は1つ】

※痛くなったら治療に行く歯科医は「行きつけの歯科医」。それに対し、治療だけでなくお口の健康を維持するために行く歯科医を「かかりつけ歯科医」といいます。

- 1. もっている
- 2. もっていない

問 54 あなたは、むし歯や歯周病で歯を失ったことはありますか。(※親知らずは除きます) 【○は1つ】

- 1. ない
- 2. ある

問 55 健康寿命とは「日常的に介護を必要としないで、自立した生活ができる生存期間」のことです。あなたはこの「健康寿命」という言葉を知っていましたか。【○は1つ】

1. 言葉も意味も知っていた
2. 言葉は知っていたが、意味は知らなかった
3. 言葉も意味も知らなかった（今回の調査で初めて聞いた場合を含む）

問 56 あなたは「健康まちづくり」という言葉やその意味を知っていましたか。

【○は1つ】

1. 言葉も意味も知っていた
2. 言葉は知っていたが、意味は知らなかった
3. 言葉も意味も知らなかった（今回の調査で初めて聞いた場合を含む）

問 57 あなたは「特定健診」や「がん検診」等に行く前に、近所の人や友人を誘いますか。

【○は1つ】

1. 誘う
2. 誘わない

問 58 あなたは現在住んでいる地域にどの程度愛着がありますか 【○は1つ】

1. とても愛着がある
2. まあ愛着がある
3. どちらともいえない
4. あまり愛着がない
5. 全く愛着がない

問 59 『健康づくり』や『食の安全安心・食育』に関するご意見などありましたら何でも結構です。ご自由にお書きください。

以上です。ご協力ありがとうございました。

## ■熊本市のがん検診について

熊本市の死因の第1位は「がん」です。3人に1人は「がん」で亡くなっています。がんによる死亡を減少させるには、早期発見・早期治療が大切です。本市では積極的にがん検診の受診をすすめています。

(平成30年度)

検診名	対象者	検診内容	検診場所	個人の負担金
肺がん検診	年度内に40歳以上になる方	問診・胸部エックス線検査	巡回検診車 セット検診実施医療機関	40～64歳の方 300円
	肺がん検診の問診により必要と認められた方	喀痰細胞診		65歳以上の方 200円
				500円
胃がん検診	年度内に40歳以上になる方	問診・胃部エックス線検査	巡回検診車 セット検診実施医療機関	1,000円
大腸がん検診	年度内に40歳以上になる方	問診・便潜血検査	実施医療機関	個別検診 500円
			巡回検診車	集団検診 300円
子宮がん検診	20歳以上で、年度内に偶数年齢になる女性	問診・視診・内診・細胞診	実施医療機関 検診車での検診	個別検診 1,200円
				集団検診 1,000円
乳がん検診	40歳以上で、年度内に偶数年齢になる女性	問診・視触診・乳房エックス線検査（マンモグラフィ）	実施医療機関 検診車での検診	40歳代の方 1,500円
				50歳以上の方 1,100円

## 歩数計が同封された皆さまへ

# 歩数調査のお願い

市民の皆様の身体活動・運動に関する健康づくりの指標として以下のとおり「日常生活における歩数」の調査を行います。本調査は今回アンケートを送付させていただいた20歳以上の方の中から更に無作為に抽出した400名の方を対象とさせていただきます。下記の調査方法に基づき、裏面のアンケートにご回答いただきますようお願い申し上げます。

### ■調査の方法

同封の歩数計を下記のガイドラインに従って装着し、平日、休日それぞれの1日の歩数を計測してください。結果は裏面のアンケートに記載し、同封の「熊本市健康づくりに関する市民アンケート」とともに返送してください。

※歩数計の返送は不要です。

### 調査にあたっての注意

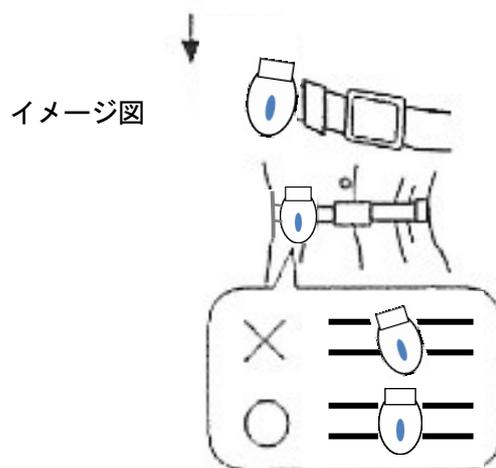
- ◎歩数計は腰に（ベルトやスラックス、スカートなどに）しっかりと、まっすぐにして装着してください。
- ◎平日と休日のそれぞれの歩数を、起床から就寝まで丸一日装着し計測してください。
- ◎記録をする日は1日で構いませんが、複数日記録された場合はその歩数も記録してください。
- ◎水中での活動（入浴や水泳中）に従事する際には歩数計をはずしてください。
- ◎日常生活における歩数を計測するためのものです。普段通りにお過ごしください。

### ■歩数計の操作方法～ガイドライン～

1. 新たにカウントする場合はリセットボタンを押して表示を「0」にしてください。



2. 歩数計をベルトやスカートなどにクリップでしっかり装着してください。



## ■ 日常生活における歩数に関するアンケート

問1 あなたの性別は？【○は1つ】

1. 男性	2. 女性
-------	-------

問2 あなたの年齢は？【数値をご記入ください】

<input style="width: 90%; height: 20px;" type="text"/>	歳	【平成 30 年 4 月 1 日現在】
--	---	---------------------

問3 平日（月曜～金曜）、休日（土日、祝日やお仕事がお休みの日など）の起床から就寝まで、丸1日分の歩数をご記入ください。【1マスに数値を1ケタずつ右づめでご記入ください】

※計測日は、1日でも複数日計測しても構いません。

※就業されている方は、就業日とお休みの日などにわけてご記入ください。

### ◎ 平日（月曜～金曜、または就業日など）

・1日目	<table border="1" style="width: 100%; height: 30px;"> <tr> <td style="width: 20%;"></td> </tr> </table>						歩
・2日目	<table border="1" style="width: 100%; height: 30px;"> <tr> <td style="width: 20%;"></td> </tr> </table>						歩
・3日目	<table border="1" style="width: 100%; height: 30px;"> <tr> <td style="width: 20%;"></td> </tr> </table>						歩

例 1マスに数値を1ケタずつ右づめでご記入ください。

	8	8	8	8	歩
--	---	---	---	---	---

### ◎ 休日（土日、祝日やお仕事がお休みの日など）

・1日目	<table border="1" style="width: 100%; height: 30px;"> <tr> <td style="width: 20%;"></td> </tr> </table>						歩
・2日目	<table border="1" style="width: 100%; height: 30px;"> <tr> <td style="width: 20%;"></td> </tr> </table>						歩
・3日目	<table border="1" style="width: 100%; height: 30px;"> <tr> <td style="width: 20%;"></td> </tr> </table>						歩

以上です。ご協力ありがとうございました。

「熊本市健康づくりに関する市民アンケート」とともにご返送ください。

熊本市健康づくりに関する市民アンケート  
調査報告書

発 行 熊 本 市

編 集 熊本市健康福祉局  
健康づくり推進課

〒862-0971 熊本市中央区大江5丁目1番1号

電話 096-361-2145

E-mail : [kenkouzukuri@city.kumamoto.lg.jp](mailto:kenkouzukuri@city.kumamoto.lg.jp)

発 行 日 平成 30 年 11 月